

2008年度

シラバス  
(講義概要)

白鷗大学

教育学部・発達科学部

# シラバス（講義概要）

## 《本書の見方》

本書は目次とシラバス（講義概要）から構成されています。  
該当するカリキュラムの目次を参照し、掲載頁のシラバス  
（講義概要）をご覧ください。

本書の内容は2008年2月25日現在の内容を掲載しています。  
最新の情報は本学ホームページより確認することができます。

## 目 次

	授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ
外国語科目 (必修)	英会話Ⅰ	Asha Vannimmen	通年	2	1~	12
		Glenn Hamada	通年	2	1~	
		Susan Miyake	通年	2	1~	
		Harry Harris	通年	2	1~	
		Howard Alexander	通年	2	1~	
	英会話Ⅱ	Glenn Hamada	通年	2	2~	18
		Glenn Hamada	通年	2	2~	
		Susan Miyake	通年	2	2~	
		Howard Alexander	通年	2	2~	
外国語科目 (選択)	英語Ⅲ	石河 不砂	通年	2	2~	1
	英語Ⅳ	新川 清治	通年	2	1~	2
	英語Ⅴ	Wayne Sumida	通年	4	1~	3
	英語Ⅵ	Wayne Sumida	通年	4	1~	5
	英語Ⅶ	新川 清治	通年	4	1~	7
	英語Ⅷ	新川 清治	通年	4	2~	8
	ドイツ語Ⅰ	的場 哲朗	通年	4	1~	24
	フランス語Ⅰ	飯田 昌平	通年	4	1~	25
		Clemens Amann	通年	4	1~	26
	スペイン語Ⅰ	高橋 節子	通年	4	1~	27
	中国語Ⅰ	何 秋平	通年	4	1~	28
	ドイツ語Ⅱ	石川 悦久	通年	4	2~	29
	フランス語Ⅱ	Clemens Amann	通年	4	2~	30
	スペイン語Ⅱ	高橋 節子	通年	4	2~	31
	中国語Ⅱ	平木 真快	通年	4	2~	32
	ドイツ語Ⅲ	石川 悦久	通年	4	2~	33
	フランス語Ⅲ	Clemens Amann	通年	4	2~	34
	スペイン語Ⅲ	高橋 節子	通年	4	2~	35
	中国語Ⅲ	平木 真快	通年	4	2~	36
	ドイツ語Ⅳ	石川 悦久	通年	4	2~	37
	フランス語Ⅳ	Clemens Amann	通年	4	2~	38
	スペイン語Ⅳ	高橋 節子	通年	4	2~	39
	中国語Ⅳ	平木 真快	通年	4	2~	40
	教養科目	歴史学A	村尾 元忠	半期	2	1~
歴史学B		村尾 元忠	半期	2	1~	42
地理学A		奥澤 信行	半期	2	1~	45
地理学B		奥澤 信行	半期	2	1~	46
倫理学A		的場 哲朗	半期	2	1~	48
倫理学B		的場 哲朗	半期	2	1~	49

	授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ	
教養科目	哲学A	渡辺 忠	半期	2	1～	53	
	哲学B	渡辺 忠	半期	2	1～	55	
	文学A	向井 千代子	半期	2	1～	58	
	文学B	針生 進	半期	2	1～	59	
	美学A	益田 勇一	半期	2	1～	64	
	美学B	益田 勇一	半期	2	1～	65	
	社会学A	山本 厚太郎	半期	2	1～	71	
	社会学B	山本 厚太郎	半期	2	1～	72	
	法学A	河原 文敬	半期	2	1～	73	
	法学B	宮原 均	半期	2	1～	74	
	統計学A	沖津 直	半期	2	1～	75	
	統計学B	沖津 直	半期	2	1～	76	
	心理学A	伊東 孝郎	半期	2	1～	80	
		神戸 文朗	半期	2	1～	77	
		中谷 陽子	半期	2	1～	79	
		心理学B	伊東 孝郎	半期	2	1～	83
			神戸 文朗	半期	2	1～	81
			中谷 陽子	半期	2	1～	82
			社会心理学A	細田 一秋	半期	2	1～
		社会心理学B	細田 一秋	半期	2	1～	86
	環境科学A	小原 政敏	半期	2	1～	97	
	環境科学B	小原 政敏	半期	2	1～	98	
	数学A	黒澤 和人	通年	4	1～	99	
	物理学A	師 啓二	半期	2	1～	103	
	物理学B	師 啓二	半期	2	1～	104	
	生物学A	上田 高嘉	半期	2	1～	107	
	生物学B	上田 高嘉	半期	2	1～	108	
	基本科目 (必修)	フレッシュマンセミナー	荒井 弘高	半期	1	1～	139
五十嵐 敦子			半期	1	1～		
小久保 裕			半期	1	1～		
小原 政敏			半期	1	1～		
富田 英也			半期	1	1～		
中谷 陽子			半期	1	1～		
増田 仁			半期	1	1～		
益田 勇一			半期	1	1～		
(選択必修) 基本科目	教育総論	馬場 将光	半期	2	1～	140	
	教育原理	石堂 常世	半期	2	1～	393	
		石堂 常世	半期	2	1～	391	
	教育課程論	金崎 芙美子	半期	2	3～	142	

	授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ		
(選択必修) 基本科目	教育課程論	生野 金三	半期	2	3～	141		
	教育制度論	馬場 将光	半期	2	1～	144		
	比較教育論	馬場 将光	半期	2	2～	145		
	教育哲学	石堂 常世	集中	2	2～	147		
	教育心理学概論	平田 乃美	半期	2	1～	358		
専門科目 (児童教育専攻主科目)	保育内容	保育内容研究(健康)	岩城 淳子	半期	2	3～	149	
		保育内容研究(人間関係)	中山 昌樹	半期	2	2～	150	
		保育内容研究(環境)	川添 敏弘	半期	2	3～	151	
		保育内容研究(言葉)	松本 和美	半期	2	3～	153	
		保育内容研究(音楽表現)	富田 英也	半期	2	3～	154	
		保育内容研究(美術表現)	益田 勇一	半期	2	3～	155	
		保育内容研究(身体表現)	白井 麻子	半期	2	2～	156	
		保育内容演習(健康)	岩城 淳子	半期	1	3～	157	
		保育内容演習(人間関係)	中山 昌樹	半期	1	2～	158	
		保育内容演習(環境)	小原 政敏	半期	1	3～	159	
			水井 安廣	半期	1	3～	160	
		保育内容演習(言葉)	神永 直美	半期	1	3～	161	
		保育内容演習(音楽表現)	浅賀 ひろみ	半期	1	3～	163	
			富田 英也	半期	1	3～	162	
		保育内容演習(美術表現)	小久保 裕	半期	1	3～	164	
		保育内容演習(身体表現)	白井 麻子	半期	1	2～	408	
		技能関係	ソルフェージュ	荒井 弘高	通年	2	1～	165
			歌唱表現	荒井 弘高	通年	2	2～	167
	伊藤 裕美		通年	2	2～	167		
音楽実技Ⅰ(基礎)	音楽担当教員		通年	2	1～	402		
音楽実技Ⅱ(こどもの音楽)	今田 政成		通年	2	2～	403		
音楽実技ⅢA(応用)	音楽担当教員		通年	2	3～	169		
音楽実技ⅢB(応用)	音楽担当教員		通年	2	4	170		
リトミック入門	吉田 裕昭		半期	1	2～	171		
リトミック応用	吉田 裕昭		通年	2	3～	172		
造形	粕谷 圭司		通年	2	1～	174		
絵画表現法	小久保 裕		通年	2	2～	176		
造形教材研究	粕谷 圭司		半期	1	1～	177		
福祉	社会福祉	加藤 悦雄	半期	2	1～	178		
	社会福祉B	川瀬 善美	半期	2	1～	179		
	児童福祉	大川 健次郎	半期	2	1～	180		
	児童福祉B	山中 定雄	半期	2	1～	181		
	社会福祉援助技術論Ⅰ	大島 實	通年	4	1～	182		
	社会福祉援助技術論Ⅱ	大島 實	通年	4	2～	183		

		授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ
専門科目 (児童教育専攻主科目)	福祉	社会福祉援助技術演習Ⅰ	大島 實	通年	2	3～ *	185
		社会福祉援助技術演習Ⅱ	大島 實	通年	2	4 *	186
		保育原理Ⅰ	荒井 洌	通年	4	1～	187
		保育原理Ⅱ	高橋 美保	半期	2	2～	188
		養護原理	山中 定雄	半期	2	2～	189
		養護内容	中山 万里子	半期	1	2～	190
		障害児保育	中谷 陽子	半期	1	3～	193
		家庭支援論	荒井 洌	半期	2	3～	194
		医学一般	海原 純子	通年	4	3～	195
		小児保健	寺門 道之	通年	4	1～	196
		小児保健実習	三田村 敬子	半期	1	2～	197
		小児栄養演習	下坂 智恵	半期	2	3～	198
			高橋 美保	半期	2	3～	198
		比較保育論	荒井 洌	半期	2	3～	200
		社会保障論	百瀬 優	通年	4	3～	201
		公的扶助論	百瀬 優	半期	2	2～	202
		介護概論	佐々木 由恵	通年	2	3～	203
		障害者福祉論	根岸 洋人	通年	4	2～	204
		老人福祉	菅田 理一	集中	4	2～	205
		地域福祉	落合 崇志	集中	2	2～	206
	福祉施設経営論	川瀬 善美	半期	2	1～	207	
	ケアマネジメント論	佐々木 由恵	集中	2	3～	208	
	心理	発達心理学	神戸 文朗	半期	2	2～	209
		青年心理学	伊東 孝郎	半期	2	1～	211
			落合 信寿	半期	2	1～	212
		環境心理学	平田 乃美	通年	4	1～	213
		認知心理学	神戸 文朗	半期	2	1～	215
		臨床心理学	伊東 孝郎	半期	2	2～	216
		精神保健学	伊崎 純子	半期	2	1～	217
		親子関係の心理	伊崎 純子	半期	2	1～	218
		心理学基礎実験	伊崎 純子	半期	2	1～	219
		心理測定法	落合 信寿	半期	2	1～	220
		心理学研究法	心理学研究法担当教員	半期	2	1～	221
心理学実験調査法		平田 乃美	通年	2	1～	224	
教育の測定と評価	平田 乃美	半期	2	3～	225		
教科教育	国語概説	生野 金三	半期	2	2～	377	
	社会科概説	奥澤 信行	半期	2	2～	378	
	算数概説	後藤 達生	半期	2	2～	379	
	理科概説	小原 政敏	半期	2	2～	380	

\* 実際の履修年次

		授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ
専門科目 (児童教育専攻主科目)	教科教育	理科概説	鈴木 宏昭	半期	2	2～	381
		生活科概説	石井 智子	半期	2	2～	382
		家庭科概説	増田 仁	半期	2	2～	383
		国語科教育法	生野 金三	半期	2	3～	226
		社会科教育法	奥澤 信行	半期	2	3～	227
		算数科教育法	後藤 達生	半期	2	3～	228
		理科教育法	小原 政敏	半期	2	3～	229
		生活科教育法	石井 智子	半期	2	3～	230
		音楽科教育法	富田 英也	半期	2	3～	231
		図画工作科教育法	益田 勇一	半期	2	3～	232
		家庭科教育法	増田 仁	半期	2	3～	234
		体育科教育法	近藤 智靖	半期	2	3～	235
		関連科目	造形文化論	飯田 昌平	半期	2	1～
	英語であそぼう		Lorraine Reinbold	半期	2	3～	413
	児童文学		横田 順子	半期	2	1～	255
	おもちゃ論		中谷 陽子	半期	2	2～	256
	野外運動A		齋藤 一人	集中	2	1～	411
	野外運動B		齋藤 一人	集中	2	1～	412
	救急法		鈴川 正之	半期	2	1～	257
	レクリエーション実技		藤井 和彦	半期	1	2～	259
	レクリエーション実習		藤井 和彦	集中	1	3～ *	260
	課題研究A		荒井 洌	半期	2	3～	263
			荒井 弘高	半期	2	3～	264
		五十嵐 敦子	半期	2	3～	291	
伊崎 純子		半期	2	3～	265		
伊東 孝郎		半期	2	3～	279		
今田 政成		半期	2	3～	290		
岩城 淳子		半期	2	3～	266		
海原 純子		半期	2	3～	287		
奥澤 信行		半期	2	3～	267		
粕谷 圭司		半期	2	3～	268		
川瀬 善美	半期	2	3～	269			
小久保 裕	半期	2	3～	270			
後藤 達生	半期	2	3～	289			
小原 政敏	半期	2	3～	288			
近藤 智靖	半期	2	3～	286			
渋川 美紀	半期	2	3～	272			
生野 金三	半期	2	3～	282			
高橋 美保	半期	2	3～	275			

\* 実際の履修年次

		授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ
専門科目 (児童教育専攻主科目)	関連科目	課題研究A	富田 英也	半期	2	3～	273
			中谷 陽子	半期	2	3～	262
			馬場 将光	半期	2	3～	277
			平田 乃美	半期	2	3～	274
			増田 仁	半期	2	3～	281
			益田 勇一	半期	2	3～	278
		課題研究B	荒井 洌	半期	2	3～	294
			荒井 弘高	半期	2	3～	295
			五十嵐 敦子	半期	2	3～	322
			伊崎 純子	半期	2	3～	296
			伊東 孝郎	半期	2	3～	310
			今田 政成	半期	2	3～	321
			岩城 淳子	半期	2	3～	297
			海原 純子	半期	2	3～	318
			奥澤 信行	半期	2	3～	298
	粕谷 圭司		半期	2	3～	299	
	川瀬 善美		半期	2	3～	300	
	小久保 裕		半期	2	3～	301	
	後藤 達生		半期	2	3～	320	
	小原 政敏		半期	2	3～	319	
	近藤 智靖		半期	2	3～	317	
	渋川 美紀		半期	2	3～	303	
	生野 金三		半期	2	3～	313	
	高橋 美保		半期	2	3～	306	
	富田 英也	半期	2	3～	304		
	中谷 陽子	半期	2	3～	293		
	馬場 将光	半期	2	3～	308		
	平田 乃美	半期	2	3～	305		
	増田 仁	半期	2	3～	312		
	益田 勇一	半期	2	3～	309		
	卒業研究	荒井 洌	通年	8	4	325	
		荒井 弘高	通年	8	4	326	
		五十嵐 敦子	通年	8	4	349	
伊崎 純子		通年	8	4	327		
伊東 孝郎		通年	8	4	339		
今田 政成		通年	8	4	351		
岩城 淳子		通年	8	4	328		
海原 純子		通年	8	4	347		
奥澤 信行		通年	8	4	329		

		授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ
専門科目 (児童教育専攻主科目)	関連科目	卒業研究	粕谷 圭司	通年	8	4	330
			川瀬 善美	通年	8	4	331
			小久保 裕	通年	8	4	332
			後藤 達生	通年	8	4	350
			小原 政敏	通年	8	4	348
			近藤 智靖	通年	8	4	345
			生野 金三	通年	8	4	341
			高橋 美保	通年	8	4	336
			富田 英也	通年	8	4	334
			中谷 陽子	通年	8	4	324
			馬場 将光	通年	8	4	346
			平田 乃美	通年	8	4	335
			益田 勇一	通年	8	4	338
			教育学関係科目	教師論	五十嵐 敦子	半期	2
幼児教育論	荒井 洌	半期		2	2～	355	
道徳教育の研究	杉田 知之	半期		2	2～	395	
特別活動の研究	生野 金三	半期		2	2～	397	
教育方法論Ⅰ	五十嵐 敦子	半期		2	2～	398	
教育方法論Ⅱ	五十嵐 敦子	半期		2	2～	363	
生徒指導論	本間 研一	半期		2	2～	400	
教育相談	伊崎 純子	半期		2	2～	401	
総合演習	荒井 洌	半期		2	2～	365	
	五十嵐 敦子	半期		2	2～	366	
	今田 政成	半期		2	2～	373	
	川瀬 善美	半期		2	2～	367	
	高橋 美保	半期		2	2～	368	
	中谷 陽子	半期		2	2～	369	
	馬場 将光	半期		2	2～	371	
	増田 仁	半期		2	2～	372	
	日本国憲法	小野 義典		半期	2	1～	92
		宮原 均		半期	2	1～	95
実習科目	教育実習の事前事後指導(幼稚園)	五十嵐 敦子	半期	1	3～4	536	
	教育実習(幼稚園)	五十嵐 敦子	実習	4	3～4	540	
	教育実習の事前事後指導(小学校)	生野 金三	半期	1	3～4	538	
		益田 勇一	半期	1	3～4	537	
	教育実習(小学校)	生野金三・益田勇一	実習	4	4	541	
	保育実習の事前事後指導(1)	川瀬 善美	半期	0	2～	514	
	保育実習の事前事後指導	高橋美保(川瀬善美)	半期	1	3～ *	515	
	保育実習Ⅰ	川瀬善美・高橋美保	実習	4	2～	516	

\* 実際の履修年次

	授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ
実習科目	保育実習Ⅱ	高橋 美保	実習	2	3～	517
	保育実習Ⅲ	川瀬 善美	実習	2	3～	518
	社会福祉援助技術現場実習指導(1)	川瀬 善美	半期	0	3～	519
	社会福祉援助技術現場実習指導	川瀬 善美	半期	4	3～	520
	社会福祉援助技術現場実習	川瀬 善美	実習	4	3～	521
小学校教職課程科目	初等国語	生野 金三	半期	2	3～	523
	初等社会科	高田 雄康	半期	2	3～	524
	初等算数	後藤 達生	半期	2	3～	525
	初等理科	小原 政敏	半期	2	3～	526
	初等生活科	石井 智子	半期	2	3～	527
	初等家庭科	増田 仁	半期	2	3～	528
	初等教材研究 A(言語・文化系)	生野 金三	半期	2	4	529
	初等教材研究 B(生活・人間系)	増田 仁	半期	2	4	530
	初等教材研究 C(表現・実技系)	益田 勇一	半期	2	4	531
随意科目	学校経営と学校図書館	紺野 順子	集中	2	2～	544
	学校図書館メディアの構成	早野 喜久江	集中	2	2～	545
	学習指導と学校図書館	紺野 順子	集中	2	2～	546
	読書と豊かな人間性	後路 好章	集中	2	2～	547
	情報メディアの活用	石川 賀一	集中	2	2～	548

## 目 次

	授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ
外国語科目 (必修)	英語コミュニケーションⅠ	Asha Vannimmen	通年	2	1～	12
		Glenn Hamada	通年	2	1～	
		Susan Miyake	通年	2	1～	
		Harry Harris	通年	2	1～	
		Howard Alexander	通年	2	1～	
	英語コミュニケーションⅡ	Glenn Hamada	通年	2	2～	18
		Susan Miyake	通年	2	2～	
		Howard Alexander	通年	2	2～	
外国語科目 (選択)	リーディングⅠ	石河 不砂	通年	2	1～	1
	ライティングⅠ	新川 清治	通年	2	1～	2
	リーディングⅡ	Wayne Sumida	通年	2	2～	3
	ライティングⅡ	Wayne Sumida	通年	2	2～	5
	TOEIC	新川 清治	通年	2	2～	8
	ドイツ語Ⅰ	的場 哲朗	通年	4	1～	24
	フランス語Ⅰ	飯田 昌平	通年	4	1～	25
		Clemens Amann	通年	4	1～	26
	スペイン語Ⅰ	高橋 節子	通年	4	1～	27
	中国語Ⅰ	何 秋平	通年	4	1～	28
	ドイツ語Ⅱ	石川 悦久	通年	2	2～	29
	フランス語Ⅱ	Clemens Amann	通年	2	2～	30
	スペイン語Ⅱ	高橋 節子	通年	2	2～	31
	中国語Ⅱ	平木 真快	通年	2	2～	32
	ドイツ語Ⅲ	石川 悦久	通年	2	2～	33
	フランス語Ⅲ	Clemens Amann	通年	2	2～	34
	スペイン語Ⅲ	高橋 節子	通年	2	2～	35
	中国語Ⅲ	平木 真快	通年	2	2～	36
	ドイツ語Ⅳ	石川 悦久	通年	2	2～	37
	フランス語Ⅳ	Clemens Amann	通年	2	2～	38
スペイン語Ⅳ	高橋 節子	通年	2	2～	39	
中国語Ⅳ	平木 真快	通年	2	2～	40	
教養科目	歴史学A	村尾 元忠	半期	2	1～	41
	歴史学B	村尾 元忠	半期	2	1～	42
	日本史概論	村尾 元忠	半期	2	1～	43
	外国史概論	浅田 進史	半期	2	1～	44
	地理学A	奥澤 信行	半期	2	1～	45
	地理学B	奥澤 信行	半期	2	1～	46
	地理学概論 (地誌を含む)	奥澤 信行	半期	2	1～	47
	倫理学A	的場 哲朗	半期	2	1～	48
	倫理学B	的場 哲朗	半期	2	1～	49

	授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ	
教養科目	応用倫理	渡辺 忠	半期	2	1～	50	
	倫理学概論	的場 哲朗	半期	2	1～	52	
	哲学A	渡辺 忠	半期	2	1～	53	
	哲学B	渡辺 忠	半期	2	1～	55	
	哲学概論	渡辺 忠	半期	2	1～	57	
	文学A	向井 千代子	半期	2	1～	58	
	文学B	針生 進	半期	2	1～	59	
	論理学	渡辺 忠	半2コマ	4	1～	60	
	批判的思考	渡辺 忠	半期	2	1～	61	
	国語表現法A	増田 良二	半期	2	1～	62	
	国語表現法B	増田 良二	半期	2	1～	63	
	美学A	益田 勇一	半期	2	1～	64	
	美学B	益田 勇一	半期	2	1～	65	
	比較文化論A	河合 正男	半期	2	1～	66	
	比較文化論B	河合 正男	半期	2	1～	67	
	文化人類学A	結城 史隆	半期	2	1～	68	
	文化人類学B	結城 史隆	半期	2	1～	70	
	社会学A	山本 厚太郎	半期	2	1～	71	
	社会学B	山本 厚太郎	半期	2	1～	72	
	法学A	河原 文敬	半期	2	1～	73	
	法学B	宮原 均	半期	2	1～	74	
	統計学A	沖津 直	半期	2	1～	75	
	統計学B	沖津 直	半期	2	1～	76	
	心理学A	伊東 孝郎	半期	2	1～	80	
		神戸 文朗	半期	2	1～	77	
		中谷 陽子	半期	2	1～	79	
		心理学B	伊東 孝郎	半期	2	1～	83
			神戸 文朗	半期	2	1～	81
			中谷 陽子	半期	2	1～	82
	社会心理学A	細田 一秋	半期	2	1～	84	
	社会心理学B	細田 一秋	半期	2	1～	86	
	政治学A	三浦 顕一郎	半期	2	1～	88	
	政治学B	三浦 顕一郎	半期	2	1～	89	
	情報社会科学A	森川 信男	半期	2	1～	90	
	情報社会科学B	森川 信男	半期	2	1～	91	
	日本国憲法	小野 義典	半期	2	1～	92	
宮原 均		半期	2	1～	95		
解析学	黒澤 和人	半期	2	1～	96		
環境科学A	小原 政敏	半期	2	1～	97		

	授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ	
教養科目	環境科学B	小原 政敏	半期	2	1～	98	
	代数学	黒澤 和人	半期	2	1～	101	
	数学概論	黒澤 和人	半期	2	1～	102	
	物理学A	師 啓二	半期	2	1～	103	
	物理学B	師 啓二	半期	2	1～	104	
	化学A	高林 久美子	半期	2	1～	105	
	化学B	高林 久美子	半期	2	1～	106	
	生物学A	上田 高嘉	半期	2	1～	107	
	生物学B	上田 高嘉	半期	2	1～	108	
	科学史A	船田真里子・五十嵐善英	半期	2	1～	109	
	科学史B	船田・五十嵐・黒澤	半期	2	1～	110	
	情報処理	渋川 美紀	半期	2	1～	111	
	体育実技A	体育担当教員	半期	1	1～	113	
	体育実技B	体育担当教員	半期	1	1～	114	
	健康科学	齊藤 武利	半期	2	1～	116	
			野間 明紀	半期	2	1～	115
		廣瀬 文彦	半期	2	1～	117	
専攻必修科目	フレッシュマンセミナー	荒井 弘高	半期	1	1～	139	
		五十嵐 敦子	半期	1	1～		
		小久保 裕	半期	1	1～		
		小原 政敏	半期	1	1～		
		富田 英也	半期	1	1～		
		中谷 陽子	半期	1	1～		
		増田 仁	半期	1	1～		
		益田 勇一	半期	1	1～		
専門選択科目	教科専門科目	ソルフェージュ	荒井 弘高	通年	2	1～	165
		造形	粕谷 圭司	通年	2	1～	174
		国語概説Ⅰ（書写を含む）	生野 金三	半期	2	1～	377
		社会科概説Ⅰ	奥澤 信行	半期	2	1～	378
		算数概説Ⅰ	後藤 達生	半期	2	1～	379
		理科概説Ⅰ	小原 政敏	半期	2	1～	380
			鈴木 宏昭	半期	2	1～	381
		生活科概説Ⅰ	石井 智子	半期	2	1～	382
		家庭科概説Ⅰ	増田 仁	半期	2	1～	383
		音楽概説Ⅰ	富田 英也	半期	2	1～	384
		図画工作概説Ⅰ	益田 勇一	半期	2	1～	385
		体育概説Ⅰ	体育担当教員	半期	2	1～	386
		子どもの運動	体育担当教員	半期	1	2～	388

		授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ
専門選択科目	教職専門科目	教育制度論	馬場 将光	半期	2	1～	144
		国語科教育法	生野 金三	半期	2	2～	226
		社会科教育法	奥澤 信行	半期	2	2～	227
		算数科教育法	後藤 達生	半期	2	2～	228
		理科教育法	小原 政敏	半期	2	2～	229
		生活科教育法	石井 智子	半期	2	2～	230
		音楽科教育法	富田 英也	半期	2	2～	231
		図画工作科教育法	益田 勇一	半期	2	2～	233
		家庭科教育法	増田 仁	半期	2	2～	234
		体育科教育法	平野 智之	半期	2	2～	236
		教師論	五十嵐 敦子	半期	2	2～	353
		教育心理学	平田 乃美	半期	2	1～	358
		総合演習	荒井 洌	半期	2	2～	365
			五十嵐 敦子	半期	2	2～	366
			川瀬 善美	半期	2	2～	367
			高橋 美保	半期	2	2～	368
			中谷 陽子	半期	2	2～	369
			今田 政成	半期	2	2～	373
			馬場 将光	半期	2	2～	371
			増田 仁	半期	2	2～	372
		教育基礎論	石堂 常世	半期	2	1～	393
		教育基礎論（保育士用）	石堂 常世	半期	2	1～	391
		道徳教育の理論と方法P	杉田 知之	半期	2	1～	395
		特別活動の理論と方法P	生野 金三	半期	2	2～	397
		教育方法論P	五十嵐 敦子	半期	2	1～	398
		生徒指導論（進路指導を含む）	本間 研一	半期	2	2～	400
		教育相談P	伊崎 純子	半期	2	2～	401
教科・教職関連科目	比較教育論	馬場 将光	半期	2	2～	145	
	歌唱表現	荒井 弘高	通年	2	2～	167	
		伊藤 裕美	通年	2	2～		
	リトミック入門	吉田 裕昭	半期	1	2～	171	
	絵画表現法	小久保 裕	通年	2	2～	176	
	造形教材研究	粕谷 圭司	半期	1	1～	177	
	児童文学	横田 順子	半期	2	1～	255	
	幼児教育論	荒井 洌	半期	2	2～	355	
	音楽実技Ⅰ	音楽担当教員	通年	2	1～	402	
	音楽実技Ⅱ	今田 政成	通年	2	2～	403	

		授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ
専門選択科目	保育・福祉専門科目	保育内容演習（健康）	岩城 淳子	半期	1	2～	157
		保育内容演習（人間関係）	中山 昌樹	半期	1	2～	158
		保育内容演習（環境）	水井 安廣	半期	1	2～	160
		保育内容演習（言葉）	神永 直美	半期	1	2～	161
		社会福祉	加藤 悦雄	半期	2	1～	178
		社会福祉B	川瀬 善美	半期	2	1～	179
		児童福祉	大川 健次郎	半期	2	1～	180
		児童福祉B	山中 定雄	半期	2	1～	181
		社会福祉援助技術論Ⅰ	大島 實	通年	4	1～	182
		社会福祉援助技術論Ⅱ	大島 實	通年	4	2～	183
		社会福祉援助技術演習	大島 實	通年	2	2～	184
		保育原理Ⅰ	荒井 洌	通年	4	1～	187
		保育原理Ⅱ	高橋 美保	半期	2	2～	188
		養護原理	山中 定雄	半期	2	2～	189
		養護内容	中山 万里子	半期	1	2～	190
		乳児保育	高橋 美保	通年	2	2～	191
		小児保健	寺門 道之	通年	4	1～	196
		公的扶助論	百瀬 優	半期	2	2～	202
		障害者福祉論	根岸 洋人	通年	4	2～	204
		老人福祉	菅田 理一	集中	4	2～	205
		地域福祉	落合 崇志	集中	2	2～	206
		発達心理学	神戸 文朗	半期	2	2～	209
		青年心理学	伊東 孝郎	半期	2	1～	211
			落合 信寿	半期	2	1～	212
		臨床心理学	伊東 孝郎	半期	2	2～	216
		精神保健学	伊崎 純子	半期	2	1～	217
		小児保健実習	三田村 敬子	半期+集中	1	2～	197
		保育内容総論	金崎 芙美子	半期	1	2～	404
		保育内容演習（表現①）	浅賀 ひろみ	半期	1	2～	406
			富田 英也	半期	1	2～	405
		保育内容演習（表現②）	小久保 裕	半期	1	2～	407
		保育内容演習（表現③）	白井 麻子	半期	1	2～	408
		関連科目	福祉施設経営論	川瀬 善美	半期	2	1～
学科共通科目	造形文化論	飯田 昌平	半期	2	1～	254	
	おもちゃ論	中谷 陽子	半期	2	2～	256	
	救急法	鈴川 正之	半期	2	1～	257	
	レクリエーション実技	藤井 和彦	半期	1	2～	259	
	福祉とボランティア	川瀬 善美	半期	2	1～	409	
	レクリエーション理論	藤井 和彦	半期	2	2～	410	

		授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ
専門 選択科目	学科 共通科目	野外運動A（キャンプ）	齋藤 一人	集中	2	1～	411
		野外運動B（雪上）	齋藤 一人	集中	2	1～	412
		早期英語教育	Lorraine Reinbold	半期	2	2～	413
		e-ラーニング	Jeffrey Miller	半期	1	1～	415
			向井 千代子	半期	1	1～	414
		教育情報処理	渋川 美紀	半期	2	1～	417
実習科目		保育実習の事前指導（施設）	川瀬 善美	半期	0	2～	514
		保育実習Ⅰ	川瀬善美・高橋美保	実習	0	2～	515
司書 教諭科目	学校 図書館	学校経営と学校図書館	紺野 順子	集中	2	2～	544
		学校図書館メディアの構成	早野 喜久江	集中	2	2～	545
		学習指導と学校図書館	紺野 順子	集中	2	2～	546
		読書と豊かな人間性	後路 好章	集中	2	2～	547
		情報メディアの活用	石川 賀一	集中	2	2～	548

## 目 次

科目区分	授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ	
I群-A	外国語科目 (必修)	英会話Ⅰ	Asha Vannimmen	通年	2	1~	14
			Glenn Hamada	通年	2	1~	
			Howard Alexander	通年	2	1~	
		英会話Ⅱ	Glenn Hamada	通年	2	2~	20
			Susan Miyake	通年	2	2~	
			Harry Harris	通年	2	2~	
			Michael Morgan	通年	2	2~	
I群-B	外国語科目 (選択)	英語Ⅲ	石河 不砂	通年	2	2~	1
		英語Ⅳ	新川 清治	通年	2	1~	2
		英語Ⅴ	Wayne Sumida	通年	4	1~	3
		英語Ⅵ	Wayne Sumida	通年	4	1~	5
		英語Ⅶ	新川 清治	通年	4	1~	7
		英語Ⅷ	新川 清治	通年	4	2~	8
		ドイツ語Ⅰ	的場 哲朗	通年	4	1~	24
		フランス語Ⅰ	飯田 昌平	通年	4	1~	25
			Clemens Amann	通年	4	1~	26
		スペイン語Ⅰ	高橋 節子	通年	4	1~	27
		中国語Ⅰ	何 秋平	通年	4	1~	28
		ドイツ語Ⅱ	石川 悦久	通年	4	2~	29
		フランス語Ⅱ	Clemens Amann	通年	4	2~	30
		スペイン語Ⅱ	高橋 節子	通年	4	2~	31
		中国語Ⅱ	平木 真快	通年	4	2~	32
		ドイツ語Ⅲ	石川 悦久	通年	4	2~	33
		フランス語Ⅲ	Clemens Amann	通年	4	2~	34
		スペイン語Ⅲ	高橋 節子	通年	4	2~	35
		中国語Ⅲ	平木 真快	通年	4	2~	36
		ドイツ語Ⅳ	石川 悦久	通年	4	2~	37
フランス語Ⅳ	Clemens Amann	通年	4	2~	38		
スペイン語Ⅳ	高橋 節子	通年	4	2~	39		
中国語Ⅳ	平木 真快	通年	4	2~	40		
II群	教養科目	歴史学A	村尾 元忠	半期	2	1~	41
		歴史学B	村尾 元忠	半期	2	1~	42
		地理学A	奥澤 信行	半期	2	1~	45
		地理学B	奥澤 信行	半期	2	1~	46
		倫理学A	的場 哲朗	半期	2	1~	48
		倫理学B	的場 哲朗	半期	2	1~	49
		哲学A	渡辺 忠	半期	2	1~	53
		哲学B	渡辺 忠	半期	2	1~	55
		文学A	向井 千代子	半期	2	1~	58

科目区分		授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ
Ⅱ群	教養科目	文学B	針生 進	半期	2	1～	59
		美学A	益田 勇一	半期	2	1～	64
		美学B	益田 勇一	半期	2	1～	65
		社会学A	山本 厚太郎	半期	2	1～	71
		社会学B	山本 厚太郎	半期	2	1～	72
		法学A	河原 文敬	半期	2	1～	73
		法学B	宮原 均	半期	2	1～	74
		統計学A	沖津 直	半期	2	1～	75
		統計学B	沖津 直	半期	2	1～	76
		心理学A	伊東 孝郎	半期	2	1～	80
			神戸 文朗	半期	2	1～	77
			中谷 陽子	半期	2	1～	79
		心理学B	伊東 孝郎	半期	2	1～	83
			神戸 文朗	半期	2	1～	81
			中谷 陽子	半期	2	1～	82
		社会心理学A	細田 一秋	半期	2	1～	84
		社会心理学B	細田 一秋	半期	2	1～	86
		環境科学A	小原 政敏	半期	2	1～	97
		環境科学B	小原 政敏	半期	2	1～	98
		数学A	黒澤 和人	通年	4	1～	99
物理学A	師 啓二	半期	2	1～	103		
物理学B	師 啓二	半期	2	1～	104		
生物学A	上田 高嘉	半期	2	1～	107		
生物学B	上田 高嘉	半期	2	1～	108		
Ⅲ群-A	(必修) 基本科目	フレッシュマンセミナー	内山 須美子	半期	1	1～	138
			金田 健史	半期	1	1～	
			近藤 智靖	半期	1	1～	
Ⅲ群-B	基本科目 (選択必修)	教育総論	馬場 将光	半期	2	1～	140
		教育原理	石堂 常世	半期	2	1～	391
		教育課程論	安井 一郎	半期	2	3～	143
		教育制度論	馬場 将光	半期	2	1～	144
		比較教育論	馬場 将光	半期	2	2～	145
		教育哲学	石堂 常世	集中	2	2～	147
		教育心理学概論	平田 乃美	半期	2	1～	359
Ⅳ群	専門科目 実技理論・実習	精神保健学	伊崎 純子	半期	2	1～	217
		実技理論・実習 陸上運動Ⅰ	竹島 克己	半期	1	1～	418
		実技理論・実習 陸上運動Ⅱ	竹島 克己	半期	1	1～	419
		実技理論・実習 器械運動Ⅰ	吉田 茂	半期	1	1～	420
		実技理論・実習 器械運動Ⅱ	吉田 茂	半期	1	1～	421

科目区分	授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ		
Ⅳ群	専門科目 (スポーツ健康専攻主科目) 実技理論・実習	実技理論・実習 水泳	樫本 昇三	集中	1	2～	427	
		実技理論・実習 柔道	蓬田 正郎	半期	1	2～	428	
		実技理論・実習 ダンスⅠ	内山 須美子	半期	1	1～	422	
		実技理論・実習 ダンスⅡ	内山 須美子	半期	1	1～	423	
		実技理論・実習 バスケットボール	齋藤 一人	半期	1	1～	424	
		実技理論・実習 バレーボール	大関 孝雄	半期	1	2～	431	
		実技理論・実習 野球(ソフトボール)	栗山 英樹	半期	1	2～	432	
		実技理論・実習 テニス	野間 明紀	半期	1	1～	425	
		実技理論・実習 ラグビー	齊藤武利・Paulo Nawalu	半期	1	2～	433	
		実技理論・実習 サッカー	菊原 伸郎	半期	1	1～	426	
		実技理論・実習 体づくり運動	山田 美穂	半期	1	2～	434	
		体育原理	吉田 茂	半期	2	1～	237	
		体育心理学	本多 麻子	半期	2	2～	238	
		体育経営管理学	藤井 和彦	半期	2	2～	435	
		体育社会学	中村 祐司	半期	2	2～	436	
		スポーツ産業論	栗山 英樹	半期	2	3～	239	
		スポーツ行政論	中村 祐司	半期	2	2～	240	
		運動学Ⅰ	吉田 茂	半期	2	1～	241	
		運動学Ⅱ	吉田 茂	半期	2	1～	242	
		スポーツコーチング総論	吉田 茂	半期	2	2～	243	
		レクリエーション理論Ⅰ	藤井 和彦	半期	2	2～	410	
		競技スポーツ理論	竹島 克己	半期	2	1～	244	
		体育測定評価	野間 明紀	半期	2	2～	245	
		生理学	金田 健史	半期	2	2～	246	
		運動生理学Ⅰ	金田 健史	半期	2	2～	437	
		運動生理学Ⅱ	金田 健史	半期	2	2～	442	
		公衆衛生学	益子 詔次	集中	2	1～	247	
		学校保健Ⅰ	岩城 淳子	半期	2	1～	248	
		学校保健Ⅱ	岩城 淳子	半期	2	1～	249	
		発育発達学	金田 健史	半期	2	2～	250	
		トレーニング論	齊藤 武利	半期	2	2～	440	
		トレーニング実習Ⅰ	竹島 克己	半期	1	2～	251	
		トレーニング実習Ⅱ	齊藤 武利	半期	1	3～	252	
		スポーツ医学Ⅰ	海原 純子	半期	2	3～	443	
		スポーツ医学Ⅱ	齊藤武利・廣瀬文彦	半期	2	3～	253	
		スポーツリハビリテーション論	齊藤武利・廣瀬文彦	半期	2	2～	444	
		解剖学	早川 敏之	半期	2	3～	439	
		関連科目	造形文化論	飯田 昌平	半期	2	1～	254
			英語であそぼう	Lorraine Reinbold	半期	2	3～	413

科目区分	授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ		
Ⅳ群	専門科目 (スポーツ健康専攻主科目) 関連科目	児童文学	横田 順子	半期	2	1～	255	
		おもちゃ論	中谷 陽子	半期	2	2～	256	
		野外運動A	齋藤 一人	集中	2	1～	411	
		野外運動B	齋藤 一人	集中	2	1～	412	
		救急法	鈴木 正之	半期	2	1～	257	
		レクリエーション実技	藤井 和彦	半期	1	2～	259	
		レクリエーション実習	藤井 和彦	集中	1	3～ *	260	
		課題研究A	内山 須美子	半期	2	3～	276	
			海原 純子	半期	2	3～	287	
			金田 健史	半期	2	3～	283	
			近藤 智靖	半期	2	3～	286	
			齋藤 一人	半期	2	3～	271	
			齋藤 武利	半期	2	3～	284	
			竹島 克己	半期	2	3～	261	
			藤井 和彦	半期	2	3～	285	
			吉田 茂	半期	2	3～	280	
			課題研究B	内山 須美子	半期	2	3～	307
				海原 純子	半期	2	3～	318
				金田 健史	半期	2	3～	314
				近藤 智靖	半期	2	3～	317
				齋藤 一人	半期	2	3～	302
				齋藤 武利	半期	2	3～	315
				竹島 克己	半期	2	3～	292
				藤井 和彦	半期	2	3～	316
				吉田 茂	半期	2	3～	311
			卒業研究	内山 須美子	通年	8	4	337
				海原 純子	通年	8	4	347
				金田 健史	通年	8	4	342
				近藤 智靖	通年	8	4	345
				齋藤 一人	通年	8	4	333
				齋藤 武利	通年	8	4	343
				竹島 克己	通年	8	4	323
		藤井 和彦	通年	8	4	344		
		吉田 茂	通年	8	4	340		
Ⅴ群	教育学関係科目	教師論	五十嵐 敦子	半期	2	3～	354	
			石堂 常世	半期	2	3～	352	
		教育本質論	中谷 陽子	半期	2	1～	522	
		教育心理学	神戸 文朗	半期	2	1～	356	
		体育科教育法Ⅰ	近藤 智靖	半期	2	3～	448	

\* 実際の履修年次

科目区分		授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ
V群	教育学関係科目	体育科教育法Ⅱ	近藤 智靖	半期	2	3～	360
		保健科教育法	七木田 文彦	半期	2	3～	361
		体づくり運動指導法	近藤 智靖	集中	2	2～	362
		道徳教育の研究	中山 和彦	半期	2	2～	450
		特別活動の研究	本間 研一	半期	2	2～	452
		教育工学	樋口 和彦	半期	2	2～	455
		生徒指導Ⅰ	榎本 和生	半期	2	2～	399
		生徒指導Ⅱ	榎本 和生	半期	2	2～	457
		総合演習	総合演習担当教員	半期	2	2～	364
		日本国憲法	小野 義典	半期	2	1～	92
実習科目	教育実習の事前事後指導（保体）	近藤 智靖	半期	1	3～4	539	
	教育実習（中学校）	近藤 智靖	実習	4	4	542	
	教育実習（高等学校）	近藤 智靖	実習	2	4	543	
随意科目	学校経営と学校図書館	紺野 順子	集中	2	2～	544	
	学校図書館メディアの構成	早野 喜久江	集中	2	2～	545	
	学習指導と学校図書館	紺野 順子	集中	2	2～	546	
	読書と豊かな人間性	後路 好章	集中	2	2～	547	
	情報メディアの活用	石川 賀一	集中	2	2～	548	

## 目 次

科目区分	授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ	
Ⅰ群	必修 外国語 科目	英語コミュニケーションⅠ	Asha Vannimmen	通年	2	1～	14
			Glenn Hamada	通年	2	1～	
			Howard Alexander	通年	2	1～	
Ⅱ群	外国語 ・ 教養選 択科目	英語コミュニケーションⅡ	Michael Morgan	通年	2	2～	20
			Harry Harris	通年	2	2～	
			Susan Miyake	通年	2	2～	
			Glenn Hamada	通年	2	2～	
		リーディングⅠ	石河 不砂	通年	2	1～	1
		ライティングⅠ	新川 清治	通年	2	1～	2
		リーディングⅡ	Wayne Sumida	通年	2	2～	3
		ライティングⅡ	Wayne Sumida	通年	2	2～	5
		TOEIC	新川 清治	通年	2	2～	8
		ドイツ語Ⅰ	的場 哲朗	通2㊦	4	1～	24
		フランス語Ⅰ	飯田 昌平	通2㊦	4	1～	25
			Clemens Amann	通2㊦	4	1～	26
		スペイン語Ⅰ	高橋 節子	通2㊦	4	1～	27
		中国語Ⅰ	何 秋平	通2㊦	4	1～	28
		ドイツ語Ⅱ	石川 悦久	通年	2	2～	29
		フランス語Ⅱ	Clemens Amann	通年	2	2～	30
		スペイン語Ⅱ	高橋 節子	通年	2	2～	31
		中国語Ⅱ	平木 真快	通年	2	2～	32
		ドイツ語Ⅲ	石川 悦久	通年	2	2～	33
		フランス語Ⅲ	Clemens Amann	通年	2	2～	34
		スペイン語Ⅲ	高橋 節子	通年	2	2～	35
		中国語Ⅲ	平木 真快	通年	2	2～	36
		ドイツ語Ⅳ	石川 悦久	通年	2	2～	37
		フランス語Ⅳ	Clemens Amann	通年	2	2～	38
		スペイン語Ⅳ	高橋 節子	通年	2	2～	39
		中国語Ⅳ	平木 真快	通年	2	2～	40
		歴史学A	村尾 元忠	半期	2	1～	41
		歴史学B	村尾 元忠	半期	2	1～	42
		日本史概論	村尾 元忠	半期	2	1～	43
		外国史概論	浅田 進史	半期	2	1～	44
地理学A	奥澤 信行	半期	2	1～	45		
地理学B	奥澤 信行	半期	2	1～	46		
地理学概論 (地誌を含む)	奥澤 信行	半期	2	1～	47		
倫理学A	的場 哲朗	半期	2	1～	48		
倫理学B	的場 哲朗	半期	2	1～	49		
応用倫理	渡辺 忠	半期	2	1～	50		

科目区分		授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ
Ⅱ群	外国語・ 教養選択科目	倫理学概論	的場 哲朗	半期	2	1～	52
		哲学A	渡辺 忠	半期	2	1～	53
		哲学B	渡辺 忠	半期	2	1～	55
		哲学概論	渡辺 忠	半期	2	1～	57
		文学A	向井 千代子	半期	2	1～	58
		文学B	針生 進	半期	2	1～	59
		論理学	渡辺 忠	半2コマ	4	1～	60
		批判的思考	渡辺 忠	半期	2	1～	61
		国語表現法A	増田 良二	半期	2	1～	62
		国語表現法B	増田 良二	半期	2	1～	63
		美学A	益田 勇一	半期	2	1～	64
		美学B	益田 勇一	半期	2	1～	65
		比較文化論A	河合 正男	半期	2	1～	66
		比較文化論B	河合 正男	半期	2	1～	67
		文化人類学A	結城 史隆	半期	2	1～	68
		文化人類学B	結城 史隆	半期	2	1～	70
		社会学A	山本 厚太郎	半期	2	1～	71
		社会学B	山本 厚太郎	半期	2	1～	72
		法学A	河原 文敬	半期	2	1～	73
		法学B	宮原 均	半期	2	1～	74
		統計学A	沖津 直	半期	2	1～	75
		統計学B	沖津 直	半期	2	1～	76
		心理学A	伊東 孝郎	半期	2	1～	80
			神戸 文朗	半期	2	1～	77
			中谷 陽子	半期	2	1～	79
		心理学B	伊東 孝郎	半期	2	1～	83
			神戸 文朗	半期	2	1～	81
			中谷 陽子	半期	2	1～	82
		社会心理学A	細田 一秋	半期	2	1～	84
		社会心理学B	細田 一秋	半期	2	1～	86
		政治学A	三浦 顕一郎	半期	2	1～	88
		政治学B	三浦 顕一郎	半期	2	1～	89
		情報社会科学A	森川 信男	半期	2	1～	90
情報社会科学B	森川 信男	半期	2	1～	91		
日本国憲法	小野 義典	半期	2	1～	92		
解析学	黒澤 和人	半期	2	1～	96		
環境科学A	小原 政敏	半期	2	1～	97		
環境科学B	小原 政敏	半期	2	1～	98		
代数学	黒澤 和人	半期	2	1～	101		

科目区分		授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ
Ⅱ群	外国語 教養選択科目	数学概論	黒澤 和人	半期	2	1～	102
		物理学A	師 啓二	半期	2	1～	103
		物理学B	師 啓二	半期	2	1～	104
		化学A	高林 久美子	半期	2	1～	105
		化学B	高林 久美子	半期	2	1～	106
		生物学A	上田 高嘉	半期	2	1～	107
		生物学B	上田 高嘉	半期	2	1～	108
		科学史A	船田眞里子・五十嵐善英	半期	2	1～	109
		科学史B	船田・五十嵐・黒澤	半期	2	1～	110
		情報処理	渋川 美紀	半期	2	1～	111
Ⅲ群	必修科目 専攻	フレッシュマンセミナー	内山 須美子	半期	1	1～	138
			金田 健史	半期	1	1～	
			近藤 智靖	半期	1	1～	
Ⅳ群	専門選択科目 教科専門科目	精神保健学	伊崎 純子	半期	2	1～	217
		体育原理	吉田 茂	半期	2	1～	237
		体育心理学	本多 麻子	半期	2	2～	238
		スポーツ行政論	中村 祐司	半期	2	2～	240
		運動学Ⅰ	吉田 茂	半期	2	1～	241
		運動学Ⅱ	吉田 茂	半期	2	1～	242
		スポーツコーチング総論	吉田 茂	半期	2	2～	243
		生理学	金田 健史	半期	2	1～	246
		公衆衛生学	益子 詔次	集中	2	1～	247
		学校保健Ⅰ	岩城 淳子	半期	2	1～	248
		学校保健Ⅱ	岩城 淳子	半期	2	1～	249
		陸上運動Ⅰ	竹島 克己	半期	1	1～	418
		陸上運動Ⅱ	竹島 克己	半期	1	1～	419
		器械運動Ⅰ	吉田 茂	半期	1	1～	420
		器械運動Ⅱ	吉田 茂	半期	1	1～	421
		ダンスⅠ	内山 須美子	半期	1	1～	422
		ダンスⅡ	内山 須美子	半期	1	1～	423
		バスケットボール	齋藤 一人	半期	1	1～	424
		テニス	野間 明紀	半期	1	1～	425
		サッカー	菊原 伸郎	半期	1	1～	426
		水泳	椿本 昇三	集中	1	1～	427
		柔道	蓬田 正郎	半期	1	2～	428
		剣道	荒井 一美	半期	1	2～	429
		バレーボール	大関 孝雄	半期	1	2～	431
野球(ソフトボール)	栗山 英樹	半期	1	2～	432		
ラグビー	齊藤武利・Paulo Nawalu	半期	1	2～	433		

科目区分	授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ	
Ⅳ群 専門選択科目	教科専門科目	体づくり運動	山田 美穂	半期	1	2～	434
		体育・スポーツ経営学	藤井 和彦	半期	2	2～	435
		スポーツ社会学	中村 祐司	半期	2	2～	436
		運動生理学	金田 健史	半期	2	2～	437
教科関連科目	競技スポーツ理論	竹島 克己	半期	2	1～	244	
	発育発達学	金田 健史	半期	2	2～	250	
	トレーニング実習Ⅰ	竹島 克己	半期	1	2～	251	
	スポーツ科学入門	体育担当教員	半期	2	1～	438	
	解剖学(基礎)	早川 敏之	半期	2	1～	439	
	トレーニング論Ⅰ	齋藤 武利	半期	2	2～	440	
	スポーツ指導者論Ⅰ	齋藤 一人	半期	2	2～	441	
	スポーツ生理学	金田 健史	半期	2	2～	442	
	スポーツ医学概論	海原 純子	半期	2	2～	443	
	体育・スポーツ実践事例研究	藤井 和彦	半期	2	2～	445	
	スポーツ科学実験演習	体育担当教員	集中	1	2～	446	
	スポーツインターンシップ	近藤 智靖	集中	1	2～	447	
教職専門科目	教育制度論	馬場 将光	半期	2	1～	144	
	比較教育論	馬場 将光	半期	2	2～	145	
	教師論	五十嵐 敦子	半期	2	2～	354	
		石堂 常世	半期	2	2～	352	
	教育心理学	神戸 文朗	半期	2	1～	356	
		平田 乃美	半期	2	1～	359	
	総合演習	総合演習担当教員	半期	2	2～	364	
	教育基礎論	中谷 陽子	半期	2	1～	389	
		馬場 将光	半期	2	1～	390	
	生徒指導論(進路指導を含む)	榎本 和生	半期	2	2～	399	
	保健体育科教育法Ⅰ	近藤 智靖	半期	2	2～	449	
	道德教育の理論と方法S	中山 和彦	半期	2	1～	450	
	特別活動の理論と方法S	本間 研一	半期	2	2～	452	
	教育方法論S	樋口 和彦	半期	2	1～	455	
教育相談S	榎本 和生	半期	2	2～	457		
学科共通科目	造形文化論	飯田 昌平	半期	2	1～	254	
	おもちゃ論	中谷 陽子	半期	2	2～	256	
	救急法	鈴川 正之	半期	2	1～	257	
	レクリエーション実技	藤井 和彦	半期	1	2～	259	
	福祉とボランティア	川瀬 善美	半期	2	1～	409	
	レクリエーション理論	藤井 和彦	半期	2	2～	410	
	野外運動A(キャンプ)	齋藤 一人	集中	2	1～	411	
	野外運動B(雪上)	齋藤 一人	集中	2	1～	412	

科目区分		授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ
Ⅳ群	専門選択科目 学科共通科目	早期英語教育	Lorraine Reinbold	半期	2	2～	413
		e-ラーニング	Jeffrey Miller	半期	1	1～	415
			向井 千代子	半期	1	1～	414
		教育情報処理	渋川 美紀	半期	2	1～	417
司書教諭科目 学校図書館		学校経営と学校図書館	紺野 順子	集中	2	2～	544
		学校図書館メディアの構成	早野 喜久江	集中	2	2～	545
		学習指導と学校図書館	紺野 順子	集中	2	2～	546
		読書と豊かな人間性	後路 好章	集中	2	2～	547
		情報メディアの活用	石川 賀一	集中	2	2～	548

## 目 次

科目区分	授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ	
Ⅰ群	外国語必修科目	英語スタディースキルズ	宮里 恭子	半2㍻	2	1～	9
		オーラルプレゼンテーション	Lorraine Reinbold	半2㍻	2	1～	10
			Jeffrey Miller	通年	2	1～	
			Susan Miyake	通年	2	1～	
			Howard Alexander	通年	2	1～	
Ⅱ群	外国語必修科目・教養選択科目	リーディングⅠ	石河 不砂	通年	2	1～	1
		ライティングⅠ	新川 清治	通年	2	1～	2
		リーディングⅡ	Wayne Sumida	通年	2	2～	3
		ライティングⅡ	Wayne Sumida	通年	2	2～	5
		TOEIC	新川 清治	通年	2	2～	8
		ドイツ語Ⅰ	的場 哲朗	通2㍻	4	1～	24
		フランス語Ⅰ	飯田 昌平	通2㍻	4	1～	25
			Clemens Amann	通2㍻	4	1～	26
		スペイン語Ⅰ	高橋 節子	通2㍻	4	1～	27
		中国語Ⅰ	何 秋平	通2㍻	4	1～	28
		ドイツ語Ⅱ	石川 悦久	通年	2	2～	29
		フランス語Ⅱ	Clemens Amann	通年	2	2～	30
		スペイン語Ⅱ	高橋 節子	通年	2	2～	31
		中国語Ⅱ	平木 真快	通年	2	2～	32
		ドイツ語Ⅲ	石川 悦久	通年	2	2～	33
		フランス語Ⅲ	Clemens Amann	通年	2	2～	34
		スペイン語Ⅲ	高橋 節子	通年	2	2～	35
		中国語Ⅲ	平木 真快	通年	2	2～	36
		ドイツ語Ⅳ	石川 悦久	通年	2	2～	37
		フランス語Ⅳ	Clemens Amann	通年	2	2～	38
		スペイン語Ⅳ	高橋 節子	通年	2	2～	39
		中国語Ⅳ	平木 真快	通年	2	2～	40
		歴史学A	村尾 元忠	半期	2	1～	41
		歴史学B	村尾 元忠	半期	2	1～	42
		日本史概論	村尾 元忠	半期	2	1～	43
		外国史概論	浅田 進史	半期	2	1～	44
		地理学A	奥澤 信行	半期	2	1～	45
		地理学B	奥澤 信行	半期	2	1～	46
		地理学概論 (地誌を含む)	奥澤 信行	半期	2	1～	47
		倫理学A	的場 哲朗	半期	2	1～	48
		倫理学B	的場 哲朗	半期	2	1～	49
		応用倫理	渡辺 忠	半期	2	1～	50
倫理学概論	的場 哲朗	半期	2	1～	52		
哲学A	渡辺 忠	半期	2	1～	53		

科目区分		授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ	
Ⅱ群	外国語必修科目・教養選択科目	哲学B	渡辺 忠	半期	2	1～	55	
		哲学概論	渡辺 忠	半期	2	1～	57	
		文学A	向井 千代子	半期	2	1～	58	
		文学B	針生 進	半期	2	1～	59	
		論理学	渡辺 忠	半2コマ	4	1～	60	
		批判的思考	渡辺 忠	半期	2	1～	61	
		国語表現法A	増田 良二	半期	2	1～	62	
		国語表現法B	増田 良二	半期	2	1～	63	
		美学A	益田 勇一	半期	2	1～	64	
		美学B	益田 勇一	半期	2	1～	65	
		比較文化論A	河合 正男	半期	2	1～	66	
		比較文化論B	河合 正男	半期	2	1～	67	
		文化人類学A	結城 史隆	半期	2	1～	68	
		文化人類学B	結城 史隆	半期	2	1～	70	
		社会学A	山本 厚太郎	半期	2	1～	71	
		社会学B	山本 厚太郎	半期	2	1～	72	
		法学A	河原 文敬	半期	2	1～	73	
		法学B	宮原 均	半期	2	1～	74	
		統計学A	沖津 直	半期	2	1～	75	
		統計学B	沖津 直	半期	2	1～	76	
		心理学A	伊東 孝郎	半期	2	1～	80	
			神戸 文朗	半期	2	1～	77	
			中谷 陽子	半期	2	1～	79	
			心理学B	伊東 孝郎	半期	2	1～	83
				神戸 文朗	半期	2	1～	81
				中谷 陽子	半期	2	1～	82
		社会心理学A	細田 一秋	半期	2	1～	84	
		社会心理学B	細田 一秋	半期	2	1～	86	
		政治学A	三浦 顕一郎	半期	2	1～	88	
		政治学B	三浦 顕一郎	半期	2	1～	89	
		情報社会科学A	森川 信男	半期	2	1～	90	
		情報社会科学B	森川 信男	半期	2	1～	91	
		日本国憲法	小野 義典	半期	2	1～	92	
		解析学	黒澤 和人	半期	2	1～	96	
		環境科学A	小原 政敏	半期	2	1～	97	
		環境科学B	小原 政敏	半期	2	1～	98	
		代数学	黒澤 和人	半期	2	1～	101	
		数学概論	黒澤 和人	半期	2	1～	102	
		物理学A	師 啓二	半期	2	1～	103	

科目区分		授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ
Ⅱ群	外国語必修科目・教養選択科目	物理学B	師 啓二	半期	2	1～	104
		化学A	高林 久美子	半期	2	1～	105
		化学B	高林 久美子	半期	2	1～	106
		生物学A	上田 高嘉	半期	2	1～	107
		生物学B	上田 高嘉	半期	2	1～	108
		科学史A	船田眞里子・五十嵐善英	半期	2	1～	109
		科学史B	船田・五十嵐・黒澤	半期	2	1～	110
		情報処理	小林 正人	半期	2	1～	112
		体育実技A	体育担当教員	半期	1	1～	113
		体育実技B	体育担当教員	半期	1	1～	114
		健康科学	野間 明紀	半期	2	1～	115
		Ⅲ群	専攻必修科目	フレッシュマンセミナー	小林 正人	半期	1
	向井 千代子			半期	1	1～	
Ⅳ群	専攻選択科目	コミュニケーションⅠA	Jeffrey Miller	半期	2	2～	458
			Howard Alexander	半期	2	2～	
		コミュニケーションⅠB	Howard Alexander	半期	2	2～	460
			Lorraine Reinbold	半期	2	2～	
		リーディング&ポキャブラリーⅠ	Harry Harris	半期	2	1～	462
			Lorraine Reinbold	半期	2	1～	
		リーディング&ポキャブラリーⅡ	Harry Harris	半期	2	2～	464
			Lorraine Reinbold	半期	2	2～	
		ライティング初級	Jeffrey Miller	半期	2	1～	466
			Harry Harris	半期	2	1～	
		ライティング中級	Jeffrey Miller	半期	2	1～	468
			Harry Harris	半期	2	1～	
		ライティング上級	Harry Harris	半期	2	2～	470
			Lorraine Reinbold	半期	2	2～	
		英文法Ⅰ	向井 千代子	半期	2	1～	472
		英文法Ⅱ	小林 正人	半期	2	1～	
		英文法Ⅲ	新川 清治	半期	2	2～	474
		英語学概論	小林 正人	半期	2	1～	
		音声学演習	Lorraine Reinbold	半期	2	1～	476
		音声学	小林 正人	半期	2	1～	
		英文学概論	向井 千代子	半期	2	1～	478
		米文学概論	針生 進	半期	2	1～	
		英米文学A	向井 千代子	半期	2	2～	480
英米文学B	向井 千代子	半期	2	2～			
異文化理解	宮里 恭子	半期	2	1～	482		
異文化間コミュニケーション論	宮里 恭子	半期	2	2～			

科目区分	授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ	
Ⅳ群	専門選択科目 教職専門科目	英語圏地域研究	Jeffrey Miller	半期	2	2～	484
		教育制度論	馬場 将光	半期	2	1～	144
		比較教育論	馬場 将光	半期	2	2～	145
		教師論	五十嵐 敦子	半期	2	2～	354
			石堂 常世	半期	2	2～	352
		教育心理学	神戸 文朗	半期	2	1～	356
		教育基礎論	中谷 陽子	半期	2	1～	389
			馬場 将光	半期	2	1～	390
		生徒指導論（進路指導を含む）	榎本 和生	半期	2	2～	399
		総合演習	滝沢 謙三	半期	2	2～	374
			向井 千代子	半期	2	2～	375
			神戸 文朗	半期	2	2～	376
		道徳教育の理論と方法S	杉田 知之	半期	2	1～	451
		特別活動の理論と方法S	本間 研一	半期	2	2～	452
		教育方法論S	黒澤 和人	半期	2	1～	453
		教育相談S	中谷 陽子	半期	2	2～	535
		英語科教育法Ⅰ	宮里 恭子	半期	2	1～	486
		英語科教育法Ⅱ	滝沢 謙三	半期	2	2～	487
		英語科教育法Ⅲ	滝沢 謙三	半期	2	2～	488
		英語教育関連科目	教材研究	宮里 恭子	半期	2	2～
	コミュニケーション英語指導法		Jeffrey Miller	半期	2	2～	490
	小学校英語教育		宮里 恭子	半期	2	2～	492
	英語で話す日本文化		Lorraine Reinbold	半期	2	2～	493
	ビジネス英語関連科目	国際ビジネス英語Ⅰ	塚越 千由	半期	2	1～	118
		国際ビジネス英語Ⅱ	塚越 千由	半期	2	1～	119
		時事英語Ⅰ	河合 正男	半期	2	1～	133
			藤森 吉之	半期	2	1～	132
		時事英語Ⅱ	河合 正男	半期	2	1～	135
			藤森 吉之	半期	2	1～	134
		ビジネス実務	堀 真由美	半期	2	1～	120
		貿易商務論Ⅰ	塚越 千由	半期	2	1～	130
	貿易商務論Ⅱ	塚越 千由	半期	2	1～	131	
	学科共通科目	造形文化論	飯田 昌平	半期	2	1～	254
		おもちゃ論	中谷 陽子	半期	2	2～	256
		救急法	鈴川 正之	半期	2	1～	257
		レクリエーション実技	藤井 和彦	半期	1	2～	259
		福祉とボランティア	川瀬 善美	半期	2	1～	409
		レクリエーション理論	藤井 和彦	半期	2	2～	410
		野外運動A（キャンプ）	齋藤 一人	集中	2	1～	411

科目区分			授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ
IV群	専門選択科目	学科共通科目	野外運動B（雪上）	齋藤 一人	集中	2	1～	412
			早期英語教育	Lorraine Reinbold	半期	2	2～	413
			e-ラーニング	Jeffrey Miller	半期	1	1～	415
				向井 千代子	半期	1	1～	414
			教育情報処理	渋川 美紀	半期	2	1～	417
司書教諭科目	学校図書館		学校経営と学校図書館	紺野 順子	集中	2	2～	544
			学校図書館メディアの構成	早野 喜久江	集中	2	2～	545
			学習指導と学校図書館	紺野 順子	集中	2	2～	546
			読書と豊かな人間性	後路 好章	集中	2	2～	547
			情報メディアの活用	石川 賀一	集中	2	2～	548

## 目 次

科目区分	授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ
Ⅰ群 必修科目 外国語	英語コミュニケーションⅠ	Glenn Hamada	通年	2	1～	16
		Susan Miyake	通年	2	1～	
	英語コミュニケーションⅡ	Harry Harris	通年	2	2～	22
		Howard Alexander	通年	2	2～	
Ⅱ群 外国語・ 教養選択科目	リーディングⅠ	石河 不砂	通年	2	1～	1
	ライティングⅠ	新川 清治	通年	2	1～	2
	リーディングⅡ	Wayne Sumida	通年	2	2～	3
	ライティングⅡ	Wayne Sumida	通年	2	2～	5
	TOEIC	新川 清治	通年	2	2～	8
	ドイツ語Ⅰ	的場 哲朗	通2㊦	4	1～	24
	フランス語Ⅰ	飯田 昌平	通2㊦	4	1～	25
		Clemens Amann	通2㊦	4	1～	26
	スペイン語Ⅰ	高橋 節子	通2㊦	4	1～	27
	中国語Ⅰ	何 秋平	通2㊦	4	1～	28
	ドイツ語Ⅱ	石川 悦久	通年	2	2～	29
	フランス語Ⅱ	Clemens Amann	通年	2	2～	30
	スペイン語Ⅱ	高橋 節子	通年	2	2～	31
	中国語Ⅱ	平木 真快	通年	2	2～	32
	ドイツ語Ⅲ	石川 悦久	通年	2	2～	33
	フランス語Ⅲ	Clemens Amann	通年	2	2～	34
	スペイン語Ⅲ	高橋 節子	通年	2	2～	35
	中国語Ⅲ	平木 真快	通年	2	2～	36
	ドイツ語Ⅳ	石川 悦久	通年	2	2～	37
	フランス語Ⅳ	Clemens Amann	通年	2	2～	38
	スペイン語Ⅳ	高橋 節子	通年	2	2～	39
	中国語Ⅳ	平木 真快	通年	2	2～	40
	歴史学A	村尾 元忠	半期	2	1～	41
	歴史学B	村尾 元忠	半期	2	1～	42
	日本史概論	村尾 元忠	半期	2	1～	43
	外国史概論	浅田 進史	半期	2	1～	44
	地理学A	奥澤 信行	半期	2	1～	45
	地理学B	奥澤 信行	半期	2	1～	46
	地理学概論 (地誌を含む)	奥澤 信行	半期	2	1～	47
	倫理学A	的場 哲朗	半期	2	1～	48
	倫理学B	的場 哲朗	半期	2	1～	49
	応用倫理	渡辺 忠	半期	2	1～	50
倫理学概論	的場 哲朗	半期	2	1～	52	
哲学A	渡辺 忠	半期	2	1～	53	
哲学B	渡辺 忠	半期	2	1～	55	

科目区分		授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ
Ⅱ群	外国語・ 教養選択科目	哲学概論	渡辺 忠	半期	2	1～	57
		文学A	向井 千代子	半期	2	1～	58
		文学B	針生 進	半期	2	1～	59
		論理学	渡辺 忠	半2コマ	4	1～	60
		批判的思考	渡辺 忠	半期	2	1～	61
		国語表現法A	増田 良二	半期	2	1～	62
		国語表現法B	増田 良二	半期	2	1～	63
		美学A	益田 勇一	半期	2	1～	64
		美学B	益田 勇一	半期	2	1～	65
		比較文化論A	河合 正男	半期	2	1～	66
		比較文化論B	河合 正男	半期	2	1～	67
		文化人類学A	結城 史隆	半期	2	1～	68
		文化人類学B	結城 史隆	半期	2	1～	70
		社会学A	山本 厚太郎	半期	2	1～	71
		社会学B	山本 厚太郎	半期	2	1～	72
		法学A	河原 文敬	半期	2	1～	73
		法学B	宮原 均	半期	2	1～	74
		統計学A	沖津 直	半期	2	1～	75
		統計学B	沖津 直	半期	2	1～	76
		心理学A	伊東 孝郎	半期	2	1～	80
			神戸 文朗	半期	2	1～	77
			中谷 陽子	半期	2	1～	79
		心理学B	伊東 孝郎	半期	2	1～	83
			神戸 文朗	半期	2	1～	81
			中谷 陽子	半期	2	1～	82
		社会心理学A	細田 一秋	半期	2	1～	84
		社会心理学B	細田 一秋	半期	2	1～	86
		政治学A	三浦 顕一郎	半期	2	1～	88
		政治学B	三浦 顕一郎	半期	2	1～	89
		情報社会科学A	森川 信男	半期	2	1～	90
		情報社会科学B	森川 信男	半期	2	1～	91
		日本国憲法	小野 義典	半期	2	1～	92
		解析学	黒澤 和人	半期	2	1～	96
		環境科学A	小原 政敏	半期	2	1～	97
		環境科学B	小原 政敏	半期	2	1～	98
		代数学	黒澤 和人	半期	2	1～	101
		数学概論	黒澤 和人	半期	2	1～	102
		物理学A	師 啓二	半期	2	1～	103
		物理学B	師 啓二	半期	2	1～	104

科目区分		授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ	
Ⅱ群	外国語 教養選択科目	化学A	高林 久美子	半期	2	1～	105	
		化学B	高林 久美子	半期	2	1～	106	
		生物学A	上田 高嘉	半期	2	1～	107	
		生物学B	上田 高嘉	半期	2	1～	108	
		科学史A	船田真里子・五十嵐善英	半期	2	1～	109	
		科学史B	船田・五十嵐・黒澤	半期	2	1～	110	
		情報処理	渋川 美紀	半期	2	1～	111	
		体育実技A	体育担当教員	半期	1	1～	113	
		体育実技B	体育担当教員	半期	1	1～	114	
		健康科学	野間 明紀	半期	2	1～	115	
Ⅲ群	専攻必修科目	フレッシュマンセミナー	田多 英興	半期	1	1～	136	
			神戸 文朗	半期	1	1～		
Ⅳ群	専攻専門科目 専門選択科目	青年心理学	伊東 孝郎	半期	2	1～	211	
		認知心理学	神戸 文朗	半期	2	1～	215	
		臨床心理学	伊東 孝郎	半期	2	1～	216	
		心理学研究法	心理学研究法担当教員	半期	2	1～	221	
		心理学実験調査法	平田 乃美	半期	4	1～	222	
		体育心理学	本多 麻子	半期	2	3～	238	
		基礎心理学A	田多 英興	半期	2	1～	495	
		基礎心理学B	田多 英興	半期	2	1～	496	
		心理統計法	飯田 成敏	半期	2	1～	497	
		心理学基礎実験演習	伊崎 純子	半期	4	1～	498	
		学習心理学	飯田 成敏	半期	2	1～	499	
		発達心理学Ⅰ	田多 英興	半期	2	1～	500	
		生理心理学	田多 英興	半期	2	1～	502	
		比較心理学	田多 英興	半期	2	1～	503	
		人格心理学	伊東 孝郎	半期	2	1～	504	
		健康心理学	本多 麻子	半期	2	1～	505	
		心身医学	海原 純子	半期	2	1～	506	
		障がい児・者心理学	金丸 隆太	集中	2	1～	507	
		医療心理学	田多 英興	半期	2	1～	508	
		カウンセリング論	伊東 孝郎	半期	2	1～	509	
		環境心理学Ⅰ	平田 乃美	半期	2	1～	510	
		環境心理学Ⅱ	平田 乃美	半期	2	1～	511	
		教科専門科目	国際関係概論	嶋 信彦	半期	2	1～	129
			ミクロ経済学Ⅰ（国際経済を含む）	沖津 直	半期	2	1～	126
				吉川 薫	半期	2	1～	125
			マクロ経済学Ⅰ（国際経済を含む）	沖津 直	半期	2	1～	128
			吉川 薫	半期	2	1～	127	

科目区分	授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ	
Ⅳ群	専門選択科目 教科専門科目	マーケティングⅠ	内堀 敬則	半期	2	1～	122
			藤井 信之	半期	2	1～	121
		マーケティングⅡ	内堀 敬則	半期	2	1～	124
			藤井 信之	半期	2	1～	123
	教科専門科目	教育制度論	馬場 将光	半期	2	1～	144
		比較教育論	馬場 将光	半期	2	2～	145
		教師論	五十嵐 敦子	半期	2	2～	354
			石堂 常世	半期	2	2～	352
		教育心理学	神戸 文朗	半期	2	1～	356
		教育基礎論	中谷 陽子	半期	2	1～	389
			馬場 将光	半期	2	1～	390
		生徒指導論（進路指導を含む）	榎本 和生	半期	2	2～	399
		総合演習	神戸 文朗	半期	2	2～	376
			滝沢 謙三	半期	2	2～	374
			向井 千代子	半期	2	2～	375
		道徳教育の理論と方法S	杉田 知之	半期	2	1～	451
		特別活動の理論と方法S	本間 研一	半期	2	2～	452
		教育方法論S	黒澤 和人	半期	2	1～	454
		教育相談S	中谷 陽子	半期	2	2～	535
		社会科教育法Ⅰ	熊田 禎介	半期	2	2～	532
		社会科教育法Ⅱ	熊田 禎介	半期	2	2～	533
		社会科教育法Ⅲ	熊田 禎介	半期	2	2～	534
		社会科・公民科教育法	熊田 禎介	半期	2	2～	512
	公民科教育法	熊田 禎介	半期	2	2～	513	
	学科共通科目	造形文化論	飯田 昌平	半期	2	1～	254
		おもちゃ論	中谷 陽子	半期	2	2～	256
		救急法	鈴川 正之	半期	2	1～	257
レクリエーション実技		藤井 和彦	半期	1	2～	259	
福祉とボランティア		川瀬 善美	半期	2	1～	409	
レクリエーション理論		藤井 和彦	半期	2	2～	410	
野外運動A（キャンプ）		齋藤 一人	集中	2	1～	411	
野外運動B（雪上）		齋藤 一人	集中	2	1～	412	
早期英語教育		Lorraine Reinbold	半期	2	2～	413	
e-ラーニング		Jeffrey Miller	半期	1	1～	415	
		向井 千代子	半期	1	1～	414	
教育情報処理		渋川 美紀	半期	2	1～	417	
科目 司書 教諭 図書館	学校経営と学校図書館	紺野 順子	集中	2	2～	544	
	学校図書館メディアの構成	早野 喜久江	集中	2	2～	545	
	学習指導と学校図書館	紺野 順子	集中	2	2～	546	

科目区分	授業科目の名称	担当教員	開設	単位	履修年次	ページ
科目 司書 教諭 学校 図書館	読書と豊かな人間性	後路 好章	集中	2	2～	547
	情報メディアの活用	石川 賀一	集中	2	2～	548



科目名	リーディングⅠ / 英語Ⅲ		
単 位	2	開 設	通年
教 員 名	石河 不砂		

〔講義目的〕

英語力を強化したい学生のための選択コースである。

リーディング・リスニングを重点に、総合的な向上を目指す。

Charlie Brown and Friends 他のテキストを使用するなど楽しい授業になるよう心がけたい。

〔講義内容〕

テキスト以外にも教育・健康・環境などに関する身近なトピックも取り入れ、英語を介して幅広い知識を身につけて欲しい。

〔講義のすすめ方〕

- ・ 予習を前提とした授業となる。
- ・ 学生が積極的に授業参加できるよう、プレゼンテーションを取り入れる。
- ・ 必要に応じ参考資料はハンドアウトする。

〔教 材〕

Enjoy English with  
Charlie Brown and Friends  
Nan'un-do 2,205(税込) 他

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験結果と平常点で総合的に評価する。

定期試験 2回	70%
小テスト・プレゼンテーション・出席など	30%

〔履修のポイント・注意点〕

定期試験受験資格は原則として全授業数の2/3以上。

30分以上の遅刻は欠席となる。

遅刻2回で欠席1回とする。

〔科目内容の位置付け〕

中級レベル

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

英Ⅰ、英Ⅱと関連する。

科目名	ライティングⅠ / 英語Ⅳ		
	経営専攻		
単 位	2	開 設	通年
教 員 名	新川 清治		

**〔講義目的〕**

日本語を英語に直訳するという方法でなく、自分の考えを直接英語で表現できるようにする。

**〔講義内容〕**

ある話題についての短い作文を繰り返し、段階的に英作文の技術を習得していく。作文した内容をパワーポイントを利用して英語で口頭発表する。

**〔講義のすすめ方〕**

設定されたトピックの作文、その修正が中心となる。

**〔教 材〕**

初講日に指示する。

**〔成績評価の方法・基準〕**

出席状況、授業への参加度、提出課題などにより、総合的に判断する。

**〔履修のポイント・注意点〕**

授業中の演習が主となるので、高い出席率と積極的な授業への参加が要求される。

**〔科目内容の位置付け〕**

初級レベル。

科目名	リーディングⅡ / 英語Ⅴ		
単 位	4	開 設	通年
教 員 名	Wayne Sumida		

**〔講義目的〕**

This is an elective reading course for the student who would like to develop his or her reading skills by reading in English. It is hoped that by the end of the course the student will have improved his or her ability to read in English.

Since this is an elective course, it is expected that only students who want to improve their ability to read in English will take the course. Regular attendance, attention to reading and preparation for each lesson, completion of homework, and a good class attitude will be expected.

**〔講義内容〕**

The emphasis in this course will be on reading in English. Through the reading assignments there will be opportunities for vocabulary development, discussion, and writing in English.

**〔講義のすすめ方〕**

There will be an extensive amount of reading to complete in the course. Students taking the course should be prepared to do a lot of reading, both inside and outside of class time.

Some tasks will require independent work during and after class time using the computer and the Internet. Students who take the course must be able to use the computer responsibly and work only on class assignments during the class period.

There will be homework assignments to prepare for each lesson and to review ideas covered in class.

Class preparation and homework completion are expected and required for successful completion of the course.

There will be discussion of reading assignments. Students will be expected to speak in English and contribute to the discussion of any readings assigned.

Students will also have to write in English in order to confirm comprehension of reading assignments.

There will be quizzes and a final exam.

**〔教 材〕**

The textbook(s) for the course will be announced at the first class session.

**〔成績評価の方法・基準〕**

Grades will be based on the following:

Attendance	10%
Course assignments	80%
Quizzes	10%
Total	100%

Regular attendance is required to pass the course.

**〔履修のポイント・注意点〕**

The course will be conducted entirely in English. The successful student in this course will come to each class with a good attitude and be prepared to participate with enthusiasm. Only through active involvement will the student be able to benefit personally from this course and make a positive contribution to the class. In addition, the student will be asked to take responsibility for his or her study and to help others do the same by cooperating

with others in the class.

**〔科目内容の位置付け〕**

This course is for the student who would like to improve his or her English reading skills.

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

English writing courses are an excellent complement to this reading course. Knowing what good writers do to successfully convey a message in print will help the language learner to become a better reader.

科目名	ライティングⅡ / 英語Ⅵ		
単 位	4	開 設	通年
教 員 名	Wayne Sumida		

**〔講義目的〕**

This is an elective writing course for the student who would like to develop his or her writing skills. It is hoped that by the end of the course the student will have an increased confidence in his or her ability to express ideas and opinions in written English.

This is a computer-based writing course. Students taking this course will be asked to use a computer and resources available on the Internet to complete work assignments. Students should know how to do a website search on the Internet, be familiar with the word processing program Microsoft Word, and know how to save and send files.

**〔講義内容〕**

The emphasis will be on working with the concept of writing as a process. From the initial stage of getting an idea to the final re-write leading to a finished product, writing is an exercise that requires re-evaluation and revision. Students will be asked to consider the steps to take as they work toward producing a finished piece of writing.

**〔講義のすすめ方〕**

There will be an extensive amount of writing and reading to complete in the course. Students taking the course should expect to work hard to complete all of the required assignments.

Students will be asked to write essays on themes that are related to their own life experiences.

There will be textbook

assignments to complete as homework.

There will be reading assignments to complete as homework. Discussion of the reading assignments will be conducted online.

There will be writing tasks during class time.

Students must be able to work independently and use self-initiative. Students are expected to ask questions when they need to clarify the requirements for any writing assignment.

All assignments and due dates will be posted in the online classroom.

**〔教 材〕**

The textbook(s) for the course will be announced on the first day of class.

Other information necessary for the course will be available in the online classroom.

**〔成績評価の方法・基準〕**

Final grades will be based on the following:

Attendance	10%
Reports	50%
Online discussion participation	20%
Textbook homework	10%
Classroom tasks	10%
Total	100%

**〔履修のポイント・注意点〕**

The course will be conducted entirely in English. This may be a first-time experience for some and may require that the learner change his or her perspective as to what language

learning is about. Students working in this challenging environment will be expected to take the initiative in trying to improve his or her English language skills. Students can expect support from the teacher and classmates, but improvement will come only through individual persistence, initiative, and effort.

The successful student in this course will come to each class with a good attitude and be prepared to participate with enthusiasm. Only through active involvement will the student be able to benefit personally from this course and make a positive contribution to the class. In addition, the student will be asked to take responsibility for his or her study and to help others do the same by cooperating with others in the class. This is not a lecture-style course.

**〔科目内容の位置付け〕**

This course is for the student who would like to improve his or her writing skills. By actually working to produce a finished product in writing, it is hoped that the student writer will come to a better appreciation of the effort necessary to do this.

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

English reading courses are an excellent complement to this writing course. Extensive reading can help the student to become better acquainted with how messages are conveyed in print and can also help students to improve their vocabulary.

科目名	英語Ⅶ		
単 位	4	開 設	通年
教 員 名	新川 清治		

〔講義目的〕

前期は英検2級、後期は準1級の取得を目指す。

〔講義内容〕

リスニングセクションはシャドウイングとディクテーションの訓練を行い、リーディングセクションは各自問題の解説を作成する。

〔講義のすすめ方〕

指定の範囲の小テストを行った後、リスニングの訓練を行い、残りの時間で各自問題の解説を作成してもらう。疑問を共有し、その解説を行う。

〔教 材〕

インターネット上の問題を利用する。

〔成績評価の方法・基準〕

小テスト・課題の提出 40%  
定期試験 60%

〔履修のポイント・注意点〕

授業中の自主的な演習が主であり、また、自宅での学習も大いに要求する。その意欲のないものは履修を遠慮してもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕

英検2級、準1級の試験対策。

科目名	TOEIC / 英語Ⅷ		
単 位	4	開 設	通年
教 員 名	新川 清治		

**【講義目的】**

英語コミュニケーション能力を客観的に示す世界的指標となっている TOEIC において、600 点レベルを目指す。

**【講義内容】**

前期は Part I、Part II、Part III の問題を利用したリピーティング、シャドウイング、ディクテーションの訓練、Part V と Part VI の文法問題の指導、後期は Part III と Part IV の問題を利用したシャドウイングとディクテーションの訓練、Part VII の解き方の指導を行う。

**【講義のすすめ方】**

問題の演習と解説、リスニングの訓練を繰り返す。毎回、事前に指定した範囲の小テストを行う。

**【教 材】**

TOEIC テスト新公式問題集

**【成績評価の方法・基準】**

小テスト 40%  
定期試験 60%

**【履修のポイント・注意点】**

授業での演習や解説は自己学習のきっかけを与えるものであり、自己学習なしに効果は期待できない。自宅で学習する意欲のない者は履修を遠慮してもらいたい。

**【科目内容の位置付け】**

TOEIC 試験対策中級レベル。

科目名	英語スタディースキルズ		
	English Study Skills: Miyazato/Reinbold		
単位	2	開設	前期
教員名	宮里 恭子・Lorraine Reinbold		

#### 〔講義目的〕

The purpose of this course is to prepare students for skill based English courses that they will take during their four years in the Teaching English Program. Since secondary school EFL education is still focused on "learning about English" due mainly to the present state of university entrance examinations, it is necessary to supplement learners' fundamental English skills to elevate their English levels to "learning in English" by providing intensive training called "English Study Skills." In this course, students will develop the four English language skills and learn to present their own opinions. Specifically, students will read to grasp the main idea of a passage without translating into Japanese and reproduce the information in their own words using paraphrasing techniques. They will also write short essays, give presentations, have discussions and debates after learning the logical structures of academic English. In addition, learners' English listening abilities are to be strengthened by having classes conducted mostly or entirely in English.

#### 〔講義内容〕

Lesson plans are based upon developing the four basic skills that are reading and writing, and speaking and listening. Students who successfully complete English Study Skills should be able to:

- Improve reading efficiency
- Take notes
- Paraphrase and summarize short passages
- Write clearly formatted, well-

structured, and coherent paragraphs

- Learn basic research techniques
- Learn through discussions
- Give effective presentations
- Manage their studies

#### 〔教材〕

Study Skills for College English  
 慶応義塾大学経済学部英語部会  
 慶応大学出版会、2007

#### 〔成績評価の方法・基準〕

- ・ Quiz 20%
- ・ Show and Tell Presentation 10%
- ・ Book/Movie Report 10%
- ・ Final Presentation 30%
- ・ Attendance/English Lounge (five times) 20%
- ・ Participation/Attitude/Homework 10%

#### 〔履修のポイント・注意点〕

This is the only required English course in the program. All classes are mostly conducted in English and Study Skills is specifically designed to give you fundamental knowledge for surviving in the other advanced English courses. Successful completion of this introductory course to skill-based English (reading, writing, speaking and listening) classes in the English Education program will enable students to understand and do well in subsequent courses.

If you feel lost, do not be afraid to ask for help. Please ask so that you can help yourself. Remember, the instructors are here to assist you with your learning.

#### 〔科目内容の位置付け〕

This is a required English course in the English program.

科目名	オーラルプレゼンテーション		
単位	2	開設	通年
教員名	Jeffrey Miller · Susan Miyake · Howard Alexander		

**〔講義目的〕**

[Course Objectives]

Oral Presentation is a fully-integrated English speaking (oral) and listening (aural) comprehension course designed to involve the learners in using English actively and naturally. As many of the learners plan to become future English teachers, the course will emphasize learner-centered, communicative activities, pair and group work, and vocabulary acquisition strategies, to work toward greater fluency in authentic English.

This learner-centered course should be "very active and enjoyable" as it focuses on student speaking and listening "output" with little teacher lecture "input." Although there will be some outside-of-class work expected, it will be using authentic English so it will be different from usual homework.

Through repeated but fun practice speaking and listening, learners will develop confidence in their ability to communicate in English.

**〔講義内容〕**

[Course Contents]

The course will meet once a week for two semesters, but will use only one core textbook (see Course Material below) for the entire year. The course will center on oral, student speaking, and aural, listening comprehension.

For oral practice, students will frequently present to the class on such topics as their free-time activities, favorite movies, future dreams, etc., with class Q & A afterward. Pair-work, group discussions, role play and other communicative activities will keep the students talking

in as authentic situations as possible.

For aural practice, in addition to the textbook dictation and other listening activities will improve the learners' ability to "catch" and understand English as it is really spoken.

Outside of class, students will regularly visit the English Lounge and listen to the textbook self-study CD.

**〔講義のすすめ方〕**

[Course Progress]

Oral presentation will have two main elements (oral and aural) subdivided into: in-class and outside-of-class tasks. To successfully pass the course, students must complete both the inside-of-class and outside-of-class parts of the oral and aural elements.

The oral element will have frequent student one-to-many presentations (e.g. "A Trip" or oral book reports, etc..) and paired or small group discussions coordinated by the teacher. (The teacher will rarely lecture about English, but instead have the students practice authentic English as much as possible.) Outside of class, the students are expected to regularly visit the English Lounge to interact with the exchange students.

The aural element will follow the 20 lesson textbook with progressively more difficult listening tasks, authentic English audio selections, dictation etc. Successful language learning needs frequent practice, but as the course only meets once a week, students are expected to listen to the textbook self-study CD for 20 minutes four times a week outside of class (e.g. before going

to sleep at night or in the train or in their car).

**〔教 材〕**

[Course Materials]

All students are expected to purchase the core textbook: "Impact Listening 2" (ISBN 9789620058028) including a self-study CD by Jill Robbins and Andrew MacNeil, published by Pearson Longman. The textbook will be supplemented with additional teacher-selected material.

**〔成績評価の方法・基準〕**

[Course Grading]

Weekly classwork (often presentations), pair-work, discussions, periodic visits to the English Lounge, quizzes and written homework will make up 50 percent of the final grade. Attendance will be 30 percent of the grade, and a final exam will be 20 percent of the final grade.

**〔履修のポイント・注意点〕**

[Successful Study Points]

The small size of the class (from 12 to 18 learners) provides opportunities for each student to speak out often during each class. However, only with courage will students be able to make use of these chances.

English is a skill (like soccer, driving or cooking), so mastering it requires practice. When practicing it is natural to make mistakes, however, if we become too worried about making mistakes we are afraid to say anything. It is far better to try and say much, of which 70 to 80 percent is correct, than to say little of which 90 to 100 percent is correct! Be confident, even native speakers make mistakes in their own mother tongue.

Success in English (sports, driving, etc..) will only come by actively trying again and again until you can do it. Never give up!

**〔科目内容の位置付け〕**

[Related Subsequent Courses]

Communication I A and II A as well as Communication I B and II B

**〔前提・関連科目 (科目間関連の内容)〕**

[Prerequisites]

English Study Skills

科目名	英会話Ⅰ / 英語コミュニケーションⅠ		
単 位	2	開 設	通年
教 員 名	Asha Vannimmen · Glenn Hamada · Susan Miyake · Harry Harris · Howard Alexander		

#### 【講義目的】

This is the first of a two-course series designed to help students develop English speaking and listening skills for use in different contexts. Students who successfully complete English Communication I should be able to:

- Show improving fluency and pronunciation.
- Use basic structures to talk about who, what, when and where, and more successfully about how and why.
- Carry out basic speech functions such as introduction, inviting, apologizing, and asking for information, confirmation, and clarification.
- Answer simple comprehension questions and identify numbers, letter names, time phrases, common names, and other word groups with increasing accuracy.
- Comprehend contractions and other sound reductions with increasing accuracy.
- Show increasing sensitivity to both verbal and non-verbal communication, for example in contexts where cues show a change in mood or emotion, and respond with more appropriate gestures.

#### 【講義内容】

The following list of lessons is taken from *Cultivating the Seeds*\*:

- 1) First Impressions and Acceptance Part I
- 2) First Impressions and Acceptance Part II
- 3) Positive Attitude Part I
- 4) Positive Attitude Part II
- 5) Building Confidence Part I
- 6) Building Confidence Part II
- 7) Giving Love Part I
- 8) Giving Love Part II

- 9) Friendships Part I
- 10) Friendships Part II
- 11) One Step Back, Two Steps Forward Review
- 12) Forgiving Others Part I
- 13) Forgiving Others Part II
- 14) Kindness Part I
- 15) Kindness Part II

\*Instructors using other selected textbooks will announce and explain the content of lessons in their first class.

#### 【講義のすすめ方】

Class time will be planned to include numerous opportunities for individual, pair, and group English practice.

#### 【教 材】

Instructors will use their own communicative approach to teach their students.

For classes, each instructor will prepare his/her own materials and/or select from among the following, or other textbooks: *Fifty-Fifty: Book 1*; *Impact Topics*; *ultivating the Seeds*; and *Top Notch 1*.

#### 【成績評価の方法・基準】

Grades will be determined based on the following criteria:

- 1) Attendance: 30%
- 2) Participation: 30%
- 3) Assignments and /or Quizzes/Exam: 40%

According to the university policy, students who miss more than 1/3 of class sessions will fail the course. In addition, regular attendance and positive attitude are encouraged to help improve student learning opportunities.

〔履修のポイント・注意点〕

Message to Students

Instructors have their own teaching methodology and philosophy which they have determined to be in the best interests of their students. Students should take full advantage of the English environment of the class to practice understanding and using English actively. Positive attitude towards classmates, teacher, and the course will result in improved English skills and general knowledge.

科目名	英会話Ⅰ / 英語コミュニケーションⅠ		
単 位	2	開 設	通年
教 員 名	Glenn Hamada · Howard Alexander · Asha Vannimmen		

#### 【講義目的】

This is the first of a two-course series designed to help students develop English speaking and listening skills for use in different contexts. Students who successfully complete English Communication I should be able to:

- Show improving fluency and pronunciation.
- Use basic structures to talk about who, what, when and where, and more successfully about how and why.
- Carry out basic speech functions such as introduction, inviting, apologizing, and asking for information, confirmation, and clarification.
- Answer simple comprehension questions and identify numbers, letter names, time phrases, common names, and other word groups with increasing accuracy.
- Comprehend contractions and other sound reductions with increasing accuracy.
- Show increasing sensitivity to both verbal and non-verbal communication, for example in contexts where cues show a change in mood or emotion, and respond with more appropriate gestures.

#### 【講義内容】

The following list of lessons is taken from *Cultivating the Seeds*\*:

- 1) First Impressions and Acceptance Part I
- 2) First Impressions and Acceptance Part II
- 3) Positive Attitude Part I
- 4) Positive Attitude Part II
- 5) Building Confidence Part I
- 6) Building Confidence Part II
- 7) Giving Love Part I
- 8) Giving Love Part II

- 9) Friendships Part I
- 10) Friendships Part II
- 11) One Step Back, Two Steps Forward Review
- 12) Forgiving Others Part I
- 13) Forgiving Others Part II
- 14) Kindness Part I
- 15) Kindness Part II

\*Instructors using other selected textbooks will announce and explain the content of lessons in their first class.

#### 【講義のすすめ方】

Class time will be planned to include numerous opportunities for individual, pair, and group English practice.

#### 【教 材】

Instructors will use their own communicative approach to teach their students.

For classes, each instructor will prepare his/her own materials and/or select from among the following, or other textbooks: *Fifty-Fifty: Book 1; Impact Topics; ultivating the Seeds; and Top Notch 1.*

#### 【成績評価の方法・基準】

Grades will be determined based on the following criteria:

- 1) Attendance: 30%
- 2) Participation: 30%
- 3) Assignments and /or Quizzes/Exam: 40%

According to the university policy, students who miss more than 1/3 of class sessions will fail the course. In addition, regular attendance and positive attitude are encouraged to help improve student learning opportunities.

〔履修のポイント・注意点〕

Message to Students

Instructors have their own teaching methodology and philosophy which they have determined to be in the best interests of their students. Students should take full advantage of the English environment of the class to practice understanding and using English actively. Positive attitude towards classmates, teacher, and the course will result in improved English skills and general knowledge.

科目名	英語コミュニケーションⅠ		
単位	2	開設	通年
教員名	Glenn Hamada・Susan Miyake		

**【講義目的】**

This is the first of a two-course series designed to help students develop English speaking and listening skills for use in different contexts. Students who successfully complete English Communication I should be able to:

- Show improving fluency and pronunciation.
- Use basic structures to talk about who, what, when and where, and more successfully about how and why.
- Carry out basic speech functions such as introduction, inviting, apologizing, and asking for information, confirmation, and clarification.
- Answer simple comprehension questions and identify numbers, letter names, time phrases, common names, and other word groups with increasing accuracy.
- Comprehend contractions and other sound reductions with increasing accuracy.
- Show increasing sensitivity to both verbal and non-verbal communication, for example in contexts where cues show a change in mood or emotion, and respond with more appropriate gestures.

**【講義内容】**

The following list of lessons is taken from *Cultivating the Seeds*\*:

- 1) First Impressions and Acceptance Part I
- 2) First Impressions and Acceptance Part II
- 3) Positive Attitude Part I
- 4) Positive Attitude Part II
- 5) Building Confidence Part I
- 6) Building Confidence Part II
- 7) Giving Love Part I
- 8) Giving Love Part II

- 9) Friendships Part I
- 10) Friendships Part II
- 11) One Step Back, Two Steps Forward Review
- 12) Forgiving Others Part I
- 13) Forgiving Others Part II
- 14) Kindness Part I
- 15) Kindness Part II

\*Instructors using other selected textbooks will announce and explain the content of lessons in their first class.

**【講義のすすめ方】**

Class time will be planned to include numerous opportunities for individual, pair, and group English practice.

**【教材】**

Instructors will use their own communicative approach to teach their students.

For classes, each instructor will prepare his/her own materials and/or select from among the following, or other textbooks: *Fifty-Fifty: Book 1*; *Impact Topics*; *ultivating the Seeds*; and *Top Notch 1*.

**【成績評価の方法・基準】**

Grades will be determined based on the following criteria:

- 1) Attendance: 30%
- 2) Participation: 30%
- 3) Assignments and /or Quizzes/Exam: 40%

According to the university policy, students who miss more than 1/3 of class sessions will fail the course. In addition, regular attendance and positive attitude are encouraged to help improve student learning opportunities.

〔履修のポイント・注意点〕

Message to Students

Instructors have their own teaching methodology and philosophy which they have determined to be in the best interests of their students. Students should take full advantage of the English environment of the class to practice understanding and using English actively. Positive attitude towards classmates, teacher, and the course will result in improved English skills and general knowledge.

科目名	英会話Ⅱ / 英語コミュニケーションⅡ		
単 位	2	開 設	通年
教 員 名	Glenn Hamada · Susan Miyake · Howard Alexander		

**〔講義目的〕**

This is the second of a two-course series designed to help students develop English speaking and listening skills for use in different contexts. Students who successfully complete English Communication Ⅱ should be able to:

- Meet Communication I speaking and listening objectives, demonstrating command of these new skills in individual, pair, or group endeavors, such as presentations and discussions.
- Initiate a conversation and use their own ideas and opinions to further the conversation; use information received in a conversation to expand a discussion; ask basic follow up questions and talk about the answers they receive.
- Identify and summarize/paraphrase key points from dialogs, conversations, and other adapted listening material with increasing accuracy and provide correct answers to simple comprehension questions about a listening selection.
- Pick out reasons and cause/effect relationships in selections, with greater accuracy.
- Use simple and compound sentences with occasional use of complex sentences and attempt to use more complex structures such as modals.
- Pick out verbal cues that tell the speakers' moods or emotions, with greater accuracy.
- Show some sensitivity to the need

for variation in register, whether it be formal/informal, polite/casual, direct/indirect, and have a few alternate ways of expressing themselves in communicative encounters, according to such factors as degree of imposition, social position, and gender.

**〔講義内容〕**

Content of Lessons

The following list of lessons is taken from *Cultivating the Seeds*\*:

- 1) Courage Part I
- 2) Courage Part II
- 3) Honesty and Truth Part I
- 4) Honesty and Truth Part II
- 5) Heart of the Family Part I
- 6) Heart of the Family Part II
- 7) One Step Back, Two Steps Forward  
Review
- 8) Personal Responsibilities Part I
- 9) Personal Responsibilities Part II
- 10) Learning From Mistakes Part I
- 11) Learning From Mistakes Part II
- 12) Making Right Choices Part I
- 13) Making Right Choices Part II
- 14) Making Right Changes Part I
- 15) Making Right Changes Part II

**〔講義のすすめ方〕**

Class time will be planned to include numerous opportunities for individual, pair, and group English practice.

**〔教 材〕**

Instructors will use their own communicative approach to teach their students. For classes, each instructor will prepare his/her own materials and/or select from among the following, or other, textbooks: *Fifty-Fifty: Book 2*; *Impact Topics*; *Cultivating the Seeds*; and *Top Notch*

**〔成績評価の方法・基準〕**

Grades will be determined based on the following criteria:

- 1) Attendance: 30%
- 2) Participation: 30%
- 3) Assignments and /or Quizzes/Exam: 40%

According to university policy, students who miss more than 1/3 of class sessions will fail the course. In addition, regular attendance and positive attitude are encouraged to help improve student learning opportunities.

**〔履修のポイント・注意点〕**

Message to Students

Instructors have their own teaching methodology and philosophy which they have determined to be in the best interests of their students. Students should take full advantage of the English environment of the class to practice understanding and using English actively. Positive attitude towards classmates, teacher, and the course will result in improved English skills and general knowledge.

科目名	英会話Ⅱ / 英語コミュニケーションⅡ		
単 位	2	開 設	通年
教 員 名	Michael Morgan ・ Harry Harris ・ Susan Miyake ・ Glenn Hamada		

### 〔講義目的〕

#### Overview and General Objectives

The course aims to improve skills in all four areas of the language.

Speaking/Listening: The course materials and teaching methodology will encourage the maximum amount of speaking and listening time. The key objective will be to improve communicative ability.

Reading/Writing: The course materials will include sports-related topics. The key objective will be not only to improve these two skills but also to expand the vocabulary range of the students.

### 〔講義内容〕

#### Course Approach

The instructor will use relatively simple English during class time. Students must assume some responsibility for improving their communicative strategies and techniques as well as their reading and writing skills.

As this is the first year of this course, a lot of the lessons will involve a certain amount of 'action research' with the emphasis on what works best for the students involved. Thus, the course will include all or some of the following.

#### A. General Communicative English

1. Guided Conversation
2. Information-gap Tasks
3. Functional English

#### B. Formal Presentations

#### C. Practical Presentations

#### D. The Science Of Sport

#### E. Vocabulary

### 〔講義のすすめ方〕

A.1. The students will: use the questions to 'interview' their partners, give their own answers to their partners

questions, make notes on their partners answers, use the notes to write complete sentences, give a brief presentation about their partners, using the sentences 2. The students will: ask suitable questions of their partners to obtain the missing information, make notes of the missing information and later check for accuracy, consult with a number of their classmates and make notes, use the notes to solve the problem posed by the task. 3. The students will learn how to use English to: recommend, offer to do things, respond to statements, complain about purchases, complain about behavior, ask for and give advice, ask for and give opinions, agree and disagree, make phone calls, make appointments, ask for and give instructions. B. The students will: research the topic by using library materials or computers, write and rewrite their presentations with checks/input from the instructor, give their presentations to the class. C. The students will: research the topic, memorize the instructions/explanations, give instructions to the class, listen and follow the instructions given by their classmates, listen to the explanations given by their classmates, make notes on the explanations. D. The students will: listen to the instructor's explanation, make notes on this mini-lecture, take part in any activity that it may involve, hopefully use the activities and games with their future students. 2. The students will be provided with handouts on topics that explain the science of sport along with a set of reading comprehension questions. The students will: read through the handout, answer the questions in complete sentences. E. The students will expand their vocabulary particularly

in the following areas: everyday/general topics, functional phrases, parts of the body, functions of body parts and organs, basic first aid, gym and ground English instructions.

**〔教 材〕**

A. General Communicative English

1. Guided Conversation: The materials provided by the instructor will be in the form of questions about general/ everyday topics which will encourage and facilitate dialogue between pairs of students.

2. Information-gap Tasks: The materials will be provided by the instructor, and the tasks will involve both pair-work and group role-playing activities.

3. Functional English: The materials will be provided by the instructor.

\*Also, a number of communication strategies will be introduced or reinforced.

B. The topics for these presentations will include the following: The history of a particular sport, A profile of a sports personality, Health, How to improve your stamina/muscle strength, the function of a body part or organ.

C. Hopefully, some of these activities will take place either at the ground or in the gym.

The topics for these presentations will include: stretching exercises, skill practice activities for a specific sport, rules for a specific sport, instruction on basic first aid

D. The instructor will introduce a number of games and activities that explain the science of sport.

E. A key objective of this course is to build a relevant vocabulary.

**〔成績評価の方法・基準〕**

Student Evaluation

Grades will be based on the following criteria:

Attendance 30%

Assignments 40%

Exam 30%

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

Prerequisite

Students must have completed English Communication 1 in order to take this course.

科目名	英語コミュニケーションⅡ		
単 位	2	開 設	通年
教 員 名	Harry Harris · Howard Alexander		

**【講義目的】**

This is the second of a two-course series designed to help students develop English speaking and listening skills for use in different contexts. Students who successfully complete English Communication II should be able to:

- Meet Communication I speaking and listening objectives, demonstrating command of these new skills in individual, pair, or group endeavors, such as presentations and discussions.
- Initiate a conversation and use their own ideas and opinions to further the conversation; use information received in a conversation to expand a discussion; ask basic follow up questions and talk about the answers they receive.
- Identify and summarize/paraphrase key points from dialogs, conversations, and other adapted listening material with increasing accuracy and provide correct answers to simple comprehension questions about a listening selection.
- Pick out reasons and cause/effect relationships in selections, with greater accuracy.
- Use simple and compound sentences with occasional use of complex sentences and attempt to use more complex structures such as modals.
- Pick out verbal cues that tell the speakers' moods or emotions, with greater accuracy.
- Show some sensitivity to the need

for variation in register, whether it be formal/informal, polite/casual, direct/indirect, and have a few alternate ways of expressing themselves in communicative encounters, according to such factors as degree of imposition, social position, and gender.

**【講義内容】**

Content of Lessons

The following list of lessons is taken from *Cultivating the Seeds*\*:

- 1) Courage Part I
- 2) Courage Part II
- 3) Honesty and Truth Part I
- 4) Honesty and Truth Part II
- 5) Heart of the Family Part I
- 6) Heart of the Family Part II
- 7) One Step Back, Two Steps Forward  
Review
- 8) Personal Responsibilities Part I
- 9) Personal Responsibilities Part II
- 10) Learning From Mistakes Part I
- 11) Learning From Mistakes Part II
- 12) Making Right Choices Part I
- 13) Making Right Choices Part II
- 14) Making Right Changes Part I
- 15) Making Right Changes Part II

**【講義のすすめ方】**

Class time will be planned to include numerous opportunities for individual, pair, and group English practice.

**【教 材】**

Instructors will use their own communicative approach to teach their students. For classes, each instructor will prepare his/her own materials and/or select from among the following, or other, textbooks: *Fifty-Fifty: Book 2; Impact Topics; Cultivating the Seeds; and Top Notch*

**〔成績評価の方法・基準〕**

Grades will be determined based on the following criteria:

- 1) Attendance: 30%
- 2) Participation: 30%
- 3) Assignments and /or Quizzes/Exam: 40%

According to university policy, students who miss more than 1/3 of class sessions will fail the course. In addition, regular attendance and positive attitude are encouraged to help improve student learning opportunities.

**〔履修のポイント・注意点〕**

Message to Students

Instructors have their own teaching methodology and philosophy which they have determined to be in the best interests of their students. Students should take full advantage of the English environment of the class to practice understanding and using English actively. Positive attitude towards classmates, teacher, and the course will result in improved English skills and general knowledge.

科目名	ドイツ語Ⅰ		
単位	4	開設	通年
教員名	的場 哲朗		

#### 〔講義目的〕

ドイツ語を正しく発音し、基本的な文法をしっかりと身につけ、簡単な会話ができるようにすることがこの授業の目的です。

#### 〔講義内容〕

語学につきものの、発音・文法・会話には力をいれますが、同時に、ドイツ人の生活の中で言葉を理解するようにつとめたいと思います。町の中、友人たちとの語り、旅行、大学の生活、買い物、音楽などの流行、映画、恋愛・結婚観、宗教観。意外と私たち日本人と同じところがありますし、まったく違っているところもあります。ドイツ人の好きな車の色は何色でしょうか。海水浴場はどんなふうになっているのでしょうか。電車の乗り方は？大学の入学試験は？日本人のことをどう思っているのでしょうか。旧東独の人たちが意外に金持ちで大きな家に住んでいることも知っていますか。そんな話もたくさんしたいと思います。

#### 〔講義のすすめ方〕

- 1、正しいドイツ語の発音を覚えましょう。よい発音ができれば、よく聞き取れます。基本的にローマ字読みですし、カタカナで発音を書いても十分に通じます。わたしたち日本人に難しい発音は少ないので、しっかりと身につけることにします。
- 2、ビデオなどを使ってドイツの都市を実際に訪れている気持ちになりますが、文法事項だけはきっちりと覚えましょう。ドイツ人は真面目。何よりも文法は大切なのです。
- 3、簡単なシチュエーション（ホテルや駅、レストランなど）を設定し、実際にドイツ語で会話をしてみましょう。
- 4、簡単なドイツ語（地図・旅行ガイド・時刻表・ゴミの捨て方・大学の講義要項など）を理解できるようにしましょう。
- 5、ドイツ映画を鑑賞します。

#### 〔教材〕

特に指定しません。適宜、資料を配付する予定です。

辞書は必ず購入して下さい（中級程度の辞書

を購入すること）。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

授業中の小テストと定期試験の成績（平均60点以上）、これに出席状況を加味して決定します。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

絶対に遅刻や欠席をしないこと。私語をしないこと。しかし、発音は大きな声ですること。分からないことはすぐに質問し解決すること。テレビやラジオでドイツ語を聴くこと。

とにかく最初の一ヶ月が大切。英語と違い、ドイツ語は簡単ですが、しかし安易に考えないこと。ひとつの言葉ができるようになるということは嬉しいものですよ！

科目名	フランス語Ⅰ		
単 位	4	開 設	通年
教 員 名	飯田 昌平		

〔講義目的〕

フランス語の発音のしくみ、初歩的文法を理解し、平易なフランス語を、聞き、話し、読み、書く能力を養う。  
言葉によるコミュニケーションの必要性を理解し、積極的に会話に参加する能力を養う。  
フランス文化を理解し、フランスの美術、文学、音楽等を楽しむ能力を養う。

〔講義内容〕

- 第1回から9回 フランス語の発音 / フランス語のアルファベ / 母音と子音 / 母音字と子音字 / リエゾンとエリジョン
- 第10回 小テスト
- 第11回から19回 男性名詞と女性名詞 / 定冠詞と不定冠詞 / 所有形容詞と指示形容詞 / 動詞の現在形 / 否定文と疑問文
- 第20回 小テスト
- 第21回から29回 形容詞 / 命令文 / 近接未来と近接過去 / 疑問形容詞と疑問代名詞
- 第30回 中間テスト
- 第31回から39回 複合過去 / 単純未来 / 受動態 / 半過去
- 第40回 小テスト
- 第41回から49回 比較級 / 最上級 / 関係代名詞 / 代名動詞 / 現在分詞
- 第50回 小テスト
- 第51回から55回 総復習
- 第56回 期末テスト

〔講義のすすめ方〕

基本文を暗記することを重点に、フランス文化、パリのさまざまな姿をビデオ教材で見聞きし、簡単なフランス語の「聞き、話し、読み、書き」の練習をしていきます。

〔教 材〕

教科書『どこにいるの?』石井好一・他著 朝日出版社 2,500円+税  
辞書『パスポート』仏和・和仏小辞典 白水社 2,500円+税

〔成績評価の方法・基準〕

- 出席 授業中の態度 20%
- 授業中の小テスト 20%
- 中間テスト 30%
- 期末テスト 30%

〔履修のポイント・注意点〕

欠席、遅刻をしないこと 辞書をひくことをいとわず、予習、復習をしっかりとやり 授業に積極的に参加すること。

〔科目内容の位置付け〕

フランスの地理・歴史・文化・政治・経済を理解するのに役立つフランス語入門・導入的な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

英語の単語・文法の知識はフランス語の習得・理解におおいに役立つから活用すること。将来、旅行・ファッション・ジャーナリズム・出版・料理・芸術など文化関連の職業についた時に役立つ。

科目名	フランス語Ⅰ		
単位	4	開設	通年
教員名	Clemens Amann		

#### 〔講義目的〕

Bonjour という挨拶の言葉から出発して、この授業でフランス語の基礎を勉強します。話す、読む、聞く、書く、という外国語の4つの能力を養う。それと同時にフランスの日常生活への知識を深める。フランス語を通してヨーロッパの日常生活、EUなども紹介する。語彙と単語、文法項目を最低限に絞り、簡単な会話あるいは短い文章をもとにして、発音から簡単な文型までフランス語を身につけられるように勉強する。フランス語の発音は難しいという人が少なくないが最初から文字と音の関係に注意し、聞き取りで音を区別できるようにすることを心掛ければ、フランス語は分かりやすくなる。

#### 〔講義内容〕

自己紹介、自分の家族／友だちを紹介する、自分自身の日、人の外見、時間、天気などを述べる、フランスについて、また自国のことについても話す、さまざまなテーマに触れながら基本的なフランス語を使う。文法は語学に必要なが、文法のためにフランス語を勉強するわけではない。言いたいこと、聞きたいことをフランス語でどういう風に表現できるかということに、この授業は重点をおいている。

#### 〔講義のすすめ方〕

- 一すでに学んだ語彙と単語の復習
- 一会話や本文のプレゼンテーション：発音、単語と文型、日本語とフランス語の比較
- 一理解したかどうかを確認する
- 一会話中や本文中に出てきた単語と文型に関する練習問題
- 一その日学習したフランス語を応用する

#### 〔教材〕

教科書：未定  
辞書：未定

#### 〔成績評価の方法・基準〕

学年中6回のテスト：前期3回、後期3回  
出席回数  
授業中の努力  
評価の基準：出席／授業中の努力：40%

前期3回、後期3回の小テスト：60%

#### 〔履修のポイント・注意点〕

出席重視。遅刻厳禁。  
授業に積極的に参加することによって、外国語に興味を持つようになり、退屈せずに楽しく勉強できる。  
クラスの授業態度によっては名簿順の固定座席にする、または私語の多い学生を固定座席にすることもある。  
学生は各自が必ず自分のノートを作成すること。そのノートはテストのとき持ち込み可。

#### 〔科目内容の位置付け〕

フランス語への入門。語彙と単語、文法項目は全国で実施される仏語検定試験5級程度である。受験を希望する学生にアドバイスをし、試験準備を手伝う。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

フランス語Ⅱ、Ⅲ

科目名	スペイン語Ⅰ		
単位	4	開設	通年
教員名	高橋 節子		

#### 【講義目的】

- ①スペイン語が正しく発音できるようになること。
- ②スペイン語文法の初歩の初歩を学ぶこと（時制は現在形のみ、命令、再帰動詞など）
- ③単語を300前後覚えること。

#### 【講義内容】

スペイン語Ⅰはあくまでも入門で、本当の勉強はその後の選択科目としてのスペイン語Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを自主的に選択することから始まります。入門なので、単なる知識の詰め込みにならずに、スペイン語の全体像をつかみ、言語を学ぶとはどういうことなのかを語っていきたいと思っています。時間があれば、スペイン語のビデオを見たり、歌を聞かせる予定です。

#### 【講義のすすめ方】

- ①出席及び復習を兼ねた小テスト（成績には直接関係ありませんが参考にします）
- ②文法のポイントの説明
- ③単語の発音と意味
- ④例文の提示（すべて口頭で行います。みなさんはそれを聞き取って書いてください）
- ⑤プリントの練習問題
- ⑥西作文（スペイン語の作文）を黒板に書き検討する。
- ⑦ビデオを見て、重要表現を説明し、内容を検討する。

#### 【教 材】

プリントを使用します。プリントはきちんとまとめておくように各自工夫してください。また、聞き取りや口語的な表現にも慣れてもらうように、ビデオ教材（Viaje al Español）を平行して使用します。みなさんの読解力が上がってきたら会話部分の訳を宿題として課します。辞書はどれでもかまいませんが、最初の授業でいくつか紹介するつもりです。

#### 【成績評価の方法・基準】

良好な授業態度が評価の前提です。良好な授業態度が取れない学生は、成績評価の対象になりません。

- ①単語テストを3回実施し、9割以上を合格ラインとします。9割に達するまで何度でも追試を繰り返します。
- ②3課ごとに単元テストを10回実施します。平均6割以上を合格とします。追試は行いません。
- ③単語テストも単元テストも授業中に行いません。学期末の定期試験は実施しません。

授業内試験は回数が多いので大変そうですが、範囲が狭いのでそれほど負担にならないと思います。かえってしっかり復習ができるので、次の段階の足固めとなり、知らず知らずのうちに実力がついてくることとなります。

#### 【履修のポイント・注意点】

ここ数年、私語が目立ちます。私語は、他の学生が良好な授業環境で授業を受ける権利を侵害する行為です。悪質な場合には単位を認定しません。回数欠席するとすぐに分らなくなってしまいますので注意して下さい。単語の量がどんどん増えて行きます。授業中の例文はすべて口頭で与えられますから、単語が分からないと書き取ることもできなくなってしまいます。予習はする必要はありませんが、復習は必ずするようにして下さい。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

前提科目はありません。授業に出席し、ふつうに勉強していれば何ら問題のない授業内容です。興味のある人には、NHKのラジオ講座やテレビ講座をお勧めします。図書館にもスペイン語の視聴覚教材が置いてありますので利用して下さい。

#### 備考

高橋のホームページには過去の受講生の成績、授業を受けての感想、教材のプリント、試験内容、学習の手引きなどが載っていますので、参考にして下さい。

(<http://www.hakuoh.ac.jp/~takataka/>)

科目名	中国語Ⅰ		
単位	4	開設	通年
教員名	何 秋平		

#### 【講義目的】

1. 中国語の発音の勉強。
2. 簡単な中国語会話の訓練。
3. 基本的な中国語の文法を把握するための勉強。

#### 【講義内容】

1. 中国語の発音や音に関する勉強。
2. 生活に密接な関係のある単語の暗記。
3. 中国語の一般的な例文の解説。
4. 簡単な会話練習。具体的には自己紹介、あいさつ、買い物、電話をかける、道をたずねる、病院で医者に見てもらう時の話、本を借りるなどを含む。
5. 辞典を引きながら短い文章を読む能力を養成。

#### 【講義のすすめ方】

1. 発音の練習は指導の下でくり返して進めていきます。
2. テキスト中の会話や例文をよく読むことよって完全暗記。
3. 一年間の授業が終了の時にテキスト中の短い文章を読める。

#### 【教 材】

1. 《漢語レッスン》光生館
2. プリント、授業進行にあわせて配布。
3. 辞典《プログレッシブ中国語辞典》小学館

#### 【成績評価の方法・基準】

1. 定期試験（前後期）
2. 小テスト
3. 出席率
4. 中国語検定協会試験準四級合格者

#### 【履修のポイント・注意点】

1. 授業に遅刻なしで出席すること。
2. 個人が普段の練習を重視すること。
3. 授業後講義した内容をよく復習すること。  
また、授業前、講義する予定の部分をもつて目を通すこと。

#### 【科目内容の位置付け】

中国語学習の初級課程

科目名	ドイツ語Ⅱ		
単位	4	開設	通年
教員名	石川 悦久		

#### 〔講義目的〕

一応、ドイツ語Ⅰを履修した学生を対象にしますが、ドイツ語Ⅰでの既習文法事項のうち重要事項の復習、および補足を要すると思われる文法事項についての再説を組み入れながらドイツ語の更なる習得を図る。その上でドイツ語の平易な読み物、よく知られたドイツ歌曲にも触れるなどして、ドイツないしはドイツ文化の一端を垣間見られるようにしたいと考えている。

#### 〔講義内容〕

前半は、文法事項のついたレーゼブーフをテキストにして、ドイツ語基本文法を確認しつつドイツ語文章を読んでいく。その際、英語と比較してドイツ語に特徴的な点、例えばドイツ語発音、格変化、人称語尾変化、枠構造の文型等に留意しながらドイツ語の基本を再確認する。

後半は、読み物中心にドイツ語を通じてドイツ文化の一端に触れられるようにしたいと考えている。

#### 〔講義のすすめ方〕

前半は、原則的にテキストに即し適宜補足説明を加えていく。その際、発音重視の観点から、学生一人一人に単語・語句・語形変化・文章等を発音してもらいドイツ語の感覚を養ってもらう。かつ、小テスト形式を導入して、既習事項の筆記による確認を図る。

後半は、ドイツ語文章の解読を中心に、担当者を決めて訳読していき、適宜補足説明を加える。

#### 〔教材〕

テキストは改めて指示する。他の教材については適宜プリントを配布する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

平常点と試験の結果を総合的に考慮して評価する。語学は日頃の努力の観点から、出席状況と授業中の態度を重視する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

語学の修得は日々の努力の積み重ねである。したがって、欠席や遅刻は原則許されないものとする。出席状況を重視する所以である。既習

事項の復習に努めてもらいたい。そして、積極的に授業に参加してもらいたい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

一応ドイツ語Ⅰを終了し、更にドイツ語Ⅲに進むための中級程度レベル。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

更にドイツ語Ⅲに進み、より本格的にドイツおよびドイツ文化に触れるためにドイツ語Ⅲの履修が勧められる。

科目名	フランス語Ⅱ		
単 位	4	開 設	通年
教 員 名	Clemens Amann		

#### 〔講義目的〕

フランス語Ⅰで勉強した項目を掘り下げ、語彙と単語を増やし、初級のレベルを徹底的に身につける。『勉強したのに、どうして簡単なことさえ話せないのだろう』という疑問を持つ人が少なくない。それは知識の量に対して実際に話すトレーニングが少なすぎるからである。その問題を克服するため、まず自分が言いたいこと、あるいは表現したいことを考えてから、そのテーマに沿った授業の進め方をする。フランス語を実際に授業中に使い、表現できる範囲を広げる。

#### 〔講義内容〕

人の外見、嗜好、性格をのべる、住まいと日常の環境、フランスの街、地域、モード、食生活について話す、フランス人の意見、ライフスタイルなど、それぞれの授業に一つのテーマをあげる。そのテーマについて簡単なフランス語で話すことができるように、テーマに合わせて語彙と単語を復習し増やし、適切な文型を勉強する。

経験したことを語り、未来のこと、仮定することを言う、助言する、依頼する、コメント、さまざまな言語能力を実際の場面で使える授業をめざす。もちろん、フランス語で言えないこと、分からないことを伝える表現も学ぶ。

#### 〔講義のすすめ方〕

- 会話や本文のプレゼンテーション：テープ、ビデオ、文章、いずれかを通して紹介する
- 発音、単語と文型、日本語とフランス語の比較
- 内容、新しい単語を理解したかどうかを確認する：おおよその理解から詳しい理解へ
- 会話中や本文中に出てきた単語と文型に関する練習問題：理解から使用へ
- その日学習したテーマについて簡単なフランス語で話す、短い文を書く

#### 〔教 材〕

主な教材はプリントを配る

教科書：未定

辞 書：授業中説明する

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席回数

授業中の努力

週に一回だけの授業なので、宿題が復習のために欠かせない。

評価の基準：出席／授業中の努力：60%

宿題：40%

#### 〔履修のポイント・注意点〕

フランス語だけではなく、外国語は耳と口を通して学び、下手か、上手かは別にして、通じるように話してみると違和感を越えることができる。積極的にフランス語を話して、間違っても、通じればよいという考えをもってください。(間違ったところは書くとき、宿題のとき直すことができる)

ノートと単語帳を作成する。

#### 〔科目内容の位置付け〕

入門から初級に。語彙と単語、または文法項目は全国で実施されている仏検定試験4級にでてくる問題をカバーする。受験を希望する学生には適切なアドバイスをし、試験準備を手伝う。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

フランス語 Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ

科目名	スペイン語Ⅱ		
単位	4	開設	通年
教員名	高橋 節子		

#### 【講義目的】

- ①多少長い文でもすらすら読めるようになること
- ②スペイン語文法の基礎を修得すること
- ③単語の量を増やすこと

スペイン語Ⅰでは初歩の初歩しか扱っていませんので、スペイン語Ⅰを終了した方はできるだけスペイン語Ⅱも受講して、スペイン語の基礎を学んでほしいと思います。若い時に自主的に学んだ知識は、たとえ忘れてしまったようでも脳の深い部分に残っているものです。

#### 【講義内容】

スペイン語Ⅰで学んだ時制は現在形だけでしたが、スペイン語Ⅱでは残りの時制（点過去、線過去、現在完了、等）を重点的に学んでいきます。時制の数が多く、活用も複雑になるのでマスターするのに苦労すると思いますが、少しずつ習得していきましょう。

コミュニケーション能力の大部分は実は単語量で決まります。基礎語彙の500語をマスターすれば辞書を引く回数が半減して、語学のおもしろさが見えてきます。スペイン語では頻度数上位1000語で81.0%が理解可能ですから、初心者には文法よりもむしろ単語の習得に励んだ方がいいという意見もあるくらいです。授業では、単語の習得を目的とした問題もたくさん出す予定です。

#### 【講義のすすめ方】

- ①出席と復習を兼ねた小テスト
- ②グループ内で、小テストの答え合わせ
- ③文法のポイントの説明
- ④単語の学習
- ⑤ビデオを見てどのような状況で会話が交わされているかを理解する。
- ⑥読みの練習
- ⑦グループ内で、意味の確認
- ⑧練習問題
- ⑨次回予定のビデオを見て、どのような状況で会話が交わされているのかだいたい理解し、予習の際の参考にする。

#### 【教材】

昨年副教材として使用したビデオ教材の続き

を使います。この教材は量が多いので、文法的に重要な項目を扱っている課を中心に授業を進めて行きます。初心者にとって予習は難しいこともありますので、文法事項の説明、意味のヒント、練習問題などをつけたプリントを用意します。それを参考にしながら予習をしてきてください。意味の確認はグループ単位で行います。三人くらいで一つのグループを作り、お互いの予習内容を検討しながら意味の確認をしてもらいます。

#### 【成績評価の方法・基準】

- ①良好な授業態度が評価の前提です。良好な授業態度が取れない学生は、成績評価の対象にはなりません。
- ②基本的には予習をしてきたかどうかで合否を決定します。それ以外に、授業開始時に行う小テストの成績を判断材料とします。

#### 【履修のポイント・注意点】

例年、少人数の授業なので、和気あいあいとした楽しい雰囲気での授業になります。昨年は、経営学部4名、法学部5名、発達科学部1名、その他3名、という構成でした。

予習は必須です。予習をしてこないグループ内での貢献度がゼロになります。

#### 【科目内容の位置付け】

昨年度スペイン語Ⅰを終了した人が主な対象者となりますが、以前スペイン語Ⅰを終了してブランクがある人も歓迎します。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

前提科目はスペイン語Ⅰ。ただし、スペイン語Ⅰが未修得でもラジオ講座などで知識を補っていきなりスペイン語Ⅱを受講してもかまいません。

#### 備考

高橋のホームページには過去の受講生の成績、授業を受けての感想、教材のプリント、試験内容、学習の手引きなどが載っていますので、参考にして下さい。

(<http://www.hakuoh.ac.jp/~takataka/>)

科目名	中国語Ⅱ		
単位	4	開設	通年
教員名	平木 真快		

#### 〔講義目的〕

本講は、①中級文法を理解する②中国の新聞・雑誌を独力で読解する能力を養う、以上2項目を達成することを目的とする。

#### 〔講義内容〕

語学は中級から俄然面白くなる、というのが私の持論。

質：深みのある内容、複雑な文法構造。

量：予習のし甲斐のある分量。

質量ともに、存在感のある内容を読解する快感に酔おうではないか。

#### 〔講義のすすめ方〕

全員起立・礼→出欠→音読→簡化字を常用漢字に変換する→和訳→文法解釈→全員起立・礼。

#### 〔教材〕

中級読物・中国児童読物選、大内田三郎編  
白帝社 ￥1,400

#### 〔成績評価の方法・基準〕

(試験成績が70%) + (出欠が25%)  
+ (ノート成績が5%) = 100%  
綜合成績60点以上を合格とする。  
テストは年間2回実施する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

- (1) 履修要領：
- ①原文と発音記号をノートに写す。
  - ②辞典を頼りに、自力で和訳する。訳せなくても無理に訳して下さい。
  - ③授業中に、誤訳の訂正及び加筆をする。
- (2) 注意事項：
- ①授業は定刻開始。
  - ②点呼の際、返事なき者は欠席とする。
  - ③遅刻3回＝欠席1回。
  - ④教室での着帽・授業中の飲食・私語は非常識。

#### 〔科目内容の位置付け〕

外国語は、関連学科の基礎を成すものであって、これ無くしては研究を主体的に展開することはできない。道具としての語学をマスターする方法は2つある。

- ①頭を使う：単語の意味と発音を確認してから、文の構造を分析する。
- ②手を使う：理解したことは文字化しなさい。沢山書けば書いていただけ力はつく。

語学は量だ。沢山読んで、聞いて、書いて、口を動かし、マメに辞書をひいて下さい。

#### 〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

- (1) 前提科目：日本語。  
母国語の習得に限りない興味を抱かない者は、外国語の学習に向かない。母国語に対する言語感覚の鋭さは、外国語の上達に比例する。
- (2) 関連科目：学術・芸術・実用の諸知識等全域に及ぶ。

科目名	ドイツ語Ⅲ		
単 位	4	開 設	通年
教 員 名	石川 悦久		

〔講義目的〕

ドイツ語Ⅱまで履修した学生を対象とするが、基本文法は異文化の問題としてどこまでも付きまとう難解さを秘めている。そこで随時文法説明を補足するが、主眼はドイツ語原文を通じて直接ドイツおよびドイツ文化の一端に触れることにある。

ドイツ文化の誇る文学、音楽、哲学、思想等枚挙にいとまない諸分野のうちからいくつかを取り上げ、ドイツ語原文を通じてその発想法に直接触れることを心がけたい。

なおドイツ音楽特にバッハとモーツァルトをこよなく愛する担当者の趣味が入るが、カンタータやオペラの一節を教材として使うことも考えている。

〔講義内容〕

今年度は、ドイツ文学と哲学・思想にわたる著名文の誉れ高いニーチェの『ツアラトゥストラはこう語った』を初めからじっくりとドイツ語原文で味わいます。

内容的にはドイツのみならず背景としての近現代のヨーロッパの思想文化の問題にも触れられ、格好の読み物の一つだと考えられます。内容説明を織り交ぜながら、じっくりと取り組んで行きたいと思えます。

ちなみに日本語訳も多数出ています。

別案として、ドイツ政府に公開の『ドイツの実情』をテキストに、今日のドイツの実情に触れることも考えている。授業参加者の希望によりテキスト変更も考えられる。

〔講義のすすめ方〕

原則的に担当者を決めてテキストを訳読し、適宜補足説明を加えていく。その際、内容により自由討論や意見交換をすることも考えられる。

ただし、必要に応じては適宜重要文法単元の補足をしていくつもりでもある。

〔教 材〕

テキスト：Fr. Nietzsche, Also sprach Zarathustra, Hanser

翻 訳：岩波文庫・中公文庫他多数あり

テキストを含め、その他の教材については適宜プリントを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

原則的に試験は行なわない。語学は日頃の努力の観点から、出席状況と授業中の態度を重視する。平常授業の参加度を重視し総合的に考慮して評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

授業に欠席せず、訳読担当分の準備に励み、授業に積極的に参加してもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕

ドイツ語Ⅱを発展させて更に上級レベルを目指すものであるが、語学学習の観点を超えて更に法律・政治・歴史・哲学・文学等への橋渡しになるものと位置づけたい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

語学としては、ドイツ語Ⅱまで履修した学生を対象とするが、内容的には、思想、文学、歴史、哲学、比較文化等などにも関連する。

科目名	フランス語Ⅲ		
単位	4	開設	通年
教員名	Clemens Amann		

**〔講義目的〕**

フランス語Ⅰ、Ⅱでは会話と文法の勉強が中心になりますが、フランス語Ⅲ、Ⅳの目標は『フランスの日常生活を本場からの資料をもとにして見る、聞く、読む』ことです。具体的に言うとフランス地域、フランス人の生活を表す短いビデオ番組あるいはフランスからのオリジナルな資料を通してフランスの“今”をさまざまな見地から紹介したいと思います。

**〔講義内容〕**

フランスの地域（地理、名物、有名人）、フランス人のライフスタイル、日常生活（仕事、レジャー、モード、社会問題など）について本場で撮ったビデオ、またはフランス人とのインタビューなどを紹介します。すでに決まった内容以外には、この授業に参加する学生にアンケートをとって、アンケートの結果に従ってテーマを選びます。

**〔講義のすすめ方〕**

短いビデオ／本場の資料を呈示して、主な内容を聞き取りで紹介し（聞き取りの案内書があります）。次にもっと細かくその内容を発見／理解できるように単語、キーワード、表現をまとめて、聞き取れなかった部分、新しい語彙と単語の意味を自ら調べることが出来ます。それから話の内容についての質問、読解練習、簡単なフランス語で答える応用練習もあります。

**〔教材〕**

プリント配布  
辞書については授業中説明する

**〔成績評価の方法・基準〕**

出席、授業中の積極的な参加、毎回の宿題

**〔履修のポイント・注意点〕**

学生達は自ら、できればチームワークで外国からの資料を調べたり、日本とは似ているところ、異なっているところを把握することです。

自分の意見や感想を簡単なフランス語で述べたり書いたりします。

**〔科目内容の位置付け〕**

外国の資料を理解、分析しながら比較文化の知識、考え方を深める。資料から社会的な意味を読みとらえる。「読解」

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

フランス語Ⅰ、Ⅱ

科目名	スペイン語Ⅲ		
単位	4	開設	通年
教員名	高橋 節子		

#### 〔講義目的〕

スペイン語文法の基礎を一通り終了し、さらに学習を続けたい人のための講座です。

具体的には

- ①長い文がすらすらと読めるようにすること
- ②重要な文法事項の復習・定着
- ③語彙を増やし定着させることを目標とします。

#### 〔講義内容〕

- ①文法事項（特に動詞の活用）の説明
- ②語彙の説明
- ③スペイン語を読んで理解する。

#### 〔講義のすすめ方〕

1. ビデオを用いる場合（スペイン語Ⅱの講義の進め方参照）
2. テキストを用いる場合
  - ①出席と復習を兼ねた小テスト
  - ②グループ内で小テストの答え合わせ
  - ③文法のポイントの説明
  - ④単語の発音と意味
  - ⑤読みの練習
  - ⑥グループ内でテキストの意味を検討する。

#### 〔教 材〕

前期はスペイン語Ⅱで使用したビデオ教材の続きを勉強する予定です。

後期はスペイン語学習者用に書き下ろされた探偵小説を読む予定です。これは語彙が厳選されていますので、単語の量を増やすにはもってこいだと思います。

そのつどプリントを配布しますので、もしやむを得ない事情で欠席する場合には、次の授業時までには研究室に取りにきて下さい。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

良好な授業態度が評価の前提です。良好な授業態度が取れない学生は、成績評価の対象にはなりません。

基本的には予習してきたかどうかで合否を決定します。それ以外に、授業開始時に行う小テストの成績を判断材料とします。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

例年、少人数の授業なので、和気あいあいとした雰囲気の中で充実した授業になります。昨年は、経営学部8名、法学部5名、発達科学部1名の参加でした。内2名は、出席不良で途中で脱落しました。（4年生が多いので、就職活動の影響で出席がおもわしくない場合があります。）

週一回と語学の授業としては大変少ない回数しかないので、予習が非常に重要になります。予習をせずに授業に臨んで日本語の訳だけ分かって、それはもはやスペイン語の勉強とは言えません。予習は場合によっては難しいこともありますので、文法事項の説明、意味のヒント、練習問題などをつけたプリントを用意します。それを参考にしながら予習をしてきてください。意味の確認はグループ単位で行います。三人くらいで一つのグループを作り、お互いの予習内容を検討しながら意味の確認をしてもらいます。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目はスペイン語Ⅰ。スペイン語Ⅱは終了していることが望ましいのですが、終了してなくても自分である程度補えば理解可能な内容にするつもりです。また、スペイン語Ⅱを履修した後ブランクがある人も歓迎します。ちなみに、昨年は、まったくのスペイン語初心者がいきなり参加して、他のメンバーに助けられながらがんばっていました。

#### 備考

高橋のホームページには過去の受講生の成績、授業を受けての感想、教材のプリント、試験内容、学習の手引きなどが載っていますので、参考にして下さい。

(<http://www.hakuoh.ac.jp/~takataka/>)

科目名	中国語Ⅲ		
単位	4	開設	通年
教員名	平木 真快		

#### 【講義目的】

本講は、①中級文法を理解する②中国の新聞・雑誌を独力で読解する能力を養う、以上2項目を達成することを目的とする。

#### 【講義内容】

語学は中級から俄然面白くなる、というのが私の持論。

質：深みのある内容、複雑な文法構造。

量：予習のし甲斐のある分量。

質量ともに、存在感のある内容を読解する快感に酔おうではないか。

#### 【講義のすすめ方】

全員起立・礼→出欠→音読→簡化字を常用漢字に変換する→和訳→文法解釈→全員起立・礼。

#### 【教 材】

中級読物・中国児童読物選、大内田三郎編、白帝社 ￥1,550

#### 【成績評価の方法・基準】

(試験成績が70%) + (出欠が25%)  
+ (ノート成績が5%) = 100%  
総合成績60点以上を合格とする。  
テストは年間2回実施する。

#### 【履修のポイント・注意点】

- (1) 履修要領：
- ①原文と発音記号をノートに写す。
  - ②辞典を頼りに、自力で和訳する。訳せなくても無理に訳して下さい。
  - ③授業中に、誤訳の訂正及び加筆をする。
- (2) 注意事項：
- ①授業は定刻開始。
  - ②点呼の際、返事なき者は欠席とする。
  - ③遅刻3回=欠席1回。
  - ④教室での着帽・授業中の飲食・私語は非常識。

#### 【科目内容の位置付け】

外国語は、関連学科の基礎を成すものであって、これ無くしては研究を主体的に展開することはできない。道具としての語学をマスターする方法は2つある。

①頭を使う：単語の意味と発音を確認してから、文の構造を分析する。

②手を使う：理解したことは文字化しなさい。沢山書けば書いてただけ力はつく。

語学は量だ。沢山読んで、聞いて、書いて、口を動かし、マメに辞書をひいて下さい。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

- (1) 前提科目：日本語。  
母国語の習得に限らない興味を抱かない者は、外国語の学習に向かない。  
母国語に対する言語感覚の鋭さは、外国語の上達に比例する。
- (2) 関連科目：学術・芸術・実用の諸知識等全域に及ぶ。

科目名	ドイツ語Ⅳ		
単 位	4	開 設	通年
教 員 名	石川 悦久		

#### 〔講義目的〕

ドイツ語Ⅱまで履修した学生を対象とするが、基本文法は異文化の問題としてどこまでも付きまとう難解さを秘めている。そこで随時文法説明を補足するが、主眼はドイツ語原文を通じて直接ドイツおよびドイツ文化の一端に触れることにある。

ドイツ文化の誇る文学、音楽、哲学、思想等枚挙にいとまない諸分野のうちからいくつかを取り上げ、ドイツ語原文を通じてその発想法に直接触れることを心がけたい。

なおドイツ音楽特にバッハとモーツァルトをこよなく愛する担当者の趣味が入るが、カンタータやオペラの一節を教材として使うことも考えている。

#### 〔講義内容〕

今年度は、ドイツ文学と哲学・思想にわたる著名文の誉れ高いニーチェの『ツァラトゥストラはこう語った』を初めからじっくりとドイツ語原文で味わいます。

内容的にはドイツのみならず背景としての近現代のヨーロッパの思想文化の問題にも触れられ、格好の読み物の一つだと考えられます。内容説明を織り交ぜながら、じっくりと取り組んで行きたいと思えます。

ちなみに日本語訳も多数出ています。

別案として、ドイツ政府公開の『ドイツの実情』をテキストに、今日のドイツの実情に触れることも考えている。授業参加者の希望によりテキスト変更も考えられる。

#### 〔講義のすすめ方〕

原則的に担当者を決めてテキストを訳読し、適宜補足説明を加えていく。その際、内容により自由討論や意見交換をすることも考えられる。

ただし、必要に応じては適宜重要文法単元の補足をしていくつもりでもある。

#### 〔教 材〕

テキスト：Fr. Nietzsche, Also sprach Zarathustra, Hanser

翻 訳：岩波文庫・中公文庫他多数あり

テキストを含め、その他の教材については適宜プリントを配布する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

原則的に試験は行なわない。語学は日頃の努力の観点から、出席状況と授業中の態度を重視する。平常授業の参加度を重視し総合的に考慮して評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

授業に欠席せず、訳読担当分の準備に励み、授業に積極的に参加してもらいたい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

ドイツ語Ⅱを発展させて更に上級レベルを目指すものであるが、語学学習の観点を超えて更に法律・政治・歴史・哲学・文学等への橋渡しになるものと位置づけたい。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

語学としては、ドイツ語Ⅱまで履修した学生を対象とするが、内容的には、思想、文学、歴史、哲学、比較文化等などにも関連する。

科目名	フランス語Ⅳ		
単位	4	開設	通年
教員名	Clemens Amann		

#### 【講義目的】

フランス語Ⅰ、Ⅱでは会話と文法の勉強が中心になりますが、フランス語Ⅲ、Ⅳの目標は『フランスの日常生活を本場からの資料をもとにして見る、聞く、読む』ことです。具体的に言うとフランス地域、フランス人の生活を表す短いビデオ番組あるいはフランスからのオリジナルな資料を通してフランスの“今”をさまざまな見地から紹介したいと思います。

#### 【講義内容】

フランスの地域（地理、名物、有名人）、フランス人のライフスタイル、日常生活（仕事、レジャー、モード、社会問題など）について本場で撮ったビデオ、またはフランス人とのインタビューなどを紹介します。すでに決まった内容以外には、この授業に参加する学生にアンケートをとって、アンケートの結果に従ってテーマを選びます。

#### 【講義のすすめ方】

短いビデオ／本場の資料を呈示して、主な内容を聞き取りで紹介します。（聞き取りの案内書があります）

次にもっと細かくその内容を発見／理解できるように単語、キーワード、表現をまとめて、聞き取れなかった部分、新しい語彙と単語の意味を自ら調べることが出来ます。それから話の内容についての質問、読解練習、簡単なフランス語で答える応用練習もあります。

#### 【教材】

プリント配布  
辞書については授業中説明する

#### 【成績評価の方法・基準】

出席、授業中の積極的な参加、毎回の宿題

#### 【履修のポイント・注意点】

学生達は自ら、できればチームワークで外国からの資料を調べたり、日本とは似ているところ、異なっているところを把握することです。自分の意見や感想を簡単なフランス語で述べて書いたりします。

#### 【科目内容の位置付け】

外国の資料を理解、分析しながら比較文化の知識、考え方を深める。資料から社会的な意味を読みとらえる。「読解」

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

フランス語Ⅰ、Ⅱ

科目名	スペイン語Ⅳ		
単 位	4	開 設	通年
教 員 名	高橋 節子		

#### 【講義目的】

スペイン語文法の基礎を一通り終了し、さらに学習を続けたい人のための講座です。

具体的には

- ①長い文がすらすらと読めるようにすること
- ②重要な文法事項の復習・定着
- ③語彙を増やし定着させることを目標とします。

#### 【講義内容】

- ①文法事項（特に動詞の活用）の説明
- ②語彙の説明
- ③スペイン語を読んで理解する。

#### 【講義のすすめ方】

1. ビデオを用いる場合（スペイン語Ⅱの講義の進め方参照）
2. テキストを用いる場合
  - ①出席と復習を兼ねた小テスト
  - ②グループ内で小テストの答え合わせ
  - ③文法のポイントの説明
  - ④単語の発音と意味
  - ⑤読みの練習
  - ⑥グループ内でテキストの意味を検討する。

#### 【教 材】

前期はスペイン語Ⅱで使用したビデオ教材の続きを勉強する予定です。

後期はスペイン語学習者用に書き下ろされた探偵小説を読む予定です。これは語彙が厳選されていますので、単語の量を増やすにはもってこいだと思います。

そのつどプリントを配布しますので、もしやむを得ない事情で欠席する場合には、次の授業時まで研究室に取りにきて下さい。

#### 【成績評価の方法・基準】

良好な授業態度が評価の前提です。良好な授業態度が取れない学生は、成績評価の対象にはなりません。

基本的には予習をしてきたかどうかで合否を決定します。それ以外に、授業開始時に行う小テストの成績を判断材料とします。

#### 【履修のポイント・注意点】

例年、少人数の授業なので、和気あいあいとした雰囲気の中で充実した授業になります。昨年は、経営学部8名、法学部5名、発達科学部1名の参加でした。内2名は、出席不良で途中で脱落しました。（4年生が多いので、就職活動の影響で出席がおもわしくない場合があります。）

週一回と語学の授業としては大変少ない回数しかないので、予習が非常に重要になります。予習をせずに授業に臨んで日本語の訳だけ分かって、それはもはやスペイン語の勉強とは言えません。予習は場合によっては難しいこともありますので、文法事項の説明、意味のヒント、練習問題などをつけたプリントを用意します。それを参考にしながら予習をしてきてください。意味の確認はグループ単位で行います。三人くらいで一つのグループを作り、お互いの予習内容を検討しながら意味の確認をしてもらいます。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

前提科目はスペイン語Ⅰ。スペイン語Ⅱは終了していることが望ましいのですが、終了してなくても自分である程度補えば理解可能な内容にするつもりです。また、スペイン語Ⅱを履修した後ブランクがある人も歓迎します。ちなみに、昨年は、まったくの初心者がいきなり参加して、他のメンバーに助けられながらがんばっていました。

#### 備考

高橋のホームページには過去の受講生の成績、授業を受けての感想、教材のプリント、試験内容、学習の手引きなどが載っていますので、参考にして下さい。

(<http://www.hakuoh.ac.jp/~takataka/>)

科目名	中国語Ⅳ		
単位	4	開設	通年
教員名	平木 真快		

### 【講義目的】

本講は、①中級文法を理解する②中国の新聞・雑誌を独力で読解する能力を養う、以上2項目を達成することを目的とする。

### 【講義内容】

語学は中級から俄然面白くなる、というのが私の持論。

質：深みのある内容、複雑な文法構造。

量：予習のし甲斐のある分量。

質量ともに、存在感のある内容を読解する快感に酔おうではないか。

### 【講義のすすめ方】

全員起立・礼→出欠→音読→簡化字を常用漢字に変換する→和訳→文法解釈→全員起立・礼。

### 【教材】

中級読物・中国児童読物選、大内田三郎編、白帝社 ￥1,550

### 【成績評価の方法・基準】

(試験成績が70%) + (出欠が25%)  
+ (ノート成績が5%) = 100%  
綜合成績60点以上を合格とする。  
テストは年間2回実施する。

### 【履修のポイント・注意点】

- (1) 履修要領：
- ①原文と発音記号をノートに写す。
  - ②辞典を頼りに、自力で和訳する。訳せなくても無理に訳して下さい。
  - ③授業中に、誤訳の訂正及び加筆をする。
- (2) 注意事項：
- ①授業は定刻開始。
  - ②点呼の際、返事なき者は欠席とする。
  - ③遅刻3回＝欠席1回。
  - ④教室での着帽・授業中の飲食・私語は非常識。

### 【科目内容の位置付け】

外国語は、関連学科の基礎を成すものであって、これ無くしては研究を主体的に展開することはできない。道具としての語学をマスターする方法は2つある。

①頭を使う：単語の意味と発音を確認してから、文の構造を分析する。

②手を使う：理解したことは文字化しなさい。沢山書けば書いていただけ力はつく。

語学は量だ。沢山読んで、聞いて、書いて、口を動かし、マメに辞書をひいて下さい。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

- (1) 前提科目：日本語。  
母国語の習得に限りない興味を抱かない者は、外国語の学習に向かない。  
母国語に対する言語感覚の鋭さは、外国語の上達に比例する。
- (2) 関連科目：学術・芸術・実用の諸知識等全域に及ぶ。

科目名	歴史学A		
	歴史とは何か		
単位	2	開設	前期
教員名	村尾 元忠		

### 〔講義目的〕

歴史とは何か。歴史は何を目的としているのか。歴史を学ぶということはどのような意味があるのか。こうした疑問に対して、先人達はそのようなことを考えていたかを知り、自らの歴史の見方を育てることを目的とする。

### 〔講義内容〕

歴史の父と云われるヘロドトスを始めとする古代中世の歴史家達を紹介すると共に、その歴史の見方についての概略を述べる。話題にする歴史家達は、ヘロドトス、トゥキュディデス、ポリュビオス、リヴィウス、司馬遷、慈円、アウグスティヌス、イブン＝ハルドウン、マキャベツリなどである。

### 〔講義のすすめ方〕

- 1、講義のすすめ方（講義概要と評価方法など）・・・1回
- 2、歴史は偶然か必然か・・・2回
- 3、歴史は繰り返す・・・2回
- 4、歴史は鑑である・・・3回
- 5、王朝は興亡する・・・2回
- 6、歴史は歩み降る・・・2回
- 7、人類救済史観・・・1回
- 8、ヴィルトウは不滅・・・1回

### 〔教材〕

特に教材は使わない。参考図書は必要に応じて講義中に紹介する。

### 〔成績評価の方法・基準〕

項目のぎりの良いところで講義ノートの整理を目的とした小レポートを課す。この小レポートは4回あるいは5回行う。成績評価はこの小レポートの提出回数と整理の仕方によって行う。整理の仕方の巧拙は講義内容の理解度を示すと考える。期末の試験は行わない。

### 〔履修のポイント・注意点〕

普段は「歴史とは何か」などということは考えて見ないかもしれない。この機会に、自ら歴史を創ることに参加している者として、自らにその問いを発してみることが重要である。そして、より深く考えていた先人達の言葉に接し

て、少しでも自らを高めてみよう。演習ではないが、期末の試験やレポートで評価するスタイルをとらないので、ともかく、出席して講義を聴くことが重要である。

### 〔科目内容の位置付け〕

これは人文科学としての歴史学である。教養を高めるといことは人間性を高めるといことである。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

高等学校の世界史を選択していれば馴染みのある人名や事件が出てくるが、これは必ずしも受講の前提ではない。この講義で馴染めばよいことである。関連科目については、「他の学問は歴史学の材料に過ぎない」（14世紀イスラムの歴史家イブン＝ハルドウン）という言葉で言い尽くされている。

科目名	歴史学B		
	歴史とは何か		
単 位	2	開 設	後期
教 員 名	村尾 元忠		

#### 【講義目的】

歴史とは何か。歴史は何を目的としているのか。歴史を学ぶということとはどのような意味があるのか。こうした疑問に対して、先人達はどのようなことを考えていたかを知り、自らの歴史の見方を育てることを目的とする。

#### 【講義内容】

ヨーロッパの近代はルネサンスに端を発するといえよう。それはキリスト教社会に於いて、歴史を神の証から人間の営みへと意識を変えることであり、人間的合理性の追求へと視点を移すことであった。ここでは、ヴォルテール、モンテスキュー、ヘルダー、ニーブーア、ヘーゲル、ランケ、モムゼン、ドロイゼン、ブルクハルト、マルクス、マックスウェバーなどの先達を話題にする。中には歴史家というより哲学者である人達も含まれるが、歴史の世紀といわれる19世紀のヨーロッパを語るには、哲学の分野からの発言を避けるわけにはいかないのである。ただ、あくまで概論として触れるにとどめる。

#### 【講義のすすめ方】

講義は概ね以下の順番に従って進めていく。

- 1、序説（講義概要及び評価方法など）・・・1回
- 2、民族の一般精神・・・1回
- 3、野蛮から文明へ・・・1回
- 4、人間性の発展・・・1回
- 5、認識の学・・・1回
- 6、全ては理性が支配する・・・1回
- 7、愛と共感・・・1回
- 8、歴史叙述は芸術である・・・1回
- 9、過去が明るくなるのではない・・・1回
- 10、自分自身の精神の発見・・・1回
- 11、自然環境が歴史を決定する・・・2回
- 12、最終社会への前史・・・1回
- 13、歴史は経済の流出物ではない・・・1回

#### 【教 材】

特に教材は使わない。参考図書類は必要に応じて講義中に紹介する。

#### 【成績評価の方法・基準】

項目のきりの良いところで講義ノートの整理を目的とした小レポートを課す。小レポートは4回あるいは5回を予定している。纏め方の巧拙は理解度の深浅である。それによって成績を評価する。期末の試験は行わない。

#### 【履修のポイント・注意点】

普段は「歴史とは何か」などということは考えてもみないかもしれない。この機会に、自ら歴史を創ることに参加している者として、自らにその問いを発してみることが重要である。そして、より深く考えていた先人達の言葉に接して少しでも自らを高めてみよう。演習ではないが試験で評価するスタイルをとらないので、出席して講義を聴くこと。

#### 【科目内容の位置付け】

これは人文科学としての歴史学である。教養を高めるということは人間性を高めるということである。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

高等学校の世界史を選択していれば馴染みのある人名や事件が出てくるが、これは必ずしも暫定ではない。この講義で馴染めばよいことである。関連科目については「他の学問は歴史学の材料に過ぎない」（14世紀イスラムの歴史家イブン＝ハルドゥン）という言葉で言い尽くされている。

科目名	日本史概論		
	古代から中世へ		
単位	2	開設	前期
教員名	村尾 元忠		

#### 〔講義目的〕

日本歴史の通史を試みる。通史といふのは、一般に重要と考へられてゐることを列挙するのではなく、講述者がその時代相を語るに必要と思はれることを重点的に取上げて解説するものである。それによつて時代の特徴がより鮮明になる。受講者には日本文化への認識を高めてもらうことが目的である。

#### 〔講義内容〕

武士という存在は一面では盗人と同じ世界に住んでいる。盗人の事件が常態化すると武士という存在もまた常態化するのである。社会はこの武士を社会秩序の中に取り込むことによって新しい社会秩序へ変化していく。それが古代から中世への変化である。この講義ではその変化の過程を追おうとするのである。

#### 〔講義のすすめ方〕

概ね以下の項目を主題として講義をすすめる。

- 1、序説（講義概要及び評価方法など）  
・・・1回
- 2、今昔物語の中の盗人達・・・2回
- 3、群盗事件・・・2回
- 4、東国群盗・・・1回
- 5、承平天慶の乱・・・1回
- 6、兵の家・・・1回
- 7、前九年・後三年の役・・・2回
- 8、保元平治の乱・・・1回
- 9、尼将軍・・・2回
- 10、蒙古襲来・・・2回

#### 〔教材〕

特に定めない。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

期末のレポートによる。レポートの評価基準は、様式に従っているか30%、論旨の整合性30%、内容の深淺40%の配分とする。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

私の語る日本史である。従つて私の見方を知らうとする、といふ受講姿勢が大事である。

#### 〔科目内容の位置付け〕

人文科学と位置づける。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

受講には高等学校の日本史の知識があれば充分である。関連科目については「他の学問は歴史学の材料に過ぎない」（14世紀イスラムの歴史家イブンニハルドゥーン）という言葉で言い尽くされている。

科目名	外国史概論		
	ドイツ近代史再考		
単位	2	開設	前期
教員名	浅田 進史		

#### 【講義目的】

本講義は18世紀から第一次世界大戦までのドイツ近代史を扱う。近年、ドイツ歴史学界では、従来のドイツ一国的なアプローチが批判され、「トランスナショナル」な視点からの歴史研究が目指されるようになってきている。なかでもヨーロッパ内の社会がヨーロッパ外の世界と接触するなかで変容していく相互作用のプロセスを重視した関係史的な視点から、ドイツにおける近代経験が分析されている。本講義は、そのような新たな研究動向を踏まえ、ドイツ近代史を軸としながらも、その歴史を世界史的な視点から論じるものである。

#### 【講義内容】

1. 問われるドイツ近代史像
2. ドイツの啓蒙と新世界
3. 向こう岸からみた1848年革命
4. 「ドイツ国民」への問い
5. ドイツ帝国の創建
6. 植民地帝国の形成
7. 帝国の経済と社会
8. アフリカとドイツ帝国
9. アジアとドイツ帝国
10. 第一次世界大戦

#### 【講義のすすめ方】

通常の講義形式ですすめていく。

#### 【教材】

参考文献は各講義で指示するが、さしあたり若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史——18世紀から現代まで』（ミネルヴァ書房、2005年）を挙げておく。

#### 【成績評価の方法・基準】

講義中にテーマにそくしたアンケートおよび課題を指示する。成績評価にあたっては、この課題の達成度に加え、学期末に実施する定期試験の成績を主とする。講義の欠席が多い受講者は失格とする。

#### 【履修のポイント・注意点】

18世紀以降のドイツ近代史が本講義の中心となるが、ドイツ国内の動向だけに焦点をあて

るのではなく、むしろドイツ国内の動きと同時代の世界の動きの関連に焦点をあてていく。受講生は、本講義で解説する歴史的事象を大きな世界史の流れのなかで把握することが求められる。

#### 【科目内容の位置付け】

この講義は、近年のドイツ史研究の成果を踏まえたものであり、受講生にとっては新たな知見に多く触れることになるだろう。しかし、そのようなドイツにおける新しい歴史研究の成果も、日本を含めた世界の歴史研究の流れのなかにある。本講義を受講することによって、ドイツ以外の地域の歴史を見る眼も養われるだろう。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

歴史方法論としての歴史学A・B、また専門科目の西洋政治史の受講が推奨される。

科目名	地理学A		
	自然環境と人々の暮らし		
単位	2	開設	前期
教員名	奥澤 信行		

### 〔講義目的〕

「地理学」と聞いただけで、中学校での地名や統計の暗記に終始した「地理」学習から、無味乾燥な科目と考えている諸君も多いことと思う。また高校で「地理」を履修する機会を得られずに、その面白さを知らずに現在に至っている学生もいるであろう。しかし「地理学」は、地表面でみられる自然事象や社会事象を多方面から分析することにより、その事象の展開される空間（地域）の特殊性を明らかにした上で、その成立要因を考察することを目的としており、決して暗記のみで理解できる学問ではない。本講では「地域の存立要因は何か？」ということを中心に念頭に置きながら、地理学的なものの方・考え方を論じてみたい。

### 〔講義内容〕

#### I 地理学とは？

- ①自然地理学と人文地理学
- ②面的スケールの捉え方と地図

#### II 自然環境

- ①生活舞台としての平野
- ②世界の気候区分と人々の生活

#### III 人口問題

- ①分布・構成と移動
- ②地球規模での人口問題
- ③わが国の人口問題

#### IV 村落の変容

- ①形態と機能による分類
- ②近隣都市と村落の関係

### 〔講義のすすめ方〕

授業内容の順に従って講義を行うが、地理学で扱う事象は、日々刻々変化するので、最新の話題を取り上げる場合には、若干前後することがある。

### 〔教 材〕

教科書は特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書 「地理学の見方・考え方」 日本大学地理学教室編 古今書院

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席状況と定期試験の成績で評価する。毎時

間出席カードを配布するが、これを点数化するので、出席が評価に影響を及ぼすことになる。また学生諸君の所持するIDカードによる出席も併せて利用するが、出席カードとの間に差異が生じた場合には、出席カードによるデータを優先する。14回の授業の後、定期試験を実施するため、5回以上欠席した場合には受験資格を失うこととなる。なお出席点を評価の25%程度の扱いとする。定期試験は論述式により解答する形式で、ノート等の持ち込みは一切不可である。

### 〔履修のポイント・注意点〕

かなりの早口で授業を進めるので、聞き落としのないように注意してもらいたい。板書はノートを取りやすいように配慮するので、きちんとした講義録を作成できるはずである。なお授業態度に問題のある学生を黙認することはなく、授業中にその場で厳しく指導する。また然るべき理由のない遅刻は認めないので、それなりの常識を持った学生の受講を希望する。

### 〔科目内容の位置付け〕

高校で地理を履修していない学生にも理解できる内容である。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

本講は基礎的レベルの内容であるため、前提となる科目はない。ただし本講で触れない内容について扱う「地理学B」についてもなるべく受講してもらいたい。また小学校教員免許状取得希望者のうち、社会科教育に関心のある学生は、地理的分野での知識拡充の意味からも本講の受講を薦める。

科目名	地理学B		
	都市と農村の地域構造		
単 位	2	開 設	後期
教 員 名	奥澤 信行		

### 【講義目的】

都市と農村における生産・消費活動を中心に講義する。ここでの内容は、より具体的な事例を挙げて説明するので、その事象が確認できる地理的空間（地域）の特異性をより明確に理解できるであろう。また地理的なものの見方を地理的事象から日常生活にまで拡大することで、物事をより客観的に判断できる能力を身に付けることを目的とする。

### 【講義内容】

- I 都市と都市化
  - ①都市の魅力
  - ②都市の形態と機能
  - ③都市構造と都市システム
  - ④周辺地域を含んだ都市圏の捉え方
  - ⑤企業の支店立地と都市の階層性
- II 企業立地と国内の都市の成長
  - ①都市化のパターン
  - ②大企業の本社立地
  - ③大企業の支店立地
- III 農業生産の地域的変容
  - ①農業生産の歴史的変遷
  - ②農村における産業構造の変容
  - ③農山村のリゾート開発
- IV 地域の見方
  - ①等質地域と機能地域
  - ②形式地域と実質地域
  - ③地域のイメージと認知度
  - ④東京大都市圏の地域構造
- V まちづくりの現状
  - ①地域振興
  - ②商業集積
  - ③市町村合併

### 【講義のすすめ方】

授業内容の順に従って講義を行うが、地理学で扱う事象は、日々刻々変化するので、最新の話題を取り上げる場合には、若干前後することがある。

### 【教 材】

教科書は特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書 「地理学の見方・考え方」 日本大学

地理学教室編 古今書院

### 【成績評価の方法・基準】

出席状況と定期試験の成績で評価する。毎時間出席カードを配布するが、これを点数化するので、出席が評価に影響を及ぼすことになる。また学生諸君の所持するIDカードによる出席も併せて利用するが、出席カードとの間に差異が生じた場合には、出席カードによるデータを優先する。14回の授業の後、定期試験を実施するため、5回以上欠席した場合には、受験資格を失うこととなる。なお出席点を評価の25%程度の扱いとする。定期試験は論述式により解答する形式で、ノート等の持ち込みは一切不可である。

### 【履修のポイント・注意点】

かなりの早口で授業を進めるので、聞き落としのないように注意してもらいたい。板書はノートを取りやすいように配慮するので、きちんとした講義録を作成できるはずである。なお授業態度に問題のある学生を黙認することはなく、授業中にその場で厳しく指導する。また然るべき理由のない遅刻は認めないので、それなりの常識を持った学生の受講を希望する。

### 【科目内容の位置付け】

高校で地理を履修していない学生にも理解できる内容である。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

本講は基礎的レベルの内容であるため、前提となる科目はない。ただし本講で触れない内容について扱う「地理学A」についてもなるべく受講してもらいたい。また小学校教員免許状取得希望者のうち、社会科教育に関心のある学生は、地理的分野での知識拡充の意味からも本講の受講を薦める。

科目名	地理学概論（地誌を含む）		
	社会科地理と日本地誌		
単位	2	開設	前期
教員名	奥澤 信行		

### 【講義目的】

本講は、教養科目であると同時に、「中学校教諭（社会）一種免許状」取得希望の学生にとって、教職課程の「教科に関する科目」の一つとなっている。したがって同じく教養科目として設定されている「地理学A・B」よりも中学校での指導を念頭に置いた内容である。すなわち中学校社会科の「地理的分野」における地理学の位置付けと、現場での指導事項について論ずる。「地理的分野」が中学校において、生徒や一部教師から「暗記科目」として軽んじられている現状を打破するためにも、地理的事象の成立要因を考えることの重要性を認知してもらいたい。

### 【講義内容】

- I 地理学史
  - ①古代および中世の地理学者と地理観
  - ②近現代の地理学者と地理観
- II 地理学の分類
  - ①自然地理学
  - ②人文地理学
- III 社会科教育の変遷
  - ①学習指導要領の改訂と社会科の目標
  - ②社会認識の形成
- IV 地理教育と地理学
  - ①地理教育の重要性
  - ②自然環境の扱い
  - ③地域性の把握
- V 日本地誌
  - ①西南日本
  - ②中央日本
  - ③東北日本
  - ④世界の中の日本

### 【講義のすすめ方】

講義が中心であるが、中学校や高校の教育現場の実例を適宜取り上げて、受講生とディスカッションを行う。地理あるいは社会科の指導内容に限定せず、教育問題全般について触れてみたい。

### 【教材】

教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。また授業中に指摘した地名を確認するため

に、中学や高校で使用した地図帳を持参してもらいたい。

参考書 『新訂図説日本地理』 山村順次編  
 大明堂  
 『図説日本の生活圏』 伊藤喜栄著  
 古今書院

### 【成績評価の方法・基準】

出席状況と定期試験の成績で評価する。毎時間出席カードを配布するとともに、学生証による出席も併用する。双方で差異が生じた場合には、出席カードによるデータを優先する。14回の授業の後、定期試験を実施するので、5回以上欠席した場合には、受験資格を失うこととなる。また試験は論述式で5題程度出題し、ノート等の持ち込みは認めない。なお出席点は全体の25%程度とする。

### 【履修のポイント・注意点】

将来教職に就くか否かは別として、教職課程を履修するからには、それなりの覚悟ができていくことと思う。教育現場の実態について具体例を挙げながら説明するので、受講生も真摯な態度で授業に臨んでもらいたい。学校や教育に関する問題が発生した時点で、即座に授業で取り上げるので、常に社会に関心を向け、自分なりの考えをまとめる習慣を身に付けておくことを希望する。

### 【科目内容の位置付け】

中学校社会科地理的分野で扱う指導内容を基礎的なレベルで講義する。教職課程履修者向けの講義を行うので、地理学そのものについて学びたい学生には「地理学A・B」の受講を勧める。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

「地理学A・B」を履修済みまたは履修中が望ましい。

科目名	倫理学A		
	現代思想の三つの原点		
単位	2	開設	前期
教員名	的場 哲朗		

### 【講義目的】

現代思想の源泉となった、ウィットゲンシュタイン、ハイデガー、西田幾多郎にテーマを絞って、「彼らはいったい何を考えたのか」という問題を究明したい。

「現代とは何か」という問題はそれ自体きわめて難しい問題であるが、ここであらためて20世紀を振り返ってみるとき、世界大戦と急激な国際化いうふたつの出来事が浮かび上がってくる。こうした出来事は、もちろん、根底においては同一のもので、その動きは現在にまで深く及んでいるといえよう。こうした動きをいち早く引き受け、これと真摯に取り組もうとしたのが三人の哲学者だった。ウィットゲンシュタインとハイデガーは第一次大戦で没落し始めたヨーロッパの中で、西田は西欧化のすすむ日本の中でそうした問題と真剣に格闘した。彼らを苦悩させたこの問題は、形を変え地域を変えたとはいえ、現代世界の根本問題だといえよう。

本講義では、現代思想の基本的な考え方を講義しながら、皆さんと一緒に「現代とは何か」について考えてみたい。

### 【講義内容】

- 1、はじめに 現代思想とは何か
- 2、二つの大戦と伝統の揺らぎの中の格闘
- 3、ウィットゲンシュタインの生涯と思想
- 4、『論理哲学論考』 言葉と沈黙Ⅰ
- 5、『論理哲学論考』 言葉と沈黙Ⅱ
- 6、ハイデガーの生涯と思想
- 7、『存在と時間』 人間と死Ⅰ
- 8、『存在と時間』 人間と死Ⅱ
- 9、西田幾多郎の生涯と思想
- 10、『善の研究』 純粹経験と無Ⅰ
- 11、『善の研究』 純粹経験と無Ⅱ
- 12、むすび 彼らの残した問題とは何か

### 【講義のすすめ方】

上記三人の哲学について講義とする。三人の生涯と思想を簡単に紹介し、彼らの主著について説明する。毎回講義の最後で、その日の講義についての質問・感想などを書いてもらい、次の講義の冒頭でそれに応えながら、講義をすすめていく。毎回質問等を提出して欲しい。

### 【教材】

テキスト

『論理哲学論考』・『存在と時間』・『善の研究』は現代哲学の必須文献であり、岩波文庫にも収められているので、何とか格闘しながら読んでもらいたいです。

参考書

参考書や研究書などのガイドブックはたくさんあります。しかし、急峻な山を自分の足で登るか、それともそうしたガイドブックで登った気になるのか、それを決めるのはあなたです。ですが、若いのですから、実際に自分の足で登ってみましょう。

### 【成績評価の方法・基準】

学期末の筆記試験。論述形式で行う。当然ながら、出席状況も考慮します。

### 【履修のポイント・注意点】

物事を建前で済ませたくないと思う批判の精神があればそれで十分。特別な知識は必要ありません。「理想や夢はほんとうに自分を成長させるのだろうか、むしろ束縛となるのではないだろうか。」「挫折や涙は人生にとって否定的な価値に思えるが、しかしむしろ積極的な価値を持っているのではないだろうか。」「目標は実はそれがなくなったときにその真価が問われるのではないだろうか。」等、ちょっと考えてもらいたい。

### 【科目内容の位置付け】

特別な予備知識は必要ない。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

関連科目として哲学・文学・美学等をあげたい。

科目名	倫理学B		
	人間とは何か		
単位	2	開設	後期
教員名	的場 哲朗		

### 【講義目的】

哲学的人間学(Philosophische Anthropologie)の系譜をたどり直してみたい。哲学的人間学は、人間の本质について探究することがすべての哲学的問いの出発点だと考える。その意味で、人間学は哲学、さらに科学の基礎論を目指すわけであるが、それは、同時に、人間の生き方に関心を持つものにとって、つねに重要な示唆を与えてきた。というのも、「人間とは何か」、「人間のほんとうのあり方とは何か」、「人間はなぜ社会や科学や文化や道徳をつくるか」といった根本的な問題に答えようとしてきたからである。哲学的人間学の系譜はマックス・シェラーからはじまり、リップス、プレスナー、ゲーレンを経て現代にまでつながっているが、講義ではシェラー、プレスナー、リップス、和辻に着目したい。

人間の生き方 これを追求することこそまさしく倫理学のテーマであるが について真剣に考えたい学生を歓迎する。一緒に「人間とは何か」について考えてみたい。

### 【講義内容】

- 1、はじめに 人間学のすすめ
- 2、現代における人間学の可能性と限界
- 3、人間学の提唱 シェラーとプレスナー
- 4、マックス・シェラー 「人間と歴史」
- 5、プレスナー 人間学と論理学
- 6、人間学と論理学 ミッシュとリップス
- 7、ミッシュ 生と論理学
- 8、リップス 実存と論理学
- 9、人間学と倫理学 和辻哲郎
- 10、「人間の学としての倫理学」
- 11、フーコー、ハイデガーの人間学批判
- 12、むすび エコロジー問題と人間学

### 【講義のすすめ方】

哲学的人間学について講義する。その思想について紹介・説明するが、毎回講義の最後で、その日の講義についての質問・感想などを書いてもらい、次の講義の冒頭でそれに応えながら、講義をすすめていく。毎回質問等を提出して欲しい。

### 【教材】

テキスト

人間学についての文献はたくさん出版されており、ぜひ読んでもらいたい。

参考書

たくさんの参考書や研究書があります。急峻な山を自分の足で登るか、それともガイドブックで登った気になるか。それを決めるのはあなたです。ですが、若いのですから、実際に登ってみることをおすすめします。

### 【成績評価の方法・基準】

学期末の筆記試験。論述形式で行う。授業の冒頭で——もちろん、受講生の数によってやり方は考えるが——出席をとり、当然ながらこの出席状況も考慮する。

### 【履修のポイント・注意点】

役に立つとか、人生の目的などをあらかじめ立てようとしている諸君！よく考えてごらん、君は歩きだす前からもう結論を先取りしようとしているのではないだろうか。しかし、どうだろうか、将来そうしたものがまだ意味をもつなどと誰が言えるのだろうか。人生に設計図を書き込もうとしているのではないだろうか。今の価値観に拘泥するより、見知らぬ未来にこそ夢を抱こうではないか！それこそ生きるということではないだろうか！それこそ冒険というものではないだろうか！

### 【科目内容の位置付け】

特別な予備知識は必要ない。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

関連科目として倫理学A、哲学A・B、文学A・B等をあげたい。

科目名	応用倫理		
	自己決定の倫理		
単位	2	開設	後期
教員名	渡辺 忠		

#### 【講義目的】

- (1) 日常生活で出会う様々な倫理問題に賢明な意思決定ができるようになるためのトレーニング
- (2) レジюме作成を通しての、文献の批判的読解のトレーニング
- (3) ミニットペーパー作成による、意見形成と議論のトレーニング
- (4) 課題レポート作成を通しての、小論文作成トレーニング

#### 【講義内容】

応用倫理の内容は多岐にわたる。先鋭化する生命科学・医療分野の行為（中絶、安楽死、遺伝子操作、クローン技術、…）の倫理性に関する問いを扱う生命倫理、深刻化する環境問題を背景に、世代間の公平性や動物・自然の「権利」、経済行動への制約などを議論する環境倫理、戦争行為をはじめとする暴力行使の正当性やテロリズム批判の根拠を吟味する戦争の倫理など、およそこの世界で倫理的問題を提起しうるものなら何であれ「××倫理」にできそうなほどである。今年度は、自己決定の倫理と題して、様々な局面における行為の自己決定・自己責任の問題を考える。予定している主題は、スポーツにおけるドーピングを範型とするドラッグ使用の問題、身体の自己所有権・裁量権、性的志向の多元主義的な理解や表現の自由とポルノグラフィや売春など性産業の問題、死の自己決定など。合理性と道徳の連関、古典的なリベラリズムと共同体主義やフェミニズムなどの論点を吟味する。固有に応用倫理的な議論にとどまらず、ときとしてメタ倫理的な議論や哲学的な論点に移行することも敢えて避けるつもりはない。

#### 【講義のすすめ方】

はじめに教材毎に簡単な説明と解説講義をする。履修者は、相当量の配布教材を事前に熟読し、レジюме作成・提出を通して批判的に理解したうえで授業に参加し、自らの意見を公表して討論に加わることが求められる。授業の最後には自らの意見を毎回ミニットペーパー（「出席カード」）に記入する。この過程を繰り返す。理想的には、私の講義が少なく履修者の発言機

会が多い双方向的な授業にしたい。履修者には学期末に論文形式のレポート提出が求められる。

#### 【教材】

教科書は用いず、テーマに沿った印刷教材を事前に配布する。必要な参考書はその都度紹介するが、一般的なものとして、以下を指定する。

P. シンガー『実践の倫理（第二版）』昭和堂  
加藤尚武『現代倫理学入門』講談社

#### 【成績評価の方法・基準】

- (1) やむをえない事情（証明が必要）がある場合を除き、5回以上欠席すると自動的に失格となる。
- (2) 評価の50％は平常点による。必須提出物の状況、授業への取組・貢献度を判断する。
- (3) 評価の残り50％は学期末課題レポート（五段階評価）による。
- (4) 以上を総合した最終成績は、試験規則第三条にしたがい評定する。
- (5) 任意提出のレポートなどは加点の方向でのみ評価し、成績に上乘せする。

#### 【履修のポイント・注意点】

知識を伝えることを目的とする授業ではない。単なる「聴講」は意味がないと心得てほしい。扱う主題は興味ぶかいものではあるが、難しくもあるので、事前の教材研究が決定的に重要である。問題意識をもって積極的に取り組むことが不可欠である。授業のイニシアティブは履修者の方にある。授業をお仕着せの結論に収束させるつもりはない。自由に議論することを好む諸君はこの授業を歓迎するだろう。テキストにやって単位だけとるつもりの方々は、慌てることになるだろう。また、科目の趣旨からも、質問や異論反論を歓迎する。いつでも授業を中断してよい。ただ、時間の制約はあるのでオフィスアワーも活用してほしい。

#### 【科目内容の位置付け】

市民的教養の基礎的部分にかかわる科目。問題意識の開発や批判的思考態度、倫理的意思決定

能力の育成を目的とした一般教養科目。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

日本語が理解できれば十分。さらに、できれば「批判的思考」や「論理学」を事前に受講しているとなおさら好都合だ。ほかに「倫理学 A/B」や「哲学 A/B」などが関連科目。

科目名	倫理学概論		
	なぜ善悪はあるのか		
単 位	2	開 設	前期
教 員 名	的場 哲朗		

### 〔講義目的〕

倫理学概論の目的は、体系的な立場に立って、倫理学のさまざまな考え方を講義することにある。したがって、本講義では各テーマに沿って倫理学の歴史をひもとくことにもなるが、しかし同時に、各自の主體的な問いをこの講義の内容に重ね合わせていくことを絶対に忘れないで欲しい。というのも、倫理学は本来実践哲学であり、哲学である以上は、これまで当然とされてきた信念に対して批判的な態度をとることが切に求められるからである。主體的問いのない哲学は空虚であり、歴史をくぐり抜けない哲学はまた独善に陥ることを肝に銘じてもらいたい。

### 〔講義内容〕

次の中からテーマを選んで講義する。  
倫理学とは何か

倫理学 ソクラテスの発見

理論と実践

倫理と倫理学

#### 1、善とは何か

ソクラテスの善のアイデア

カント善への意志

シェラーの実質的価値倫理学

ニーチェ 善悪の彼岸

#### 2、善はどうやって実現されるか

社会と善

アリストテレス

ヘーゲル

マルクス

主体と善

カント

キルケゴール

ハイデガー

絶対者と善

アウグスティヌス

キルケゴール

#### 3、現代の倫理学の方向

マルクス主義 社会変革の倫理学

実存主義 主体快復の倫理学

プラグマティズム 有用性の倫理学

#### 4、日本の倫理学

和辻哲郎 問柄の倫理学

金子武蔵 実存理性の倫理学

#### 5、現代の倫理学 応用倫理学

生命倫理

情報倫理

環境倫理

### 〔講義のすすめ方〕

上記の講義内容に従って講義を進める。とはいえ、倫理学者の生の声を直接味わってもらいたいと思うので、テキストを読みながら、みなさんと自由に討議するゼミナール形式をとりたい。

### 〔教 材〕

授業中に適宜指示する。

### 〔成績評価の方法・基準〕

定期試験に出席状況を加味する。

### 〔履修のポイント・注意点〕

本講義は教職課程に関係する科目であり、したがって、将来教職に就こうと思っている意欲的な学生に受講してもらいたい。

### 〔科目内容の位置付け〕

「人間とは何か」、「人間はどのように生きるべきか」という実践哲学的なテーマを追求する。したがって、特別な予備知識は必要ない。ひとつこの講義を契機に自分の存在を真剣に考え直してみたいと思っている意欲的な学生に受講してもらいたい。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

特別な前提は必要ない。しかしあえて言えば、美学A、倫理学A・B、哲学、哲学概論、心理学等が考えられる。

科目名	哲学A		
	心と人物のメタフィジクス		
単 位	2	開 設	前期
教 員 名	渡辺 忠		

### 〔講義目的〕

- (1) 哲学の基本的な問題について文献資料を読みながら考え「哲学する」こと
- (2) レジюме作成を通しての、文献の批判的読解のトレーニング
- (3) ミニットペーパー作成による、意見形成と議論のトレーニング
- (4) 課題レポート作成を通しての、小論文作成トレーニング

### 〔講義内容〕

人物とその同一性について考える。とくに、一方で、今日優勢な自然主義的世界観・人間観におけるその位置づけと、他方で、直観的事実としての自己の存在の特異性とを対比して、どう考えればよいのか模索する。その過程で、心身問題・主観性・同一性・様相・可能的世界・付随性・本質・時間などの形而上学的概念や諸問題を検討する。

### 〔講義のすすめ方〕

事前に印刷教材を配布する。半期で10本程度の資料を読む予定。教材每にはじめに簡単な説明と解説講義をする。履修者は、相当量の配布教材を事前に熟読し、レジюме作成・提出を通して批判的に理解したうえで授業に参加し、自らの意見を公表して討論に加わることが求められる。授業の最後には自らの意見を毎回ミニットペーパー(「出席カード」)に記入する。この過程を繰り返す。理想的には、私の講義が少なく履修者の発言機会が多い双方向的な授業にしたい。履修者には学期末に論文形式のレポート提出が求められる。

### 〔教 材〕

教科書はない。印刷教材を配布する。以下は参考書。

D. パーフィット

『理由と人格』(勁草書房 1998)

R. スウィンバーン／S. シューメイカー

『人格の同一性』(勁草書房 1998)

P. チャーチランド『認知哲学』(産業図書)

D. デネット『心はどこにあるのか』(草思社)

『解明される意識』(青土社)

D. チャルマーズ『意識する心』(白揚社)

永井均『翔太と猫のインサイトの夏休み』

(ナカニシヤ出版)

『〈子供〉のための哲学』

『私・今・そして神』

(講談社現代新書)

『転校生とブラックジャック』

(岩波書店)

### 〔成績評価の方法・基準〕

- (1) やむをえない事情(証明が必要)がある場合を除き、5回以上欠席すると自動的に失格となる。
- (2) 評価の50%は平常点による。必須提出物の状況、授業への取組・貢献度を判断する。
- (3) 評価の残り50%は学期末課題レポート(五段階評価)による。
- (4) 以上を総合した最終成績は、試験規則第三条にしたがい評定する。
- (5) 任意提出のレポートなどは加点の方向でのみ評価し、成績に上乘せする。

### 〔履修のポイント・注意点〕

知識を伝えることを目的とする授業ではない。単なる「聴講」は意味がないと心得てほしい。扱う主題は興味ぶかいものではあるが、難しくもあるので、事前の教材研究が決定的に重要である。レジюмеを作りながら教材を徹底的に読みこむことが第一に求められる。「読む修行」と思えばよい。ついで、問題を徹底して考えることが求められる。「考える修行」である。授業のイニシアティブは履修者の方にある。「通念」「常識」は気にしなくてよい。緻密な論理性と斬新な哲学的直観さえあれば、グロテスクな見解も首尾一貫しているかぎり歓迎される。重要なのは専門性などではなく、素人の直観であり、「素手で考える」無謀さだからだ。質問や異論反論を歓迎する。いつでも授業を中断してよい。(ただ、時間の制約はあるのでオフィスアワーも活用してほしい。)自由に議論することを好む諸君はこの授業を歓迎するだろう。テキストにやって単位だけとるつもり諸君は、慌てることになるだろう。

**〔科目内容の位置付け〕**

哲学は「勉強」したり、段階を踏んで身につけたりするものではない。斬新な問題意識と、読み、考え続ける「修行」に耐える根気とがあれば、十分である。ただ、哲学全般について一通りさらっておきたい人は「哲学概論」もどうぞ。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

日本語が理解できれば十分、前提科目はない。関連科目は第一に「哲学B」。そのほか「批判的思考」「応用倫理」「哲学概論」「論理学」など。

科目名	哲学B		
	死のメタフィジクスと価値論		
単 位	2	開 設	後期
教 員 名	渡辺 忠		

#### 〔講義目的〕

- (1) 哲学の基本的な問題について文献資料を読みながら考え「哲学する」こと
- (2) レジュメ作成を通しての、文献の批判的読解のトレーニング
- (3) ミニットペーパー作成による、意見形成と議論のトレーニング
- (4) 課題レポート作成を通しての、小論文作成トレーニング

#### 〔講義内容〕

死について考える。現代哲学の中には、心を脳というハードウェアに載ったソフトウェアのように見る考え方がある。そうだとすると、そのような心は「死ぬ」ことがあるのだろうか。「誰」が死ぬのだろうか。宗教とは別の意味で「死後の生」が可能だろうか。また、古代の哲学者は、死後の非存在は誕生前の非存在の対称的な鏡像にすぎず、後者と同様前者もなんらおそれるに足りないと言った。だが、本当に死は何でもないものなのだろうか。死の意味と価値を考えることは、生の意味と価値を考えることでもある。授業では「死の形而上学」に関する文献資料を読み、問題そのものを考えていく。

#### 〔講義のすすめ方〕

事前に印刷教材を配布する。半期で10本程度の資料を読む予定。教材毎にはじめに簡単な説明と解説講義をする。履修者は、相当量の配布教材を事前に熟読し、レジュメ作成・提出を通して批判的に理解したうえで授業に参加し、自らの意見を公表して討論に加わることが求められる。授業の最後には自らの意見を毎回ミニットペーパー（「出席カード」）に記入する。この過程を繰り返す。理想的には、私の講義が少なく履修者の発言機会が多い双方向的な授業にしたい。履修者には学期末に論文形式のレポート提出が求められる。

#### 〔教 材〕

教科書はない。印刷教材を配布する。以下は参考書。

D. パーフィット

『理由と人格』（勁草書房 1998）

F. Feldman, *Confrontations with the*

*Reaper* (Oxford: Oxford Univ. Press 1992)

J. M. Fischer(ed.), *The Metaphysics of Death* (Stanford: Stanford Univ. Press 1993)

P. French, H. Wettstein(eds.), *Midwest Studies Vol. XX IV Life and Death* (Oxford: Blackwell 1992)

F. Kamm, *Morality, Mortality Vol. I* (Oxford: Oxford Univ. Press 1993)

#### 〔成績評価の方法・基準〕

- (1) やむをえない事情（証明が必要）がある場合を除き、5回以上欠席すると自動的に失格となる。
- (2) 評価の50%は平常点による。必須提出物の状況、授業への取組・貢献度を判断する。
- (3) 評価の残り50%は学期末課題レポート（五段階評価）による。
- (4) 以上を総合した最終成績は、試験規則第三条にしたがい評定する。
- (5) 任意提出のレポートなどは加点の方向でのみ評価し、成績に上乘せする。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

知識を伝えることを目的とする授業ではない。単なる「聴講」は意味がないと心得てほしい。扱う主題は興味ぶかいものではあるが、難しくもあるので、事前の教材研究が決定的に重要である。レジュメを作りながら教材を徹底的に読みこむことが第一に求められる。「読む修行」と思えばよい。ついで、問題を徹底して考えることが求められる。「考える修行」である。授業のイニシアティブは履修者の方にある。「通念」「常識」は気にしなくてよい。緻密な論理性と斬新な哲学的直観さえあれば、グロテスクな見解も首尾一貫しているかぎり歓迎される。重要なのは専門性などではなく、素人の直観であり、「素手で考える」無謀さだからだ。質問や異論反論を歓迎する。いつでも授業を中断してよい。（ただ、時間の制約はあるのでオフィスアワーも活用してほしい。）自由に議論することを好む諸君はこの授業を歓迎するだろう。テキストにやって単位だけとるつもりの方諸君

は、慌てることになるだろう。

**〔科目内容の位置付け〕**

哲学は「勉強」したり、段階を踏んで身につけたりするものではない。斬新な問題意識と、読み、考え続ける「修行」に耐える根気とがあれば、十分である。ただ、哲学全般について一通りさらっておきたい人は「哲学概論」もどうぞ。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

日本語が理解できれば十分、前提科目はない。関連科目は第一に「哲学A」。そのほか「批判的思考」「応用倫理」「哲学概論」「論理学」など。

科目名	哲学概論		
	哲学ってどんなこと？		
単 位	2	開 設	前期
教 員 名	渡辺 忠		

#### 【講義目的】

- (1) 哲学の諸問題について自ら「哲学する」ことを通しての、論理的・批判的思考のトレーニング
- (2) ミニットペーパー作成による、意見形成と議論のトレーニング
- (3) 課題レポート作成を通しての、小論文作成トレーニング

#### 【講義内容】

14歳の少年少女がふと抱くような疑問から哲学の様々な問題を考える。教科書に沿って「私たちの心を超えた世界を知ることができるのか」「他人の心を知ることができるのか」「心と脳の関係はどのようなものか」「いかにして言葉は意味をもつのか」「私たちは自由意志をもっているのか」「道徳の基礎はどのようなものか」「どのような不平等は正しくないのか」「死とはどのようなものか」「人生には意味はあるのか」という順に考えていく。

#### 【講義のすすめ方】

教科書の文章はやさしく書かれているので、履修者は事前に該当部分を読んでおくことが求められる。授業は講義形式で、該当する章の解説・補足にとどまらず、主題についての「変奏」も含む。履修者は授業中に必死で頭を使い、自ら「哲学する」ことが必要だ。受講中いつでも講義を中断して質問や意見を述べてよい。授業時間の最後には自らの意見を「出席カード」(ミニットペーパー)に記入する。学期末には自らの考えを課題レポートで提出することが要求される。

#### 【教 材】

教科書

T. ネーゲル『哲学ってどんなこと？』  
昭和堂

参考書

永井均『翔太と猫のインサイトの夏休み』  
ちくま学芸文庫  
今井・山本『哲学原典資料集』  
東京大学出版会

#### 【成績評価の方法・基準】

- (1) やむをえない事情(証明が必要)がある場合を除き、5回以上欠席すると自動的に失格となる。
- (2) 評価の50%は平常点。授業への取組・貢献度(発言、「出席カード」記入状況)を判断する。
- (3) 評価の残り50%は学期末課題レポート(五段階評価)による。
- (4) 以上を総合した最終成績は、試験規則第三条にしたがい評定する。
- (5) 任意提出のレポートなどは加点の方向でのみ評価し、成績に上乘せする。

#### 【履修のポイント・注意点】

教科書該当箇所を予習で読んでおくことが最低限の義務である。まとまった形でなくてよいから、自らの考えを予め心にとめておいて授業に出席してほしい。授業中はテーマについて全力で考え、「出席カード」に必ず意見を記入すること。意見記入がない場合には平常点は0点とみなす。

#### 【科目内容の位置付け】

基礎的・基本的内容の科目。担当者の哲学系諸科目の中では入門科目の位置づけであり、初めて哲学に触れる人のとるべき科目である。また、社会・公民の教員免許取得を目指す人の「教科に関する科目」でもある。

#### 【前提・関連科目(科目間関連の内容)】

前提科目はない。日本語ができ、考えることが嫌いでなければ十分である。関連科目は「哲学A/B」「応用倫理」「倫理学概論」「倫理学A/B」など。但し、これらと内容や授業形式が一部重なることがありうる。

科目名	文学A		
	19世紀イギリス小説		
単位	2	開設	後期
教員名	向井 千代子		

#### 〔講義目的〕

19世紀イギリスの小説を中心に講義する。19世紀はイギリスが帝国として一番繁栄した時代であるが、国内では労働者階級と金持ち階級の格差が開き、様々な社会問題も抱えていた。そんな中でイギリスの小説は特にリアリズム小説という分野で発展を遂げた。イギリスという遠い国で作られた文学の話になるが、そこには国と時代を超えた共通の問題もあるので、文学を通じて人生や人間関係、個人と社会とのかかわりといった問題について考える機会を提供できたらと考えている。

#### 〔講義内容〕

18世紀末から19世紀始めはロマン主義の時代といわれ、イギリスではワーズワス、キーツ、シェリーを始めとするロマン派の詩人たちが輩出した。その頃小説の分野ではゴシック小説が人々の関心を引いたが、やがてイギリスの国民的な作家といわれるジェイン・オースティンが登場する。次にもう一人のイギリスの国民的な作家であるチャールズ・ディッケンズが現れる。講義の前半はこの二人を中心に話し、後半はその他のヴィクトリア朝の代表的な作家たち、ブロンテ姉妹、ギaskell夫人、ジョージ・エリオットなどについて勉強する。またロマン主義の詩人たちの作品もいくつか紹介し、鑑賞する予定である。

中心となるオースティン、ディッケンズはイギリス人には愛されている作家であるが、日本の若者には魅力があるのだろうかと一抹の不安も感じているが、この二人の作品はよく映画化されているのでDVDやビデオも活用しながら、この時代特有の問題と、時代を超えた問題とを考えていきたい。

#### 〔講義のすすめ方〕

読むことに力点を与えて講義を行いたいと思っているが、実は材料となる文学はもともと英語で書かれたものであるため、当然ながら翻訳書に頼ることになる。限られた作家を中心にその作品を解説し、後作品からの引用文を鑑賞したり、映画化されていればビデオなどで一部分を鑑賞したりすることによって、文化の違いのみならず、時代を超えた人間関係の問題など

を考えてみたい。

#### 〔教材〕

教科書は使わない。資料は授業のときに印刷配布する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

成績は出席点と授業中に提出した感想文やコメント及び定期試験の成績を参考にして総合的に評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

講義科目の場合、どうしても受け身的になって講義を聞かずに雑談をしたり、居眠りをしたりしがちである。このようなことを防ぐために教員も極力参加型の授業になるように工夫するつもりである。しかし、授業態度の悪い学生に対しては、他の学生の迷惑になるので退席してもらうつもりである。授業というのは教師と学生の双方あってこそ成立するものなので、お互いにより関係を保って楽しい授業になるように協力をお願いする。

文学の場合、知識として文学者の名前を覚えるだけでは不十分である。文学の授業を取って本を読まないというのはおかしいので、授業以外の時間に興味を持った作家があれば図書館などで本を借りて積極的に読んでほしい。もし興味を持った作家や作品があったら、レポートを書いて自主的に提出していただければ、それもプラス評価として成績評価に加えたい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

一般教養的な科目。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

文学B

科目名	文学B		
	アメリカ文学と自然		
単 位	2	開 設	後期
教 員 名	針 生 進		

#### 〔講義目的〕

そこに描かれたさまざまな「自然」に注目した米文学の通史を浮かびあがらせたい。親しみやすいこともあり、小説作品を主にとりあげる。

#### 〔講義内容〕

プリマスに上陸したピューリタンたちを迎えた冬のニューイングランド。あるいは温暖なカリフォルニアで暮らしていた飼い犬のバックが連れてこられたアラスカの氷原。このような苛酷な自然環境もあれば、美しい谷間も広がり、大河も流れる。アメリカ本土を離れて大海にも出なければならない。そして人間が自ら作り出した、都会のなかのジャングルもある……。上でもふれたように、その方が受講生には知識の整理がしやすいのではと思い、論点や事項中心の文学論ではなく、文学史という枠内で話を進めたい。

#### 〔講義のすすめ方〕

17世紀の植民地時代から話しはじめる。それ以降の細かい講義区分は今のところたてていないけれど、半期科目という制約もあり、20世紀初頭の作品まで見られればいだろう。作品名や作者名を並べるだけの講義にはしたくないので、原作からの引用も頻繁に行いたい。とはいっても、そのごく一部しか教室ではとりあげられないので、受講生には、翻訳でよいので（興味を感じたものだけでも）各作品に直接ふれることを期待する。そのためにも、翻訳があり、かつ本学図書館に蔵書がある、あるいは文庫本などで購入しやすい作品を主にとりあげていきたい。

#### 〔教 材〕

特に教科書は使わず、こちらでまとめた教材を配付する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

個々の作品についての受講者個人の印象や見解などは点数化にはなじまないとの判断からレポートは要求しない。いかに多くの正確な知識を身につけたかを問う筆記試験（学期末の試験期間内に行う）の結果が成績評価に大きく関わる。試験の結果が思わしくない場合でも、レ

ポートなどを提出させて試験の点数に加算、換算するような措置は講じない。出席率を評価する度合いについては受講者数が確定してから決めたい。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

受講に際して予備知識の有無は特に問わない。最低限の常識（人間理解）とアメリカという国についての最低限の知識があればよいだろう（どの辺りが最低限度かが問題ではあるけれど）。一般教養科目の一つとして、専門科目が並ぶなかの休息地をこの講義も提供するだろうが、日ごろから小説の類にはあまり縁がない（だから悪いというのではない）諸君には息抜きどころか苦痛でしかないだろう。

#### 〔科目内容の位置付け〕

前期に開講されている「文学A」とこれとは同じ分野ではあれ、扱う内容が異なる、それぞれに独立した科目であり、「A」のみ、あるいは「B」のみの受講も可である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

「文学A」

科目名	論理学		
	推論と証明の技法		
単位	4	開設	後期
教員名	渡辺 忠		

### 【講義目的】

記号論理（古典的第一階述語論理）による初等的な証明の技法を体得するとともに、いくつかの重要なメタ論理的定理について学習し、論理学や形式的方法についての概観を得ること。理論的で厳密な思考態度を身につけること。

### 【講義内容】

論理学は、人が合理的に考えたり話したりしているときに従っているはずの、暗黙の規範を対象とする学問である。二千年以上の歴史があるが、19世紀末の大革命を経た現代論理学は、数学に範をとり、記号を用いて話を進める。論理学とは「合理的思考規範の記号を用いた探究」であり、今日では「論理学」といえば、端的にこのような数学的な記号論理学を意味する。

### 【講義のすすめ方】

論証の科学としての論理学の問題関心を説明した後、教科書に沿って命題論理・述語論理の順に解説と演習をする。形式言語の構成、その解釈、タブロー法、健全性定理・完全性定理、決定可能性など。タブロー法は他のどんな証明法よりも修得が容易である。

講義が3、演習が7くらいの割合。新しい事項を解説する講義の後、例題の演習をし、続いて練習問題の演習をする。受講者が黒板で練習問題や宿題に解答し、私が解説する。授業はこれを繰り返す。数学の授業に似ている。問題演習の際、私は受講者の間を回って歩き質問を受ける。できるかぎり個人的な指導をしていきたい。

### 【教材】

教科書

丹治信春『タブローの方法による論理学入門』（朝倉書店）

参考書

E. J. レモン『論理学初歩』（世界思想社）

前原昭二『記号論理入門』（日本評論社）

野矢茂樹『論理学』（東京大学出版会）

戸田山和久『論理学をつくる』

（名古屋大学出版部）

### 【成績評価の方法・基準】

授業回数の1/3を越えて欠席すると、やむを得ない事情がある場合（証明が必要）をのぞき、自動的に失格となる。試験は4回行い、その試験時間に応じた加重平均で成績を評価する。受験しない試験の得点は0点とみなす。また、すすんで黒板で解答した場合や任意課題への解答を提出した場合は、授業への積極的貢献とみなし、ボーナスポイントとする。

### 【履修のポイント・注意点】

授業のスタイルは数学に似ているが、高校までの数学の知識は前提しない。受講に当たっては何の予備知識も要らず、数学の得意不得意も関係ない。高校数学よりはるかに易しい。ただ、はじめてかけ算九九をおぼえる小学生程度の努力は必要で、聴いているだけでは決して理解できるようにならないから、必ず「手を使って」練習する必要がある。理解度は紙と鉛筆の消費量にほぼ比例する。

後期週2回授業。教科書・教材を必ず持参すること。欠席はわからなくなる一番の原因なので極力避けること。欠席明けには質問に来るなどして、必ず遅れを取り戻すように。オフィスアワーを活用すること。就職活動で欠席しがちな4年生は単位取得が困難かもしれない。きっちり勉強して知的な基礎体力を付けたい人向き。

### 【科目内容の位置付け】

形式的方法の初歩。論理学の中では、入門的・初等的レベル。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

前提科目はない。関連科目は「批判的思考」「哲学」「数学」情報系科目など。

科目名	批判的思考		
	論証のトレーニング		
単位	2	開設	前期
教員名	渡辺 忠		

#### 〔講義目的〕

論理的に考え、話し、議論するために必要な基礎知識とスキルを身につけること

#### 〔講義内容〕

自然言語による論証（演繹的な判断推理）についての講義と演習。論証とは何か、論証構造の分析、論証の評価、演繹的論証の種類、誤謬推理、反論の仕方、その他。

#### 〔講義のすすめ方〕

配布教材の解説、例題の説明、練習問題プリントの演習、模範解答の説明、宿題の配布と説明。これを繰り返す。言葉の上での知識ではなく、実践的スキルを修得のため、演習中心とする。かなりの枚数の解説・練習問題・宿題のプリントを用いる。授業内容はきわめて多く、進度は速い。積極的に取り組まなければ何一つものにならないだろう。

#### 〔教材〕

教科書は用いず、印刷教材を用意する。以下は参考書。自習書・演習書として取り組むとよい。

野矢茂樹『新版・論理トレーニング』『論理トレーニング101題』（産業図書）

香西秀信『反論の技術』（明治図書）

宇佐見寛『新版・論理的思考』（メテカルフレンド社）

#### 〔成績評価の方法・基準〕

半期の授業なので、9回以上出席しなければ評価の対象にならない。やむを得ない事情がある場合（証明が必要）をのぞき、受講者の責任で欠席多数となった場合は、自動的に失格となる。出席は成績評価の必要条件であり十分条件ではない。成績判定は、定期試験を含む4回のテストで判定する。評価は、各得点の（試験時間割合にもとづく）加重平均による。受験しなかったときの得点は0点とする。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

授業に出席しないと、勉強のしようがない。きちんと出席し、講義を集中して理解し、問題に真剣に取り組み、宿題を仕上げる必要がある。

結構たいへんである。

科目の趣旨からも、質問や異論を歓迎する。質問し反論する態度の育成も、批判的思考という科目の教育目的である。科目担当者を無謬の権威と考えないこと。「とりあえず反論してみる」くらいの気持ちで。そのような授業中断は歓迎するが、時間の制約もあるので、オフィスアワー（3号館3階346研究室ドアに表示）も活用すること。

#### 〔科目内容の位置付け〕

知的コミュニケーションのための基礎的素養を培う科目。学問体系以前のところに位置する、基礎的・基本的トレーニング。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

日本語が理解できれば十分で、前提科目はない。内容は07年度「批判的思考」の演繹部分を独立させたものである。関連科目は、全ての科目。特に関連が深いのは「論理学」で、できればこちらも受講してほしい。教養特講Ⅰ/特講Ⅰ「批判的思考B」は、07年度「批判的思考」の非演繹的論証に関する部分を独立・拡充させ、初等的な科学哲学のトレーニングとしたもの。

科目名	国語表現法A		
単 位	2	開 設	前期
教 員 名	増田 良二		

#### 〔講義目的〕

本講座では、国語で適切に、また効果的に表現する能力を育成することを目的としている。

言語活動には、「話す」「聞く」「読む」「書く」という四つの領域があり、これらはひとつひとつが独立しているというより、相互に関連し合っこそ、より効果的な表現が可能となる。「国語表現」は、話し言葉による表現と読むこと、書くことによる文章表現という二つの形態に大別することができる。

しかし、この「話すこと」と「書くこと」の二つの行動は、全く異質なものではなく、言葉によって表現することでは共通している。勿論、異質な面もあるので、それぞれの特徴を理解し、その良さを生かすことによって、豊かな言語生活を送ることができるものである。

従って、本講座では、「話すこと」「聞くこと」を中心としながら、学生一人一人の表現能力を高めることに力を入れたい。

更に、社会生活を送るためには、話し言葉による表現力とともに、書くことによる表現力も重要であるので、実用文やレポートなどを書く力を養うことや待遇表現（敬語）の構造の把握とその実践力を養うことにも力を入れたい。

#### 〔講義内容〕

次のような内容を予定している。

1. 表記法について
  - ・国語の表記法とその特色についての理解
  - ・仮名づかいや送り仮名など表記上の基本的事項についての理解
2. 待遇表現（敬語）について
  - ・敬語の種類・特色についての理解とその実践
3. 実用文の書き方について
  - ・手紙文や公用文の書き方についての理解とその実践
4. レポート等の書き方について
  - ・レポート作成の基本的事項についての理解
5. 話し言葉について
  - ・話し言葉の特色とそれをいかした話し方についての理解
  - ・話し方の種類とその実践
  - ・若者の言葉の特色についての理解

#### 〔講義のすすめ方〕

上記の内容について、補助教材プリントを用いながら講義を行うとともに、原則として、毎時間演習等を行うことを予定している。

講義と演習は4対6の割合で展開するので、積極的・意欲的に授業に取り組んでほしい。

#### 〔教 材〕

毎時間、必要に応じて関連する補助教材プリントを配布する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

成績評価は、下記①、②の提出物の内容と毎時間での授業（演習等）への取り組みの態度などを総合して行う。

- ①国語表現力を養うための授業時に行う課題演習の提出物
- ②レポート等の提出物

#### 〔履修のポイント・注意点〕

国語表現法の授業であるので、授業には積極的に取り組み、表現力を更に高めていくよう心がけること。

#### 〔科目内容の位置付け〕

特定の前提科目はありません。身につけた国語表現力を様々な科目履修に活用してほしい。

科目名	国語表現法B		
単 位	2	開 設	後期
教 員 名	増田 良二		

### 〔講義目的〕

本講座では、国語で適切に、効果的に表現する能力を高めるとともに、思考力を伸ばし、言語感覚を磨き、表現する能力を育成することを目的としている。

言語活動には「話す」「聞く」「読む」「書く」という四つの領域があるが、なかでも、「読む」「書く」という領域は、学生にとって、論文やレポート等の作成上、重要な位置を占めている。

そこで、本講座では、「国語表現法A」との関連を図りながら、要約文や小論文等を書く力を養うことを中心に講義と演習を行っていく予定である。

特に、問題の分析から、その解決を図るまでの方法を習得することを重んじながら、小論文作成能力を高めていくことに力を入れたい。

このためには、要約文の作り方を重点的に行いながら、様々なジャンルの文章表現法を分析することによって、表現能力をより一層高めることに力を入れたい。

### 〔講義内容〕

次のような内容を予定している。

1. 要約文の作り方とその演習
  - ・小論文作成など表現力の基礎として、要約文を作る手順やその書き方についての理解
  - ・様々な文章の読解を行いながら、よりの確な要約文作成の実践
2. 論説文について
  - ・論説文の特徴についての理解
  - ・論説文の構成とその書き方についての理解とその実践
3. 説明文について
  - ・説明文の役割と特徴等についての理解
4. 記録文、報告文について
  - ・それぞれの役割と特徴等についての理解
  - ・情報の収集と整理の仕方について

### 〔講義のすすめ方〕

上記の内容について、補助教材プリントを用いながら、講義を行うとともに、原則として、毎時間演習等をも行うことを予定している。

講義と演習は4対6の割合で展開するので、積極的・意欲的に授業に取り組んでほしい。

### 〔教 材〕

毎時間、必要に応じて関連する補助教材プリントを配布する。

### 〔成績評価の方法・基準〕

成績評価は、下記①、②の提出物の内容と毎時間での授業（演習等）への取り組みの態度などを総合して行う。

- ①国語表現力を養うための授業時に行う課題演習の提出物
- ②レポート等の提出物

### 〔履修のポイント・注意点〕

国語表現法の授業であるので、授業には積極的に取り組み、各人がその表現力を更に高めていくよう心がけること。

### 〔科目内容の位置付け〕

「国語表現法A」を履修してから受講することが望ましい。

科目名	美学A		
単位	2	開設	前期
教員名	益田 勇一		

#### 〔講義目的〕

古代ギリシアからルネサンスに到るまでの美や芸術に関する思考の歴史を辿る。それぞれの時代を代表する思想家が残した文献から、美や芸術に関する言説を拾い集め、当時それらがどのように考えられていたのかを概観する。今日われわれが抱いている美や芸術のイメージとはかなり異なる考え方が存在したことに気づかされる。自分自身にとって美や芸術がどのような意味を持ちうるのか、社会においてそれらがどのような役割を果たしうるのかを考察するための基礎を構築することを目指す。

#### 〔講義内容〕

1. 美学とは (1)  
美学という学問名称の由来
2. 美学とは (2)  
美と芸術
3. プラトン (1)  
生涯と著作／イデア論／魂の三分説
4. プラトン (2)  
美のイデア／美の階層／エロス
5. プラトン (3)  
模倣的技術としての芸術／芸術の意義
6. プラトン (4)  
『国家』における芸術の位置づけ
7. アリストテレス (1)  
生涯と著作／質料一形相論／自然美と芸術美
8. アリストテレス (2)  
ミメシスとカタルシス
9. プロティノス (新プラトン主義の美学)  
流出説と存在の階層／ヌース的なものとしての美
10. アウグスティヌス (初期キリスト教の美学)  
生涯と著作／神の美／美と永遠
11. トマス・アクィナス (中世の美学)  
美の超越性／美の体験
12. イコノクラスム  
イコン (聖画像) 破壊の歴史的・思想的背景
13. ルネサンスと遠近法 (1)  
キリスト教における自然観の変化
14. ルネサンスと遠近法 (2)  
遠近法という世界の捉え方

#### 〔講義のすすめ方〕

要点を板書し、解説を加える。前提となる基礎知識や用語解説等については資料を配布して補うようにする。

#### 〔教材〕

教科書は使用しない。参考図書については必要に応じて紹介する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

定期試験による評価。  
定期試験 100%

#### 〔履修のポイント・注意点〕

美や芸術に関するできるだけ多くの考え方を紹介したいので、授業時間内だけでは十分に説明しきれない事柄も出てくるのが予想される。資料を配布してできるだけ補うようにするが、わからない用語等については自ら調べるように努力してほしい。自分にとって芸術がどのような意味を持つのかを考えながら授業に参加してほしい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

美学の入門となる内容。

#### 〔前提・関連科目 (科目間関連の内容)〕

哲学史、世界史の知識があると理解が深まる。関連科目としては「哲学A/B」「倫理学A/B」があげられる。

科目名	美学B		
単 位	2	開 設	後期
教 員 名	益田 勇一		

#### 〔講義目的〕

近世美学の成立と展開の過程を概観する。認識論の一部門として出発した美学は、次第に学問としての独立性を獲得していくが、ニーチェに到って伝統的美学は解体され、多様な方向性を示す20世紀の美学へと引き継がれる。秩序立てて、論理的に思考する習慣を獲得するとともに、自分自身にとって美や芸術がどのような意味を持ちうるのか、社会においてそれらがどのような役割を果たしうるのかを考察するための基礎を構築することを目指す。

#### 〔講義内容〕

1. 17世紀という時代  
近世の幕開け—デカルトとガリレオー
2. バウムガルテン(1)  
感性的認識の学としての美学
3. バウムガルテン(2)  
美と完全性
4. カント(1)  
先験的感性論／先験的分析論
5. カント(2)  
美的判断の特色（無関心の満足）
6. カント(3)  
美的判断の特色（主観的普遍妥当性）
7. カント(4)  
美的判断力の特色（目的なき合目的性／範例的必然性）
8. ロマン主義の芸術観(1)  
市民革命とロマン主義
9. ロマン主義の芸術観(2)  
シュレーゲル兄弟
10. ロマン主義の芸術観(3)  
ノヴァーリス（象徴としての詩）／ヘルダーリン
11. ヘーゲル  
絶対者／弁証法／芸術の歴史的展開
12. ニーチェ(1)  
永遠回帰と芸術
13. ニーチェ(2)  
力への意志と芸術／芸術の生理学
14. ハイデガー  
存在者の存在の開示としての芸術

#### 〔講義のすすめ方〕

要点を板書し、解説を加える。前提となる基礎知識や用語解説等については資料を配布して補うようにする。

#### 〔教 材〕

教科書は使用しない。参考図書については必要に応じて紹介する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

定期試験による評価。  
定期試験 100%

#### 〔履修のポイント・注意点〕

美や芸術に関するできるだけ多くの考え方を紹介したいので、授業時間内だけでは十分に説明しきれない事柄も出てくることが予想される。資料を配布してできるだけ補うようにするが、わからない用語等については自ら調べるように努力してほしい。自分にとって芸術がどのような意味を持つのかを考えながら授業に参加してほしい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

近世美学の入門となる内容。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

哲学史、世界史の知識があると理解が深まる。関連科目としては「美学A」「哲学A/B」「倫理学A/B」があげられる。

科目名	比較文化論A		
単位	2	開設	前期
教員名	河合 正男		

#### 〔講義目的〕

諸外国の異なった社会、文化について学ぶことは、我々の視野を広めるばかりでなく、我々自身を、さらには日本という国をより良く理解することにもなる。世界を広く理解し、日本の置かれた立場を認識しておくことは、我々の社会をより一層活力のあるものとして行くためにも重要である。

授業では、前期 (A) 後期 (B) を通じ世界の主要地域の特性及び日本との関係について学び、最終的には学生諸君とともに世界の中で我が日本が目指すべき将来の姿について考えたい。

#### 〔講義内容〕

40年近い外交官生活の中で私が勤務経験した地域、すなわち北米、東南アジア、中東、西欧の4地域につき、前期、後期に分けて講義したい。

前期 (A) においては、統合を進めつつ新たな価値観を模索する西欧社会、及び不安定の続く中東地域について学びたい。アフリカについても適宜触れる。

#### 〔講義のすすめ方〕

講義レジュメを事前に配布するので予習して来ること。

また、講義では受講生の積極的参加を重視し、講義ごとにアンケートを行う。

受講生の意見、質問を受けるとともに、適宜前回講義についての簡単な理解度テストを行う。

#### 〔教材〕

「異文化を知るこころ」世界思想社刊 2000円 + 税

を一つの参考書とするも、学生諸君自身で関係地域の解説書を適宜読んで欲しい。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

定期試験は行わず、小論文形式の期末レポートを全員に課す。

授業の理解度など受講態度及び出席率も評価する。

原則として、3割以上の欠席は不合格とする。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

できるだけ講義対象地域についての解説書や新聞を読み、質問及び意見を準備して来て欲しい。

授業中に発言する機会を得られなかった場合には、メモの形で提出していただいで結構である。

#### 〔科目内容の位置付け〕

異文化学習についての入門的科目であるが、世界史についての基本的知識を持つと共に、講義対象地域について関心を持って考えていく姿勢が重要である。

科目名	比較文化論B		
単位	2	開設	後期
教員名	河合 正男		

#### 〔講義目的〕

諸外国の異なった社会、文化について学ぶことは、我々の視野を広めるばかりでなく、我々自身を、さらには日本という国をより良く理解することにもなる。世界を広く理解し、日本の置かれた立場を認識しておくことは、我々の社会をより一層活力のあるものとして行くためにも重要である。

授業では、前期（A）後期（B）を通じ世界の主要地域の特性及び日本との関係について学び、最終的には学生諸君とともに世界の中で我が日本が目指すべき将来の姿について考えたい。

#### 〔講義内容〕

40年近い外交官生活の中で私が勤務経験した地域、すなわち北米、東南アジア、中東、西欧の4地域につき、前期、後期に分けて講義したい。

後期（B）においては、北米、特に世界の動向に決定的影響力を發揮しようとしているアメリカ、及び、今なお多くの不安定要因を抱えながらも今後世界の中で最も高い成長が見込まれるアジア、特に東アジア地域について学びたい。中南米についても適宜触れる。

#### 〔講義のすすめ方〕

講義レジュメを事前に配布するので予習して来ること。

また、講義では受講生の積極的参加を重視し、講義ごとにアンケートを行う。受講生の意見、質問を受けるとともに、適宜前回講義についての簡単な理解度テストを行う。

#### 〔教材〕

「異文化を知るころ」世界思想社刊 2000円＋税  
を一つの参考書とするも、学生諸君自身で関係地域の解説書を適宜読んで欲しい。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

定期試験は行わず、小論文形式の期末レポートを全員に課す。

授業の理解度など受講態度及び出席率も評価する。

原則として、3割以上の欠席は不合格とする。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

できるだけ講義対象地域についての解説書や新聞を読み、質問及び意見を準備して来て欲しい。授業中に発言する機会を得られなかった場合には、メモの形で提出していただいても結構である。

#### 〔科目内容の位置付け〕

異文化学習についての入門的科目であるが、世界史についての基本的知識を持つと共に、講義対象地域について関心を持って考えていく姿勢が重要である。

科目名	文化人類学A		
単 位	2	開 設	前期
教 員 名	結城 史隆		

### 【講義目的】

文化人類学は「人間」とは何かと考える学問である。したがって、その対象は時間的にはサルからヒトになった約700万年前から、空間的には今この地球上に生きている世界中の人々を含んでいる。

このような多様性をもった「人間」をさまざまな視点から比較考察し、その本質に迫ることをこの講義の目的としている。

「文化人類学A」では、人類の進化の過程や、環境に適応した食糧生産の方法と食生活、さらに家族や結婚などのような社会組織についての講義を行う。世界のさまざまな文化や人間の身近な問題について学びたい人に受講して欲しい。

### 【講義内容】

1. 文化の特徴：（「文化」って何？）
2. 異なる文化へのまなざし：  
（「未開人」を考える）
3. 文化人類学の誕生：  
（「人間」の理解へむけて）
4. フィールドワーク：  
（異文化を調査すること）
5. サルからヒトへ：  
（ヒトはいつ殺人を犯し、あの世を考えるようになったのだろうか？）
6. 採集狩猟民の世界：  
（狩人たちはどのようにして何を獲ってきたのか）
7. 牧畜民の世界：  
（家畜を中心として生活で、彼らは何を食べているのだろうか？）
8. 焼畑耕作民の世界：  
（焼畑耕作って本当に環境破壊なの？）
9. 男と女：（男女の役割について考える）
10. 家族：  
（家族の形にはどんな種類があるのだろうか？）
11. 結婚：  
（あなたにとって結婚とは何ですか。恋愛結婚のほうが世界では少ないのです）
12. 親族：（親戚って誰のこと？）
13. 親族名称：  
（イトコ（従兄弟）は何種類あります

か。一種類だけはあります）

### 14. 交換と贈与：

（あなたはなぜクリスマスやバレンタインデーに贈りものをするの？）

### 【講義のすすめ方】

授業はパワーポイントを使って講義形式をとる。さまざまな地域においてフィールド調査を行っているので、その実体験にもとづいた事例や写真の紹介で理解の手助けとしたい。

講義の最初に前回の講義の重要点を中心としたリアクション・ペーパー（確認のための小テスト）を10分くらいで書いてもらう。自分の手書きノートのみを参照可とする。毎回集中してポイントを整理してノートを取り、理解を深めることが必要となる。（小テストのときにコピーの持込んだ人はその場で受講失格となる。）遅刻してリアクション・ペーパーを書けなかった場合は、欠席扱いとなるので注意。

### 【教 材】

特になし

### 【成績評価の方法・基準】

全回出席することを大前提とする

したがって、第1回目から必ず出席すること。やむを得ず欠席した場合は、その理由と欠席した講義の内容を要約した「欠席理由書」を提出してもらう。（友人などに話を聞き、ノートを見せてもらって書くこと。）

成績評価は講義内容の理解度を重要視し、毎回のリアクションペーパーに対する回答の点数の合計によってのみ行う。合計点数が基準点に達しないと、毎回出席していても途中で失格になるので注意。（中間発表で成績評価を掲示する。）とにかく、講義内容の理解度を評価の中心にするので、ただ出席しているだけでは意味がない。「欠席理由書」が提出されないと原則として失格となる。

また、「欠席理由書」を提出した場合でも、点数は0点になるので、総合評価において不利になるので注意。

定期試験、再試験、追試験、成績不良救済のためのレポート提出などは一切行わない。

最上級生であっても特別扱いはしないので、該当者はそのことを承知の上で履修すること。

**〔履修のポイント・注意点〕**

講義はできるだけわかりやすくするつもりなので、「人間」の多様性と普遍性を理解し楽しんで欲しい。新しい知識に無関心で、努力も苦労もせずに単位だけを取得したいと安易に考えている人は、受講しないほうがよい。

**〔科目内容の位置付け〕**

特になし

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

特になし

科目名	文化人類学B		
単 位	2	開 設	後期
教 員 名	結城 史隆		

### 〔講義目的〕

文化人類学は「人間」とは何かと考える学問である。したがって、その対象は時間的にはサルからヒトになった約700万年前から、空間的には今この地球上に生きている世界中の人々を含んでいる。

このような多様性をもった「人間」をさまざまな視点から比較考察し、その本質に迫ることをこの講義の目的としている。

人間が他の動物と異なっていることの一つに、言語を持っていること、精神世界、神や来世などの宗教心をもっていることが上げられる。この「文化人類学B」では、人間の言語の特質や広い意味での精神世界を中心に授業を進める。

### 〔講義内容〕

1. 文化人類学の誕生
2. 言語の特質
3. 宗教
4. アニミズム
5. トーテムイズム、マナ、タブー
6. シャーマニズム
7. 病気と伝統医療
8. 呪術
9. 儀礼（1）
10. 儀礼（2）
11. ハレ・ケと祭り
12. 民話、伝説、神話
13. ユダヤ教、キリスト教、イスラム教
14. 日本の仏教と新興宗教

### 〔講義のすすめ方〕

授業はパワーポイントを使って講義形式をとる。さまざまな地域においてフィールド調査を行っているので、その実体験にもつづいた事例や写真の紹介で理解の手助けとしたい。

講義の最初に前回の講義の重要点を中心としたリアクション・ペーパー（確認のための小テスト）を10分くらいで書いてもらう。自分の手書きノートのみを参照とする。毎回集中してポイントを整理してノートを取り、理解を深めることが必要となる。（小テストのときにコピーの持込んだ人はその場で受講失格となる。）遅刻してリアクション・ペーパーを書け

なかった場合は、欠席扱いとなるので注意。

### 〔教 材〕

特になし

### 〔成績評価の方法・基準〕

全回出席することを大前提とする

したがって、第1回目から必ず出席すること。

やむを得ず欠席した場合は、その理由と欠席した講義の内容を要約した「欠席理由書」を提出してもらおう。（友人などに話を聞き、ノートを見せてもらって書くこと。）

成績評価は講義内容の理解度を重視し、毎回のリアクション・ペーパーに対する回答の点数の合計によってのみ行う。合計点数が基準点に達しないと、毎回出席していても途中で失格になるので注意。（中間発表で成績評価を掲示する。）とにかく、講義内容の理解度を評価の中心にするので、ただ出席しているだけでは意味がない。「欠席理由書」が提出されないという原則として失格となる。

また、「欠席理由書」を提出した場合でも、点数は0点になるので、総合評価において不利になるので注意。

定期試験、再試験、追試験、成績不良救済のためのレポート提出などは一切行わない。

【最上級生であっても特別扱いはしないので、該当者はそのことを承知の上で履修すること】

### 〔履修のポイント・注意点〕

講義はできるだけわかりやすくするつもりなので、「人間」の多様性と普遍性を理解し楽しんで欲しい。新しい知識に無関心で、努力も苦勞もせずに単位だけを取得したいと安易に考えている人は、履修しないほうがよい。

### 〔科目内容の位置付け〕

特になし

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

特になし

科目名	社会学A		
単 位	2	開 設	前期
教 員 名	山本 厚太郎		

### 〔講義目的〕

高校までの諸君の勉学は、知識の詰め込みが主体であった。「正しい」とされるものをいかに記憶するかということが優先されてきたのではないだろうか。大学で学ぶということは、それとはかなり異なる（と、私は思いたい）。何よりも問題を提起する力が求められる。どうしても、なぜそうなっているのか？もっと良い方法は？考え方は？ こうした諸君の問いかけこそが次代の進歩を生み出す原動力なのだ。

社会学は現在を見つめる学問である。それゆえ「……ということになっている」とつい見なししてしまうことにも光をあてて考えていく。たとえば家族だ。なぜ我々は主に“核家族”という家族形態で暮しているのか。そのことに疑問を持つ学生は決して多くはないだろう。しかし、この家族の形もちろん社会の、経済の、政治の変遷の影響下にある。その変容を検証し、将来の予測をも打ち立てるところに、この社会学の醍醐味がある。

社会学の根本はつまるところ「個人と社会」の問題を捉え、解析していくところにあるのだ。

ごく当然のように、諸君の周囲に存在する全ての物事が学問の対象となる。

私の講義ではそれを見つめ直していくことによって、現代社会の有り様を把握し、同時に諸君の問いかける力、考える力を高めていきたい。

### 〔講義内容〕

1. 社会学という考え方
2. コトバと私たち
3. コミュニケーションと私たち
4. テレビ（メディア）と私たち
5. 情報社会と私たち
6. まとめ

### 〔教 材〕

教科書 使用せず。プリント配布

参考書 追って指示する。

### 〔成績評価の方法・基準〕

レポートまたはテスト。講義中の積極性も評価する。

### 〔履修のポイント・注意点〕

ビデオや新聞などを利用し、タイムリーなテーマを選んで進めていく。

ひとつのテーマを2週にわたって講義し、諸君と共に考察するスタイルをとる予定なので、1回目を休むと、2回目は内容についていけなくなるおそれあり。

なお、履修希望の学生がここ数年であまりにも増加したため、受講の人数を制限することになりました。御理解下さい。

### 〔科目内容の位置付け〕

基本的な科目である。大学で何を専攻するにしろ、社会学的な考察力は必須であると思う。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

なし。旺盛な知的好奇心のみ。

科目名	社会学B		
単位	2	開設	後期
教員名	山本 厚太郎		

〔講義目的〕

社会学Aを参照して下さい。

〔講義内容〕

1. 社会学とは
2. 家族と私たち
3. 少子高齢化社会と私たち
4. 地域社会と私たち
5. 食と私たち
6. 豊かさと私たち
7. まとめ

〔講義のすすめ方〕

なお、社会学Aを受講した学生が社会学Bを連続して受講する場合、後期の冒頭のみ重複があるのを容赦されたい。ABを通して学んでいくと、現代日本の姿がはっきり見えてくると思う。

〔教材〕

教科書 使用せず。プリント配布  
参考書 追って指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

レポート1回。講義中の積極性も評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

ビデオや新聞などを利用し、タイムリーなテーマを選んで進めていく。  
ひとつのテーマを2週以上に渡って講義し、諸君と共に考察するスタイルをとる予定なので、1回目を休むと、2回目は内容についていけなくなるおそれあり。  
なお、受講学生数の上限を設けることとなりました。御理解をお願いします。

〔科目内容の位置付け〕

基本的な科目である。大学で何を専攻するにしろ、社会学的な考察力は必須であると思う。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

なし。旺盛な知的好奇心のみ。

科目名	法学A		
	私法のしくみ		
単 位	2	開 設	前期
教 員 名	河原 文敬		

#### 〔講義目的〕

法律学の基本的な事項を、私法の分野（民法や商法が主にその分野です）を対象にして説明します。

法律は社会のルールですが、そのルールの意義や現実の機能を知ること、社会関係の多様性を理解してください。そのことは今後の専門科目の学習にとっても有益です。

#### 〔講義内容〕

民法の分野の事例を取上げて説明します。その前提として、国の基本法である憲法の仕組みについても言及します。初めに仮説的な事例を示して、法的な思考の特徴を説明します。下記の項目がその代表的なテーマです。

なお、法学はいくつかの資格試験の科目になっています。資格試験の解説を目的にはしませんが、基本的事項は本講義の内容と重なりますので、そのことを考慮して説明します。

憲法の仕組み（私法制度の位置づけ）  
 契約制度（売買契約を中心に）、債権の担保  
 権利の主体（自然人、法人）、成年後見制度等  
 不法行為（国家賠償法を含む）

#### 〔講義のすすめ方〕

教員が、上記講義の内容に沿って講義をします。

具体的な事例を出しつつ解説します。

#### 〔教 材〕

池田真朗・犬伏由子他著『法の世界へ 第4版』（有斐閣 2006年）

上記文献を教科書として使います。変更の際には掲示で連絡します。

参考文献は、講義中にお知らせします。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

期末試験によって評価します。中間でレポート課題を出すことも予定しています。具体的なことは、受講生の数が確定した時点でお知らせします。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

真面目に学習して下さい。講義に出て教員の話を聴いて下さい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

一般教育科目の一つです。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

高校あるいは中学の「現代社会」「政治経済」の法律に関する知識あるいは関心があれば十分です。他に前提科目はありません。関連科目として法学Bや憲法があります。

科目名	法学B		
単 位	2	開 設	後期
教 員 名	宮原 均		

#### 【講義目的】

社会福祉・教職等に必要な法学の知識のうち、主として憲法・国際法・行政法について講義します。

#### 【講義内容】

憲法は、国家および法制度の土台として位置付けられ、統治のしくみと人権保障の二つに分けられます。統治のしくみについては、主として国家のルールつまり法律を定める国会、国会の定めた法律に従い現実に行政活動を行う内閣、行政の作用が法律にかなっているか、更に法律が憲法に違反していないか事後的にチェックする裁判所の働きが重要です。人権保障については、個人の尊厳を全うして人間らしい一生を送れるために、国家は現在何ができるかを考えることになると思います。

国際法は、国家と国家のルールを定めるもので、主として条約によって形成されます。平和条約や人権規約等が有名ですが、憲法と条約の優劣、条約の国内での効力等の問題があります。

行政法については「法律による行政」という考え方が重要です。私たちが国家権力に接するのはなんと言っても行政の作用です。それだけにその濫用を防止する必要性は高いです。そのためにあらかじめ国民の代表が設定した法律どおりに行政を行わせ、事後的に裁判所がこれをチェックし、法律に違反しているならば無効にするシステムがとられています。講義では、行政の作用がどのようにスタートし、いかなるプロセスを経てその目的を達成しようとするかについて、法律のかかわり方と裁判所による審査の方法を紹介しながら説明したいと思います。

#### 【講義のすすめ方】

法制度を支える歴史や法の適用である裁判例を紹介するなかで、問題解決の決め手となった基礎理論にこだわりたいと思います。

#### 【教 材】

教科書は指定せず、レジュメ等配布しますが、六法（種類問わず）を用意してください。

#### 【成績評価の方法・基準】

レポート等と出席状況を総合的に評価します。

#### 【履修のポイント・注意点】

講座の性質にふさわしい目的意識をもった学生の参加を希望します。

#### 【科目内容の位置付け】

社会生活を送っていくためには、様々な法律の知識が不可欠ですが、本講座では国家権力の問題を扱う公法の分野を扱います。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

民法、刑法

科目名	統計学A		
単 位	2	開 設	前期
教 員 名	沖津 直		

### 〔講義目的〕

現代は高度な情報化社会である。私達のまわりには、いろいろな多くの情報があふれている。政府、官庁、企業、研究所などでも、統計調査によって得られるデータ、多くの業務統計や実験データが収集され、それらをもとに、政策、意志決定、予測が行われている。この情報化の傾向は、ますます拡大され、精密化されていくものと思われる。他方でインターネットなどの情報技術は非常に速いスピードで発達・拡充を続けている。

情報化社会とは、いうまでもなく情報そのものが最も重要な役割をはたし、かつ価値をもつ社会でもある。正確で十分な情報を生かすことができる者が、成長・発展することができよう。これだけ情報の氾濫した社会に生きるわれわれとしては、情報の読み方・考え方の方法を習得することが必要になってくるわけである。

### 〔講義内容〕

1. 序論
2. 統計データのまとめ方
3. 位置の特性値
4. 散らばりの特性値
5. 確率
6. 確率分布

### 〔講義のすすめ方〕

統計学は記述統計学と推測統計学に分けられる。前者では、まず収集されたデータをどのように整理し、生かしていくかを学んでいく。データを度数分布表にまとめ、分布をグラフにする。そして、分布の特性値である平均値、分散、標準偏差、中央値、最頻値、幾何平均などについて学習します。これらの作業・計算を通じて、分布の状態を正確に把握することができる。統計図表の見方、書き方、使い方についても学習します。

次に、確率の考え方、確率の概念、確率の公理、確率計算の基本定理などについて学習する。

### 〔教 材〕

テキスト

「統計学入門」沖津 直著 八千代出版

### 参考書

「統計学」山根太郎著 東洋経済新報社  
「初等統計学」P.G. ホーエル 村上訳  
培風館

### 〔成績評価の方法・基準〕

定期試験の結果 75%  
出席状況、学習態度など 25%

### 〔履修のポイント・注意点〕

統計学は常に自分でデータを扱い図表やグラフを作成し計算し、統計的知識をつみあげていくことが重要である。毎回、宿題や練習問題を解いて、正確に理解することが求められる。

### 〔科目内容の位置付け〕

集団現象の統計的処理には欠かせない科目である。人文、社会、自然科学系のあらゆる分野の学問に使用されている。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提とする科目は特にないけれども、高校卒業程度の数学がわかっている方が理解しやすいし望ましい。しかし、これから学んでいくんだという意欲がもっと重要と思う。

科目名	統計学B		
単 位	2	開 設	後期
教 員 名	沖津 直		

#### 〔講義目的〕

現代は高度な情報化社会である。私達のまわりには、いろいろな多くの情報があふれている。政府、官庁、企業、研究所などでも、統計調査によって得られるデータ、多くの業務統計や実験データが収集され、それらをもとに、政策、意志決定、予測が行われている。この情報化の傾向は、ますます拡大され、精密化されていくものと思われる。他方でインターネットなどの情報技術は非常に速いスピードで発達・拡充を続けている。

情報化社会とは、いうまでもなく情報そのものが最も重要な役割をはたし、かつ価値をもつ社会でもある。正確で十分な情報を生かすことができる者が、成長・発展することができる。これだけ情報の氾濫した社会に生きるわれわれとしては、情報の読み方・考え方の方法を習得することが必要になってくるわけである。

#### 〔講義内容〕

1. 確率分布
2. 二項分布
3. ポアソン分布
4. 正規分布
5. 無作為標本
6. 標本分布
7. 推定
8. 検定
9. 線型回帰分布
10. 相関分析

#### 〔講義のすすめ方〕

統計学Bでは、統計学Aを踏まえて、推測統計を学習する。確率変数の意味と役割、確率分布、期待値、二項分布、ポアソン分布、正規分布、標本分布、t分布、推定、検定、線型回帰分布などについて学習する。

#### 〔教 材〕

テキスト

「統計学入門」 沖津 直著 八千代出版

参考書

「統計学」 山根太郎著 東洋経済新報社

「初等統計学」 P.G. ホーエル 村上訳

培風館

#### 〔成績評価の方法・基準〕

定期試験の結果 75%

出席状況、学習態度など 25%

#### 〔履修のポイント・注意点〕

統計学は常に自分でデータを扱い図表やグラフを作成し計算し、統計的知識をつみあげていくことが重要である。毎回、宿題や練習問題を解いて、正確に理解することが求められる。

#### 〔科目内容の位置付け〕

集団現象の統計的処理には欠かせない科目である。人文、社会、自然科学系のあらゆる分野の学問に使用されている。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提とする科目は特にないけれども高校卒業程度の数学がわかっている方が望ましい。しかし、これから学んでいくんだという意欲がもつと重要と思う。

科目名	心理学A		
	こころと行動		
単 位	2	開 設	前期
教 員 名	神戸 文朗		

### 〔講義目的〕

心理学という広い学問領域の中で、一般教養の心理学として何を伝えるかということはなかなか難しいことです。多くの入門書を見ると、知覚、学習、発達、人格、社会、といった個別領域の紹介に留まっており、それら領域を一人の（あるいは集団としての）人間のもつ多面的な能力や特徴の一部として捉えようとするものは多くはないように思います。そこで、私の心理学A、Bでは、人間とは何かという問題意識を持ち続ける中で各領域の知識を関連付けながら紹介したいと思います。これにより、皆さん自身の中で個別的な知識を超えた総合的な人間観が確立できることを望んでいます。さて、心理学は「こころ」を科学的に研究する学問といわれますが、「こころ」は直接的に見ることも触ることもできません。そこで心理学では従来から人間（より広くは動物）の行動を通して「こころ」を知ろうとしてきました。心理学Aでは、人間にとって行動とはどのような意味を持ち、どのような性質を持っているのか、という問いを中心に講義を展開していくつもりです。これによって人間と他の動物との生物学的機構の共通性が明らかになるでしょう。一方、特定の行動が選択され、特定のタイミングで出現するのは脳内での複雑な情報処理の結果であるといえます。心理学Bでは、環境から入ってくる情報がどのように処理され、どのように貯蔵され、更にはどのように環境からの情報を超えたより高度な情報処理へと進んでいくかを追いかけていこうと思います。これによって、われわれの高度な認知的能力がいかなる方法で実現されているかについて展望できればと思います。

### 〔講義内容〕

行動とは何か  
 反射  
 本能行動  
 意識と行動  
 遺伝と環境  
 行動の獲得  
 条件づけと条件づけ手続き  
 技能学習  
 社会的学習  
 動機づけと情動

生理的欲求  
 情動と本能行動  
 高次の欲求  
 コミュニケーション行動  
 音声  
 表情とジェスチャー  
 社会の中の人間  
 社会化  
 社会的認知  
 態度と説得  
 対人関係  
 集団と個人  
 個人差  
 知能  
 性格とパーソナリティ

### 〔教 材〕

講義内容に示されたテーマ順に、教材を利用しながら説明します。皆さんは熱心にノートを取ることを期待されています。教材としては一般教養の教科書として定評のあった高木編「心理学」の後継書である鹿取・杉本編「心理学第2版」を使おうと思います。同書は説明、図、表等を参照する目的で使用するものであって、講義の進め方は必ずしも同書の配列どおりではありません。その他、必要に応じて図を掲載した資料も教材として配布しようと思います。

### 〔成績評価の方法・基準〕

成績評価は基本的には定期試験の結果に基づきます。判定基準は得られた得点分布に基づきます。

### 〔履修のポイント・注意点〕

熱心にノートをつけることによって人間とはどのような存在なのかという点に更に興味が湧いてくることを期待します。

### 〔科目内容の位置付け〕

基礎領域の心理学。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目はありません。心理学Aと心理学Bで通常の基礎領域の心理学をカバーしているので両心理学を受講することを望みます。認定心理

士資格取得希望者は同一教員の心理学 A (心理学専攻の学生の場合は基礎心理学 A) と心理学 B (心理学専攻の学生の場合は基礎心理学 B) を共に履修する必要があります。日本心理学会では A と B を共に履修した場合に限り A 領域での 4 単位を認めています。

科目名	心理学A		
単位	2	開設	前期
教員名	中谷 陽子		

#### 【講義目的】

現代では、時代の流れや変化の波が急速に訪れるために、新しい能力を身につけ、新たな視点から現実を見つめ、考え方を変化させていく必要に迫られていることを、現代を生きる多くの知識層の人々が実感している。学生の皆にも当然当てはまることであり、大いに同感してほしい。

実際はと考えると、テンポの速い技術革新に注目しやすいが、そうではなく現代社会に適應して行くための方法、つまり学習と経験の重要性を考える立場から物ごとに取り組む姿勢を学んで欲しい。

#### 【講義内容】

「心理学 A」では：

- I 適応力の求められる現代人
- II 学ぶことの喜びと利点
- III 学習の方法
- IV 学生と知的能力

V以下は、後半の「心理学 B」にて継続講義となる。

#### 【講義のすすめ方】

昔から心理学の授業の面白さは、「新たな知識を学んだら、それを検査や実験で試行錯誤しながら、自分達の手で検証してみることにあ

る」と言われてきた。勿論講義が主力であるが、事情の許す限り検査や実験等を実施したいと思う。君たちが一丸となって協力し、積極的に楽しんでくれることを期待する。

#### 【教 材】

テキスト：「学ぶ技術」

アルベルト・オリヴェリオ著

川本英明訳

創元社 2005発 ¥2000+ tax

参考書：「発達と教育の心理学的基礎」

波多野・稲垣（編）

放送大学教育振興会発行

#### 【成績評価の方法・基準】

平常授業の中での実験等への参加状況

出席状況

期末試験

\* 不正出席厳禁

#### 【履修のポイント・注意点】

多学部に向けて開講されることを考えているが、学年に関わりなく、心理学 A,B を通して履修することを薦めたい。

#### 【科目内容の位置付け】

また、受講生の所属学部をもとに考えると、教育学部の学生には、現代を賢く生き抜くために、また幼児から高校生までの子ども達に「学習方法」を教えるために、そして自らも力量のある指導者の役割を果たすために勉強して欲しい。特に法学部学生には混沌とした社会をまとめる力量をつけるために、学んで欲しい。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

特になし。

\* 心理学関係の資格を取得したい学生にとって、関連科目であるか否かは確認してから履修して欲しい。

科目名	心理学A		
	日常の心理学		
単位	2	開設	前期
教員名	伊東 孝郎		

#### 〔講義目的〕

心理学は、人の行動、感覚、思考、感情のプロセスを理解するための理論的枠組みを提供するという、地道な研究に基づいた科学であり、学問である。もちろん、こうした「枠組み」から発展して、実践に役立つさまざまな「〇〇心理学」も存在するが、理論の裏づけがなければ用をなさない。

本講義の目的は、ふだん生活の中で経験するさまざまなモノゴトをテーマに、我々がそれをいかにとらえ、感じ、考え、行動しているか、あるいはしていないかについて、心理学という学問の成果を借りて、冷静に把握できるようになることである。

#### 〔講義内容〕

1. 日常の心理学とは
2. 心理学の歴史
3. 知覚－五感で感じること
4. 知覚－目の錯覚ゲーム
5. 知覚－見えないはずのものが見えたりすること
6. 感情－心で感じること
7. 感情－キレル自分と我慢する自分
8. 思考－無精しないで考えること
9. 思考－おかしなあなたの思い込み
10. 学習－学ぶということ
11. 学習－洗脳の恐怖
12. 発達－一年をとるということ
13. 笑いについて
14. まとめ
15. 定期試験

#### 〔講義のすすめ方〕

毎回、基本的な心理学の知識を紹介する。その知識を、日常の生活の中で役立つ「知」へと展開するため、受講生に主体的に考えてもらい、創造性に富んだ双方向のやりとりを重視しながら、講義を進める。

#### 〔教材〕

鈴木康明他編、「はじめて学ぶ心理学」、北樹出版、2006

#### 〔成績評価の方法・基準〕

成績は、学期末の試験（50％）と出席状況（50％）による。なお、出席に関する不正が発覚した場合には、厳しく対処する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

旺盛な知的好奇心をもち、講義内容について自分でも考える習慣を身につけて、積極的な行動に結びつけていただきたい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

大学生としての基礎教養、そしてモノを考える際の多様な視点を育てるトレーニング。また、認定心理士資格取得の必修科目（基礎科目：心理学概論）である。

心理学専攻の学生は「基礎心理学A」と内容が重なる部分が多いので、そちらを受講すること。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目は特にないが、心理学Aと心理学Bで通常の基礎領域の心理学をカバーしているので、両心理学を受講することを望む。特に、認定心理士資格取得希望者は、同一教員の心理学Aと心理学Bを共に履修すること。

科目名	心理学B		
	私たちの認知能力		
単位	2	開設	後期
教員名	神戸 文朗		

### 〔講義目的〕

心理学という広い学問領域の中で、一般教養の心理学として何を伝えるかということはなかなか難しいことです。多くの入門書を見ると、知覚、学習、発達、人格、社会、といった個別領域の紹介に留まっており、それら領域を一人の（あるいは集団としての）人間のもつ多面的な能力や特徴の一部として捉えようとするものは多くはないように思います。そこで、私の心理学A、Bでは、人間とは何かという問題意識を持ち続ける中で各領域の知識を関連付けながら紹介したいと思います。これにより、皆さん自身の中で個別的な知識を超えた総合的な人間観が確立できることを望んでいます。さて、心理学は「こころ」を科学的に研究する学問といわれますが、「こころ」は直接的に見ることも触ることもできません。そこで心理学では従来から人間（より広くは動物）の行動を通して「こころ」を知ろうとしてきました。心理学Aでは、人間にとって行動とはどのような意味を持ち、どのような性質を持っているのか、という問いを中心に講義を展開していくつもりです。これによって人間と他の動物との生物学的機構の共通性が明らかになるでしょう。一方、特定の行動が選択され、特定のタイミングで出現するのは脳内での複雑な情報処理の結果であるといえます。心理学Bでは、環境から入ってくる情報がどのように処理され、どのように貯蔵され、更にはどのように環境からの情報を超えたより高度な情報処理へと進んでいくかを追いかけていこうと思います。これによって、われわれの高度な認知的能力がいかなる方法で実現されているかについて展望できればと思います。

### 〔講義内容〕

感覚と知覚  
 感覚の種類  
 視覚とその目的  
 様々な視覚現象  
 認知障害  
 記憶  
 短期記憶と長期記憶  
 宣言的記憶と非宣言的記憶  
 記憶障害  
 言語

文の構造  
 言語野  
 言語障害  
 思考  
 スキーマ  
 知識とイメージ  
 問題解決  
 思考の座

### 〔教材〕

講義内容に示されたテーマ順に、教材を利用しながら説明します。皆さんは熱心にノートを取ることを期待されています。教材としては一般教養の教科書として定評のあった高木編「心理学」の後継書である鹿取・杉本編「心理学第2版」を使おうと思います。同書は説明、図、表等を参照する目的で使用するものであって、講義の進め方は必ずしも同書の配列どおりではありません。その他、必要に応じて図を掲載した資料も教材として配布しようと思います。

### 〔成績評価の方法・基準〕

成績評価は基本的には定期試験の結果に基づきます。判定基準は得られた得点分布に基づきます。

### 〔履修のポイント・注意点〕

熱心にノートをつけることによって人間とはどのような存在なのかという点に更に興味が湧いてくることを期待します。

### 〔科目内容の位置付け〕

基礎領域の心理学。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目はありません。心理学Aと心理学Bで通常の基礎領域の心理学をカバーしているので心理学を受講することを望みます。認定心理士資格取得希望者は同一教員の心理学A（心理学専攻の学生の場合は基礎心理学A）と心理学B（心理学専攻の学生の場合は基礎心理学B）を共に履修する必要があります。日本心理学会ではAとBを共に履修した場合に限りA領域での4単位を認めています。

科目名	心理学B		
	〔現代人は生涯、学習し続ける〕		
単位	2	開設	後期
教員名	中谷 陽子		

**【講義目的】**

講義の目指すところは、心理学Aの解説と同一である。

さらに心理学Bでは、心理学を応用して多くのことを学習する力を修得して欲しい。学習のメカニズムを知ることは、学習方法を学ぶうえでのkeyになると考えて、履修生は自らを事例の対象とし、柔軟な理解力のもと、人間の認知活動つまり思考力をいかに上手に育て、教えていくかを講義の目的とする。

る。

**【講義内容】**

I－IVは、心理学Aにて解説している。

V思考のスタイル

VIより確かに学ぶための方法

VII「学習困難」の受け入れ支援

VIII変化する世界に適応し続ける人生

\* 講義内容の詳細は授業時に提示する。

**【講義のすすめ方】**

基本的には「心理学A」をさらに発展させるものである。

講義の目的の解説で述べているように、より具体的な生活者である学生自身や仲間を考察の対象に位置づけて考察を進めたい。

**【教 材】**

テキスト・参考書は、心理学Aと同じである。

テキスト：「学びの技術」

参考書：「発達と教育の心理学的基盤」

**【成績評価の方法・基準】**

授業内の学習活動状況

小レポート

期末試験

出席状況

**【科目内容の位置付け】**

心理学Aにおいて述べたように、学生諸君が各学部で研鑽している内容を、本講義が基礎的に、さらに応用的に補足できることを期待す

科目名	心理学B		
	日常の心理学		
単位	2	開設	後期
教員名	伊東 孝郎		

#### 〔講義目的〕

「心理学A」と同様、本講義においても、受講生各自が実践的な心理学の「知」を探求し、掘り下げ、自分なりの方法で日常生活にフィードバックできるようになることを目的とする。

「心理学A」に比して、専門性がやや高い心理学のさまざまな領域をとり扱う。

#### 〔講義内容〕

1. 人格心理学－親の顔が見たい
2. 人格心理学－自分の性格を知ること
3. 人格心理学－血液型占いの嘘
4. 社会心理学－グループについて
5. 社会心理学－差別について
6. 教育心理学－いま学校で何が起きているか
7. 臨床心理学－あの人のことがわからないとき
8. 臨床心理学－悩めるあの人の話を聴くには
9. 交流分析－自分の中のいろいろな顔
10. 交流分析－人とのやりとりがわかる
11. 精神分析－気づかないうちに何をしているのか
12. 精神分析－夢から得られること
13. 精神分析－社会で起きていることを深読みする
14. まとめ
15. 定期試験

#### 〔講義のすすめ方〕

「心理学A」よりもやや専門性の高い、心理学の知識を紹介する。その知を、日常生活の中で役立つ「知」へと展開するため、受講生には、より積極的な講義への参加を求める。

#### 〔教材〕

鈴木康明他編、「はじめて学ぶ心理学」、北樹出版、2006

#### 〔成績評価の方法・基準〕

成績は、学期末の試験（50％）と出席状況（50％）による。なお、出席に関する不正が発覚した場合には、厳しく対処する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

旺盛な知的好奇心をもち、講義内容について自分でも考える習慣を身につけて、積極的な行動に結びつけていただきたい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

「心理学A」と同様、大学生としての基礎教養、そしてモノを考える際の多様な視点を得るトレーニング。

また、認定心理士資格取得の必修科目（基礎科目：心理学概論）である。

心理学専攻の学生は、「基礎心理学B」と内容が重なる部分が多いので、そちらを受講すること。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目は特にないが、心理学Aと心理学Bで通常の基礎領域の心理学をカバーしているので、両心理学を受講することを望む。特に、認定心理士資格取得希望者は、同一教員の心理学Aと心理学Bを共に履修すること。

科目名	社会心理学A		
	対人関係の基礎を学ぶ		
単位	2	開設	前期
教員名	細田 一秋		

#### 〔講義目的〕

群れから迷いでた羊は、ヒツジではないといわれます。恐怖心から、ヒツジとして行動できないのです。ヒトもまた、そうです。人はなによりも社会的存在なのです。だから、ガラス・ケースのなかの1個のヒトを観察しても、人は見えません。寄り添いながら暮らす人びと、ともに働く人びとを、その関係のなかで見るのが、人の理解なのです。

講義では、人を求め絆を結ぶあなたを、対人心理の分野から探ります。あなた自身の人間関係が見直せるように、講義のなかで社会心理学的な方法論・ものの見方を修得してほしいと思います。単位を無事に取得するだけでなく、あなたがこの学問を好きになることを、願っています。

#### 〔講義内容〕

1. 社会心理学の基礎：「社会心理学とは何か」を心理学のなかでの位置、研究法、成果から概説します。
2. 社会的行動のメカニズム：「社会的行動はいかに実現するか」、その行動のメカニズムを動物行動学、学習理論（古典的条件づけならびにオペラント条件づけ）から考察します。
3. 対人心理：上述の基礎事項を踏まえ、生活場面での対人心理を考えます。「人はなぜ人を好きになるのか」をテーマに、親和行動、対人魅力、友人選択、社会的促進、同調行動、リーダーシップ行動などの諸研究を紹介します。

#### 〔講義のすすめ方〕

受講者数との関係から、講義形式を採らざるを得ないでしょう。でも、教室では活発な意見交換を期待します。教科書は使用しません。参考図書を下に記しましたので、積極的に活用して下さい。

#### 〔教材〕

教科書：使用しません。講義中に板書された内容が教科書といえるでしょう。  
参考書：分野別参考図書をあげておきます。興味が湧きましたら、図書館などで参照してみてください。

ください。

- 「トピックス・こころのサイエンス」  
青柳・瀧本・杉山・矢澤 福村出版1995円
- 「グラフィック学習心理学ー行動と認知」  
香木、山内 サイエンス社2550円
- 「人間関係の心理学」 斉藤勇 誠信書房  
2200円
- 「新・くらしの社会心理学」 小川一夫  
福村出版2310円
- 「現代社会心理学」 末永、安藤  
東京大学出版会3000円
- 「社会心理学キーワード」 山岸俊男  
有斐閣1600円

#### 〔成績評価の方法・基準〕

評価方法：試験を1回、学期末に実施します。ただし、2/3以上出席した学生のみ受験資格をあたえます。

判定基準：試験の得点で、成績を評価します。不熱心な学生が単位を得ることは「駱駝が針の目をくぐり抜けるより難しい」と理解しておいて下さい。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

履修のポイント：社会心理学はあなた自身を研究対象とする学問です。自分の行動をいつも意識（反省）する癖をつけましょう。そして、各回に学んだ知見を、自分を材料に確かめて下さい。講義の理解と「人をみる眼」とが格段に進歩します。

注意点：出席を毎回チェックします。単位を得るには2/3以上の出席が必要です。教科書を用いませので、教室では細心の注意を払ってノートを探して下さい。欠席や私語などからノートが不備になると、試験に際してとても不利です。こころしてください。

#### 〔科目内容の位置付け〕

家庭・地域社会・学校・会社という人間関係の大海に、私たちは生きています。社会心理学はこの海でのとても実用的な舟といえます。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目：特にありません。「心理学」をすでに学んでいれば申し分ありません。

関連科目：基礎科目として「心理学」の受講を薦めます。職場における実践的な対人関係を「産業心理学」で学べます。「経営組織論」では組織行動が起こるシステム環境が理解されます。マスとしての既存社会は強烈な行動決定因です。社会が私たちをどう育み・歪めるか「社会学」で学んで下さい。

科目名	社会心理学B		
	モチベーションを学ぶ		
単 位	2	開 設	後期
教 員 名	細田 一秋		

### 【講義目的】

「すべての学問は人間の理解を目指す」と言われます。「人間とは何か？」を解くために、さまざまな学問が誕生しました。あなたが学ぼうとしている社会心理学も、その1つです。講義では、社会のなかで欲求し願望を実現してゆくあなたを、「モチベーション」を軸に探つてゆきます。

「あなたは誰か？」を決定するのは、名前でも所属でもありません。あなたらしい行為です。なにを恐れ喜ぶか、なにを求めどう行動するか。この振る舞いが、あなた自身なのです。なぜそう振る舞うのか？モチベートされるが故にです。モチベーションはあなたのマネージャーです。家庭、学校、職場で、あなた自身をマネジメントしている諸モチベーションについて、社会的動機論の立場から理解してほしいと思います。

### 【講義内容】

1. モチベーションの基礎：「モチベーションとは何か」を、社会心理学のなかでの位置づけ、メカニズム（機能と構造）より概説します。
2. モチベーションの種類：「生理的動機」「内発的動機」「社会的動機」の3カテゴリーを詳説します。
3. 対人モチベーション：上述の「社会的動機」のなかより、対人行動に関わるモチベーションをとり上げます。「援助動機」や「攻撃動機」について、さまざまな角度から考えてゆきます。
4. ワーク・モチベーション：組織や職場での作業意欲について学びます。実体理論と過程理論別に、ワーク・モチベーションの諸理論を紹介します。

### 【講義のすすめ方】

受講者数との関係から、講義形式を採らざるを得ないでしょう。でも、教室では活発な意見交換を期待します。教科書は使用しません。参考図書を下に記しましたので、積極的に活用して下さい。

### 【教 材】

教科書：使用しません。講義中に板書された内容が教科書といえるでしょう。

参考書：分野別参考図書をあげておきます。興味が湧きましたら、図書館などで参照してみてください。

「トピックス・こころのサイエンス」

青柳・瀧本・杉山・矢澤 福村出版1995円

「ヒューマン・モチベーションー動機づけの心理学」B.ワイナー 金子書房4900円

「動機づけの基礎と実際」加川元通 川島書店 4400円

「人間関係の心理学」斉藤勇

誠信書房2200円

「現代社会心理学」末永、安藤

東京大学出版会3000円

「社会心理学キーワード」山岸俊男

有斐閣1600円

「産業・組織心理学入門」岡村一成

福村出版2520円

### 【成績評価の方法・基準】

評価方法：試験を1回、学期末に実施します。ただし、2/3以上出席した学生のみ受験資格をあたえます。

判定基準：試験の得点で、成績を評価します。不熱心な学生が単位を得ることは「駱駝が針の目をくぐり抜けるより難しい」と理解しておいて下さい。

### 【履修のポイント・注意点】

履修のポイント：社会心理学はあなた自身を研究対象とする学問です。自分の行動をいつも意識（反省）する癖をつけましょう。そして、各回に学んだ知見を、自分を材料に確かめて下さい。講義の理解と「人をみる眼」とが格段に進歩します。

注意点：出席を毎回チェックします。単位を得るには2/3以上の出席が必要です。教科書を用いませので、教室では細心の注意を払ってノートを探して下さい。欠席や私語などからノートが不備になると、試験に際してとても不利です。こころしてください。

### 〔科目内容の位置付け〕

家庭・地域社会・学校・会社という人間関係の大海に、私たちは生きています。社会心理学はこの海でのとても実用的な舟といえます。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目：特にありません。すでに「心理学」を履修されていれば、理解しやすいと思います。

関連科目：基礎科目として「心理学」の受講を薦めます。職場における実践的な対人関係を「産業心理学」で学べます。「経営組織論」では組織行動が起こるシステム環境が理解されます。マスとしての既存社会は強烈な行動決定因です。社会が私たちをどう育み・歪めるか「社会学」で学んで下さい。

科目名	政治学A		
	現代政治史（前）		
単位	2	開設	前期
教員名	三浦 颯一郎		

〔講義目的〕

1988年から1998年の日本の政治と国際環境の変化を学ぶ。

る)。

〔講義内容〕

第一部 現代政治の前提

- 01 冷戦の終焉：冷戦とは何だったのか？
- 02 冷戦の終焉：冷戦終結後の国際政治
- 03 湾岸戦争が変えた日本の政治
- 04 経済成長の終焉：戦後日本の経済成長
- 05 経済成長の終焉：バブル崩壊
- 06 自民党一党支配の終焉：戦後日本の政治構造
- 07 自民党一党支配の終焉：自民党分裂の政治過程

第二部 細川内閣から橋本内閣まで

- 08 細川護熙内閣：小選挙区比例代表並立制の政治学的考察
- 09 羽田孜内閣：非自民の迷走
- 10 村山富一内閣：自社連立の政治史的含意
- 11 橋本龍太郎内閣（1）：行政改革の政治過程
- 12 橋本龍太郎内閣（2）：構造改革のドラマ トゥルギー
- 13 グローバリゼーションと日本政治の対応
- 14 討論と質疑応答

〔講義のすすめ方〕

基本的に講義形式で進める。第14回は、それまでの授業内容に関する、学生による討論と講義担当者に対する質疑応答の時間に当てる。

〔成績評価の方法・基準〕

討論における参加態度と定期試験の成績を総合して成績評価を行う。  
成績評価に当たっては相対評価を行う。その基準は、総合成績の上位約30%がA（そのうち5%程度がS）、中位約40%がB、下位約30%がC以下である。成績評価対象者は、出席6割以上かつ総合成績6割以上のものである。

〔履修のポイント・注意点〕

真摯かつ積極的な態度で授業に臨むこと。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

政治学B（政治学Aに続く時代を扱ってい

科目名	政治学B		
	現代政治史（後）		
単位	2	開設	後期
教員名	三浦 顕一郎		

#### 〔講義目的〕

1998年から2008年の日本の政治と国際環境の変化を学ぶ。

#### 〔講義内容〕

- 01 グローバリゼーションと日本政治の変化
- 02 小渕恵三内閣：財政出動と保守改革
- 03 ネオ・リベラリズムとは何か？
- 04 ケインズ主義と福祉国家路線
- 05 小泉純一郎内閣：構造改革とは何だったのか？
- 06 小泉純一郎内閣：9・11の政治史的意味
- 07 小泉純一郎内閣：首相の靖国参拝をどう考えるか
- 08 小泉純一郎内閣：郵政民営化のドラマトルギー
- 09 日本とアジア
- 10 政治とマス・メディア
- 11 安倍晋三内閣：安倍内閣の政治史的位罜
- 12 安倍晋三内閣：教育基本法改正の国際環境
- 13 福田康夫内閣：階層間格差と地域間格差
- 14 討論と質疑応答

#### 〔講義のすすめ方〕

基本的に講義形式で進める。第14回は、それまでの授業内容に関する、学生による討論と講義担当者に対する質疑応答の時間に当てる。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

討論における参加態度と定期試験の成績を総合して成績評価を行う。

成績評価に当たっては相対評価を行う。その基準は、総合成績の上位約30%がA（そのうち5%程度がS）、中位約40%がB、下位約30%がC以下である。成績評価対象者は、出席6割以上かつ総合成績6割以上のものである。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

真摯かつ積極的な態度で授業に臨むこと。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

政治学A（政治学Bに先立つ時代を扱っている）。

科目名	情報社会科学A		
	情報ネットワーク化時代の基本思考		
単 位	2	開 設	前期
教 員 名	森川 信男		

#### 【講義目的】

私達を取り巻く社会は、特にここ四半世紀における情報化の進展、とりわけデータベース化、ネットワーク化、マルチメディア化、ブロードバンド化、ユビキタス化の展開にともなって、大きな変革と革新を強く迫られてきている。

本講義では、社会における情報化の進展、すなわち情報技術の革新と情報思考の展開について、特に「システムと情報：情報ネットワーク化時代の基本思考」についての基礎的な知識と理解を深める。

#### 【講義内容】

1. システムに対する感觸
2. システム概念の本質
3. システムの基本概念
4. システム概念の特性
5. システム構成の特性
6. ネットワーク概念の本質
7. 情報の基本概念
8. 情報の価値特性
9. 一般システム理論の本質と意義

#### 【講義のすすめ方】

本講座では、以上の如き内容の講義を行なうが、授業は毎時間「参加共創型」方式で実施する。情報技術の発展に関しては、ビデオを活用した授業となる。

#### 【教 材】

森川信男著『システムと情報—情報ネットワーク化時代の基本思考—』学文社、2005年。

#### 【成績評価の方法・基準】

授業への出席と参加を重視する。「平常小テスト (50%)」と「期末小テスト (50%)」によって評価する。

#### 【履修のポイント・注意点】

なし

#### 【科目内容の位置付け】

現代社会において、職業生活と日常生活を遂行していくための基礎的な科目である。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

特別にはないが、社会における情報化の進展に関する基礎的な知識は、今日では大抵の科目にとってきわめて重要な事柄である。

情報社会科学Bと一緒に履修することが望ましい。

科目名	情報社会科学B		
	情報ネットワーク化時代のワークプレイス		
単 位	2	開 設	後期
教 員 名	森川 信男		

#### 〔講義目的〕

私達を取り巻く社会は、特にここ四半世紀における情報化の進展、とりわけデータベース化、ネットワーク化、マルチメディア化、ブロードバンド化、ユビキタス化の展開にともなって、大きな変革と革新を強く迫られてきている。

本講義では、社会における情報化の進展、すなわち情報技術の革新と情報思考の展開について、特に「オフィスとテレワーク：情報ネットワーク化時代のワークプレイス」についての基礎的な知識と理解を深める。

#### 〔講義内容〕

1. オフィスの変革と革新
2. ワークプレイスの設計形態から見た多様化
3. ワークプレイスの使用形態から見た多様化
4. ワークプレイスの立地形態から見た多様化
5. ワークプレイスの存在形態から見た多様化
6. 情報ネットワーク化と在宅化
7. テレワークの本質的意味
8. テレワークの必要性と必然性
9. テレワークの光と影

#### 〔講義のすすめ方〕

本講座では、以上の如き内容の講義を行なうが、授業は毎時間「参加共創型」方式で実施する。情報技術の発展に関しては、ビデオを活用した授業となる。

#### 〔教 材〕

森川信男著『オフィスとテレワークー情報ネットワーク化時代のワークプレイスー』学文社、2005年。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

授業への出席と参加を重視する。「平常小テスト（50%）」と「期末小テスト（50%）」によって評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

なし

#### 〔科目内容の位置付け〕

現代社会において、職業生活と日常生活を遂行していくための基礎的な科目である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

特別にはないが、社会における情報化の進展に関する基礎的な知識は、今日では大抵の科目にとってきわめて重要な事柄である。

情報社会科学Aと一緒に履修することが望ましい。

科目名	日本国憲法		
	憲法を考える上で、「重要なことは何なのか？」を探る。		
単位	2	開設	後期
教員名	小野 義典		

#### 〔講義目的〕

本講義の目標は、日本国憲法の本質を理解することにある。憲法の本質の理解に当って、その必要となる事柄を、教授することを予定している。具体的には、憲法上の諸問題、憲法判例、様々な学説などを交えながら講義を進めることである。また同時に、教養ある大学人の育成と、教員採用試験への対策を行うことも、考えている。

本講義の概要は、第一に、憲法の史的展開（憲法史・立法過程を含む制定経緯など）、第二に、日本国憲法の三大原理である、国民主権・平和主義・基本的人権の尊重を中心に、日本国憲法を概観すること、第三に、日本国憲法が我が国の実社会に対して、どのような影響を与えているのかを考える、という三点にある。

講義に際して、教員は、平易な言葉で、分かりやすく、かつ、双方向の対話を心掛ける。

#### 〔講義内容〕

講義内容は以下の通りであり、順番に進めていく予定である。

1. オリエンテーション（開講に当っての説明、講義概観）とイントロダクション（講義導入）

講義を受講する際の注意事項等を伝達する。また、憲法を学ぶ際の重点を講義する。

2. 憲法史

日本国憲法が制定されるまでの経緯を概観する。また、憲法の問題が生じた欧米の思想を教授する。

3. 日本国憲法上論、前文

上論、前文についての法規規範性、裁判規範性などを考え、大日本帝国憲法との比較も行う。

4. 天皇

国民主権と天皇の関係、象徴天皇制の問題、天皇の国事行為など、憲法上の諸規定を講義する。

5. 平和主義

「戦力」についての学説を理解し、また、国際協調主義と平和主義の整合性などと共に、統治行為論も検討する。

6. 基本的人権（1）人権総論・国民の権利義務

人権保障の歴史と、日本国憲法の人権保障について、権利義務関係と保障範囲を考える。

7. 基本的人権（2）包括的人権・平等権

幸福追求権と平等原則、平等権について、学説や判例を交えて考える。

8. 基本的人権（3）自由権・社会権

人権の中でも、歴史のある自由権と、生存権を中心とした社会権を、判例を通じて理解する。

9. 基本的人権（4）新しい人権・受益権

新しい人権であるプライバシー権や名誉権、また、受益権などを理解する。

10. テーマ別講義

憲法上の諸問題で、受講者の関心が比較的高かった問題や、直近の事例について、判例や学説を検討する。

11. 三権分立

統治の機能である、司法（特に裁判所）・立法（特に国会）・行政（特に内閣）のしくみを理解する。

12. 選挙・政党

民主政の主要なアクターである政党について、選挙の役割と選挙制度を併せて理解する。

13. 財政・地方自治

国家財政の制度、続いて、地方自治の本旨を理解する。

14. 最高法規性

最高法規としての憲法の役割、及び、憲法と条約の関係などを理解する。

※講義の内容は、場合によって、多少の変動もありうることを了解されたい。

#### 【講義のすすめ方】

教員の黒板（ないしはホワイトボード）への要点板書、及び口述筆記により講義を進行させる予定である。講義は、教科書の各章を基準として進む。日本国憲法の条文にも言及することが多々ある。従って、教科書の所持が必須である。また、講義中、受講者は、教員の板書と並んで、教員が述べる、講義の重要部分に関して、詳細にノートして欲しい。講義進行の詳細を、第一回目の講義の際に述べる。

なお、常識の範疇であろうから、当シラバスに書くことが躊躇われるのだが、講義に際して「私語厳禁」なのは、当然中の当然であるので、もし仮に私語がなされた場合、「退席」や「定期試験受験不可」などの不利益は、覚悟しておいて欲しい。他者への迷惑行為は、以ての外であることを認識しておいて欲しい。

また、座席は指定しないものの、黒板（ないしはホワイトボード）に向かって、前方から座席につくことを強く要求する。後方に座っている者は、教員が当人に対して、かなりの頻度で「当てる」こともあるので、そのつもりでいて欲しい。

#### 【教 材】

##### <教科書>

野畑健太郎・池田実編著『テキストブック日本国憲法』（嵯峨野書院）

##### <参考書>

抱喜久雄・野畑健太郎・吉川智編『新・初めての憲法』（法律文化社）

※参考文献を、講義中に幾つか推薦する。さしあたり、百地章『憲法の常識 常識の憲法』（文春新書）を挙げる。

なお、どうしても憲法が苦手である、という意識を持っているのであれば、学研編『大人のドリル イチからわかる日本国憲法』（学習研究社）を一読しておくといい。「ドリル」なぜ、子供じみている、と思わないように。「千里の道も一歩から」とも言う。さらに、西修監修『日本国憲法が驚くほどよくわかる本』（ワニブックス）も、苦手意識のある場合には良いかも知れない。本書は、本体の半分は漫画で構成されている。

※憲法関係のものに留まらず、さまざまな書籍や新聞・雑誌等の活字に親しむことが望ましい。

#### 【成績評価の方法・基準】

成績評価は、期末試験の点数で評価を行う。点数配分は、期末試験100点を満点とするものである。期末試験の未受験者に、教員は、成績評価を行わない。期末試験受験が成績評価の条件となるので、十分注意すること。但し、出席点、レポートをはじめとする提出物も成績評価に加味することがある。評価方法の詳細を、第一回目の講義の際に述べるので、出席のこと。

なお、これも常識の範疇であろうから、当シラバスに書くことが非常に躊躇われるのだが、成績に関して、「今まで出席していませんでしたけれども、試験を受けられますか？」とか「何とか単位を下さい！」などという、泣き言繰り言が通用するはずがないので、了解しておいて欲しい。

さらに、「出席の点数を多くして下さい」という要望も、いくつか寄せられるのであるが、出席は、して当然である。出席するも、しないも、自己の判断に任せられているだけのものである。また、ただ漫然と出席「だけ」すれば良いはずがないのである。本来であれば、点数をつける必要すらない、とも考えられるのである（だからこそ、上記のように、加味する「ことがある」のであって、本講義の成績評価は、期末試験でのみ評価する）。大学は、自由な場所であり、そして同時に、自己責任が伴う場所であることを自覚して欲しい。

#### 【履修のポイント・注意点】

評価方法でも述べた通り、期末試験受験が成績評価の条件となるので、注意すること。

#### オフィス・アワー：

教員への連絡を行いたい場合は、講義前後にコンタクトを取るか、あるいは、教員メールアドレス宛にメールを送信すること。なお、シラバスがWEB上にて公開になっている関係上、メールアドレスを記載することが出来ないのので、第一回目の講義の際に、受講者に直接伝える。

#### 【科目内容の位置付け】

全学年を対象としている。もちろん、1年生からでも履修出来るように配慮しているので、安心して欲しい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

特になし。法学の初学者であることを前提にして、講義を進める。

但し、社会科学の基礎となる知識を要求する科目である関係上、中等教育で培ったはずの、「公民」や「日本史」「世界史」「政治経済（政治分野）」の知識が必要になることが多分にある。良い機会であるから、これまで学んだ知識をまとめる意味でも、もう一度見直すことも検討して欲しい。

また、時事問題にも触れる機会が多くなることが予想されるので、普段から、新聞・雑誌・TVなどで、問題意識を持ってニュースに触れることが望ましい。

科目名	日本国憲法		
単 位	2	開 設	後期
教 員 名	宮原 均		

〔講義目的〕

国家権力のあり方及び人権保障の内容について、最高法規である日本国憲法に基づいて検討する。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

民法、刑法、刑事訴訟法、行政法

〔講義内容〕

①憲法史、②人権、③統治の3つを柱にする。  
①は、欧米の市民革命から日本国憲法の制定まで、②は、個人の領域・プライバシーの保障を中心に、③は、三権分立と裁判所の違憲法令審査権を中心に講義を行う。

〔講義のすすめ方〕

1. 憲法とは何か
2. イギリスの法思想と近代市民革命
3. 日本の開国から日本国憲法の制定まで
4. 思想の自由と謝罪の強制
5. 信仰を理由とする一般的義務の免除
6. 報道の自由の現代的意義
7. 営業距離制限と新規参入業者の権利
8. 財産権への制約と損失補償
9. 社会権の意義とその内容
10. 犯罪捜査と令状主義
11. 国民主権と選挙権
12. 衆議院の優越と議員の免責特権
13. 司法権の独立と違憲法令審査権
14. 地方自治と条例制定権

〔教 材〕

教科書は使用しない。参考文献として、高野・宮原ほか著『憲法』不磨書房、宮原均著『日米比較 憲法判例を考える』八千代出版

〔成績評価の方法・基準〕

期末試験等および出席状況

〔履修のポイント・注意点〕

現在、自分にはどのような人権が保障されているのか、世界史的な観点から学びたい学生の受講を期待する。

〔科目内容の位置付け〕

憲法は、国家権力 vs 国民の関係を規律する「公法」に属し、政治学・行政学と接点を持つ

科目名	解析学		
	Excel で学ぶ解析学		
単 位	2	開 設	後期
教 員 名	黒澤 和人		

#### 〔講義目的〕

- 1) 多変数関数の微分積分法を理解し、応用の可能性を考える。
- 2) 経営、経済、生物、情報、物理、心理、健康科学など、身の回りの各分野で起きるさまざまな現象を数理的に捉え、表現し、分析する。
- 3) 表計算ソフト Excel を使って、数値実験やグラフィック表示を行いながら、現象の理解に努める。

#### 〔講義内容〕

取り上げる主なテーマは以下の通りである。

- 1) 現象の数理解
- 2) 数学モデル
- 3) 無限小と差分
- 4) 最適問題（偏微分）
- 5) 求積問題（重積分）
- 6) 数表を作る
- 7) 経済と数学
- 8) 時系列分析
- 9) 微分方程式の数値解法
- 10) 複雑系の数学
  - 11) 統計解析
  - 12) 逆問題

#### 〔講義のすすめ方〕

各单元とも、講義と問題演習を織り交ぜながらすすめていく。

講義では、問題の背景、条件、用語・記号などの説明を行う。

問題演習では、例題の解説の後、実際にパソコンを利用して、数値実験やグラフ表示などを行いながら現象の理解に努める。

#### 〔教 材〕

プリント教材を配布予定。

参考書は、その都度提示する。

道具立てとしては、実習用に表計算ソフトの Excel、レポート作成用にワープロソフトの Word、プレゼン資料の表示用にインターネットブラウザの Internet Explorer を予定。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席状況、授業ごとの課題の処理状況、宿題の提出状況、およびレポートの内容を点数化して評価する。

出席、授業ごとの課題、宿題、レポートの提出は、それぞれ全回数の3分の2以上が実行されていることが必要。

期末テストは、最終課題としてのレポートで代替する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

- ・ノートを必ず準備すること。
- ・レポートには、プリンタ用紙として使うような A4 の白い紙を使うこと。B5 や A4 の罫線入りレポートパッド（上辺で切り離して使うもの）や、ルーズリーフ、一般のノートをやぶったものなどは不可。

#### 〔科目内容の位置付け〕

数理的なものの見方・考え方を養い、専門科目への入門・導入的な役割を果たす科目である。社会科学系学生にとって必要不可欠な計算および表現の道具としての数学が、記号や言葉遣いととも、分類整理して提示される。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目：なし。高校での「数学」や「パソコン」の受講履歴は問わない。

関連科目：教養科目では、論理学、統計学、数学概論、代数学、物理学、経済学など。

専門科目では、数学を道具として利用する可能性のある全科目。

科目名	環境科学A		
	宇宙船「地球号」を守るために		
単 位	2	開 設	前期
教 員 名	小原 政敏		

### 〔講義目的〕

豊かで便利な生活の代償として炭酸ガスが過度に放出され、地球の温暖化が進行し植生の変化や南極圏・北極圏の氷山・氷河が減少するなど地球の環境が変化していると言われている。この地球の環境変化を科学的に考察しながら自然科学4分野（物理、化学、生物、地学）の知識を総合的に深め、自然環境保護の精神を培う。

### 〔講義内容〕

- 1) 地球科学の視点
  - ・温室効果
  - ・変化している地球環境
- 2) 惑星の大気環境
  - ・火星の大気環境
  - ・金星の大気環境
- 3) 宇宙の中の地球環境
  - ・光による加熱
  - ・放射平衡
- 4) 大気循環
  - ・月面と地上面の温度の比較
  - ・大気循環
- 5) 海洋循環
  - ・地球環境の空調装置
  - ・生物環境としての海洋
- 6) 水の循環
  - ・地球環境は蒸発装置
  - ・蒸発と降水のバランス
- 7) 気候の形成
  - ・気候の地域性
  - ・都市気候

### 〔講義のすすめ方〕

講義を中心とするが、パソコン・ビデオ教材などを活用して映像も参考にしながら具体的に分かりやすく説明する。

### 〔教 材〕

教科書 変化する地球環境  
木村龍治著 放送大学教育振興会  
参考書 必要に応じて紹介する。  
VTR・パソコンソフト  
補助プリント

### 〔成績評価の方法・基準〕

科学技術に囲まれた豊かで便利な日々の生活を営む対局に地球の自然環境の変化の加速がある。自然環境の深い理解と自然環境保護への意欲などを評価する。

筆記試験 学期末の定期試験

判定基準

- ・試験点数 80%
- ・出席率 20%

### 〔履修のポイント・注意点〕

現在は科学技術なしではもはや健康で豊かな生活はできない。他方、自然環境の破壊という犠牲を伴っている。科学技術の総合性と人間活動との関連性を理解すること

### 〔科目内容の位置付け〕

この科目は多数の選択教養科目の一つであり、地球環境を学びながら自然科学の内容や考え方を総合的に理解し深める科目である。「環境科学B」の前提科目である

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目はない。

関連科目

- ・教養科目として「物理」「生物」「数学」がある。

科目名	環境科学B		
	宇宙船「地球号」を守るために		
単位	2	開設	後期
教員名	小原 政敏		

#### 【講義目的】

環境科学Aに引き続く科目である。我々の豊かで便利な生活の代償として炭酸ガスなどの温室効果ガスが過度に放出され、地球の温暖化が進行し植生の変化や南極圏・北極圏の氷山・氷河が減少するなど地球の自然環境が変化していると言われている。この地球の環境変化を科学的に考察しながら自然科学4分野（物理、化学、生物、地学）の知識を総合的に深め、自然環境保護の精神を培う。

#### 【講義内容】

- 1) 地球環境のライフサイクル
  - ・ 関東地方の地形の変遷
  - ・ 過去の気温変化
- 2) 生物のいる惑星
  - ・ 火星の生物探査
  - ・ 生物の多様性
- 3) 環境変化と生態系
  - ・ 有限の生態系
  - ・ 野外の生態系
- 4) 地球内部の変動
  - ・ 地球科学の革命
  - ・ 大陸移動説
- 5) 地震と火山
  - ・ 地震発生の規則性
  - ・ プレートテクトニクス
- 6) 日本の気象
  - ・ 偏西風
  - ・ 台風
- 7) 人為的な環境変化
  - ・ 人為的な気候変化
  - ・ 宇宙船地球号

#### 【講義のすすめ方】

講義を中心とするが、パソコン・ビデオ教材などを活用して映像を活用し具体的に分かりやすく説明する。

#### 【教材】

教科書 変化する地球環境  
木村龍治著 放送大学教育振興会  
参考書 必要に応じて紹介する。  
VTR・パソコンソフト  
補助プリント

#### 【成績評価の方法・基準】

科学技術に囲まれた豊かで便利な日々の生活を営む対局に地球自然環境の変化の加速がある。自然環境の深い理解と自然環境保護の意欲などを評価する。

筆記試験 学期末の定期試験

#### 判定基準

- ・ 試験点数 80%
- ・ 出席率 20%

#### 【履修のポイント・注意点】

現在は科学技術なしではもはや健康で豊かな生活はできない。他方、自然環境の破壊という犠牲を伴っている。科学技術の総合性と人間活動との関連性を理解すること。

#### 【科目内容の位置付け】

この科目は多数の選択教養科目の一つであり、「環境科学A」に続くものである。地球環境を学びながら自然科学の内容や考え方を総合的に理解し深める科目である。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

前提科目は「環境科学A」である。

#### 関連科目

- ・ 教養科目として「物理」「生物」がある。

科目名	数学A		
	Excelで学ぶ大学教養数学		
単位	4	開設	通年
教員名	黒澤 和人		

#### 【講義目的】

- 1) 社会科学系の学生にとって必要とされる数学の主テーマである「多変数関数の微積分法」と「線形代数」を取り上げ、解説し、演習し、その応用の可能性を考える。
- 2) 経済、経営、物理、生物、心理、情報、健康科学など、身近な各分野で起きるさまざまな現象を数理的に捉え、表現し、分析し、理解することを目指す。
- 3) 表計算ソフト Excel を使って、数値実験やグラフ描画をしながら、現象の理解に努める。

#### 【講義内容】

取り上げる主なテーマは以下の通りである。

#### (前期)

- 1) 現象の数量化
- 2) 固有値問題とその応用
- 3) 連立一次方程式の各種解法
- 4) 曲線と曲面
- 5) グラフィックスの数理
- 6) 保険数学
- 7) 経済数学(その1)
- 8) マルコフ過程
- 9) 逆問題
- 10) 代数系
- 11) データの構造モデル
- 12) 実験計画法

#### (後期)

- 1) 現象の数理的理解
- 2) 数学モデル
- 3) 無限小と差分
- 4) 最適問題(偏微分)
- 5) 求積問題(重積分)
- 6) 数表を作る
- 7) 経済数学(その2)
- 8) 時系列分析
- 9) 微分方程式の数値解法
- 10) 複雑系の数学
- 11) 統計解析
- 12) 逆問題

#### 【講義のすすめ方】

各単元とも、講義と問題演習を織り交ぜながらすすめていく。  
講義では、問題の背景、条件、用語・記号などの説明を行う。  
問題演習では、例題の解説の後、実際にパソコンを利用して、数値実験やビジュアル図形を表示するなどしながら現象の理解に努める。

#### 【教材】

プリント教材を配布予定。  
参考図書は、必要に応じて、その都度提示する。  
道具立てとしては、実習用にパソコンソフトの Excel、レポート作成用にワープロの Word、プレゼン資料の表示用にインターネットブラウザの Internet Explorer を想定している。

#### 【成績評価の方法・基準】

出席状況、授業ごとの課題の処理状況、宿題の提出状況、およびレポートの内容を点数化して評価する。  
出席、授業ごとの課題、宿題、レポートの提出は、それぞれ全回数の3分の2以上が実行されていることが必要。  
期末テストは、最終課題としてのレポートで代替する。

#### 【履修のポイント・注意点】

- ・ ノートを必ず準備すること。
- ・ レポートには、プリンタ用紙として使うような A4の白い紙を使うこと。
- ・ B5や A4の罫線入りレポートパッド(上辺で切り離して使うもの)や、ルーズリーフノート、一般のノートをやぶったものなどは不可。

#### 【科目内容の位置付け】

数理的なものの見方・考え方を養い、専門科目への入門・導入的な役割を果たす科目である。社会科学系学生にとって必要不可欠な計算および表現の道具としての数学が、記号や言葉遣いとともに、分類整理して提示される。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

前提科目：なし。高校での「数学」や「パソコン」の受講履歴は問わない。

関連科目：教養科目では、論理学、統計学、数学概論、代数学、物理学、経済学など。

専門科目では、数学を道具として利用する可能性のある全科目。

科目名	代数学		
	Excel で学ぶ代数学		
単位	2	開設	前期
教員名	黒澤 和人		

#### 【講義目的】

- 1) 社会科学系の学生にとって必要とされる数学の主テーマである線形代数を取り上げ、解説し、演習し、その応用の可能性を考える。
- 2) 経済、経営、物理、生物、心理、情報、健康科学など、身の回りの各分野で起きるさまざまな現象を数理的に捉え、表現し、分析し、理解することを目指す。
- 3) 表計算ソフト Excel を使って、数値実験や図形描画をしながら、現象の理解に努める。

#### 【講義内容】

取り上げる主なテーマは以下の通りである。

- 1) 現象の数量化
- 2) 固有値問題とその応用
- 3) 連立一次方程式の各種解法
- 4) 曲線と曲面
- 5) グラフィックスの数理
- 6) 保険数学
- 7) 経済数学
- 8) マルコフ過程
- 9) 逆問題
- 10) 代数学
  - 1) データの構造モデル
  - 2) 実験計画法

#### 【講義のすすめ方】

各単元とも、講義と問題演習を織り交ぜながらすすめていく。

講義では、問題の背景、条件、用語・記号などの説明を行う。

問題演習では、例題の解説の後、実際にパソコンを利用して、数値実験やビジュアル図形を表示するなどしながら現象の理解に努める。

#### 【教 材】

プリント教材を配布予定。

参考図書は、必要に応じて、その都度提示する。

道具立てとしては、実習用にパソコンソフトの Excel、レポート作成用にワープロの Word、プレゼン資料の表示用にインターネットブラウザ

の Internet Explorer を想定。

#### 【成績評価の方法・基準】

出席状況、授業ごとの課題の処理状況、宿題の提出状況、およびレポートの内容を点数化して評価する。

出席、授業ごとの課題、宿題、レポートの提出は、それぞれ全回数の3分の2以上が実行されていることが必要。

期末テストは、最終課題としてのレポートで代替する。

#### 【履修のポイント・注意点】

- ・ ノートを必ず準備すること。
- ・ レポートには、プリンタ用紙として使うような A4 の白い紙を使うこと。
- ・ B5 や A4 の罫線入りレポートパッド（上辺で切り離して使うもの）や、ルーズリーフノート、一般のノートをやぶったものなどは不可。

#### 【科目内容の位置付け】

数理的なものの方・考え方を養い、専門科目への入門・導入的な役割を果たす科目である。社会科学系学生にとって必要不可欠な計算および表現の道具としての数学が、記号や言葉遣いとともに、分類整理して提示される。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

前提科目：なし。高校での「数学」や「パソコン」の受講履歴は問わない。

関連科目：教養科目では、論理学、統計学、数学概論、代数学、物理学、経済学など。

専門科目では、数学を道具として利用する可能性のある全科目。

科目名	数学概論		
	大学生のための教養数学		
単 位	2	開 設	後期
教 員 名	黒澤 和人		

〔講義目的〕

- 1) 数学の主要なテーマをいくつか取り上げ、解説し、演習し、数学の全体像を概観する。
- 2) 各分野における数理的なものの見方や、理論の適用の仕方などを知る。
- 3) 身の回りのさまざまな現象の理解に役立てる。

〔講義内容〕

取り上げる主なテーマは以下の通りである。

- 1) 記号論理
- 2) 集合論
- 3) パラドックスのいろいろ
- 4) 無限・連続の世界
- 5) 有限・離散の世界
- 6) ブール代数とその応用
- 7) 数理パズル・ゲームの解析
- 8) 群と文様
- 9) 芸術と数学
- 10) 複雑系の数学
- 11) 経営数学
- 12) 数学モデル
- 13) 次元について
- 14) 科学思想としての数学

〔講義のすすめ方〕

各単元とも、講義と問題演習を織り交ぜながらすすめていく。

〔教 材〕

プリント教材を配布予定。  
参考図書は、その都度提示する。

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況、課題の処理状況、および最終レポートの内容を点数化して、評価する。  
また、出席や課題の提出は、それぞれ全回数の3分の2以上が実行されていることが必要。

〔履修のポイント・注意点〕

- ・ ノートを必ず準備すること。
- ・ レポートで使う用紙には、A4の白い紙を使うこと。B5やA4のレポートパッドやルー

ズリーフ、一般のノートをやぶったものなどは不可。

〔科目内容の位置付け〕

数理的なものの見方・考え方を養い、専門科目への入門・導入的な役割を果たす科目である。社会科学系学生にとって必要不可欠な「表現の道具」としての数学が、記号や言葉遣いとともに、分類整理して提示される。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目：なし。  
関連科目：教養科目では、論理学、統計学、解析学、物理学、心理学、経済学など。専門科目では、数学を道具として利用する可能性のある全科目。

科目名	物理学A		
	核エネルギーがキーワード		
単 位	2	開 設	前期
教 員 名	師 啓二		

### 【講義目的】

科学技術の発達はわれわれの生活を便利で豊かなものとしたが、一方では、それに伴って生じたエネルギーや環境汚染の問題が深刻なものとなりつつある。そもそも科学技術は自然界の法則を巧みに利用したものであるから、科学技術を正しく利用するという立場をとるならば、

「暮らしの知恵」として、自然界の法則や仕組みについてある程度知っておく必要がある。物理学は実験を手段とし、数式を用いて、この自然界の法則や仕組みを厳密に調べる学問である。しかし、厳密性は失われるが、数式をあまり用いなくても、簡単な原理から自然界の仕組みをある程度は理解することができる。「物理学A」および「物理学B」は、いずれも身のまわりの自然現象を題材にして、数式にあまり頼ることをせずに、自然の法則や仕組みを学んで行こうという講義科目である。

「物理学A」では、物質の成り立ち・仕組みを主なテーマとしている。そして、その関連事項として、原子力エネルギーを利用する上での問題点、核融合エネルギーの平和利用、また最近話題となったニュートリノ天文学など具体的な話題を紹介し、ビデオ等を適宜使いつつ、分かりやすく解説する。それによって、目に見えない原子・分子の構造から広大な宇宙の構造まで統一した物理学の視点で眺めて見ることが出来るであろう。

### 【講義内容】

ほぼ以下に示すテーマの順に講義を行うが、なるべく最新的话题を紹介したいので、変更もありえる。

- |                  |    |
|------------------|----|
| 1. 物質の構成について     | 4週 |
| 2. 核分裂エネルギー      | 2週 |
| 3. チェルノブイリ事故について | 1週 |
| 4. 原子力発電と環境      | 2週 |
| 5. 核融合エネルギーの平和利用 | 1週 |
| 6. 太陽            | 1週 |
| 7. 宇宙の誕生と起源      | 2週 |
| 8. 地球の誕生         | 1週 |

### 【講義のすすめ方】

身近な物理現象を取り上げ、物理の基本法則に

基づいて、「どうしてそのようなことが起こるのか」を分かりやすく解説する。講義に関連した内容のビデオを見せることもあるが、その場合、ビデオを見ながら質問事項を記したレポートに答えてもらう。

### 【教 材】

毎回講義のときに、必要に応じて資料を配布する。教科書は指定しない。

### 【成績評価の方法・基準】

課題 1回(学期末に提出すること)

判定基準 出席率67%以上で、レポート(15%) + 課題(85%)の評価が60点(100点満点)以上であること。

### 【履修のポイント・注意点】

毎回必ず出席をとる。30分以上遅刻した場合は欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回にカウントする。私語厳禁。授業中、教室内では帽子をとり、静粛にして、飲食はしないこと。携帯電話・PHS等は電源を切っておくこと。本科目のためには予備知識はいらない。高校で物理を選択していなくても全く構わない。

### 【科目内容の位置付け】

「簡単な基礎知識から自然がどのように理解できるか」という、ものの見方を学ぶ講義である。入門的・導入レベルの内容である。

### 【前提・関連科目(科目間関連の内容)】

前提科目：なし

関連科目：「物理学B」

取り上げているテーマが違っているのですが、「物理学B」の講義の知識を前提とはしないが、「物理学B」の講義も聞いていれば、物理学のほぼ全般にわたる統一的な理解が得られる。専門家向けの講義ではないのですぐに役に立つという内容ではないが、将来、例えば放射能汚染についての知識があったために命が助かるということも有り得るだろう。

科目名	物理学B		
	自然の仕組みを理解しよう		
単位	2	開設	後期
教員名	師 啓二		

### 〔講義目的〕

科学技術の発達はいわれわれの生活を便利で豊かなものとしたが、一方では、それに伴って生じたエネルギーや環境汚染の問題が深刻なものとなりつつある。そもそも科学技術は自然界の法則を巧みに利用したものであるから、科学技術を正しく利用するという立場をとるならば、「暮らしの知恵」として、自然界の法則や仕組みについてある程度知っておく必要がある。物理学は実験を手段とし、数式を用いて、この自然界の法則や仕組みを厳密に調べる学問である。しかし、厳密性は失われるが、数式をあまり用いなくても、簡単な原理から自然界の仕組みをある程度は理解することができる。「物理学A」および「物理学B」は、いずれも身のまわりの自然現象を題材にして、数式にあまり頼ることをせずに、自然の法則や仕組みを学んで行こうという講義科目である。

「物理学B」では、物体間に働く力、惑星探査、天体観測、宇宙実験、熱エネルギー、エントロピーおよびナノテクノロジーなどについて具体的な話題を紹介し、ビデオなどを適宜使いつつ、分かりやすく解説する。それにより、物理学的な視点での新しい考え方・物の見方を身につけることができれば、現象の複雑さに対して、自然界を支配する法則の単純さや美しさに驚くことであろう。

### 〔講義内容〕

ほぼ以下に示すテーマの順に講義を行うが、最新の話題も紹介したいので、変更もありえる。

- |                   |    |
|-------------------|----|
| 1. 力について          | 1週 |
| 2. 天体の運動          | 1週 |
| 3. ケプラーの法則・火星     | 1週 |
| 4. ボイジャーの惑星探査・海王星 | 1週 |
| 5. 惑星系の成り立ち       | 1週 |
| 6. スペース・シャトルの宇宙実験 | 2週 |
| 7. 宇宙望遠鏡          | 1週 |
| 8. 熱エネルギー         | 2週 |
| 9. エントロピー・散逸構造    | 1週 |
| 10. 複雑系・カオス       | 1週 |
| 11. ナノテクノロジー      | 1週 |
| 12. 物理実験シミュレーション  | 1週 |

### 〔講義のすすめ方〕

身近な物理現象を取り上げ、物理の基本法則に基づいて、「どうしてそのようなことが起こるのか」を分かりやすく解説する。講義に関連した内容のビデオを見せることもあるが、その場合、ビデオを見ながら質問事項を記したレポートに答えてもらう。受講者が少ない場合は簡単な学生実験を行いたいと考えている。

### 〔教材〕

毎回講義のときに、必要に応じて資料を配布する。教科書は指定しない。

### 〔成績評価の方法・基準〕

課題 1回（学期末に提出すること）

判定基準 出席率67%以上で、レポート（15%）+課題（85%）の評価が60点（100点満点）以上であること。

### 〔履修のポイント・注意点〕

毎回必ず出席をとる。30分以上遅刻した場合は欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回にカウントする。私語厳禁。授業中、教室内では帽子をとり、静粛にして、飲食はしないこと。携帯電話・PHS等は電源を切っておくこと。本科目のためには予備知識はいらない。高校で物理を選択していなくても全く構わない。

### 〔科目内容の位置付け〕

「簡単な基礎知識から自然がどのように理解できるか」という、ものの見方を学ぶ講義である。入門的・導入レベルの内容である。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目：なし

関連科目：「物理学A」

取り上げているテーマが違っているので、「物理学A」の講義の知識を前提とはしないが、「物理学A」の講義も聞いていれば、物理学のほぼ全般にわたる統一的な理解が得られる。専門家向けの講義ではないのですぐに役に立つという内容ではないが、「自然を見る目」は確実に変わることだろう。一見複雑な現象も単純な原理から理解できるということが分かればよい。

科目名	化学A		
	基礎化学		
単位	2	開設	前期
教員名	高林 久美子		

#### 【講義目的】

ますます複雑さを増す現代社会は様々な情報があふれています。その中には誤った情報、不正確な情報がたくさん混ざっています。自分が本当に必要な正しい情報を得るためには、ある程度の基本的な知識が必要となります。化学の基本的な知識もその一つです。しかし「化学」と言うと難しい化学記号が思い浮かんで拒絶反応を示す人も少なくありません。この化学Aの講義では、多岐にわたる化学の分野の最も初歩的な入門編として基本を学ぶだけでなく、化学的なものの見方、考え方を身につけ、現代社会の諸問題を理解するための下地を作ることを目的とします。

#### 【講義内容】

導入（化学的なものの考え方）

化学の起源  
 測定の体系  
 物質とエネルギー  
 原子と分子  
 原子の構造  
 周期表  
 化学結合  
 化学反応式  
 溶液の化学  
 酸・塩基  
 反応熱

#### 【講義のすすめ方】

化学の基礎概念を理解することを主眼とします。内容が理解できたかどうかほぼ毎回簡単な小テストを行い、理解度を確認します。多少は覚える事柄もありますが、暗記するより理解することを目指します。高校の「化学Ⅰ」「化学Ⅱ」と重複する部分がかかなりあります。

#### 【教材】

教科書 「化学 基本の考え方を中心に」  
 シャーマン他 東京化学同人2900円

参考書 「視覚でとらえるフォトサイエンス化学図説」数研出版編集部編 数研出版 840円

授業中に教科書の例題や練習問題を行います。

また、試験にも教科書の持込を可とします。

#### 【成績評価の方法・基準】

小テスト 5点×12回×2/3=40点  
 定期試験 60点  
 計 100点

#### 【履修のポイント・注意点】

高校で化学を履修しなかった人でも基本からやるので大丈夫です。ほぼ毎回小テストを行いますが、できなかつたときは教科書を復習すること。

#### 【科目内容の位置付け】

化学はいうまでもなく理系科目であります。本講義は化学の初歩的な入門レベルであり、文系の学生を対象としたものです。高校で化学を履修しなかった人又は理系科目が苦手であると思っている人でも十分理解できるように配慮しています。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

前提・関連科目は特にありませんが、現代社会において、新聞やテレビなどに出てくる話題を理解するうえで最低限要求される知識です。化学的なトピックスを解説する「化学B」もあわせて履修するとさらに効果的です。また、環境科学等他の理系科目を理解するためにも役に立ちます。

科目名	化学B		
	生活の中の化学		
単位	2	開設	前期
教員名	高林 久美子		

#### 〔講義目的〕

ますます複雑さを増す現代社会は様々な情報があふれています。その中には誤った情報、不正確な情報がたくさん混ざっています。自分が本当に必要な正しい情報を得るためには、ある程度の基本的な知識が必要となります。化学の基本的な知識もその一つです。しかし「化学」と言うと難しい化学記号が思い浮かんで拒絶反応を示す人も少なくありません。この化学Bの講義では、新聞やテレビなどに登場する私たちの日常生活の興味深い現象・事象を解説し、化学的知識を身につけるとともに、化学的なものの見方を養うことを目指します。

#### 〔講義内容〕

導入（健康とは）

休養の化学（睡眠の化学）

運動の化学

栄養の化学

食品の化学

遺伝子の化学

免疫の化学

化粧品の化学

環境の化学

#### 〔講義のすすめ方〕

生活の中の現象や事柄を化学の目でみて、基礎概念を理解することを主眼とします。

#### 〔教 材〕

教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布します。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

定期試験（1回） 60%

レポート（1回） 30%

出席点 10%

ただし、レポートを提出しなかった者、出席が規定に満たなかった者は定期試験の受験資格を失うこととします。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

高校で化学を履修しなかった人でも基本からやるので大丈夫です。新聞やテレビでの情報に敏感になるよう努力しましょう。

#### 〔科目内容の位置付け〕

化学はいうまでもなく理系科目ですが、本講義は化学の初歩的な入門レベルであり、文系の学生を対象としたものです。高校で化学を履修しなかった人又は理系科目が苦手であると思っている人でも十分理解できるように配慮しています。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提・関連科目は特にありませんが、現代社会において、新聞やテレビなどに出てくる話題を理解するうえで最低限要求される知識です。化学の基本事項を講義する「化学A」もあわせて履修するとさらに効果的です。また、環境科学等他の理系科目を理解するためにも役に立ちます。

科目名	生物学A		
	環境と生物		
単位	2	開設	後期
教員名	上田 高嘉		

#### 〔講義目的〕

科学技術の進歩に伴って世の中は目まぐるしく変化し、どのように生きればいいのか混沌としている。そんな中で人間とは何かをより深く知ることが重要であり、生物学はその大きな助けになるように思える。単なる知識の積み重ねでなく、自分なりの考えを身につけていただきたい。講義の最後には身近な生物学上の問題を取り上げ議論したいと考えているが、そのためには少なくとも私の持っている知識を共有していただく必要があり、そのための講義内容になっている。

#### 〔講義内容〕

- ・ 生命の誕生と生物の進化
- ・ 動物の発生
- ・ 動物の行動
- ・ 生物体の調節
- ・ 環境保全

#### 〔講義のすすめ方〕

講義が中心であるが、身近な問題、例えば地球温暖化を取り上げて議論していただくことも考えている。少しでも興味を持っていただけるよう努力したい。

#### 〔教材〕

教科書は指定せず、必要に応じて資料を配布する。参考書はその都度紹介する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

定期テスト、レポート、出席状況、聴講態度等により総合的に判断する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

高校で生物を選択していなくても一向に構わない。単なる知識の積み重ねになることなく、考える力を身につけることを心掛けてほしい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

生物学の入門的な内容で、社会的に話題となる生物学的諸問題について議論できる一般的知識、考え方を身につけていただく程度である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目は特に必要ないが、物理学、化学、地学等関連させていけば論理的思考が膨らむことだろう。

科目名	生物学B		
単位	2	開設	後期
教員名	上田 高嘉		

#### 〔講義目的〕

科学技術の進歩に伴って世の中は目まぐるしく変化し、どのように生きればいいのか混沌としている。そんな中で人間とは何かをより深く知ることが重要であり、生物学はその大きな助けになるように思える。単なる知識の積み重ねでなく、自分なりの考えを身につけていただきたい。講義の最後には身近な生物学上の問題を取り上げ議論したいと考えているが、そのためには少なくとも私の持っている知識を共有していただく必要があり、そのための講義内容になっている。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目は特に必要ないが、物理学、化学、地学等関連させていけば論理的思考が膨らむことだろう。

#### 〔講義内容〕

- ・ウイルスについて
- ・細胞の構造と機能
- ・遺伝子と染色体
- ・性について
- ・生命工学

#### 〔講義のすすめ方〕

講義が中心であるが、身近な問題、例えば万能細胞等生命操作を取り上げて議論していただくことも考えている。少しでも興味を持っていただけるよう努力したい。

#### 〔教材〕

教科書は指定せず、必要に応じて資料を配布する。参考書はその都度紹介する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

定期テスト、レポート、出席状況、聴講態度等により総合的に判断する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

高校で生物を選択していなくても一向に構わない。単なる知識の積み重ねになることなく、考える力を身につけることを心掛けてほしい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

生物学の入門的な内容で、社会的に話題となる生物学的諸問題について議論できる一般的知識、考え方を身につけていただく程度である。

科目名	科学史A		
	数と計算の歩み		
単位	2	開設	前期
教員名	船田・五十嵐		

### 【講義目的】

数と計算は自然科学、社会科学、情報科学、工学のいずれの分野でも重要な役割をはたしてきた。情報化社会の担い手を目指す学生および情報化社会で心地よく生きるための素養を身に付けたいと願う学生を対象に、数と計算を切り口とした科学史を開講する。この科目では、数と計算の歩みを通して、自ら考える力を養い、科学の論理性、問題解決の手法、真理探究の精神、数理的な考え方、観察と経験から得られる主観性と客観性などを学ぶ。

### 【講義内容】

1. 数えることの始まり
2. 位取り記数法
3. 有理数の導入
4. 零の発見
5. 無理数の発見
6. 素数
7. ユークリッドの原論
8. ユークリッドのアルゴリズム
9. アバカスの歴史
10. シーザ暗号
11. フィボナッチの計算書

### 【講義のすすめ方】

時間ごとに、まとまったテーマで講義を行うが、受講者が自ら考えて頂く問題を提起する。それぞれの問題について、各自の考えを述べ、受講者同士で議論をして頂く。困難な問題に遭遇したとき、人類はどのように解決したかを学ぶ。そのようなことを通して、受講者は自ら考え、解決策を見つける努力をして頂く。

### 【教 材】

教科書：五十嵐善英、船田真理子、バーバラ神山「数と計算の歩み」、講義録、白鷗大学、2006

参考書：

- (1) M. A. Plastow、五十嵐善英「Mind of Science」、共立出版、1989
- (2) 吉田洋一「零の発見」岩波出版、1939
- (3) デーデキント著（河野伊三郎 訳）「数について」、岩波書店、1961
- (4) ユークリッド著（中村幸四郎 他訳）「ユークリッド原論」、共立出版、1971

クリッド原論」、共立出版、1971

- (5) ファン・デル・ヴェルデン著（加藤文元、鈴木亮太郎 訳）「古代文明の数学」、日本評論社、2006

### 【成績評価の方法・基準】

講義中に提起された課題についての討論、出席状況、期末試験で総合的に評価する。

- (1) 出席は 2/3 以上。
- (2) 期末試験受験は必須。
- (3) 合格基準は点数の合計が 60 点以上。

### 【履修のポイント・注意点】

講義中に提起された課題について、自ら考え、意見を述べるのが大切である。古代ギリシャ時代は代数学が発達していなかったため、古代ギリシャ数学は記号をあまり用いないで言葉による記述が中心であった。この科目も同様で、受講者は自らの言葉で、理路整然と自分の考えを述べるように努力する。自然現象でも社会現象でも、それが生じる原因があり、そのことを考えるのが大切である。

### 【科目内容の位置付け】

科学・技術に関心を持ち、自ら考える力を養うことを目指す。問題を解決する手法と努力を惜しまない姿勢を身につけるための科目である。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

特に前提科目はないが、中学校で学ぶ数学と論理力が要求される。さらに、知的好奇心を持っていることが望ましい。しかし、その基準に達していないと思っている方も、この科目の受講を歓迎する。この科目を受講し、講義中に与えられた課題について自ら考え、論理力と問題を解決する力を身につけて欲しい。物事に関心を示し、考えることや、努力することが苦痛にならなくなることを期待する。

科目名	科学史B		
	数と計算、計算機、サイバー社会		
単 位	2	開 設	後期
教 員 名	舩田・五十嵐・黒澤		

#### 〔講義目的〕

数と計算は自然科学、社会科学、情報科学、工学のいずれの分野でも重要な役割をはたしてきた。情報化社会の担い手を目指す学生および情報化社会で心地よく生きるための素養を身に付けたいと願う学生を対象に、今日のサイバー社会に至るまでの数と計算の発達過程を講義する。数、計算、数理科学の発達史を通して、自ら考える力を養い、科学の論理性、問題解決の手法、真理探究の精神、観察と経験から得られる主観性と客観性について学ぶ。また、サイバー社会がどのような方向に進んでいくかを考える教材を提起する。

#### 〔講義内容〕

1. 小数記法
2. 対数の導入
3. 計算機械
4. 実数、複素数
5. ブール代数
6. 近代までの暗号
7. 電子計算機の誕生と発展
8. シャノンの情報理論
9. 人工知能
10. プログラミング言語
11. データ構造とアルゴリズム
12. インターネット
13. 情報セキュリティ

#### 〔講義のすすめ方〕

時間ごとに、まとまったテーマで講義を行うが、受講者が自ら考えて頂く問題を提起する。それぞれの問題について、各自の考えを述べ、受講者同士で議論をして頂く。困難な問題に遭遇したとき、人類はどのように解決してきたかを学ぶ。そのようなことを通して、受講者は自ら考え、解決策を見つける努力する。

#### 〔教 材〕

教科書：五十嵐善英、舩田真理子、バーバラ 神山「数と計算の歩み」、講義録、白鷗大学、2006

参考書：

- (1) M. A. Plastow、五十嵐善英「Mind of Science」、共立出版、1989

- (2) 吉田洋一「零の発見」岩波出版、1939
- (3) デーデキント著（河野伊三郎 訳）「数について」、岩波書店、1961
- (4) ユークリッド著（中村幸四郎 他訳）「ユークリッド原論」、共立出版、1971
- (5) サイモン・シン著（青木薫 訳）「フェルマーの最終定理」、新潮社、2000

#### 〔成績評価の方法・基準〕

講義中に提起された課題についての討論、出席状況、期末試験で総合的に評価する。

- (1) 出席は 2/3 以上。
- (2) 期末試験受験は必須。
- (3) 合格基準は点数の合計が 60 点以上。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

講義中に提起された課題について、自ら考え、意見を述べることが大切である。古代ギリシャ時代は代数学が発達していなかったため、古代ギリシャ数学は記号をあまり用いないで言葉による記述が中心であった。この科目も同様で、受講者は自らの言葉で、理路整然と自分の考えを述べられるようになることを目指す。

#### 〔科目内容の位置付け〕

科学・技術に関心を持ち、自ら考える力を養うことを目指す。問題を解決する手法と努力を惜しまない姿勢を身につけるための科目である。今日のサイバー社会に繋がる数理科学の発達史を通して、サイバー社会の望ましいあり方について考えるきっかけになる科目である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

本講義は、「科学史 A」の続きであり、「科学史 A」を履修済みであることが望ましいが、前提科目ではない。中学校で学ぶ程度の数学と論理力が要求される。しかし、その基準に達していないと思っている方も、この科目の受講を歓迎する。この科目を受講し、講義中に与えられた課題について自ら考えて、論理力と問題を解決する力をつけて欲しい。物事に関心を示し、自ら考え、努力することが苦痛にならなくなることを期待する。

科目名	情報処理		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	渋川 美紀		

#### 〔講義目的〕

マルチメディア・パソコンやインターネットの発達により音と映像が気軽に加工できるようになり、コンピュータは情報をつかんで仕事に活かすだけでなく、個人の趣味のためにはもちろん、創造的な仕事をする上でもなくてはならないものになりました。

そこで、私たちはただその機能を使いこなすだけでなく、自分にあったもの（教材など）を作り出せる道具の一つとしてコンピュータを活用できるようになることが大切です。そこで、本講義では日本語ワープロ (Microsoft Word)、電子メール (E-mail)、スプレッド・シート (Microsoft Excel) などのソフトウェアによる実習を行うことにより、まず基本的な情報処理や一般常識を学び、ひいては情報をたくみに処理し、自分にあったシステムを構築することを考えていきたいと思えます。すぐに役に立つ知識はもちろん、世の中の変化に対応できる普遍的知識も身につけて下さい。

#### 〔講義内容〕

- 第 1 回 パソコンの基本操作
- 第 2 回 インターネットと電子メール
- 第 3 回 Word の実習・文書作成の基本操作
- 第 4 回 Word の実習・文書の装飾、図形描画
- 第 5 回 Word の実習・表の作成他
- 第 6 回 Excel の実習・表計算
- 第 7 回 Excel の実習・表計算
- 第 8 回 Excel の実習・グラフ
- 第 9 回 Excel の実習・グラフ
- 第 10 回 Excel の実習・関数
- 第 11 回 Excel の実習・関数
- 第 12 回 Excel の実習・データベース
- 第 13 回 PowerPoint の実習
- 第 14 回 その他
- 第 15 回 定期試験（90分）または授業を実施する。

#### 〔講義のすすめ方〕

テキスト・プリント・その他を使用して実習を行います。例題を解いたのち、課題を作成するという形式ですすめていきます。

#### 〔教 材〕

教科書「情報科学の基礎と応用」・同友館・2,800円

#### 〔成績評価の方法・基準〕

受験資格は「白鷗大学試験規則」に準じます。成績は出席状況・実習課題によって判断します。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

全回出席を原則とします。欠席や遅刻をしないようにしましょう。特に、30分以上遅刻をしないようにしましょう（欠席扱いにします）。出欠は出席カードで調べますが、必ず授業開始30分以内にカードを受け取ってください。また、遅刻3回で欠席1回とします。やむをえない理由で早退する場合は断って退出して下さい。早退は遅刻と同じ扱いとします。カードは授業内に提出して下さい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

保育士資格、幼稚園・小中高教諭免許取得のための重要な科目です。レポートの作成・データの分析には必ず必要となるので、全ての科目の基礎となる科目です。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目はありません。コンピュータについての知識がなくても結構です。また、本講義に続く内容をもつ教育情報処理以外は特別な関連科目はありませんが、パソコンが文房具化している現代においてはほとんどの科目が関連科目であるとも言えます。

科目名	情報処理		
単 位	2	開 設	前期
教 員 名	小林 正人		

〔講義目的〕

1. コンピュータと Microsoft Office の操作の基本を理解し、トラブルへの対処能力を養うこと。
2. 英語で書かれた情報を検索し、ウェブを英語学習に活用すること。
3. 自分自身と自分の情報を守り、ネットワークでの社会規範を守ること。
4. プログラミングの考え方を身につけること。
5. タッチタイピングができるようになること。
6. コンピュータでの英語教育の教材作り。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目はない。レポートやプレゼンテーションはコンピュータで作成することになるので、ほとんどの科目に関係している。

〔講義内容〕

1. パソコンの構成と基本操作
2. インターネットのしくみと電子メール
3. Word の実習
4. Excel の実習
5. PowerPoint の実習
6. かんたんなプログラミング
7. フリーウェアを活用した音声、画像の加工
8. 動的ウェブコンテンツの作成

〔講義のすすめ方〕

テキストやプリントを使用して実習を行う。例題を解いたのち、英語に関連した課題を作成するという形式で進める。

〔教 材〕

初講日に指示します。

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況と課題の提出、および小テスト。

〔履修のポイント・注意点〕

コンピュータ上での実習が大きな比重を占めるので、出席し、かつ授業に主体的に参加することが大切である。なお、実習と無関係な作業をしている場合は欠席の扱いとする。

〔科目内容の位置付け〕

入門レベル。

科目名	体育実技A		
単 位	1	開 設	前期
教 員 名	体育担当教員		

### 【講義目的】

「生涯スポーツの時代」といわれる今日、教育や保育の活動を通じ、「誰もが、それぞれの体力や技術に応じて、生涯に渡り運動やスポーツを楽しむことのできる力」を身につけられる様な指導や支援を行っていくことが必要である。

教育学部に学ぶ学生には将来の教育者・保育者としての活動にこの様な視点を据えることを学ぶだけでなく、学生時代に自らが「今持つ力の中で運動やスポーツを楽しむ」という経験を積んでもらいたい。

本講義では、自らの興味関心に基づき、スポーツを選択し楽しむと同時に、今後運動やスポーツ活動を支援していく際に必要な基礎知識、応用的なプレイや試合・ゲームの楽しみ方などを学習して行く。また、単に自分がプレイを楽しむだけでなく技術や能力が異なる集団の中で、その特性や状況を考慮した活動のあり方について考える力を養う。

実技種目は多くの仲間と交流できる良い機会でもあるため、積極的に授業に参加し、新しい仲間との関係づくりを目指してもらいたい。

### 【講義内容】

#### ○室内スポーツ

バスケットボール、バレーボール、バドミントンなどの他、体育館で行える軽運動や体づくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。

#### ○屋外スポーツ

サッカー、テニス、ソフトボールなどの他、屋外で行える軽運動や体づくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。

#### ○その他

ダンス運動やウォーキング、マシンや用具を使ったフィットネス運動の他、基礎体力を高めるための運動を行う。

※オリエンテーション時に、各担当教員の実施する種目についての説明を受け、履修希望者数に基づき人数調整を行う。

### 【講義のすすめ方】

#### ○オリエンテーション（第1回目）

人数調整を行い、担当教員を決定する。

○第2回目以降、各担当教員別クラスに分かれ実技を行っていく。

### 【教 材】

○必要な資料はその都度配布する。

○原則として用具は大学のもを使用するが、個人で準備するものがあれば（服装・シューズ等を含めて）初回のオリエンテーション時に指示する。

### 【成績評価の方法・基準】

出欠席（50%）、授業への参加態度（25%）に加え、技術の習熟・上達度、レポート等の状況（25%）を考慮して評価する。

### 【履修のポイント・注意点】

- 実技科目であるため、運動のできる服装を準備すること（普段着での参加は不可）。
- 靴についても同様に、屋外用・体育館用各々を必要に応じて準備し、使い分けること。
- 夏場は大量に汗をかくことも多い。また冬は運動後に身体が冷えることなども考慮し、年間を通じてタオルや着替えの準備などにも配慮すること。

※実技科目につき、希望者多数の場合には人数調整を行うことがある。第1回の授業時にオリエンテーションを行い、履修者を決定するので必ず参加すること（掲示に注意）。

### 【科目内容の位置付け】

教員免許（幼稚園、小学校）及び保育士資格に関わる科目であるため、「免許及び資格取得の手引き」を参照し、必要単位数等に留意すること。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

体育実技B、健康科学、体育概説など

科目名	体育実技B		
単 位	1	開 設	後期
教 員 名	体育担当教員		

### 〔講義目的〕

「生涯スポーツの時代」といわれる今日、教育や保育の活動を通じ、「誰もが、それぞれの体力や技術に応じて、生涯に渡り運動やスポーツを楽しむことのできる力」を身につけられる様な指導や支援を行っていくことが必要である。

教育学部に学ぶ学生には将来の教育者・保育者としての活動にこの様な視点を据えることを学ぶだけでなく、学生時代に自らが「今持つ力の中で運動やスポーツを楽しむ」という経験を積んでもらいたい。

本講義では、自らの興味関心にに基づき、スポーツを選択し楽しむと同時に、今後運動やスポーツ活動を支援していく際に必要な基礎知識、応用的なプレイや試合・ゲームの楽しみ方などを学習して行く。また、単に自分がプレイを楽しむだけでなく技術や能力が異なる集団の中で、その特性や状況を考慮した活動のあり方について考える力を養う。

実技種目は多くの仲間と交流できる良い機会でもあるため、積極的に授業に参加し、新しい仲間との関係づくりを目指してもらいたい。

### 〔講義内容〕

#### ○室内スポーツ

バスケットボール、バレーボール、バドミントンなどの他、体育館で行える軽運動や体づくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。

#### ○屋外スポーツ

サッカー、テニス、ソフトボールなどの他、屋外で行える軽運動や体づくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。

#### ○その他

ダンス運動やウォーキング、マシンや用具を使ったフィットネス運動の他、基礎体力を高めるための運動を行う。

※オリエンテーション時に、各担当教員の実施する種目についての説明を受け、履修希望者数に基づき人数調整を行う。

### 〔講義のすすめ方〕

#### ○オリエンテーション（第1回目）

人数調整を行い、担当教員を決定する。

○第2回目以降、各担当教員別クラスに分かれ実技を行っていく。

### 〔教 材〕

○必要な資料はその都度配布する。

○原則として用具は大学のもを使用するが、個人で準備するものがあれば（服装・シューズ等を含めて）初回のオリエンテーション時に指示する。

### 〔成績評価の方法・基準〕

出欠席（50%）、授業への参加態度（25%）に加え、技術の習熟・上達度、レポート等の状況（25%）を考慮して評価する。

### 〔履修のポイント・注意点〕

○実技科目であるため、運動のできる服装を準備すること（普段着での参加は不可）。

○靴についても同様に、屋外用・体育館用各々を必要に応じて準備し、使い分けること。

○夏場は大量に汗をかくことも多い。また冬は運動後に身体が冷えることなども考慮し、年間を通じてタオルや着替えの準備などにも配慮すること。

※実技科目につき、希望者多数の場合には人数調整を行うことがある。第1回の授業時にオリエンテーションを行い、履修者を決定するので必ず参加すること（掲示に注意）。

### 〔科目内容の位置付け〕

教員免許（幼稚園、小学校）及び保育士資格に関わる科目であるため、「免許及び資格取得の手引き」を参照し、必要単位数等に留意すること。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

体育実技A、健康科学、体育概説など

科目名	健康科学		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	野間 明紀		

〔講義目的〕

学生自身が健康に関する正しい知識を身につけ、また運動およびスポーツに関する科学的理解も深めることを目的として、運動の基本原理、基礎的知識、健康の概念、栄養と肥満、睡眠、アルコールとタバコ等について講義します。

スポーツ演習A、Bと合わせ6単位まで卒業所要単位として認められます。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

スポーツ演習A、B

〔講義のすすめ方〕

- 1) 健康について
  - ①健康の定義
  - ②健康の条件
- 2) 運動の基礎知識
  - ①運動と健康
  - ②発育発達と健康
  - ③運動の生理的機能
  - ④運動と体力
  - ⑤運動と価値
- 3) 栄養と肥満
  - ①エネルギーと出納バランス
  - ②身体の組成
  - ③肥満の判定
  - ④肥満の分類
  - ⑤肥満の原因
  - ⑥肥満と成人病
- 4) 睡眠
  - ①睡眠とそのパターン
  - ②タバコの作用と害
- 5) アルコールとタバコ
  - ①アルコールの作用と害
  - ②タバコの作用と害

※講義の順番は変更することがあります。

〔教 材〕

特になし

〔成績評価の方法・基準〕

・テスト（1回）と出欠席で評価します。

〔履修のポイント・注意点〕

- ・2/3以上の出席が必要です。
- ・遅刻は2回で欠席1回となります。

〔科目内容の位置付け〕

1から4年度の選択科目です。

科目名	健康科学		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	齊藤 武利		

#### 【講義目的】

変容する現代社会と人々のライフスタイルの中で、健康や運動に対する関心も高まりつつある。しかし、健康や運動についての正しい知識に基づき、心身共に豊かで健康的な生活を送っている人は、我が国においてはまだまだ少ない。

自分自身の身体や健康に対して関心を持ち、より健康的な日常生活を送るための糧となる知識を得ることが必要である。本講義では卒業後も生涯に渡り健康的なライフスタイルを確立し豊かな人生を歩んでいくことを目指して、健康や運動に関する正しい知識を獲得することを目指す。

#### 【講義内容】

- ①オリエンテーションー健康に関する概念と定義
- ②現代社会の変容と人々の運動生活の実態
- ③健康日本21をはじめとした施策の現状
- ④運動の分類と効果
- ⑤生活習慣病と運動、健康(1)
- ⑥生活習慣病と運動、健康(2)
- ⑦栄養摂取とカロリー消費、代謝
- ⑧トレーニングの原則と効果
- ⑨運動の目的と適したトレーニング方法(1)
- ⑩運動の目的と適したトレーニング方法(2)
- ⑪自分の身体をもっと知ろう！
- ⑫その他健康関連の諸問題
- ⑬競技スポーツとみるスポーツ
- ⑭子どもの健康問題とスポーツ
- ⑮スポーツ実践のススメ！
- ⑯まとめと試験対策
- ⑰試験

※上記の内容を中心に構成するが時間(時限)の配分は適宜調整しながら進める。

#### 【講義のすすめ方】

講義形式で進める。講義ノート(資料)を毎回配布する。講義では、解説を聞きながら各自がその講義ノートを作成していくことになる。講義の終わりには「講義の感想・質問票」を毎回提出する。主要な感想や質問については次回の講義の冒頭で再度取り上げ、解説する。この他、2-3度の小レポート課題を課す。

#### 【教 材】

特になし

#### 【成績評価の方法・基準】

テスト1回(期末)、成績評価は試験得点(70%) + 出席点(30%)を規準とする。レポートは最終的な判定時にその内容を考慮する。

#### 【科目内容の位置付け】

教員免許(幼稚園、小学校)及び保育士資格に関わる科目であるため、「免許及び資格取得の手引き」を参照し、必要単位数等に留意すること。

科目名	健康科学		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	廣瀬 文彦		

**〔講義目的〕**

授業で覚えたこと、または考えたことを日常生活で実践する。

そして、自身の健康的な生活に役立てることができるようにする。

**〔講義内容〕**

健康に関する項目について説明し、課題を解決する。

項目は、

有酸素運動：心拍数と運動強度の関係を理解する。

筋力トレーニング：動作に必要な筋肉とトレーニング方法について理解する。

カロリー計算：食事と運動の関係を理解する。

その他、希望があるものに対応します。

**〔講義のすすめ方〕**

話を聞くだけでなく、毎回の授業で与えられた課題（運動プログラム作成、カロリー計算等）を解決する。

**〔教 材〕**

健康運動指導士 養成講習会テキスト

財団法人 健康・体力づくり事業財団

**〔成績評価の方法・基準〕**

出席および試験の点数で総合評価をする。

**〔履修のポイント・注意点〕**

自分の生活習慣を変えるつもりで参加してください。

科目名	国際ビジネス英語 I		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	塚越 千由		

### 【講義目的】

今日のビジネス社会において、コミュニケーション手段としての英語の重要性が極めて高くなっています。

わが国をめぐる国際環境は大きく変化し、わが国の国際社会の一員としての果たすべき役割は大変大きなものになっています。とくに企業は国際化が要請され、グローバルな企業活動を展開しなければならなくなっているからです。海外に製造拠点や販売拠点を持つ企業は、企業内のコミュニケーションにも英語を用いています。企業においてはどのような業務に携わっていても社員の誰もが海外と関わりを持つ時代になっています。

特に、IT（情報技術）の発達と普及がさらに加速させています。インターネットを通じることができる情報も、それを理解するためにはある程度の英語力が必要です。また、簡潔で確かなEメールを相手にわかりやすく正確に作成し、自分の意図を相手に伝えることが必要になります。

ビジネスで活用できる英語力の養成を目指します。また広範にわたる国際ビジネスに必要な知識の習得も目指します。

### 【講義内容】

初級クラスの日商ビジネス英語検定公式テキストを使用し、国際ビジネスのためのコミュニケーション（総務関係、貿易ビジネス）について、ビジネスレター・ファクシミリ・電子メールを取り上げ、その読解力と書き方を養成します。

#### 1. 英文レターライティングの基礎

- ①ビジネス英語の特徴とその学び方
- ②ビジネスレターの構成

#### 2. 英文ビジネスEメールの基礎

Eメールの構成、書き方

#### 3. 総務関係通信文

##### ①ビジネスレター

支店開設通知、招待状、推薦状、履歴書

##### ②ファクシミリ

面会依頼、出張手配

##### ③電子メール

人事異動通知、住所移転通知

#### 4. ビジネス英会話の基礎

アポイントメントを取る、工場訪問、など

#### 5. 海外取引の基礎

海外取引の流れ、輸出入業務、輸出入取引関係書類

#### 6. 貿易ビジネス関係通信文

- ①取引先の選定、取引申込み・信用調査
- ②引合い、オファー、
- ③カウンター・オファー、オファーの受諾
- ④契約成立、信用状の開設、船積みと決済

### 【講義のすすめ方】

始めに、ビジネスの様々な局面における実務や必要な用語を学びます。次に文例を検討し、ビジネス文に慣用の表現を学びます。また練習問題を通じ読解力と表現力の訓練を行います。

### 【教 材】

教科書 「日商ビジネス英語検定公式テキスト」およびプリント

参考書 授業時適宜紹介します

### 【成績評価の方法・基準】

平常点（出席率、授業時小テスト）50%  
テスト（前期末）50%

### 【履修のポイント・注意点】

毎回の授業の積み重ねがビジネス英語上達の方法です。

### 【科目内容の位置付け】

これから実社会でビジネスに携わるものにとって、必須の科目といえます。

本講義で取り扱う内容は基本的なもので、入門レベルです。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

なし

科目名	国際ビジネス英語Ⅱ		
単位	2	開設	半期
教員名	塚越 千由		

#### 〔講義目的〕

国際ビジネスの中心的活動である、貿易取引を中心に、英語による文書や口頭によるコミュニケーション能力の養成を目的とします。

国際ビジネス英語Ⅰにおいて習得した基礎的知識を、実際にビジネスの場で使える状態にまで持って行きたい。

#### 〔講義内容〕

国際ビジネス英語Ⅱでは、国際ビジネス英語Ⅰを基礎としてさらに実際のビジネス英語の運用力を養成します。現実のビジネス環境にできるだけ近く、演習できるように心掛けたいと思います。

授業は下記内容について、テープまたはCDなども使い、レターおよび電子メールのビジネス文章表現の研究、ケース・スタディーを中心にを行います。

1. ビジネス・ライティングの技法
2. ビジネス通信文の構成
  - ① ビジネスレター ② ファクシミリ ③ 電子メール
3. 輸出入取引交渉
  - ① 取引関係の樹立（取引先の発見、信用照会と回答、取引申込みと応答）
  - ② 売買契約の成立（引合いと応答、オファーと応答、注文と応答）
4. 売買契約の履行
  - ① 信用状（開設と訂正）
  - ② 船積（船積通知、決済）
  - ③ クレーム処理（クレームの提起、クレームの調整）
5. 総務関係通信
  - ① 支店開設通知、招待状、推薦状、履歴書
  - ② 面会依頼、出張手配
  - ③ 人事異動通知、住所移転通知

#### 〔講義のすすめ方〕

国際ビジネスの上記の各ケースにおいて、状況説明に基づき、ビジネス通信文の構成を検討します。次にビジネス通信文の文例により、ビジネス文に慣用の表現を研究し、最後にレター、電子メールの作成練習をします。

#### 〔教材〕

教科書 プリントを使用します  
参考書 授業時に適宜紹介します

#### 〔成績評価の方法・基準〕

平常点（出席率、授業時小テスト） 60%  
期末テスト（レポート形式） 40%

#### 〔履修のポイント・注意点〕

毎回の授業の積み重ねがビジネス英語上達の方法です。

#### 〔科目内容の位置付け〕

国際ビジネスを実際に遂行していくためには必須の科目といえます。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目 国際ビジネス英語Ⅰ  
関連科目 貿易商務論、その他国際ビジネス関係科目

科目名	ビジネス実務		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	堀 真由美		

#### 〔講義目的〕

本講義は、多岐にわたるビジネス業務を通して、ビジネス実務の基礎的な知識・技能を学習し、社会人としての必要な自覚、実践的な能力を磨くことを目的とする。社会の仕組みや社会人としてのマナー、ビジネスの場で職務を遂行するために必要となる知識、求められるビジネス能力の基礎を理解し、「働く」ということを前向きにとらえ、職業人生の目標に向かって努力できる真摯な姿勢を修得する。

#### 〔講義内容〕

1. ビジネス実務とは・検定試験ガイダンス
2. 社会人の基礎要件（身だしなみ、服装）
3. コミュニケーション能力（1）  
（挨拶・敬語・話し方と聞き方）
4. コミュニケーション能力（2）  
（指示の受け方・報告の仕方）
5. 来客対応（1）
6. 来客対応（2）
7. 電話対応（1）
8. 電話対応（2）
9. 社内でのマナー
10. 訪問先でのマナー
11. 接客のマナー・外国人客の接遇
12. 慶弔と贈答（1）
13. 慶弔と贈答（2）
14. ビジネス文書の基本
15. ケース・スタディ

#### 〔講義のすすめ方〕

ビジネス実務の基礎をDVDを用いてわかりやすく解説していく。

#### 〔教 材〕

テキスト：内藤京子監修『DVDで学ぶ！できる人のビジネスマナー』西東社、1,350円

#### 〔成績評価の方法・基準〕

テスト 学期1回（定期）  
判定基準 （出席率30%、定期試験70%）

#### 〔履修のポイント・注意点〕

学習したことを単に知識で終わらせないために、ビジネスの現場で実践できるよう日常の

様々な場面で活用してほしい。あわせて、ビジネス関連の検定試験に挑戦してほしい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

本講義は、インターンシップの実習（在学中に自ら将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと）や就職活動の事前学習として履修してほしい。ビジネス関連の検定試験のガイダンスも行う予定である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

特に指定しない。

科目名	マーケティングⅠ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	藤井 信之		

#### 【講義目的】

本講座は社会人となった時、実務で活かせるマーケティングの理論やプロセスを学べるように設計した。実務で効果的にマーケティングを実行するためには、どのような知識あるいはスキルを持つ必要があるか。もちろん現場における経験が重要であることはいままでもないが、それと同じくらい理論やプロセスも重要である。理論やプロセスはマーケティング実践の中で得られた知見であるから、まずそれを最初に理解してそれに基づいて行動することが有効であろう。さらに、実行したことによって、知見を得て経験を積み、その理論を修正していく過程が意思決定の確実性を高めるのに重要になる。

以上のことを考慮して、本講座の主眼は、マーケティングの「型」や「定石」をまず頭に入れてもらうことにおいてある。

#### 【講義内容】

予定している内容は以下の通り。なお詳細については最初の講義時にプリントを配布する。

- 1 マーケティングの基本概念
- 2 マーケティング機会の分析
  - ・ マーケティング機会の分析の考え方
  - ・ 4つの要素（顧客、競合、自社、マクロ環境）の分析
- 3 マーケティング戦略の構築
  - ・ マーケティング戦略構築プロセス
  - ・ セグメンテーション
  - ・ ターゲット市場の選定
  - ・ ポジショニングの設定
- 4 マーケティングミックスの立案
  - ・ 製品戦略
  - ・ 価格戦略
  - ・ プロモーション戦略
  - ・ 流通戦略

#### 【講義のすすめ方】

可能な限り新しい事例を毎回プリントで渡し、若干の解説を加える。社会現象や経済環境の変化等と密接に関連を持つ分野であるので、毎日の新聞記事、ニュース報道などを頭の中にストックしておくこと。

#### 【教 材】

マーケティングの書籍は入門から専門書まで数多く出版されている。参考文献等については講義でその都度指示する。

#### 【成績評価の方法・基準】

講義期間中に行われる小テストと定期試験の合計で評価を決定する。

#### 【履修のポイント・注意点】

必ず予習をしてくること。また関連書の精読を心がけること。

講義時間中は静粛を保つこと。私語する学生は教室からの速やかなる退去を命ずる。場合によっては履修を取り消す措置をとる。

当然のことだが飲食は禁止する。

科目名	マーケティングI		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	内堀 敬則		

### 【講義目的】

市場環境が刻々と変化するなかにあつて、企業が競争優位を維持し、持続的に利益を確保していくためには、顧客のニーズを探り、それを満たすように行動すること、すなわちマーケティング活動に取り組むことが欠かせなくなっている。本講義では、マーケティング論の基本的な理論やコンセプトを理解しながら、社会人として顧客や組織に接する局面で有効な考え方や形式を身につけることを目的とする。そのためにも、マーケティング戦略を策定・遂行するうえでのさまざまなツールとその問題点を明らかにしながら、具体的な企業や産業のケーススタディを提示し、理論と実態の両面についてより一層深く理解できるような構成とする。

### 【講義内容】

以下のような論点を扱う。なお、授業の進行状況と受講生の理解度を考慮し、変更する可能性がある。

- 市場をつくり出す企業活動
  - ・マーケティングの役割とは
  - ・マーケティングミックスとその基本プロセス
- 価値形成のマネジメント
  - ・製品・サービスとは何か
  - ・価格の役割と戦略的価格デザイン
- 価値実現のマネジメント
  - ・流通チャネルの機能とデザイン
  - ・プロモーション戦略の選択
- マーケティング組織のデザイン
  - ・組織をデザインするための要件
  - ・市場志向組織の基本類型
- マーケティング資源の配分
  - ・事業収益性の決定要因
  - ・製品ポートフォリオ管理
- 事業の定義
  - ・事業の定義の重要性
  - ・事業をどのように定義するか

### 【講義のすすめ方】

毎回パワーポイントを用いながら、各種データや映像などさまざまなメディアを挿入するなどして立体的な講義を展開する。また、自ら考え、より深い理解を得ることを狙い、講義終了

後にショートレポートの提出を課し、その内容に対し翌週の講義の冒頭に解説を行う。

### 【教 材】

(教科書)

石井 淳蔵・栗木 契・嶋口 充輝・余田 拓郎 (2007)「ゼミナール マーケティング入門」、日本経済新聞社

(参考書)

相原 修著 (2007)「マーケティング入門」、日経文庫ベーシック

野口 智雄 (2007)「マーケティングの基本」、日経文庫ビジュアル

### 【成績評価の方法・基準】

毎回の講義で課すショートレポート及び定期試験の結果を総合的に評価する。なお、授業への積極的な参加と意見の発表を特に重視したい。

### 【履修のポイント・注意点】

常に新聞や経済誌などで企業の最新のマーケティング事情をチェックし、自分なりの見方を持つこと。

指名されたときはどんな内容でも良いので意見を述べること。単に教室に座っている「受け身」の姿勢では出席の意味はない。

15分以上の遅刻や私語する学生は退出を命じる。

### 【科目内容の位置付け】

マーケティング論の基本的な理論やコンセプトを理解することを狙う。

科目名	マーケティングⅡ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	藤井 信之		

### 〔講義目的〕

本講座では「マーケティングⅠ」での学習をふまえて、より実践的な手法を学習する。「消費者行動」と「マーケティング・リサーチ」というマーケティングにおける重要な2つの領域を取り扱っていく。

消費者行動を知りたい、研究したいという動機はいろいろある。生産者や流通業者の立場からは、特定の商品がなぜ選ばれるのか、消費者はいかにして商品を選択しているのか、という疑問を抱くだろう。また消費者保護の観点からは、消費者の商品購入に関して販売や契約の仕方、広告などの情報提示がきちんと行われているか、消費者の不利益にはなっていないか、という関心を持つかもしれない。こういった関心に基づいて消費者行動の研究は行われてきている。

マーケティング・リサーチは、消費者行動研究で得られた成果を利用しながら、「消費者のニーズ」を発見するという課題の解を探すためのツールである。最近のIT革命がすさまじいスピードで進行しているなか、今までとは比較にならないような膨大な量の情報が消費者の手許に集まり、商品を購入する際に役立っている。このようにタフになった消費者のニーズにどのように満足させていくかを探求するのがキーポイントになる。こうした顧客ニーズをとらえるためにマーケティング・リサーチは不可欠なものになっている。

### 〔講義内容〕

予定している内容は以下の通り。なお詳細については最初の講義時にプリントを配布する。

#### 第1部 消費者行動論

- 1 消費者行動の概略
- 2 消費者の意思決定過程と情報処理
- 3 消費者個人の内的要因と心理学的機能
- 4 消費者を取り巻く外部環境要因

#### 第2部 マーケティング・リサーチ

- 1 消費者志向のマーケティングとマーケティング・リサーチ
- 2 リサーチデザイン
- 3 データの収集方法の決定
- 4 サンプルデザイン

### 5 データ分析・結果の解釈

#### 〔講義のすすめ方〕

可能な限り新しい事例を毎回プリントで渡し、若干の解説を加える。社会現象や経済環境の変化等と密接に関連を持つ分野であるので、毎日の新聞記事、ニュース報道などを頭の中にストックしておくこと。

#### 〔教 材〕

参考文献等については講義でその都度指示する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

講義期間中に行われる小テストと定期試験の合計で評価を決定する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

必ず予習をしてくること。また関連書の精読を心がけること。

講義時間中は静粛を保つこと。私語する学生は教室からの速やかなる退去を命ずる。場合によっては科目の履修を取り消す措置をとることもある。

当然のことだが飲食は禁止する。

科目名	マーケティングⅡ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	内堀 敬則		

### 【講義目的】

マーケティング戦略を策定する際には、アプローチする市場について事前に分析することは欠かせない。また、近年ではブランド力のマネジメントなど市場において資源をいかに構築するかに注目が集まっている。本講義では、「マーケティングⅠ」で学習したフレームワークをベースに、消費者行動、競争構造など市場についての理解を深めると同時に、マーケティングを論じる際に注目されるようになっている今日的な課題について検討する。

### 【講義内容】

以下のような論点を扱う。なお、授業の進行状況と受講生の理解度を考慮し、変更する可能性がある。

- 消費者行動の理解
  - ・消費者対応の考え方
  - ・市場細分化マーケティング
- 競争構造の理解
  - ・競争の場の枠組み
  - ・産業の収益性と競争構造
- 取引関係の理解
  - ・取引関係の構造
  - ・取引コストと資源蓄積
- プロセスとしての競争
  - ・さまざまな競争形態とその産業への影響
  - ・戦略的ジレンマ
- 産業のライフサイクル
  - ・産業の離陸、成長、成熟、衰退
- ブランドのマネジメント
  - ・「ブランド」とは何か
  - ・ブランドの活用と育成

### 【講義のすすめ方】

毎回パワーポイントを用いながら、各種データや映像などさまざまなメディアを挿入するなどして立体的な講義を展開する。また、自ら考え、より深い理解を得ることを狙い、講義終了後にショートレポートの提出を課し、その内容に対し翌週の講義の冒頭に解説を行う。

### 【教 材】

(教科書)

石井 淳蔵・栗木 契・嶋口 充輝・余田 拓郎 (2007)「ゼミナール マーケティング入門」、日本経済新聞社

(参考書)

相原 修著 (2007)「マーケティング入門」、日経文庫ベーシック

野口 智雄 (2007)「マーケティングの基本」、日経文庫ビジュアル

### 【成績評価の方法・基準】

毎回の講義で課すショートレポート及び定期試験の結果を総合的に評価する。なお、授業への積極的な参加と意見の発表を特に重視したい。

### 【履修のポイント・注意点】

常に新聞や経済誌などで企業の最新のマーケティング事情をチェックし、自分なりの見方を持つこと。

指名されたときはどんな内容でも良いので意見を述べることに。単に教室に座っている「受け身」の姿勢では出席の意味はない。

15分以上の遅刻や私語する学生は退出を命じる。

### 【科目内容の位置付け】

「マーケティングⅠ」で学んだ基礎理論をベースに、市場の実態やマーケティング論の最新動向についてより深く理解することを狙う。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

「マーケティングⅠ」を履修していることが望ましい。

科目名	ミクロ経済学Ⅰ（国際経済を含む）		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	吉川 薫		

### 〔講義目的〕

この講義では、需要と供給のメカニズム、そしてそれらを調整する価格の機能などミクロ経済学の基本的な考え方、基礎的な理論を学習するとともに、その現実経済への応用について考察します。これにより現実の様々な経済現象や経済問題について論理的に考える力を養います。

### 〔講義内容〕

経済学とはどのような学問かを概説した後、ミクロ経済学の基礎を講義する。

1. ミクロ経済学とは
2. 需要と供給
3. 需要曲線と消費者行動
4. 消費者行動の理論①
5. 消費者行動の理論②
6. 費用の構造と供給行動
7. 市場取引と資源配分
8. 独占の理論
9. 企業と産業の経済学
10. 市場の失敗と補正①
11. 市場の失敗と補正②
12. 不完全情報の経済学①
13. 不完全情報の経済学②
14. 国際貿易と海外直接投資
15. まとめ

### 〔講義のすすめ方〕

テキスト等にしがたって複雑な経済の動きや現実の経済問題をミクロ経済学の基礎理論からどのように考えればよいかできるだけ分かりやすく説明するようにします。

### 〔教 材〕

教科書「入門／経済学」（第2版）

伊藤元重著 日本評論社

授業には教科書を持参して下さい。

参考書「経済学をまなぶ」（中公新書）

岩田規久男著 中央公論社

「入門経済学」（第2版）

J. E. スティグリッツ著 東洋経済新報社

「基礎コース経済学」塩澤修平著 新世社

「ゼミナールミクロ経済学入門」

岩田規久男著 日本経済新聞社

岩田規久男著「経済学をまなぶ」（中公新書）は経済学とはどのようなものかを知るうえで役立ちます。それ以降に掲げた参考書は授業や教科書の内容がよくわからないときやさらに詳しく知りたい場合などに利用して下さい。

### 〔成績評価の方法・基準〕

- ・成績評価：定期試験1回、出席状況
- ・成績評価の方法：定期試験…80%、出席率…20%

### 〔履修のポイント・注意点〕

授業の前後にテキストを十分読むとともに、自分自身でよく考えるため演習問題を解いてみる。なお、マクロ経済学Ⅰも合わせて必ず受講するようにしてください。

講義中の私語は厳禁。

### 〔科目内容の位置付け〕

ミクロ経済学の入門編であり、経済を論理的に見る目を養うため身につけておくべき基礎科目です。他の経済や経営に関連した科目を学ぶうえでも基礎となる科目です。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目：特にありませんが、数学（関数・微分など）がわかっていると理解が容易になります。

関連科目：ミクロ経済学Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ、現代日本経済論Ⅰ、Ⅱなど経済関連科目、および企業論、交通論など。

ミクロ経済学Ⅱはミクロ経済学Ⅰを受講後、受講するとよいでしょう。

公務員試験などでも必須の科目です。

旧カリ経済学として履修する場合は、「マクロ経済学Ⅰ」と「ミクロ経済学Ⅰ」の両方を受講すること。

科目名	ミクロ経済学Ⅰ（国際経済を含む）		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	沖津 直		

### 【講義目的】

この講義では、価格を中心とした経済原理である価格理論を学習する。財やサービスの価格が市場でどのように決定され、それらが私達の経済生活にどのように関連しているのかなどを学習する。一通り学ぶことによって、現実の経済現象やその動きがわかってくるし、テレビや新聞の経済記事に接してその内容が理解できるようになるだろう。また、進学や公務員・就職試験に非常に役立つだろう。

### 【講義内容】

授業は以下の順序で進めますが、実際の経済で起こっている現象を例にあげてなるべくわかりやすく説明します。

1. ミクロ経済学とは
2. 需要・供給
3. 需要曲線と消費者行動
4. 費用の構造と供給活動
5. 市場取引と資源配分
6. 消費者行動の理論
7. 消費者行動理論の展開
8. 生産と費用
9. 一般均衡と資源配分
10. 不完全競争市場（独占、複占、寡占、独占的競争）
11. 市場の失敗
12. ミクロ経済学Ⅰの総括

### 【講義のすすめ方】

テキストなどにしたがってミクロ経済学の基礎を講義していきますが、各章のおわりに練習問題も解いて実力がつくように配慮します。

### 【教 材】

教科書 開講時に指示します。

参考書 「ミクロ経済学」 2版

伊藤元重著 日本評論社

「入門経済学」

伊藤元重著 東洋経済

「基礎コース経済学」

塩澤修平著 新世社

### 【成績評価の方法・基準】

定期試験の結果75%

出席状況、学習態度等 25%

### 【履修のポイント・注意点】

教科書をよく読んで自分で考えること。演習問題を解くことをお勧めします。

### 【科目内容の位置付け】

経済社会の見方・捉え方を教えてくれる科目であり、経済を論理的に見る目を養ってくれる基礎的な科目でもあります。その他の経済や経営に関連した科目を学ぶうえでも重要な科目です。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

前提科目は特にありませんが、関数や微分などの数学がわかっていると理解が容易になります。関連科目はマクロ経済学Ⅰ、現代日本経済論、企業論などです。資格試験では必須の科目です。

科目名	マクロ経済学Ⅰ（国際経済を含む）		
単位	2	開設	半期
教員名	吉川 薫		

### 〔講義目的〕

この講義ではマクロ経済学の基本的な考え方、基礎的な理論を学習するとともに、その現実経済への応用について考察します。これによりマクロ経済学の基本的な考え方や用語を理解し、現実の様々な経済現象や経済問題について論理的に考える力を養います。

### 〔講義内容〕

経済学とはどのような学問かを概説した後、マクロ経済学の基礎を講義する。

1. マクロ経済学とは
2. マクロ経済学における需要と供給
3. 有効需要と乗数メカニズム
4. 貨幣の機能①
5. 貨幣の機能②
6. マクロ経済政策
7. インフレと失業
8. 財政政策のマクロ経済分析
9. 財政・金融政策のメカニズム①
10. 財政・金融政策のメカニズム②
11. 総需要と総供給：物価の決定
12. 国際金融と国際マクロ経済学①
13. 国際金融と国際マクロ経済学②
14. 経済成長と経済発展
15. まとめ

### 〔講義のすすめ方〕

なるべく現実の経済問題や日本経済の現状に関連付けて、マクロ経済学の基礎理論を講義します。テキスト等にしながら複雑なマクロ経済の動きや現実のマクロ経済政策についてマクロ経済学の基礎理論からどのように考えればよいかできるだけ分かりやすく説明するようにします。

### 〔教材〕

教科書 「入門／経済学」（第2版）  
伊藤元重著 日本評論社

授業には教科書を持参して下さい。

参考書 「経済学をまなぶ」（中公新書）

岩田規久男著 中央公論社  
「ケインズ」（ちくま新書）吉川 洋著  
筑摩書房  
「入門経済学」（第2版）

J. E. スティグリッツ著  
東洋経済新報社  
「基礎コース経済学」塩澤修平著  
新世社  
「目からウロコの経済学入門」  
山崎好裕著 ミネルヴァ書房  
「入門マクロ経済学（第4版）」  
中谷 巖著 日本評論社

岩田規久男著「経済学をまなぶ」（中公新書）は経済学とはどのようなものかを知るうえで役立ちます。それ以降に掲げた参考書は授業や教科書の内容がよくわからないときやさらに詳しく知りたい場合などに利用して下さい。

### 〔成績評価の方法・基準〕

- ・成績評価：定期試験1回、出席状況
- ・成績評価の方法：定期試験…80%、出席率…20%

### 〔履修のポイント・注意点〕

授業の前後にテキストを十分読むとともに、自分自身でよく考えるため演習問題を解いてみる。こと。なお、ミクロ経済学Ⅰを合わせて必ず受講すること。

### 〔科目内容の位置付け〕

マクロ経済学の入門編であり、経済全体を論理的に見る目を養うため身につけておくべき基礎科目です。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目：特にありませんが、数学（関数・微分など）がわかっていると理解が容易になります。

関連科目：マクロ経済学Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ、現代日本経済論Ⅰ、Ⅱなど経済関連科目

マクロ経済学Ⅱはマクロ経済学Ⅰを受講後、履修するとよいでしょう。

公務員試験などでも必須の科目です。

旧カリ経済学として履修の場合は、「マクロ経済学Ⅰ」と「ミクロ経済学Ⅰ」の両方を受講すること。

科目名	マクロ経済学Ⅰ（国際経済を含む）		
単位	2	開設	半期
教員名	沖津 直		

#### 〔講義目的〕

この講義では、所得を中心とした所得理論となります。一国全体の国内総生産あるいは国民総所得がどのように決定されるのかななどを学習します。私達の日々の暮らしや経済社会の様相と深く関わっている科目です。マクロ経済学は1936年にJ.M. ケインズによって創立されました。それは有効需要の原理あるいは国民所得決定の理論に基礎をおいています。ミクロ経済学と違って経済全体の集計量の大きさに関心を集中する科目です。

#### 〔講義内容〕

1. マクロ経済学とは
2. マクロ経済学の捉え方
3. マクロ経済における需要と供給
4. 有効需要と乗数メカニズム
5. 貨幣の機能と信用創造
6. 貨幣需要と利子率
7. 財政政策の基本的構造
8. 財政・金融政策とマクロ経済

#### 〔講義のすすめ方〕

テキストなどにしたがってマクロ経済学の基礎を講義していきますが、各章のおわりに練習問題も解いて実力がつくように配慮します。

#### 〔教材〕

教科書 開講時に指示します。  
 参考書 「マクロ経済学」 伊藤元重著  
 日本評論社  
 「入門経済学」 伊藤元重著  
 東洋経済  
 「基礎コース経済学」 塩澤修平著  
 新世社

#### 〔成績評価の方法・基準〕

定期試験の結果 75%  
 出席状況、学習態度等 25%

#### 〔履修のポイント・注意点〕

教科書をよく読むとともに、自分で考えるために練習問題を解いてみることを。ミクロ経済学Ⅰと合わせて受講すること。

#### 〔科目内容の位置付け〕

一国の経済全体の状況を把握し、経済全体を論理的に見る目を養う基礎科目である。グラフを見ながら理解すると効率的である。練習問題を丹念に解くことも重要です。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目は特にありませんが、関数や微分等が解っていると理解が容易になります。関連科目は、マクロ経済学Ⅰ、現代日本経済論などです。

科目名	国際関係概論		
単位	2	開設	半期
教員名	嵐 信彦		

### 【講義目的】

1990年の冷戦終結後、国際社会は一見すると「アメリカ一極支配」の様相を呈している。しかし、実情は民族・地域紛争、内戦が続発し、ついに2001年9月11日には、国際的テロ組織によって、アメリカへ史上最大規模のテロ攻撃が行なわれ、“新しい戦争”と呼ばれるに至った。たしかにアメリカは、軍事、政治、経済などで“一極支配”をしているようにみえるが、ブッシュ米大統領が再選され、国際社会の中に反アメリカ感情が増大していることにも気づかされる。そのアメリカに対し、EUは加盟が27カ国に拡大、経済と通貨、思想、文化などで対抗軸になりつつある。またロシアは石油価格の高騰で存在感を高めている。

一方、アジアでは中国が経済発展を軸に大きな存在感をまじつつある。おそらく、2010-2020年には、アジアに中国の時代がやってこよう。その中国を追うインド、ブラジルの動きにも世界は注目している。

そんな21世紀の半ば位までをみすえながら、21世紀の日・米・中関係などを中心に、ヨーロッパ（EU）、ロシア、イスラム圏などの動きにも目をこらしつつ、ダイナミックでスピードある国際情勢の動きをとらえてゆきたい。

国際情勢を読み解くことは、ゲーム以上にエキサイティングで、そのシナリオを推理するためには様々な知識も必要だ。情報、知識を結びつけ、それらを情報の「点」から「線」「面」「立体」にまで仕上げていくことで「考える力」がついてくると思う。現代で日々動く国際情勢を学生と共に考え、論じてゆきたい。

### 【講義内容】

国際関係を理解するうえで必要な政治、経済、軍事、民族、文化、宗教などの諸要素を複眼的にとらえる“物の考え方”ができるように講義を行ないたい。情報と情勢を解きあかす基本的な手法、技術なども提示したい。

### 【講義のすすめ方】

現在、毎日のおおきてくる国際的事件を素材に、国際関係を考える方法論を伝えたい。2008年は、アメリカ、ロシア、イラク、朝鮮

半島、中国、EU、イスラム圏などに、まだまだ新しい動きが次々と起こることが予想される。それらの日々の事件を歴史、宗教、地政学、国家、成り立ち、民族、文化などの視点をまじえながら、学んでゆく。講義に際しては、新聞やテレビビデオなどを利用するとともに、学生諸君の積極的発言を求め、自らのものの考え方を表現できるようになることも重視したい。

### 【教材】

「首脳外交 先進国サミットの裏面史」  
（文春新書、嵐信彦著）  
「新冷戦後」（集英社、嵐信彦著）ほか毎日の新聞、テレビニュースなど

### 【成績評価の方法・基準】

毎週出してもらった講義後の感想文（200-400字程度）、出席率、期末試験を考慮して行う。授業内での発言、ディベートも参考にする。

### 【履修のポイント・注意点】

たんなる国際関係の知識を修得することより、現在の国際情勢の実情や先行きの動向を考える力をつけることに力点をおくつもりである。このため、学生諸君はなるべく毎日の新聞やテレビニュースに関心をもつとともに、自分で考えをまとめ、それを言葉や文章にして表現する力を身につけてもらえると嬉しい。

### 【科目内容の位置付け】

国際関係論は、問題となっている国際問題を考えるにあたって、関係各国の外交政策をはじめ、地政学的な特色に外交史、歴史、民族、文化など様々な視点からとらえることに特色がある。その意味で複雑だが、ダイナミックであり、深さもあり、推理、推論も重要できわめてエキサイティングなテーマだと思う。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

講義では1990年の冷戦終結後の国際情勢をテーマにするケースが多いと思うので、できれば、冷戦下の米ソの対立や自由主義圏対社会主義圏の特色などを知っておいてもらおうとありがたい。歴史や民族、宗教史なども本で読んで欲しい。

科目名	貿易商務論Ⅰ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	塚越 千由		

### 【講義目的】

国際ビジネスの基本である、貿易ビジネス（輸出取引、輸入取引）をいかに円滑に遂行するかについての方策を研究します。

現在はマネジメント能力の1つとして、貿易取引に関する知識はますますその需要を増しています。そこで、貿易取引のスペシャリスト養成のためではなく、ジェネラリスト養成を目的とします。

### 【講義内容】

風俗・習慣・法律など多くのことが異なる外国との取引においては、どのような点に留意し取引をまとめ、実践していかなければならないかを研究します。国際マーケティング、国際売買契約の成立、契約履行過程における諸問題を取り扱います。

インターネットの普及により、電子商取引が国際ビジネスに大きな影響を持つようになってきました。国際電子商取引の内容・問題点などについても考察したいと思います。

（なお本講義はジェネラリスト養成を目的としますが、貿易スペシャリストを希望する受講生があれば、貿易実務検定、国際貿易ビジネス検定、通関士試験などの対策にもなるよう配慮します。）

講義内容は下記のとおりです。

#### 1. 貿易取引の概要

- ①貿易取引の現状と課題（最近の世界貿易・日本貿易、国際収支）
- ②貿易取引形態（取引当事者、特殊貿易）
- ③貿易制度（輸出管理、輸入管理、国際条約、国際規則）
- ④貿易取引のプロセス（海外市場調査、取引先選定、引き合い、取引一般条件協定、申し込み、承諾、売買契約成立、契約履行）

#### 2. 貿易マーケティングの実務

##### ①輸出マーケティング

海外市場調査・目標市場の選定、輸出マーケティング計画（商品開発、価格設定、国際商流・物流、国際プロモーション）

##### ②輸入マーケティング

輸入商品調査、輸入商品の流通、輸入ビジネスの形態

#### 2. 貿易取引とトレード・タームズ

##### ①トレード・タームズの働き

②トレード・タームズの国際規則

③インコタームズの条件

FOB、CIF、FCA、CIP、EXW、DES、DDP、その他

### 【講義のすすめ方】

授業全般に亘って講義レジュメやパワーポイントを使用し、また適宜資料プリントやビデオを利用して、できるだけわかりやすく講義するつもりです。

### 【教 材】

教科書 プリントを使用

参考書 「グローバル・マーケティング」

四訂版、城座 良之、片山 立志、清水敏行（著）、税務経理協会

「貿易売買」、新堀聡著、同文館

### 【成績評価の方法・基準】

テスト 1回（レポート形式） 60%

平常点（レポート、出席率など） 40%

### 【履修のポイント・注意点】

テレビ・新聞などを通じ、日本の国際ビジネス活動に注意を払い、どのような現状を呈し、問題点が生じているかを常に考えてほしいと思います。

「貿易商務論Ⅱ」と常に関連付けて講義する必要がありますので、「貿易商務論Ⅰ・Ⅱ」の両方を履修して下さい。

### 【科目内容の位置付け】

わが国の国際社会の一員としての果たすべき役割は大変大きなものになっています。とくに企業は国際化が要請され、グローバルな企業活動を展開しなければならなくなっています。わが国の国際ビジネスの基本である貿易取引の実践には欠かせない学問分野です。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

商学総論、流通論、商法、国際経営論、マーケティング論、経営戦略論、国際金融論、国際運送論、海上保険論、また国際ビジネス実践のためにはコミュニケーション技術が必須ですから、国際ビジネス英語は特に重要な関連科目です。

科目名	貿易商務論Ⅱ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	塚越 千由		

### 〔講義目的〕

国際ビジネスの基本である、貿易ビジネス（輸出取引、輸入取引）をいかに円滑に遂行するかについての方策を研究します。

現在はマネジメント能力の1つとして、貿易取引に関する知識はますますその需要を増しています。そこで、貿易取引のスペシャリスト養成のためではなく、ジェネラリスト養成を目的とします。

### 〔講義内容〕

主として国際売買契約の成立、契約履行過程における諸問題を取り扱います。

また、インターネットの普及により、電子商取引が国際ビジネスに大きな影響を持つようになってきました。国際電子商取引の内容・問題点などについても考察したいと思います。

（なお本講義はジェネラリスト養成を目的としますが、貿易スペシャリストを希望する受講生があれば、貿易実務検定、国際貿易ビジネス検定、通関士試験などの対策にもなるよう配慮します。）

講義内容は下記のとおりです。

1. 国際売買契約
  - ① 売買契約の成立
  - ② 一般条件の取り決め
  - ③ 個別条件の内容
    - 品質、数量、価格、船積、保険、決済
2. 国際運送手配（海上運送、航空運送、複合運送）
3. 保険手配（貨物保険、貿易保険、製造物責任保険）
4. 決済と貿易ファイナンスの手配（信用状、為替手形の作成、貿易ファイナンス、外国為替リスクの回避）
5. 契約の履行
  - ① 輸出通関と船積み（輸出通関手続、船積み手続）
  - ② 貿易決済（輸出決済、輸入決済）
  - ③ 輸入通関と荷受け（輸入通関と関税制度、輸入貨物の荷受け）
  - ④ 紛争解決（保険クレーム、売買クレーム、クレーム処理）
6. 国際Eコマースの諸問題（国際取引のEC化、インターネットEDI）

### 〔講義のすすめ方〕

授業全般に亘って講義レジュメやパワーポイントを使用し、また適宜資料プリントやビデオを利用して、できるだけわかりやすく講義するつもりです。

### 〔教 材〕

教科書 プリントを使用

参考書 「貿易売買」、新堀聡著、同文館  
「貿易実務ハンドブック（ベーシック版）」、日本貿易実務検定協会〔編〕

### 〔成績評価の方法・基準〕

テスト 1回（レポート形式） 60%  
平常点（レポート、出席率など）40%

### 〔履修のポイント・注意点〕

テレビ・新聞などを通じ、日本の国際ビジネス活動に注意を払い、どのような現状を呈し、問題点が生じているかを常に考えてほしいと思います。

「貿易商務論Ⅰ」と常に関連付けて講義する必要がありますので、「貿易商務論Ⅰ・Ⅱ」の両方を履修して下さい。

### 〔科目内容の位置付け〕

わが国の国際社会の一員としての果たすべき役割は大変大きなものになっています。とくに企業は国際化が要請され、グローバルな企業活動を展開しなければならなくなっています。わが国の国際ビジネスの基本である貿易取引の実践には欠かせない学問分野です。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

商学総論、流通論、商法、国際経営論、マーケティング論、経営戦略論、国際金融論、海上保険論、また国際ビジネス実践のためにはコミュニケーション技術が必須ですから、国際ビジネス英語は特に重要な関連科目です。

科目名	時事英語 I		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	藤森 吉之		

### 〔講義目的〕

比較的易しい英語で書かれた記事が編纂された教科書を使用し、①現代社会に対する関心を高めることと②易しい英語を媒体とした記事の読解を日常的行為として受け止められるようにすることを目指す。さらに、記事についての自分の意見などを英語で言えるようになることやほかの学生と意見の交換が続けられるようになることを目指す。

### 〔講義内容〕

- 1 Students don't always like being told what to wear
- 2 Junior achievement teaches business skills to young people
- 3 Many US farmers struggle with hot, dry weather
- 4 The ABCs of allergies
- 5 Trying to renew trust in 'Made in China' label
- 6 Good sports, bad sports
- 7 A recent study suggests most young Americans plan to vote for a Democrat in next year's Presidential election
- 8 Should HIV-infected mothers breastfeed?
- 9 When eye problems involve diseased of the retina
- 10 Progress mixed halfway to development goals for 2015
- 11 Researchers develop new test to predict Alzheimer's disease
- 12 Murdoch's News Corp to buy Dow Jones

### 〔講義のすすめ方〕

英文記事の音読  
 ディクテーション  
 サマリーの暗唱  
 記事の難しい箇所についての質疑応答  
 記事に関連する英語での意見発表 / 討論

### 〔教 材〕

Kenichiro Tachibana & Gerald Muirhead,  
 World News Report from VOA, Cengage

### Learning

#### 〔成績評価の方法・基準〕

音読24点  
 サマリーの暗唱24点  
 ディクテーション24点  
 英語での意見発表 / 討論24点  
 最初からもらえるボーナスポイント4点

上記の合計が：

- 90点以上で "S (合格)"
- 80点以上で "A (合格)"
- 70点以上で "B (合格)"
- 60点以上で "C (合格)"
- 59点以下で "D (不合格)"

#### 〔履修のポイント・注意点〕

教員から指示された記事の内容理解をしたあと音読を繰り返し練習し、その記事に関連する教科書の問題も解いてから出席すること。また100語程度の英語のサマリーの暗唱もしてから出席すること。かなり事前の準備が必要になる科目であるが、一定の質を確保しながら授業内で英語による意見交換を行うために必ずこなしてもらいたい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

時事英語 II の前提となる科目である。

科目名	時事英語 I		
単位	2	開設	半期
教員名	河合 正男		

**〔講義目的〕**

This course will accept both Japanese and foreign students.

The purpose of this course is to improve students' ability to explain and debate in English the Japanese culture and society as well as current events.

**〔講義内容〕**

I was a diplomat for about 40 years. My last post was the Ambassador of Japan to Norway.

In those years, I really felt it important to explain the Japanese society and to express clear opinions on current problems to foreigners.

Such ability is important in international businesses, too.

I expect Japanese students to develop this ability and foreign students to analyze and understand deeply the Japanese society.

I hope that both Japanese and foreign students help each other in the class.

**〔講義のすすめ方〕**

・ All discussions will be conducted in English in principle.

・ Reading English language newspaper articles as well as other written documents

and discussing the subjects.

・ Presentation on an assigned subject by one student and discussion in each class.

・ Homework of a short composition for each class.

・ Writing a report in several pages on an assigned subject at the end of the semester.

Foreign students will be assigned longer paper than Japanese students.

**〔教材〕**

Articles in English language

newspapers, including foreign papers and magazines, will be used.

Reference book: "THE JAPAN BOOK" published by Kodansha International.

**〔成績評価の方法・基準〕**

Grading will be based on active participation in class-room discussions, and on both short composition and semester end report. Attendance will also be counted.

**〔履修のポイント・注意点〕**

Japanese students do not have to worry about mistakes they make in English.

Important thing is positive attitude to express one's opinions and to persuade others in English. However, in order to explain the Japanese society to foreigners, they should study and think about their own culture and society seriously.

Foreign students should deepen their understanding of the Japanese society while in Japan, and bring it back to their countries.

科目名	時事英語Ⅱ		
単位	2	開設	半期
教員名	藤森 吉之		

#### 【講義目的】

比較的易しい英語で書かれた記事を教材とし、  
①現代社会に対する関心をいっそう高めること  
と②英語を媒体とした記事の読解にさらに積極  
的になることを目指す。さらに、記事について  
自分の意見を論理的に述べたり、自分と異なる  
意見を持つ学生と根拠やデータに基づいた議論  
ができるようになることを目指す。

#### 【講義内容】

初講日に指示するが、英字新聞やインターネッ  
ト上のニュースなどを教材としてしていく予定  
である。

#### 【講義のすすめ方】

英文記事の音読  
ディクテーション  
記事の難しい箇所についての質疑応答  
記事に関連する英語での討論  
サマリーの作成

#### 【教 材】

英字新聞やインターネットで配信されている英  
語記事など

#### 【成績評価の方法・基準】

音読24点  
ディクテーション24点  
英語での討論24点  
サマリー24点  
最初からもらえるボーナスポイント4点

上記の合計が：

- 90点以上で“S（合格）”
- 80点以上で“A（合格）”
- 70点以上で“B（合格）”
- 60点以上で“C（合格）”
- 59点以下で“D（不合格）”

#### 【履修のポイント・注意点】

教員から指示された記事の概要把握をしたあ  
と、理解の妨げとなった箇所について下調べを  
行っておくこと。また、そのあと音読を繰り返  
し練習しておくこと。かなり事前の準備が必要  
になる科目であるが、一定の質を確保しながら

授業内で英語による意見交換を行うために必ず  
こなしてもらいたい。

#### 【科目内容の位置付け】

時事英語Ⅰを中級とすると、中上級レベルとな  
る科目である。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

時事英語Ⅰ

科目名	時事英語Ⅱ		
単位	2	開設	半期
教員名	河合 正男		

**〔講義目的〕**

This course will accept both Japanese and foreign students.

The purpose of this course is to improve students' ability to explain and debate in English the Japanese culture and society as well as current events.

**〔講義内容〕**

I was a diplomat for about 40 years. My last post was the Ambassador of Japan to Norway.

In those years, I really felt it important to explain the Japanese society and to express clear opinions on current problems to foreigners.

Such ability is important in international businesses, too.

I expect Japanese students to develop this ability and foreign students to analyze and understand deeply the Japanese society.

I hope that both Japanese and foreign students help each other in the class.

**〔講義のすすめ方〕**

・ All discussions will be conducted in English in principle.

・ Reading English language newspaper articles as well as other written documents

and discussing the subjects.

・ Presentation on an assigned subject by one student and discussion in each class.

・ Homework of a short composition for each class.

・ Writing a report in several pages on an assigned subject at the end of the semester.

Foreign students will be assigned longer paper than Japanese students.

**〔教 材〕**

Articles in English language

newspapers, including foreign papers and magazines, will be used.

Reference book: "THE JAPAN BOOK" published by Kodansha International.

**〔成績評価の方法・基準〕**

Grading will be based on active participation in class-room discussions, and on both short composition and semester end report. Attendance will also be counted.

**〔履修のポイント・注意点〕**

Japanese students do not have to worry about mistakes they make in English.

Important thing is positive attitude to express one's opinions and to persuade others in English. However, in order to explain the Japanese society to foreigners, they should study and think about their own culture and society seriously.

Foreign students should deepen their understanding of the Japanese society while in Japan, and bring it back to their countries.

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

For Jiji Eigo Ⅱ, prior enrollment in Jiji Eigo Ⅰ is highly recommended.

科目名	フレッシュマンセミナー		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	田多英興・神戸文朗		

#### 〔講義目的〕

諸君が高校時代に心理学に対して抱いた期待や興味は様々かもしれない。しかし実際諸君が本専攻で学ぶのは多くの偉大な先人たちが踏み開き、蓄積していった多大な努力の結果の一部なのである。よってそれらを理解し、自らのものとするだけでも諸君は大きな努力を払わなければならない。更には、大学生活も後半になれば自らの心理学的知識と関心に基づいた自発的な演習や研究も導入されてくる。とするならば諸君は自ら学ぶということはどういうことなのか、そのためにはどのような手段が必要なのか、を早急に体得しなければならない。我々はこの目的のためにフレッシュマンセミナーにおいて諸君に任意のテーマのレポートを作成させることが最適であると考えている。ここでいうレポートは形式も論理展開も未熟な高校生のそれではない。一人前のレポートや論文であるためには守られるべき一連のルールが存在する。先行研究の中での自分のテーマや研究の位置づけ、厳格な引用、簡潔で適切な論理展開、自分の主張に対する客観性の維持、が特に重視される。それ故、レポート作成にあたってはまず十分な背景知識を得た上で、諸君の問題意識に基づいて関連知識を引用し、更には展開し、最終的にはその問題意識を客観的に評価しなければならない。そうした作業によって諸君は資料の収集・引用方法、議論の展開方法、客観的評価の方法を自ら身に付けていくことになる。心理学徒にとっての守られるべきルールを体系化した事実上の標準 (de facto standard) として、APA(アメリカ心理学会)スタイル、あるいはこれを日本に適用したJPA(日本心理学会)スタイルというものが存在する。これらはプロのためのルールであり新入生にそれらすべてを要求することはできないが、少なくともそうしたルールが存在すること、そして卒業時にはそれらに合致した論文を作成できるように意識を高めることは大いに意味があると考えている。さあ、意欲を持って心理学徒としての一步を踏み出そう。

#### 〔講義内容〕

<大学における学習方法について>  
 スタディー・スキルの基礎

#### 講義ノートのとり方

文献の読み方と読書の基礎  
 図書館での情報検索と図書館の利用法  
 インターネットの利用法  
 プレゼンテーションの基本

#### <レポート作成について>

テーマ設定の指導  
 文体、引用、議論の展開、図表作成等に関する指導  
 提出レポートの添削指導

#### 〔教 材〕

学習技術研究会(編著)(2002).  
 大学生からのスタディ・スキルズ——知へのステップ—— くろしお出版 [¥1900]

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、授業態度、レポートの内容を総合的に評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

特別な事情がない限り必ず出席すること。遅刻は厳禁。

#### 〔科目内容の位置付け〕

1年次配当必須科目であり、心理学専攻学生としての自覚、基礎知識、基礎技能を養成するための科目である。

#### 〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

特にない。

科目名	フレッシュマンセミナー		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	小林正人・向井千代子		

〔講義目的〕

この授業は、講義・発表・グループワーク・プレゼンテーションなどを通して、大学生活全体のガイダンスと、大学での勉強の方法を身につけることを目標とする。半期だけの科目であるが、積極的に参加すれば、日頃から問題意識をもって考える習慣が付き、また今後一緒に学ぶ仲間をよく知ることもでき、今後4年間のよい礎となるだろう。

基礎がためをする科目なので、積極的に参加してほしい。

〔講義内容〕

大学入学後、勉強の仕方の違いにとまどったり、目標を見失ったりして大学生活につまずく学生が少なくない。本授業は、比較的少人数での議論を中心としたゼミナール形式で、大学生活や大学の学習スタイルに親しんでいくことで、スムーズに大学での勉強になじむ手伝いをしようとするものである。

〔講義のすすめ方〕

まず大学生活全般に関するオリエンテーションや、履修を中心とした学習計画の検討から始め、次に課題図書を読んで各自がレポートを作成し発表する。つぎにテーマ別にグループを作り、グループでの議論によってグループ・レポートを作成する。最後にそのレポートに基づいたプレゼンテーションを行い、議論をする。

〔教 材〕

開講後に適宜指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

出席、授業への参加とプレゼンテーションによって総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

ゼミナール形式の科目であるので、無届での欠席は決してしないでほしい。また1時限目の科目であるが、遅刻しないよう心がけること。

〔科目内容の位置付け〕

1年次配当の必修科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目はない。在学中の学生生活や勉強法の

科目名	フレッシュマンセミナー		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	内山須美子・金田健史・近藤智靖		

#### 〔講義目的〕

学生生活は自分自身の判断に任されることがこれまでの生活より格段に多くなることは間違いない。充実した学生生活を送れるかどうかは、一年次のスタートが大事になることは十分認識しておくべきであろう。本授業は大切な一歩を踏み出すため、各クラス担任が毎週様々な内容で大学生生活のガイダンスを行うものである。

ための案内となる。学業の基本となる調査、研究、発表の基本を学ぶ。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

特になし。

#### 〔講義内容〕

〔講義のすすめ方〕と同一内容。

#### 〔講義のすすめ方〕

下記の内容について、講義、演習、見学、グループ学習、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に授業を進める予定である。まず、スポーツや健康に関する本、テレビ、新聞などあらゆる情報源から知識を吸収し、それらをまとめて研究発表することに慣れようとするものである。

- ①オリエンテーション
- ②学習計画の検討（履修科目の指導）
- ③自己学習、読書、図書館の利用について
- ④レポートの書き方について
- ⑤興味あるスポーツ、健康関係の知識について研究
- ⑥グループ討議、発表
- ⑦研究発表

#### 〔教 材〕

図書全般、新聞、雑誌、インターネットによる検索などスポーツ健康に関するあらゆるもの。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、グループへの貢献度、発表内容、レポートの完成度を評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

大学生生活の第一歩です。学生相互の協力、教師から学ぶ、自分で研究するという基本的姿勢が望まれる。出席が重視される。

#### 〔科目内容の位置付け〕

卒業必修科目。より充実した学生生活にする

科目名	フレッシュマンセミナー		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	小原政敏・富田英也・増田仁・益田勇一・荒井弘高・五十嵐敦子・小久保裕・中谷陽子		

〔講義目的〕

大学生活を有意義に過ごすために必要な情報と知識の獲得。

〔講義内容〕

- レポート作成とプレゼンテーション
- 施設見学（図書館・進路指導部・おもちゃライブラリー・白鷗幼稚園）
- 進路設計
- その他（各担当教員により異なる）

〔講義のすすめ方〕

講義、演習、見学、グループ学習、プレゼンテーション、ディスカッションなどにより、各担当教員がセミナーを進める。

〔教 材〕

必要に応じて指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

出席を重視し、授業におけるプレゼンテーションや提出課題も含めて評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

大学は何かを教えてもらうところではなく、自ら学ぼうとする者だけがより多くの知識や技能を獲得する場である。このセミナーで、大学で学ぶためのノウハウを獲得してほしい。

〔科目内容の位置付け〕

大学で学ぶためのオリエンテーション。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

なし。

科目名	教育総論		
単位	2	開設	半期
教員名	馬場 将光		

### 〔講義目的〕

本講義は2つの目的をもつ。1つは学生諸君が日本における教育学全般の基礎的な知識、考え方を身につけることであり、2つは教員の資格をとり教職につこうとするものにとって、将来教員選考試験をパスするための基礎的な知識を学習することである。

### 〔講義内容〕

講義内容は、おおむね次のようになる。

1. 教育の意義
2. 学校教育の目的・目標
3. 教授の理論
4. 学習理論
5. 教育課程
6. 学習指導要領と教科書
7. 生徒指導・管理
8. 道徳教育、人権・同和教育
9. 学校と教職員の管理
10. 学校・学級の経営
11. 生涯教育、社会教育
12. 障害児教育
13. 教育行政
14. 学校の歴史
15. 現代の教育と教育改革

### 〔講義のすすめ方〕

講義はテキストにそって、毎時間テキストの1もしくは2章ずつ進む。講義の内容は具体的な事例を紹介しながらわかりやすく解説をしていく。講義の内容は1回ごとにまとまっていて、次の時間と継続することはない。

講義の概要は、毎時間、テキストの内容をまとめた印刷物に記載する。さらに宿題をしばしば出すので、翌週その提出を忘れないようにする。

### 〔教材〕

以下のテキストを使用する。

テキスト：時事通信社 内外教育研究会編  
「教職教養の重点研究」

(時事通信社) ¥1800円＋税

参考書：真野宮雄・増田実共編  
「現代教育概論」

(学術図書出版社) ¥2200円＋税

### 〔成績評価の方法・基準〕

- ・テキストの概要をまとめたノートを定期試験を受けるときに提出する。ノート提出者には5点を加算する。ノートは後日返却する。
- ・学期末に定期試験を行う。合格の基準は原則として60%できていることとする。
- ・次の課題の中から10課題を選び、各課題について1000字前後の解説を提出したのものには、試験の成績に10点を加算する。これはあくまで任意であって義務ではない。提出の締め切りは前期6月20日、後期12月20日とする。この解説はすべて手書きとする。ワープロ使用は認めない。提出先は馬場研究室とする。

課題：教職員の種類、教職員の職務と資格、教員の選考と採用、分限処分、懲戒処分、服務、職務命令、教職の専門性、研修、教員給与、勤務時間・休日・休暇、時間外勤務、労働基本権、人事委員会、不利益処分に関する不服申し立て、公務災害、学習指導要領、教科書、部活、生活指導、道徳教育、学校行事。

### 〔履修のポイント・注意点〕

- ・出席をとる。毎時間、出席データ収集端末機で出席を確認する。
- ・講義は時間的に正確に始まる。正当な理由のない遅刻は認めない。遅刻入室は禁止する。
- ・話はゆっくりなので、講義の話をよく聞き、そしてメモを的確にとるようにする。黒板はほとんど使わない。黒板に書かない代わり、板書する内容をプリントして、前もってもしくは毎時間に配布する。

### 〔科目内容の位置付け〕

- ・講義の内容、レベルとも教育学の基礎的、基本的なものであるから、そんなにむずかしくはない。きちんと出席をしてきちんと復習をすれば、理解できる。
- ・話は結構楽しくて、面白いよ！いや、ほんと。

### 〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提・関連科目：教育課程論、比較教育論、教育制度論

科目名	教育課程論		
	(小学校用)		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	生野 金三		

### 〔講義目的〕

平成10年に教育課程審議会は、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について」の答申を発表した。この答申においては幼児児童生徒の実態、教育課程の実施状況、社会の変化等を踏まえつつ、完全学校週5日制のもと、「ゆとり」のなかで特色ある教育ある教育を展開し、幼児児童生徒に「生きる力」を育むことを基本的なねらいとし、次の四者を教育課程の基準の改善のねらいとして掲げた。

- 1 豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること。
- 2 自ら学び、自ら考える力を育成すること。
- 3 ゆとりのある教育活動を展開する中、基礎・基本の確かな定番を図り、個性を生かす教育を充実すること。
- 4 各学校が創意工夫を生かし特色ある教育・特色ある学校づくりを進めこと。

これらのねらいに基づき、教育課程の編成、授業時数、各教科等の内容の改善の方針が示された。

上記のことを踏まえ、本科目では、教育課程の基本的立場、教育課程編成の基本的な考え方、指導計画作成の基礎作業、教育課程実施上の配慮事項等について研究することを目的とする。

### 〔講義内容〕

本科目では、以下の内容について研究する。

- 1 教育課程の基本的立場
  - ・教育課程の意義
  - ・教育課程の基準の改善の方針
- 2 教育課程編成の基本的な考え方
  - ・教育課程の編成
- 3 授業時数等の運営と改善
- 4 各教科等の指導計画作成の基本
  - ・指導方針の決定
  - ・指導計画作成上の配慮事項
- 5 教育課程実施上の配慮事項
- 6 教育課程編成の基盤
- 7 指導計画作成
  - ・基本的立場
  - ・指導計画作成の手順と留意点
  - ・指導計画作成の基礎作業

### ・年間指導計画例

#### 〔講義のすすめ方〕

講義、演習、グループ学習、プレゼンテーション等を中心に授業を進めていく。本科目では、毎回の授業が次の時間へ継続発展していくので、そのことを念頭においておくこと。

#### 〔教 材〕

豊澤弘伸・北村好史・生野金三「教育課程の創造と展開」学校図書出版  
文部省「小学校学習指導要領解説国語編」東洋館出版

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、ポートフォリオ、ミニ課題、ミニテスト、平常点等で評価する。ポートフォリオ、ミニ課題の提出は、予め決められた締め切り日までに生野の研究室に直接持参すること。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

出席をとる。授業の3分の2以上出席した受講生を評価対象とする。

授業内容は、積み上げ方式になっているので、前回の授業内容を踏まえておくことが重要である。

期末にポートフォリオ（授業で学習した内容を振り返り、自分の学習の成果が分かるように「目次」「見出し」「全体の構成」「後書き」等を考えて作成した学習記録のこと。又は、これまでの学習を凝縮したオリジナルのテキストのこと。）を作成するので、授業内容は随時メモしておく。

#### 〔科目内容の位置付け〕

教職に関する科目として位置付けられている。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

各教科の指導法の科目、道徳教育の研究

科目名	教育課程論		
	(幼保用)		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	金崎 芙美子		

#### 【講義目的】

幼稚園や保育所は、乳幼児の心身の安全と安定を確保しながら乳幼児の成長発達を積極的に支援することをめざす目的をもった施設である。従ってその目的が効果的に達成されるためには計画をもって保育が行われる必要がある。計画を持たない保育は場当りになるため保育活動に偏りが生じたり、一貫性をもった保育を展開することが困難になる。本授業では、幼稚園教育要領における教育課程や保育所保育指針の保育計画について理解を深めながら、年間、期間、月間、週案、日案、保育実施案の具体的な指導計画を作成する力を培う。

#### 【講義内容】

- 第1回 保育における計画の意義
- 第2回 幼稚園教育要領と教育課程
- 第3回 保育所保育指針と保育計画
- 第4回 教育課程・保育計画の編成
- 第5回 保育内容5領域と総合的指導
- 第6回 教育課程・保育計画と指導計画  
(種類)
- 第7回 指導計画作成上の留意事項
- 第8回 指導計画作成のための準備、手順
- 第9回 年間指導計画(期間指導計画)の作成
- 第10回 月間指導計画の作成
- 第11回 週間指導計画の作成
- 第12回 日案の作成
- 第13回 保育実施案の作成
- 第14回 指導計画と評価
- 第15回 まとめ(試験)

#### 【講義のすすめ方】

指導計画は各自作成する。必要に応じてグループ討論や発表の機会をもつ。

#### 【教 材】

教育課程・保育計画論(光生館)

#### 【成績評価の方法・基準】

受験資格は、『白鷗大学試験規則』に準ずる。

#### 【履修のポイント・注意点】

前回出席を原則とする。

#### 【科目内容の位置付け】

保育士資格取得のための重要な科目である。

#### 【前提・関連科目(科目間関連の内容)】

保育内容の5領域に関する授業を受けていることが望ましい。

科目名	教育課程論		
単 位	2	開 設	集中
教 員 名	安井 一郎		

### 〔講義目的〕

この講義の目的は、学力、評価、総合的学習など、今日の学校教育の内容をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関する今日的課題について考察することである。

### 〔講義内容〕

学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。

この講義では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、VTR教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。

### 〔講義のすすめ方〕

- 第1回 教育課程と学力問題
- 第2回 教育課程とは何か
- 第3回 日本の教育課程 (1)
- 第4回 日本の教育課程 (2)
- 第5回 教育課程編成の理論と方法 (1)
- 第6回 教育課程編成の理論と方法 (2)
- 第7回 教育課程編成の理論と方法 (3)
- 第8回 学習指導要領と教育課程 (1)
- 第9回 学習指導要領と教育課程 (2)
- 第10回 学習指導要領と教育課程 (3)
- 第11回 学習指導要領と教育課程 (4)
- 第12回 新学習指導要領の実践課題
- 第13回 目標型評価
- 第14回 教育課程と学力問題 再考：  
総合的学習の可能性
- 第15回 試験

### 〔教 材〕

- 教科書 : 特に指定しない
- 指定図書 : 文部科学省『中学校学習指導要領』  
文部科学省『高等学校学習指導要領』
- 参考書 : 文部科学省『中学校学習指導要領解  
説 総則編』

文部科学省『高等学校学習指導要領  
解説 総則編』

その他は、講義の中で紹介する。

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席 : 出席率80%以上  
試験 (最終授業時に実施) : 60%以上

### 〔履修のポイント・注意点〕

- ・無断欠席は厳禁
- ・近年の教育課程改革、学習指導要領改訂に関する動向、特に、学力問題に関する論議について、概略を把握しておくことが望ましい。
- ・授業中に、学力問題に関するディスカッションを行う予定である。
- ・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領を必ず持参すること。

### 〔科目内容の位置付け〕

教職課程の教職に関する科目

科目名	教育制度論		
単位	2	開設	半期
教員名	馬場 将光		

### 〔講義目的〕

本講義は2つの目的をもつ。1つは学生諸君が日本における教育学、教育制度論の基礎的な知識、考え方を身につけ、社会に生起する教育問題に自分の考え方を持てるようにすることである。2つは教員の資格をとり教職につこうとするものにとって、教員選考試験をパスするための基礎的な知識を学習することである。

### 〔講義内容〕

講義内容は、おおむね次のようになる。

1. 教育と教育制度
2. 教育制度の基本原則
3. 教育体系の基本問題
4. 乳幼児期の保育制度
5. 児童期の教育制度
6. 青年期の教育制度
7. 高等教育
8. 障害児教育制度
9. 私学制度
10. 生涯学習支援制度
11. 教育行財政制度
12. 学校経営組織
13. 教員制度
14. 社会変化と教育改革

### 〔講義のすすめ方〕

講義はテキストににそって、毎時間1章ずつ進む。講義の内容は具体的な事例を紹介しながらわかりやすい解説をしていく。講義の内容は1回ごとにまとまっていて、次の時間と継続することはない。

講義の概要は、毎時間、印刷物で配布する。さらに宿題をしばしば出すので、翌週その提出を忘れないようにする。

### 〔教材〕

以下のテキストを使用する。

教育制度研究会編

「要説 教育制度（新訂版）」

（学術図書出版）¥2400+税

### 〔成績評価の方法・基準〕

・テキストの概要をまとめたノートを定期試験を受けるときに提出する。ノート提出者には

5点を加算する。ノートは後日返却する。

- ・学期末に定期試験を行う。合格の基準は原則として60%できていることとする。
- ・次の課題の中から10課題を選び、各課題について1000字前後の解説を提出したのものには、試験の成績に10点を加算する。これはあくまで任意であって義務ではない。提出の締め切りは前期6月20日、後期12月20日とする。この解説はすべて手書きとする。ワープロ使用は認めない。提出先は馬場研究室とする。

課題：職員会議、校長のリーダーシップ、職務命令、分掌組織、主任、教育課程の編成、補助教材、休日、生徒指導、体罰、学校事故、服務、教職員の時間外勤務、研修、初任者研修、学校施設、学校管理規則、学校評議員、指導主事、教科書、学校事務、職員団体、学級経営。

### 〔履修のポイント・注意点〕

- ・出席をとる。毎時間、出席データ収集端末機で出席を確認する。
- ・講義は時間通り正確に始まる。正当な理由がない限り遅刻は認めない。遅刻入室は禁止する。
- ・話の調子はゆっくりなので、講義の話をよく聞き、そしてメモを的確にとるようにする。黒板はほとんど使わない。

### 〔科目内容の位置付け〕

- ・講義の内容、レベルとも教育学の基礎的、基本的なものであるから、そんなにむずかしくはない。きちんと出席をしてきちんと復習をすれば、理解できる。
- ・話は意外に面白く楽しいよ！！ いや、ほんと。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目：教育総論、教育原理

関連科目：教育課程論、比較教育論

科目名	比較教育論		
単位	2	開設	半期
教員名	馬場 将光		

### 〔講義目的〕

本講義は3つの目的をもつ。1つは学生諸君が日本の教育の特徴を把握することである。人は自分を見失った時にはあるいは自分がどういう人間であるかを知るためには、他人と自分を比較せよ、とよくいわれる。日本の教育のかたちを知るためには、日本の教育と他国の教育とを比較することが重要である。この比較法をつかって、日本の教育のかたちを考察する。2つは現代の国際化時代においては他国の教育のかたちを理解し、他国の人の考え方をすることは相手を知るうえで大切である。一口でいえば外国教育の理解である。3つは教員の資格をとり教職につこうとするものにとって、将来教員選考試験をパスするための基礎的な知識を学習することにある。

### 〔講義内容〕

講義内容は、おおむね次のようになる。

1. 比較教育の目的・方法・課題
2. 半日制の学校（ドイツ）
3. 子供中心の学校（フランス）
4. 新たな発展を求める学校（エクアドル）
5. 明るくて楽しい学校（ブラジル）
6. 変革のうねりのなかの学校（ロシア）
7. 揺れる社会主義大国の学校（中国）
8. 課外活動を楽しむ学校（イギリス）
9. 多民族・多文化尊重の学校（オーストラリア）
10. 多様ななかの平等を模索する学校（アメリカ）
11. アジアの優等生の学校（シンガポール）
12. 心の教育を重んじる国の学校（タイ）
13. 木陰の学校（インド）
14. 先生様の国の学校（韓国）

### 〔講義のすすめ方〕

講義はテキストににそって、毎時間1章ずつ進む。受講生は個人またはグループでそれぞれ1章を担当し、その内容をレポートにまとめ、発表をする。授業の内容は1回ごとにまとまっていて、次の時間と継続することはない。

発表の概要は、毎時間、印刷物にまとめて、配布する。

また宿題をしばしば出すので、翌週その提出

を忘れないようにする。

### 〔教材〕

以下のテキストを使用する。

二宮 皓編「世界の学校」  
（学事出版）¥2500＋税

### 〔成績評価の方法・基準〕

- ・テキストの概要をまとめたノートを定期試験を受けるときに提出する。ノート提出者には5点を加算する。ノートは後日返却する。
  - ・学期末には定期試験に代えてレポートを提出するものとする。レポートの執筆はすべて手書きとする。ワープロ使用は認めない。提出先は馬場研究室とする。
- レポートの課題は次の通り。

「最低5ヶ国についてある問題について比較し、そこにはどのような共通点と差異点があるかを指摘し、その理由を考察せよ。」「ある問題」とは、例えば学校制度、教育課程・教育内容、教育方法、課外活動、宗教教育、学校生活、進級試験、大学入試、教育改革、就学前教育、親と学校との関係、教員養成、私立学校と公立学校、その他自分が関心のある問題をいう。1口でいえばなんの問題でもよい。

### 〔履修のポイント・注意点〕

- ・出席をとる。毎時間、出席データ収集端末機で出席を確認する。
- ・講義は時間通り正確に始まる。正当な理由がない限り遅刻は認めない。遅刻入室は禁止する。
- ・話の調子はゆっくりなので、講義の話をよく聞き、そしてメモを的確にとるようにする。黒板はほとんど使わない。

### 〔科目内容の位置付け〕

- ・講義の内容、レベルとも教育学の基礎的、基本的なものであるから、そんなにむずかしくはない。きちんと出席をしてきちんと復習をすれば、理解できる。
- ・話は意外に面白く楽しいよ！！いや、ほんと。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目：教育総論、教育原理、教育制度論、  
教育課程論

科目名	教育哲学		
単 位	2	開 設	集中
教 員 名	石堂 常世		

### 〔講義目的〕

1. 本講義では、人間形成の哲学を講義する。  
その際、「子どもが大人になる」とはどういうことか、という問題意識から掘り起こしていく。
2. 本講義では、可能な限り西洋および日本の古典的名著を援用し、それらの人間観にみられる教育的価値の多様性や対峙性を考察させ、人間の教育については種々の哲学的見方が、ときには対立する見方があるということを理解させる。
3. ヨーロッパの古典的思想、日本の江戸時代に読まれた古典、アメリカの教育哲学を学ぶ。  
教育の本質を、日本の思想史の中に発掘させるため、日本人を形成してきた「人としての道」に関する古典を学ばせる。「山高きがゆえに貴からず」（『実語教』）などのメタファー（比喩）による古来からの人格育成論を味読させる。
4. 教育の時事問題に流されず、教育の理念や価値を理解できるように指導する。  
本講義を通して、自己体験型の教育観や評論家的な教育観から脱皮し、「人間の熟成」ということの意味を生涯にわたって考えていけるような、心に残る授業にしたい。

### 〔講義内容〕

- 第1回 序 授業計画および教育学全体の進展からみた教育哲学の位置
- 第2回 教育哲学の考察の手法と基底について
- 第3回 教育の意味の多様性と対峙性 古典的教育哲学と新教育 二元論と一元論の相違
- 第4回 語源にみる「教育」の意味 植物や動物の成長との違い
- 第5回 「徳」を育むという古典的教育目的 コメニウス『大教授学』の今日的意義
- 第6回 教育の哲学研究（日本の古典） その1『実語教』金銀に優る智
- 第7回 教育の哲学研究（日本の古典） その2『童子問』真に学ぶとは？
- 第8回 教育の哲学研究（西洋の古典） その3『国家』『洞窟の比喩』感覚・経験

### の誤謬

- 第9回 ルソーの教育論『エミール』研究 自然に帰れと児童中心主義
- 第10回 新カント派の教育観と人間観 篠原助市『理論的教育学』
- 第11回 デュルケムにみる社会学教育論『教育と社会学』
- 第12回 デューイのプラグマティズム教育論『民主主義と教育』『経験と教育』
- 第13回 学校破壊論とポストモダン系の教育論 今日における建設的教育哲学の必要性
- 第14回 道徳性・社会性育成のための教育哲学
- 第15回 定期試験

### 〔講義のすすめ方〕

1. 宿題としてレポートを数回出し、授業中に発表をさせ、自主的な授業構成にする。
2. 専門的内容なので、できれば3,4年生の受講が望ましい。
3. 前提として、教育原理を履修していること。

### 〔教 材〕

教科書：山崎・石堂監修『教育哲学へのいざない』（学術図書）2008年4月刊 他  
参考書：授業中に随時、多くの参考文献を示唆するので、図書館で読むか、購入してください。  
原則として、毎授業に、レジュメ（概要）と資料をプリント配布する。

### 〔成績評価の方法・基準〕

欠席が半分近い場合、定期試験の受験は無理である。  
①授業中にし出すレポート（A,B,C,Dの4段階評価）（10%）  
②出席状況と授業態度の積極性（10%）  
③学期末試験（100点満点）（80%）

### 〔履修のポイント・注意点〕

授業配当は、夏期集中講義になる。

### 〔科目内容の位置付け〕

教職課程科目の随意科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕  
教育基礎論／教育原理

科目名	保育内容研究（健康）		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	岩城 淳子		

〔講義目的〕

幼児期の健康教育の課題の一つには、親や保護者によって庇護された生活から、自ら考え行動できる生活へと移行していくことがあげられる。保育者には、子どもが他律的な健康管理から自律的な健康管理へつながる道すじを提示し、導いていくことが求められている。この講義では、乳幼児期の健康生活を理解することとその基礎となる自分自身の健康観を確立することを目的とする。

〔科目内容の位置付け〕

保育士資格取得のための重要な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

保育内容演習（健康）

〔講義内容〕

- 第1回 健康の概念
- 第2回 生活環境の変化が、子どもの心と体に与える影響
- 第3回 乳幼児期の発育発達の概要
- 第4回 形態の発育
- 第5回 機能と心の発達
- 第6回 生活リズム
- 第7回 基本的な生活習慣の確立
- 第8回 睡眠・食事・排泄・清潔・着脱
- 第9回 生活習慣の自立への援助と躰の考え方
- 第10回 安全管理と安全教育
- 第11回 保育環境の安全性、子どもの怪我や事故の実態の原因と対策
- 第12回 保育者の心身の健康が、保育活動に与える影響
- 第13回 現代の社会と子どもの健康
- 第14回 健康観の理解
- 第15回 定期試験（90分間）を実施する。

〔講義のすすめ方〕

主として講義形式であるが、テーマによりグループ別の作業やディスカッションを取り入れる。

〔教 材〕

『乳幼児の健康』（大学教育出版）

〔成績評価の方法・基準〕

受験資格は、『白鷗大学試験規則』に準ずる。

〔履修のポイント・注意点〕

全回出席を原則とする。

科目名	保育内容研究（人間関係）		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	中山 昌樹		

#### 【講義目的】

この講義では、「遊びを核にした保育」というものを理解し、幼児期の子どもにとって、今、必要とされている生活はいかなるものなのかを探ろうと思う。言うまでもないことだが、『遊び』は、幼児期の子どもの喜びを豊かにするものであると同時に、この時期の子どもを大きく成長させる活動でもある。学びという点からすると、『遊び』は、幼児期の子どもの学習のスタイルであると言える。放任保育でもなく、強制的なつめ込み保育でもない、幼児期の子どもが自分から学べるような保育を考えると、『遊び』は必要不可欠な活動となる。

#### 【講義内容】

まず、ある幼稚園のビデオを使い、3歳・4歳・5歳児の育ちゆく姿を見る。このことを通して、「遊びを核にした保育」を具体的にイメージしたい。

その後、『遊び』そのものに焦点をあて、なに故に『遊び』が幼児期の子どもの学習のスタイルなのかを考える。そこでは、「子どもは遊びたいから遊ぶ。そして、その結果として、子どもは保育者の期待する様々なことから、保育者に言われてではなく自分から身に付ける。」ということを理解することになるだろう。

その上で、この講義のテーマである子どもの人間関係能力の育ちを考える。子どもの人間関係能力は、上で述べた『遊び』によってもたらされるところが大きい。さらに、保育者が遊び以外の場面で“きっかけ”作りをすることも必要となると思われるので、「グループ活動」や「当番活動」などについてもふれたい。

#### 【講義のすすめ方】

ひとつには、なるべく保育の具体的な場面を教材としたいので、ビデオや保育現場で実際に使われた手紙類を使って講義をすすめる。

さらに、一方的に説明を聞くことに終始するのではなく、なるべく対話的な講義になるように願うことから、ビデオを見た後に感想・質問を書いてもらい、それに答えることで次の講義をすすめるようなやり方を心がけたい。

#### 【教 材】

具体的な保育場面を記録したビデオ、保育現場で実際に使われた手紙類、その他プリントした資料を、その都度用意する。

#### 【成績評価の方法・基準】

定期テストにて行う。さらに、評価のボーダーにおいては、出欠状況などの受講態度も加味される。

#### 【履修のポイント・注意点】

既存の幼稚園・保育園のイメージを一度捨て、子どもや『遊び』について改めて考え直してみよう。

#### 【科目内容の位置付け】

「人間関係」は、単なる領域の1つであるということ以上に、「遊びを核にした保育」の中心に位置付けられるテーマであると考えられる。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

なるべく、後期の保育内容演習の前提となることを意図している。

科目名	保育内容研究（環境）		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	川添 敏弘		

#### 〔講義目的〕

「環境」という領域は、身近な環境に対する幼児の心情・意欲・態度を育てる領域である。つまり、保育者が適切な環境を通して幼児とかわかることが大切であり、そのために必要な知識と感性を学ぶことを講義の目的とする。実際に、学生自身が周りの環境に気付き、感じていく気持ちを持てるような活動を重視していく。それは、保育者自身が身近な環境に対して様々なことを感じる力を持つことが求められるからである。その上で、幼稚園・保育所の園内環境を設定し、活用していく力をつけていくこととする。また、地域環境を含めた環境教育も実施し、グローバルな視点からも園内環境を考えることができるようにする。

#### 〔講義内容〕

- ・ 幼稚園教育要領や保育所保育指針をとり上げ「環境」の意義を学ぶ。
- ・ テキストを用いて「保育内容（環境）」の基礎を学ぶ。
- ・ 散歩をし、その環境をどのように活かすか検討する。
- ・ 実際に「お散歩マップ」を作成し、発表会を行なう。
- ・ 「園内環境」についてワークショップ形式で、多くの素材や保育者自身の役割について考える。
- ・ 栽培など園芸活動について学ぶ。
- ・ ピオトープと原体験について学ぶ。
- ・ 学校飼育動物をテーマに、飼育活動の意味と生命教育について学ぶ。
- ・ 動物や虫などの飼育方法や関わり方について学ぶ。
- ・ 自然物を使った造形活動や風をテーマにしたおもちゃ作りなど、自然を感じる遊びを考える。
- ・ あなたの理想の幼稚園・保育所について「環境」をテーマに描き、発表する。
- ・ 園外環境と園内環境のつながりや、地域連携の意義について考える。ESDについて学ぶ。
- ・ 環境先進国ドイツでの環境教育の取り組みや、保育の状況を紹介する。
- ・ 環境問題をグローバルに考え、ワークショッ

プ形式で身近なものが多くの問題を抱えていることを実感する。さらに、保育の中で行なえる環境教育を考える。

#### 〔講義のすすめ方〕

基本は講義形式であるが、実際に散歩や園芸活動を可能な限り行ないたい。また、PowerPointやOHCを用いることでイメージしやすい授業を展開する。さらに、ワークショップ形式で自ら考える力をつけるようにする。そして、多くの研究事例を紹介することで、自然や生物と関わることでどのような考察ができるのか、考えていく機会を多く作っていく予定である。

課題も含め、学生自ら考え、感性を磨くことができる方法で参加型の講義をすすめていく。

#### 〔教 材〕

講義はテキストとプリントを用いる。また、活動によっては身近にあるものを教材として活用する。講義の内容によって、色鉛筆やペン、ハサミ、糊などを用いることがあるが、その場合は事前に通達する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

成績は課題の提出物（30％）、発表内容（20％）、出席・授業態度（20％）、試験（30％）で評価する。

全般的に、積極的に取り組む姿勢や何事にも楽しんでいく態度など、幼稚園・保育所で必要とされる部分を評価の中心とする。よって、提出物は「丁寧さ」「上手さ」よりも、保育で活用する上で有効なものであるかを重視する。また、常習的な遅刻には厳しく対応する。欠席には課題を出し、提出を義務づける。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

参加型の授業をできる限り実施したいと考えているので、積極的に参加することで幼稚園教育者・保育士としての感性を磨いてほしい。幼児期という大切な時期に関わる人間であることを意識して授業に臨むこと。課題は確実に提出すること。

**〔科目内容の位置付け〕**

「環境」は、幼稚園教育要領の5領域のひとつであり、幼児期教育に重要な科目である。また、「保育内容研究（環境）」は、幼稚園教諭、保育士を育成するために必要とされている必須科目である。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

特になし。

科目名	保育内容研究（言葉）		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	松本 和美		

#### 【講義目的】

子どもは言葉を人間関係を含む全ての生活とかわりながら、自然に獲得していく。そこで言葉の持つ意味や人の言葉の特質、その言葉を獲得する乳幼児の様子と成長・発達の流れについて事例を通して把握し、それに関わる保育者の役割について考えていきたい。

また、子どもの言葉環境を豊かにする文化財を授業の中で毎回紹介していく。それらを実演したり、創作したり、話し合ったりすることによって、自分自身の言葉の感性を磨き、豊かな感性と表現力を持った保育者をめざしてほしい。

#### 【講義内容】

- (1) オリエンテーション
- (2) 幼児教育学からの言葉指導の目標
- (3) 言葉で楽しむ・言葉を楽しむ
- (4) ことば遊びの世界
- (5) お話の世界
- (6) 劇遊びの世界
- (7) 言葉習得の道のりと指導
- (8) 言葉の準備期
- (9) 一語文期
- (10) 2,3歳児の言葉の発達と指導
- (11) 4,5歳児の言葉の発達と指導
- (12) 文字言葉入門期
- (13) 気になる言葉の問題
- (14) 保育者の言葉生活  
保育者の言葉・実習生の言葉
- (15) まとめ

#### 【講義のすすめ方】

子どもにとって言葉とは何か、どのように言葉を獲得していくのか、そして言葉を育てるためにどのように援助していったらよいかを、ビデオ視聴やディスカッション、観察を取り入れながら、ともに模索したい。

また、実技演習を多く取り入れ、保育技術の錬磨に直接役立つように構成し、実践的な指導力を身につけるよう指導する。

#### 【教 材】

教科書

『ことばが生まれことばが育つー「言葉」指導

実践のためにー』加古明子・松本和美他著（宣協社）

#### 参考図書

『おはなしおぼさんの小道具』藤田浩子著（一声社）

#### 留意事項

はさみ、のり等を使う作業を行うことがあるので、授業時持参してください。

#### 【成績評価の方法・基準】

授業時の活動や発表、及び提出物、レポートによる。

#### 【履修のポイント・注意点】

言葉の発達を促す教材作りや言葉遊びを授業内で行う。

積極的に授業に参加し、発表を行うことを望む。

#### 【科目内容の位置付け】

この講義科目は通知科目の中の保育内容「言葉」に関する科目である。

関連する科目には、必修の「保育の内容・方法の理解」系列の保育内容総論に該当する科目として「保育内容の研究Ⅰ」があり、保育内容についての総論的な取り扱いをしている。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

それを基盤として領域区分「言葉」からみた保育内容論として講ずるのが、この授業科目であり、「保育内容総論」に対応した領域各論（言葉）にあたる。

科目名	保育内容研究（音楽表現）		
単位	2	開設	半期
教員名	富田 英也		

### 〔講義目的〕

自発的な活動としての幼児のあそびは、心身の調和の取れた発達の基礎を培うものである。また、幼児の発達は心身の諸側面が関連し合い多様な経過をたどって成し遂げられるものである。本講義の目的は、幼児の主体的な活動を促し、自己を十分発揮できるような幼児一人一人の特性に応じ、発達の過程に即した指導や援助を行えるような保育者を目的とする。

### 〔講義内容〕

- 1、オリエンテーション、保育内容領域「表現」のプロセスと認識
- 2、教育要領と保育指針
- 3、乳幼児の心身の発達と音楽的機能の発達
- 4、童謡の変遷とこどもの歌の重要性
- 5、感性と表現の理解、お遊戯と身体表現1
- 6、イメージと動き、お遊戯と身体表現2
- 7、手あそび指あそび1、特性と意義
- 8、手あそび指あそび2、発達の視点で捉える
- 9、わらべ歌あそびの重要性1、乳幼児のわらべ歌あそびと伝承あそび
- 10、わらべ歌あそび重要性2、幼児のわらべ歌あそびと集団あそび
- 11、楽器の基礎技能と演奏法（リズム楽器、打楽器、和楽器、合奏）1
- 12、楽器の基礎技能と演奏法（リズム楽器、打楽器、和楽器、合奏）2
- 13、教材研究と指導計画の作成1
- 14、教材研究と指導計画の作成2
- 15、定期試験（90分間）または授業を実施する

### 〔講義のすすめ方〕

幼児の主体的な活動を促すには、興味・意欲・関心を育てることであり、幼児の表現しようとする意欲を受け止め生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことである。本講義「音楽表現」では、教育の基本やねらいを捉え、領域相互の関連を考慮しながら、学生自らの感性を磨き、表現する喜びを味わい、創造性を育もうとするものである。さらに、こどもの心身の発達と音楽的能力を認識し、季節や行事と様々な事象等に相応しい音楽表現活動の実践と計画をす

る。

### 〔教材〕

- ・ 幼児の音楽と表現 下田和男・西村政一 編著 建帛社 1,900円+税
- ・ 参考図書 うたっておどっておもちゃ箱 Part2 教育芸術社 2,200円+税

### 〔成績評価の方法・基準〕

受験資格は「白鷗大学試験規則」に準ずる。学期末試験と提出物および平常の取組む意欲や態度。出席率30%、試験70%

### 〔履修のポイント・注意点〕

全回出席を原則とする。

### 〔科目内容の位置付け〕

保育士資格取得のための重要な科目である。こどもの目線でこどもの立場になって物事を考え理解する視点が必要である。幼稚園教諭資格取得関連科目。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

ソルフェージュ、音楽実技Ⅰ（ピアノ基礎技能）、音楽実技Ⅱ（子どもの音楽）を履修し童謡の課題を習得していることが望ましい。

科目名	保育内容研究（美術表現）		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	益田 勇一		

### 〔講義目的〕

明治以降の幼児造形教育の歴史と子どもの造形表現の特性について学ぶ。幼児造形教育の歴史を概観することで、造形表現に何が求められてきたかを知り、子どもにとっての造形表現の意義と役割について考察する。

子どもは1歳前後から絵を描き始めるが、その形態は抽象的で写実的な絵画を見慣れた大人の目には奇異なものに映り、子どもが何を表現しようとしたかを理解することは困難である。しかし、子どもの絵の発達の段階を注意深く観察することで、子どもの絵には大人とは異なる固有の原理があることがわかってくる。子どもはなぜ描くのか、子どもが描く独特の形にどのような意味があるのかを理解してはじめてその造形表現の指導も可能となる。

### 〔講義内容〕

1. 表現という言葉
2. 造形表現の歴史 (1)  
古代から中世へ
3. 造形表現の歴史 (2)  
ルネサンスから近世へ
4. 造形表現の歴史 (3)  
19世紀から20世紀へ
5. 芸術の必要性
6. 幼児造形教育の歴史 (1)  
明治前期：フレーベル
7. 幼児造形教育の歴史 (2)  
明治後期から大正：モンテッソーリ
8. 幼児造形教育の歴史 (3)  
昭和初期から第二次世界大戦
9. 幼児造形教育の歴史 (4)  
第二次大戦後：ローウェンフェルド
10. 幼児造形教育の歴史 (5)  
シュタイナー教育
12. 児童画の発達段階 (1)  
なぐりがき期／象徴期
13. 児童画の発達段階 (2)  
前図式期／図式期
14. 幼稚園教育要領

### 〔講義のすすめ方〕

要点を板書し、解説を加える。発達段階の講義においては実際に子どもが描いた絵をもとに

話を進め、受講生にも子どもの絵を集めてもらう。

### 〔教 材〕

教科書：『たのしい造形表現』子どもの造形表現研究会編、圭文社。

参考書：『児童画の口ゴス』鬼丸吉弘著、勁草書房。

### 〔成績評価の方法・基準〕

定期試験とレポートによる評価。

定期試験 80%

レポート（1回） 20%

### 〔履修のポイント・注意点〕

この授業では作品制作は行なわないが、日頃から子どもの描いたもの、作ったものに関心を持ち、その意味について考えてみるのが大切である。なぜその色や形なのか？疑問をもつことが子どもの造形表現を理解する出発点となる。

### 〔科目内容の位置付け〕

幼稚園教諭免許を取得する学生のための科目。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

保育内容演習（美術表現）

科目名	保育内容研究（身体表現）		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	白井 麻子		

#### 【講義目的】

身体表現（表現あそび・ダンス）を中心に、「こころ」と「からだ」の一体化をはかる授業を目指します。また、授業を保育現場により近い実践的な学びの場と捉え、特に、生身の人間同士の「関わり」を大事にした身体表現を通して、身体表現能力とコミュニケーション能力を高めることを目指します。

#### 【講義内容】

本授業では、①感じたことや考えたことを自分なりに身体表現する、②人と関わって身体表現する、③他者の身体表現を感じる、④表現あそびやダンスを創作する、⑤発表・交流するなど、多様な側面から身体表現（表現あそび・ダンス）の特性を楽しみ、その意義を学ぶ授業内容を展開します。また毎時間の授業は「課題を捉える、工夫して踊る、見せ合って楽しむ」という流れといろいろな人と関わる活動形態で展開します。

#### 【講義のすすめ方】

1. オリエンテーション  
授業内容についてのオリエンテーションと簡単な表現遊び
2. 表現あそび  
いろいろな表現あそびを学び、自分たちの工夫を加えて楽しむ
3. 表現あそび〔音楽にのって〕  
いろいろなリズムの音楽にのって動きを工夫し、みんなで関わって踊る
4. 身体のいろいろな部位を使った動きづくり  
自分の身体はどんな動き方ができるのか、身体の全部位を意識して動く。
5. 音楽のイメージをとらえて即興表現する  
音楽のイメージをとらえて一緒に踊り即興的な表現に挑戦する
6. 日常的な動作をもとに表現的な動きを工夫する  
歩く、走る、掃除する、料理する、スポーツするなどの、日常的動きを用いた表現を工夫する。
7. 「〇〇になって」  
身近な出来事からテーマを持ち寄り、取り組みたいテーマを選び、「〇〇になっ

て」の表現に取り組む。

8. 小道具をつかって  
簡単な小道具をつかっての（道具を何かに見立てて）表現に取り組む。
9. お話をつくろう  
絵本や物語を題材に身体表現する。
10. 共通課題をもとにした表現（創作）①  
共通課題「〇〇〇〇」から各グループの表現を工夫する
11. 共通課題をもとにした表現（創作）②
12. 共通課題をもとにした表現（創作）③
13. 共通課題をもとにした表現（創作）④
14. 発表会
15. ビデオ鑑賞、授業のまとめ

#### 【教 材】

特になし（必要に応じて配布する）

#### 【成績評価の方法・基準】

出席状況、授業内発表、学び方、授業内ノートによって総合的に評価する。

#### 【履修のポイント・注意点】

動きやすい服装で参加すること（Tシャツ・ジャージなど、ジーンズは不可）。出席して体験することが大事な授業であるので、欠席はしないこと。やむを得ない理由で動けない場合には見学すること。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

保育内容演習（身体表現）

科目名	保育内容演習（健康）		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	岩城 淳子		

〔講義目的〕

本講義は、保育内容研究（健康）の応用として、実際の保育場面を想定しての健康教育活動の立案と実施を行なうものである。

現在、乳幼児の生活は急速な社会状況の変化や価値観の多様化などにより、あまり健康的ではない方向へと変容している。将来保育者として、子どもの置かれている状況と健康生活との調整ができるよう、子どもや保護者に対するよりよい対応の可能性を探ることを目的とする。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

保育内容研究（健康）

〔講義内容〕

- 第1回 健康管理と健康教育
- 第2回 健康教育の目的と方法論
- 第3回 保育保健計画と関連法規
- 第4回 現代の健康課題
- 第5回 テーマの選定
- 第6回 指導内容の文献研究
- 第7回 中間発表
- 第8回 保健管理
- 第9回 保健指導
- 第10回 グループワーク  
（健康教育活動の立案）
- 第11回 グループワーク（教材作成）
- 第12回 グループワーク  
（プレゼンテーション）
- 第13回 グループ発表（指導の実施）
- 第14回 グループ間評価と総括討議
- 第15回 定期試験（90分間）を実施する。

〔講義のすすめ方〕

講義形式とグループワークである。

〔教 材〕

『乳幼児の健康』（大学教育出版）

〔成績評価の方法・基準〕

受験資格は、『白鷗大学試験規則』に準ずる。

〔履修のポイント・注意点〕

全回出席を原則とする。

〔科目内容の位置付け〕

保育士資格取得のための重要な科目である。

科目名	保育内容演習（人間関係）		
単位	1	開設	半期
教員名	中山 昌樹		

【講義目的】

この演習では、前期の保育内容研究をふまえ、「遊びを核にした保育」を実践するための具体的・技術的側面を重視した内容を目指したい。

【講義内容】

テキストやビデオを使い演習をすすめる。具体的には、以下のようなポイントにより、そこでの環境構成や保育者の援助についてを考える。

- 1から3時 : 「制作コーナー」について
- 4から6時 : 「ごっこ遊び（ままごと）コーナー」について
- 7から8時 : 保育室の「広場」について
- 9から10時 : “挑戦したくなる” ような場について
- 11から12時 : 子ども集団に働きかける援助について
- 13から15時 : 保育者から子どもへの“言葉かけ” について

全て「人間関係」にとって重要な場面である。演習なので、その都度、考えを記述したり、グループで話し合ったりということが求められる。

【講義のすすめ方】

なるべく具体的な保育場面を想定したいので、ビデオなどの視覚的教材を使用したい。

【教材】

テキスト（「保育環境プランニングブック2 3・4・5歳児の保育環境」、2001・7、株式会社チャイルド本社）の他、ビデオやプリントした資料を使用する。

【成績評価の方法・基準】

定期テストと一部出欠状況などの受講態度により行う。

【履修のポイント・注意点】

純粹に子どもたちの成長にとってどのような園生活が必要かということを考えてほしい。その上で、そのための具体的な技術を身につける動

機づけを高めてほしい。

【科目内容の位置付け】

領域の1つでもある「人間関係」、子どもの人とかかわる能力の成長を、具体的に保育の現場で実現させるための演習である。

【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

なるべく、前期の保育内容研究（人間関係）を受講した上で履修してもらいたい。

科目名	保育内容演習（環境）		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	小原 政敏		

#### 〔講義目的〕

保育における多様な環境のうち主に自然環境・物的環境についてその実態と子どもの成長との関連を体験的に演習し、保育士としての職務に必要な基礎的・基本的技能を修得する。

#### 〔講義内容〕

- 1、オリエンテーションと大学隣接河川敷公園活用園外保育計画作成
- 2、紙工作Ⅰ 紙による動くおもちゃの制作
- 3、紙工作Ⅱ 紙による動物・植物の造形
- 4、折り紙工作Ⅰ 簡単な折り紙による動物・植物の制作
- 5、折り紙工作Ⅱ 折り紙による多少複雑な造形の作成
- 6、切り紙Ⅰ 切り紙による動物・植物の制作
- 7、切り紙Ⅱ 切り紙による多少複雑な造形の作成
- 8、あやとりⅠ 一人あやとりによる造形
- 9、あやとりⅡ 二人あやとりによる造形
- 10、草の茎や実などを利用した遊びの工夫（大学隣接河川敷公園）
- 11、ドングリを中心とした造形
- 12、落ち葉とドングリを利用した造形
- 13、芋版による造形
- 14、自作ゲーム制作と遊び方の工夫
- 15、筆記試験

#### 〔講義のすすめ方〕

大学校内・近隣河川敷公園などの自然・植物・環境を活用し、保育士として必要な環境活用の技能を実習を通して習得する。ものづくり・おもちゃ製作を通して子どもが興味関心を高め成長を刺激できる物的環境充実の基礎技術を習得する。

#### 〔教 材〕

教科書 保育内容シリーズ 環境  
矢田貝公昭監修、一藝社  
参考書 必要に応じて紹介する。  
VTR・補助プリント  
パソコンソフト

#### 〔成績評価の方法・基準〕

子どもの成長と環境の関係の理解力、子どもの身体的・精神的・社会的発達により有効な環境づくりへの意欲と実践を評価する。

筆記試験 学期末の定期試験

レポート 提出された内容について評価  
（必要に応じて指示する。）

判定基準（講義内容で変更することもある）

- ・試験点数 40%
- ・出席率 20%
- ・レポート 40%

#### 〔履修のポイント・注意点〕

自然環境は子どもの成長に大きな影響を与えている。保育園・幼稚園・小学校・家庭・地域社会・地域の自然環境に目を向けて現実の保育環境を観察し、より良い保育環境作りや改善へ積極的に取り組むことが大切である。子どもが自然環境や物的環境に興味関心を持つような指導技術を習得したい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

この科目は、幼稚園教育要領の5つの領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の一つである。

また、保育内容の環境を体験的に学習する科目でもある。

環境は、物的環境と心理的環境に分けられるが、ここでは主に自然環境や物質的環境を実習を通して理解を深める。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目 保育内容研究（環境）

関連科目

・教養科目として「環境科学」がある。

科目名	保育内容演習（環境）		
単位	1	開設	半期
教員名	水井 安廣		

### 〔講義目的〕

人は環境によって育つと言われる。特に幼児期における環境の持つ意味は大きい。子どもは環境と主体的に関わり、深めながら、感動、共感、意欲、好奇心などの豊かな感性や、思考力・想像力・表現力を身に付けていく。

この「保育内容 環境」は、子どもと身近な自然環境や社会環境との関わりを焦点にして、学生自身の直接的体験を通して保育を実践するために必要な資質を身に付ける。

### 〔講義内容〕

- 第1回 オリエンテーション  
 第2回 環境の持つ意味とねらい  
 ・ 保育所保育指針「環境」のねらいと発達段階による環境との関わり方  
 第3回 身近な自然との関わりⅠ（学外授業）  
 ・ 5感を使った自然とのふれあい、指導者の役割  
 第4回 身近な自然との関わりⅡ（学外授業）  
 ・ 身近な野草を使ったあそび、野外活動の注意事項  
 第5回 ものづくりⅠ  
 ・ 竹など身近な素材を使ったあそび、おもちゃ作り  
 第6回 “ ”Ⅱ  
 ・ 学生によるおもちゃ作りとプレゼンテーション  
 第7回 科学あそびⅠ  
 ・ 身近な科学あそび（水・色）  
 第8回 “ ”Ⅲ  
 ・ “ ”（音・空気）  
 第9回 “ ”Ⅳ  
 ・ “ ”（動くもの）  
 展開のポイント  
 第10回 身近な自然との関わりⅢ（学外授業）  
 ・ 自然の中の四季の発見（樹木・植物・昆虫など）  
 第11回 園内環境の実地見学（学外授業）  
 ・ 近隣の幼稚園の環境の探索と活用方法  
 第12回 感性の表現活動Ⅰ  
 ・ 自然や生き物を素材とした絵本作り  
 第13回 “ ”Ⅱ

・ 手作り絵本の作成とプレゼンテーション

第14回 野外における危険生物  
 ・ 危険植物、危険動物の種類と対処方法

第15回 まとめと評価  
 ・ 「環境」年間計画の作成と相互評価

### 〔講義のすすめ方〕

基本的に、次の二部構成で演習を進める。

- Ⅰ 自然との直接的体験、もの作りを通じた演習
- Ⅱ 学生によるプレゼンテーションや振り返り  
 後半に、身近な自然や生き物との対話からふくらませた感性を、絵本の形で表現する。

### 〔教材〕

- テキスト 「保育内容・環境」  
 岸井勇雄・武藤 隆・柴崎正行監修  
 同文書院 2,205円
- 参考書 「子どもと環境」 中沢和子著  
 萌文書林  
 「自然観察で楽しく遊ぼう」  
 東山 明・山田卓三監修  
 明治図書  
 「センス・オブ・ワンダー」  
 レイチェル・カーソン著 新潮社  
 「野外における危険な生物」  
 (財)日本自然保護協会 平凡社  
 その他必要に応じて紹介する。

### 〔成績評価の方法・基準〕

受験資格は、『白鷗大学試験規則』に準ずる。  
 レポート・課題の提出物と出席数により評価する。

### 〔履修のポイント・注意点〕

全回出席を原則とする。

### 〔科目内容の位置付け〕

保育士資格取得のための重要な科目である。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

- 前提科目 保育内容研究「環境」  
 関連科目 教養科目の「環境科学」

科目名	保育内容演習（言葉）		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	神永 直美		

#### 〔講義目的〕

この授業では、子どもが言葉を獲得していく過程や言葉が育つ環境について理解を深め、保育現場における人的環境及び物的環境の重要性について学んでいく。また、演習を通して保育者の役割や援助の方法について具体的に考え、自分自身の言葉の感性を磨き、豊かな表現力を身につけていくことを目的とする。

#### 〔講義内容〕

- 1 オリエンテーション  
保育の基本と領域「言葉」
- 2 ことばの誕生
- 3 ことばの特徴と発達
- 4 ことばが育つ環境
- 5 ことばの不思議
- 6 ことばを育てる
- 7 ことばのはじめりのころの保育
- 8 保育の展開と幼児理解
- 9 保育者の役割と援助（1）  
－幼児の実態のよみとり－
- 10 保育者の役割と援助（2）  
－ことばが育つ環境－
- 11 保育者の役割と援助（3）  
－教材の選択と研究①－
- 12 保育者の役割と援助（4）  
－教材の選択と研究②－
- 13 保育者の役割と援助（5）  
－教材の選択と研究③－
- 14 言葉をめぐる問題点
- 15 定期試験（90分間）  
または授業を実施する。

#### 〔講義のすすめ方〕

領域「言葉」を保育という営みの中で捉えていくとともに、様々な文化財に触れ子どもたちがことばの世界を豊かに広げていくためにはどうしたらよいかを考えていく。また、自分たちで教材を創作したり、実演発表したり、話し合ったりすることを通して実践的な技能を身につけられるようにすすめていく。

#### 〔教 材〕

保育内容「言葉」ミネルヴァ書房  
保育所保育指針 幼稚園教育要領解説

#### 〔成績評価の方法・基準〕

- ・受験資格は、『白鷗大学試験規則』に準ずる。
- ・評価は、1. 定期試験期間中に行う筆記試験  
2. 随時のレポート・課題作品 3. 出席状況  
4. 授業への取り組み 以上4点から総合的に評価を行う。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

- ・全回出席を原則とする。
- ・子どもの日常のことばやそれを取り巻く環境に関心を向け、その面白さを味わってみよう。今まで気づかなかったことが見えてくるに違いない。

#### 〔科目内容の位置付け〕

保育士資格取得のための重要な科目である。

科目名	保育内容演習（音楽表現）		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	富田 英也		

### 〔講義目的〕

自発的な活動としての幼児のあそびは、心身の調和の取れた発達の基礎を培うものである。また、幼児の発達は心身の諸側面が関連し合い多様な経過をたどって成し遂げられるものである。本講義の目的は、幼児の主体的な活動を促し、自己を十分発揮できるような幼児一人一人の特性に応じ、発達の過程に即した指導や援助を行えるような保育者を目的とする。

### 〔講義内容〕

- 1、オリエンテーション、  
保育内容領域「表現」のプロセスと認識
- 2、教育要領と保育指針
- 3、乳幼児の心身の発達と音楽的機能の発達
- 4、童謡の変遷とこどもの歌の重要性
- 5、感性と表現の理解、お遊戯と身体表現1
- 6、イメージと動き、お遊戯と身体表現2
- 7、手あそび指あそび1、特性と意義
- 8、手あそび指あそび2、  
発達の視点で捉える
- 9、わらべ歌あそびの重要性1、  
乳幼児のわらべ歌あそびと伝承あそび
- 10、わらべ歌あそび重要性2、  
幼児のわらべ歌あそびと集団あそび
- 11、楽器の基礎技能と演奏法  
(リズム楽器、打楽器、和楽器、合奏) 1
- 12、楽器の基礎技能と演奏法  
(リズム楽器、打楽器、和楽器、合奏) 2
- 13、教材研究と指導計画の作成1
- 14、教材研究と指導計画の作成2
- 15、定期試験（90分間）  
または授業を実施する

### 〔講義のすすめ方〕

幼児の主体的な活動を促すには、興味・意欲・関心を育てることであり、幼児の表現しようとする意欲を受け止め生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことである。本講義「音楽表現」では、教育の基本やねらいを捉え、領域相互の関連を考慮しながら、学生自らの感性を磨き、表現する喜びを味わい、創造性を育もうとするものである。さらに、こどもの心身の発達と音楽的能力を認識し、季節や行事と様々な事象等に相応しい音楽表現活動の実践と計画をす

る。

### 〔教 材〕

- ・ 幼児の音楽と表現 下田和男・西村政一 編  
著 建帛社 1,900円＋税
- ・ 参考図書 うたっておどっておもちゃ箱  
Part2 教育芸術社 2,200円＋税

### 〔成績評価の方法・基準〕

受験資格は『白鷗大学試験規則』に準ずる。学期末試験と提出物および平常の取組む意欲や態度。出席率30%、試験70%

### 〔履修のポイント・注意点〕

全回出席を原則とする。

### 〔科目内容の位置付け〕

保育士資格取得のための重要な科目である。こどもの目線でこどもの立場になって物事を考え理解する視点が必要である。幼稚園教諭資格取得関連科目。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

ソルフェージュ、音楽実技Ⅰ（ピアノ基礎技能）、音楽実技Ⅱ（子どもの音楽）を履修し童謡の課題を習得していることが望ましい。

科目名	保育内容演習（音楽表現）		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	浅賀 ひろみ		

### 〔講義目的〕

保育内容 領域「表現」の設定趣旨は、子どもの人間的な育ちに大切な感性を豊かに育てるとともに、感じたこと考えたことを表現し楽しむ意欲を養い、創造性を培うことである。そのため、次のことがらがねらいとしてあげられている。

- ①いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ
- ②感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ
- ③生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ

これらのねらいは、子どもの生活において、またその成長・発達の過程の中で、様々な活動を通して無理なく達成されることが求められている。子どもの活動は、一つの領域だけにとどまるのではなく、各領域が相互に関連を持ちながら総合的に展開しているのである。そのため、保育者には子どもの活動や経験・思い・心の動き・つぶやき・まなざしなど、子どもなりの様々な表現を多角的に受け止め、返し、育てるといった適切な対応が望まれるのである。

そこで、本講義では、特に子どもの音楽的な表現について、演習を中心に授業を構成し、他の教科目で学習した知識や技能と関連させながら学びをすすめ、「表現とは何か」「子どもの活動が日々の生活や遊びにいかに密接にかかわっているか」「表現する力を育てるとはどういうことなのか」を考えていく。

具体的には、幼児から児童までの発達段階における音楽とあそびから、感性を育みイメージを豊かにし、色々な事象にあった音楽表現活動を目的とする。又、保育者自身を含めたイメージトレーニングとパフォーマンス等を行うものである。

### 〔講義内容〕

生活を通した総合的な視点から、幼児の主体性を十分発揮して展開できるような、環境にあった音楽表現活動を模索する。こどもの心身の発達と音楽的能力・リズムと身体表現・等々を認識しながら、楽器あそび、劇あそび、音楽と身体表現、音楽表現活動を行う。

### 〔講義のすすめ方〕

ステップバイステップで次のようなあそびとパフォーマンスを体験する。

- \* 絵本や紙芝居と楽器あそび
- \* 劇あそび（指人形、手袋人形、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター、等々）
- \* ゼスチャーとパントマイム
- \* 音楽と身体表現
- \* ミュージカルやオペレッタ

### 〔教 材〕

浅賀ひろみ編『音楽表現演習』開成出版(2008)

他、適宜プリント配布

### 〔成績評価の方法・基準〕

課題の提出・発表内容、出席、取り組む態度等

### 〔履修のポイント・注意点〕

幼児の生活の実態をふまえた創意工夫が大切であり、興味をもって積極的に取り組む姿勢を重要視する。こどもの目線でこどもの立場になって物事を考え理解する視点が必要である。

### 〔科目内容の位置付け〕

幼稚園教諭・保育士資格取得関連科目

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

保育内容研究（表現①）、音楽実技Ⅰ、音楽実技Ⅱ、音楽実技Ⅲ、等々

科目名	保育内容演習（美術表現）		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	小久保 裕		

#### 〔講義目的〕

幼児の日常生活は、新鮮な発見と驚きの連続であり、美しいもの、優れたもの、心に残るような出来事に出会う、などして人間的な感性が培われていく。それを励まし、表現する意欲へと高め、実践を通して想像力豊かな人簡を育成することは、幼児指導者に課せられた責務である。

幼児の表現手段は多種であり、初期の身体的表現から、造形的、音楽的表現、さらに言語的表現に至る表現過程は、あたかも類人猿から人間への長い進化の道程を、集約して見るかのごとき、驚きと感動を覚える。この講座の「表現」とは、幼児の造形的表現を指すが、加えて「美術指導」とあるように、授業では幼児の成長段階に応じた理解と指導力、さらに自らが高い造形的表現能力を持った幼児指導者としてのセンスと技能の習得をめざす。

#### 〔講義内容〕

- 第1回 ガイダンス 子供と美術表現
- 第2回 パスと水彩絵具による技法遊び
- 第3回 マーブリングとスクラッチ
- 第4回 スパッタリングとスタンピング
- 第5回 フロッタージュとドリッピング
- 第6回 デカルコマニーからお面作りへ
- 第7回 パネルシアター・エプロンシアター
- 第8回 色紙による造形表現
- 第9回 壁面構成
- 第10回 創作文字
- 第11回 コラージュ
- 第12回 プレゼントカード
- 第13回 水彩又はアクリル絵具による絵画表現
- 第14回 ちり紙粘土作り、それを使った人形

#### 〔講義のすすめ方〕

相互批評やディスカッションを交えた課題制作を行う。

#### 〔教 材〕

テキスト 「楽しい造形表現」 圭文社  
 スケッチブック、クレパス、水彩絵具は各自持参すること。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

提出作品の質と完成度による。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

個性と創造性を重視する。固定概念にとらわれない自由な発想で、作品完成までのプロセスを楽しんでほしい。課題作品は期限までに必ず提出すること。

#### 〔科目内容の位置付け〕

子どもの造形表現を理解し、適切な指導を行う為の基礎的スキルを実践、習得する場としたい。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

「造形」、「絵画表現法」、「造形教材研究」、「美学」

科目名	ソルフェージュ		
単 位	2	開 設	通年
教 員 名	荒井 弘高		

### 〔講義目的〕

本学にて開設されている、音楽関係科目の教授内容を効果的かつすみやかに展開させるために必要な、音楽の基礎的な知識・技能を修得することを目的とする。

音楽はまず「うたう」ことから始まる。声楽教本・音楽理論書等を教材とし、「うたう」ことを中心に、楽譜を読むために必要な基礎知識、正しい音程・リズムの修得、音楽的聴覚訓練、ハーモニー感覚の訓練等を行う。同時に発声法を学び、子どもの歌・世界の歌等の鑑賞・歌唱法（美しい日本語の発語法指導を含む）を行い、簡易伴奏法を学び、音楽の美しさ・楽しさ・喜びを体験する。

またリズム教育を兼ね、ハンドベル・アングルン（竹のハンドベル）の演奏指導も行いたい。

これらを通して、豊かな感性と表現力のある人間を育成することを目標とする。

### 〔講義内容〕

- |  |  |
|--|--|
| <p>第1回 音楽とは。楽典①。<br/>「歩いて行こう」の歌唱指導。</p> <p>第2回 楽典②。「歩いて行こう」の歌唱法指導②。覚えて書く聴音①。<br/>リズムトレーニング、ステップ①。</p> <p>第3回 楽典③。「きれいなところのみずうみ」の歌唱法指導①。<br/>覚えて書く聴音②。<br/>リズムトレーニング、ステップ②。</p> <p>第4回 「きれいなところのみずうみ」の歌唱法指導②。覚えて書く聴音③。<br/>リズムトレーニング、ステップ③。<br/>コンコーネ1番。</p> <p>第5回 「もしもコックさんだったなら」の歌唱法指導①。覚えて書く聴音④。<br/>リズムトレーニング、ステップ④。<br/>コンコーネ1番。</p> <p>第6回 「もしもコックさんだったなら」の歌唱法指導②。覚えて書く聴音⑤。<br/>リズムトレーニング、ステップ⑤。<br/>コンコーネ2番。</p> <p>第7回 「春が来た」「春の小川」の歌唱法指導①。覚えて書く聴音⑥。<br/>リズムトレーニング課題消化①。</p> | <p>コンコーネ2番。</p> <p>第8回 「春が来た」「春の小川」の歌唱法指導②。覚えて書く聴音⑦。<br/>リズムトレーニング課題消化②。<br/>コンコーネ3番。</p> <p>第9回 「われは海の子」「富士山」の歌唱法指導①。覚えて書く聴音⑧。<br/>リズムトレーニング課題消化③。<br/>コンコーネ3番。</p> <p>第10回 楽典④。「われは海の子」「富士山」の歌唱法指導②。<br/>コールユーブンゲン①。<br/>コンコーネ4番。</p> <p>第11回 楽典⑤。<br/>「雪」「紅葉」の歌唱法指導①。<br/>コールユーブンゲン②。<br/>コンコーネ4番。</p> <p>第12回 楽典⑥。<br/>「雪」「紅葉」の歌唱法指導②。<br/>コールユーブンゲン③。<br/>コンコーネ5番。</p> <p>第13回 楽典⑦。<br/>「蛙の夜まわり」の歌唱法指導①。<br/>コールユーブンゲン課題消化①。<br/>コンコーネ5番。</p> <p>第14回 「蛙の夜まわり」の歌唱法指導②。<br/>コールユーブンゲン課題消化②。<br/>コンコーネ1番から5番。</p> <p>第15回 コールユーブンゲン課題消化試験。</p> <p>第16回 子どもの頃歌って遊んだ「歌」の発表会。コンコーネ6番。<br/>「ホルデイリディア」の歌唱法指導①。</p> <p>第17回 子どもの歌自作自演発表会。<br/>コンコーネ6番。<br/>「ホルデイリディア」の歌唱法指導①。</p> <p>第18回 アンクルン（竹のハンドベル）製作①。</p> <p>第19回 アンクルン製作②。</p> <p>第20回 アンクルンの演奏法指導①。<br/>簡易伴奏の説明。</p> <p>第21回 アンクルンの演奏法指導②。<br/>簡易伴奏の指導。</p> <p>第22回 アンクルンの演奏法指導③及び発表</p> |
|--|--|

- 会。
- 第23回 発声法指導①。コンコーネ7番①  
「七つの子」の歌唱法指導①。  
「ホルデイリディア」の合唱指導①。
- 第24回 発声法指導②。コンコーネ7番②。  
「七つの子」の歌唱法指導②。  
「ホルデイリディア」の合唱指導②。
- 第25回 発声法指導③。コンコーネ8番①。  
「てるてる坊主」の歌唱法指導①。  
「ほたるこい」の合唱指導①。
- 第26回 発声法指導④。コンコーネ8番②。  
「てるてる坊主」の歌唱法指導②。  
「ほたるこい」の合唱指導②。
- 第27回 発声法指導⑤。コンコーネ9番①。  
「お山の杉の子」の歌唱法指導①。  
「ほたるこい」の合唱指導③。
- 第28回 発声法指導⑥。コンコーネ9番②。  
「お山の杉の子」の歌唱法指導①。  
「ほたるこい」の合唱指導④。
- 第29回 「ほたるこい」の発表会。童謡歌唱法指導。
- 第30回 課題曲による歌唱法試験。

技ⅢA・音楽実技ⅢBへと4年間履修が可能である。また、リトミック・歌唱表現の専門科目、保育内容指導法（音楽表現）、音楽科教育法へと展開できる。

#### 〔講義のすすめ方〕

講義内容にしたがって課題を設け、うたうことを中心に授業をすすめる。

#### 〔教 材〕

改訂版「音楽教本」圭文社 2,000円  
音楽理論 圭文社 1,500円  
アンクルン 2,000円

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席を重視し平常点（50％）、講義内容ごとの課題消化度及び試験（50％）により評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

実技系の科目では、その基礎能力がどのくらいあるかが、その後の展開に大きく影響する。うたって弾ける先生をめざし、少しでも音楽的基礎能力が向上するよう、努力すること。

#### 〔科目内容の位置付け〕

本学音楽関係科目の基礎科目である。他の音楽関係科目を履修する者は、最初に当授業を必ず履修すること。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

1年次においては、当授業において基礎を学びながら音楽実技Ⅰを履修する事が望ましい。その後音楽実技においては、音楽実技Ⅱ・音楽実

科目名	歌唱表現		
単位	2	開設	通年
教員名	荒井弘高・伊藤裕美		

〔講義目的〕

「日本の名歌を訪ねて」をテーマに、そのルーツを探り、とかく忘れがちな日本の文化に触れ、歌唱表現研究を行いながら、自らの感性を高めることを目的とする。主な内容は童謡・歌曲等を教材とし、個人の能力に合わせ発声指導を行いながら、歌唱における美しい日本語の発語法を学び、作品が作られた時の状況・社会的背景を加味した歌唱表現を、歌唱・伴奏両面から研究する。

〔講義内容〕

- 第1回 発声法の修得1。わらべうた・戦前の童謡歌唱表現研究1。
- 第2回 発声法の修得2。わらべうた・戦前の童謡歌唱表現研究2。
- 第3回 発声法の修得3。わらべうた・戦前の童謡歌唱表現研究3。
- 第4回 発声法の修得4。わらべうた・戦前の童謡歌唱表現研究4。
- 第5回 発声法の修得5。わらべうた・戦前の童謡歌唱表現研究5。
- 第6回 発声法の修得6。わらべうた・戦前の童謡歌唱表現研究6。
- 第7回 発声法の修得7。わらべうた・戦前の童謡歌唱表現研究7。
- 第8回 発声法の修得8。文部省唱歌の歌唱表現研究1。
- 第9回 発声法の修得9。文部省唱歌の歌唱表現研究2。
- 第10回 発声法の修得10。文部省唱歌の歌唱表現研究3。
- 第11回 発声法の修得11。文部省唱歌の歌唱表現研究4。
- 第12回 発声法の修得12。文部省唱歌の歌唱表現研究5。
- 第13回 発声法の修得13。文部省唱歌の歌唱表現研究6。
- 第14回 発声法の修得14。文部省唱歌の歌唱表現研究7。
- 第15回 発表会形式による試験。
- 第16回 発声法の修得15。戦後の童謡・子どものうた歌唱表現研究1。
- 第17回 発声法の修得16。戦後の童謡・子どものうた歌唱表現研究2。

- 第18回 発声法の修得17。戦後の童謡・子どものうた歌唱表現研究3。
- 第19回 発声法の修得18。戦後の童謡・子どものうた歌唱表現研究4。
- 第20回 発声法の修得19。戦後の童謡・子どものうた歌唱表現研究5。
- 第21回 発声法の修得20。戦後の童謡・子どものうた歌唱表現研究6。
- 第22回 発声法の修得21。戦後の童謡・子どものうた歌唱表現研究7。
- 第23回 発声法の修得22。戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究1。
- 第24回 発声法の修得23。戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究2。
- 第25回 発声法の修得24。戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究3。
- 第26回 発声法の修得25。戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究4。
- 第27回 発声法の修得26。戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究5。
- 第28回 発声法の修得27。戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究6。
- 第29回 発声法の修得28。戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究7。
- 第30回 発表会形式による試験。

〔講義のすすめ方〕

我が国の「うた」の歴史を把握するため、前期は戦前、後期は戦後作曲された作品を中心に歌唱研究を行う。同時にCD・DVD等による鑑賞を行う。なお童謡演奏会等を鑑賞する機会も設けたい。

この講義は、学生自身お互いに伴奏を引き合い、「ピアノ」「歌唱」両面より歌唱表現研究を行なう。

〔教材〕

音楽リズム「幼児のうた楽譜集」東京書籍 1,200円  
 新版「声楽教本」圭文社 2,500円  
 その他必要に応じて指示した教材を各自用意する。

〔成績評価の方法・基準〕

出席を重視し、発表会形式による試験およびし

ポートにより評価する。

**〔履修のポイント・注意点〕**

実技科目であるので、常に動きやすい服装で受講すること。

授業内において習得した技術は、日常反復練習すること。

**〔科目内容の位置付け〕**

当授業は専門科目であるため、受講希望者は音楽の基礎知識が必要とされる。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

ソルフェージュ受講済みが前提条件である。

ソルフェージュの授業で音楽の基礎知識を学び、当授業と音楽実技を受講することにより、教育現場の先生に求められる「うたって弾ける」技術を十分身につけることが出来る。勿論教育実習では大いに役立つであろう。また保育内容研究・演習（音楽表現）、音楽科教育法へと容易に展開できる。

科目名	音楽実技ⅢA（応用）		
単 位	2	開 設	通年
教 員 名	音楽担当教員		

〔講義目的〕

子供達の「感じる心」を育む上で音楽との関わりは大切なものの1つである。個々の音楽に対する感動の経験が指導者となる上での感性をも高めることにもなる。

本科目では、1・2年次で学んだ基礎を土台とし、各自がより自在に楽器をこなせるよう技術・表現力を習得することを目的とする。

〔講義内容〕

ピアノを使い基本的技術の確認を行うと共により確実な演奏法を身につける。また、楽曲の背景を探りどのようにそれを表現するかを研究する。

前期は各自が決めた楽曲、各々のレベルに合わせた連弾曲、後期は各自が決めた楽曲、児童教育の現場で使われている歌の伴奏に取り組む。

〔講義のすすめ方〕

担当教員と相談の上、各自が選んだ曲を授業の中で個別指導する。

〔教 材〕

授業にて指示する。  
A4のクリアファイルを用意すること。

〔成績評価の方法・基準〕

能力の個人差も考慮した上で、日々の課題への取り組み方や前期実技発表、後期実技試験における到達度を評価する。

<判定基準>

出席率 30%  
平常点 20%  
試験（前期発表も考慮） 50%

〔履修のポイント・注意点〕

本科目は実技が中心となる。従って各自、日々の練習・努力に努めること。  
「継続は力なり」である。能力を問わず、意欲ある者の受講を望む。

〔科目内容の位置付け〕

基礎をふまえた上での応用レベル

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

音楽実技Ⅰ・Ⅱ既習者対象

科目名	音楽実技ⅢB（応用）		
単 位	2	開 設	通年
教 員 名	音楽担当教員		

#### 〔講義目的〕

子供達の「感じる心」を育む上で音楽との関わりは大切なものの1つである。個々の音楽に対する感動の経験が指導者となる上での感性をも高めることにもなる。

本科目では、実際の教育現場において各自が即対応できる為に楽器を使いこなせる技術・表現力・即興性を習得することを目的とする。

#### 〔講義内容〕

ピアノを使いこれまで学んできた土台を基に、より確かな技術と演奏法の向上を目指す。また、楽曲の背景を探りどのようにそれを表現するかを考え、将来指導する立場になる上での音楽的感性をも養えるよう研究する。

前期は各自が決めた楽曲、児童教育の現場で使われている歌の伴奏などを、後期は各自が決めた楽曲、各々のレベルに合わせた連弾曲に取り組む。

採用試験等においての実技試験の対応も各自の申告により随時行う。

#### 〔講義のすすめ方〕

担当教員と相談の上、各自が選んだ曲を授業の中で個別指導する。

#### 〔教 材〕

授業にて指示する。

A4のクリアファイルを用意すること。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

能力の個人差も考慮した上で、日々の課題への取り組み方や前期実技発表、後期実技試験における到達度を評価する。

<判定基準>

出席率 30%

平常点 20%

試験（前期発表も考慮） 50%

#### 〔履修のポイント・注意点〕

本科目は実技が中心となる。従って各自、日々の練習・努力に努めること。

「継続は力なり」である。能力を問わず意欲あ

る者の受講を望む。

#### 〔科目内容の位置付け〕

応用レベル

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

音楽実技Ⅰ・Ⅱ 既習者対象

科目名	リトミック入門		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	吉田 裕昭		

### 〔講義目的〕

リトミックは、スイスの作曲家・教育者E・J＝ダルクローズにより創始されたユニークな音楽教育法である。しかし、その目的は「感性を磨き、身体と精神の一致・調和のとれた人格形成を目指す」ことにある。すべての可能性・能力発展の源泉を身体行動の中に求め、それを通じて諸感覚機能の発展を促し、創造性・想像性の上にたった教育活動の中に、人間性を高めていこうとするものである。すなわち、人間教育こそがリトミックの目指すところであり、領域“表現”の狙いと合致するところでもある。

本来、リトミックは「リズム」といわれる身体活動、「ソルフェージュ」[即興演奏]の3分野から成り立っている。聴覚を使ってしか感じることの出来ない、抽象芸術である音楽を、全身体を使い、体験を通して具体的に学ぶというものである。

この講義では、幼児・児童教育におけるリトミックの価値を認識し、指導者としての実力向上を目指すとともに、リトミックをまさに身をもって体験し、自分自身の感覚を研ぎ澄まし、感性を養うことを目的として進めていく。

### 〔講義内容〕

この時間は、リトミックの本来の姿を体験し、音楽の3要素の中で、最も強い影響力を持つリズムとそれに伴うニュアンス、より深く音楽を感じ取り、聴き取るためのソルフェージュ力の体得を目指す。

「リズム」に関しては、次の項目を取り上げる。テンポ・強弱・拍・リズムパターン

「ソルフェージュ」に関しては、次の項目を取り上げる。音の記憶・ピッチ・終止感・全音半音・音階

### 〔講義のすすめ方〕

講義とともに、音楽がどのように出来ているかを、歌い、全身体を動かし、実感として理解できるように進めていく。

### 〔教 材〕

「アロノフ先生のリトミック教室」  
 フランシス・ウェバー・アロノフ著  
 吉田裕昭訳 ドレミ楽譜出版社

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席点40%（提出物も含む）遅刻・早退は減点。規定の回数を超えて欠席した場合は、試験を受けられない。平素の授業における態度・学期末試験の成績60%により、評価する。

### 〔履修のポイント・注意点〕

受講の際は、動きやすく、床に直接座っても差しさわりのない服装で参加すること。Gパン、スカートは認めない。裸足で行うが、場合によっては、そこの薄い上履きの着用を認める。この講義は、知識を得ることだけが目的ではなく、自分自身で経験をつむことが何よりも大切なので、積極的に参加し、自分の個性を十分に発揮して、楽しく受講することを望む。

### 〔科目内容の位置付け〕

この科目は、日本では、子供のための教育・楽器を学ぶ際の導入方法という認識が多いが、本来、音楽を学ぶ学生のソルフェージュ能力の向上を目指して、始められたものである。そして、その後の研究により、全ての年齢層の人に対応できる生涯教育として再認識されつつある。また、近年は音楽療法の分野でリトミックの価値が高く認められている。

また、リトミックの指導者には、国際免許制度があり、リトミックを取り入れている国々（アメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・スイス・イタリア・スペイン・ポーランド・オーストラリア・カナダ等々）では、その資格が公的に認められているところも多い。現在までに、日本人の資格取得者は、約百名。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

ある程度（バイエル位）のピアノの技術、基本的音楽理論の知識は必要。また、それに対する向上心。

心理学・教育学・教育心理学・幼児心理学等の基本的な知識も必要。また、それに対する好奇心・探究心。

幼児教育、児童教育、音楽療法、音楽教育の分野で、多数のリトミック指導者が活躍している。将来的に最もニーズが期待されるのは、音楽療法の分野であろう。

科目名	リトミック応用		
単位	2	開設	半期
教員名	吉田 裕昭		

### 〔講義目的〕

リトミックは、スイスの作曲家・教育者E・J＝ダルクローズにより創始されたユニークな音楽教育法である。しかし、その目的は「感性を磨き、身体と精神の一致・調和のとれた人格形成を目指す」ことにある。すべての可能性・能力発展の源泉を身体行動の中に求め、それを通じて諸感覚機能の発展を促し、創造性・想像性の上にとった教育活動の中に、人間性を高めていこうとするものである。すなわち、人間教育こそがリトミックの目指すところであり、領域“表現”の狙いと合致するところでもある。

本来、リトミックは「リズム」といわれる身体活動、「ソルフェージュ」(即興演奏)の3分野から成り立っている。聴覚を使ってしか感じることの出来ない、抽象芸術である音楽を、全身体を使い、体験を通して具体的に学ぶというものである。この講義では、幼児・児童教育におけるリトミックの価値を認識し、指導者としての実力向上を目指すとともに、リトミックをまさに身をもって体験し、自分自身の感覚を研ぎ澄まし、感性を養うことを目的として進めていく。

### 〔講義内容〕

この時間は、「リトミック入門」の続きとして、まず自身の感覚の更なる向上を目指し、幼児・小学生への歌を活用した指導法を研究する。

「リズム」に関しては、次の項目を取り上げる。「入門」で取り上げた項目の復習・拍子・フレーズ・アナクルシス・カノン・休符・補足リズム

「ソルフェージュ」に関しては、次の項目を取り上げる。「入門」で取り上げた項目の復習・半音の動き・音程・和音

### 〔講義のすすめ方〕

リトミックの指導法を学びつつ、教師の役割・子供をひきつける方法等を確認していく。

### 〔教材〕

「アロノフ先生のリトミック教室」  
 フランシス・ウェバー・アロノフ著  
 吉田裕昭訳

ドレミ楽譜出版社

### 〔成績評価の方法・基準〕

指導法を学ぶので、欠席は他の受講生に多大な迷惑をかけることとなる可能性があるため、大きく減点する。規定の回数よりも少ない欠席回数でも、講義に影響ありと判断した場合は、直ちに受講禁止とすることがある。出席50%・平素の授業における態度25%・学期末試験の成績25%により、評価する。

### 〔履修のポイント・注意点〕

受講の際は、動きやすく、床に直接座っても差しさわりのない服装で参加すること。Gパン、スカートは認めない。裸足で行うが、場合によっては、その薄い上履きの着用を認める。この講義は、知識を得ることだけが目的ではなく、自分自身で経験をつむことが何よりも大切なので、積極的に参加し、自分の個性を十分に発揮して、楽しく受講することを望む。

### 〔科目内容の位置付け〕

この科目は、日本では、子供のための教育・楽器を学ぶ際の導入方法という認識が多いが、本来、音楽を学ぶ学生のソルフェージュ能力の向上を目指して、始められたものである。そして、その後の研究により、全ての年齢層の人に対応できる生涯教育として再認識されつつある。また、近年は音楽療法の分野でリトミックの価値が高く認められている。

また、リトミックの指導者には、国際免許制度があり、リトミックを取り入れている国々(アメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・スイス・イタリア・スペイン・ポーランド・オーストラリア・カナダ等々)では、その資格が公的に認められているところも多い。現在までに、日本人の資格取得者は、約百名。

### 〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

ある程度(バイエル位)のピアノの技術、基本的音楽理論の知識は必要。また、それに対する向上心。

心理学・教育学・教育心理学・幼児心理学等の基本的な知識も必要。また、それに対する好奇心・探究心。

幼児教育、児童教育、音楽療法、音楽教育の分野で、多数のリトミック指導者が活躍している。将来的に最もニーズが期待されるのは、音楽療法の分野であろう。

科目名	造形		
単位	2	開設	通年
教員名	粕谷 圭司		

### 〔講義目的〕

子供にとっての造形活動は成長発達に欠くことの出来ない重要な自己表現活動である。それらの活動は自主的、主体的活動であり、このような時期に各子供の発達や年齢に応じた造形に関わる活動を援助することは重要なことである。実際には言葉の獲得や心身の発達や各感覚器官の発達等その過程においての変化を十分に理解することが前提となる。

### 〔講義内容〕

当講義においては以下の6点について材料研究と教材研究を中心に進める。

- 第1週 オリエンテーション実習内容と受講にあたっての心構えについて説明する。
- 第2週 陶芸（土鈴） 土鈴の歴史や技術についての説明。実習。
- 第3週 陶芸（日用品）陶器生産地についての解説。製作にあたっての注意。実習。
- 第4週 紙版画 版画の種類と技術の説明。実習（人物画）。
- 第5週 紙版画 人物画の描き方を注意しながら進める。実習。
- 第6週 紙版画 陰影の付け方についての指導。実習。
- 第7週 紙版画 紙版画についての説明。実習。
- 第8週 紙版画 インク、紙の種類等の説明。摺り。
- 第9週 ガラス絵 トレースで絵の具の説明。実習。
- 第10週 ガラス絵 彩色。実習。
- 第11週 ガラス絵 彩色。実習。
- 第12週 ガラス絵 額縁製作。
- 第13週 ガラス絵 製作修了。
- 第14週 色彩 トータルカラー使用。色の三原色や性質について学ぶ。
- 第15週 色彩 実習。
- 第16週 色彩 色の性質。実習。
- 第17週 陶芸 絵付け 釉薬等の説明をした後絵付け、窯詰め。
- 第18週 水彩画（静物画）各グループごとに描く。

- 第19週 水彩画 構図等の説明。実習。
- 第20週 水彩画 陰影の指導
- 第21週 水彩画 水彩画の彩色について解説。実習。
- 第22週 水彩画 彩色。
- 第23週 水彩画 彩色。終了。
- 第24週 採点 水彩画提出にあたって個人的に指導しながら採点する。
- 第25週 陶芸 焼きあがった鈴に着色をする。
- 第26週 面作り お面についての解説。
- 第27週 面作り 実習。
- 第28週 面作り 着色。終了。
- 第29週 面作り 各自面をかぶってそれの合わせた形作りで遊ぶ。
- 第30週 指導法 一年間を通して学んだことを幼児教育にどのような実践するかを考え、各自発表させる。

### 〔講義のすすめ方〕

各課題制作前に材料の特質や扱い方について説明し、あくまでも基本的な技術的説明とし、学生が使い方や表現方法等を発見する場としたい。

### 〔教材〕

必要に応じてプリント等を用意する。  
講義形態の特色は実技演習である。  
各課題について材料費を徴収する（通年1000円程度）

### 〔成績評価の方法・基準〕

課題作品提出による評価（6課題）  
基本的に全作品提出が基準となる。  
判定基準 出席20% 評価80%

### 〔履修のポイント・注意点〕

講義形態は実技演習である為一つの課題には3回-6回で作品完成となる。課題制作のなかで、保育者として指導方法等を考える意識を持ちながら学んでほしい。

### 〔科目内容の位置付け〕

造形分野の基本

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

- ・美学…美術教育に幅広い視野を持つ
- ・造形教材研究
- ・絵画表現法

科目名	絵画表現法		
単 位	2	開 設	通年
教 員 名	小久保 裕		

#### 〔講義目的〕

人を指して「ホモ・ファーベル」（物をつくる人）、あるいは「ホモ・ピクトル」（絵を描く人）と呼ぶことがあります。

人は何故絵を描くのか、その答えは子どもの描画活動の中に隠されています。

子どもの時、誰もが嬉々として絵を描きます。子どもにとって、その行為は大切なコミュニケーションの手段であり、全く絵を描かなかった、という人はおそらく皆無でしょう。

子どもの絵画はスクリブル（なぐり描き）に見られる幼児期の身体表現のひとつとして始まり、次第にイメージーションの働きに助けられ、目と心で感じ、手を通して考える人間へと成長する為の必要不可欠な営み、創造活動になっていくのです。

そのくり返しの中で絵を描く為の諸条件、視る目、感じる心、そして表現する意志と手だてが会得されていきます。それが子どもの創造力や「生きる力」の源泉となることは言うまでもありません。

この講義ではデッサン（素描）や絵画実技を中心に、子どもの絵の見方、考え方を学びます。絵を描く楽しさや厳しさを体験しつつ、かつて誰もがそうであったような、のびやかなアーティストの魂を呼び覚まし、創造する喜びを子ども達と共に感じられる能力を培っていただきたい。

#### 〔講義内容〕

1. 子どもの絵画  
表現能力の変遷過程とその特質  
材料と表現方法  
指導者の心得、評価方法
2. パスと水彩、色紙等による描画練習
3. 絵画実技  
基礎デッサン  
水彩、パステル、アクリル  
油彩による表現  
コラージュ
4. 鑑賞  
描かれた子ども達  
描かれた自然  
描かれた夢（抽象）  
近、現代美術の歴史と見方

#### 5. 絵画 その歴史と表現法の変遷

##### 〔講義のすすめ方〕

油絵などによる絵画制作を中心とした授業です。互いの作品批評やディスカッションも交え、個々人の資質や能力に応じた指導を心がけます。また、教室のみでなく野外や美術館などにも出かけ、自由な空間の中で創造し、鑑賞する喜びを味わえる授業をめざします。

##### 〔教 材〕

テキストは使用せず、プリントを配布する。画材については適宜説明します。

##### 〔成績評価の方法・基準〕

提出された作品、レポートの質と完成度による。また、結果作品のみでなく、制作過程も重視する。

##### 〔履修のポイント・注意点〕

絵は上手に描くことが目的ではありません。大切なのは常識にとらわれずに自分の形と色で自由に描くこと。そして、描くことを通して自己を見つめ、解き放つことです。

##### 〔科目内容の位置付け〕

絵画実技は入門的内容であり特別な経験は必要ない。

##### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提はない。関連科目として「造形」、「造形教材研究」、「美学」、「保育内容（美術表現）」。

科目名	造形教材研究		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	粕谷 圭司		

#### 〔講義目的〕

私たちの身の回りには、絵画や彫刻など、所謂美術と呼ばれている造形が多数存在する。造形は人間だけが発展させてきた活動であり、それは、宗教的思いや、人間のからだの美しさを表現しようとしたり、悲しみや喜びの気持や考えを表わし伝える手段としての造形である。

当講座においては、造形活動を通して、物の色や形、材質について研究し、新たな形態を創り出すことを目的としたい。

#### 〔講義内容〕

立体の分野における「おもちゃ」について研究を進めていく。

- ・ 文献資料の検索
- ・ 材質の研究
- ・ 形態の研究

#### 〔講義のすすめ方〕

3、4名のグループ別に制作研究をする。

グループ別にテーマを決定し進める。

#### 〔教 材〕

テーマ別に費用を徴収する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

作品提出

出席 20%

点数 80%

#### 〔履修のポイント・注意点〕

グループ毎の十分なディスカッションが必要であり、実技中心の講座であるので積極的参加、取り組む姿勢が望まれる。A、B通年を履修すること。

#### 〔科目内容の位置付け〕

主に実践的内容であるが広い知識が必要となる。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

造形、造形教材研究

科目名	社会福祉		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	加藤 悦雄		

#### 【講義目的】

「福祉」という言葉には「幸福」「生活の安定」などの意味が含まれている。現代社会に生きる私たちは自分ひとりの力で幸福や安定した生活を獲得することは難しい。病気や障害を負えばなおさらであろう。したがって「社会福祉」には一人ひとりの幸福や安定した生活を、社会的に（人びとの支えあいにより）実現しようとする思いが込められている。本講義では現代社会における社会福祉の意義とはたらきについて広く学ぶことを目的とする。

#### 【講義内容】

- 1 生活上の困難と福祉ニーズ
- 2 社会保障・社会福祉制度  
－日本のセーフティーネット－
- 3 社会福祉の歴史
- 4 社会福祉法制度の基盤  
－日本国憲法・社会福祉法－
- 5 社会福祉の法制度①－生活保護－
- 6 社会福祉の法制度②－障害者福祉－
- 7 社会福祉の法制度③－高齢者福祉－
- 8 社会福祉の法制度④－地域福祉－
- 9 社会福祉の法制度⑤－暴力への対応－
- 10 福祉サービスの基準・第三者評価・苦情対応
- 11 社会保険制度
- 12 社会福祉の専門職と援助技術①
- 13 社会福祉の専門職と援助技術②
- 14 社会福祉の専門職と援助技術③
- 15 社会福祉と家族

#### 【講義のすすめ方】

テキスト・配布資料・視聴覚教材を用いて講義形式ですすめる。

#### 【教 材】

教科書 『保育福祉小六法2008年版』 みらい  
1,700円  
参考書 『国民の福祉の動向』 厚生統計協会  
1,600円  
橋本治著『蝶のゆくえ』 集英社  
1,600円

#### 【成績評価の方法・基準】

定期試験（70%）・ミニレポート（15%）・出席状況（15%）により成績評価を行う。

#### 【履修のポイント・注意点】

社会福祉に関する新聞記事や番組、あるいは身近な福祉の諸問題にも関心をもつことが大切です。本講義で取り扱う内容は福祉専門職として欠かせない知識であるため、しっかりと習得し専門性の幅を広げてください。

#### 【科目内容の位置付け】

学問分野（社会福祉・保育）の基盤に位置する内容です。

科目名	社会福祉B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	川瀬 善美		

### 〔講義目的〕

2000年にスタートした介護保険制度、社会福祉の施行に代表される「社会福祉基礎構造改革」は社会福祉をそれまでのものと大きく変化させた。

第一には「措置制度」から「契約制度」への転換である。このことにより利用者保護者を目的とした地域福祉権利擁護事業や苦情処理の仕組みなどが新たに生まれることとなった。

第二サービスの質の向上である。このため民間事業者も含めたサービス提供主体の多様化が図られ、サービスの自己評価や第三者評価、質の高い人材の養成・確保などが求められることとなった。

第三に地域福祉の推進である。このため市町村地域福祉計画や都道府県地域福祉支援計画の策定、知的障害者、精神障害者関連事務等の市町村への移譲も行なわれた。

このような流れを、人間らしく質の高い豊かな生活実現に向けて機能させていくためには、自分自身が主体的に参加・参画して行くことが求められる。

それらをふまえ社会福祉についてのさまざまなファクターについて学ぶ。

### 〔講義内容〕

1. 社会福祉援助活動における専門性と倫理
2. 社会福祉専門職と資格制度 その1
3. 社会福祉専門職と資格制度 その2
4. 社会福祉六法とその体系 社会福祉法
5. 児童福祉法 その1
6. 児童福祉法 その2
7. 老人福祉法 その1
8. 老人福祉法 その2
9. 障害者福祉法
10. 障害者自立支援法
11. 生活保護法 その1
12. 生活保護法 その2

13. 生活保護法 その3

14. 我が国の社会福祉の現状と課題

15. 社会福祉をめぐる我国及び諸外国の動向

### 〔講義のすすめ方〕

通常の講義スタイルを取る

変化する社会福祉状況に即応できるようにその時々話題となっている福祉問題についてもトピック的に内容に加えて行く。

### 〔教 材〕

教科書 千葉茂明・宮田伸郎編

「新社会福祉概論」みらい

「保育六法2003」 //

参考書 なし

指定図書 なし

### 〔成績評価の方法・基準〕

定期試験と出席状況によって行う。

試験方式は講義中に発表する。

### 〔履修のポイント・注意点〕

社会福祉は刻々と変化しつづけており、制度も変化しています。そこで日常的に新聞等に掲載の福祉関連記事の切り抜き・スクラップをかならず行う事。

### 〔科目内容の位置付け〕

社会福祉士資格取得希望は、試験出題範囲内であり必修であると言う事を認識しておくこと。また保育士資格取得希望者も変化しつづける社会福祉を正確に理解することが就職するいかに問わず求められると云う事を認識しておくこと。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

社会福祉と併せて履修すること。

科目名	児童福祉		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	大川 健次郎		

#### 〔講義目的〕

現代社会において、少子化問題や子ども虐待など子どもにかかわる問題が注目されている。このような状況の中で、子どもが健全に育ち、また、子どもを健全に育てるための施策が必要とされている。子どもは家庭・地域・社会の中で最も影響を受けやすいといえる。そこで、まず子どもの権利について十分に学んでおく必要がある。子どもは、「育てられる」立場であり、同時に子ども自身が「育つ」立場でもある。そこで、児童福祉の理念や子どもが社会の中でどのように位置づけられてきたかという「子ども観」を理解することが第一の目的となる。

その上で、現在の児童福祉施策の状況を把握することを第二の目的とする。児童福祉施策は、要保護児童に対応する施策や要保護となる前の予防的な施策など幅広い。また、子どものみを対象としているのではなく、親・家庭への支援も含まれる。現代の子どもを取り巻く状況、それに対応する施策の現状と課題の理解は不可欠なものである。

第三には子どもへの支援の担い手についての理解である。各専門職の概要、専門職間の連携などである。

#### 〔講義内容〕

- 第1回 オリエンテーション「児童福祉とは」
- 第2回 現代社会と児童・家庭
- 第3回 児童福祉の理念と意義
- 第4回 児童福祉の歴史的展開
- 第5回 児童福祉に関する法制度と実施体制
- 第6回 児童福祉施策の現状と課題①少子化と子育て支援サービス
- 第7回 児童福祉施策の現状と課題②要保護児童施策
- 第8回 児童福祉施策の現状と課題③少年非行
- 第9回 児童福祉施策の現状と課題④ひとり親家庭等
- 第10回 児童福祉施策の現状と課題⑤健全育成
- 第11回 児童福祉施策の現状と課題⑥母子保健
- 第12回 児童福祉施策の現状と課題⑦保育
- 第13回 児童福祉施策の現状と課題⑧障害児
- 第14回 児童福祉従事者と児童福祉の実践
- 第15回 児童福祉の課題

#### 〔講義のすすめ方〕

講義形式を中心に進める

#### 〔教 材〕

保育士養成講座編纂委員会編『児童福祉』全国社会福祉協議会出版部

#### 〔成績評価の方法・基準〕

授業の参加20% 試験80%

科目名	児童福祉B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	山中 定雄		

#### 〔講義目的〕

今日の社会において、児童もまた危機の中にある。児童の権利に関する条約に謳われた『児童の最善の利益』をどのようにして守るのかを、今、真剣に問わなければならない。

様々な制度改革の中であって、児童福祉も大きく転換しようとしている。家庭、地域、親、そして子ども、それらが直面している現状を検証する。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

社会福祉、保育原理、社会福祉援助技術、養護原理、家庭支援論など

#### 〔講義内容〕

- 1 子どもたちを取り巻く現状
- 2 現代の家族・児童問題
- 3 児童の権利
- 4 児童福祉の法体系 Ⅰ
- 5 児童福祉の法体系 Ⅱ
- 6 改正児童福祉法の要点
- 7 児童福祉サービスの体系と動向
- 8 児童福祉と家庭支援
- 9 要保護児童と社会的養護 Ⅰ
- 10 要保護児童と社会的養護 Ⅱ
- 11 児童の健全育成と子育て支援
- 12 保育と子育て支援
- 13 保育と教育
- 14 21世紀の子どもたち
- 15 試験

#### 〔講義のすすめ方〕

児童問題の今日的話題や問題を取り上げながら、これからの児童福祉を考える。

#### 〔教 材〕

庄子・松原・山縣編著

これからの社会福祉③

「家族・児童福祉」改訂版 有斐閣

#### 〔成績評価の方法・基準〕

定期試験、出席評価による。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

広く社会的関心を持ち、情報の収集と科目の関連を考えながら学んで欲しい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

保育士選択必修の科目、社会福祉士必修の科目

科目名	社会福祉援助技術論Ⅰ		
単 位	4	開 設	通年
教 員 名	大島 貴		

#### 〔講義目的〕

社会福祉士受験資格の指定科目になっているので、国家試験合格に必要な知識の習得を目指すと共に、臨床現場での専門職対応ができるような能力をも併せて習得できるようにする。社会福祉援助技術に関する演習、実習と続く一連の科目の基礎となる科目であるので、単に知識を積むだけでなく、対人援助関係の役割を果せる基本的コミュニケーション形成のための方法習得に努める。社会福祉援助技術に関する知識はもとよりであるが、その根底にあって援助技術を支えている人間観、社会観なども適宜とりあげて検討を加え、臨床の場での因果解明と連続性を統合するように目標をおく。

#### 〔講義内容〕

- 1 社会福祉と社会福祉援助技術の関係
- 2 社会福祉援助技術の発生と歴史
- 3 社会福祉士と社会福祉援助技術
- 4 社会福祉援助技術と社会福祉士の関係
- 5 個別援助技術の理論と技術
- 6 集団援助技術の理論と技術
- 7 地域援助技術の理論と技術
- 8 社会福祉援助技術の新しい動向
- 9 社会福祉援助技術の専門性
- 10 社会福祉援助過程論  
などをとりあげる。

#### 〔講義のすすめ方〕

講義を主体にするが、討論や意見発表を混じえて、できるだけゼミ形式に近いかたちですすめる。

#### 〔教 材〕

「社会福祉援助技術論上」  
北島英治・白沢政和編  
ミネルバ書房 2730円

#### 〔成績評価の方法・基準〕

定期試験による。出席率2／3以上、得点60点以上合格。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

教科書をベースにして講義を行うので、予め教科書を読んでから出席することが望ましい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

社会福祉援助技術は、社会福祉の目的を達成する援助技術とされているので、社会福祉とは何か、についての理解が前提である。社会福祉、社会福祉Bの履修をしておくことが望ましい。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

対人援助に関連するカウンセリング、心理療法、絵画療法、家庭療法、などについても関心をもつことが望ましい。

科目名	社会福祉援助技術論Ⅱ		
単 位	4	開 設	通年
教 員 名	大島 寛		

#### 〔講義目的〕

社会福祉援助技術Ⅰで学んだ援助技術の基礎的な理解をさらに深め、社会福祉援助技術を体系的に習得、専門的レベルにまで知識を深めることを目的にする。援助過程の力動性とその中で働く要因を分析し、援助過程の相互作用と援助者の役割と機能について理解を深める。3年次に行なわれる社会福祉現場実習での臨床性に耐えうる知識と理解を構築するようにする。

#### 〔講義内容〕

- 1 社会福祉援助技術の適用領域と対象分野
- 2 個別援助技術の展開過程
- 3 集団援助技術の展開過程
- 4 地域援助技術の展開過程
- 5 社会福祉調査法の理論と技術
- 6 社会福祉計画法の理論と技術
- 7 社会福祉運営管理の理論と技術
- 8 社会活動法の理論と技術
- 9 ケアマネジメントによる直接援助
- 10 記録とスーパービジョン
- 11 効果測定と評価

#### 〔講義のすすめ方〕

講義を主体にするが、具体的事例を多用して討議して論議を深める。

#### 〔教 材〕

「社会福祉援助技術論（下）」  
黒木保博・福山和女、牧里毎治編  
ミネルバ書房 ￥2,940

#### 〔成績評価の方法・基準〕

定期試験による。60点以上を合格。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

社会福祉士受験資格の指定科目であるので、受験資格に必要な履修日数が必要。2/3以上の出席日数が必要。

#### 〔科目内容の位置付け〕

社会福祉援助技術論Ⅰに連続する講座であるので、社会福祉援助技術論Ⅰを履修したものが受講可能。

科目名	社会福祉援助技術演習		
単 位	2	開 設	通年
教 員 名	大島 實		

〔講義目的〕

- 1 保育活動に必要な社会福祉援助技術の基本的人間観、価値、倫理を理解する
- 2 社会福祉援助技術の技法と態度について理解する
- 3 人権の尊重、自立支援、権利擁護などの基本姿勢を理解する
- 4 社会福祉援助技術の具体的展開過程について、事例を用いて検討し、その力動性を理解する
- 5 実際の保育場面で社会福祉援助技術を活用できる臨床性を身につける

〔講義内容〕

保育士養成課程で社会福祉援助技術を学ぶことは、保育所や児童福祉施設などの保育現場において、児童の成長、発達のために行う育児相談、発達相談、家族相談などに対応できる能力を涵養することにある。

保育所は近年、病院とともに、児童虐待の早期発見の機会の多い第一次機関として位置づけられており、子供の安全や社会的保護についての役割と責任が一層重くなってきている。

子供の行動の異常の発見、日常の親子関係が示す危機のサインをとらえる能力、親の態度と行動の観察など、保育活動をベースに広く児童をとりまく社会関係全体への目配りが必要になってきている。狭く児童の心身の成長に関心を限定することなく、広く児童をとりまく家庭環境、地域環境、社会関係、社会病理などへの視野をもつことが求められている。

社会福祉援助技術は、個人と社会の相互作用、相互関係の中で、人権の尊重、自己実現、自己選択などの人間的発達を促進する援助技術であり、社会福祉援助技術を学ぶことは、保育士に期待されている社会的保育の第一線の実践者として、十分な知識と資質を与えてくれるものである。

〔講義のすすめ方〕

〔前期〕

- 1 保育士が社会福祉援助技術を学ぶ理由
- 2 社会福祉援助技術と社会福祉の関係
- 3 社会福祉援助技術の歴史
- 4 社会福祉援助技術の基本構成要素
- 5 社会福祉援助技術の価値

- 6 社会福祉援助技術の知識、技術
- 7 個別援助技術の構成要素
- 8 個別援助技術の原則  
(バーステックの原則)
- 9 個別援助技術の事例検討
- 10 事例解説
- 11 個別援助技術の事例検討
- 12 事例解説
- 13 個別援助技術の事例検討
- 14 事例解説
- 15 個別援助技術の社会的機能  
〔後期〕

- 1 集団援助技術の意義と役割
- 2 集団援助技術の構成要素
- 3 集団援助技術の展開過程
- 4 集団援助技術の事例検討
- 5 事例解説
- 6 集団援助技術の事例検討
- 7 事例解説
- 8 集団援助技術の事例検討
- 9 事例解説
- 10 地域援助技術の意義と役割
- 11 地域援助技術の構成要素
- 12 地域援助技術の事例検討
- 13 事例解説
- 14 社会福祉援助技術の社会的機能
- 15 定期試験

〔教 材〕

副田あけみ著「社会福祉援助技術論－ゼネラリストアプローチの視点から－」誠信書房刊  
2005年発行 ￥2300

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験による。出席2/3以上、得点60点以上合格

〔履修のポイント・注意点〕

討議に積極的に参加すること

〔科目内容の位置付け〕

保育士養成科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

「社会福祉」を受講していることが必要

科目名	社会福祉援助技術演習Ⅰ		
単 位	2	開 設	通年
教 員 名	大島 實		

〔講義目的〕

社会福祉援助技術Ⅰ、Ⅱで得た知識を、具体的実践力、臨床能力に高め、専門職能力を獲得することを目的にする。

ロールプレイにより、具体的実践場面での援助活動の精度を高める演習を行う。

能。

〔講義内容〕

相談援助の方法（面接技法）の習得  
 集団援助技術、のすすめ方の習得  
 地域援助技術の具体的方法の習得  
 社会福祉調査の具体的方法の習得  
 施設運営管理の方法の習得  
 スーパービジョン体験  
 コンサルテーションの習得  
 ネットワーク形成実習

〔講義のすすめ方〕

ロールプレイによる再現演習  
 事例検討による援助方法の習得  
 具体的計画立案と実行による調査技術  
 集団援助技術の習得  
 地域援助技術の習得

〔教 材〕

「社会福祉援助技術演習」  
 福祉士養成講座委員会編  
 中央法規 ￥2,500+税

〔成績評価の方法・基準〕

演習中の報告、発言により評価する。  
 出席率2/3以上。

〔履修のポイント・注意点〕

討議に積極的に参加し、発言することによって理解が深まるので、討論に積極的に参加すること。

〔科目内容の位置付け〕

社会福祉士受験資格の指定科目であるので、受験資格に必要な履修日数が必要。2/3以上の出席日数が必要。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

社会福祉援助技術論Ⅰを履修した学生が受講可

科目名	社会福祉援助技術演習Ⅱ		
単 位	2	開 設	通年
教 員 名	大島 實		

〔講義目的〕

社会福祉援助技術の展開過程の中で、社会福祉のもつ人権尊重、権利擁護、自立支援などについての福祉思想が、具体的な利用者の相談活動、面接活動、評価技能、サービス支援活動などにいかに役立ち活用できるか、についての相関性を追究し、社会福祉援助技術のスキルアップを目的にする。社会福祉援助技術演習Ⅰに引継いで、社会福祉援助技術の実際場面での実践能力の向上を目指し、その精度を高める。

可能。

〔講義内容〕

利用者の問題のアセスメントの方法の習得  
 プランニングの方法の習得  
 インプリメンテーションの方法の習得  
 契約の方法の習得  
 記録の方法の習得  
 エンパワメント強化の方法習得  
 社会計画の方法の習得  
 社会活動の方法の習得  
 ネットワーク形成の方法の習得

〔講義のすすめ方〕

具体的場面設定による計画立案作業  
 グループ討議による討論深化  
 具体的作業プランの作成実習  
 現場実践者によるスーパービジョン

〔教 材〕

その都度指定する。

〔成績評価の方法・基準〕

演習中の報告、発言、レポートにより評価する。出席率2/3以上。

〔履修のポイント・注意点〕

積極的に討論に参加し、知識と技能を高める機会にすることが望まれる。

〔科目内容の位置付け〕

社会福祉士受験資格の指定科目になっている。出席率重視。2/3以上の出席が必要。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

社会福祉援助技術演習Ⅰを習得したものが受講

科目名	保育原理 I		
単 位	4	開 設	通年
教 員 名	荒井 冽		

#### 〔講義目的〕

子育ては、人間にとって永遠の営みです。子育ては、それ自体が人間存在の起点でもあり、目的でもあります。

現代社会において営まれている乳幼児保育は、この人間にとっての永遠の行為から導き出されるべきものと考えます。

ですから、私たちが乳幼児保育のありようについて学ぶとき、常に、この原点ともいうべきことがらに立ち返るようにしなければならぬと思います。

また、現代にあっては、20世紀後半の半世紀にわたって営み続けられてきた保育のあり方、すなわち、保育者としての姿勢、具体的な内容や方法、園舎や園庭などの環境整備の面、地域社会との関係、経営や行政との関連、なども大きく変わろうとしています。

このような変化の時期にあっては、むしろ保育の本質をより深く、より根本的に思索することによって、保育のあり方を思い描くことが大切なのではないか、と考えます。

喜びとしての子育て、すなわち働きがいとしての幼児保育について、未来へのロマンを胸にしながら、授業に参加していただきたいと思えます。

#### 〔講義内容〕

講義は、次のようなポイントを押さえて行います。

- ・ 保育思想の流れ（西洋）
- ・ 保育思想の流れ（日本）
- ・ 比較保育論的な見方の必要性
- ・ 園舎のデザイン
- ・ 園庭のあり方
- ・ 保育の内容のとらえ方
- ・ 保育の方法の考え方
- ・ 子育てサロンとしての園のあり方
- ・ 保育政策の動向（日本・諸外国）

#### 〔講義のすすめ方〕

次のような流れに沿って進めます。

1. 保育の世界へのいざない
2. 幼児保育界のあらまし  
…さまざまな保育施設
3. Kindergartenの系譜  
…Fr?belの思想と仕事

#### 4. Infant schoolの系譜

…Robert Owenの思想と仕事

#### 5. Daghem (Day home)の系譜

…Nordic democracyのセンス

#### 6. 保育思想の流れ（西洋）

…Montaigne, Rousseau, Ellen Key, など

#### 7. 保育思想の流れ（日本）

…貝原益軒、大原幽学、倉橋惣三、など

#### 8. 保育の経済学

…社会的生産活動と家庭生活

#### 9. 育児と保育の関係

…家庭育児と園での生活

#### 10. 子育てサロンとしての園

…子育てをエンジョイする場

#### 11. 園舎の居住性

…日常生活を基本にしたデザイン

#### 12. 子どもの遊びと園庭のあり方

…子どもにとっての自然環境

#### 13. 子どものグルーピング

…子どものアイデンティティー

#### 14. 保育内容のバックボーン

…人生における幼児期として

#### 15. 保育者としての働きがい

…保育のテーマとしての働きがい

#### 〔教 材〕

テキスト：荒井冽著『明るい園生活のための意識改革』

明治図書

荒井冽著『名言に学ぶ 保育のセンス』

学文社

#### 〔成績評価の方法・基準〕

前期末および後期末に試験を行います。

出席率を重視します。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

幼児保育のチャームポイントを見つけ出すような姿勢で、テキストを読み取り、また講義に耳を傾けてください。

#### 〔科目内容の位置付け〕

幼児保育について学んでいくための基礎的な理念や知識です。確実に理解するよう努めてください。

科目名	保育原理Ⅱ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	高橋 美保		

〔講義目的〕

保育学入門としての基礎的な事項を学ぶ。より具体的な保育活動をテーマに、保育の本質や専門性とは何か、という根本的な問いを考えながら進めていく。

保育方法の基本的原理や子どもを取り巻く今日の状況を知り、保育制度の動向を学び、今求められている保育者の役割や、これからの保育のあり方を考えていく。さらに、より具体的な保育活動を取り上げ、必要な専門的スキルを身につけていく。

保育者に課せられている課題を認識するだけでなく、しっかりした保育観を構築していくことが、この授業のねらいとなる。

〔講義内容〕

- 第1回 保育を学ぶ  
保育の本質と学ぶことの意義
- 第2回 子どもを知る  
地域社会や家庭の中の子どもたち
- 第3回 保育の歴史  
保育所の歴史と保育制度
- 第4回 保育の内容  
保育形態を学ぶ
- 第5回 保育の方法  
保育計画と指導計画
- 第6回 保育の振り返り  
保育の評価
- 第6回 子どもの発達と保育  
乳児の発達と保育内容
- 第7回 子どもの発達と保育  
幼児の発達と保育内容
- 第8回 子ども理解  
子どもと遊び
- 第9回 子ども理解  
保育の方法と基本原理
- 第10回 保育の課題①  
家庭や地域との連携
- 第11回 保育の課題②  
幼・保・小の連携
- 第12回 保育の課題②  
健康、安全な生活
- 第13回 保育の課題③  
多様なニーズに応える子育て支援と相談援助活動

第14回 保育の課題④

期待される保育者の資質向上

第15回 保育の課題⑥

定期試験

〔講義のすすめ方〕

前半は講義形式で進め、後半はディスカッションやグループワーク、発表が主になる。

最近の子どもを廻る話題や保育行政の動向に関心を持ち、最新の情報源として、新聞やニュースを読み、聞き、レポートにまとめる習慣を付けるなど、積極的に読んで書くことが基になる。

〔教 材〕

保育所保育指針  
最新保育資料集2008(ミネルヴァ書房)  
必要に応じて資料を配布する

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験50% レポート50%  
受験資格は、「白鷗大学試験規則」に準ずる

〔履修のポイント・注意点〕

15回全回出席を原則とする

〔科目内容の位置付け〕

保育士資格取得のための科目である

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

保育原理Ⅰ、保育内容研究・演習(五領域)など、保育士資格取得のための全ての教科

科目名	養護原理		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	山中 定雄		

### 〔講義目的〕

社会福祉の基礎構造改革に伴う制度改正は、児童養護の危機的状況とは、ある意味無関係に進行している。このことは児童の分野に限らず、真に福祉的施策を必要とする人々からの乖離でもあるが、それゆえ、施策に対しては真剣に注目しておく必要がある。そして、連日散見される児童虐待や育児放棄・非行、また、児童を守るべき「施設」での権利侵害など、児童を取り巻く環境は本来、家庭が持つ子供の「養育」機能の低下あるいは脆弱化によってもたらされているともいえるが、一方ではこれまで果たしてきた地域社会による子育て支援の機能も、社会経済状況の変化と相俟って弱体化している現実のなかで、児童養護の現場における責任と役割は極めて重要な位置付けを持つ。

児童相談所・児童養護施設をはじめとする社会的養護の重要性は一段と強化されなければならない。

講義では児童の「養護」とは何か、今何が不足しているのかなど、少し広い視野で考えていきたいと思います。

### 〔講義内容〕

- 1 児童福祉と養護
- 2 児童福祉法・児童憲章・児童の権利に関する条約、児童の最善の利益と児童の意見表明権
- 3 児童養護の体系
- 4 児童相談所の機能と役割
- 5 児童養護の歴史 欧米
- 6 児童養護の歴史 日本
- 7 児童養護の今日的課題
- 8 施設養護の基本原則
- 9 児童福祉施設の種別と機能 Ⅰ
- 10 児童福祉施設の種別と機能 Ⅱ
- 11 児童福祉施設（通所型）の種別と機能
- 12 施設養護の実際 援助と指導 Ⅰ
- 13 施設養護の実際 援助と指導 Ⅱ
- 14 児童福祉施設の運営管理
- 15 試験

### 〔講義のすすめ方〕

児童の問題に関しては社会の動向にも気を配りながら、理論を現場で強化する学び方をしてほ

しい。

そのため、テキストだけでなく多くの時事問題を考えながら進めます。

### 〔教 材〕

小田兼三・石井勲編  
「養護原理」第3版  
現代の保育学5 ミネルヴァ書房

### 〔成績評価の方法・基準〕

出欠・授業態度を勘案し、定期試験と課題レポート（各1回）により総合的に評価します。

### 〔履修のポイント・注意点〕

法定資格化された保育士としての専門性と、そのことの意味と重要性を意識し、また、施設実習に向けての基礎知識獲得を目指してほしい。

### 〔科目内容の位置付け〕

保育の本質・目的的理解に関する科目  
施設実習に向けての基礎知識修得

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

社会福祉、児童福祉、社会福祉援助技術、児童家庭福祉、養護内容など

科目名	養護内容		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	中山 万里子		

#### 【講義目的】

児童養護とは、十分かつ適切に養育（＝家庭での子育て）されない子ども（＝要保護児童）の、人として当然の幸福を実現するための社会的なしくみと方法を意味します。

養護問題は、親の死亡・病気・貧困という伝統的な原因から、現在は、複雑なそれに変容しています。したがってその解決には、より高水準かつ多方面の専門的知識・技術を要する時代となりました。保育者は、増大する要保護児童とその家族を、より効果的に援助する重大な責任と多大な期待を担っています。児童福祉の実践を担う専門家として、「子どもの最善の利益」を実現するために保育者の果たす役割とその方法について考えます。

#### 【講義内容】

- 第1回… 児童養護とは？
- 第2回… 児童養護施設とは？
- 第3回… 乳児院とは？
- 第4回… 施設養護の指針（児童の権利ノート、職員の実践指針）
- 第5回… アドミッションケア（十分な説明と同意への努力、迎え方）
- 第6回… インケア（日常生活への援助）
- 第7回… インケア（個人と集団への援助、プライバシーの保護、体罰の禁止）
- 第8回… インケア（遊び、余暇、行事、生活の質、年少・年長児への援助）
- 第9回… インケア（問題行動への援助、職員間の連携・専門職との連携、信頼関係の構築）
- 第10回… インケア（家庭復帰・家族への援助・社会資源との連携）
- 第11回… リービングケア・アフターケア（自立への援助）
- 第12回… 施設職員の専門性（求められる態度や人間像）
- 第13回… 里親制度（養子・里親とは？里子と里親への援助）
- 第14回… 児童虐待（被虐待児への援助、専門里親）
- 第15回… 筆記試験

#### 【講義のすすめ方】

具体的な場面をイメージしやすいよう、適宜ビデオ視聴も採り入れます。個々の事例において、専門家としてどのように援助するか、各自の意見をまとめてもらいます。

#### 【教 材】

毎時、資料及び講義のレジュメプリントを配布。参考図書・参考HP等は、必要に応じ紹介します。

#### 【成績評価の方法・基準】

出欠（30%）、学習態度・小レポート・ノート（30%）・筆記試験（40%）等により総合的に評価します。

#### 【履修のポイント・注意点】

随時、最新の児童養護関連ニュースを採り上げます。新聞・雑誌・インターネットなどで日頃から情報収集する習慣を身につけ、問題意識を持つよう心がけて下さい。保育者の立場からだけでなく、「もし自分がその子だったら」「その子の親だったら」、という目線で想像力を働かせることが不可欠です。

養護問題は施設児童に限りません。一般家庭にも、同様の問題を抱える児童が数多く存在します。施設への就職希望者のみならず幼稚園・保育園等に就職希望の方も、各現場の潜在的な要保護児童の存在に着目し、援助技術を身につけて下さい。

#### 【科目内容の位置付け】

主として「児童福祉」「養護原理」で学ぶ知識を元に、施設職員としての実践的援助技術を学ぶ演習科目です。

科目名	乳児保育		
単 位	2	開 設	通年
教 員 名	高橋 美保		

### 〔講義目的〕

ここでいう乳児とは、3歳未満児のことをいう。乳児は発達の連続である。

前期には、新生児期から3歳未満児の生活を通し、子どもの「育とうとする力」を保育と発達の視点で捉えていく。全身運動や情緒、言葉や人間関係などの発達過程において、子どもはどのような環境で何を学習していくのかを知り、保育者の関わり方や寄り添い方についての理解を深めていく。乳児保育の基本を理解し、生命に対する畏敬の念を感じて欲しい。

後期では、具体的な生活の援助や遊びの展開法などを、演習形式で学び合い考えていく。その学びの中で、保育者自らの育ちの意義を深めて欲しい。

### 〔講義内容〕

1. 乳児保育について
  - 1回 乳児保育とは
2. 子どもを知る
  - 2回 育ちの方向性を知る。依存から自立へ
  - 3回 乳幼児の生活と発達 (1)
    - 6か月未満児の保育
      - ①発育・発達の特徴
    - 4回 ②生活や遊びの援助
  - 5回 乳幼児の生活と発達 (2)
    - 6か月から1歳3か月未満児の保育
      - ①発育・発達の特徴
    - 6回 ②生活や遊びの援助
  - 7回 乳幼児の生活と発達 (3)
    - 1歳3か月から2 歳未満児の保育
      - ①発育・発達の特徴
    - 8回 ②生活や遊びの援助
  - 9回 乳児の生活と発達 (4) 2歳児
    - ①発育発達の特徴
  - 10回 ②生活や遊びの援助
3. 子どもの健康と安全
  - 11回 乳児保育における保健活動
    - ①健康状態の把握
    - 12回 ②乳児の病気と事故
  - 13回 乳児保育における食育活動
  - 14回 気になる子どもとその援助
  - 15回 前期定期試験
4. 園で子どもを支える
  - 16回 保育計画を立てる

- ①計画立案、実践
- 17回 ②評価の工夫と記録
- 18回 乳児保育の環境
  - ①集団保育と環境
  - 19回 ②保育環境をデザインする
5. 園生活での具体的事象から子どもの生活を考える
  - 20回 音や色との出会い
    - ①保育計画立案
    - 21回 ②教材研究
  - 22回 自然事象の不思議さ・面白さ
    - ①保育計画立案
    - 23回 ②教材研究
  - 24回 動物、植物との関わり
    - ①保育計画立案
    - 25回 ②教材研究
  - 26回 食べる
    - ①保育計画立案
    - 27回 ②教材研究
6. 乳児保育のこれから
  - 28回 子どもを取り巻く現状と今後の課題
  - 29回 乳児保育と子育て支援
  - 30回 後期定期試験

### 〔講義のすすめ方〕

平日頃から、乳児に関心を持って生活するように心がけること。

授業は、乳幼児の発達の特徴や援助のポイントを、より具体的に理解していくために、ビデオ教材なども用いて進める。また、保育所保育指針を読み解きながら、生活や遊び、保健、家庭との連携などの取り組みや環境づくりについても考えていく。

### 〔教 材〕

教科書：やさしい乳児保育 伊藤輝子他編  
青踏社 1995円

指定図書：保育所保育指針

参考書：乳児保育の実践と子育て支援 榊原洋一・今井和子編 ミネルヴァ書房 2800円  
随時紹介していく

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、課題レポート、小テスト、期末（前、後期）試験から、総合的に評価する。

**〔履修のポイント・注意点〕**

乳児とのふれあい体験を持って、授業に臨んで欲しい。

**〔科目内容の位置付け〕**

保育という営みは、それぞれの領域に分けられないことが多い。

生活全体を視野に入れて学習する必要がある。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

発育・発達学はもちろん、小児保健や小児栄養との継続履修で、一層の学習効果が期待できる。

科目名	障害児保育		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	中谷 陽子		

### 〔講義目的〕

1. 社会は激しく変化し、教育・保育において従来「障害児教育・保育」といわれてきた領域は、今「特別支援保育・教育」という概念で、新たな転換期を迎えた。
2. 学生諸君が将来の専門職を目指し、この分野に十分な認識を持ち、機会を得て障害児との関わりを深めようとする姿勢は、非常に重要なことである。
3. 一般的には日常的な関わりが少ない分野である可能性が高い。講義および演習を通して、十分に理解を深め、履修生が積極的に障害のある子ども達に関わって学習の機会を得、その発達をしっかり支援するような立案が出来るようになることを授業の目的とする。

### 〔講義内容〕

本講義は15回の授業を、次のような学習のプロセスで全うすることにしている：

- 1から 2 「障害」および「障害児」の理解を発達概念のなかで学ぶ
- 3から 4 特別支援教育のなかの「障害児保育」の位置づけを歴史の視点も含め、理解する
- 5 保育—教育、心理、医学、保育行政の協力体制を目指す早期対応と研究活動
- 6から 7 障害児を取り巻く社会・保育・家庭の現状理解と連携
- 8から10 障害児保育の実際
- 11 健常児に対する「障害児理解啓発教育」の試み
- 12から13 障害児の心身の活動を豊かにする「おもちゃと遊び」の工夫
- 14から15 障害児の保護者のための支援（含む、カウンセリング）

### 〔講義のすすめ方〕

その1

- ・正しい知識と認識をもってもらうために、まずは講義を行う。

その2

- ・学生の暮らしの周辺から障害乳幼児に関する

資料を集め、それによって実感を養い、機会があれば、子育て支援センターなどで障害の実際を手伝えるよう、心得を学ぶ。

その3

- ・若い障害児達の楽しい支援のための遊び材や保育計画の立案を「演習」形式で学び、グループ活動として実践してみる。

### 〔教 材〕

テキスト：「よくわかる臨床発達心理学」

麻生、浜田（編）、ミネルヴァ書房  
（¥2600+ tax）

### 〔成績評価の方法・基準〕

- ・出席状況
- ・真剣に取り組まない学生は、学期の途中でも「不可」評価することがある。
- ・受験資格は、「白鷗大学試験規則」に準ずる。

### 〔履修のポイント・注意点〕

- ・「障害児保育・教育」の分野は新しく、常に新たな情報や試案が出される。
- ・授業ではテキストのほかに資料配付も多い。
- ・資料の保存と併せて、しっかりノートをとること。
- ・全回出席を原則とする。

### 〔科目内容の位置付け〕

- ・保育士資格取得のための重要な科目である。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

特になし。

科目名	家庭支援論		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	荒井 洵		

### 【講義目的】

「子育て支援」という社会的なテーマが、大きくクローズアップされてきました。

このことは、家庭における育児力の低下のためといった消極的な意味合いからだけではなく、本来が家庭と社会的なサポートとによってなされるべき子育てが、明るく、さわやかに、積極的に考えられるようになった結果といえるでしょう。

保育施設が、直接的な子どもの保育を行うことの背景には、「子育て支援」という根本的な課題があることを、この「家庭支援論」の授業を通して、認識を深めてください。

### 【講義内容】

以下のようなポイントを押さえたいと思います。

- ・ ライフ・サイクルにおける家庭、とりわけ、子育て中の家庭について。
- ・ 社会的エネルギー源としての家庭。
- ・ 子育てが、よりエンジョイできる保育システムへの展望。
- ・ 「子育て支援」のための保育者の役割と、さまざまな具体的な試み。

### 【講義のすすめ方】

#### ○「子育て支援」という課題

家庭は、子育てという喜びを伴うと、人間としての喜びが、より味わい深いものになります。

しかし、苦勞も格段に重くなります。

「子育て支援」は、人間社会にとっての基本的な課題です。

#### ○ライフ・サイクルにおける家庭

幼少年期における家庭、大人になる時期の家庭、結婚生活としての家庭、子育てと家庭、老年期における家庭、というように、ライフ・サイクルにおける家庭の持つ意味の変化を考えてみましょう。

特に、子育ての時期の家庭生活にフォーカスを合わせてみることにしましょう。

#### ○北欧諸国に見るオープン・システム

福祉の面での先輩国である北欧の国々は、保育施設の生かし方がとても上手です。

その典型が“オープン・システム”という

やり方です。子育てをする家庭に、園を広く開放するシステムです。

#### ○保育施設のモデルとしての家庭

倉橋惣三は、「園は家庭生活のつづきである」「園は家庭生活から出発すべきものだ」と書き記しました。つまり、幼児保育施設のモデルを、子育てをする自然体としての家庭に求めたわけです。

このような姿勢で園生活のあり方を考え直してみたいと思います。

#### ○社会的エネルギー源としての家庭

社会的に有用な仕事は、人格の伴った、中味の濃いエネルギーに依ることは言うまでもありません。このエネルギーが養われ、また、リフレッシュされる場が家庭生活です。

このような視点からも家庭について見直してみましよう。

#### ○子育てをエンジョイしていけるように

人間としての喜びを深く考えていくと、そこには子育てという、まことに人間的な喜びが浮かび上がってきます。

子育てを明るくエンジョイしていくうえで、保育施設は大きく期待されています。

このような観点から、保育者の役割というものを広やかに考えてください。

### 【教 材】

テキスト：荒井洵著『ファミリー・サポートの保育園』明治図書

### 【成績評価の方法・基準】

学期末に試験を行います。

出席率を重視します。

### 【履修のポイント・注意点】

家庭を視野に入れたこの教科は、保育士になるうえで、内容的に不可欠な科目として位置づけられています。熱心に受講してください。

科目名	医学一般		
単 位	4	開 設	通年
教 員 名	海原 純子		

〔講義目的〕

医学的知識は将来教育やスポーツの現場で必須の知識となるはずである。基本的な人体のしくみ、生理機能、疾患の正確な知識がなくてはならない。

ここでは単なる机の上の知識としての医学ではなく、より実践的で役に立つ医学を学んでもらうことを目的にする。また体だけでなく体と心、ストレスと疾患などホリスティックな視点から医学を捉えていきたい。

この医学を学んで欲しい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

解剖学と併行して履修すると知識が深まると思われる。

〔講義内容〕

- 1、人体の構造
- 2、予防医学
- 3、一般臨床医学の概要
- 4、現代社会と疾患・生活習慣病・ガン・ストレスと病気・神経疾患
- 5、タバコとお酒
- 6、感染症
- 7、環境障害
- 8、公衆衛生の現状（人口動態など）
- 9、リハビリテーション
- 10、保健医療対策
- 11、医療法と保健医療機関

〔講義のすすめ方〕

毎回必要なテーマを提示し紹介する。ビジュアルを的確に意味知るため図やスライドを使用する。

授業は印刷物、黒板への書き込みなどを主体とする。

〔教 材〕

特に指定なし。  
そのつど印刷物配布。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験（70%）  
出席及び授業参加の姿勢（30%）

〔履修のポイント・注意点〕

自分でも問題意識を持って参加して欲しい。

〔科目内容の位置付け〕

今後社会人として生きていく上の基礎知識とし

科目名	小児保健		
単 位	4	開 設	通年
教 員 名	寺門 道之		

#### 〔講義目的〕

将来、接するであろう小児に関する基本的な知識を、しっかり身につけておき、児童教育の現場で、余裕持って、小児に接する事が出来るようになる事を目的としたい。一回の講義では、教科書を10ページ程度の速さで進みたい。あらかじめ、教科書を読んでおいてもらう場合があります。

#### 〔講義内容〕

- 第1回 小児保健の基本
- 第2回 身体発育(1)
- 第3回 身体発育(2)
- 第4回 生理機能(1)
- 第5回 生理機能(2)
- 第6回 運動機能(1)
- 第7回 運動機能(2)
- 第8回 精神発達(1)
- 第9回 精神発達(2)
- 第10回 栄養(1)
- 第11回 栄養(2)
- 第12回 生活(1)
- 第13回 生活(2)
- 第14回 生活(3)
- 第15回 中間試験
- 第16回 環境・委託保育
- 第17回 新生児
- 第18回 思春期
- 第19回 健康と病気、異常
- 第20回 事故と応急処置
- 第21回 感染症と予防接種
- 第22回 小児の病気(1)
- 第23回 小児の病気(2)
- 第24回 小児の病気(3)
- 第25回 小児の病気(4)
- 第26回 小児の病気(5)
- 第27回 小児の病気(6)
- 第28回 母子保健の現状
- 第29回 母子保健行政(1)(2)
- 第30回 期末試験

#### 〔講義のすすめ方〕

教科書に沿って進めます。必要に応じて、資料を呈示します。質疑応答の時間や、討議の時間も持ちたいと考えています。

#### 〔教 材〕

新・小児保健 第12版 今村栄一・巷野悟郎  
編著 診断と治療社発行 (H20年1月改訂版発行)

#### 〔成績評価の方法・基準〕

中間試験・期末試験ともに60点

#### 〔履修のポイント・注意点〕

講義の中で、大事な点を強調しますし、強調した点が理解されているかを、問います。

科目名	小児保健実習		
単 位	1	開 設	半期＋集中
教 員 名	三田村 敬子		

#### 〔講義目的〕

小児保健の講義で、小児の健全な心身の発育をはかり、病気や事故から守る知識を得ているが、その知識を活かし実践するための実技と対応を学ぶ。実際の基本的な手技を習得し実例を学ぶことによって、小児をとりまく医学的・社会的な変化に対応でき、愛情のある柔軟な保育者の姿勢を養う。

#### 〔講義内容〕

1. 小児保健総論：小児保健の現状、問題点、意義
2. 体の仕組み
3. 小児の精神身体発育とその評価
4. 健康状態の評価
5. 日常生活の援助：栄養、衣服、排泄、衛生、環境整備
6. 小児の病気
  - ・主な病気
  - ・感染症の対応と予防
7. 事故：事故の実例、予防
8. 介護と救急処置
9. ハンディキャップのある小児
10. 小児と家庭、家族、虐待
11. 小児と社会：社会的問題、行政、国際化

#### 実習の例

成長曲線、統計データの利用、健康便りの作成、身体計測、沐浴、調乳、バイタルサイン、心肺蘇生

#### 〔講義のすすめ方〕

- ・パワーポイントなどを使用した講義
- ・実技
- ・学生自身の母子手帳、レポート等を取りあげた実習
- ・ディスカッション
- ・プレゼンテーション
- ・ビデオ等の視聴覚教材

#### 〔教 材〕

参考書：最新 保育保健の基礎知識  
 荻野悟郎監修  
 日本保育園保健協議会編集  
 日本小児医事出版社 2800円

#### 〔成績評価の方法・基準〕

- ・テスト 学期1回
- ・レポート 学期2回程度（ワープロソフトを使用）
- ・判定基準 出席重視（19時限以上の出席必須）

#### 〔履修のポイント・注意点〕

- ・学生自身の母子手帳を用意すること。
- ・実習科目なので、積極性・想像力を期待する。
- ・小児保健講義内容を復習しておくこと。
- ・日常でも小児保健に関する情報に関心をもつこと。

#### 〔科目内容の位置付け〕

小児保健講義の応用。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

- ・小児保健講義と関連。
- ・一般的な保育の中でも、リスクに対応し、予防的な配慮をするのに役立つ。

科目名	小児栄養演習		
単位	2	開設	半期
教員名	高橋美保・下坂智恵		

### 【講義目的】

小児期における栄養摂取が、乳汁から離乳食、幼児食から普通食へと、人の成長にともなった食事摂取機能の発達に関わっていることを学ぶ。また、栄養量や質、与え方について、子どもの発達段階にそった進め方を考える。

食事は、子どもが自立を獲得していくプロセスであることの理解を深め、集団（保育所や幼稚園）ならではの食育活動や、食生活を通じた子育て支援のあり方について、具体的に学び対応する力を培うことを授業の目的とする。

### 【講義内容】

- 第1回 小児の健康な生活と食生活
- ① 食育推進運動の引きがねとなった社会的背景
  - ② 食をめぐる子どもの変化、親、親子の関わり、家庭の変化
- 第2回 食生活における献立、調理、衛生の基礎知識
- ① 小児の集団生活と献立作成、調理の基本
  - ② 食べものと食中毒
- 第3回 小児の発育・発達と食生活
- ① 身体の発育、全身運動機能の発達
  - ② 心の発達、摂食機能の発達
- 第4回 乳児期の栄養と食生活 (1)
- ① 哺乳行動の発達とその援助
  - ② 乳汁栄養（母乳栄養、人工栄養、混合栄養）とその実際（調乳）
- 第5回 乳児期の栄養と食生活 (2)
- ① 吸うことから食べることへの発達とその援助
  - ② 離乳の意義とその実際（市販ベビーフードと手作り離乳食の比較）
- 第6回 乳児の栄養と食生活 (3)
- ① 咀嚼行動の発達とその援助
  - ② 離乳の進め方と与え方
  - ③ 乳児期の栄養と食生活上の問題と健康への対応
- 第6回 幼児期の栄養と食生活 (1)
- ① 食習行動の発達とその援助
  - ② 幼児期の食べものとの与え方（食事摂取基準と食品構成）
- 第7回 幼児期の栄養と食生活 (2)

- ① 食習慣の発達とその援助
- ② 間食の必要性和その実際
- ③ 幼児期の栄養と食生活の問題と健康への対応

- 第8回 栄養に関する基礎知識
- ① 栄養素、栄養生理、代謝に関する基礎知識
- 第8回 学童期の栄養と食生活
- ① 心身の特徴と食生活
- 第9回 病気をもつ子どもの食生活
- ① 病気の特徴と食生活
- 第10回 障害をもつ子どもの食生活
- ① 障害の特徴とその援助
- 第11回 食と文化
- ① 子どもをめぐる行事と食事
- 第12回 児童福祉施設における食生活
- ① 児童福祉施設の特徴と食生活の基本
  - ② 指導福祉施設での給食
- 第13回 保育所・幼稚園で進める食育 (1)
- ① 食育計画の考え方、作り方、進め方
- 第14回 保育所・幼稚園で進める食育 (2)
- ① グループワーク、発表
- 第15回 定期試験

### 【講義のすすめ方】

講義と栄養実習を併せた演習形式で行う。

保育実習で得た食事場面における子どもの行動観察結果や、事例研究の発表も取り入れて授業を進めていく。

初回の授業でオリエンテーションを行い、授業内容を網羅しながらスケジュールを作成し、2回目の授業内で示す。

### 【教材】

教科書：心とからだを育てる小児栄養 岸田忠昭、高橋美保編 保育出版 2500円  
参考図書：随時紹介していく

### 【成績評価の方法・基準】

毎回授業で示す課題レポート(40%)、授業の参加状況(10%)、試験(40%)、発表(10%)で評価する。

### 【履修のポイント・注意点】

自らの食生活を振り返り、食習慣を確立し

て授業に望んで欲しい。

**〔科目内容の位置付け〕**

「保育の対象の理解に関する科目」に位置づけられた演習科目であり、小児の健全な発育・発達を促すために必要な知識や調理技術を、栄養と食生活の視点から学習する。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

小児の健やかな心と身体の成長・発達を促すためには、欠かすことのできない科目である。

「発達心理学」「小児保健」「家庭支援論」などとの関連性が深い。

科目名	比較保育論		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	荒井 冽		

#### 〔講義目的〕

世紀が改まった今、私たちは何かしらの飛躍を期待し、また、今までのそれよりも、視界が大きく広がる高みへの上昇を願います。

しかし、そのことは自らの努力によるセンスと知性の向上を条件とします。

この、自らを含めた飛躍という大いなる課題に立ち向かうとき、私たちは広く世界に目を向けた、比較文化論的なものの見方の有力であることに気がつきます。惰性的な視覚からの脱出に、インスピレーションを与えてくれるからです。

保育の世界に生きる者として、世界を広く見渡しながら、明るく美しい保育のありようを、さわやかに、おおらかにデザインしていきましょう。

#### 〔講義内容〕

“アイデンティティー” (identity) という概念があります。自分自身の存在状況を知ることについて言い表している、とても意味深い概念です。

比較文化論的に保育のありようを見たり考えたりすることは、人が人間同士の触れ合いの中で、自らの存在状況というものを知っていく営みに似ています。

つまり、日本の中だけで保育のありようを考えていると、今までにはなかった視点で、より本質的な理解に接近したアイデンティティーを持つことには、なかなかないのです。

外国のことなどを勉強すれば、少しは疲れ、少しは汗をかくのですが、努力して高みに登れば、地平線が見えてきます。

そして、また努力を重ねると、地平線はより広がって見えてきます。

幼児保育の世界が広やかに見えてくることは、とてもうれしいことです。

加えて、保育の勉強を通して、他の国々の人びとの生活文化を知ることにもなり、勉強の喜びが倍化します。期待してください。

#### 〔講義のすすめ方〕

広く世界を見わたしながら、次のようなテーマに沿って、保育の文化をコンパラティヴ (comparative) 比較文化論的に検討して

いきます。

- ・日常性へのクエスチョン・マーク
- ・オアシスとしての園庭
- ・園のオープン・システム
- ・保育内容としての生活文化
- ・保育のテーマとしての“美”
- ・スカンディナヴィアの保育風土
- ・パーソナリティーの時代へ

#### 〔教 材〕

テキスト：荒井冽著『幼児保育への新しい地平線 「比較保育論」のすすめ 』  
明治図書

#### 〔成績評価の方法・基準〕

学期末に試験を行います。  
出席率を重視します。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

世界に通用する幼児保育のキー・ワードを学び、保育のあり方についての理解をより深めてください。

科目名	社会保障論		
単 位	4	開 設	通年
教 員 名	百瀬 優		

#### 〔講義目的〕

国民生活に不可欠となっている社会保障について、その体系、歴史、理念、財政、機能を説明するとともに、個々の社会保障制度の仕組みを詳しく解説する。特に、年金保険・医療保険・雇用保険・労災保険・介護保険の5つから構成されている我が国の社会保険制度を中心に講義を行っていきたい。また、関連分野としての民間保険についても講義で取り上げる。社会保障制度に関する基本的な知識を身に付けること、現在の課題や改革の方向性について理解することが、講義の目標となる

#### 〔講義内容〕

1. 社会保障とは？
2. 社会保障の体系
3. 社会保障の概念と範囲
4. 社会保障の規模
5. 各制度の概要①
6. 各制度の概要②
7. 社会保障の歴史的発展と沿革（海外）
8. 社会保障の歴史的発展と沿革（日本）
9. 社会保障の理念
10. 社会保障の財政
11. 社会保障の機能
12. 社会保障の国際的動向
13. 公的年金①
14. 公的年金②
15. 公的年金③
16. 公的年金④
17. 企業年金
18. 労働保険①
19. 労働保険②
20. 労働保険③
21. 医療保険①
22. 医療保険②
23. 医療保険③
24. 介護保険①
25. 介護保険②
26. 民間保険
27. 社会保険の管理運営
28. 社会保障改革①
29. 社会保障改革②
30. まとめ

#### 〔講義のすすめ方〕

レジュメを配布し、それに沿って講義形式で行う。

#### 〔教 材〕

初回の講義の際に指示をする。教科書は、椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障 第5版一福祉を学ぶ人へ』有斐閣アルマを予定している。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

定期試験と出席状況によって判断する。また、講義中に行う小テストの点数も考慮する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

我々が日常生活を営んでいく上でも、社会福祉の現場でも、必要不可欠な知識である。分からないことがあれば、定期的に質問票を配布するので、そこに遠慮なく記入して欲しい。もちろん、授業中や終了後の質問も歓迎する。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

公的扶助論を履修していることが望ましい。

科目名	公的扶助論		
単位	2	開設	半期
教員名	百瀬 優		

#### 〔講義目的〕

日本の公的扶助制度である生活保護制度について、歴史を踏まえながら、その理念と意義および特徴を説明する。同時に、制度の仕組みと近年の動向について解説を行う。さらに、生活保護および関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方についても講義で取り上げたい。これらの基礎的な知識を学ぶことを通じて、現代日本の生活問題及び貧困問題を考える上で基本となるような視点を作ることを目指したい。

とされる知識である。分からないことがあれば、定期的に質問票を配布するので、そこに遠慮なく記入して欲しい。もちろん、授業中や終了後の質問も歓迎する。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

1年次に社会福祉・社会福祉Bを受講していることが望ましい。

#### 〔講義内容〕

1. イントロダクション（社会保障とは？公的扶助とは？）
2. 公的扶助の概念と範囲
3. 公的扶助の歴史（イギリスと日本）
4. 生活保護の目的および基本原理
5. 保護の原則
6. 保護の種類と内容
7. 保護施設、被保護者の権利と義務
8. 不服申立てと訴訟
9. 保護基準の決め方と保護費支給額の算定方式
10. 財源と費用
11. 生活保護の実施体制と関連機関
12. 生活保護の最近の動向
13. 低所得対策の概要とその他の関連施策
14. 生活保護における相談援助活動
15. まとめ

#### 〔講義のすすめ方〕

レジュメを配布し、それに沿って講義形式で行う。適宜、ビデオ教材も使用する。

#### 〔教材〕

初回の講義の際に指示をする。参考図書として、生活保護制度研究会『保護のてびき』第一法規を使用する予定である。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

定期試験と出席状況によって判断する。また、講義中に行う小テストの点数も考慮する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

講義は半期だが、どの福祉現場でも最低限必要

科目名	介護概論		
	ノーマルな暮らしの実現のために		
単位	2	開設	集中
教員名	佐々木 由恵		

〔講義目的〕

- ・今日の介護問題の背景と現状を理解し介護を必要とする人の状況を認識できる。
- ・介護の概念、目的、原則等が理解できる。
- ・エビデンスに基づいた援助方法が理解できる。
- ・介護を必要とするさまざまな対象者を理解し、必要な支援方法を考えることができる。
- ・専門職として求められる、理念、態度、及び人間尊重の重要性を認識できる。

〔講義内容〕

- 第1回：オリエンテーション  
介護の理解（介護の概念、介護の歴史）
- 第2回：今日の介護問題とその背景 その1
- 第3回：今日の介護問題とその課題 その2
- 第4回：介護対象者と介護の場の理解
- 第5回：介護に関係する保健・福祉施策の動向
- 第6回：介護の原理性と介護実践の倫理
- 第7回：介護を必要とする人間の理解（健康の概念、健康に生きること）
- 第8回：介護を必要とする人間の理解（自律・自立の意味、自立支援）
- 第9回：介護に関わる関係職種の理解と連携、チームアプローチの実践
- 第10回：介護のスキル（介護過程の展開）
- 第11回：日常生活支援に必要な介護技術
- 第12回：日常生活支援に必要な介護技術
- 第13回：認知症高齢者の介護
- 第14回：ターミナルケア、医療倫理
- 第15回：介護倫理、リスク管理

等を含む内容を集中講義で予定しています。

〔講義のすすめ方〕

社会福祉士の受験に必要な内容を網羅しつつ、ひとり一人の身近な問題として、活発な議論をしながら進めたいと考えています。

〔教材〕

受業な大部分は、パワーポイントと資料で行うので教材の指定はない。  
授業の中で、読んで頂きたい本の紹介を行います。

〔成績評価の方法・基準〕

- 出席率30%
- 課題発表40%
- 試験30%

〔履修のポイント・注意点〕

介護を特殊な状況してと捉えるのではなく、高齢社会を生きるすべての人々が生活に必要な知識・技術として考え、そして、身につけておきたい技術のひとつある。

〔科目内容の位置付け〕

社会福祉士をめざす人は必須科目である。

科目名	障害者福祉論		
	障害のある人の自立と支援の方法		
単 位	4	開 設	通年
教 員 名	根岸 洋人		

### 〔講義目的〕

講義の目的・内容

障害を持つ人々の存在は太古の昔から知られている。そしてその処遇は、その時代背景とともに変化してきている。現代を生きる我々には何が必要とされ、どんな課題が積み上げられているのだろうか。本講義では障害者福祉に関する基本的事項を理解し、歴史的背景にたつ現代の問題点を学習していく。

到達目標

1. 障害のある人の暮らしを理解し、現代社会の問題点と関連づけ説明することができる
2. 障害者福祉の制度を理解し、その意義、問題点を指摘できる
3. 歴史や制度を関連づけて障害のある人の自立とその支援方法を説明できる

### 〔講義内容〕

前期

障害者福祉の理念、障害別の課題等から障害者福祉の基礎的事項と概要を理解する。授業において障害者福祉論が対象とする領域の全体像がつかめるように概念的に構成する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 障害の定義・理念
- 第3回 障害別の視点から 知的障害①
- 第4回 障害別の視点から 知的障害②
- 第5回 障害別の視点から 身体障害①
- 第6回 障害別の視点から 身体障害②
- 第7回 障害別の視点から 精神障害
- 第8回 障害をめぐる基本的施策  
(障害者基本法とその周辺)
- 第9回 障害者自立支援法による施策
- 第10回 障害者の所得保障
- 第11回 障害のある人の雇用・就労
- 第12回 障害のある人の教育
- 第13回 バリアフリーと  
ユニバーサルデザイン
- 第14回 諸外国の障害者福祉
- 第15回 まとめ

後期

障害者福祉の法制度、諸外国との比較、問題点に焦点を当てて授業を行う。前期で取り上げた内容をさらに深めていくためにひとつひとつの

項目に焦点をあて、各論的に構成する。後期は様々な問題についてトピックス的に取り上げ、毎回テーマが変更するような90分完結型の講義で学習していく。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 障害理解の到達点
- 第3回 知的障害者の地域生活を考える
- 第4回 障害児の放課後問題
- 第5回 障害者の権利擁護・成年後見制度
- 第6回 障害者と家族
- 第7回 諸外国の障害者福祉
- 第8回 発達障害とその支援
- 第9回 障害者運動とその歴史・発展
- 第10回 障害表記・差別表現・欠格条項
- 第11回 障害者と映画・文学
- 第12回 就労支援の問題点
- 第13回 障害と社会福祉士・国家試験
- 第14回 援助者の基本姿勢・連携
- 第15回 まとめ

### 〔講義のすすめ方〕

基本的に講義形式の予定である。リアクションペーパーを配布するので積極的に記入すること。ただし履修人数によって若干の変更あり。

### 〔教 材〕

社会福祉の新潮流3「障害者福祉論」基本と事例 学文社  
及び適宜プリントを配布する

### 〔成績評価の方法・基準〕

授業内のリアクションペーパーによる参加(10%)、期末試験(60%)、出席(30%)

科目名	老人福祉		
単 位	4	開 設	集中
教 員 名	菅田 理一		

#### 〔講義目的〕

高齢化の著しいわが国における援助活動の社会的・歴史的背景を概観し、社会福祉の諸理論と高齢者福祉論の諸問題を整理しながら、ソーシャルワーカーの養成を目指す。社会福祉の専門的援助を必要とする高齢者の具体例をとりあげる事例研究も合わせて行ない、高齢者福祉の援助技術に求められる基本的な倫理と高度な技術の習得に努める。

#### 〔講義内容〕

- 第1回 高齢者福祉とは
- 第2回 高齢者の身体的・心理的・社会的特性1
- 第3回 高齢者の身体的・心理的・社会的特性2
- 第4回 少子高齢社会と社会的問題
- 第5回 高齢者の居住世帯と家族の介護問題
- 第6回 高齢者の社会生活における諸問題
- 第7回 老年期の生活困難の特性と構造
- 第8回 高齢者保健福祉制度の発展1
- 第9回 高齢者保健福祉制度の発展2
- 第10回 老人福祉法の内容
- 第11回 介護保険法の目的と仕組み
- 第12回 年金制度1
- 第13回 年金制度2
- 第14回 雇用制度
- 第15回 高齢者の生きがいと社会参加
- 第16回 介護保険法による在宅サービス
- 第17回 介護保険法による施設サービス
- 第18回 成年後見制度と福祉サービス利用援助事業
- 第19回 ボランティア活動と社会福祉協議会
- 第20回 非営利民間活動の実態
- 第21回 シルバーサービスの現状1
- 第22回 シルバーサービスの現状2
- 第23回 介護サービスにおけるリスクマネジメント
- 第24回 住宅制度
- 第25回 老人保健制度の仕組み
- 第26回 老人保健サービスの内容
- 第27回 福祉、保健、医療の連携
- 第28回 ケアマネジメント1
- 第29回 ケアマネジメント2
- 第30回 これからの高齢者福祉

#### 〔講義のすすめ方〕

教科書に沿って、高齢者福祉の基礎知識を学ぶ。受講生に問題意識を高めて頂くために、グループ討議も交えて進めていきたい。さらに社会福祉士国家試験の準備として過去問題の検討も行う。

#### 〔教 材〕

教科書：『新版 社会福祉士養成講座② 老人福祉論』、福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版、2625円（税込）

指定図書：とくになし。

参考書：テーマごとに授業中に紹介する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

試験（各学期末1回）：60%

出席（授業態度含む）：40%

#### 〔履修のポイント・注意点〕

グループ討議の際は、積極的な発言を期待する。

#### 〔科目内容の位置付け〕

社会福祉の分野の一つである高齢者福祉の諸問題を概観するとともに、高齢者への具体的援助方法を検討する。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

ソーシャルワーカーは、社会福祉の分野を俯瞰的に捉えられる視点を持つことが必要である。受講生の皆さんには、本科目で取り上げるテーマと公的扶助や児童福祉、障害者福祉の各分野の授業で取り上げられるテーマとの関連についても意識して頂き、社会福祉に対する広い視野を持って頂きたい。

科目名	地域福祉		
	テーマ：地域住民の主体を形成するための方策を学ぶ		
単位	2	開設	集中
教員名	落合 崇志		

**【講義目的】**

地域問題を住民自らが主体を形成して解決していくためには、どのような方法があるのかを学習する。そのためには、地域福祉の概念、歴史、内容、推進方法（組織・人材・財源等）について、理解をしていただきたい。

さらには、地域福祉の時代に即応する多様な福祉活動・社会貢献活動・ボランティア活動・市民（NPO）活動を推進するプロフェッショナルをめざし、地球的規模で福祉を考える視点と方法等の理解を深めるための学習方法の習得と実践的展開をねらいとする。

**【講義のすすめ方】**

- ・講義形式で、主に教員が講義する。
- ・グループ形式で学習効果を発表させる。

**【教材】**

テキスト：開講時に指示する。

参考文献：授業時に随時紹介する。

**【成績評価の方法・基準】**

評価方法：出席30%、Rep30%、試験40%

科目名	福祉施設経営論		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	川瀬 善美		

#### 【講義目的】

1997年厚生省が提供し具現化した「社会福祉基礎構造改革」は、社会福祉領域に於けるタイミングポイントとなった。

そのポイントは

- 1) 社会福祉の実施主体を公的セクターや社会福祉法人に限定していたものを、民間営利企業にまでその範囲を広げること
- 2) 社会福祉サービスの提供・給付にあたって必要度の判定・費用負担等を行政が公的責任のもとに一括して行う方式をサービス提供者と利用者が相対で交渉し民法上の契約制度に基づきサービス利用を行う
- 3) 「応能型負担」から「応益型負担」へ改める事によって福祉領域における公平概念のシフト変更を行う
- 4) 憲法第25条に基づく生存権を具体化していく為の体系としての社会福祉にあって、規制緩和を行う事によって自由に利用するサービスの質・量、内容を選択すると云う事へのシフト変更などである。

この事により福祉は措置から契約へと転換されたと云う事だけではなく戦後続いてきた社会福祉の恩恵を受ける段階から利用する段階へ、そして今まさしく消費するだんかいへと変化し、そしてそれによりその性格を変質させたと云う事を理解する。

#### 【講義内容】

今まで措置制度により一律に提供実施されてきた福祉サービスは今後は消費者保護と云う規制は受けるものの「市場原理」に基づき、支払われる対価によって、その量・質・内容が決定されサービスの上限が必然的に撤廃される事となった。

その際、サービス提供を行う側として必要なマネージメントとは何かを学ぶ。

- 1) 顧客管理
- 2) C.S
- 3) コスト管理
- 4) 情報公開と情報管理
- 5) プライバシー保護
- 6) 商品開発
- 7) 苦情処理・リスク管理
- 8) 自己点検・自己評価・第三者評価

#### 【講義のすすめ方】

通常の講義スタイルをとる。実在の福祉施設のケースモデルを取り上げ、ケーススタディも行う。

#### 【教 材】

教科書 なし

指定図書 なし

参考 〃 なし

講義の中で紹介する。

また必要に応じて、レジメ等を作成し配布する。

#### 【成績評価の方法・基準】

定期試験に出席状況を加味して行う。

試験は論述式で、講義で取り上げたテーマより出題する。

#### 【履修のポイント・注意点】

本講義は社会福祉領域に関する講義である事を認識して受講してほしい。したがって、社会福祉に関する基礎的な知識を合せて取得する事が望ましい。

#### 【科目内容の位置付け】

社会福祉士受験資格取得、保育士資格取得希望者には履修することを勧めたい。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

社会福祉・社会福祉Bを併せて履修することを勧める。

科目名	ケアマネジメント論		
単 位	2	開 設	集中
教 員 名	佐々木 由恵		

#### 〔講義目的〕

ケアマネジメントは、1970年代後半にアメリカで精神障害者への在宅支援として始まった。

現在、ケアマネジメントはヨーロッパ、オーストラリア、アジアなどの多くの国で実践されており、ケアマネジメント利用者の範囲も障害者、要介護高齢者、慢性疾患のある患者や患児、被虐待児童やその家族にまで広く活用されている。

本講義では、ケアマネジメント理論を学習すると共に、子供や高齢者などのさまざまな事例を通して、ケアマネジメントに必要な実践能力を養うための知識と技術について学習をする。

#### 〔講義内容〕

- ・ケアマネジメントとは何か
- ・ケアマネジメントの意義と機能
- ・ケアマネジメントが必要な対象者の理解
- ・ケアマネジメントの課程に必要な援助技術（インテーク、アセスメント、プラン、実施、評価）
- ・チームアプローチ
- ・ケアマネジメントによる事例展開
- ・ケアマネジメントを行う際のサービス資源の発見と応用

学生の主体的な活動を重視していますので、小グループでフィールド調査を行います。

集中講義方式で行いますので、1日（3時間）は、小山市周辺のいくつかの地域に分かれて、子供や高齢者等のサービス資源やサービス実態を調査し、その結果をグループ発表してもらいます。

#### 〔講義のすすめ方〕

- ・知識の部分と考え方の部分に関しては講義をおこなう。必要な資料は随時配布する。
- ・演習は、個人とグループの両方を実施する。
- ・グループワークは、積極的に参加できるように小集団とする。

#### 〔教 材〕

資料を配付します。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

- ・出席率
- ・グループメンバーへの貢献度
- ・レポート

#### 〔履修のポイント・注意点〕

- ・毎回出席をとる。
- ・グループメンバーとしての貢献度を評価に入れる。

#### 〔科目内容の位置付け〕

社会福祉士を目指す学生にとって必要な科目であると共に、企業、学校などの職業においても、マネジメントは重要な意味を持つ。

科目名	発達心理学		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	神戸 文朗		

### 〔講義目的〕

本講義では、高度に進化した動物に共通する現象としての発達という視点からヒトの発達を論じようと思う。このような広い視野を導入することにより、我々は通常意識しないが適正な発達を可能にしている生物学的機構（built-in mechanism）への理解を深めることができると考える。

発達現象は基本的には遺伝的プログラムに従って進行するが、正常な（遺伝的に想定された）経緯を進行するためには、現時点での個体の状態・能力に適合した物質や情報を環境から摂取・入力することが必要である。もし、特に発達初期に、不適切な（或いは遺伝的に想定外の）入力が与えられると、その時点及びそれ以後の発達の経緯に継続的に否定的影響を及ぼす可能性がある。それ故、初期経験や乳児期の母子相互交渉の効果を理解しておくことは重要といえよう。一方、不適切な入力による発達の逸脱は以後の補正的入力によって修正可能であろうか？この点については発達の不可逆性と可塑性という観点から、学習可能性や教育的介入について考えたい。

発達が進行するに従い生物学的機構の制約からの自由度が高まり、情報の入力の適合範囲が拡大する。このような中で、情報の入力活動を促進させるのは子供自身の自発的・探索的な行動である。更に、そうした行動が出現するためには、環境への好奇心、危険事態に陥った際の安全性の確保、そして自己の能力に対する信頼が醸成されていなければならない。このような文脈の中で、認知的発達を促進させるためにはどのような働きかけを、どのようなタイミングで行うのがよいかを考えていきたい。

児童期以後は生物学的制約やその延長上にある親の養育的影響からの自由が更に増大するのとは反対に、仲間や所属集団あるいは社会からの影響が増してくる。またその際、集団に内在する規範と自己の価値との間で調整が必要になってくる。このような点についても考察を行いたい。

最後に、自己の遺伝子が子に引き継がれ、その子が成熟して再生産可能になれば生物としての個体の目的は達成されたわけであるが、ヒトとしての個体の目的はそこで留まるわけではな

い。どのように後の人生を送り、生を全うするかということは個体としてのヒトの最大の課題の一つである。そしてそこにこそヒトの生の特異性がある。

### 〔講義内容〕

1. 発達とは何か  
未熟から成熟へ  
スキャモンの発達曲線  
遺伝と学習
2. 乳児期  
神経細胞と神経系の発達  
初期経験、初期経験効果の非可逆性と可塑性  
母子の絆  
豊かな環境・貧しい環境と探索行動
3. 乳児期から幼児期  
好奇心・探索、母親安全基地論  
能力感と探索行動  
認知能力の発達
4. 児童期から青年期前期  
教育の効果  
親の養育行動パターンと子供の社会性
5. 青年期から成人期  
仲間の役割と父親の役割  
信念体系と行動選択  
遺伝によらない行動特性の次世代への継承
6. 生殖性と成熟性  
生物としての生とヒトとしての生

### 〔講義のすすめ方〕

用意された図や写真等の資料を基に、口頭での説明を行っていく予定である。

### 〔教 材〕

印刷された資料を用意する。

### 〔成績評価の方法・基準〕

定期試験の結果に基づき成績評価を行う。出席率は受験資格を満たしているかどうかの判定にのみ使用し、出席率を成績に反映させることはない。得られた得点分布に基づき各人の得点はカテゴリー分類され、それを成績とする。

〔履修のポイント・注意点〕

口頭及び黒板を使った説明が主となるので諸君は効率よくノートを取って欲しい。

〔科目内容の位置付け〕

特になし。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提の科目はないが、私の「心理学A」及び「教育心理学」は関連した内容を含む。

科目名	青年心理学		
単位	2	開設	半期
教員名	伊東 孝郎		

#### 〔講義目的〕

青年期は「疾風怒濤」の時期といわれるほど、悩み苦しみに満ちたものである。一方で青年期はまた、それまでとは違って変わった素晴らしい成長と出会いが待ち受けている時期でもある。当然、この時期に成し遂げなければならない発達上の課題が多々存在する。人は青年期に、この課題とどう向き合うかによって、その後の人生が決定づけられるといっても過言ではない。

本講義では、受講生の多くがそのただ中にある青年期の、心理的特徴について理解することを目的とする。同時に、受講生自らの成長につながる思索と体験の機会を提供する。

#### 〔講義内容〕

1. 青年期とは
2. エリクソンの発達理論
3. こどもの発見
4. 青年期の発達課題
5. 青年期のさまざまな悩み
6. 青年期の性
7. 「周辺人」としての青年
8. NEET（若年無業者）と引きこもりについて
9. 青年期の問題行動
10. 自殺について
11. 青年による犯罪
12. 青年期の間人間関係
13. アサーション・トレーニング
14. まとめ
15. 定期試験

#### 〔講義のすすめ方〕

本講義においては、青年期に関する知識を単に伝達するにとどまらず、自ら考え、さまざまな技法を経験するという、体験型学習の形式も取り入れて講義を進める。

#### 〔教材〕

特に指定しない。必要に応じて講義中に知らせ、また印刷物を配布する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

成績は、学期末の試験（50%）と出席状況

（50%）による。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

先に述べたように、本講義は体験型学習の側面もあわせ持つ。自ら積極的に授業に参加する覚悟をもって受講すること。

#### 〔科目内容の位置付け〕

人間発達の重要な時期である青年期の心理を学ぶことは、将来、人間の発達に関するどのような分野を学ぶにしても、きわめて重要である。もちろん、青年期を主な研究テーマと考えている者にとっては、必須の科目である。

また本講義は、認定心理士資格の選択科目（E：教育心理学・発達心理学）である。資格取得希望者は、計画的な履修を行うこと。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

関連科目として、「心理学A」「心理学B」を受講していると、理解がいつそう容易になると思われる。

心理学専攻の学生は、「基礎心理学A」「基礎心理学B」をすでに受講済みであること。

科目名	青年心理学		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	落合 信寿		

#### 〔講義目的〕

人間の発達段階において、青年期は重要な時期であり、一個人の人生において非常に大きな意味を持っている。

本講義では、人間の発達段階における青年期の特徴、青年期の心理・行動特性、青年期と社会との関係、青年期の不適応行動などについて学習し、青年期の特徴と青年期における様々な問題に関する理解を深めることをねらいとする。

#### 〔講義内容〕

1. 青年心理学とは何か
2. 発達段階における青年期の位置づけ
3. 青年期の思考と感情
4. 思春期の身体発達とジェンダー
5. 恋愛と性
6. 自己とアイデンティティ
7. 青年期の悩みと認知行動変容 (1)
8. 青年期の悩みと認知行動変容 (2)
9. 青年期の間関係
10. 青年期と社会参加
11. 青年期における進路決定
12. 青年期の病理
13. 青年期における反社会的行動
14. まとめ
15. 定期試験 (90分間)

#### 〔講義のすすめ方〕

本講義で採り上げるテーマは、履修者にとって過去に経験したことや、現在気にかけていることなど、極めて身近な話題であると思われる。本講義の一部では、青年期の心理的問題に関わるビデオ教材を視聴し、それに関するレポート課題を課すことにより、青年期の心理的問題について履修者自身に深く考察してもらいたいと考えている。

#### 〔教 材〕

教科書は特に指定しない。参考図書等は講義中に履修者に提示し、必要に応じて資料を配布する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

成績は、学期末の定期試験 (50%) とレポー

ト課題 (20%) ならびに出席状況 (30%) により評価する。なお、受験資格は『白鷗大学試験規則』に準じる。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

本講義は、保育士資格の取得における選択必修科目「保育の対象の理解に関する科目」である。資格取得希望者は、全回出席を原則とする。

#### 〔科目内容の位置付け〕

本講義は、保育士資格取得のための重要な科目である。

#### 〔前提・関連科目 (科目間関連の内容)〕

関連科目として、「心理学 A」、「心理学 B」を受講していると、より講義内容の理解が容易になると思われる。

科目名	環境心理学		
単 位	4	開 設	通年
教 員 名	平田 乃美		

【講義目的】

- 1) 人間・環境の相互作用の視点から人間の知覚・認知・行動の特性と背景を理解する
- 2) 心理学領域で発展してきた環境の測定・評価の手法について学ぶ
- 3) 1)、2)を生活空間の改善やデザインに応用するための環境心理学的視点について考える

【講義内容】

環境心理学は、心理学の諸理論及び心理学の領域で発展してきた測定手法を生かして、環境と人間行動との関わりを明らかにしようとする学際的な研究領域です。この領域では、人間の行動に効果をもつ「環境」について、個々の要因分析とともに、全体としての効果やその文脈が検討されます。本授業では、人間・環境の相互作用から生じる人間の知覚・認知・行動の特性と背景を学び、それらの知見を生活空間の改善や景観のデザインに応用するための環境心理学的視点・手法について考えます。

【授業計画】

研究史

- (1) 人間と環境
- (2) 環境心理学の諸相

環境の認知

- (1) 感覚・知覚・記憶の基礎知識
- (2) 視覚の特性を経験する

環境の測定・評価

- (1) 測定・評価のための基礎知識
- (2)SD 法による景観評価

錯視体験

- (1) エイムズの部屋

環境の経験

- (1) 閉眼歩行
- (2) パーソナルスペース
- (3) 身体部位の文字認識

環境との対話

- (1) 場所との対話
- (2) サウンドスケープ

空間心理学

- (1) 空間認知
- (2) 認知地図

色彩心理学

- (1) 色彩とはなにか
- (2) 色彩の知覚
- (3) 色彩のイメージと心理的効果

実験美学

- (1) 美しさの評価
- (2) デザインの性質と情動的評価

環境の評価

- (1) タイトスペース
- (2) 都市のイメージ

環境の認知

- (1) 認知地図
- (2) 距離認知

【講義のすすめ方】

環境の測定、評価、記述等の技法については、一部実習形式を取り入れて学びます。実習課題には数名程度のグループで取り組みますが、報告書は各自作成・提出します。

【教 材】

授業で紹介されたテーマについて、更に関心がある場合は、毎回の配付資料に掲載される「参考文献」を参照してください。

【成績評価の方法・基準】

筆記試験 70% (相対評価)  
課 題 30% (絶対評価)

【履修のポイント・注意点】

【出席について】

出席確認はカード型端末機のみで行い、学生証不携帯は欠席扱いとなります。

【課題について】

指定期間に提出した場合のみ、成績評価対象とします。未提出への対応策はありません。

【成績について】

評価基準の個別対応は一切ありません。個別の結果について、成績発表前の問い合わせには返答できません。評価内容についても、成績調査期間外に調べることはできません。

**〔資料について〕**

講義資料のスライド（動画、写真等）を複製してお譲りすることはお断りしています。再度確認したい資料があれば、授業終了後、機器の電源を切る前に声を掛けてください。

**〔科目内容の位置付け〕**

「認定心理士」資格申請では、「選択科目」（社会心理学・産業心理学）区分の科目です。

科目名	認知心理学		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	神戸 文朗		

### 〔講義目的〕

認知心理学という言葉で表される領域は非常に広範ですが、その中でも幾つかの領域は神経科学やコンピュータ科学等の隣接科学と結びついて現在の心理学の hottest spot を形成しています。この領域をよく理解するためには高度の数学的、工学的、大脳生理学的・神経学的・心理学的な背景知識が必要で、私自身もよくそれをやるものではありません。

しかしこの大きな心理学の流れが半世紀の間にどのように誕生し、現在に到ったかを知ること、現代心理学の問題意識を理解する上で不可欠だと思います。「認知心理学」ではこの学問の進歩を推し進めてきた理論家の学説の紹介を主とし、それらから現在に至る研究の動向にも触れてみたいと思います。

### 〔講義内容〕

1. 現代心理学における認知心理学の意義
2. 反行動主義の流れと認知心理学の誕生
3. 認知革命を構成する主要な所見の幾つか
  1. フィルター理論と2段階情報処理
  2. 記憶の3段階説
  3. 知覚的循環
  4. 二元符号化理論と表象の性質
  5. イメージ論争と心的回転
  6. パターン認知とカテゴリー化
  7. スキーマとスクリプト
4. 現代の問題意識
  1. 特徴の検出と特徴統合
  2. 作動記憶システムと関連脳領域及び中央処理実行系
  3. 視知覚とイメージの共通成分はあるか？
5. 関連する知見
  1. 神経伝達の仕組み
  2. 並列分散処理

### 〔講義のすすめ方〕

図を含む様々な資料を配布する予定です。授業はこの資料に基づいて進行しますので決して持ってくることを忘れないこと。

### 〔教 材〕

単一の教科書等は指定しません。多数の資料を

配布します。

### 〔成績評価の方法・基準〕

成績評価は基本的に定期試験の内容に基づきます。判定基準は試験の結果得られた得点分布に基づきます。受験資格の決定には出席率を厳格に適用します。

### 〔履修のポイント・注意点〕

ここで述べられる内容は私の心理学Bを受講した人以外はほとんど初めて聞く内容だと思えます。なるべく分かりやすく説明するつもりですので、最後まで興味を持って挑戦を続けてください。そのためには、資料を忘れないこと、そして黒板への書きこみだけでなく口頭での説明もノートをしてください。

### 〔科目内容の位置付け〕

心理系専門科目に該当すると考えます。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

この科目は私の「心理学B」の内容を引き継ぐものですので、これを受講することを期待します。

科目名	臨床心理学		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	伊東 孝郎		

#### 〔講義目的〕

臨床心理学とは、人間存在を深く見つめ、悩みや問題を抱えている人の「こころ」を援助するための学問である。この100年余りの間に、さまざまな理論と実践を、我々は手にしてきた。本講義においては、臨床心理学の基礎的な理論を学ぶ。同時に、対人援助の心理学的技法の基礎についても、体験的に学習することとする。

#### 〔講義内容〕

1. 臨床心理学とは
2. 臨床心理学の歴史
3. 発達段階における課題と問題
4. 「こころ」のメカニズム
5. 心理アセスメント1 面接法
6. 心理アセスメント2 観察法
7. 心理アセスメント3 検査法
8. コミュニティー援助の実際
9. 精神の病理と障がい
10. 心理療法の基礎1 精神分析
11. 心理療法の基礎2  
パーソン・センタード・アプローチ
12. 心理療法の基礎3 芸術療法
13. 事例研究1
14. 事例研究2
15. 定期試験 (90分間)

#### 〔講義のすすめ方〕

本講義は、人間の「こころ」の深部をとり扱う、デリケートなものである。人間一般を知るには、まず自分自身を知る必要がある。自らを見つめる作業こそが、人間の心理について学ぶことの入り口なのである。

講義の中では、こうした作業（ワーク）をたびたび指示することになる。若い受講生にとって大変な作業ではあるが、この学問から学ぶもの的重要性を考え、真摯にかつ積極的に受講してほしい。

#### 〔教 材〕

教科書：特に指定しない

参考書：下山晴彦編 「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房 2003

他、必要に応じて講義中に適宜紹介する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

受験資格は、「白鷗大学試験規則」に準ずる

#### 〔履修のポイント・注意点〕

本講義は、臨床心理学という膨大な知と実践の領域の入門編である。講義では、時間的制約から、そのごく一部を紹介するにとどまるが、自ら積極的に関連する書物にあたるなど、学習を深めてくれることを期待する。  
全回出席を原則とする。

#### 〔科目内容の位置付け〕

人間を深く学ぶ臨床心理学は、心理学という科学的な学問分野の中にあって、技法を通しての実践（治療や援助）という「直接の効果」を期待されることの多い、特殊な学問である。将来、教育や福祉の分野に進む学生にとっては、きわめて得るところの大きい学問領域であるといえる。

同時に、臨床心理学の学習として、自己との対話もさまざまな場面で行うことになるため、真摯にワークを行うことで、自己理解も深まることが期待される。

また本講義は、認定心理士資格の選択科目（G・臨床心理学・人格心理学）である。資格取得希望者は、計画的な履修を行うこと。保育士資格取得者にとっては、資格取得のための重要な科目である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

関連科目として、「心理学A」「心理学B」を受講すると、理解がいっそう容易になると思われる。

心理学専攻の学生の場合、すでに「基礎心理学A」「基礎心理学B」を受講済みであること。

科目名	精神保健学		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	伊崎 純子		

〔講義目的〕

- 1) 精神保健の意味するものを理解する
- 2) 発達段階に応じた成長と生じやすい問題を理解し、保育における対処のあり方について学ぶ
- 3) 精神障害の人々やその家族の人権と福祉について考える

〔講義内容〕

- 第1回 インタロダクション：精神保健とは
- 第2回 精神保健の概要
- 第3回 発達と精神保健1：胎児期と乳児期
- 第4回 発達と精神保健2：幼児期から思春期まで
- 第5回 生活環境と精神保健1：家族関係と住まい
- 第6回 生活環境と精神保健2：文化と保育所
- 第7回 発達障害1：知的障害・広汎性発達障害・ことばの障害
- 第8回 発達障害2：多動性障害・習癖障害
- 第9回 中間テスト
- 第10回 テストの返却と振り返り
- 第11回 子どものうつ病・強迫性障害
- 第12回 睡眠障害・登園拒否・児童虐待
- 第13回 保育所における精神保健活動・子育て支援
- 第14回 地域精神保健活動と乳幼児精神医学
- 第15回 障害児保育

〔講義のすすめ方〕

この講義では、各発達段階より特に乳幼児期に注目するが、子育て中の家族および家族をとりまく地域の精神保健までをその範疇とする。概ねテキストに従って、総論、子どもをとりまく環境、各発達段階において生じやすい諸問題と保育士として適切な対応の仕方について概説する。その他、専門機関との連携が必要だと考えられる子どもの発達障害に関してとりあげる。また、講義中にテキストを補足して、摂食障害、神経症、統合失調症などの精神障害についてもとりあげる。

〔教 材〕

教科書は、講義中に使用するので必ず購入する

こと。

教科書

『精神保健』改訂・保育士養成講座編纂委員会編 全国社会福祉協議会・1800円＋税

参考書

『教育・保育双書 精神保健』秋山和夫ほか監修 北大路書房

『これからのメンタルヘルス』安藤延男、村田豊久著 ナカニシヤ出版

〔成績評価の方法・基準〕

受験資格は、『白鷗大学試験規則』に準ずる。出席10% 期末テスト90%で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

前回出席を原則とする。

〔科目内容の位置付け〕

保育士資格 必修科目【保育の対象の理解に関する科目】に該当する。

保育士資格取得のための重要な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

最終的には、3年次開講科目である「障害児保育」や2年次選択必修科目である「臨床心理学」もあわせて受講するとより理解が深まると思われる。

科目名	親子関係の心理		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	伊崎 純子		

#### 〔講義目的〕

- 1) 親子関係の中でも先行研究の多い母子関係に焦点をあて、知識を深める
- 2) 父子関係、里親と里子の関係、障害児とその親との関係についても理解する

#### 〔講義内容〕

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 不妊・妊娠から出産期の関係（関係性の世代間伝達）
- 第3回 乳幼児期の関係①（情緒的応答性・情動調律）
- 第4回 乳幼児期の関係②（分離個体化）
- 第5回 分離個体化のVTR鑑賞
- 第6回 児童期の関係（父子関係）
- 第7回 思春期・青年期の関係（第2の分離個体化）
- 第8回 成人期（巣立ち）・壮年期の関係（老人介護）
- 第9回 里親と里子の関係①
- 第10回 里親と里子の関係②（VTR鑑賞）
- 第11回 障害児とその親の関係①
- 第12回 障害児とその親の関係②（VTR鑑賞）
- 第13回 親－乳幼児心理療法と子育て支援
- 第14回－第15回 まとめ

#### 〔講義のすすめ方〕

乳幼児をめぐる心理療法論では、最早期における関係性が注目されている。母子をひとつのユニットと捉え、関係そのものにアプローチをしようとする視点である。この講義では、関係性の世代間伝達、情緒的応答性、情動調律、分離個体化、虐待といったキーワードをもとに、母子関係を対象とした研究及び理論を紹介する。また研究数は少ないものの、重要である父子関係、また里親と里子の関係、障害児とその親の関係といった話題にも触れていきたい。

#### 〔教 材〕

参考書 多くは推薦図書として、第1回目の講義内で指示

『親－乳幼児心理療法』

D.N. スターン著・岩崎学術出版社

『母子と家族への援助』

吉田敬子著・金剛出版

『完璧な親なんていない!』

J.W. キャタノ著・ひとなる書房

『母親の就労と子どもの発達』

E.E. ゴットフライドラ著

ブレーン出版

『きつとだいじょうぶ? サラと歩いた日々』

奇恵英著

西日本新聞社 など

#### 〔成績評価の方法・基準〕

テストは実施しない

レポートは学期中に3回提出

その他、不定期に講義の感想を提出

3分の2以上の出席が確認できない場合は評価の対象外とする。

最終的には出席20% 提出物20% レポート内容60%で評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

特になし

#### 〔科目内容の位置付け〕

「認定心理士」資格申請では、「領域E・教育心理学・発達心理学」の副次主題に区分される科目である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

特になし。

科目名	心理学基礎実験		
単 位	2	開 設	通年
教 員 名	伊崎 純子		

#### 〔講義目的〕

- 1) 心理学実験の手続きや考え方を学習する
- 2) データ処理やルールに沿ったレポートの書き方を実際に体験する
- 3) レポートをルールにそって書き、メールで添付し提出できる技術を獲得する

#### 〔講義内容〕

- 第1回 オリエンテーション・レポートの書き方
- 第2回 [実験1] ミュラー・リヤーの錯視
- 第3回 [実験2] 大きさの恒常性
- 第4回 レポート返却 [実験1と実験2] ならびに解説①
- 第5回 [実験3] 質問紙法と尺度一向性検査を手がかりとして
- 第6回 [実験4] 対比較法－心理尺度の構成
- 第7回 レポート返却 [実験3と実験4] ならびに解説②
- 第8回 [実験5] 奥行知覚の手がかり
- 第9回 [実験6] 明るさの対比
- 第10回 レポート返却 [実験5と実験6] ならびに解説③
- 第11回 [実験7] 鏡像描写
- 第12回 実験デザインについて
- 第13回 レポート返却ならびに解説④
- 第14回 期末レポートの準備と提出
- 第15回 今後の課題とまとめ

#### 〔講義のすすめ方〕

オリエンテーションで詳細を説明する。2コマかけてひとつのテーマ／実験方法について概略的な講義をしたのち、決められたテーマと手続きに沿って基本的な実験を行い、心理学実験の手続きや考え方、データの処理の方法、レポートの書き方のルールなどを学ぶ。心理学の基礎的テーマについて習熟するとともに、研究の基本的手法を修得することを目標とする。具体的には、知覚、認知、社会、学習、生理、臨床、人格などの領域で、基礎的な実習を行う。最後にまとめとして、各自興味のある問題を想定し、仮説と方法を計画する課題（実験デザインの作成課題）に取り組んでもらう。

#### 〔教 材〕

教科書は講義内で使用するので必ず購入すること。

教科書

『教材心理学』（第4版）・木下冨雄編集・ナカニシヤ出版・2000円＋税

参考書（レポートを書く際に役立つと思われるもの）

『心理学実験を愉しむ』・宮原英種ほか監修・ナカニシヤ出版

『心理学実験ノート』・心理学実験ノート編纂委員会編・二瓶社

『実験とテスト＝心理学の基礎（実習編）』・心理学実験指導研究会編・培風館

『実験とテスト＝心理学の基礎（解説編）』・心理学実験指導研究会編・培風館

『心理学のための実験マニュアル』・利島保ほか編著・北大路書房

#### 〔成績評価の方法・基準〕

実験ごとにレポートの提出が必須。

出席50% レポート50%で評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

実験という演習の性格上、遅刻するとクラスメイトに迷惑がかり、欠席するとレポートも書けなくなるので、遅刻は認めない。またやむを得ず欠席する場合は、補講を行うようにするので、事前に教員に相談すること。無断欠席で、レポートのみを提出しても評価しない。

※実験器具の関係上、定員は30名程度とする。認定心理士資格希望者で高年次の学生を優先するが、資格希望者は若い年次での受講が望ましい。履修者の決定は、初回授業で行う。

#### 〔科目内容の位置付け〕

心理学の基礎的な科目である。認定心理士科目（基礎科目：領域C 心理学実験・実習）である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

「心理学研究法」「心理測定法」で実験計画に関わる統計の考え方などの概要を把握してから受講すると、より知識を深めることができ、実験ならびにレポート作成の体験が意義あるものとなる。

科目名	心理測定法		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	落合 信寿		

#### 【講義目的】

科学としての心理学を成立させる方法論的基礎として、心理測定に関わる理論的背景について学習する。

また、代表的な心理測定法ならびにデータ解析法に関する実習を通じて、心理統計の技法や心理測定法に関する理解を深める。

#### 【講義内容】

1. 心理測定とは何か
2. 心理測定の基礎（尺度水準と基本統計量の概念）
3. 心理尺度の構成（測定の信頼性と妥当性）
4. 心理検査法
5. 統計的仮説検定の基礎
6. 相関と回帰
7. 実験計画法と分散分析
8. 精神物理学的測定法
9. 反応時間の測定
10. 態度の測定（リッカート法）
11. SD (Semantic Differential) 法と因子分析
12. 多次元尺度構成法 (MDS)
13. 多変量解析と数量化
14. まとめ
15. 定期試験

#### 【講義のすすめ方】

本講義では、心理学を科学的に捉えるための手法として、心理測定データの扱い方、ならびに種々の心理測定法とデータ解析の手法について学習する。講義の途中（第5回以降）からは、コンピュータ室において、代表的な統計パッケージのひとつであるSPSSを用いて、履修者に実際にデータ解析を行ってもらう実習形式をとり、講義を進める予定である。

#### 【教 材】

教科書は特に指定しない。参考図書等は講義中に履修者に提示し、必要に応じて資料を配布する。

#### 【成績評価の方法・基準】

成績は、学期末の定期試験（50%）と出席

（20%）ならびに実習課題の提出（30%）により評価する。なお、2/3以上の出席が確認できない場合には、評価の対象外とする。

#### 【履修のポイント・注意点】

本講義の途中からは、コンピュータを用いた実習形式をとるため、Windows OS と表計算ソフトウェア Microsoft Excel を扱う初歩的な知識と経験があることが望ましい。なお、統計パッケージ SPSS の扱い方については講義中に実施するので、履修前に扱い方を理解しておく必要はない。

#### 【科目内容の位置付け】

本講義は「認定心理士」資格選択必修科目（基礎科目 B. 心理学研究法）である。資格取得希望者は、計画的な履修を行うことが望ましい。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

関連科目として、「心理統計法」、「心理学研究法」において心理統計の基礎を理解してから本講義を履修すると、より講義内容の理解が容易になると思われる。

科目名	心理学研究法		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	心理学研究法担当教員（伊崎、伊東、神戸、田多、平田）		

### 〔講義目的〕

- 1) 心理学における科学的・実証的な研究方法について理解する
- 2) 実験計画法、仮説検証や統計的検定の基本的な考え方と適用の実際を学ぶ
- 3) 臨床・教育現場における心理学研究の実際について考える

### 〔講義内容〕

第1回 - 第2回 科学としての心理学 (1)：心理学研究とは何か (担当：田多)

心理学研究の目的は、人間の行動や諸能力を科学的・実証的方法によって究明することにある。本講義では、科学的な思考形式、厳密な条件統制や結果測定など、特に実験心理学の基礎となる概念について理解を深める。また、研究実践における実験室の倫理（実験動物の扱い、個人情報、説明と同意、社会に対する説明責任など）についても理解を深める。

第3回 - 第5回 科学としての心理学 (2)：記述統計 (担当：平田)

心理学における測定データの数値化や記述の技法（尺度の水準、数値の整理、母集団と標本、代表値、標準偏差）について学ぶ。また、SD法やサーストン法などの各種測定尺度、項目分析などの統計手法の基本的な考え方や適用についても解説する。

第6回 - 第8回 科学としての心理学 (3)：推測統計 (担当：伊崎)

心理学研究における統計学的に全体の傾向を推測する手法（カイ2検定、t検定、分散分析、相関係数）について学ぶ。また、臨床心理学の検定手法を概観して、子どもや母子を対象としたデータ収集や数値化における留意点、倫理問題などについても理解を深める。

第9回 - 第11回 心理学研究の実際 (1)：実験計画法 (担当：神戸)

心理学研究における諸概念（独立変数・従属変数の概念、操作的定義）や、データ解析、科学的なレポート作成までの過程を概説する。

第12回 - 第14回 心理学研究の実際 (2)：臨床・教育現場における心理学 (担当：伊東)  
小学校から大学までの学校教育における相談活動、および心理検査法の理論と実際について学ぶ。学校臨床を中心とした事例について、カウンセラー・子ども・教師の各視点から多面的に解説する。また、各種の心理検査法について実施・解釈の技法を概説する。

第15回 予備日

### 〔講義のすすめ方〕

本講義では、心理学教員（5名）各2-3回のオムニバス方式で、心理学における各種研究法を概観する。前半は科学的思考や統計的手法の基礎知識について、後半は心理学研究の活用や実践について学ぶ。

### 〔教 材〕

（参考書）『心理学研究法入門』 南風原朝和ほか編 東京大学出版会

### 〔成績評価の方法・基準〕

担当教員（5名）の平均値による相対評価とする。

### 〔履修のポイント・注意点〕

「認定心理士」資格取得を希望する場合は、履修要項等を熟読して、各自が計画的な履修を行うこと。

### 〔科目内容の位置付け〕

「認定心理士」資格申請では「基礎科目」に区分される科目であり、心理学研究を開始するための基礎科目と位置づけられる。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

心理学専攻の学生の場合は、すでに「基礎心理学 A」「基礎心理学 B」を受講していること。

科目名	心理学実験調査法		
単位	4	開設	半期
教員名	平田 乃美		

### 〔講義目的〕

- 1) 心理学実験の一連の手続きを実習する
- 2) 仮説と実験結果を客観的に記述・検証する科学的枠組みを学ぶ
- 3) 1)、2)を通して、心理学研究に従事するための基礎能力を養う

### 〔講義内容〕

次の7つの実験を実習します。

#### 【1】態度尺度の構成

態度尺度の構成では、物理量としては測定できないが社会的実体として知覚される対象に対する「好ましさ」の程度を測定する心理尺度を構成します。調査票作成の過程ではインフォームドコンセントの重要性について、データ分析過程では項目分析や平均値の差の検定などに基づく尺度の「信頼性と妥当性」について学習します。

#### 【2】加法混色の観察

混色円盤を用いて補色関係にある2色を混色させ、加法混色の色の見え方の変化について観察・記述します。色票系の基準から各結果の3色属性値を求め、CIE色度図上にデータを整理して考察します。ここでは、加法混色現象の性質・法則の検証を通して、色覚説や色の諸属性について理解を深めます。

#### 【3】ストループ効果－認知過程の分析－

色名と異なる色で印刷された色名文字刺激の認知に対する反応時間や誤反応数を測定して、文字読解と色相命名が並列的に処理された後に生じる両者の競合から、反応出力（色相命名）が遅れる現象を検証します。ここでは、反応時間だけでなく、反応と随伴行動の関連について考察する過程分析的アプローチを学びます。

#### 【4】対連合学習－記憶の再生実験－

外国語の語彙学習等で、刺激項（外国語）と反応項（日本語）の項目間に連合を形成する学習を対連合学習と呼びます。ここでは、刺激対をコンピュータ画面に繰り返し呈示する「反復法」と、綴りから連想される音韻と意味を結合させたイメージで記憶する「キーワード法」の

記憶再生率を比較して各々の有効性を考察します。

#### 【5】重量感覚（基本）

物理量に対応して生起する心理量を測定する感覚尺度の構成を通して、精神物理学的な測定手法を学びます。ここでは、 $Y=f(X)$ ：物理量（重量X）を独立変数、心理量（重さの判断Y）を従属変数とする因果（原因と結果）の関係を検討すること（関数の決定）を学びます。また、関数の決定（対数関数とべき乗関数の当てはめ）では、線形回帰の適用について解説します。

#### 【6】重量感覚（応用）

直接法（マグニチュード推定法）と間接法（カテゴリー評定法）の2手法の実験データに基づく感覚尺度を構成して、仮説（物理量と心理量の関係性）と2尺度の論理的な関係式（関数関係）とを検証します。

#### 【7】SD法によるイメージの測定

商品パッケージや人物顔写真等の刺激を用いて、被験者が対象に抱くイメージや印象の評定を行います。形容詞対を選定して作成した評価尺度を用いてデータを収集、因子分析によって認知次元の確認を行います。ここでは、普段心の中であって目に見えないイメージを視覚的に表現する技法を習得します。

### 〔講義のすすめ方〕

実験はグループで実習しますが、結果の検証、統計的検定、レポート作成は各自個別に行います。

### 〔教 材〕

参考書

「心理学実験計画入門」浅井邦二監訳（学芸社）

### 〔成績評価の方法・基準〕

実験レポート 100%（絶対評価）

### 〔履修のポイント・注意点〕

実験参加の上、期限内に課題を提出した場合の

み、成績評価対象となります。

※実験器具の関係上、定員30名程度とします。履修者の決定は、初回授業または掲示された日時説明会で行います。

**【科目内容の位置付け】**

「認定心理士」資格申請では、「基礎科目」（心理学実験・実習）に区分される科目です。

科目名	心理学実験調査法		
単 位	2	開 設	通年
教 員 名	平田 乃美		

#### 【講義目的】

- 1) リカート法による態度尺度の構成を学ぶ
- 2) マグニチュード推定法とカテゴリー評定法による重さの感覚尺度の構成を学ぶ
- 3) 1)、2)の課題を通して、心理学的実験と心理学的調査の方法論を学習する

#### 【講義内容】

この授業では、2つの「心理尺度の構成」課題を通して、心理学的な実験と調査の方法論を学び、仮説と実験結果を客観的に記述する心理学研究の基礎能力を養います。実習は数名のグループで行いますが、実験結果の検証、統計的検定、レポート作成までは各自が個別に行います。

#### 「心理尺度の構成」

##### (1) 態度尺度の構成

態度尺度の構成では、物理量としては測定できないが社会的実体として知覚される対象に対する「好ましさ」の程度を測定する心理尺度を構成します。

ここでは調査の研究法として、調査票の作成過程では「インフォームドコンセント」の重要性について、調査結果の分析過程では項目分析や平均値の差の検定などに基づく「測定の標準化の要件」すなわち「母集団および尺度の信頼性と妥当性」について学習します。

##### (2) 重さの感覚尺度の構成

感覚尺度の構成では、物理量に対応して生起する心理量を測定する心理尺度を構成します。

ここでは実験の研究法として、 $Y = f(X)$ 、物理量（重量  $X$ ）を独立変数、心理量（重さの判断  $Y$ ）を従属変数とする因果（原因と結果）の関係を検討すること（関数の決定）を学びます。また、関数の決定（対数関数とベキ乗関数の当てはめ）では課題の中で、線形回帰の適用について解説します。

具体的には、直接法（マグニチュード推定法）と間接法（カテゴリー評定法）の2手法の実験データに基づく感覚尺度を構成して、仮説（物理量と心理量の関係性）と2尺度の論理的な関係式（関数関係）とを検証しま

す。

#### 【講義のすすめ方】

実験はグループで実習しますが、結果の検証、統計的検定、レポート作成は各自個別に行います。

#### 【教 材】

初めて心理学実験に参加する受講生も多いかと思しますので、できる限り分かりやすい配付資料を準備します。実験計画法や心理測定法について更に詳しく学びたい方は、配付資料に掲載される「参考文献」を参照してください。

#### 【成績評価の方法・基準】

実験レポート 100%（絶対評価）

#### 【履修のポイント・注意点】

実験参加の上、期限内にレポートを提出した場合のみ、成績評価対象となります。

※実験器具の関係上、定員30名程度とします。履修者の決定は、初回授業または掲示された日時の説明会で行います。

#### 【科目内容の位置付け】

「認定心理士」資格申請では、「基礎科目」（心理学実験実習）に区分される科目です。

科目名	教育の測定と評価		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	平田 乃美		

#### 〔講義目的〕

- 1) 教育測定と記述の知識・技術を学ぶ
- 2) 教育評価の意義と知識・技術を学ぶ
- 3) 上記を踏まえて、教育実践における教育測定  
の技術と評価の重要性について理解を深める

#### 〔講義内容〕

教育測定とは、教育効果の客観的な情報を得ること、つまり学力テストや偏差値等に代表される教育効果の数値化といえます。そのため測定においては、科学的な信頼性や妥当性が保証されねばなりません。そして教育評価は、客観的に測定された現象の意味を学習に役立つ情報として、学習者や教師自身の指導計画にフィードバックすることといえます。

本授業では、教師をはじめ他者を評価する立場にある者にとって欠かすことのできない、教育の測定評価に関する専門知識・技術について紹介します。また、教育効果として見落とされがちな学力以外の成果についても実際の教育実践記録等を通して考えます。

#### 〔授業計画〕

1. 研究史：教育における測定評価の意義
2. 知能検査を考える -IQ の歴史 -
3. 知能検査を考える - 現状と展望 -
4. 学力評価を考える  
- 少数大課題方式、評定段階の設定 -
5. 学力評価を考える  
- 細目積上げ方式、学力テストの尺度論 -
6. 絶対評価と相対評価
7. 古典的テスト理論  
- タウ等価測定、平行測定 -
8. 信頼性と妥当性 - 項目分析 -  
- G - P 分析、I - T 分析、S - P 表の作成 -
9. 信頼性と妥当性？測定誤差  
- 論理的・内容的妥当性の問題 -
10. 教育目標のタキソノミー
11. 教育成果を考える？情報処理の技術  
- 偏差値、標準得点、視覚的表現 -
12. 教育成果を考える - 評価者と学習者 -  
- 学習者に有益なフィードバックであるために -
13. - 15. まとめ

#### 〔講義のすすめ方〕

講義の区切り毎に課題（データ処理や学習内容の要約）を実施して、理解度の確認や議論の材料にもちいます。成績評価の対象ではありませんが、内容の振り返りや学習方略の改善、試験対策等に各自活用してください。

#### 〔教 材〕

授業で紹介されたテーマについて更に関心がある場合は、毎回の配付資料に掲載される「参考文献」を参照してください。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験 100%（相対評価）

#### 〔履修のポイント・注意点〕

##### 〔出席について〕

出席確認はカード型端末機のみで行い、学生証不携帯は欠席扱いとなります。

##### 〔課題について〕

指定期間に提出した場合のみ、成績評価対象とします。未提出への対応策はありません。

##### 〔成績について〕

評価基準の個別対応は一切ありません。個別の結果について、成績発表前の問い合わせには返答できません。評価内容についても、成績調査期間外に調べることはできません。

##### 〔資料について〕

講義資料のスライド（動画、写真等）を複製してお譲りすることはお断りしています。再度確認したい資料があれば、授業終了後、機器の電源を切る前に声を掛けてください。

#### 〔科目内容の位置付け〕

認定心理士資格では、「教育心理学・発達心理学」（教育測定）に区分される科目です。

科目名	国語科教育法		
単位	2	開設	半期
教員名	生野 金三		

### 【講義目的】

国語科の学習指導要領（小学校）に示されている指導内容（平成元年版においては、「A 表現」「B 理解」の二領域による構成、平成10年版においては「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」の三領域による構成）について解説を行う。次いで、国語教材研究の意義・方法について概説し、それを踏まえて表現教材や理解教材（就中、文学的文章や説明的文章）のそれぞれの研究を具体的な作品を通して行う。

以上が国語科教育法で講義する主な内容であるが、これを受講することによって国語科の学習指導を行う際の教材研究の視点や学習指導案作成上の要点を体得して欲しい。

### 【講義内容】

本科目では、以下の内容について研究する。

1. 国語科の内容の構成とその特色
2. 単元の研究
  - ・単元の構成、単元の意義、単元の目標
3. 教材の研究
  - ・文章の形態、文章の主題、文章の構成、文章の叙述、文章の言語要素
4. 単元の研究
  - ・学習過程、三読法、学習目標、学習活動
5. 学習指導等
  - ・単元観、目標、指導計画、本時（目標、学習活動、教師の支援）、発問計画、板書計画
6. 模擬授業
  - ・授業記録を作成し、それを基に学習指導を振り返り、そして授業分析の考察

### 【講義のすすめ方】

講義、演習、グループ学習、プレゼンテーション等を中心に授業を進めていく。本科目では、模擬授業の実施を目指しているため、受講生は毎回の授業が次の時間へ継続発展していくことを認識しておくこと。

### 【教材】

文部省「小学校学習指導要領解説国語編」  
東洋館出版社  
生野金三「改稿新美南吉研究」

学教図書出版会

生野金三「読書指導の方法と実践」

学教図書出版会

豊澤弘伸・斉藤武利・斉藤一人「実習における指導の技術」教育出版

### 【成績評価の方法・基準】

出席、ポートフォリオ、ミニ課題、ミニテスト、平常点等で評価する。ポートフォリオ、ミニ課題の提出は、予め決められた締め切り日までに生野の研究室に直接持参すること。

### 【履修のポイント・注意点】

出席をとる。授業の3分の2以上出席した受講生を評価対象とする。

授業内容は、積み上げ方式になっているので、前回の授業内容を踏まえておくことが重要である。

期末にポートフォリオ（授業で学習した内容を振り返り、自分の学習の成果が分かるように「目次」「見出し」「全体の構成」「後書き」等を考えて作成した学習記録のこと。又は、これまでの学習を凝縮したオリジナルのテキストのこと。）を作成するので、授業内容は随時メモしておく。

### 【科目内容の位置付け】

教職に関する科目として位置付けられている。実践的指導力の基礎を体得して欲しい。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

国語概説、初等国語、初等教材研究A（言語・文化系）、教育方法論Ⅰ

科目名	社会科教育法		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	奥澤 信行		

### 〔講義目的〕

小学校における社会科の授業展開について第3学年からの各学年ごとの指導計画や指導案の作成について講義する。小学校の社会科は、分野別にみると地理に関する内容に多くの時間が配当されている。第3・4学年で学ぶ「学区における地域の見方」をベースにして、その面的スケールを拡大することで、学校所在地の市町村から都道府県の学習へと発展させ、さらに国家のあり方を学ぶことになる。そして確固たる国家観を形成することで、世界各国と我が国との関係を理解することが可能となる。このように地理学習を主体として、さらに歴史と公民の分野を付加することで、我が国の姿を正しく捉えるように指導することが、社会科学習の目標といえる。本講では、こうした社会科の学習目標を見据えて、実際に児童を指導する際の教材の扱いや指導方法についての講義を進めた後、実際に教壇に立つことを想定した模擬授業も行う。模擬授業にあっては、学習内容に関わることに留まらず、実際に教室内で起こるであろう事態を想定した実践的な授業展開についても指導したい。

### 〔講義内容〕

- I 社会科の指導方法
  - ① 動機づけと課題意識
  - ② 児童の主体性と教師の指導性
  - ③ 社会科学的認識の指導
- II 各学年における指導計画
  - ① 第3・4学年の指導計画
  - ② 第5学年の指導計画
  - ③ 第6学年の指導計画
- III 指導計画の作成
  - ① 年間指導計画
  - ② 単元ごとの指導計画と指導案
- IV 模擬授業

### 〔講義のすすめ方〕

上記のIからIIIは、講義により授業を進めるが、IVの模擬授業は、グループごとに代表者が教壇に立ち、これを互いに論評する形で行う。

### 〔教 材〕

教科書は特に使用しない。必要に応じてプリ

ントを配布する。

参考書 『最新社会科指導法』古銭良一郎他著  
E X P

『小学校学習指導要領開設（社会編）』  
文部科学省 日本文教出版

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席状況と定期試験の成績の他に、授業態度や提出物の状況も加味して評価する。毎時間出席カードを配布するが、これを点数化するので、出席が評価に影響を及ぼすことになる。また学生諸君の所持するIDカードによる出席も併せて利用するが、出席カードとの間に差異が生じた場合には、出席カードによるデータを優先する。半期の授業のため、5回以上欠席した場合には評価の対象外となる。なお出席点は評価の25%程度の扱いとする。定期試験は論述式で解答する形式で、ノート等の持ち込みは一切不可である。

### 〔履修のポイント・注意点〕

小学校教員免許取得希望者を対象としているため、教育現場の実態に触れつつ授業を進める。したがって受講生諸君も常に学校や教育に関わる社会問題には関心を持って、自分なりの考えをまとめる努力をしてもらいたい。また概説とは異なり、「教壇に立つ」ことを前提としたより実践的な内容となるので、教員への志望をより明確にして授業に臨むことが大切である。

### 〔科目内容の位置付け〕

小学校社会科の学習内容を実際に授業を展開することを前提として説明する。また模擬授業の実施で、「教えること」の技術的な側面にも言及する。「教壇に立つ」にあたっての基本的レベルの内容である。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

「社会科概説」を履修済みであることが望ましい。また小学校社会科における地理的分野が中心となるため、地理学全般を把握する意味から、教養科目の「地理学A・B」の履修を薦める。

科目名	算数科教育法		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	後藤 達生		

### 【講義目的】

小学校教育において算数科のはたす役割は大きい。教壇に立って子供たちに向かい合うとき、算数が目指すものや、その特質をきちんと理解していることが重要です。この講義では算数科の学習指導を行うときの基本的な考え方や基礎となる理論を正しく理解することを目的とします。

小学校算数の内容は「A数と計算」「B量と測定」「C図形」「D数量関係」の4領域に区別されていますが、これらの内容と、その概要を大きくとらえておくことも大切です。また、算数科の著しい特質として累積性があげられます。加法を例にとっても、整数から始まって小数、分数へと段階を追って進んでいきます。さらに、それぞれの教材が相互にどのように関連しているのかを理解することは、個々の授業作りにも当たってもきわめて重要です。

具体的な例を通して学習指導案を作成することも、この講義のもうひとつの大きな目的です。典型的な教材を取り上げて学習指導案の書き方を詳しく解説します。

### 【講義内容】

- 第1回 算数科の目標
- 第2回 算数科の特質
- 第3回 学習指導案と評価
- 第4回 数と計算の指導1
- 第5回 数と計算の指導2
- 第6回 数と計算の指導3
- 第7回 数と計算の指導4
- 第8回 数と計算の指導5
- 第9回 量と測定の指導1
- 第10回 量と測定の指導2
- 第11回 図形の指導1
- 第12回 図形の指導2
- 第13回 数量関係の指導1
- 第14回 数量関係の指導2
- 第15回 テスト

### 【講義のすすめ方】

講義中心に進めるが毎回小テストを行う。

### 【教 材】

〔教科書〕「小学校学習指導要領解説・算数編

（文部省）東洋館出版社

〔参考書〕「小学校算数科指導の研究」平岡忠、建帛社

指導案作成のための資料などは適宜配布する。

### 【成績評価の方法・基準】

出席点、レポート、毎回の講義での小テストおよび学期末試験による。

### 【履修のポイント・注意点】

小学校教師を目指す学生を対象として講義する。

### 【科目内容の位置付け】

小学校教師を目指す学生を対象として講義する。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

前提科目は算数概説、関連科目としては初等算数がある。

科目名	理科教育法		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	小原 政敏		

### 〔講義目的〕

小学校理科の内容と理科の教育方法について理解を深め、理科の授業を実施できる知識技能を習得することが目的である。実験を多くし、実験を通して理科への興味関心を高め、理解を深めることができる指導能力の育成を目指している。

(必要に応じて指示する。)

### 判定基準

- ・ 試験点数60%
- ・ 出席率20%
- ・ レポート20%

### 〔講義内容〕

- 1) 小学校理科の科学的基礎知識
  - ・ 生物と環境
  - ・ 物質とエネルギー
  - ・ 地球と宇宙
- 2) 観察実験機器の活用と開発
  - ・ 「生物と環境」の教材教具
  - ・ 「物質とエネルギー」の教材教具
  - ・ 「地球と宇宙」の教材教具
- 3) ニューメディアの活用
  - ・ デジタルとアナログ
  - ・ 高度情報通信と理科授業
- 4) 自然と子どもの思考
- 5) 環境教育と理科
- 6) 生活科と理科
- 7) 理科の授業設計と模擬授業

### 〔履修のポイント・注意点〕

理科の指導では、内容の説明に加えて自然の様々な現象について実験を通して理解することが不可欠である。実験技術や実験方法に習熟するとともに、自らも様々な実験を工夫する意欲や態度が必要である。授業の実験は限定されてしまうので参考書などで、より幅広く実験の知識を増やしていくことが必要である。

### 〔科目内容の位置付け〕

理科の大きな特徴は、教科内容の説明に合わせて実験をして確認してみることである。理科教育では実験は欠かせない存在であり、教師自身が実験に興味関心を示すことによって子ども達に理科の面白さを伝えたい。

### 〔講義のすすめ方〕

小学校理科の内容のなかで主な項目を学生実験をしながら理解し、指導力の向上を図る。子どもが理解しやすく興味関心を高められる指導はどうすれば可能なのかを受講生自身が工夫することを期待する。実験について結果の発表・意見交換をしながら理解を互いに深める機会としたい。模擬授業を実施し、教育実習にも対応できるようにする。

### 〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目 理科概説

関連科目

- ・ 「初等理科」
- ・ 教養科目として「生物学」「物理学」「環境科学」がある。
- ・ 大学で開設していない自然科学の科目も幅広く学んでおくことが大切である。

### 〔教 材〕

教科書 小学校理科指導の研究 建帛社  
 参考書 小学校学習指導要領解説理科編  
 VTR・パソコンソフト

### 〔成績評価の方法・基準〕

科学的思考力、自然科学に対する興味関心、理科を楽しくしようとする意欲等を評価する。

筆記試験 学期末の定期試験

レポート 提出・内容について評価

科目名	生活科教育法		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	石井 智子		

#### 【講義目的】

- ① 「生活科概説Ⅰ／生活科概説」の講義内容を踏まえ、指導内容、指導法、評価法、教材研究法等について理解する。
- ② 子どもの生活圏である地域の教育素材や人材の活用と教材化について考える。
- ③ 生活科における「子どもの学び」や「子どもを見る目」、「教師の役割」について考える。
- ④ 「生活科教育法」を通して、教師としての資質の基礎を培う。

#### 【講義内容】

第1回のイントロダクションで、各回の内容を提示する。

- 教科の理解を深める講義
  - ・子どもにとっての生活科の意義
  - ・生活科目標と内容構成
  - ・年間指導計画、単元指導計画
  - ・活動計画案
- 教材研究と指導法演習
  - ・植物の栽培
  - ・獣医師による小動物の飼育法と小動物との触れ合い
  - ・学校や地域探検
  - ・自然とのかかわりと遊び 等  
(他の事例と変わる場合あり)
  - ・研究事例の発表

#### 【講義のすすめ方】

- 子どもの思いや願いを大切にしたい実践事例等を活用し、演習、作業、フィールドワーク等の体験重視の講義としたい。

#### 【教 材】

- 小学校学習指導要領解説・生活編  
(平成19年5月)(文部省)
- 自作プリントや実践事例、年間指導計画等  
(随時)
- その他は第1回時に提示する

#### 【成績評価の方法・基準】

- 毎回提出の小レポート・小テスト(出席状況)(50%)、演習等での作成物・作品等(30%)、ポートフォリオ・自己評価(20%)により総合的に評価する。

#### 【履修のポイント・注意点】

- 作業を実施する場合には、活動的な服装や基本的な用具が必要である。

(講義開始時に指示する)

#### 【科目内容の位置付け】

- 「生活科概説Ⅰ／生活科概説」の履修者を対象とする。
- 活動や作業を通したり、実践例を活用したりして、生活科教育の在り方を具体的に体験・理解することをねらいとする。
- 生活科は、子どもの生活圏を学習の場とするので、地域や子どもの実態を把握し、地域の中にある教育材を開発したり人材とかがわって教材化することが大切である。
- 生活科は子どもの思いや願いから出発するため、子どもを見る目を養い、評価と指導につなげることが大切である。
- 幼稚園教育等と生活科との関連を重視する。

#### 【前提・関連科目(科目間関連の内容)】

- 前提科目：生活科概説Ⅰ／生活科概説
- 関連科目：初等生活科、教育実習(小学校)

科目名	音楽科教育法		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	富田 英也		

### 〔講義目的〕

生きる力をはぐくみ、創意工夫を生かし特色ある教育活動を展開する中で、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす指導ができるような教育者を目指している。表現及や鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育て、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養えるような教育者を目標としている。これらを達成するべく、小学校教諭としての資質と能力を身に付け、的確な音楽教科の指導が行えるよう育成する。

### 〔講義内容〕

小学校音楽の変遷と学習指導要領を理解し、他の教科との連携を考えながら、教材研究や指導計画の立案と学年毎の模擬授業等の体験を行い、音楽の授業のあり方、展開の仕方、指導法を学ぶ。また、この授業を通して人間の根源的な心や愛情を大切にし、豊かな感性と表現力を育む。

### 〔講義のすすめ方〕

- 第1回、我が国の音楽教育の変遷、小学校教育における音楽科の役割。
- 第2回、児童期までの音楽的発達段階。
- 第3回、音楽科教育の目標と学習指導要領。
- 第4回、小学校音楽の指導内容、歌唱・器楽・創作等々の表現能力を育てるには。
- 第5回、鑑賞指導の意義と鑑賞教材の研究、価値を認識できる能力を養う。
- 第6回、音の響きからイメージを増幅させ創作する創造的音楽の重要性。
- 第7回、教材研究Ⅰ（低学年の歌唱・器楽・鑑賞教材、日本の伝統音楽、共通教材その他）。
- 第8回、教材研究Ⅱ（中学年の歌唱・器楽・鑑賞教材、日本の伝統音楽、共通教材その他）。
- 第9回、教材研究Ⅲ（高学年の歌唱・器楽・鑑賞教材、日本の伝統音楽、共通教材その他）。
- 第10回、学習指導案の意義と注意点、及び低学年の学習指導案の作成。

第11回、中学年、高学年の学習指導案の作成。

第12回、歌唱を中心とした模擬授業の試み。

第13回、器楽を中心とした模擬授業の試み。

第14回、鑑賞を中心とした模擬授業の試み。

第15回、まとめ、音楽の授業のあり方、教諭としての資質、指導法等々が身に付いたか評価する。

### 〔教 材〕

・小学校課程のための教科教育法 音楽編  
教育芸術社 1,470円

・小学校学習指導要領解説 音楽編 文部科学省（教育芸術社）60円＋税

### 〔成績評価の方法・基準〕

レポート提出（指導案の作成）、模擬授業、学期末試験、等々の総合的評価

出席30%、試験・レポート70%

### 〔履修のポイント・注意点〕

豊かな感性や表現力は授業だけで得られるものではなく、育ってきた環境と日常生活の中で培っていくものである。まずは自分自身が音楽を楽しみ音楽を愛好し、思考し創意工夫をして、客観的にそして博愛的精神をもって子どもとかわることが大切である。模擬授業にあつては、先ず自分の得意分野を含めて計画し、失敗を恐れることなく何度もチャレンジすることが成功に繋がっていくこととなる。

### 〔科目内容の位置付け〕

小学校教諭資格取得関連科目、子どもの目線で子どもの立場になって物事を考え理解する視点が必要である。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

音楽概説Ⅰ、音楽実技Ⅰ（ピアノ）、音楽実技Ⅱ（子どもの音楽）、ソルフェージュ、（音楽理論、ピアノ演奏技術、動揺や子どもの歌、等々）

科目名	図画工作科教育法		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	益田 勇一		

〔講義目的〕

明治以降の美術教育の歴史を概観し、「図画工作科」が成立した経緯を学ぶ。それをもとに現在の初等教育における図画工作科の意義、果たすべき役割とそれを達成するために必要とされる学習内容について、学習指導要領とその変遷を踏まえて概説する。また、主要な学習内容の指導法について学ぶ。

〔講義内容〕

1. 美術教育の歴史 (1)  
鉛筆画時代
2. 美術教育の歴史 (2)  
毛筆画時代
3. 美術教育の歴史 (3)  
教育的図画時代
4. 美術教育の歴史 (4)  
自由画教育時代
5. 美術教育の歴史 (5)  
戦時下と戦後
6. 学習指導要領の解説 (1)  
材料や場所をもとにした造形活動
7. 学習指導要領の解説 (2)  
絵や立体で表す
8. 学習指導要領の解説 (3)  
鑑賞
9. 色彩理論
10. 陶芸の指導
11. 版画の指導 (1)
12. 版画の指導 (2)
13. 木工の指導
14. 絵画の指導

〔講義のすすめ方〕

要点を板書して解説を加える。必要に応じて資料を配布し、映像資料も使用する。

〔教 材〕

教科書は使用しない。

参考書：『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部省。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験による評価。

定期試験 100%

〔履修のポイント・注意点〕

問題意識をもって受講して欲しい。

〔科目内容の位置付け〕

小学校教員免許を取得する学生のための科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

なし。

科目名	図画工作科教育法		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	益田 勇一		

**〔講義目的〕**

図画工作科は表現領域と鑑賞領域に分かれ、表現領域には「材料や場所をもとにした造形活動（造形遊び）」「絵や立体に表わす」といった内容が含まれ、鑑賞領域には表現活動の一環として友だちが作った作品を見ること、制作と関連した芸術作品を鑑賞することが含まれる。この講義では、図画工作科の学習内容、基礎的な技法・材料・道具についての知識、学習指導案の作成方法などについて学びとともに、模擬授業を通して教科内容の適切な指導法について考察する。

**〔講義内容〕**

1. 造形遊びの指導
2. 色彩の基礎理論
3. 絵に表す活動の指導
4. 版に表す活動の指導
5. 立体に表す活動の指導
6. 陶芸の指導
7. 鑑賞の指導
8. 造形の材料と道具
9. 観点別評価基準
10. 学習指導案の作成
11. 鑑賞指導のための美術史(1)
12. 鑑賞指導のための美術史(2)
13. 鑑賞指導のための美術史(3)
14. 鑑賞指導のための美術史(4)

**〔講義のすすめ方〕**

要点を板書し、解説を加える。必要に応じて参考資料を配布し、映像資料も使用する。

**〔教 材〕**

教科書は使用しない。

参考書：『小学校図画工作科指導の研究』宮脇理監修、建帛社、2004年。

：『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部省、2004年。

**〔成績評価の方法・基準〕**

定期試験による評価。

定期試験 100%

**〔履修のポイント・注意点〕**

問題意識をもって受講して欲しい。

**〔科目内容の位置付け〕**

小学校教員免許を取得する学生のための科目。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

図画工作概説 I

科目名	家庭科教育法		
単位	2	開設	半期
教員名	増田 仁		

### 【講義目的】

本講義では、まず戦後日本社会において用いられてきた家庭科の教科書に焦点を当てながら、家庭科教育が社会の変化とともにどのように教える内容を変化させてきたのかについて検討を行っていく。次にアメリカの家庭科教科書を分析し、同時代の日本の教科書との比較を行う。そして日本とアメリカの家庭科、ひいては家庭生活の違いや影響関係について考察を加えていく。

後半では現代の家庭科教育法の課題を衣食住それぞれの領域ごとに考察し、最後に現在の少子高齢化社会において今後ますます重視される傾向にある家庭生活の分野に焦点を当てながら、家族の「多様化」・環境問題・地域文化の育成といったトピックを取り上げて検討を行う。その際、家政学や家族社会学等の分野で蓄積されてきた知見を踏まえ、統計データを提示しながらその社会的背景について解説を加える。以上の講義を通して家庭構成員全員にとって望ましい家庭生活・地域生活とは何か、について学生一人一人が考えを深める授業内容にしていく。

### 【講義内容】

- 1、オリエンテーション
- 2、家庭科教科書の戦後史1——教育改革期——
- 3、家庭科教科書の戦後史2——「高度成長期」——
- 4、家庭科教科書の戦後史3——男女共修以前——
- 5、家庭科教科書の戦後史4——男女共修以降——
- 6、アメリカの家庭科教材の分析1——日本の家庭科教育への有効性——
- 7、アメリカの家庭科教材の分析2——日本の家庭科教育への有効性——
- 8、現在の家庭科教育法の課題1——衣生活をめぐって——
- 9、現在の家庭科教育法の課題2——食生活をめぐって——
- 10、現在の家庭科教育法の課題3——住生活をめぐって——
- 11、これからの家庭科教育法1——家族の「多様化」に向けて——

- 12、これからの家庭科教育法2——環境問題への取り組み——
- 13、これからの家庭科教育法3——賢い「生活者」になるために——
- 14、これからの家庭科教育法5——地域の文化を支えるために——
- 15、まとめ

### 【講義のすすめ方】

基本的には講義形式であるが、授業中にリアクションペーパー等で受講者の意見をきく機会を設ける。

### 【教材】

指定図書：

柳昌子・野村康代編著「家庭科の授業と家政学（小学校編）」北大路書房、1989年。

参考文献：

酒井晴美著『教科書が書いた家族と女性の戦後50年』労働教育センター、1995年。

朴木佳緒留・鈴木敏子共編『資料から見る戦後家庭科のあゆみ』学術図書出版社、1995年。

V. チェンバレン著（牧野カツコ訳）「ティーン・ガイド」家政教育社、1992年。

### 【成績評価の方法・基準】

平常点とレポートの内容から総合的に評価する。

### 【履修のポイント・注意点】

これまでどのような家庭科教育が実践され、これからどのような家庭科教育を行っていけばいいのか、社会と家庭との関係に注目しながら受講してほしい。

### 【科目内容の位置付け】

必修（「家庭科概説」の単位取得者が受講できる。）

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

前提科目は「家庭科概説」です。

科目名	体育科教育法		
単位	2	開設	半期
教員名	近藤 智晴		

〔講義目的〕

本科目の目的は、小学校の体育授業の指導方法について学ぶことである。

レポート 30%  
 普段の活動の様子 20%

〔講義内容〕

内容は、次の通りである。

- ①体育授業の作り方
- ②体育授業の評価方法

体育授業といっても、その内容は、基本の運動、ゲーム、表現運動、器械運動、体づくり運動、ボール運動、水泳、陸上運動、保健と多岐にわたっている。そのため、全ての領域にわたり学習することは難しい。ここでは、いくつかの典型的な領域を取り上げ、授業の作り方（指導のポイント・教材教具・マネジメント・説明や指示の仕方など）や体育授業の評価方法を学んでいく。

〔講義のすすめ方〕

本科目では、教室（場合によっては体育館）で行う。

教室では、現場の授業のビデオを視聴し、指導のポイントや背後にある理論について学ぶ。体育館では、体を使って実技をしながら、教室で学んだポイントを確認する。

〔教材〕

（指定教科書）

すぐわかるすぐできる体育科授業のコツ  
 34・小学館・1680円

〈参考書〉

- 体育の授業を観察評価する・高橋健夫編著・明和出版・2200円
- 体育の授業を創る・高橋健夫編著・大修館書店・2200円
- 小学校学習指導要領解説体育編・文部科学省・東山書房・84円
- 小学校体育の授業 第1学年－6学年。杉山重利他編著。大修館書店。各2200円

〔成績評価の方法・基準〕

出席 50%

〔履修のポイント・注意点〕

体育授業の指導方法を学ぶ上では、実際に体を動かしてみないとわからないことも多くあるので、指示があった場合には、実技のできる服装を準備すること。また、運動に対して苦手意識を持っている人こそ、積極的に参加をしてほしいと切に願っている。体育授業で運動を指導できることと、教師自身の運動能力とは別問題である。教員免許を取得する上で大切なことは、児童に対して指導できることである。そのため、技術の一端をここでは学んでほしい。

〔科目内容の位置付け〕

教員免許を取得する上で他教科の教科教育法同様、教員養成の導入として位置づけられる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

本科目は、これまで学んできた「子どもの体育」「特別活動」「他教科の教科教育法」などと関連している。特に教育実習を想定して、指導案の形式や意味、書き方を事前に学習しておく、講義の理解が深くなる。

科目名	体育科教育法		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	平野 智之		

**【講義目的】**

本授業では、小学校の体育科教育実践に向けた基礎理論を理解するとともに、基礎理論を踏まえた授業設計の能力を身につける。

可能であれば、模擬授業を実施し、検討することで理解を深めたい。

**【講義内容】**

体育科の目標論・内容論・方法論・評価論等を学んだうえで、実際に授業設計を行う。可能な場合、模擬授業を実施する。

**【講義のすすめ方】**

前半は講義、後半は具体的に指導計画を立案する。

可能な場合、作成された指導計画をもとに模擬授業を実施する。

また、随時、小レポートを課す。

**【教 材】**

適宜、作成した資料（パワーポイントによる提示や文献等）を使用する。

**【成績評価の方法・基準】**

出席状況（10%）、レポート（40%）、学習指導計画（50%）の結果を総合して評価する。

科目名	体育原理		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	吉田 茂		

**【講義目的】**

「体育とは何か」に問いかけ、明確な答えを得ることは、そう簡単なことではない。それは、体育の概念が、「身体の教育」として明治以降に外国から導入され、時代と共に変遷して来たことにもよる。学校教育の中で、あるいは生涯教育の中で、体育の概念はどのように考えられて来たのかを理解し、指導者として、運動財の理解を深め、それを如何に教えるべきかを理解することが本講義の目的である。

**【講義内容】**

主要な内容は以下のようなものである。

1. 体育とは何か
2. 体育と体育学
3. 遊びとは何か
4. 身体形成とは何か
5. 運動文化とは何か
6. スポーツと教育

**【講義のすすめ方】**

『体育原理講義』大修館をテキストとして上記の内容を講義し、関連する質問用紙に解答する。

**【教 材】**

上記のテキストを使用するとともに、独自の資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準】**

問題群の中からテーマを選択してレポートする。また、平常の質問用紙に対する解答の評価を行なう。合格の基準は60%以上とする。

**【履修のポイント・注意点】**

テキストを使用するので、予習や復習を常に行なって下さい。

**【科目内容の位置付け】**

専門科目。教員免許取得に必要な単位。

**【前提・関連科目（科目間関連の内容）】**

特になし。

科目名	体育心理学		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	本多 麻子		

【講義目的】

- 1) スポーツや運動に関する心理的特性、動機づけ、パーソナリティ、運動学習などを中心として、体育心理学の基本的内容を理解する。
- 2) スポーツ場面におけるパフォーマンス向上、および心身の健康の維持・増進という2つの視点から、精神身体活動を理解する。
- 3) スポーツや運動に関する心と身体の相関関係について理解を深める。

基礎的内容を扱う。スポーツ、運動、心身の健康をキーワードとした心と身体の間を学ぶ基礎的科目として位置づけられる。

【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

前提科目は特にないが、心理学関連科目の履修を勧める。

【講義内容】

主な講義内容は以下の通りである。

- 1) スポーツと動機づけ
- 2) スポーツとパーソナリティ
- 3) スポーツと感情
- 4) 運動学習・スキルの習得
- 5) スポーツとコンディショニング
- 6) メンタルトレーニング
- 7) スポーツ選手の健康問題と心理的サポート

【講義のすすめ方】

上記の内容について講義を進める。適宜、スポーツに関する心理検査を実施する。その結果や解釈を小レポートとして提出する。

【教 材】

資料を配布する。参考文献は授業中に紹介する。教科書は指定しない。

【成績評価の方法・基準】

出席30%、レポート30%、定期試験40%として評価する。

【履修のポイント・注意点】

毎回、授業時間内に小レポートを提出することによって、出席の確認とする。

【科目内容の位置付け】

中学校・高等学校一種免許状（保健体育）関連科目（選択必修）である。

「認定心理士」資格申請を希望する場合は受講することが望ましい。

本講義では、体育心理学、スポーツ心理学の

科目名	スポーツ産業論		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	栗山 英樹		

#### 〔講義目的〕

スポーツ経営の重要性の増す近年、専門家が求められる時代を迎えた。プロ野球の経営危機に代表されるように、スポーツ経営の専門家の育成が遅れたことが大きな要因で、この分野の人材が多く求められている。

しかし、まだスポーツ産業論がアメリカの大学で始まって、40年あまり、学問としてもまだこれからという分野である。机上の話ではなく、現場で実際にどんな経営の問題に直面しているかなど、研究することにより、時代の求める人材育成の一つとなることを目的とする。

#### 〔講義内容〕

- ①スポーツ産業論概要
- ②アメリカスポーツ MBL、NFL、NH  
L、NBAの今。
- ③ヨーロッパサッカーの現状
- ④日本プロ野球
- ⑤Jリーグ
- ⑥日本の国技相撲
- ⑦ゴルフ、テニスなど国内プロスポーツ
- ⑧アマチュアスポーツのプロ化
- ⑨スポーツジムなどの経営
- ⑩健康ブームに乗る商品  
などスポーツの生み出す経営的要素の徹底研究

#### 〔教 材〕

プリント配布

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出欠席、理解度で評価  
テスト、レポートあり。

科目名	スポーツ行政論		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	中村 祐司		

#### 〔講義目的〕

諸外国におけるスポーツ振興政策も紹介しつつ、国や地方自治体のスポーツ環境がどのように変容し、どのような課題に直面しているかを明らかにする。財政難や行政のスリム化傾向の中で、従来のスポーツ行政機構の再編や統合などの動きにも注目する。そして、スポーツ・健康づくりに関わるサービスをめぐって、公的セクター（行政）、私的セクター（民間企業）、ボランティアセクターがパートナーシップ関係を構築していくための方策を探る。特に、総合型地域スポーツクラブの設立・運営をめぐり、クラブが掲げる理念の共有、実際に直面する課題の解決策、住民の参画方法や地域コミュニティ活性化の方途、さらには企業からの支援の在り方などについても考察する。

#### 〔講義内容〕

1. スポーツ行政研究の意義
2. 先進諸国におけるスポーツ行政の趨勢
3. イギリスのスポーツ行政政策の変容
4. 日本におけるスポーツ行政の歴史
5. 日本におけるスポーツ・健康づくりに関する基準や指針
6. 日本におけるスポーツ・健康づくり施策の変遷
7. 日本におけるスポーツ・健康づくり施策の課題
8. 日本におけるスポーツ振興策の課題
9. オーストラリアのスポーツ行政と産業振興
10. スポーツ行政と地域社会
11. ローカルガバナンスと地域スポーツ
12. 総合型地域スポーツクラブの実践と課題
13. スポーツ行政をめぐる現代的課題

#### 〔講義のすすめ方〕

まず、スポーツ行政を研究する意義について受講生に共通の認識を持たせるようにする。そして、政府と地方自治体がどのような意図とスタンスで健康づくり・スポーツ振興に取り組んでいるのかを諸外国の事例も含めて明らかにする。さらに政府が提供する健康づくり・スポーツ政策とこれを実質的に担う私的セクター（民間企業）やボランティアセクター（市民団体な

ど）がどのような課題に直面しているのかを把握する。なお、受講生に対する質問を心掛け、教員による一方通行的な説明に終始せず、受講者と一緒に課題解決に向けて知恵を出し合うように授業にしたいと思う。

#### 〔教 材〕

テキストとして、『"とちぎ発" 地域社会を見るポイント100』（下野新聞新書2、1000円）を使用します。第2回目ないしは第3回目の授業時に教室において販売するので、事前に購入する必要はありません。また、必要に応じて資料を適宜配布する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席状況および定期試験によって評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

国と地方時事対が提供するスポーツ行政とスポーツ政策に関わる課題への問題意識を持って授業に望んでほしい。質問の時間もできるだけ確保したいので、事実確認以上に考え方や視点をめぐる質問を積極的に行ってほしい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

講義を行う教員の基本スタンスについてはどちらかといえばこの授業では取りあげたテーマを深く追求することを心掛け、健康づくりやスポーツをめぐる行政や政策の課題をかなり突き詰めて考察する。個々のテーマの基本的前提や概略説明については「スポーツ社会学」においてやっていきたい。

健康運動指導士養成校制度での認定科目

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

実際のスポーツ活動に従事しているかいないかにかかわらず、スポーツに関わる政府の活動野生策に何らかの関心を有していることを受講の前提としたい。

また、関連科目として「スポーツ社会学」がある。

科目名	運動学Ⅰ		
	運動方法学を含む		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	吉田 茂		

**〔講義目的〕**

人間の運動の意味や価値を理解し、運動の持つ教育的意義を人間学的な視点から理解することが、本講義の主要な目的である。

特に、スポーツ運動は、文化として伝承され、人間の生活を豊かにし、生涯学習の一環として伝承されるものであることを理解してほしい。従って、運動学Ⅰでは、学校体育で伝承されてきたスポーツ教材に焦点を絞り、運動財の意味や価値を問うとともに、運動方法学の内容を含む運動の発生を中心として講義する。

**〔講義内容〕**

『教師のための運動学』の内容について講義する。プロローグ、第Ⅰ－Ⅱ章の主たる内容となる運動の発生、構造、伝承に関する内容が中核である。またこれらの具体的内容であるⅣ章「新しい運動理論を生かした運動指導」を講義する。

**〔講義のすすめ方〕**

『教師のための運動学』大修館、吉田、三木編著をテキストとし、順次説明を加えながら講義を進める。

運動学Ⅰでは、上記テキストの前半部分を中心に、学習指導のための補足資料を配布しつつ進める。

**〔教 材〕**

『教師のための運動学』を購入し、予習することを進める。質問事項は所定の用紙に書いてあらかじめ提出することとする。

配付資料の活用

**〔成績評価の方法・基準〕**

記述式テストによる成績評価。60%以上を合格とする。

**〔履修のポイント・注意点〕**

テキストを購入し、予習をすること。

質問事項を提出すること。

**〔科目内容の位置付け〕**

専門科目。教員免許のための必修単位。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

特になし。

科目名	運動学Ⅱ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	吉田 茂		

#### 〔講義目的〕

スポーツ運動の特性や教材としてそれらがどのように人間教育に資するのかを理解することが、運動学Ⅱにおける講義の目的である。

スポーツを構成する動き方の構造を明らかにし、構造特性を基にどのように学習をすすめるべきかを中心に、スポーツ運動学の内容を講義する。

#### 〔講義内容〕

『教師のための運動学』の新しい運動理論を生かした運動指導の内容を中核として講義する。スポーツ種目は、その勝敗の判定や競技の方法によって、測定競技、判定競技、評定競技に分けられる。また、競技の仕方によっては個人競技、対人競技、集団競技などの区分も可能である。これらのスポーツを構成する動き方の構造を明らかにし、構造特性を基にどのように学習をすすめるかを中心に、スポーツ運動学の内容を、テキスト『教師のための運動学』第Ⅱ？Ⅲ章を中心に配付資料を加えて講義する。

#### 〔講義のすすめ方〕

基本的にはテキストを解説し、質問事項に回答するなど、運動学Ⅰと同様に進める。

#### 〔教 材〕

運動学Ⅰと同様のテキストを使用する。

『教師のための運動学』  
大修館、吉田、三木編著

#### 〔成績評価の方法・基準〕

中間レポートおよび中間テスト、最終レポートにより評価する。また、平常の質問用紙の提出回数をカウントする。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

テキストを予習し、質問用紙を提出する。

#### 〔科目内容の位置付け〕

専門科目。教員免許のための必要単位。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

運動学Ⅰを履修している必要がある。

科目名	スポーツコーチング総論		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	吉田 茂		

#### 【講義目的】

生涯スポーツが叫ばれている今日、種々のスポーツ種目において、またどのような競技レベルにおいても「競技力」の向上は、誰もが望むものである。コーチングとは、競技力の向上を目的として計画的、意図的に行われる行為として、指導者が、また選手自身が行う目的々な行為である。

コーチング総論では、これらの目的々行為が、どのように計画され、実行され、評価されるのかを全体的に知るものである。

て、自主的に取り組むこと。

#### 【講義内容】

講義内容としては以下の内容が含まれる：

1. コーチングの目的と機能
2. コーチング計画
3. コーチングの内容
4. コーチング能力の育成
5. コーチングの評価

特に、コーチングの能力の育成については、自主的に、研修する必要がある。

#### 【講義のすすめ方】

上記の内容について、順次講義を行うとともに、課題に応じたレポートを作成して提出する。

#### 【教 材】

配布資料をもとに講義を行う。また適当な著書を紹介するので興味のある人は購入してほしい。

#### 【成績評価の方法・基準】

講義内容に応じた平素のレポートの評価を行う。

#### 【履修のポイント・注意点】

自主的な調査研究、レポートなどの提出を積極的に行うこと。

#### 【科目内容の位置付け】

選択必修科目

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

各種の実技・実習、運動学の履修を前提とし

科目名	競技スポーツ理論		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	竹島 克己		

〔講義目的〕

勝敗を争う競技スポーツについて学ぶ。競技は身体的要素、精神的要素両面を鍛えることによって自分自身に勝ち、競う相手に勝とうというものである。競技で勝つために必要なあらゆることを学ぶ。

む。特に指導する側の観点で思考する姿勢を望む。

〔科目内容の位置付け〕

専門科目。1－4年の選択科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

特になし。

〔講義内容〕

- 1) 競技スポーツの歴史
- 2) コーチング理論
- 3) トレーニング理論
- 4) 生理学
- 5) 運動生理学
- 6) 栄養学（スポーツに適した食事・サプリメントについて）
- 7) 運動力学（歩行・ランニング動作・水中動作などについて）
- 8) スポーツ関連の仕事
- 9) スポーツにおける基本とは  
 スポーツは姿勢・呼吸・歩行・ジョギング・ランニングなど基本が大事です。基本を踏まえた上で技術を積み上げていく姿勢を良く理解してほしい。これら、競技に役に立つ話題を抜粋し提供し、また最新のスポーツにおける出来事を含めて講義する。

〔講義のすすめ方〕

専門的立場から陸上競技長距離の話題は多くなるが、学生からも自分自身の経験をふまえて発表の機会を与える。広く他の経験、知識を自分のために役立てるようにしてほしい。

競技スポーツに関するレポートを作成する。

〔教 材〕

特になし。資料は配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

- 1) 参加度 出席を評価する  
 授業への取り組む姿勢
- 2) 授業目的達成度  
 競技スポーツに関するレポート完成度  
 授業ノートの完成度

〔履修のポイント・注意点〕

本授業を受講し理解、応用、実施する姿勢を望む。

科目名	体育測定評価		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	野間 明紀		

〔講義目的〕

スポーツをおこなう上での身体の動き、体力、運動能力を知ることは大切なことであり、そのためにはそれぞれの測定項目にあった方法を知ることが必要である。また、科学的な測定、分析を行い、個人の情報を多く知れば、個別の指導にも大いに役立つと考えられる。また、体育の授業においても上記のことが必要と考えられる。このことから本授業においては、形態から運動能力等までの測定方法及び評価方法を講義する。

〔講義のすすめ方〕

- ①身体組成の測定法
    - ・形態の測定評価他
  - ②③体力・運動能力に関する測定法の理解
    - ・基礎運動能力の測定評価
    - ・全身持久力の測定
- 以下では、対象の違いをふまえた体力測定と評価を理解する
- ④⑤児童・生徒への体力測定について
    - ・対象者の特徴と、測定項目
    - ・対象者の特徴をふまえた評価と実践
  - ⑥⑦成人・中年への体力測定について
    - ・新体力テスト、フィールドテストの項目と評価
    - ・対象者の特徴をふまえた評価と実践
  - ⑧⑨高齢者への体力測定について
    - ・対象者の特徴と、測定項目
    - ・対象者の特徴をふまえた評価と実践
  - ⑩⑪介護予防の観点での体力測定について
    - ・対象者の特徴と、測定項目
    - ・対象者の特徴をふまえた評価と実践
  - ⑫運動負荷テスト
  - ⑬筋力・筋持久力の測定法と評価
  - ⑭呼吸循環系能力の測定と評価
- ※その他、データの測定やその評価と健康づくり、体力恒常への取り組みについて考察していく。

〔教 材〕

授業中に資料を配布する  
 ○参考図書 体力測定法（松浦義行） 朝倉書店  
 体力、運動能力測定法（西園秀嗣他）大修館

書店

〔成績評価の方法・基準〕

○テスト1回及び出欠席で評価する。場合によってはレポートの提出もある。

〔履修のポイント・注意点〕

○遅刻は2回で欠席1回となる。  
 ○2/3の以上の出席がテストを受験する条件である。

〔科目内容の位置付け〕

2－4年次の選択科目である。  
 健康運動指導士養成校制度での認定科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

生理学、運動生理学、スポーツ生理学及び解剖学

科目名	生理学		
	※「運動生理学を含む」		
単位	2	開設	半期
教員名	金田 健史		

#### 【講義目的】

本講義では、体育科学、健康科学を学ぶために必要となる生命活動の基礎と本質を学習するとともに、身体運動と身体諸機能との関連を理解するための基礎学問としての生理学の重要性も理解する。したがって、神経、筋、呼吸、循環、血液、内分泌などの基礎となる生理機能について概説し、今後必要とされる学校体育の授業や健康・スポーツ関連の現場において、欠くことのできないベースとなる知識の確立を目指す。さらに、運動生理学の基礎的な知識を加えて説明していく。

#### 【講義内容】

1. 生理学の概要、導入
2. 神経の構造と機能
3. 活動電位の伝導、シナプス伝達
4. 筋の機能（筋肉の構造、骨格筋の収縮）
5. 興奮収縮連関、筋収縮の型
6. 筋の機能（エネルギー供給系、筋線維のタイプ）
7. 運動に関わる筋の機能（筋収縮と筋力発揮）
8. 呼吸循環系の機能（心臓の構造、機能）
9. 呼吸循環系の機能（心電図の意味と記録法）
10. 呼吸循環系の機能（呼吸器の構造、機能）
11. 運動と呼吸循環系の関わり（心拍数、心拍出量、血圧）
12. 神経系の機能（脳・神経系の働き、脳・脊髄の構造、機能）
13. 末梢神経系、運動単位
14. 代謝（基礎代謝、安静時代謝）
15. 試験

#### 【講義のすすめ方】

授業では、パワーポイントなどを用い、視覚的にイメージをしやすいようにし、またプリントなどから復習できるように進めていく予定である。

#### 【教材】

- 生理学テキスト 第4版（文光堂）
- 生理学 Minor textbook 第6版（金芳堂）

○高校時代に生物、化学等を受講していた学生は教科書を活用することもよい。

○健康・体力のための運動生理学（杏林書院）

#### 【成績評価の方法・基準】

出席および、学期末試験において評価する。

#### 【履修のポイント・注意点】

高校時代における生物、化学等の知識は役立つと思われるが、そうでない学生でもプリント、映像から理解できるようにおこなう。しっかりと予習、復習をすることで十分に知識は得られるものと考えている。一年次前期に開講される解剖学（基礎）を受講した後、履修することが望ましい。

#### 【科目内容の位置付け】

専門科目、教員免許取得に必要な単位  
健康運動指導士養成校制度での認定科目

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

解剖学（基礎）、競技スポーツ理論、運動生理学、スポーツ生理学

科目名	公衆衛生学		
単 位	2	開 設	集中
教 員 名	益子 詔次		

#### 〔講義目的〕

人間は環境とのかかわり合いを通して生きている。個人の健康状態は集団の健康状態と不可分の関係にある。環境破壊が叫ばれて久しくなる。科学が進歩しているにもかかわらず、地球環境が取り返しのつかない事態を引き起こしつつある。ここでは環境や生活にかかわる基本的知識を学習する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

地球温暖化、ハンセン病、エイズなどニュースになっている社会問題はどれ1つとっても解決するには難しい問題があります。ニュースになっている社会問題を自分とのかかわりで捉えてみて下さい。そのとき関連する基礎知識が必要になって調べる必要が出てきます。必要があって調べた事は忘れません。

#### 〔講義内容〕

公衆衛生学の範囲は多岐にわたるので、日常生活とできるだけ関連のある分野について学習する。

大筋以下のような内容とスケジュールを進める。

1. 公衆衛生学の歴史
2. 環境衛生—空気（組成及び測定法）
3. 環境衛生—衣服、気候
4. 環境衛生—上水道・下水道
5. 公害—歴史、種類、対策
6. 労働衛生—作業環境、疲労、産業災害、職業病
7. 感染症—成立条件
8. 感染症—感染症の種類
9. 感染症—予防接種、消毒
10. 感染症—性病、エイズ
11. 成人保健—生活習慣病
12. 成人保健—脳卒中、ガン、心臓病
13. 人口問題—少子・高齢化社会
14. 栄養・食品衛生—栄養所要量、給食、食品添加物
15. 試験

#### 〔講義のすすめ方〕

基本的に講義形式を進める。

#### 〔教 材〕

できるだけ資料を作成配布して授業を進める予定である。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席状況およびテストにより総合的に評価する。

科目名	学校保健Ⅰ		
	(小児保健、学校安全及び救急処置を含む。)		
単位	2	開設	半期
教員名	岩城 淳子		

#### 〔講義目的〕

この講義の目的は、学校保健の概要を解説することである。学校保健の意義と目的、歴史、行政と制度、構造と内容、および学校保健組織活動と学校保健安全計画について学ぶ。学校保健は保健教育と保健管理から成り立っており、教育領域には保健学習、保健指導が、管理領域には健康管理、環境管理、生活管理が含まれる。さらに小児保健、救急措置についてもふれる。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

公衆衛生学

#### 〔講義内容〕

1. 学校保健の意義と目的
2. 学校保健の歴史
3. 学校保健の行政と制度
4. 学校保健の構造と内容
5. 学校保健関係職員
6. 学校保健組織活動
7. 学校保健安全計画
8. 保健学習
9. 保健指導
10. 健康管理
11. 環境管理（学校安全を含む）
12. 生活管理
13. 小児保健
14. 救急措置

#### 〔講義のすすめ方〕

主として講義形式にする。

#### 〔教材〕

授業の中で指示する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

テストは学期末に1回行う。欠席回数が4回以上の者は受験することができない。その他、トピックスについて簡単なレポートを数回課す。判定基準は、定期テスト50%・小レポート30%・出席20%の配分とし、総合点で60%以上を合格とする。

#### 〔科目内容の位置付け〕

中学校・高等学校教諭免許状（保健体育）取得を目指す者の必修科目である。

科目名	学校保健Ⅱ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	岩城 淳子		

#### 〔講義目的〕

この講義の目的は、学校保健の基礎となる“健康”や“子どもの成長”について学ぶことである。児童・生徒の健康は、学校という枠の中でみるばかりでなく、個人の生涯にわたる健康生活の基盤としての視点が重要である。さらに教育との関連で考えていくことが望ましい。まず児童・生徒の健康状態や問題点を把握しそれらに健康学的アプローチを試みる。さらに学校保健の現状と課題を教育健康学の手法で明らかにしていく。それらを学ぶ中で、自身の健康観や学校保健に対する考え方を確立していくことが本講義の最終的な目的である。

取得を目指す者の必修科目である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

公衆衛生学

#### 〔講義内容〕

1. 健康の考え方  
健康の概念、健康を規定する要因、健康教育、ヘルスプロモーションを考える。
2. 児童・生徒の健康状態の現状と課題  
発育発達、性成熟、体力、運動能力、栄養、疾病などから子どもをみる。
3. 学校保健の背景  
人口動態、児童・生徒数の動向、学校保健行政とその活動をみる。
4. 教育現場の現状と課題
5. 児童・生徒の主体管理

#### 〔講義のすすめ方〕

講義の後、最新のトピックについてのグループディスカッション、プレゼンテーションなどを取り入れていく。

#### 〔教 材〕

授業の中で指示する

#### 〔成績評価の方法・基準〕

テストは学期末に1回行う。欠席回数が4回以上の者は受験することができない。その他、トピックスについて簡単なレポートを数回課す。判定基準は、定期テスト50%・小レポート30%・出席20%の配分とし、総合点で60%以上を合格とする。

#### 〔科目内容の位置付け〕

中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）

科目名	発育発達学		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	金田 健史		

#### 【講義目的】

本講義では、人間の成長や発育発達をさまざまな視点から捉え、子どもの成長を大きく捉えるとともに、各ステージでの特徴的な変化を取り上げて講義を進めていく。

また、発達段階そのときどきでの変化に注目して、からだの中で一体どのような変化が時々刻々と起こりながら、子どもが成人へと変わっていくのかを受講生自身で考え進めることを目的としている。

#### 【講義内容】

1. 講義の概要に関するオリエンテーション
2. 成長、発育、発達とは
3. いろいろな成長パターン、成長曲線
4. 胎児期の発育発達
5. 乳幼児期の発育発達
6. 児童期の発育発達
7. 思春期、青年期の発育発達
8. 子どもの形態的变化とその特徴
9. 運動機能の発達とその特徴 (1)
10. 運動機能の発達とその特徴 (2)
11. 感覚機能の発達とその特徴
12. 認知機能の発達とその特徴
13. 子どもの発育発達と遺伝的・環境的要因
14. 発育、発達研究における配慮や注意点、計画の意義と問題点
15. 試験

#### 【講義のすすめ方】

適宜、プリント等による資料、パソコンを用いる説明、ビデオやDVDによる映像を用いて行う予定である。本授業では、講義を受けるといだけでなく、学生自身も考え、意見を出しあって一緒に発育発達について考えていく。

#### 【教 材】

- からだの発達 (大修館書店)
- 事典・成熟・運動 (大修館書店)
- 小児のスポーツ医学 (金芳堂)

#### 【成績評価の方法・基準】

出席および、学期末試験が評価のベースとなるが、授業における活発な意見、質問等を含む授業態度、レポート課題の取り組みなどから総合的に判断する。

的に判断する。

#### 【履修のポイント・注意点】

基本的な知識は非常に大切であり、不可欠なものであるが、それ以上にこれまで学習してきた人間のからだについての知識をさらに深めたいという姿勢が強く望まれる。

漠然と講義を聴くというイメージで講義を受講するものには向いていない。

#### 【前提・関連科目 (科目間関連の内容)】

特になし

科目名	トレーニング実習Ⅰ		
単位	1	開設	半期
教員名	竹島 克己		

### 〔講義目的〕

トレーニングとは体力を向上させるためである。体力は次のように分類される。

- 1) 行動体力
  1. 行動を起こす能力
  2. 行動を持続する能力
  3. 行動を調節する能力
- 2) 防衛体力
  1. 物理化学的ストレスに対する抵抗力
  2. 生物的ストレスに対する抵抗力
  3. 生理的ストレスに対する抵抗力
  4. 精神的ストレスに対する抵抗力

人間の体は適切なトレーニングによってこれらの能力は改善される。トレーニングの目的は高度の競技スポーツから健康維持のためとおおきな幅がある。また自分自身の体力向上と指導者となったときに適切な指導ができるよう、本授業に取り組み、トレーニングに対する知識と経験を身につけてほしい。

### 〔講義内容〕

- 1) ガイダンス
- 2) 体操の方法
- 3) マッサージの方法
- 4) 体格の測定
- 5) 自重を使った体力トレーニングの方法
- 6) サーキットトレーニングの方法
- 7) 動きのトレーニング
- 8) ウェイトトレーニングの基礎
- 9) 遊びを取り入れた体力トレーニングの方法
- 10) 各種トレーニングの継続実施と経過測定
- 11) 各種トレーニングの実施前後、実施経過での測定結果の評価
- 12) 対象の違いによる健康へ向けた運動への取り組み方の違いを考慮に入れたプログラムの作成  
(幼児・青少年)
- 13) 対象の違いによる健康へ向けた運動への取り組み方の違いを考慮に入れたプログラムの作成  
(中高年・高齢者)

### 〔講義のすすめ方〕

授業ノートを作成し体格の変化・体力の変化・

トレーニングの進行度を自己点検しながら自分に適したトレーニング強度を探る。様々なトレーニングを体験しながらトレーニング・準備運動・アフターケアの方法を体得する。

### 〔教材〕

筆記用具。トレーニングノート。

### 〔成績評価の方法・基準〕

- 1) 参加度 出席を評価する  
授業への取り組み・態度・参加の程度
- 2) 貢献度 授業の準備・かたづけ・デモンストラクションへの貢献度
- 3) 技能・運動水準  
技能・能力の到達度
- 4) 授業目的達成度  
トレーニング科学に関するレポート・実習ノートの完成度

### 〔履修のポイント・注意点〕

正しいトレーニングの技術を体得するためには、安全と健康に留意し慎重に何事も取り組む必要がある。けがをすることなく、させることなく服装・履物などにも気を配って参加してほしい。アクセサリは、はずしてこること。

### 〔科目内容の位置付け〕

専門科目、2年生から4年生の選択科目

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

トレーニング論・トレーニング実習Ⅱ

科目名	トレーニング実習Ⅱ		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	齋藤 武利		

#### 【講義目的】

スポーツ現場における様々なトレーニング方法のうち、一般的な体力要素に視点を当てて、体力トレーニング法（主に筋力トレーニング）の実際について、各種の器具を用いて実施する。また、学校教育におけるスポーツ指導の観点から、指導者の視点に立って体力測定の方法などの課題についても、解説を行う。

めの前提条件とする。器具を使用したトレーニング実習のため、安全への配慮から、授業の導入部は非常に重要であり、原則的に遅刻は、認めない。

成績の評価基準

出席 50%

各種レポート課題の提出 30%

その他総合評価 20%

#### 【講義内容】

体力の構成要素である形態と機能について、それぞれの構成要素それぞれについて正しい測定方法を学習し、実践を行い、体力測定と記録、評価法の実際について整理する。特に、器具を使用したトレーニング（筋力トレーニングや心肺機能のトレーニング）について重点的に実技、実習を行う。計測したDATAに基づいて受講生同士での検討や議論も行う予定である。

- ・ 体力測定の意義
- ・ 筋力トレーニング（静的・動的レジスタンストレーニング）の実際
- ・ フリーウェイトを用いた測定法と注意点
- ・ 正しいリフティング技術の習得
- ・ スポーツ医科学と器具を用いたトレーニング方法への応用など
- ・ 持続的トレーニングの評価法と実際
- ・ フィットネステストの紹介と実践
- ・ 対象者に応じた各種フィットネステストと様々なトレーニング
- ・ 高齢者に対する（特に、転倒（介護）予防）評価とトレーニング
- ・ 中高年（特に、運動療法が必要となる）に対する評価とトレーニング
- ・ 女性に対するフィットネス評価とトレーニング

#### 【履修のポイント・注意点】

受講する学生は、トレーニング実習Ⅰの単位を取得済み、あるいは、トレーニング論の単位習得度の履修が望ましい。安全への配慮から、上履きはなど、トレーニングに適切な服装での参加が必要である。

#### 【教 材】

特別に、教科書等は指定しない。必要に応じて資料を配布する。

個人の発表などの場合、視聴覚機材を使って、プレゼンテーションを行うこともある。

#### 【成績評価の方法・基準】

全体の2/3以上の出席（授業の参加）が、期末試験やレポート提出により成績を評価するた

科目名	スポーツ医学Ⅱ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	齊藤武利・廣瀬文彦		

**【講義目的】**

スポーツに関わる人にとって必要な外科的知識について学ぶ。外傷に行う救急処置やスポーツがリハビリにどのように用いられるかについて学んでいく。

**【講義内容】**

- 1、スポーツ医学と競技スポーツ
- 2、学校教育、体育活動としてのスポーツ指導者とスポーツ医学のかかわり
- 3、スポーツ外傷、障害の実体
  - ・外傷予防策
  - ・子どものスポーツ外傷
  - ・肩のスポーツ外傷
  - ・肘のスポーツ外傷
  - ・手のスポーツ外傷
  - ・腰のスポーツ外傷
  - ・膝のスポーツ外傷
  - ・下肢のスポーツ外傷
  - ・上肢の外科的傷害
  - ・下肢の外科的傷害
  - ・脊椎の外科的傷害
- 4、子どものスポーツ外傷、スポーツ障害
- 5、高齢者のスポーツ外傷、スポーツ障害
- 6、障害者スポーツとスポーツ医学との関連性について
- 7、アスレティックリハビリテーションとメディカルリハビリテーション
- 8、骨疾患（骨粗鬆症・etc）とスポーツ
- 9、スポーツ事故と安全対策
- 10、わが国の競技スポーツとドーピングの現状について
- 11、運動処方の実際とスポーツ医学について
- 12、スポーツ医学に関わる様々な職業（トレーナー）等について

**【講義のすすめ方】**

今年度は、柔道整復師である非常勤講師と2名体制で授業を進める。実践的処置を学ぶため施設見学なども予定している。

**【教 材】**

副読本として、健康運動指導士養成講習会テキスト（上）（下）

**【成績評価の方法・基準】**

出席、授業中の課題と定期試験。

**【履修のポイント・注意点】**

来年度以降、スポーツ医学Ⅱは、開講しない。

**【科目内容の位置付け】**

将来スポーツに関わる仕事につく場合、リハビリ、看護などの仕事に関わる人にとって役に立つ知識となるはずです。

**【前提・関連科目（科目間関連の内容）】**

スポーツ医学Ⅰ、スポーツリハビリテーション論とあわせて履修するとより理解が深まる。

科目名	造形文化論		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	飯田 昌平		

### 【講義目的】

家や庭、壺や器、橋や船、ピラミッドや寺院など自然界には存在しない形を作り出すことによって、人類は生活を豊かに美的に楽しむ知識や技術を獲得してきました。その創造活動を体験することにより、美的体験を豊かにし、表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに、生活をより楽しく、より美しく、より豊かにするために工夫する態度を育て、造形文化を大切にすることを養うことを主な講義目的とします。

### 【講義内容】

「形」とか「形式」がなぜ生まれ、どのようにして伝達されてきたか、また、人間は形にないを求め、どんな形を大切にしてきたかなどを知るために、文化史、美術史に現れる造形物（ピラミッド、聖堂、神社仏閣、壺、彫刻など）を例に挙げ、次のような事柄を検討してゆきます。

原始社会の造形・古代エジプトの造形・古代ギリシャの造形・中世の造形・日本の造形など

### 【講義のすすめ方】

具体的な物から次のような抽象的な概念を理解するために、図を描いたり、折り紙などを使用していきます。

1. 形の持つ意味・象徴性
2. シンメトリー
3. 黄金比とはなにか
4. 多面体
5. 美的形式原理

### 【教 材】

画用紙・折り紙・ハサミ・ノリ・色鉛筆・定規・コンパスなど。

### 【成績評価の方法・基準】

出席状況・授業中の課題に取り組む態度・授業内の小レポート・期末に提出するレポートなどを参考にして総合的に評価します。

### 【履修のポイント・注意点】

授業の最初にその日の講義の要点を述べる人が多いので、遅刻しないこと。各授業は関連性

があるので欠席しないこと。折り紙・ハサミ・ノリなどを忘れないで持ってくること。

### 【科目内容の位置付け】

文化史、美術史は高校程度。それらの知識をもととして深く考える習慣を身に付けてほしい。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

関連科目としては分化史・美術史・哲学・美学など。

科目名	児童文学		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	横田 順子		

#### 【講義目的】

児童文学におけるさまざまなジャンルの作品を取り上げ、各作品の特徴を分析することにより、児童文学の独自性とは何かを考える。今年には特に「教育性と娯楽性」をテーマに、作品のなかで二つの性質がいかなる役割を果たしているかを理解したい。

#### 【講義内容】

主に扱う作品は以下の通り。

- 1、紹介授業
- 2、イソップ寓話
- 3、ロアルド・ダール『マチルダはちいさな天才』
- 4、ハインリヒ・ホフマン『もじゃもじゃペーター』
- 5、いとうひろし『おさるのまいにち』『おさるはおさる』
- 6、ピアトリクス・ポター『ピーター・ラビットのおはなし』
- 7、トーベ・ヤンソン「ムーミン」シリーズ
- 8、大石真『チョコレート戦争』
- 9、那須正幹『六年目のクラス会』

#### 【講義のすすめ方】

作者・作品解説と作品講読（抜粋）によって講義形式で行う。映像なども用い、理解を深めたい。

#### 【教 材】

随時、プリントを配布する。

#### 【成績評価の方法・基準】

テスト（前期試験期間に行う）と出席状況により、評価する。

#### 【履修のポイント・注意点】

遅刻、授業中の私語、携帯電話の使用などは厳禁。授業妨害がはなはだしい場合には、退出させる。マナーを守って、楽しく実りある授業にしたい。

科目名	おもちゃ論		
	—— 科学的、歴史的視点からの接近 ——		
単位	2	開設	半期
教員名	中谷 陽子		

### 【講義目的】

\*注：幼児保育のためのおもちゃ研究だと捉えないでほしい。

遊びは地球上の地域・人々の年齢・時代を問わない大切な人間の精神・身体の活動である。

次の各分野に視野を広げて、意欲的に人間の遊びとその媒体を果たしてきた「おもちゃ」について学ぶことを目指している。

- ①歴史性：人類の知の歴史を遊びやおもちゃの中に発見する
- ②文化性：自ら地球市民の感覚で遊びを考察
- ③伝承性：遊びは重要な伝承文化の一分野
- ④自然性：自然が育む豊かな遊びの再発見

### 【講義内容】

- (1) 遊びは精神の開放をもたらすものであるから、将来幼児・児童・生徒の教育現場で活躍を期する学生にとっては価値や効用の高い活動であることを認識する。
- (2) 現在のせつなな・狭義的なおもちゃへの認識を一掃して、おもちゃ文化論の視点から、改めて納得のいく「定義づけ」に挑戦する。
- (3) 本来「遊び」は広く充実した内容を持つ人間の営みであり、「遊び」は創意工夫の実験の場であり、知恵の貯蔵庫でもあることを実証する。
- (4) 多くの遊びを検証・体験し、「遊び」を媒体にした地球上の人びとの交わりの世界には境界線がないことを実感する（グローバルな視点から）。

### 【講義のすすめ方】

講義は、講義内容に示される4つのポイントを検証しながら、次のように進める：

- ① 受講生の持つ遊びやおもちゃに対する意識はかなりバラバラだと想定されるので、それを把握する作業からはじめる。
- ② とにかくたつぷりとおもちゃ（主に中谷コレクションから）に接して、おもちゃの4分野（歴史性、文化性、伝承性、自然性）を確認し、そこからあらためて「おもちゃや遊びの定義づけ」を皆で行う。
- ③ 恐らく受講生の既知の範囲を超える遊び

やおもちゃの世界との出会いがあると思われる。それらを遊び・体験することによって、より広い遊びの魅力を味わって欲しい。

- ④ 遊びやおもちゃに国境のない世界が存在することを改めて知ってほしい。
- ⑤ まとめとして、遊びの概念を体験、聞き取り、資料分析などから研究する。

### 【教材】

第一の教材は、おもちゃそのもの。

次いで、資料、参考書。

聞き取り調査による資料が得られれば、望外の喜びである。

### 【成績評価の方法・基準】

遊びに真剣に取り組まない学生は、学期の途中でも「不可」評価することがある。

出席状況にとどまらず、おもちゃ研究に消極的な学生には、学期途中での退席（放棄）を求める。

### 【履修のポイント・注意点】

「授業活動のし易い教室」の関係から、受講生の人数制限を行なう可能性があるため、履修時には情報チェックをして欲しい。

### 【科目内容の位置付け】

学生の自主的研究態度と、遊びを堪能し、時にはおもちゃを作成することの出来る次元の高い営みの出来る人物を期待する。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

特になし。

科目名	救急法		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	鈴木 正之		

〔講義目的〕

1. 心肺蘇生法と簡単な救急処置を理解し実施できる。
2. 救急医療の成り立ち（傷病者の発生から病院での治療まで）を理解し、かかわりのある職種の役割を述べるができる。
3. 現在の救急医療のさまざまな問題点を理解できる。
4. 大学のある小山地区の救急医療の向上を通して、安全で暮らしやすい社会を作ることにつながる。

〔講義内容〕

第1回 インTRODクション 救急とは、救急医療とは

全体の講義内容を概括します。市民参加型の救急医療と、現在日本全国で起こっている救急搬送拒否の問題を取り上げて、INTRODUCTIONにしたいと思います。

第2回 心肺蘇生法の基礎

心肺蘇生法をもう一度復習します。今まで習ってきた心肺蘇生法を思い出してもらい、最新の心肺蘇生法との違いを指摘することができるのが目標です。

第3回 心肺蘇生法の理論

心肺蘇生法を理論的に解析します。なぜ胸を押すのか、なぜ100回/分なのかなど、またなぜ蘇生法が更新されたのかなど、について理論武装します。

第4回 電気ショックとは

心肺蘇生法の目玉の一つである電気ショックは、一般市民の人が行うことのできる医療行為です。どうして医師でないのにやってもいいのか、その理論と実際はなどについて学習します。

第5回 小児に特有な救急疾患とその処置1 (内因性)

小児に関わる職種を目指す方も多いと思いますので、小児の心肺蘇生法、小児が多くかかる救急疾患について、簡単な処置法や病院のかかり方についてまとめる予定です。

第6回 小児に特有な救急疾患とその処置2 (外因性)

小児の死亡率の1位を占める不慮の事故への対策、簡単な処置法、救急車の呼び方な

ど、外因性疾患についてまとめる予定です。

第7回 救急医療体制、メディカルコントロール体制、消防機関、救急車、救急救命士の役割

救急医療というものが、医師や救急車だけで成り立っているのではないことを理解し、現場から病院までの医療体制やそれに関わる職種の役割について勉強します。

第8回 救急における看護の役割 (自治医大看護学部)

救急医療において、看護師はどのような役割を果たしているのか、看護とは何かについて、現職の看護師から、直接お話を伺ってディスカッションをしたいと思います。

第9回 救急救命士とは、予防救急とは (鹿沼消防署)

現職の救急救命士の方とディスカッションをしながら、さまざまな医療関連職種のつながりとそれぞれの役割について理解を深めます。また、予防救急の概念についても勉強します。

第10回 有害動植物に関する救急処置 (救急救命東京研修所)

救急医療の中の特殊分野である、有害動植物や、中毒などについて、専門家から話を聞く機会を作りたいと思います。

第11回 救急処置1

成人の救急処置 (内因性) を勉強するとともに、蘇生法を復習します。

第12回 救急処置2

成人の救急処置 (外因性) を勉強します。副子固定や三角巾の使い方についても勉強する予定です。

第13回 普通救命講習1 (小山消防署)

第14回 普通救命講習2 (小山消防署)

2回連続で、大学の地域の消防署である小山消防本部の協力で、普通救命講習を受講します。救命講習の試験に合格して受講証を入手することが、この科目の合格のための必須条件です。

第15回 評価 (テスト)

最終テストを行って評価します。

なお、講師の都合で、講義内容が前後することがあります。

### 〔講義のすすめ方〕

講義目的と講義内容に沿って、実習を多く組み込みながら、救急医療とはどのようなものかが理解できるようにするつもりです。そのなかで、救急医療のさまざまな問題点を提示し、救急医療とは「病気になったら病院に行って直してもらおう」という単純なものではなく、予防からアフタケアまで、現場から病院まで、さらにそれらがスムーズに連携するためのシステム作り、などいろいろな視点から解決を図る必要がある、ということを理解できるように、ディスカッションをしながら、講義を進めたいと思っています。

また、外部講師を多く依頼して、実際に現場で活躍している人たちの話をお聞きして、議論が深められるようにするつもりです。

### 〔教 材〕

特に指定しませんが、最近の新聞には目を通して、救急医療の問題が指摘されていることを理解するように努めてください。

### 〔成績評価の方法・基準〕

テスト（学期末）60%

出席 40%

かつ、普通救命講習に合格すること。

### 〔履修のポイント・注意点〕

実習の場合は積極的に参加すること。

講義の場合はディスカッションに積極的に参加すること。

### 〔科目内容の位置付け〕

最低限必要な予備知識

新聞などのマスコミの情報に常に接していることと、それを正しく理解し必要に応じて自分の意見を言うことができる態度を身につけていること。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

救急処置を理解していることは、将来出会うであろう緊急の場面で落ち着いて行動できるようになることが期待できる。また、救急医療の問題点を理解していることは、救急医療を賢く利用する国民となることが期待でき、教職などを目指す人たちに有用であると考えられる。

科目名	レクリエーション実技		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	藤井 和彦		

### 【講義目的】

多様なレクリエーション活動の展開のために必要な実践技能を身につけることをねらいとする。

対象者の中にある「楽しさ」や「喜び」を最大限に引き出す活動を展開するということを常に意識しつつ、その為の計画の作成から実践、評価までを実習・演習形式で体験する。まずは与えられた時間条件の中で、「レクリエーション支援者」として立ち振る舞えることを目標に各種活動に挑戦する。より高度な到達目標としては対象者の特性に応じて、工夫されたオリジナリティあふれる支援計画を作成できるようにすることを目指す。

実技科目ではあるが、授業は必要に応じて教室での支援案作成なども織りまぜながらグループ活動を中心に進めていく。

### 【講義内容】

- ①アイスブレイキング(1)緊張を解きほぐすゲーム
  - ②アイスブレイキング(2) 出会いのゲーム
  - ③イニシアティブ・ゲーム(1) 協力と課題解決のゲーム
  - ④活動的なゲームから軽運動・屋外運動へ
  - ⑤ニュー・スポーツ(リングテニス他)
  - ⑥チャレンジ・ザ・ゲーム(1)
  - ⑦チャレンジ・ザ・ゲーム(2)
  - ⑧イニシアティブ・ゲーム(2) 発展編
  - ⑨レクリエーションプログラムの企画と運営
  - ⑩グループ発表(1)
  - ⑪グループ発表(2)
  - ⑫グループ発表(3)
  - ⑬グループ発表(4)
  - ⑭グループ発表の振り返り
  - ⑮まとめとレポート課題発表
- ※上記の内容を中心に構成するが時間(時限)の配分は適宜調整しながら進める。

### 【講義のすすめ方】

実技を中心とするが必要に応じて教室での解説や支援計画作成・グループ討議などの時間をとる。特に後半からまとめにかけては、実際のレクリエーション活動のシミュレーションとして、自分たちで場の設定、プログラムの考案、

進行ができるような形を目指す。適宜実技の感想やレポート課題を課す。

### 【教 材】

グループワークやゲーム集などの書籍を適宜紹介する。

### 【成績評価の方法・基準】

期末のレポート課題、学期中の感想やレポート提出数回。

成績評価は期末のレポート得点(50%) + 出席点(20%) + 日常的な授業への参加姿勢(30%)を勘案して総合的に判定する。日常的な授業への参加姿勢は、学期中に適宜課す感想やレポートの提出も含む。

期末レポートは、レクリエーション実技に関する論述2題程度と支援プログラム作成等の内容で考えている。

### 【履修のポイント・注意点】

この科目を履修する者は、レクリエーション・インストラクター資格取得の申請を行う者であることを原則と考えている。その意味では科目名は「実技」であるが、各々の自発的・自律的取り組みが非常に重要であり演習・実習的な科目と捉えても差し支えない。このことを理解した上で、その自覚を持って授業に臨んでいただきたい。

履修年次は2年次を標準と考えている。

### 【科目内容の位置付け】

レクリエーション実技の初級編であるが、唯一の科目であり、レクリエーション・インストラクター資格取得希望者は必修。

### 【前提・関連科目(科目間関連の内容)】

レクリエーション理論

科目名	レクリエーション実習		
単 位	1	開 設	集中
教 員 名	藤井 和彦		

#### 【講義目的】

レクリエーション実習はレクリエーション・インストラクター資格取得のために開設されている科目であり、レクリエーション理論及び実技の学習を踏まえて、実際にレクリエーション活動が現場でどの様に展開されているのかを体験学習することをねらいとしている。在学中3回の事業参加とあわせて、資格取得のために必要な実習単位を満たすためのものであり、以下の全てに該当する学生のみを開講する。

- ①レクリエーション・インストラクター資格取得の申請を行っている者
  - ②レクリエーション理論及びレクリエーション実技の単位を取得している者（合計3単位以上）
  - ③教育実習（幼稚園・小学校・中学校・高等学校のいずれかひとつ）、保育実習、介護実習を行う予定のない者
- 特に③に関して、在学中に何らかの実習の予定がある場合は、その実習をもってレクリエーション実習の単位と置き換えることができるため、改めてこの実習を履修する必要はない。

#### 【講義内容】

レクリエーション実習は原則として各個人単位で行うこととする。履修人数にあわせて、実習先・実習対象事業を適宜インフォメーションしていく。また、個人的に実習受け入れ先を確保できる場合（例えば母校の高校のキャンプ実習に同行できるなど）は、そこでの実習も認める。

レクリエーション実習として認定される主な条件は以下の通りである。

- ①大学組織とは別の外部組織で行う実習であり、実習担当者が存在すること。
- ②参加者や施設の利用者などとのコミュニケーションをとる場面が設定されていること。
- ③1日8時間程度を原則として3日間以上の期間であること。

特に③に関しては、総時間数を満たせば、より細分化された実習参加（例えば半日の参加を6日間など）も可とする。具体的な実習先としては、幼稚園や学校等教育機関の実施するキャンプ等の校外学習へ補助員として参加する、社会福祉協議会や福祉施設でのボランティア

活動、公共スポーツ施設等における職場体験、YMCA等の民間団体の主催するキャンプやスキー教室等の短期プログラムへのリーダー参加、地域のスポーツクラブやサークルの運営支援等が考えられる。

#### 【講義のすすめ方】

前期の早い段階でオリエンテーションを実施するので掲示連絡等に注意しておくこと。実習先の開拓から実習決定、実習の実施、事後のふり返し等の手順を説明する。

#### 【教 材】

その都度手順を示す資料を配付し、それを中心に進めていく。

#### 【成績評価の方法・基準】

実習に対する自己評価を含めた事前・事後のレポート（実習記録）にて評価する。

#### 【履修のポイント・注意点】

上記の履修条件等をよく確認すること。不明な点がある場合は個別の相談に応じるので担当教員まで質問すること。

#### 【科目内容の位置付け】

上記の通り

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

レクリエーション理論 レクリエーション実技

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	竹島 克己		

### 〔講義目的〕

本課題研究では陸上競技の各種目に関する研究、トレーニングに関する研究を行う。

陸上競技の種目は短距離走、中距離走、長距離走、障害走、跳躍、投てきなど多用なものがある。その一つひとつの種目に必要な技術、体力は全て異なっている。例えば200m走ではスタート、コーナー走、中間走、フィニッシュなど様々な側面がある。より良い記録を出すために様々な研究が成されている。体力面ばかりでなく、心理的な側面も重要である。栄養にも注意をはらわなければ十分な効果を得る事はできない。練習にはケガが付きものであるから、効果的で安全な練習方法も考えていかなければならない。また、競技力の優秀な者と劣る者の比較によって、その能力の違い、練習方法の違いを探ることもできる。

トレーニングにも様々なものがある。目的の違いによって強化方法は違う。どのような対象にどのようなトレーニングが成されるべきか、私達体育人は興味があるところです。

スポーツ科学の分野でどのようなことが研究課題とされているのか、まず知る事から始めたい。

### 〔講義のすすめ方〕

自分の興味のある分野の資料を収集することから始める。参考文献を集める事から始め、関連する先行研究文献を集めそれぞれの目指す方向を探っていきたい。新聞、雑誌、インターネットなどからも資料を集め読んでいきたい。

### 〔成績評価の方法・基準〕

参加度50%、レポート内容50%で評価する。

### 〔履修のポイント・注意点〕

それぞれの今までのスポーツ経験、知識を伝え合う。未経験の者には新しい知識である。新しく知り得た知識を発表する場を設ける。自分の経験と新しい知識をくみ合わせ、更に深い意味を見出す。興味ある文献を多く読んでいきつつ、授業を受ける者どうし勉強していききたい。

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	中谷 陽子		

#### 〔講義目的〕

1. はじめて「研究的な姿勢で学ぶ」ことを獲得してほしい。(研究的姿勢)
2. 入学以来講義中心の「受身的学び」を体験してきた学生には、自分の関心事に気づき、課題を持つことことが大切であり、生涯学習の基礎になると考える。(研究課題の発見)
3. この課題研究グループでは、受講生がバラバラに課題探しをするのではなく、ある共通点を互いに持つ仲間が集まって、協議したり知恵を出し合って進歩する研究構成で進む。(協調性と協議する力)
4. はじめは小さな研究課題であっても、一年間追求し続けることで、力のある学生は4年生に「卒業論文」への挑戦の可能性が持てることを励みに、努力する。(研究心を育てる)

#### 〔講義内容〕

1. 平成20年度に課題傾向として「軽度発達障害児童に向けた遊び材の教材化」である。
2. 遊び材を学校教育における教材に「科学的視点」から重ねて考えるという、比較的新しい方向についてしり、まずは学生自身の考え方の確率をはかる。
3. 2のためには、徹底的に遊びやおもちゃに精通することである。
4. 教育現場での取り組みの資料分析などを通して、課題意識を深める。
5. 各自自分の取り組みや創意など、研究活動のすべてを正確に文章化できるよう、実力を高めるトレーニングを重視する。

#### 〔講義のすすめ方〕

一年間のゼミ研究をすすめるにあたり、受講生には次の資質と努力をもとめる：

- ① まず、自立した若者としての生き方をたくましく示して欲しい。
- ② 自分の意見を持つことに喜びを感じて欲しい。
- ③ 同じゼミの研究仲間と協力し、目標に挑戦する充実感を持ちたいと自らに問い掛けてほしい。
- ④ 学究的にハングリーな若者であってほし

い。

以上の資質が皆の中に確かに育っていくように、そのために毎週のゼミの時間には、<講義概要>の切り口を皆で円卓を囲みながら活発に取り上げて勉強していきたい。

#### 〔教 材〕

教科書はない。

研究の課題に相応しい教材(書籍、資料など)を皆で探すことも研究の基礎とし、教員からは役立つ情報をこまめに提供する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

- ・少数で、自主的な研究活動中心のゼミスタイルでは、授業予定がずれる事もある。
- ・全体的に出席状況は学生の参加意欲を表現するものと受け止めるので、事前の断りや事後の報告など、出欠は連絡を密にしながらチェックする。
- ・真剣に取り組まない学生は、学期の途中でも「不可」評価することがある。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

- ・原則として、「ゼロ免」の学生の履修は遠慮してもらいたい。
- ・小学校教員免許希望者には、よい勉強の機会になると思われる。学生間で励まし、情報交換をして、各自の目的に向かって努力してほしい。
- ・担当教員として、学生の上記の目的実現には積極的に応援をしていく。

#### 〔科目内容の位置付け〕

- ・前期の科目の位置付けは、研究課題を学生自らが探し、研究方法を学び、自らの関心に触れるような研究を進める面白さを学び取ってほしい。
- ・そして、後期課題研究Bに引き継がせていくことである。

#### 〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

- ・原則として、課題研究A・Bを連続して履修すること。したがって、後期からの履修は考えていないし、年度の中間に欠員募集することもない。

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	荒井 冽		

#### 〔講義目的〕

世界的に著名なエレン・ケイ (Ellen Key) の『児童の世紀』(1900年)を、子育てをする親の立場に立って読み解くこととします。

この本の献辞は、「すべての親に 新しい世紀に新しい人間を創ろうと願う、すべての親に捧げる」となっています。

すなわち、『児童の世紀』は、子どもを育てる親に向けてという姿勢で執筆されたことがわかります。

このような本が、なぜ世界的に著名なものとなったのでしょうか。

エレン・ケイが主張する子育てについてのフィロソフィーとは、一体どのようなものなのでしょうか。

親としての、あるいは人間としての、子育てについて『児童の世紀』に描かれた根本理念を追求していくことにしましょう。

#### 〔講義内容〕

エレン・ケイが述べている、次のようなポイントを軸にして理解を深めていきます。

- ・ 子どもの親を選ぶ権利
- ・ 親子にとっての家庭
- ・ 家庭を成立させる結婚
- ・ 結婚の前提としての恋愛
- ・ 世代間に生ずる問題

#### 〔講義のすすめ方〕

テキストを、講義内容のポイントに沿いながら、ていねいに、深く読み込んでいくようにします。

特に、子育てというテーマに、常にフォーカスを合わせていくことにします。

#### 〔教 材〕

テキスト：荒井 冽著『エレン・ケイ 保育への夢 「児童の世紀」へのお誘い 』  
フレーベル館

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席を重視します。

必要に応じて提出してもらったレポートを評価します。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

大勢での講義に参加するのではない、このような貴重な学習の機会を大切に、熱心に勉強してください。

#### 〔科目内容の位置付け〕

幼児保育について学んできたさまざまな教科目を貫く力強いフィロソフィーとして、この科目を認識してください。

#### 〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

課題研究Bは、課題研究Aに引き続いた形で、より味わい深く学習します。

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	荒井 弘高		

#### 【講義目的】

「音楽の魅力とは」をテーマに歌唱を中心とした表現活動研究を行い、同時に自分自身の音楽的素養を高めることを目的とする。

具体的には、わらべうた・童謡・現代のこどものうたなどを主な教材とし、その中から幼稚園・保育所及び小学校などの現場で使用するであろう「うた」をピックアップ、その「うた」のつくられた時代背景・ルーツ・作曲家・作詞家・歌詞の内容および伴奏法・歌唱表現法などから、学生自身が課題を設定し、研究を行なうこととする。

#### 【講義内容】

歌唱を中心に、主に現場においてどんな教材が使用されているかを調査し、文献・楽譜等を参考にしながら自分自身の課題を見つけ、研究を行なう。

#### 【講義のすすめ方】

学生が主体となり、自ら計画を立て、課題を決定する。これらに基づき指導を行う。

#### 【教 材】

必要に応じて指示する。

#### 【成績評価の方法・基準】

課題研究の取組状況、内容等により評価する。

#### 【履修のポイント・注意点】

研究内容に対しての準備を積極的に行うこと。

#### 【科目内容の位置付け】

音楽研究活動および卒業研究のための基礎研究の場としたい。

A・B継続して履修すること。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

ソルフェージュ

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	伊崎 純子		

#### 〔講義目的〕

核家族化、少子化、地域社会の変化などに伴い、子育てを巡る環境は年々厳しくなり、子育てをどう支援するかという社会的なニーズはますます高まっているといわれる。それを実証するように、本科目の担当者も臨床場面において、親の側では地域での孤立、子育てへの不安、そして虐待、子どもの側では（軽度）発達障害等といったさまざまな相談に、臨床心理士として関わってほしいという要請が増えたと実感している。

日本臨床心理学会や各都道府県の臨床心理士会では数年前から「子育て支援」をどうすすめるかといった具体的な対応の検討を行い、情報の交換を行っている。このような社会情勢に対応した研究を行いたいと思う。

#### 〔講義内容〕

課題研究Aでは、地域子育て支援を必要とする対象者の心理について研究する。対象者理解を深めるために、不妊治療の最前線、育児中の親子支援、兄弟児、祖父母との関係など多角的な視点から丁寧に文献を精読していきたい。また、既に教員の方へ軽度障害児を育てる家族よりサポートの要請もきているので、具体的に軽度障害児とその親に支援対象を絞り、先行研究を調べ、課外には実態調査やボランティアとして直接支援を試みる。

#### 〔講義のすすめ方〕

オリエンテーション時に提示する先行研究より、各々関心のあるテーマの文献を担当し、レジュメを作成してその内容を紹介する。その発表をもとにディスカッションを行う。その他に課外活動の参加を求められることがある。

（例）小山こども発達支援センター「リズム園」での勉強会や行事への参加  
とちぎYMCA主催の障害児対象のボランティア活動への企画・参加

#### 〔教 材〕

適宜指示する

#### 〔成績評価の方法・基準〕

授業への参加態度を重視する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

対社会的な活動も行うので、常識ある態度を踏まえること。失敗を恐れず果敢にチャレンジしてみる。今回は、フィールドの用意があるために障害児とその親を中心としたテーマを掲げている。しかしながら本来の地域子育て支援は、障害児に限らず全ての子育て世帯を対象とするものである。従って、学生自身が目的をもって他の「子育て支援」や「親子関係」に関わる課題に取り組む意思をもつ場合は、その支援を惜しまない。

#### 〔科目内容の位置付け〕

「認定心理士」資格申請では、「領域Ⅰ・その他の科目」（心理学関連科目）に区分される科目である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

心理学関連科目全般ならびに「家庭支援論」を学習しておくことよい。

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	岩城 淳子		

**〔講義目的〕**

本科目の目的は、保育・健康に関する領域から子どもに関する課題を発見し、それを深め解決していくというプロセスを学ぶことである。

**〔講義内容〕**

課題研究Aでは、まず保育・健康を理解する基礎力を養成するために、文献を輪読する。それを通してレジユメの作成、プレゼンテーションの方法などを学ぶ。また関連資料の収集から健康問題の背景や原因を探る。

**〔講義のすすめ方〕**

演習形式で、各自の発表、全体討論を中心とする。

**〔教 材〕**

未 定

**〔成績評価の方法・基準〕**

課題へのアプローチ、レジユメの内容、ディスカッションへの参加状況などで総合的に評価する。

**〔履修のポイント・注意点〕**

2008年度は、これまでの食育に続き“生活リズムの向上”が行政からのメインテーマになると思われる。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

課題研究B 保育内容研究（健康）保育内容演習（健康）

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	奥澤 信行		

### 【講義目的】

小学校の社会科学習では、地理的分野の比率が高く、中でも総合的な学習との関わりで、地域学習が重視されている。居住地や通学区の地理的事象を客観的に把握し、その成立要因を探求するという地理学における基本的な姿勢は、面的スケールを拡大することによって、市町村・都道府県・国家・世界各国の状況を理解する際にも有効である。

それでは地域の実態を把握する際に、人々のどのような活動に着目しているのだろうか。1980年代までは農業や工業などの生産活動に主眼を置いた学習が中心であった。しかし現在は消費の面からみた商業活動や、情報技術に関する事項に重点が置かれ、まさにわが国の産業構造の変容を理解させる内容となっている。そしてこれらの活動の舞台である都市の姿を正しく理解することが不可欠となっている。

本講では、都市における経済活動の実態を把握することで「地域の見方」を指導するとともに、「課題研究B」で予定している地域調査の概略にも言及する。

### 【講義内容】

都市における経済活動（特に商業における消費行動）について説明する。また地域調査の基礎的事項にも触れる。

### 【講義のすすめ方】

少人数のゼミナール形式であるため、文献講読については、各自が担当箇所のレジュメを作成し、関連事項の検索結果とともにその内容を発表する。地域調査法に関しては、講義形式で行う。

### 【教 材】

『流通空間の再構築』 荒井良雄・菅本健二編 古今書院

### 【成績評価の方法・基準】

出席状況と担当箇所の発表内容、さらに授業中の発言などを総合して評価する。

### 【履修のポイント・注意点】

最近の学生は、無駄なお喋りには大声を張

り上げるが、肝心の授業となると自分の意見も満足に言えず、発言しても蚊の鳴くような声である。必要なことをきちんと明瞭な声で発言できないのは、とりわけ教員を目指す人にとっては致命的なことといえる。もし受講生諸君がこのように小声で発言しているのであれば、この授業によってそのような態度を改めてもらいたい。この科目はゼミ形式であるので、それが可能なのである。そして自信ある発言ができるためには、授業で扱う内容だけでなく世の中の出来事に常に関心を払い、自分なりの考えをまとめる訓練をすることが大切である。活気あるゼミとするために、物事に積極的に取り組む姿勢を見せてもらいたい。

さてゼミ形式の授業は大学生活の中核をなすものである。教職であれ、民間企業であれ、就職に際してゼミで何を学んできたかが問われるのは常識である。それは学問に関することだけでなく、そこで培われた教員とゼミ生、またゼミ生同士の人間関係こそが、就職のときに重要な意味を持つことによる。したがってゼミの行事には積極的に参加し、有意義な学生生活を送ってほしい。

### 【科目内容の位置付け】

高校で「地理」を履修していなくても問題ない。地理的な物の見方の基本から指導したい。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

本講では人文地理に関する内容が主となるので、自然地理についても扱う「地理学A・B」を履修することを希望する。また「課題研究B」も継続科目として履修しなければならない。

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	粕谷 圭司		

#### 〔講義目的〕

私たちの身の回りには、絵画や彫刻など、所謂美術と呼ばれている造形が多数存在する。造形は人間だけが発展させてきた活動であり、それは、宗教的思いや、人間のからだの美しさを表現しようとしたり、悲しみや喜びの気持や考えを表わし伝える手段としての造形である。

当講座においては、造形活動を通して、物の色や形、材質について研究し、新たな形態を創り出すことを目的としたい。

#### 〔講義内容〕

立体の分野における「おもちゃ」について研究を進めていく。

- ・ 文献資料の検索
- ・ 材質の研究
- ・ 形態の研究

#### 〔講義のすすめ方〕

3、4名のグループ別に制作研究をする。

グループ別にテーマを決定し進める。

#### 〔教 材〕

テーマ別に費用を徴収する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

作品提出

出席 20%

点数 80%

#### 〔履修のポイント・注意点〕

グループ毎の十分なディスカッションが必要であり、実技中心の講座であるので積極的参加、取り組む姿勢が望まれる。A、B通年を履修すること。

#### 〔科目内容の位置付け〕

主に実践的内容であるが広い知識が必要となる。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

造形、造形教材研究

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	川瀬 善美		

**【講義目的】**

社会福祉に従事する職員は、社会福祉施策の拡充に伴って急速に増加しています。

社会福祉事業を提供する組織は、社会福祉施設、社会福祉機関、社会福祉協議会、その他非営利の民間団体ですが、全体の8割の職員が社会福祉施設で働いています。1989年にゴールドプランが策定されて以来、その施策の進展に伴って老人福祉施設が増加し、また職員配置基準の改善が行われたことによって、施設で働く職員が増加しました。

さらに2000年に介護保険法が実施され、営利の民間団体が指定事業者としてサービスに参入するようになり、福祉労働は、多様化しています。またこれらの職員の中には、社会福祉を専門とする職種以外の職員が含まれており、ともに利用者へのサービスを行っています。そこで今年度は、社会福祉従事者とは何かについて考えたいと思います。

**【講義内容】**

社会福祉従事者に必要な免許資格について洗い出し、その労働実態について調査研究を行います。

**【講義のすすめ方】**

- 4-5月 社会福祉従事者に求められる免許資格について文献研究
- 6-7月 社会福祉従事者の労働実態に関するアンケート調査
- 7-8月 社会福祉施設の職員の労働実態に関する訪問調査

**【教 材】**

必要なものについては適時指示をします。

**【成績評価の方法・基準】**

出席状況と毎回与える課題等についての発表状況及びレポートにより評価を行う。

**【履修のポイント・注意点】**

調査等を主体的に行うよう心がける事。

**【科目内容の位置付け】**

課題研究Aは、指導教員と履修学生が共同で行

う調査研究である事と充分認識し、主体的に研究に臨むことをのぞみます。

**【前提・関連科目（科目間関連の内容）】**

課題研究Bとあわせて履修すること。

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	小久保 裕		

#### 〔講義目的〕

今日、急速な科学技術の進展に反比例するかのよう、現代人における想像力や思考力の貧困、さらには環境汚染に象徴されるような心の荒廃が進みつつある。多くの子ども達もまた、生きる目的や学ぶ意欲を喪失し、心暖まる人間関係を結べないでいる。

こうした子ども達にとって、豊かな実体験や自由な創造的表現活動は必須のものであり、学校教育においてもさらなる充実が求められよう。とりわけ絵を描き、ものを作るなど、手を使い、せいっぱい五感を働かせた造形表現活動は、みずみずしい人間的感性や想像力を目覚めさせ、他者への共感や感動を分かち合う心を育てるであろう。

ここでは、自主的な課題製作を中心に、子どもの描画指導の実践も含めて、より専門的な技能と指導力の習得をめざしたい。

#### 〔講義内容〕

以下のテーマを選択し、自主製作、研究を行う。

1. 絵画実技（油絵、アクリル、水彩）
2. 創作絵本
3. 紙芝居などミニ・シアター
4. 自然物からの造形
5. 美術館鑑賞

#### 〔講義のすすめ方〕

選択したテーマに沿って、個人あるいはグループで、ディスカッションを交え制作研究を行う。

#### 〔教 材〕

テキストは使用せず、プリント等配布する。  
画材については適宜指示する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

提出作品、レポート等による。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

実技中心の授業であるから自主的に取り組み、各自納得するまで制作、研究を行ってほしい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

ひとつのテーマの中から独自の形や色、技法を生み出すには充分時間が必要であり、課題研究A、Bを連続して履修することが望まれる。

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	齋藤 一人		

### 〔講義目的〕

様々な活動現場における指導実践を行うために、コーチ学研究の立場や指導者の視点に立ち、指導するために必要な知識・技術論・指導法・コミュニケーション能力等を個々のテーマに応じて学習する。そこで、今後の自らの実践活動に対して、積極的な関与ができるような活動の方法論等を見つけたし、議論等により知識を深め興味を絞っていくことを目的とする。

### 〔講義のすすめ方〕

講義の中で、指導現場での実践活動に向けての指導能力を身につける。実践もしくは他者への指導法における実践活動を対象として、そこで生じた課題や問題点について掘り下げ、問題解決型あるいは問題提起型の課題研究としてまとめる。

- ①オリエンテーション
- ②コーチの資質について
- ③論文・著書・映像を通じての学習及び研究
- ④実践活動の実施計画について
- ⑤研究調査方法について
- ⑥グループ討議および事前準備
- ⑦リーダー論について

### 〔教 材〕

特に指定する教材はないが、必要な場合はその都度指示します。また、必要に応じて資料を配布する。

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、レポート、総合的に評価します。

### 〔履修のポイント・注意点〕

学生相互間、教師と学生との緊密なコミュニケーションが重要なので、特に出席が重視されます。

### 〔科目内容の位置付け〕

より充実した学業・学生生活や将来の専門研究活動（卒業研究）への導入としての基礎研究として位置づけられます。

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	渋川 美紀		

#### 〔講義目的〕

少子化により一人一人の個別の教育が重んじられるようになった現代では、個人の個性に柔軟に対応した効果的な教育を実現することが重要な問題となっています。個性に応じた効果的な教育を実現するためには、教材や教育方法の工夫に対応して、教育の効果や進捗度を客観的に評価・測定することが欠かせません。そこでより個人に適した教材の開発とともに学習の進捗度の客観的な計量法について考えていきます。数値・記号・文字・静止画・動画等の教材をパソコン等を利用して作成し、それぞれを客観的に比較しながら、より効果的な学習教材の開発を目指します。

#### 〔講義内容〕

第1回 Excel の学習  
 第2回 Excel の学習  
 第3回 Excel の学習  
 第4回 Visual Basic の学習  
 第5回 Visual Basic の学習  
 第6回 Visual Basic の学習  
 第7回 Visual Basic の学習  
 第8回 Visual Basic の学習  
 第9回 その他のアプリケーションの学習  
 第10回 その他のアプリケーションの学習  
 第11回 その他のアプリケーションの学習  
 第12回 その他のアプリケーションの学習  
 第13回 その他のアプリケーションの学習  
 第14回 まとめ

#### 〔講義のすすめ方〕

実習を中心に進めていきます。

#### 〔教 材〕

教科書および参考書は講義開始時に指定します。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

成績の評価は以下1・2によって評価します。

1. 出席は講義回数の2/3以上。
2. レポート等の提出。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

課題研究Bを継続して履修することが望まれます。

ます。

#### 〔科目内容の位置付け〕

教育の現場においては常に創意工夫に努めなければなりません。それぞれの児童の個性に応じたよりよい教材の開発はこれからの教育においてますます必要となることと思います。そのため基礎学習となる授業です。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目は特にありません。プログラムについての知識がなくても大丈夫です。

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	富田 英也		

### 〔講義目的〕

- a、音楽を通しての研究を目的とする。ただ単に音楽と言っても非常に範囲が広い。しかし自分の求める興味や関心のあるものから出発することが望ましい。楽器の演奏であっても、声楽であっても、それらに関連する疑問点であっても可能である。

### 〔講義内容〕

- b、将来の仕事である乳幼児・児童等の教育を意識して取り組むことも勿論良いが、人間のかかわり、生活の中での心の支え、気持の表現等々として音楽を研究することもすばらしいことである。音とは何か、音を考える、音を作る、音を通じて触れ合う、音楽の演奏活動、楽器製作、音楽の利用方法など様々な音楽活動を通して音楽を研究するテーマを決めることである。

### 〔講義のすすめ方〕

- ・始めにゼミナールの概説を行う。毎時間初めと終わりに話し合いを持つ。
- ・最初からテーマが決まらないのは当然である、テーマを探す方法として興味あることを試してみることが大切である。次にその事例と試みを示す。
- ※サウンドスケープ＝小山地区大学近辺、自分の住居近辺、等々音を収集し、音の地図や音の絵を作成し、どんな音環境にいるかを認識する。さらにどんな環境音楽が理想なのか模索する。
- ※楽器作り＝音の楽しみ方として楽器を作り、音の美しさ、不思議さ、面白さ等を体験し、それをどう活用したらよいのか考える。
- ※その他の活動＝オリジナル手あそび制作、手あそび、童歌あそび、リズムあそび、ボディパーカッション、リトミック、パネルシアター、劇あそびやミュージカル、等々

### 〔教 材〕

必要に応じてプリントする

### 〔成績評価の方法・基準〕

立派な作品や良い結果を期待するものではない。課題に取り組む姿勢や過程を評価したい、

したがって、努力といかに意欲を持って取り組んだかも評価の対象となる。

### 〔履修のポイント・注意点〕

どんな容易な課題であっても実体験して初めてその喜びや楽しみが味わえるものである。焦らず小さな努力を惜しむことなく新しい発見に努めること。

### 〔科目内容の位置付け〕

課題研究Bも続いて履修すること。(Aだけは認めない)

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	平田 乃美		

#### 【講義目的】

1. 心理学領域（特に感覚・知覚、生理、測定法、感情・情緒、社会・文化、産業等）の科学論文を広く精読する。
2. 心理学実験計画法、心理尺度構成法、及び研究遂行の実際や倫理等を学ぶ。
3. 少人数（10名程度）の演習形式を活かしてコンピュータや関数電卓を用いた基本的なデータ分析を実習する。

#### 【講義内容】

文献講読では、心理学研究を幅広く学ぶことを目的に、一人ひとりが興味関心のあるテーマの論文を検索することから始めます。色・香り・音楽、表情やしぐさ・ファッション・化粧等にはどのような心理的効果があるのでしょうか。公共空間のデザイン・混み合い・広さ、絵画・樹木の設置や落書き・ゴミの存在等は人間の行動や印象にどんな影響を与えるのでしょうか。一人ひとりが担当箇所の報告を行い、質疑応答の時間を設けます。

毎回の発表を通して、心理学の諸理論や実験計画法、測定手法を学びます。また内容に応じて、表計算・統計解析ソフトウェアを用いたデータ分析の実習を行い、基本的なデータ処理を一人ひとりが実習します。

#### 【講義のすすめ方】

1. 文献講読は英語の場合もありますが、ここでの授業目的は英語の読解力を養うことではなく、心理学研究の内容理解と科学論文に読み慣れることです。そこで、論文執筆の手引き（アメリカ心理学会、日本心理学会編）の部分的な紹介を交えて論文構成や表記方法等についても理解を深めます。
2. 統計の学習では、数式の少ない配布資料を準備して、おおよその仕組みの理解を目指します。
3. データ分析の実習は、初心者向けです。

#### 【教 材】

初回授業で提示します（1冊程度を購入して戴く場合があります）。

#### 【成績評価の方法・基準】

【方法】次の総合点で絶対評価を行います。

1. 文献報告（内容・発表技術・配付資料）
2. データ分析の習得度
3. 授業貢献（課題参加や他者の発表に対する協力の程度、議論での発言頻度等）

#### 【基準】

得点の配分は、文献報告50%、データ分析30%、授業貢献20%とします。

#### 【履修のポイント・注意点】

本担当者は、課題研究A・Bを個別の半期科目と位置づけており、「A+B」「A単独」「B単独」の履修形態が可能です。そのため、参加者の履修状況や希望に応じて、A・Bの内容の重複・変更等がある場合があります。

#### 【科目内容の位置付け】

認定心理士資格では、「その他の科目」（心理学関連科目）に区分される科目です。

科目名	課題研究A		
単位	2	開設	半期
教員名	高橋 美保		

### 〔講義目的〕

保育所や幼稚園、子育て支援施設において、子どもたちが発育・発達していく過程や、そこでの生活の仕方について検討する。特に、保育において保育者はどのような役割を担っているのか、子どもの傍らに在る保育者のあり方について考えていく。

また、平成16年3月に示された「食育指針」の活用状況を調べ、その結果から、保育者の食事観や食育の捉え方、進め方などを基に、子どもと関わるときに求められてくる発達支援のあり方について、保育者へのインタビューなども交えて探っていく。

### 〔講義内容〕

1. 保育や子育てをめぐる問題を抽出する
  - 1回 どのような問題を探求するか
  - 2回 テーマを具体的に設定する
2. 保育における文献研究を進める
  - 3回 テーマに応じた資料や文献を収集する
  - 4回 テーマに関連づけ整理して読み込む①
  - 5回 テーマに関連付け整理して読み込む②
  - 6回 読み取った結果とテーマを関連付けて考察し、発表する ①
  - 7回 読み取った結果とテーマを関連付けて考察し、発表する ②
3. 保育者への聞き取り調査を実施する
  - 8回 聞き取り（インタビュー） ① 内容を選定する
  - 9回 アンケート用紙を作成する ① 項目を立てる
  - 10回 アンケート用紙を作成する ② 内容を選定する
  - 11回 調査結果をまとめる ① 集計する
  - 12回 調査結果をまとめる ② 統計処理を行う
  - 13回 調査報告書をまとめる ① 目的の立て方、方法の選び方
  - 14回 調査報告書をまとめる ② 結果の書き方
  - 15回 調査報告書をまとめる ③ 考察のまとめ方

### 〔講義のすすめ方〕

興味のある文献研究を通して、自分の意見を発表し、互いのテーマについてディスカッションしながらすすめていく。

さらに、保育者自身の考え方を知るために、聞き取り調査を行い、その結果から実態を考察し、報告しあう。

### 〔教材〕

随時、紹介していく

### 〔成績評価の方法・基準〕

授業への参加態度、研究への取り組み姿勢、調査報告書を総合的に評価する。

### 〔履修のポイント・注意点〕

授業を通して、自分の保育観を構築していくことが求められる。

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	内山 須美子		

#### 〔講義目的〕

課題研究Aでは、実技理論・実習ダンスⅠ・Ⅱで培ったダンスに関する知識や技術を基に、資料収集・調査・討議を行い、自分なりの研究テーマを見つげ出す視点と方法を学習する。

#### 〔講義内容〕

ゼミ生が、「ダンス」、「フィットネス」、「健康」をキーワードとし、興味ある領域から資料を収集し、発表する。最終的に、課題研究Bへ向けてゼミ生が設定したテーマは以下の通りである。

- ・ダンスの楽しさ（フロー）について
- ・ストリートダンスの歴史
- ・初心者のダンス指導法
- ・肥満とエアロビクスプログラム
- ・知的障害児へのダンス指導
- ・ダンス発表会の運営法
- ・高齢者の運動処方
- ・ブレイクダンスの楽しさとモチベーション

#### 〔講義のすすめ方〕

初回は受講生全員を対象に説明を行う。各自で課題を設定し資料を収集する。発表・討議を行うことで研究テーマを設定し、課題研究Bへの準備とする。

#### 〔教 材〕

特に指定しない。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、授業への姿勢、発表内容を含めて総合的に評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

自ら進んで学ぶ姿勢を持つこと。

#### 〔科目内容の位置付け〕

専門科目であり、課題研究を受講することが4年次の卒業研究を受講するための条件である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

実技理論・実習ダンスⅠ・Ⅱ、課題研究B、卒業研究

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	馬場 将光		

#### 【講義目的】

本課題研究では、日本の教育のかたちとはどのようなものであるかを比較法を用いて考察したいと考えている。よく自分を見失ったら、己と他人とを比較せよ、そうすれば自分がどのような人間であるかがわかる、といわれる。われわれが受けてきた日本の教育とはどのようなかたちをしているのであろうか。それを明らかにするために、日本の教育と他国の教育と比較することを通じてその特徴を明らかにし、“なぜ”日本の教育がそのようなかたちになっているかを考察する。

#### 【講義内容】

講義の時間には、まず基礎的な文献として垣吉僚子『人間形成の日米比較』（中公新書）、佐藤淑子『イギリスのいい子日本のいい子』（中公新書）を読む。ここでは、われわれが受けた日本の教育がアメリカの教育やイギリスの教育といかに違うかを学習する。2つの図書とも幼児教育から小学校の教育を中心に紹介されていて、内容はむずかしくなく読みやすいので、楽しく学習を深めることができる。アジアの教育にも触れたいと考えている。

#### 【講義のすすめ方】

講義のすすめ方は、文献を読んでそれを個人もしくはグループで発表する形式をとる。

- ①文献をきめる。
- ②担当を決める。
- ③発表する内容を要約する。
- ④プリントにまとめて発表をする。
- ⑤全員でディスカッションをする。
- ⑥まとめる。

#### 【教 材】

上記の2冊の他にも、必要に応じて入手することになろうと思われるが、できるだけ文庫本を中心にしたいと考えている。

#### 【成績評価の方法・基準】

成績の評価は次のように評価する。

- 出席状況 20%  
発表 40%  
レポート 40%

#### 【履修のポイント・注意点】

今日、社会のあらゆる場面でグローバル化が進行している。中田、イチロー、松井は日本人である。彼らだけではない。われわれは世界の国の人々と日常的に話をするようになってきた。

日本で行われている教育とまったく同じ教育が他の国でも行われているのではない。他の国ではどのような教育が行われているのであろうか。そのようなことに関心と興味をもってほしい。そこがこの講義の出発点である。

#### 【科目内容の位置付け】

課題研究Aは、学生諸君が普通の講義で教員から話を聞くという受動的な学習とは異なり、自分達が自主的になにかのテーマに関心を持ち、調べ、そしてそれをまとめて、発表する、という自主的な学習方法をとるところに特徴がある。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

原則として（例外はあるが）、課題研究Aと課題研究Bを連続して履修することが望ましい。

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	益田 勇一		

#### 〔講義目的〕

20世紀初頭のヨーロッパにおいて、美術様式を転換させた社会的、思想的背景を探る。

#### 〔講義内容〕

19世紀から20世紀への移行期において、ヨーロッパ美術はルネサンス以来の大きな転換の時期を迎えていた。ルネサンスが遠近法の発見によって中世と近世を分ける転換期であったとするなら、19世紀から20世紀初頭にかけてヨーロッパ各地で起きたさまざまな美術の動向は、この遠近法による表現の終焉を告げ、美術における現代という新たな時代の到来を刻印するものであった。ルネサンス美術が単に表現様式の変化を意味するだけではなく、中世におけるキリスト教の神を中心とした世界観から人間中心の世界観へと転換しはじめたことを示すものであり、その背景には宗教的、政治・経済的、そして思想的な変化があったように、600年近くヨーロッパ美術を支えてきた遠近法が失効した背景にもその原因となる大きな思想的、社会的地殻変動を認めることができるはずである。

すでに21世紀を迎えた現時点から20世紀美術を概観すれば、そこには多様なコンセプトと表現様式の乱立が特色として浮かび上がるが、それはかつてない速度で変化する社会の動向と無縁ではないだろう。資本主義経済の成長と成熟にともなう産業構造の変化、社会主義体制の成立と崩壊、二つの世界大戦と湾岸戦争、主観性の哲学、理性中心主義といった思想的伝統や西洋を中心とした文化や価値観の危機、世界規模で張り巡らされたネットワーク上に現出するサイバー・スペースという新たな現実の出現、これらの出来事が現代美術の動向と連動していることはしばしば指摘される。

この演習の目的は、20世紀の美術の動向全般を見渡し、21世紀における芸術の存在価値を問うことであるが、さしあたっては、20世紀美術における最も大きな変動が集中した1900年代から1920年代までに焦点をあて、いかなる思想や価値観、社会状況が芸術表現を変化させたのか、また、芸術は変動する社会のなかでいかなる位置を確保したのかを考察する。

#### 〔講義のすすめ方〕

テキストの講読と意見交換。

#### 〔教 材〕

ニクラス・ルーマン著『社会と芸術』馬場靖雄訳、法政大学出版局、2004年。  
 アーノルト・ゲーレン著『現代絵画の社会学と美学』池井 望訳、世界思想社、2004年。  
 岡田温司著『芸術と生政治』平凡社、2006年。  
 E・パノフスキー著『象徴形式としての遠近法』木田元訳、哲学書房、2003年。  
 佐藤忠良他著『遠近法の世界史』平凡社、1992年。  
 『カンディンスキー著作集1』西田秀穂訳、美術出版社、1979年。  
 土肥美夫著『抽象絵画の誕生』白水社、1997年。  
 西村清和著『モダンアートの哲学』産業図書、1995年。  
 その他、19-20世紀のヨーロッパの歴史、思想史に関する著作。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

テキスト分担箇所の発表内容とレポートによる評価。

発表 40%

レポート 60%

#### 〔履修のポイント・注意点〕

発表者以外の受講生もあらかじめテキストを読み、疑問点や自分の考えをまとめて授業に出席すること。

#### 〔科目内容の位置付け〕

卒業論文の作成へとつながる演習科目。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

なし。

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	伊東 孝郎		

〔講義目的〕

昨今の子どもたちを取り巻く環境の悪化に伴い、学校では「こころの教育」の必要性が増大している。生徒指導など各種教育活動にそうした視点を取り入れられているが、同時にスクールカウンセラー制度の導入や専門相談機関との連携などを通じ、教育現場に心理臨床家の専門性を活用し、学校の持つ教育相談機能を高める努力もなされている。本研究では、将来、教員あるいは援助職を目指す学生にとってきわめて重要な、主として小・中学校で行われている学校カウンセリングあるいは教育相談と、現代の子どもたちのかかえるさまざまな問題について研究し、理解を深めることを目的とする。

〔講義内容〕

学校におけるカウンセリングや教育相談、およびその対象となり得る、子どもたちのかかえる問題や障害についての研究が主となる。

〔講義のすすめ方〕

上記の内容について、受講者各自がテーマを設けて研究・発表し、全員でディスカッションする。また必要に応じて、文献等の講読も行う。

〔教 材〕

適宜指示する

〔成績評価の方法・基準〕

授業への参加態度とレポートによって評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

将来、心理職等の対人援助職を目指す者にとって、心理臨床の専門家による学校カウンセリングについて学ぶことは、進路に直結する大切な学習機会となろう。また教員を目指すものにとっても、学校での教育相談について学ぶことは、将来の指導、とりわけ生徒理解と相談活動に必ずやプラスになることであろう。自らのキャリアをしっかりと意識した上で、本ゼミに主体的に参加する意志を持って受講すること。

〔科目内容の位置付け〕

本課題研究は、認定心理士資格申請において

「その他の科目」に区分される予定の科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

課題研究Bの基礎となる科目となるため、課題研究A・B共に履修を希望する学生を優先する。ただし定員に余裕がある場合は、本研究のみでも履修を可とする。

科目名	課題研究A		
単位	2	開設	半期
教員名	吉田 茂		

#### 【講義目的】

人間の行動や行為の根幹をなす「身体知」に関する現象学的人間学的理解を深め、各種スポーツ運動の〈覚える－覚えさせる〉関係系の中で、どのように身体知が形成されるのか、また人間の身体知はどのような〈知恵〉として構成されるのかを、金子明友著『身体知の形成（上）』の講読を通じて、身体知を現象学的人間学的に理解する。具体的には、コツを創発するための身体知について探求することとする。

#### 【講義内容】

身体知は、いいかえれば〈身体で覚える〉という表現に如実に示されている。いまここに怠つて動きつつ感じ、感じつつ動く身体が形成され、運動と感覚が一体となっている世界に身を置くことができることである。

この身体知の形成を理解することで新たな指導者としての指導の有り方が理解され、指導者としての自己の能力を向上させられるようになるよう共に学び、研究して行く。

#### 【講義のすすめ方】

金子明友著『身体知の形成（上）』を読み、内容を発表し、討論するコロキウム方式で講義する。

#### 【教 材】

金子明友著『身体知の形成（上）』をテキストとする。

#### 【成績評価の方法・基準】

発表内容を要約して毎回順番に提出する。

また、パワーポイント等の発表手段を使いこなせるようになってほしい。

#### 【履修のポイント・注意点】

分担を責任を持って果たすこと。

#### 【科目内容の位置付け】

卒業論文成作の第一歩と位置づける。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

課題研究AからBへと連続して履修すること。

科目名	課題研究A		
	「家族」について考える		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	増田 仁		

#### 〔講義目的〕

本講義では、家庭科教育学でますます注目されてきている「家族」に焦点を当てる。私たちが当たり前と思っている「家族」がいつごろ作られ、そしてこれから「家族」はどうなっていくのだろう。特に戦後日本において形作られた家族とはどのようなものであり、現在の私たちの生活にどう影響しているのか、家族社会学や生活経営学・女性学などの分野が積み上げてきた知見をふまえながら考えていきたい。ここから「家庭生活」「家庭経営」が意味する内容を捉えなおすことを通じて、家庭科教育学をさらに自らのものにしていてもらいたい。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

本科目は「家庭科概説」「家庭科教育法」を前提としている。また、「課題研究B」と関連している。

#### 〔講義内容〕

落合恵美子著『21世紀家族へ』を各章ごとに輪読し討論することを通して、個人的な現象として「家族」を分析する視点だけではなく、歴史的・社会的な現象として「家族」を分析する視点を獲得する。そして様々なデータを用いながら著者が強調している「家族の戦後体制」がなにを意味しているのかを理解する。他の文献も参照しながら、国際比較を行いつつ戦後日本の家族の特徴について浮き彫りにしていく。

#### 〔講義のすすめ方〕

テキストの輪読および討論

#### 〔教 材〕

落合恵美子著『21世紀家族へ』2004年、有斐閣選書。（テキストはコピーして配布する。）  
原ひろ子著『家族論』2001年、放送大学教育振興会。  
その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

平常点、発表内容、レポートから総合的に評価します。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

担当者はきちんとした発表レジュメを作ってきてください。  
積極的に議論に参加することを望みます。  
有意義な時間を共に過ごしましょう。

科目名	課題研究A		
単位	2	開設	半期
教員名	生野 金三		

#### 〔講義目的〕

現在教員に求められている資質能力のひとつは、教科指導等における実践的指導力である。この実践的指導力は、「これからの教員には、変化の激しい時代にあって、子どもたちに『生きる力』を育む教育を授けること」（教養審の第一次答申において）という観点から求められたものである。このことを受けて各都道府県では、教員採用試験において模擬授業を導入し、実践的な指導力を備えた、即戦力としての教員を採用する傾向にある。模擬授業では、まずもって1単位時間の学習指導案（授業計画等）を作成できるか否が鍵となる。

斯様なことを鑑み、本科目では国語科における授業実践を視野においた模擬授業の設計とその具現化について研究することを目的とする。

#### 〔講義内容〕

本科目では、以下の内容について研究する

- 1 学習指導案の形成
  - ・ 単元
  - ・ 単元について
  - ・ 単元観
  - ・ 児童観
  - ・ 指導観
  - ・ 単元の目標
  - ・ 関心・意欲・態度
  - ・ 思考・判断
  - ・ 技能・表現
  - ・ 知識・理解
  - ・ 単元の指導計画
  - ・ 本時の目標
  - ・ 準備
  - ・ 本時の展開（または学習過程、指導過程）
  - ・ 導入段階
  - ・ 展開段階
  - ・ 終末段階（整理段階）
- 2 学習指導案の作成（細案）
- 3 模擬授業の準備
  - ・ 教材・教具の作成
  - ・ 板書計画の作成
  - ・ 発問計画の作成
- 4 模擬授業の実施
  - ・ 授業記録の整理
  - ・ 授業記録の分析

#### 〔講義のすすめ方〕

演習、グループ学習、プレゼンテーション等を中心に授業を進めていく。本科目では、模擬授業の実施を目指しているため、受講生は毎回の授業が次の時間へ継続発展していくことを認識しておくこと。

#### 〔教材〕

文部省「小学校学習指導要領解説国語編」  
東洋館出版社

生野金三「改稿新美南吉研究」学教図書出版会

生野金三「読書指導の方法と実践」学教図書出版会

豊澤弘伸・斉藤武利・斉藤一人「実習における指導の技術」教育出版

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、ミニ課題、プレゼンテーションの三者で評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

出席をとる。授業内容は、積み上げ方式になっているので、前回の授業内容を踏まえておくことが重要である。

#### 〔科目内容の位置付け〕

関連科目として位置付けられている。実践的指導力の基礎を体得して欲しい。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

各教科の指導法に関する科目、教科に関する科目。

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	金田 健史		

#### 〔講義目的〕

課題研究Aでは魅力あるテーマの発見と、これまでにおこなわれてきた多く研究から自分のテーマに沿った研究を見つけた視点と方法を学習することを目的とする。

だれしものが日々の生活の中や運動経験の中で「なぜ?」「どうして?」といった疑問を感じる機会は少なからずあると思うが、その疑問を解決したり、その疑問から新たな発見や課題をみつけたりするなどということまでおこなうことができる者は少ない。実社会やスポーツ指導の現場などにでていく者にとって、このような姿勢や意識をもっていうことはとても重要で、しかもその人の魅力を高めてくれるものであると思われる。これまで経験してきた与えられる授業から、課題研究では自ら獲得していく授業へと意識を切り替えて臨んでもらいたい。

#### 〔講義内容〕

運動生理学研究の立場から、自分の興味あるテーマに対して、文献・資料などによる調査研究の結果を発表・議論し、知識を深めより興味を絞っていく。現在ヒトのからだの機能に関して抱いている興味関心の中から、自分自身で知識を深めてゆきたい課題を各自でみつけ、その課題について各自が研究活動をおこなう。

#### 〔講義のすすめ方〕

上記の内容からわかるように、初回に受講生全員を対象に説明を行い、各自でテーマの選択、資料検索、資料集め、基礎知識の獲得・補充、資料の整理、発表形式にそった資料のまとめ、参考文献の提示等を順次おこなっていく。

#### 〔教 材〕

- 図書館等にある図書、雑誌、文献類
- インターネットのホームページ
- 専門家へのインタビュー

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、授業への姿勢、発表内容を含めて総合的に評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

事前の説明会、個別の相談等にて説明する。

#### 〔科目内容の位置付け〕

専門選択科目であり、課題研究を受講することが4年次の卒業研究を受講するための条件である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

生理学、運動生理学、スポーツ生理学、体育スポーツの測定と評価、トレーニング論、トレーニング実習Ⅰ、トレーニング実習Ⅱ

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	齊藤 武利		

### 【講義目的】

・学校教育現場における様々な運動様式（特にボールゲーム）について、科学的視点を持って分析するために、体力、技術、メンタル、戦術面など様々な角度からスポーツを捕らえ、指導者の視点に立って課題を見つけだし、検討する。

### 【講義内容】

自分の興味のある競技や運動種目やその他、スポーツに関する科学的領域に視点を当て、知識を深め、自分自身の課題を探すために、方法論の検討や議論も行う。

主な課題

- ・スポーツ最前線のトピックスを探る。
- ・スポーツを支える人々の活動について
- ・スポーツ医学の最前線
- ・オリンピックなどエリートスポーツ選手の活動とそのサポートシステムについて
- ・団体スポーツのテクニカル活動について
- ・ボールゲームにおける情報戦略活動の実際について
- ・ボールゲームにおけるゲーム分析とその応用について
- ・ボールゲームにおけるテクニカルコーチ、コンディショニングコーチの役割について
- ・その他

### 【教 材】

特別に、教科書等は指定しない。ただし、個人の課題が明確に選定された場合は、個人の課題研究領域によっては、参考図書を指定し、研究を進める。

個人の発表などの場合、視聴覚機材を使って、プレゼンテーションを行うこともある。

### 【成績評価の方法・基準】

全体の2/3以上の出席（授業の参加）が、期末試験やレポート提出により成績を評価するための前提条件とする。個人発表やディスカッションも行うため、授業の導入は非常に重要であり、原則的に遅刻は、認めない。

成績の評価基準

出席 30%

テストおよびレポート 30%

小レポートや各種課題の提出 30%

その他総合評価 10%

### 【履修のポイント・注意点】

参加する学生は、自分が積極的に参加し、自らが興味のある課題を探求しようとして参加すること。学期の途中で履修を放棄することのないように積極的に参画すること。

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	藤井 和彦		

#### 【講義目的】

課題研究のテーマは「スポーツ（レクリエーションを含む）のマネジメントとマーケティング」とする。キーワードは、スポーツ経営、スポーツマネジメント、レクリエーションマネジメント、マーケティング、学校体育、地域スポーツ、民間フィットネスクラブ、スポーツイベント、スポーツサービス、レクリエーション事業、社会調査の方法、などである。

#### 【講義内容】

課題研究A・B（継続とする）を通じ、以下の内容を適宜組み合わせながら構成する。

##### ①ディスカッション

ディベート、グループワークによるスポーツ、レクリエーションをめぐる現状分析と課題の抽出。

##### ②基礎理論の学習

スポーツやレクリエーションの経営、マネジメント、マーケティング等に関する基礎理論の学習。キーワードの整理。

##### ③視察・観察

学校体育や地域のスポーツ、レクリエーション活動、民間フィットネスクラブ、プロスポーツなどの現場視察・観察

##### ④調査技法の学習

スポーツやレクリエーション現象を捉える調査技法の学習と実際の調査計画の立案。コンピュータを使ったデータ解析方法と分析・考察方法の学習。

##### ⑤研究成果のまとめ

各自の関心に基づき、テーマを設定し研究に取り組む。成果を簡単な研究報告形式でまとめる。

#### 【講義のすすめ方】

上記の通り

#### 【教 材】

その都度資料を配付、或いは持ち寄り、それを中心に進めていく。

#### 【成績評価の方法・基準】

出席状況、授業やワーキングへの取組姿勢、研究内容・成果を含めて総合的に評価する。

#### 【履修のポイント・注意点】

指導方針：自発的な学習姿勢、独創的な問題意識・主張、組織的な取組を重視する。

注意事項：スポーツやレクリエーションのフィールドに自ら飛び出す行動力が必要となる。下記の視察研修や時間外の研究活動などを行う場合もある。最低限、これらに対応できる学生であってほしい。

#### 【科目内容の位置付け】

専門科目であり、課題研究A・Bを受講することが4年次の卒業研究を受講するための条件である。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

体育経営管理学、体育社会学、スポーツ行政論、レクリエーション理論など

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	近藤 智靖		

#### 〔講義目的〕

本科目の目的は、体育科教育学の基礎知識をより深めることである。

#### 〔講義内容〕

本科目では、以下の内容を取り上げる。

- ①理論→学習指導要領を含めた体育授業に関する歴史や制度、教師行動、児童生徒行動、指導方法、教材等に関する知識を深める。
- ②授業分析評価→撮影したビデオを用いて現場の授業を分析評価する。また、現場の小中学校の公開研究会にも積極的に参加し、体育授業を直に観察分析し、また、優れた教師から話を聞く予定である。

#### 〔講義のすすめ方〕

本科目では基礎知識をより深めていくために、教官が指定する課題に取り組む予定である。特に、学術論文や指定図書の内容を理解したり、授業のビデオを視聴しながら様々な分析方法を用いて授業評価を行う。

#### 〔教 材〕

〈購入図書〉

体育の授業を観察評価する・高橋健夫編著・明和出版・2200円

体育の授業を創る・高橋健夫編著・大修館書店・2200円

※履修者は、4月中に上記2冊を各自購入しておくこと。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

体育科教育学に関する知識の定着度と普段の活動に対する態度を評価対象とする。特に、知識の定着度については、グループディスカッションでの発言内容や個人に対する質問を行い、内容が理解できているかどうか確認する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

体育科教育学の内容に深く興味関心を抱いていることが履修の大きな条件である。また、卒業後、小中高等学校教員を強く志望する学生のみを対象としており、Bと併せて通年履修をすること。

#### 〔科目内容の位置付け〕

本科目は、体育科教育法の応用として位置づけられる。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

本科目の履修にあたっては、体育科教育法（児童専攻）、体育科教育法ⅠⅡ（スポーツ健康専攻）の内容を十分に理解している必要がある。

科目名	課題研究A		
	-女性と仕事・男性と仕事-そのストレスの背景にある心理的、社会的側面についての研究		
単位	2	開設	半期
教員名	海原 純子		

### 【講義目的】

均等法以来、女性の社会進出は進んだ様に見える。しかし、「女は女らしく」という思いにとらわれ、自己表現が苦手であったり、家事、介護など従来からの女性の役割と仕事の両立にバーンアウトするケースも多い。

一方、男性もまた「男らしく」という思いに縛られ、社会組織と一体化してアイデンティティを確立してきたものの、バブル崩壊後不況、リストラの波により所属する場を失い、自殺に至るケースもふえている。

男女それぞれの、生育過程の問題点、心理的背景、格差について研究していきたい。

### 【講義内容】

1. 均等法成立とその背景、均等法時代の社会環境
2. 均等法以前・以後の女性の生き方の選択肢の変化
3. 均等法時代の経済と女性の社会進出とのかかわりについて
4. 女性の生き方、生育環境の特徴
5. 男らしさ、女らしさとは
6. 女性の仕事をめぐるストレスの背景にあるもの

### 【講義のすすめ方】

女性と仕事をめぐるストレスの背景に社会的要因や文化的要因、心理的要因がどれだけ影響しているかについて、ケースレポートを紹介しながら学ぶ。

実際に学生諸君が実施でアンケート調査などを行いながら「自分のこと」として仕事をストレス・生き方の選択肢について考えて欲しい。

### 【教材】

「すぐ結婚する女 なかなか結婚しない女」

海原純子著 大和書房

「自分らしさを生かせる女 生かせない女」

海原純子著 ちくま文庫 など

「こころの格差社会」 海原純子著 角川書店 など

### 【成績評価の方法・基準】

レポート及び意見発表。

特に自分の言葉で自らの意見を発表することを評価します。

### 【履修のポイント・注意点】

自分の今後の生き方の基盤になることを期待しています。課題研究Aでは主に女性と仕事、男性と仕事、そのストレス要因について学び、課題研究Bでは、いかにそれを乗り越えていくかの対策へと進みます。

### 【科目内容の位置付け】

論文を読んだり、自分の考えを論文に書く基礎作りになればと思っています。

各人が興味をもった点を追求することで、ゼミとしてより内容のある他では学べない新しい視点を展開していきましょう。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

Aを終えた後、課題研究Bへ進み、いかに自らがアイデンティティを確立し仕事と関わるかについて考えていきましょう。

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	小原 政敏		

#### 【講義目的】

幼児・児童の教育分野は広範囲にわたるが、ここでは理科教育を中心に研究する。

理科教育では、自然観察や実験が不可欠であり、自然観察方法や実験方法を具体的に研究する。新しい実験方法の開発や科学玩具の研究開発などを目指している。

#### 【講義内容】

##### 1) 小学校

- ・ 理科実験観察の内容調査
- ・ 実験の追試
- ・ 新しい実験の開発研究
- ・ 小学生向きの科学玩具の開発
- ・ 理科学習用パソコンソフトの開発

##### 2) 幼稚園・保育園

- ・ 園児が遊ぶおもちゃの調査
- ・ 園児が遊ぶおもちゃの開発
- ・ 集中力を高めるおもちゃの研究
- ・ おもちゃを用いた遊びの開発
- ・ 自然の動植物や石・砂を利用する遊びの開発
- ・ 風・水を利用する遊びの開発
- ・ 光・音を用いた遊びの開発

##### 3) その他理科教育に関するもの

#### 【講義のすすめ方】

受講生一人一人が興味関心を持つ理科教育に関する実験方法や科学玩具などに関して学習・研究・開発を行う。時々、全員で一つの課題について討論し、新しいアイデアや問題解決法を考える機会を設けて学習や研究を推進する機会とする。

#### 【教 材】

教科書 特に定めないが、多くの関連書物がある。

参考書 必要に応じて紹介する。

VTR・パソコンソフト

補助プリント

#### 【成績評価の方法・基準】

筆記試験 実施しない。

レポート・作品

提出・内容について評価

判定基準（講義内容で変更あり）

・ 試験点数0%

・ 出席率20%

・ レポート・作品 80%

#### 【履修のポイント・注意点】

我が国では、子どもの理科離れが進んでいると言われている。保育園・幼稚園・小学校の子どもたちに、自然のおもしろさ・楽しさを訴えられるような理科教育の創造を目指して欲しい。

#### 【科目内容の位置付け】

この科目は、課題研究B（2単位）と合わせて年間を通して実施するものである。

幼稚園や小学校の理科教育に興味関心を持ち、自分でも新しい理科の指導法の研究や開発を望んでいる人を対象としている。本を読んでその内容についての学習ではなく、具体的な自然現象や事物について物作りや実験を中心に進めるものである。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

前提科目 理科概説、初等理科

関連科目

・ 継続する科目「課題研究B」

・ 教養科目として「環境科学」がある。

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	後藤 達生		

#### 〔講義目的〕

小学校算数の教材は広く多岐にわたり、奥が深い。将来教師として教壇に立つとき、教師自身が教材の持つ意味を正しく理解し、その楽しさを理解しておくことが望まれます。

この講義では、算数教材の背景にあるものを様々な資料により、さらに深く探求することを目的とします。例えば、分数の歴史は古く、古代エジプトの時代まで遡ります。そのころ既に足し算に関し我々が理解できないような複雑な式が扱われています。

様々な文献を諸君自らが検索し、文献を読みこなすことの楽しさを知ってもらうこと、これがこの講義の主な目的です。

#### 〔講義内容〕

- ・ 様々な記数法
- ・ 分数
- ・ 小数
- ・ 平面図形・立体図形
- ・ いろいろな量

#### 〔講義のすすめ方〕

ゼミ形式で授業を進める。レポーターによる報告が中心となります。

#### 〔教 材〕

適宜資料を配付する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席状況、授業でのレポート等により評価します。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

小学校教員を目指す学生を優先します。

#### 〔科目内容の位置付け〕

少人数のゼミ形式によるこの授業は、卒業研究の基礎科目になります。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提とする科目は特にありませんが、算数概説、初等算数、算数科教育法とは深く関わっています。また、課題研究 A, B は連続して受講することを原則とします。

科目名	課題研究A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	今田 政成		

**【講義目的】**

「器楽（ピアノ）のアンサンブルの魅力とは」をテーマに器楽音楽の研究を行い、音楽表現の基礎を高めることを目的とする。

具体的には、ピアノの連弾曲や2台のピアノ曲などを教材として、アンサンブルの研究を行う。幼稚園、小学校などで使われている曲の伴奏法等の研究を行う。研究課題は学生自身が設定する。

**【講義内容】**

現場におけるいろいろな音楽教材のピアノ曲や伴奏法などを、さらに充実させるため、アンサンブル的教育価値観の高い連弾や2台ピアノの研究を行う。ML システムのクラピノーバ多重録音機能を使い、アンサンブルの研究を行う。

**【講義のすすめ方】**

関心のある作曲家・曲等具体的に自ら設定し、計画をたてて課題を決定する。これに基づき指導を行う。

**【教 材】**

必要に応じてプリントする。

**【成績評価の方法・基準】**

課題研究への取り組み姿勢や、内容により総合的に評価する。

**【履修のポイント・注意点】**

研究内容に対しての練習、準備を行うこと。

**【科目内容の位置付け】**

課題研究 B も続いて履修すること。

**【前提・関連科目（科目間関連の内容）】**

音楽実技Ⅰ（基礎）音楽実技Ⅱ（こどもの音楽）

<b>科目名</b>	課題研究A		
	幼児教育理論の研究—モンテッソーリを学ぶ		
<b>単 位</b>	2	<b>開 設</b>	半期
<b>教 員 名</b>	五十嵐 敦子		

**〔講義目的〕**

イタリアの女性医師であり、幼児教育者であったマリア・モンテッソーリの幼児教育理論と教育実践について探求する。

**〔講義内容〕**

モンテッソーリは、自ら開発した教具を使うモンテッソーリ・メソッドを生み出したことで、広く世界的に知られている。モンテッソーリの代表的な著作を丁寧に読みながら、モンテッソーリの生涯、子ども観、世界観、メソッドの特徴、教具について学び、彼女の幼児教育理論への理解を深める。また、日本におけるモンテッソーリ・メソッド実践園の事例についても学び、モンテッソーリ教育について理論と実践の両面から研究・検討する。最近のモンテッソーリ研究についても触れる。半日程度の実践園への見学（観察）を実施する予定である。

**〔講義のすすめ方〕**

文献を読んで、理解したことをまとめてレジュメ（要旨）を作成し、発表する。

**〔教 材〕**

モンテッソーリ著『幼児の秘密』国土社

**〔成績評価の方法・基準〕**

出席、発表・討論への参加、最終レポートなどで、総合的に評価する。

**〔履修のポイント・注意点〕**

文献講読が中心になるので、それを覚悟のうえで受講すること。また、受講生全員が積極的に参加できる討論を目標としているので、積極的に前向きな姿勢を持つ学生を期待する。

**〔科目内容の位置付け〕**

原則として、課題研究Aと課題研究Bを連続して履修すること。

課題研究ABを受講することが、4年次の卒業研究を受講するための条件である。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

課題研究B

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	竹島 克己		

#### 〔講義目的〕

課題研究Aに引き続き陸上競技とトレーニングに関して研究していく。今まで研究発表されている多くの文献があるが、自分なりの視点で再検討をしてみる。それによって再認識をすることがたくさんある。まったく新しいアイデアが出現するかもしれない。また、トレーニングは個別的でなければならないとされている。一つのアイデアをどのような対象にどのように伝えるかは研究し尽くせるものではない。ケガしがちな者は故障者に対するトレーニング処方しやすいであろう。一般的な知識を特殊な事例に当てはめ、特殊な事例を一般に適用する。トレーニングは工夫次第だ。広い知識と応用力を身につけていきたい。文献研究が主であるが、使える知識に形作る考えかたを身につけたい。

#### 〔講義のすすめ方〕

自分の興味のある分野の資料を収集し読む。参考図書を集める事から始め、関連する先行研究文献を集めそれぞれの目指す方向を探っていく。新聞、雑誌、インターネットなどからも資料を集め読んでいきたい。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

参加度50%、レポート内容50%で評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

それぞれの今までのスポーツ経験、知識を伝え合う。未経験の者には新しい知識である。新しく知り得た知識を発表する場を設ける。自分の経験と新しい知識をくみ合わせ、更に深い意味を見出す。興味ある文献を多く読んでいきつつ、授業を受ける者どうし勉強していきたい。

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	中谷 陽子		

〔講義目的〕

「課題研究 A」を参照のこと

〔講義内容〕

「課題研究 A」を参照のこと

〔講義のすすめ方〕

「課題研究 A」を参照のこと

〔教 材〕

「課題研究 A」を参照のこと

〔成績評価の方法・基準〕

「課題研究 A」を参照のこと

〔履修のポイント・注意点〕

・原則として、「ゼロ免」の学生の履修は遠慮してもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕

・「課題研究 A」を参照すること。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

・原則として、課題研究 A・B を連続して履修すること。

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	荒井 洸		

#### 〔講義目的〕

課題研究Aに引き続き、エレン・ケイが著わした『児童の世紀』を、本講では教育学的視点から読み解いていくこととします。

『児童の世紀』の中で展開される教育についての考え方は、20世紀初頭の新教育運動、すなわち“vom Kinde aus”「子どもから」という児童中心主義の教育運動にとって、大きな力となりました。

それは、教える側に立った教育論ではなく、教えられる側に立った教育哲学であったからです。

現在の子どもをめぐるさまざまな深刻な事態を考えると、『児童の世紀』の中で述べられているセンスやフィロソフィーや方法等は、味わいのある糧となり得る可能性があるように思います。

『児童の世紀』を、ひとつの大いなる教育論として読み込んでいくようにしましょう。

#### 〔講義内容〕

エレン・ケイが教育のあり方について述べている、次のようなポイントを軸にして理解を深めていきます。

- ・近代における学校教育
- ・学校における精神的なトラブル
- ・教科書についての問題点
- ・授業のあり方についての問題点
- ・未来の学校への夢
- ・幼少年期における教育の基本的なあり方

#### 〔講義のすすめ方〕

テキストを、問題点をしっかりと意識しながら、じっくりと読み進めるようにします。

#### 〔教 材〕

テキスト：エレン・ケイ著、小野寺 信・小野寺百合子訳『児童の世紀』  
富山房百科文庫

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席を重視します。

必要に応じて提出してもらったレポートを評価します。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

課題研究Aに連続しながらも、より教育的な角度から、焦点を絞って、味わい深く勉強してください。

#### 〔科目内容の位置付け〕

課題研究Aに引き続き、保育や教育の勉強をより深めていくつもりで取り組んでください。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

課題研究Aでの学習を前提とします。

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	荒井 弘高		

〔講義目的〕

課題研究Aを参照

〔講義内容〕

歌唱にピアノ・ハンドベル及び各種打楽器・鍵盤楽器などの楽器を加えての、音楽における総合表現方法を研究する。現場における活用法も含む。

なお、上記の事柄を実際に幼稚園・保育所及び小学校に赴き、子どもたちとふれ合いながら研究を進める場を設けたい。また、童謡歌唱コンクール等、各種演奏会にも足を運びたい。

〔講義のすすめ方〕

学生が主体となり、自ら計画を立て、課題を決定する。これらに基づき指導を行う。

〔教 材〕

必要に応じて指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

課題研究の取組状況、内容等により評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

研究内容に対する準備を積極的に行うこと。

〔科目内容の位置付け〕

音楽研究活動および卒業研究のための基礎研究の場としたい。

A・B継続して履修すること。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

ソルフェージュ

科目名	課題研究B		
単位	2	開設	半期
教員名	伊崎 純子		

#### 〔講義目的〕

核家族化、少子化、地域社会の変化などに伴い、子育てを巡る環境は年々厳しくなり、子育てをどう支援するかという社会的なニーズはますます高まっているといわれる。それを実証するように、本科目の担当者も臨床場面において、親の側では地域での孤立、子育てへの不安、そして虐待、子どもの側では（軽度）発達障害等といったさまざまな相談に、臨床心理士として関わってほしいという要請が増えた実感している。

各地で「子育て支援」の具体的な対応が検討され、事業として試行段階に入っている。これらの効果自体はどのように調査されるのかという視点をもって研究を行いたいと思う。

#### 〔講義内容〕

課題研究Bでは、なんらかのテーマに従ってグループで研究・発表を行い、卒論の予行演習を行う。課外には、課題研究Aと同様、実態調査やボランティアとして直接支援を試みる。

（例）小山こども発達支援センター「リズム園」での勉強会や行事への参加  
とちぎYMCA主催の障害児対象のボランティア活動「F2サークル」の企画・参加

#### 〔講義のすすめ方〕

テーマは教員から与えるが、学生と相談の上、決定する。

2006年度 課題研究Bのテーマ

- ・バックグラウンドミュージックの効果について - 特定場面での効果
- ・手遊び歌について - 子どもの発達とわらべ歌
- ・子育て支援について - 障害児と家庭フォローの一例について
- ・病院ボランティアについて - 病棟・院内学級での活動例

2007年度 課題研究Bのテーマ

- ・乳幼児期の言葉の発達を促す育児環境について
- ・気になる子への対応について
- ・江戸川区とフィンランドとの保育制度の比較
- ・養護学校における就労支援 - 自閉症児

#### 〔教材〕

適宜指示する

#### 〔成績評価の方法・基準〕

授業への参加態度を重視する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

対社会的な活動も行うので、常識ある態度を踏まえること。失敗を恐れず果敢にチャレンジしてみる。今回は、フィールドの用意があるために障害児とその親を中心としたテーマを掲げている。しかしながら本来の地域子育て支援は、障害児に限らず全ての子育て世帯を対象とするものである。従って、学生自身が目的をもって他の「子育て支援」や「親子関係」に関わる課題に取り組む意思をもつ場合は、その応援を惜しまない。

#### 〔科目内容の位置付け〕

「認定心理士」資格申請では、「領域Ⅰ・その他の科目」（心理学関連科目）に区分される科目である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

心理学関連科目全般ならびに「家庭支援論」を学習しておくとうい

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	岩城 淳子		

**〔講義目的〕**

本科目の目的は、保育・健康に関する領域から子どもに関する課題を発見し、それを深め解決していくというプロセスを学ぶことである。

**〔講義内容〕**

課題研究Bでは、実際の保育・教育現場を体験し、そこに応じた健康教育プログラムの作成と実施を行なう。

**〔講義のすすめ方〕**

学外活動としては、地域の子育て支援活動、学童保育クラブ、地域スポーツクラブへの参加などを予定している。

**〔教 材〕**

授業の中で指示する。

**〔成績評価の方法・基準〕**

各活動への取り組み、報告レポートなどで総合的に評価する。

**〔履修のポイント・注意点〕**

自分で得た知識や情報を自身の思考で再構成し、知恵として活用できるようになってほしいと考えている。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

課題研究A 保育内容研究（健康）保育内容演習（健康）

科目名	課題研究B		
単位	2	開設	半期
教員名	奥澤 信行		

### 【講義目的】

「課題研究A」の講義目的に記したように小学校の社会科地理的分野では、地域学習が重視されている。この地域学習を実りあるものとするために不可欠なのが野外調査である。野外調査は fieldwork とも呼ばれるが、近年は様々な学問分野でこの fieldwork が行われている。しかし fieldwork は元来地理学において研究遂行のために生み出された調査法で、そのノウハウは地理学によって蓄積されてきた。本講では fieldwork の基本を講義した上で、実際に小山市周辺の都市を取り上げて、受講生各自が関心を持っているテーマに関する野外調査を実施する。

### 【講義内容】

fieldwork に関する講義、現地調査、報告書作成の手順により、小学校での地域調査にも活用できる手法を体得する。

#### I fieldwork の手順

- ①景観観察
- ②聞き取り調査
- ③アンケート調査

#### II 調査地の決定

- ①調査地決定の要因分析
- ②調査地の事前調査
- ③調査依頼に関する手続き

#### III 現地調査

- ①調査対象別の指導
- ②資料収集
- ③関係機関での聞き取り調査

#### IV 事後指導

- ①関係機関への事後連絡
- ②資料整理
- ③報告書の作成

### 【講義のすすめ方】

ゼミナール形式であるため、講義の場合でも受講生に意見を求める。また調査地に関する事前調査や現地調査によって判明した事項については、各自がレジュメを作成して発表する。

### 【教 材】

地域調査に関する文献を開講時に指示する。

### 【成績評価の方法・基準】

出席状況と調査地に関する発表や報告書の内容、さらに授業中の発言などを総合して評価する。

### 【履修のポイント・注意点】

最近の学生は、無駄なお喋りには大声を張り上げるが、肝心の授業となると自分の意見も満足に言えず、発言しても蚊の鳴くような声である。必要なことをきちんと明瞭な声で発言できないのは、とりわけ教員を目指す人にとっては致命的なことといえる。もし受講生諸君がこのように小声で発言しているのであれば、この授業によってそのような態度を改めてもらいたい。この科目はゼミ形式であるので、それが可能なのである。そして自信ある発言ができるためには、授業で扱う内容だけでなく世の中の出來事に常に関心を払い、自分なりの考えをまとめる訓練をすることが大切である。活気あるゼミとするために、物事に積極的に取り組む姿勢を見せてもらいたい。

さてゼミ形式の授業は大学生活の中核をなすものである。教職であれ、民間企業であれ、就職に際してゼミで何を学んできたかが問われるのは常識である。それは学問に関するだけでなく、そこで培われた教員とゼミ生、またゼミ生同士の人間関係こそが、就職のときに重要な意味を持つことによる。したがってゼミの行事には積極的に参加し、有意義な学生生活を送ってほしい。

### 【科目内容の位置付け】

高校で「地理」を履修していなくても問題ない。地理的な物の見方の基本から指導したい。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

本講では人文地理に関する内容が主となるので、自然地理についても扱う「地理学A・B」を履修することを希望する。また「課題研究A」も前提科目として履修しなければならない。

科目名	課題研究B		
単位	2	開設	半期
教員名	粕谷 圭司		

**〔講義目的〕**

私たちの身の回りには、絵画や彫刻など、所謂美術と呼ばれている造形が多数存在する。造形は人間だけが発展させてきた活動であり、それは、宗教的思いや、人間のからだの美しさを表現しようとしたり、悲しみや喜びの気持や考えを表わし伝える手段としての造形である。

当講座においては、造形活動を通して、物の色や形、材質について研究し、新たな形態を創り出すことを目的としたい。

**〔講義内容〕**

立体の分野における「おもちゃ」について研究を進めていく。

- ・文献資料の検索
- ・材質の研究
- ・形態の研究

**〔講義のすすめ方〕**

3、4名のグループ別に制作研究をする。  
グループ別にテーマを決定し進める。

**〔教 材〕**

テーマ別に費用を徴収する。

**〔成績評価の方法・基準〕**

作品提出  
出席 20%  
点数 80%

**〔履修のポイント・注意点〕**

グループ毎の十分なディスカッションが必要であり、実技中心の講座であるので積極的参加、取り組む姿勢が望まれる。A、B通年を履修すること。

**〔科目内容の位置付け〕**

主に実践的内容であるが広い知識が必要となる。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

造形、造形教材研究

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	川瀬 善美		

**〔講義目的〕**

課題研究Aを参照のこと

**〔講義内容〕**

課題研究Aを参照のこと

**〔講義のすすめ方〕**

9－10月 アンケート調査結果の分析研究  
 11－12月 訪問インタビュー調査の分析研究  
 1月 報告論文づくり

**〔教 材〕**

必要なものについては適時指示をします。

**〔成績評価の方法・基準〕**

出席状況、毎回与える課題についての発表状況及びレポートにより評価を行う。

**〔履修のポイント・注意点〕**

調査等を主体的に行うよう心がける事。

**〔科目内容の位置付け〕**

課題研究Bは、指導教員と履修学生が共同で行う調査研究である事と充分認識し、主体的に研究に臨むことをのぞみます。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

題研究Aとあわせて履修すること。

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	小久保 裕		

**〔講義目的〕**

課題研究Aを参照

**〔講義内容〕**

課題研究Aにおいて取り組んだ各自の制作研究テーマを深め発展させる。希望によっては下記のテーマを加えて行う。

1. 子どもの絵についての実践研究

○素材と表現方法

○見方と指導法

○子どもの絵と原始美術、現代美術

○子どもの絵と描かれた子ども

2. 作家研究

3. 絵画制作

4. 鑑賞

**〔講義のすすめ方〕**

課題研究Aを参照

**〔教 材〕**

課題研究Aを参照

**〔成績評価の方法・基準〕**

課題研究Aを参照

**〔履修のポイント・注意点〕**

課題研究Aを履修しておくこと。

科目名	課題研究B		
単位	2	開設	半期
教員名	齋藤 一人		

#### 【講義目的】

自分の興味のあるテーマについて、個々の目的に沿って文献研究・資料調査・データ分析・実践活動等を行い、その結果を発表し、指導者の視点で議論する。その際に知識を深めるとともに、調査方法、観察、記録、分析能力、記述・表現力（プレゼンテーション能力）の向上を図るための基礎的方法論を学習することを目的とする。また、卒業論文に繋がる自分自身の課題・研究テーマを見つけだす時期と考える。

#### 【講義のすすめ方】

文献研究等を行い、分析能力、記述・表現力をつける。また、指導法における実践活動を対象として、そこで生じた課題や問題点について掘り下げ、方法論的な側面から、問題解決型あるいは問題提起型の課題研究としてまとめる。なお、調査方法、観察、記録、プレゼンテーション能力の向上を図るための基礎的方法論を習得する。

- ①オリエンテーション
- ②問題提起・課題研究・調査方法について
- ③論文・著書を読む
- ④レポート・論文・報告書等の書き方について
- ⑤グループ討議およびプレゼンテーション準備
- ⑥全体発表およびディスカッション

#### 【教材】

特に指定する教材はないが、必要な場合はその都度指示します。また、必要に応じて資料を配布する。

#### 【成績評価の方法・基準】

出席、レポート、グループ貢献度、プレゼンテーションによって総合的に評価します。

#### 【履修のポイント・注意点】

学生相互間、教師と学生との緊密なコミュニケーションが重要なので、特に出席が重視されます。

#### 【科目内容の位置付け】

より充実した学業・学生生活や将来の専門研究活動（卒業研究）への導入としての基礎研究として位置づけられます。

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	渋川 美紀		

#### 【講義目的】

課題研究 B では課題研究 A で作成した教材の学習効果を定量的に解析してその効果と問題点を明らかにし、さらに改良を加えて、より学習に役立つ教材の開発を行います。それとともに学習の進捗度や効果の客観的な計量法について考え、学習の定着を判断する指標を構築する試みを行っていききたいと思います。研究活動を通じて未知のものを知る楽しさを感じて下さい。

てますます必要となることと思います。そのため基礎学習となる授業です。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

前提科目は課題研究 A のみです。その他の全体科目は特にありません。プログラミングについては多少の基礎知識があることを期待しています。

#### 【講義内容】

第 1 回プログラミング言語について復習  
 第 2 回プログラミング言語について復習  
 第 3 回教材の開発  
 第 4 回教材の開発  
 第 5 回教材の開発  
 第 6 回教材の開発  
 第 7 回教材の開発  
 第 8 回教材の開発  
 第 9 回教材の開発  
 第 10 回教材の評価・考察  
 第 11 回教材の評価・考察  
 第 12 回教材の評価・考察  
 第 13 回教材の評価・考察  
 第 14 回まとめ

#### 【講義のすすめ方】

実習・実験を中心に進めていきます。

#### 【教 材】

教科書および参考書は講義開始時に指定します。

#### 【成績評価の方法・基準】

成績の評価は以下 1・2 によって評価します。

1. 出席は講義回数の 2 / 3 以上。
2. レポート等の提出。

#### 【履修のポイント・注意点】

課題研究 A から履修して下さい。

#### 【科目内容の位置付け】

教育の現場においては常に創意工夫に努めなければなりません。それぞれの児童の個性に応じたよりよい教材の開発はこれからの教育におい

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	富田 英也		

〔講義目的〕

音楽を通しての研究を目的とする。ただ単に音楽と言っても非常に範囲が広い。しかし自分の求める興味や関心のあるものから出発することが望ましい。楽器の演奏であっても、声楽であっても、それらに関連する疑問点であっても可能である。

ず小さな努力を惜しむことなく新しい発見に努めること。

〔科目内容の位置付け〕

課題研究 A に続いて履修すること。(B だけは認めない)

〔講義内容〕

将来の仕事である乳幼児・児童等の教育を意識して取り組むことも勿論良いが、人間のかかわり、生活の中での心の支え、気持の表現等々として音楽を研究することもすばらしいことである。音とは何か、音を考える、音を作る、音を通じて触れ合う、音楽の演奏活動、楽器製作、音楽の利用方法など様々な音楽活動を通して音楽を研究するテーマを決めることである。

〔講義のすすめ方〕

- ・他大学の音楽ゼミナールと交流をし、情報の交換会を行い自分たちの成果を発表する。感想や取り組んだ理由などを述べ合い、今後の研究の参考にする。(9月初旬頃、できれば夏休中に行いたい先方の大学と打合せ、時期や場所等を検討する)
- ・Aで行った様々な音楽活動や交換ゼミで行った体験を参考としテーマを決める。
- ・さらに情報収集や自分のテーマを裏付ける文献を参考とし、考察を深めながら研究をまとめる。
- ・ゼミ内発表、各自の研究を発表し批評と感想を述べディスカッションする。

〔教 材〕

必要に応じてプリントする

〔成績評価の方法・基準〕

立派な作品や良い結果を期待するものではない。課題に取り組む姿勢や過程を評価したい、したがって、努力といかに意欲を持って取り組んだかも評価の対象となる。

〔履修のポイント・注意点〕

どんな容易な課題であっても実体験して初めてその喜びや楽しみが味わえるものである。焦ら

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	平田 乃美		

#### 〔講義目的〕

1. 心理学領域（特に教育環境、学習、発達、児童・青年、臨床、犯罪、言語、人格等）の科学論文を広く精読する。
2. 教育調査法、心理尺度構成法、及び研究遂行の実際や倫理等を学ぶ。
3. 少人数（10名程度）の演習形式を活かしてコンピュータや関数電卓を用いた基本的なデータ分析を実習する。

#### 〔講義内容〕

文献講読では、心理学研究を幅広く学ぶことを目的に、一人ひとりが興味関心のある教育心理学領域の論文を検索することから始めます。学校の規模（マンモス校と小規模校）や建築、教室のデザイン（従来型とオープンスペース）、授業方法（チーム・ティーチングと一斉授業）等は、児童・生徒の心の成長や行動にどのような効果をもつでしょうか。一人ひとりが担当箇所の報告を行い、質疑応答の時間を設けます。

毎回の発表を通して、教育調査法や心理学実験計画法の基礎知識を学びます。また内容に応じて、表計算・統計解析ソフトウェアを用いたデータ分析の実習を行います。データ分析には、小・中・高等学校、情緒障害児・不登校学級、少年院・少年鑑別所等で本研究室が実施してきた実際のデータを用います。実際のデータを扱うことを通して、インフォームド・コンセントの重要性や個人情報の保護についても理解を深めます。

#### 〔講義のすすめ方〕

1. 文献講読は英語の場合もありますが、ここでの授業目的は英語の読解力を養うことではなく、心理学研究の内容理解と科学論文に読み慣れることです。そこで、論文執筆の手引き（アメリカ心理学会、日本心理学会編）の部分的な紹介を交えて論文構成や表記方法等についても理解を深めます。
2. 統計の学習では、数式の少ない配布資料を準備して、おおよその仕組みの理解を目指します。
3. データ分析の実習は、初心者向けです。

#### 〔教 材〕

初回授業で提示します（1冊程度を購入して戴く場合があります）。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

【方法】次の総合点で絶対評価を行います。

1. 文献報告（内容・発表技術・配付資料）
2. データ分析の習得度
3. 授業貢献（課題参加や他者の発表に対する協力の程度、議論での発言頻度等）

#### 【基準】

得点の配分は、文献報告50%、データ分析30%、授業貢献20%とします。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

本担当者は、課題研究A・Bを個別の半期科目と位置づけており、「A+B」「A単独」「B単独」の履修形態が可能です。そのため、参加者の履修状況や希望に応じて、A・Bの内容の重複・変更等がある場合があります。

#### 〔科目内容の位置付け〕

認定心理士資格では、「その他の科目」（心理学関連科目）に区分される科目です。

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	高橋 美保		

### 〔講義目的〕

課題研究Aでの学習を通して、各自の研究テーマが設定されていると思われるので、テーマに沿ってその問いを明らかにする方法を選び、個別的に探求していく。例えば、食育を通して幼保小の連携を図るなど実践的な研究をテーマに、「食」をめぐる現状と課題の抽出から、「食」の部分から何ができるか、保育・教育内容としての食育の将来展望を考察していくなど、課題研究Bではさらに踏み込んで、保育・教育内容のあり方にまで言及していく。

またそのプロセスを通し、研究報告書の作成についても学習していく。

### 〔講義内容〕

1. 研究テーマの設定とコンセプトの確認
  - 1回 研究テーマの設定
2. 研究方法の検討
  - 2回 実践的な調査の進め方
  - 3回 保育における発達研究の進め方 ①  
食行動の発達とその援助
  - 4回 保育における文献研究の進め方 ①  
保育所給食における食事観の変遷  
保育における事例研究の進め方 ②  
食育指導計画の立て方・いかし方・進め方
  - 5回 保育における行動観察研究の進め方①  
行動観察法  
保育における行動観察研究の進め方②  
フィールドワークの進め方
  - 6回 子育て支援における参加研究の進め方
3. 具体的な研究活動
  - 7回 研究方法（方法、内容）を決定する
  - 8回 調査や研究の組み立てを決定する
  - 9回 結果や考察のポイントを習得する①
  - 10回 結果や考察のポイントを習得する②
4. 研究発表
  - 11回 研究報告書の書き方を検討する
  - 12回 研究発表の仕方を検討する
  - 13回 研究発表①
  - 14回 研究発表②

### 5. 研究の振り返り

15回 研究成果についての評価

### 〔講義のすすめ方〕

実際のフィールドに出て研究方法への理解を深め、各自の卒論のテーマに関連付けながら、検討し合い進めていく。

### 〔教 材〕

随時、授業内で紹介する。

### 〔成績評価の方法・基準〕

授業への参加態度と研究への取り組み姿勢、研究報告書を総合的に評価する。

### 〔履修のポイント・注意点〕

広い視点から資料を収集し、自ら考え、研究の本質を探っていく姿勢で臨むこと。

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	内山 須美子		

〔講義目的〕

課題研究Bでは、課題研究Aで設定した研究テーマを解決する方法を学習し、レポートとして纏め、卒論への準備とする。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

実技理論・実習ダンスⅠ・Ⅱ、課題研究A、卒業研究

〔講義内容〕

課題Aで設定したテーマに基づいて各自資料の収集、調査方法、測定の方法などを学ぶ。最終的に、卒論に向けてゼミ生が設定したテーマ（仮題）は以下の通りである。

- ・肥満改善におけるエアロビクスプログラムの効果－ダウン症患者を対象とした代謝量と身体組成の変化－
- ・中高年女性に対するサーキットトレーニングの効果
- ・ストリートダンスのスタイルの歴史的変遷
- ・ストリートダンスのフロー調査における性差について
- ・肥満児の運動指導

〔講義のすすめ方〕

課題Aで設定されたテーマに基づいて、それぞれ「アンケート調査の方法」「実験・計測の方法」「統計処理の方法」「文献研究の進め方」「論文の書き方」などについて学ぶ。最終的にレポートとして纏め、卒論テーマ（仮題）を設定する。

〔教 材〕

特に指定しない。

〔成績評価の方法・基準〕

出席、授業への姿勢、発表内容を含めて総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

自ら進んで学ぶ姿勢を持つこと。

〔科目内容の位置付け〕

専門科目であり、課題研究を受講することが4年次の卒業研究を受講するための条件である。課題研究Bを受講するには、課題研究Aを受講していることが条件である。

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	馬場 将光		

#### 〔講義目的〕

課題研究Aでは、日本の研究のかたちとはどのようなものであるかを比較法を用いて考察した。よく自分を見失ったら、己と他人とを比較せよ、そうすれば自分がどのような人間であるかがわかる、といわれる。われわれが受けてきた日本の教育とはどのようなかたちをしているのであろうか。それを明らかにするために、日本の教育と他国の教育と比較することを通じてその特徴を明らかにし、“なぜ”日本の教育がそのようなかたちになっているかを考察してきた。

こうした前期での学習を踏まえて、後期においては、日本の教育の中でなにか関心のある教育問題をとりあげて、その問題がなぜそのような外国の教育のかたちと異なっているかを考察することにする。

#### 〔講義内容〕

講義の時間には、まず基礎的な文献として二宮 皓『世界の学校』を読む。ここでは、われわれが受けた日本の教育が外国の教育といかに違うかを理解する。その基本的な学習に基づいて、いくつかの関心のあるテーマに分かれて、個人もしくはグループで資料収集、資料分析、まとめを行い、それを発表する。ここでなにを調べるかについては、もちろん個人がとくに関心、興味のあるテーマを自由に選んでいいが、なにをしたらいいかわからない場合には、わたしの方から助言をする。

#### 〔講義のすすめ方〕

講義のすすめ方は、文献を読んでそれを個人もしくはグループで発表する形式をとる。

- ①文献を決める。
- ②担当を決める。
- ③発表する内容を要約する。
- ④プリントにまとめて発表をする。
- ⑤全員でディスカッションをする。
- ⑥まとめる。

#### 〔教 材〕

上記の2冊の他にも、必要に応じて入手することになると思われるが、できるだけ文庫本を中心にしたいと考えている。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

成績の評価は次のように評価する。

- 出席状況 20%
- 発表 40%
- レポート 40%

#### 〔履修のポイント・注意点〕

今日、社会のあらゆる場面でグローバル化が進行している。世界の国の人々と日常的に話をすることが多くなっていった。日本で行われている教育とまったく同じ教育が他の国でも行われているのではない。日本の教育を他の国から見た時どのように見えるのか。そうしたところから慣行的に行われている日本の教育のかたちを理解する。そのようなことに関心と興味をもってほしい。そこがこの講義の出発点である。

#### 〔科目内容の位置付け〕

課題研究Bは、学生諸君が普通の講義で教員から話を聞くという受動的な学習とは異なり、自分たちが自主的になにかのテーマに関心を持ち、調べ、そしてそれをまとめて、発表する、という自主的な学習方法をとるところに特徴がある。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

原則として（例外はあるが）、課題研究Aと課題研究Bを連続して履修することが望ましい。

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	益田 勇一		

**〔講義目的〕**

受講者各自の研究課題の設定とレポート作成。

**〔講義内容〕**

課題研究Aの内容を踏まえ、各自が関心のあるテーマを設定し、調べた内容を発表したり、レポートにまとめたりする。

**〔講義のすすめ方〕**

研究課題の中間発表と意見交換。

**〔教 材〕**

必要に応じて指示する。

**〔成績評価の方法・基準〕**

発表内容とレポートによる評価。

発表 40%

レポート 60%

**〔履修のポイント・注意点〕**

中間発表とレポート作成のための準備を、計画的に進めること。

**〔科目内容の位置付け〕**

卒業論文の作成につながる演習科目。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

課題研究A

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	伊東 孝郎		

**【講義目的】**

課題研究Aと同様、本研究においても、学校カウンセリングあるいは教育相談について主体的に研究することを目的とするが、同時に指導を通じて、将来、教育や福祉の現場での「活かた」教育や援助へとつながるような「カウンセリング・マインド」を身につけることも目的とする。

でも履修を可とするが、かなりの自主的努力を要する。

**【講義内容】**

課題研究Aの内容に加え、カウンセリングや教育相談の実際について、事例研究を行う。

**【講義のすすめ方】**

上記の内容について、受講者各自がテーマを設けて研究・発表し、全員でディスカッションする。また必要に応じて、文献等の講読も行う。

**【教 材】**

適宜指示する

**【成績評価の方法・基準】**

授業への参加態度とレポートによって評価する。

**【履修のポイント・注意点】**

将来、心理職等の対人援助職を目指す者にとって、心理臨床の専門家による学校カウンセリングについて学ぶことは、進路に直結する大切な学習機会となろう。また教員を目指すものにとっても、学校での教育相談について学ぶことは、将来の指導、とりわけ生徒理解と相談活動に必ずやプラスになることであろう。自らのキャリアをしっかりと意識した上で、本ゼミに主体的に参加する意志を持って受講すること。

**【科目内容の位置付け】**

本課題研究は、認定心理士資格申請において「その他の科目」に区分される予定の科目である。

**【前提・関連科目（科目間関連の内容）】**

課題研究Aを基礎とする科目となるため、課題研究A・B共に履修を希望する学生を優先する。ただし定員に余裕がある場合、本研究のみ

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	吉田 茂		

**〔講義目的〕**

課題研究Aを基礎としてBでは、指導者として、どのような教えるための身体知を持つ必要があるのかを探求することとする。人間は、誕生から老年に致るまで、常に身体知を駆使して、スポーツや日常生活、労働や表現運動を生み出し実現して行く存在である。豊かな人生を送るためにも、この身体知が限り無く形成されるべきでその意味でも、指導者の役割は大きい。課題研究Bでは、教えるための身体知である促発身体知をどのように高めるかに焦点をしばって探求する。

努力する。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

運動学Ⅰ、Ⅱ

**〔講義内容〕**

課題研究Bでは、促発身体知の構成化能力を、学生がこれまでに経験したスポーツ種目に関して分析することを中心的な課題とする。現在自分が持っている動感素材化身体知である観察能力、交信能力、代行能力を具体的に話題として提供し、動感処方化身体知としての道しるべ構成化能力、呈示構成化能力、起点構成化能力などにどのように生かすかを検討していく。新たな指導方法の開拓を通じて一人一人の卒業論文のテーマを決定する。

**〔講義のすすめ方〕**

ゼミ参加者を対象に、相互に色々な指導方法を検証し、実際の指導場面をVTR 察影するなど分析能力の向上を計る。

**〔教 材〕**

金子明友著『身体知の形成（下）』をテキストとして使用する。ある運動の指導を通じて自己の促発身体知の向上を計る。

**〔成績評価の方法・基準〕**

上記の内容をレポートとして提供する。

**〔履修のポイント・注意点〕**

自己の研究テーマが設定できるよう、いくつかの運動について分析を試みる。

**〔科目内容の位置付け〕**

課題研究AからBへ、さらには卒業論文のテーマ決定、卒業論文作成へと順次進められるよう

科目名	課題研究B		
	家庭科教育の授業を創る		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	増田 仁		

#### 【講義目的】

本講義では参加者に家庭科の「授業を創る」という体験をしてもらうことを目的にする。家庭科は衣食住に関する領域以外にも、家族・保育領域も含まれており、皆さんの生活に密接に関わっている。小学校から高校まで授業の「受け手」であったみなさんに、「授業を創る」という経験を通して授業の「送り手」となる準備期間を設けると共に、家庭科教育を様々な視点から考察することが本講義の主眼である。授業の「送り手」として家庭科に関する教材をさまざまな角度から検討し、教えるに値する質の高い授業とは何か、考える機会を提供したい。

#### 【講義内容】

各自の興味関心に基づいて、教材研究をおこない発表する。さらにゼミの参加者全員で検討して、よりよい教材研究のアイデアを出し合う。

- ・教材の選定理由
- ・授業の目的・目標
- ・授業の展開
- ・授業の発展性

#### 【講義のすすめ方】

ゼミ形式

#### 【教 材】

(教材はコピーして配布します)

牧野カツコ編著『人間と家族を学ぶ家庭科ワークブック』国土社、2007年。

牧野カツコ編著『自分らしい生活をつくる家庭科ワークブック②』国土社、2000年。

牧野カツコ編著『家庭科ワークブック 人間の発達と保育』東京書籍、2002年。

#### 【成績評価の方法・基準】

平常点、発表内容、レポートから総合的に評価します。

#### 【履修のポイント・注意点】

担当者はきちんとした発表レジュメを作ってきてください。

積極的に議論に参加することを望みます。

有意義な時間を共に過ごしましょう。

#### 【科目内容の位置付け】

本科目は「家庭科教育法」の応用として位置づけられる。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

「家庭科教育法」「課題研究A」と関連している。

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	生野 金三		

### 〔講義目的〕

課題研究Aでは、国語科における授業実践を視野においた模擬授業の設計についての研究を行った。課題研究Bでは、課題研究Aで研究した内容を踏まえ、それをより具現化する方向で、模擬授業を試み、その授業記録を基に学習指導のあり様を検討し、実践的指導力の基礎を育成することを目的とする。

### 〔講義内容〕

本科目では、以下の内容について研究を行う。

- 1 課題研究Aにおいて1単位時間の授業設計を行った。まずは、「本時の目標」「準備」「本時の展開」（導入段階 展開段階 終末（整理）段階）「教材や教具」「板書計画」「発問計画」等を検討する。
- 2 次いで、それを踏まえて模擬授業の準備を行う。
  - ・ 学習過程の確認
  - ・ 導入段階の指導
  - ・ 展開段階の指導
  - ・ 終末（整理）段階の指導
  - ・ 教材や教具の作成とその取扱い
  - ・ 板書計画の確認
  - ・ 発問計画の確認
  - ・ 作業プリントの作成とその取扱い
- 3 模擬授業を実施し、その授業記録をとる。
  - ・ 授業を行う指導者
  - ・ 授業を受ける学習者
  - ・ 授業を参観する観察者
- 4 模擬授業を検討する。
  - ・ 授業記録の整理
  - ・ 授業分析の観点
  - ・ 授業記録の分析と考察

### 〔講義のすすめ方〕

演習、グループ学習、プレゼンテーション等を中心に授業を進めていく。本科目では、実践的指導力の基礎の育成を目指しているため、受講生は毎回の授業が次の時間へ継続発展していくことを認識していくこと。

### 〔教 材〕

文部省「小学校学習指導要領解説国語編」東洋館出版社

生野金三「改稿新美南吉研究」学教図書出版会

生野金三「読書指導の方法と実践」学教図書出版会

豊澤弘伸・斉藤武利・斉藤一人「実習における指導の技術」教育出版

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、ミニ課題、プレゼンテーションの三者で評価する。

### 〔履修のポイント・注意点〕

出席をとる。授業内容は、積み上げ方式になっているので、前回の授業内容を踏まえておくことが重要である。

### 〔科目内容の位置付け〕

関連科目として位置付けられている。実践的指導力の基礎を体得して欲しい。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

各教科の指導法に関する科目、教科に関する科目。

科目名	課題研究B		
単位	2	開設	半期
教員名	金田 健史		

#### 〔講義目的〕

課題研究Bでは、興味あるテーマに関して実験機器を用いて測定やデータ分析をおこない、その実験の目的とそこから導き出せる結果をこれまで学習してきた個々の運動生理学的知識を用いて議論することを目的とする。

だれしもが日々の生活の中や運動経験の中で「なぜ?」「どうして?」といった疑問を感じる機会は少なからずあると思うが、その疑問を解決したり、その疑問から新たな発見や課題をみつけたりするなどということまでおこなうことができる者は少ない。実社会やスポーツ指導の現場などにでていく者にとって、このような姿勢や意識をもっていうことはとても重要で、しかもその人の魅力を高めてくれるものであると思われる。これまで経験してきた与えられる授業から、課題研究では自ら獲得していく授業へと意識を切り替えて臨んでもらいたい。

#### 〔講義内容〕

卒業論文作成に繋がるような機器の使用法や実施可能な実験内容を把握し、実際に機器を使用することによってその機器を用いてなにが測定できるかを理解する。その際、週ごとに色々な機器を用いて実験を行い、その機器の性能を理解すること、実験の準備において必要なこと、どのような測定項目があるか等を各自が被検者、検者を交代しておこなうことによって理解するとともに、実際に機器を操作する力を養う。

#### 〔講義のすすめ方〕

大学に配備設置されているさまざまな機器の使用法、使用上の注意事項、測定項目に関する基礎知識の獲得とともに、測定機器を用いての実験実習をおこなっていく。

#### 〔教 材〕

- 図書館等にある図書、雑誌、文献類
- 測定機器の製造、販売会社のインターネット・ホームページ
- 機器の取り扱い説明書

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、授業への姿勢、発表内容を含めて総合的

に評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

事前の説明会、個別の相談等にて説明する。

#### 〔科目内容の位置付け〕

専門選択科目であり、課題研究を受講することが4年次の卒業研究を受講するための条件である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

生理学、運動生理学、スポーツ生理学、体育スポーツの測定と評価、トレーニング論、トレーニング実習Ⅰ、トレーニング実習Ⅱ

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	齊藤 武利		

#### 〔講義目的〕

様々なスポーツ支援活動に視点をあて、競技力向上やスポーツ障害予防、あるいは、アスレティックリハビリテーションなどのスポーツ医・科学・情報に関わるアプローチの方法論などについて、教育的視点を持って、議論し、卒業論文作成に繋がるような各自の研究テーマを採す。

#### 〔講義内容〕

教育に関連する医・科学的な測定機器などを使用し、その使用方法やスポーツ現場での応用などについても視点を絞って、学習する。個人で興味のある課題について探求し、整理したものをプレゼンテーションして、受講生同士でディスカッションを行い、課題の内容を高める。

主な課題の例

- ・スポーツ現場における ACL 損傷後のアスレティックリハビリテーションの実際について
- ・スポーツ現場における障害の調査研究
- ・足関節捻挫後のスポーツ現場への復帰について
- ・スポーツ選手のコンディショニングについて
- ・エリートスポーツ選手のスポーツ支援活動の実際について
- ・女性のスポーツ障害とトレーニングとの関連について
- ・持久的トレーニングとパフォーマンス向上、競技力向上との関連性について

#### 〔教 材〕

特別に、教科書等は指定しない。ただし、個人の課題が明確に選定された場合は、個人の課題研究領域によっては、参考図書を指定し、研究を進める。

個人の発表などの場合、視聴覚機材を使って、プレゼンテーションを行うこともある。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

全体の2/3以上の出席（授業の参加）が、期末試験やレポート提出により成績を評価するための前提条件とする。個人発表やディスカッションも行うため、授業の導入は非常に重要であり、原則的に遅刻は、認めない。

#### 成績の評価基準

- 出席 30%
- テストおよびレポート 30%
- 小レポートや各種課題の提出 30%
- その他総合評価 10%

#### 〔履修のポイント・注意点〕

参加する学生は、自分が積極的に参加し、自らが興味のある課題を探求しようとして参加すること。学期の途中で履修を放棄することのないように積極的に参画すること。

課題研究Aの成績評価を受けたものの受講が望ましい。

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	藤井 和彦		

#### 〔講義目的〕

課題研究のテーマは「スポーツ（レクリエーションを含む）のマネジメントとマーケティング」とする。キーワードは、スポーツ経営、スポーツマネジメント、レクリエーションマネジメント、マーケティング、学校体育、地域スポーツ、民間フィットネスクラブ、スポーツイベント、スポーツサービス、レクリエーション事業、社会調査の方法、などである。

#### 〔講義内容〕

課題研究A・B（継続とする）を通じ、以下の内容を適宜組み合わせながら構成する。

##### ①ディスカッション

ディベート、グループワークによるスポーツ、レクリエーションをめぐる現状分析と課題の抽出。

##### ②基礎理論の学習

スポーツやレクリエーションの経営、マネジメント、マーケティング等に関する基礎理論の学習。キーワードの整理。

##### ③視察・観察

学校体育や地域のスポーツ、レクリエーション活動、民間フィットネスクラブ、プロスポーツなどの現場視察・観察

##### ④調査技法の学習

スポーツやレクリエーション現象を捉える調査技法の学習と実際の調査計画の立案。コンピュータを使ったデータ解析方法と分析・考察方法の学習。

##### ⑤研究成果のまとめ

各自の関心に基づき、テーマを設定し研究に取り組む。成果を簡単な研究報告形式でまとめる。

#### 〔講義のすすめ方〕

上記の通り

#### 〔教 材〕

その都度資料を配付、或いは持ち寄り、それを中心に進めていく。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席状況、授業やワーキングへの取組姿勢、研究内容・成果を含めて総合的に評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

指導方針：自発的な学習姿勢、独創的な問題意識・主張、組織的な取組を重視する。

注意事項：スポーツやレクリエーションのフィールドに自ら飛び出す行動力が必要となる。下記の視察研修や時間外の研究活動などを行う場合もある。最低限、これらに対応できる学生であってほしい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

専門科目であり、課題研究A・Bを受講することが4年次の卒業研究を受講するための条件である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

体育経営管理学、体育社会学、スポーツ行政論、レクリエーション理論など

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	近藤 智靖		

#### 【講義目的】

本科目の目的は、課題研究Aとの関連を図り、体育科教育学の知識をさらに深めることである。

童専攻)、体育科教育法ⅠⅡ(スポーツ健康専攻)の内容を十分に理解している必要がある。

#### 【講義内容】

本科目では、以下の内容を取り上げる。

- ①授業作り→体育科教育(児童教育専攻)体育科教育Ⅱ(スポーツ健康専攻)や教育実習事前指導(スポーツ健康専攻)との関連を図りながら、これまでの模擬授業を反省的に振り返り、履修者間で追試を行う予定である。
- ②卒業研究との関連→卒業研究へのつながりを考え、プロジェクトチームを作り、先行研究の収集や発表を行う。

#### 【講義のすすめ方】

本科目の前半では、各自が対象学年を設定し、教材研究、教具作り、指導案作成(本時案のみ)を行い、実際に教師役として一時間の授業を取り仕切る。そのビデオ撮影し、自ら分析し、翌週に視聴しながら問題点を検証する。また、後半では、卒業研究のための資料収集と発表を行う。

#### 【教 材】

Aと同じ

#### 【成績評価の方法・基準】

模擬授業と先行研究の検討を評価の対象とする。模擬授業の評価は、指導案、指導行動、授業の目標・内容・教材などの一貫性を基準とする。先行研究の検討では、まとめ方や対象とした文献の理解度を基準とする。

#### 【履修のポイント・注意点】

特になし

#### 【科目内容の位置付け】

本科目は、体育科教育法の応用として位置づけられる。

#### 【前提・関連科目(科目間関連の内容)】

本科目の履修にあたっては、体育科教法(児

<b>科目名</b>	課題研究B		
	－女性と仕事・男性と仕事－そのストレスの背景にある心理的、社会的側面についての研究		
<b>単 位</b>	2	<b>開 設</b>	半期
<b>教 員 名</b>	海原 純子		

#### 【講義目的】

均等法以来、女性の社会進出は進んだ様に見える。しかし、「女は女らしく」という思いにとらわれ、自己表現が苦手であったり、家事、介護など従来からの女性の役割と仕事の両立にバーンアウトするケースも多い。

一方、男性もまた「男らしく」という思いに縛られ、社会組織と一体化してアイデンティティを確立してきたものの、バブル崩壊後不況、リストラの波により所属する場を失い、自殺に至るケースもふえている。

男女それぞれの、生育過程の問題点、格差について研究していきたい。

#### 【講義内容】

- 1、女性のアイデンティティ  
男性のアイデンティティ
- 2、マズローの欲求説について
- 3、いかに女性が自己実現を進めていくか
- 4、女性と自己表現について

#### 【講義のすすめ方】

女性が自分らしく生きるためには何が必要かについて、課題研究Aでの知識をもとに話し合っていきます。

Aと同様、かのアンケート調査などを行う。

#### 【教 材】

そのつど指示します。

#### 【成績評価の方法・基準】

自分の言葉での意見発表とレポート、講義への参加の積極性

#### 【履修のポイント・注意点】

自分の視点でものを考えていくことを重視します。

#### 【科目内容の位置付け】

将来の自分の生き方を考える基盤を作って欲しい。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

課題研究Aを終えた後、課題研究Bに進むことでより理解が深まるでしょう。

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	小原 政敏		

### 〔講義目的〕

課題研究Aに引き続く科目であり、課題研究Aを履修していることが前提である。

保育園・幼稚園・小学校の理科教育における自然観察方法や実験方法を具体的に研究する。新しい実験方法の開発や科学玩具の研究開発などを目指している。

### 〔講義内容〕

#### 1) 小学校

- ・理科実験観察の内容調査
- ・実験の追試
- ・新しい実験の開発研究
- ・小学生向きの科学玩具の開発
- ・理科学習用パソコンソフトの開発

#### 2) 幼稚園・保育園

- ・園児が遊ぶおもちゃの調査
- ・園児が遊ぶおもちゃの開発
- ・集中力を高めるおもちゃの研究
- ・おもちゃを用いた遊びの開発
- ・自然の動植物や石・砂を利用する遊びの開発
- ・風・水を利用する遊びの開発
- ・光・音を用いた遊びの開発

#### 3) その他理科教育に関するもの

### 〔講義のすすめ方〕

受講生一人一人が興味関心を持つ理科教育に関する実験方法や科学玩具などに関して学習・研究・開発を行う。時々、全員で一つの課題について討論し、新しいアイデアや問題解決法を考える機会を設けて学習や研究を推進する機会とする。

### 〔教 材〕

教科書 特に定めないが、多くの関連書物がある。

参考書 必要に応じて紹介する。

VTR・パソコンソフト

補助プリント

### 〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験 実施しない。

レポート・作品

提出・内容について評価

判定基準（講義内容で変更あり）

・試験点数 0%

・出席率 20%

・レポート・作品 80%

### 〔履修のポイント・注意点〕

我が国では、子どもの理科離れが進んでいると言われている。保育園・幼稚園・小学校の子どもたちに、自然のおもしろさ・楽しさを訴えられるような理科教育の創造を目指して欲しい。

### 〔科目内容の位置付け〕

この科目は、課題研究A（2単位）と合わせて年間を通して実施するものである。

幼稚園や小学校の理科教育に興味関心を持ち、自分でも新しい理科の指導法の研究や開発を望んでいる人を対象としている。本を読んでその内容についての学習ではなく、具体的な自然現象や事物について物作りや実験を中心に進めるものである。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目 理科概説、初等理科、課題研究A関連科目

・教養科目として「環境科学」がある。

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	後藤 達生		

**【講義目的】**

課題研究Aと変わりません。算数教材の背景にあるものを様々な資料により、さらに深く探求することになります。様々な文献を自らが検索し、文献を読みこなすことの楽しさを知ってもらうことがこの講義の主たる目的です。

**【講義内容】**

課題研究Aの講義内容と同様です。

- ・ 様々な記数法
- ・ 分数
- ・ 小数
- ・ 平面図形・立体図形
- ・ いろいろな量

**【講義のすすめ方】**

課題研究Aと同様ゼミ形式の授業で、レポーターによる報告が中心となります。

**【教 材】**

適宜資料を配付する。

**【成績評価の方法・基準】**

出席状況、授業でのレポート等により評価します。

**【履修のポイント・注意点】**

小中学校教員を目指す学生を優先します。

**【科目内容の位置付け】**

卒業研究の基礎科目。

**【前提・関連科目（科目間関連の内容）】**

前提とする科目は特にありませんが、算数概説、初等算数、算数科教育法とは深く関わっています。また、課題研究A、Bは連続して受講することを原則とします。

科目名	課題研究B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	今田 政成		

**〔講義目的〕**

「器楽（ピアノ）のアンサンブルの魅力とは」をテーマに器楽音楽の研究を行い、音楽表現の基礎を高めることを目的とする。

具体的には、ピアノの連弾曲や2台のピアノ曲などを教材として、アンサンブルの研究を行う。幼稚園、小学校などで使われている曲の伴奏法等の研究を行う。研究課題は学生自身が設定する。

**〔講義内容〕**

現場におけるいろいろな音楽教材のピアノ曲や伴奏法などを、さらに充実させるため、アンサンブル的教育価値観の高い連弾や2台ピアノの研究を行う。MLシステムのクラピノーバ多重録音機能を使い、アンサンブルの研究を行う。

**〔講義のすすめ方〕**

関心のある作曲家・曲等具体的に自ら設定し、計画をたてて課題を決定する。これらに基づき指導を行う。

**〔教 材〕**

必要に応じてプリントする。

**〔成績評価の方法・基準〕**

課題研究への取り組み姿勢や、内容により総合的に評価する。

**〔履修のポイント・注意点〕**

研究内容に対しての練習、準備を行うこと。

**〔科目内容の位置付け〕**

課題研究 A から続いて履修すること。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

音楽実技Ⅰ（基礎）音楽実技Ⅱ（こどもの音楽）

科目名	課題研究B		
	幼児教育理論の比較研究		
単位	2	開設	半期
教員名	五十嵐 敦子		

**〔講義目的〕**

モンテッソーリ・メソッドを中心に、他の教育理論や教育実践との比較研究を試みたい。

**〔講義内容〕**

子どもの発見者としてのルソー、幼稚園の父であるフレーベル、モンテッソーリと同様に障害児教育に取り組んだベルギーのドクロリー、日本における代表的教師とされる林竹二など、他の教育理論との共通点と相違点を明らかにする。また、教育実践における各理論の今日的意義についても検討する。

**〔講義のすすめ方〕**

文献を読んで、理解したことをまとめてレジュメ（要旨）を作成し、発表する。

**〔教材〕**

プリントを配布する。

**〔成績評価の方法・基準〕**

出席、発表・討論への参加、最終レポートなどで、総合的に評価する。

**〔履修のポイント・注意点〕**

文献講読が中心になるので、それを覚悟のうえで受講すること。また、受講生全員が積極的に参加できる討論を目標としているので、積極的に前向きな姿勢を持つ学生を期待している。

**〔科目内容の位置付け〕**

原則として、課題研究Aと課題研究Bを連続して履修すること。

課題研究ABを受講することが4年次の卒業研究を受講するための条件である。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

課題研究A

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	竹島 克己		

**【講義目的】**

スポーツ健康専攻に所属する学生にとって、スポーツと健康に関する研究を4年次に行うことは、大学生活の集大成としてたいへん意義がある。スポーツと健康に関わり、関心を持ったことについて、1年間研究し論文を作成し発表する。スポーツや健康に関しての研究は、測定・調査・分析・文献研究などを組み合わせ、独自性のあるものが多い。自分なりの研究を深め、スポーツの精神や健康を涵養する姿勢を、体育人として身につけてほしい。

**【講義内容】**

陸上競技を通じた研究を行う。陸上競技の「走」「跳」「投」はスポーツの基本である。陸上競技にはスポーツに関するありとあらゆるものが含まれる。関連する事項に興味があれば、陸上競技に限定しない。研究の例としては、次のようなものが挙げられる。

1. 「走」「跳」「投」の動作分析の研究
2. 筋力・持久力と競技能力の関係の研究
3. 生理的能力と競技能力の関係の研究
4. 能力差分析の研究
5. トレーニングスケジュールの研究
6. コーチングの研究
7. 体型・体格と競技能力の研究
8. 運動・栄養・休養と競技能力の関係の研究
9. 強化合宿の効果の研究
10. 競技大会（オリンピックなど）の分析などの研究

これらは、ほんの一例である。できれば授業の当初から何らかの測定を継続したい。その測定の結果を結びつけ関連を分析し、より実証性のある内容にしていきたい。

**【講義のすすめ方】**

まず、研究の方向性を明らかにする。課題を決定していない段階でも、なんらかの測定を継続していく。その場合、協力者を依頼する。たとえば、鉄棒運動をある一定期間おこなわせ、「懸垂逆上がり」と走力、「リバウンドジャンプ」と走力についてなど、関連を明らかにし研究の手助けとする。

興味ある研究課題について、文献研究を行

う。実際に利用できそうな知識やアイデアについては発表し、他と意見交換をしあう。

**【教 材】**

図書館などの文献。各種測定器具など。

**【成績評価の方法・基準】**

1. 論文の評価
2. 発表の成果
3. 参加度（出席状況・積極性）

**【履修のポイント・注意点】**

日頃から問題意識や好奇心を持ってスポーツや健康に注目してほしい。自分自身の関心が、研究の対象となる。問題意識が様々な工夫となり、スポーツ技術の向上につながり、健康に対する意識づけとなる。

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	中谷 陽子		

#### 〔講義目的〕

基礎を学習する時点では、教科目を中心に勉強をし、そこから得られた成果を各人の力で応用し、更にもどのような発展にまで持ち上げられるかということに各々が全力を投じて研究を進めることに、卒業論文作成の目的がある。

#### 〔講義内容〕

学生は、卒業論文を書き進めるにあたって、次の項を指導の中で学ぶこととする：

- ・すでに履修し終わった課題研究A、Bと連動した方向づけをする。
- ・関心を寄せている課題をあらためて研究の方向へすえ、研究の目的や方法をあきらかにする。
- ・より深い研究を進めるために、定期的に段階ごとの研究報告をする。
- ・研究の意義、オリジナリティーについて、十分に自発的に進められることを求める。
- ・研究の方法として学生が十分に活用できるものを学び、それを実践する。
- ・結果、結論を導き出すための十分な分析能力を勉強する。
- ・作文することをおろそかにしない論文作成の態度を貫く。
- ・最後に、研究から得られた結果が実際にいかなる意味で役に立つかを考察する。

#### 〔講義のすすめ方〕

1. 十分に討論、文献調査、実践的吟味を重ねて方向付けていく研究方法を展開する。
2. 実践研究から学び取る地道な研究方法を身につける。
3. 考える・探る・試す・取り出す・読み取る・まとめるなどの実践力を身につける。
4. 自分の考えを言葉でしっかりと表現できてはじめて論文が書けることを悟らせる。

#### 〔教 材〕

必要に応じて紹介し、参考とする。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

- ①出席状況
- ②質の高い論文を構築する。

③論文執筆に当たっての高い文章作成力を求める。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

卒論は必修科目ではないので、途中まで進んでいても、努力不足や力不足の学生には断念するように指導者の立場から助言することもあると覚悟して欲しい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

学生の自発的な意志に支えられるもので、完成させた暁には、学生として獲得したものの中で特に意味深いものとなり、自信にもつながると言えよう。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

特になし。

科目名	卒業研究		
単位	8	開設	通年
教員名	荒井 洵		

#### 【講義目的】

幼児保育という社会的な営為は、その量的な面において、日本は世界にあってトップレベルの位置にまできました。そのために費やされるエネルギーは、実に膨大なものと推定されます。ちなみに、企業にとっても参入すべき領域として注目されるようになりました。

しかし、ここで考えておきたいことは、人間の乳幼児期を扱う仕事なのですから、深みのある人間論に裏打ちされねばならないということです。

ですから、大学に学ぶ者としては、努めて哲学的に、あるいは歴史的に、さらには文学や芸術的センスをも含めて研鑽に努めるべきではないでしょうか。

大学生として最終学年にある諸君は、このような思いを胸にして、心静かにこの教科に力を注いでいただけたらと願います。

そこで、社会に出て多忙な日々を送るようになってからでは容易に取り組むことができない、すぐれた古典をテキストにして、深く読み込み、語り合い、認識を深め、幼児保育を支えるフィロソフィーを培うことができると考えます。

#### 【講義内容】

保育につながる古典としては、次のようなものが考えられます。例としてあげてみることにします。

1. ジョン・ロック『人間の教育』  
(イギリス)
2. ジャン・ジャック・ルソー『エミール』  
(フランス)
3. フリードリッヒ・フレーベル『人間の教育』  
(ドイツ)
4. ロバート・オーエン『自叙伝』  
(イギリス)
5. エレン・ケイ『児童の世紀』  
(スウェーデン)
6. ヨハン・ホイジンガ『ホモ・ルーデンス』  
(オランダ)
7. 大原幽学『微味幽玄考』(日本)

#### 【講義のすすめ方】

1冊の本を選び、歴史的、特に文化史的背景への認識を深めながら、深く読み込んでいくようにします。

その中から考察を深めたい内容をピック・アップし、保育や育児の現実と照らし合わせながら、より高みのある見解へと歩んでいきたいと思えます。

勉強した内容を自らの論文にすることは大変なことですが、スタイルばかりにとらわれずに、たしかな見解のあるものにまとめていくことが期待されます。

#### 【教材】

必要な、あるいは有益な参考文献は、おりおりに提示していくつもりです。

#### 【成績評価の方法・基準】

教育学部の内規に沿って評価します。

#### 【履修のポイント・注意点】

光陰は矢のごとし、です。4月当初から、ステップ・バイ・ステップで、確実に積み上げていきましょう。

#### 【科目内容の位置付け】

入学以来学習した、さまざまな知識やセンスが生かされるべき科目であることを認識してください。

#### 【前提・関連科目(科目間関連の内容)】

「保育原理」「幼児教育論」「課題研究」等が、特に生かされるものと考えます。

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	荒井 弘高		

〔講義目的〕

「音楽の魅力とは」をテーマに、人と音楽との関わり合いを探りながら各自児童音楽教育に関する題目を決定し、演奏および論文作成を行う。研究を行うことにより、自分自身の音楽的素養を高めることを目的とする。

〔講義内容〕

別紙参照、卒業研究スケジュールに沿って進める。

当授業の目標は以下の通りである。

4月下旬：題目決定

5月初旬：資料の整理及び実技指導開始

9月初旬：論文作成開始

12月初旬：完成

〔講義のすすめ方〕

学生が主体となり、自ら計画を立てた課題に基づき、実技・論文指導を行う。

〔教 材〕

必要に応じて指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

別紙（卒業研究の内容）を参照

〔履修のポイント・注意点〕

研究内容に対しての準備を積極的に行うこと。

〔科目内容の位置付け〕

音楽関連科目の卒業研究である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

課題研究A・B

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	伊崎 純子		

〔講義目的〕

学生自身が関心のある社会現象についてなんらかの仮説をたて、心理学的な研究手法を用いて調査研究し、結果をまとめ発表できる能力を養うことを目的とする。

〔講義内容〕

課題研究Bで学んだ、資料や情報収集・分析・結果に対する考察の仕方を駆使して、自分なりの社会の見方を発表できるように各自が自分のペースで研究をすすめていく。

教員は、必要に応じて、適宜資料を配布したり、方向性を確認したり、学生の研究を援助していく。

〔講義のすすめ方〕

第1期：文献の乱読：テーマの決定

第2期：調査デザインの模索

第3期：実験・調査の実施

第4期：論文作成

第5期：プレゼンテーションの検討

〔教 材〕

適宜指示する

〔成績評価の方法・基準〕

授業への参加態度を重視する。

〔履修のポイント・注意点〕

自分の卒論である。学生自身が目的をもって積極的に学んでいくことを期待する。

〔科目内容の位置付け〕

「認定心理士」資格申請では、「領域Ⅰ・その他の科目」（心理学関連科目）に区分される科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

同じ教員の「課題研究」を履修しておくことよい（場合によっては同時履修も相談の上認めることがある）。

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	岩城 淳子		

〔講義目的〕

本科目の目的は、保育・健康に関する領域から子どもに関する課題を発見し、それを深め解決していくというプロセスを学ぶことである。

〔講義内容〕

卒業研究では、3年次に履修した課題研究Bの成果を振り返り、さらに完成度の高い研究として各自がまとめていくことを目標にする。

〔講義のすすめ方〕

各自によるテーマ設定、中間報告、最終報告を基本とする。

〔教 材〕

授業の中で指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

研究デザイン、プレゼンテーション、研究結果などで総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

自主的な取り組みを期待している。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

課題研究A、課題研究B

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	奥澤 信行		

#### 〔講義目的〕

第3学年で履修済みの「課題研究A・B」での成果を踏まえ、卒論作成にあたって留意する事項を指導する。

#### 〔講義内容〕

卒論のテーマ設定から完成まで順を追って説明する。

- ①テーマ設定
- ②テーマに即した調査方法
- ③fieldworkの手法
- ④現地調査に関する事前・事後指導
- ⑤資料の分析方法
- ⑥論文構成と執筆要領
- ⑦中間発表の準備
- ⑧推敲と清書

#### 〔講義のすすめ方〕

少人数のゼミナール形式であるため、講義と各自の進捗状況に応じた研究発表を組み合わせを進める。

#### 〔教 材〕

各自の研究テーマに合わせた文献や資料を指示する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

卒論の完成度を最重要視するのは言うまでもない。そしてこれに加えて、出席状況と研究の進捗状況に応じた発表内容、さらに授業中の発言などを総合して評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

受講生各自が研究テーマを設定することになるが、いずれの場合も特定の地域を事例として取り上げなければならない。そして文献調査に加えて、実際に現地に赴いて景観観察・聞き取り調査・アンケート調査等のfieldworkを行うことを必須とする。また大学生活の集大成である卒論の作成には、多くの困難が伴うであろうが、これを乗り越える強靱な精神力と迅速な行動力が要求される。そして卒論完成という共通目標に向かってお互いに切磋琢磨できる受講生同士の人間関係の構築にも気配りできる心を持ってほしい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

「課題研究A・B」を継続履修し、関心のあるテーマに対する地理学的視点からの分析能力を身に付けていなければならない。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

「課題研究A・B（担当：奥澤信行）」を履修済みであることが前提となる。

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	粕谷 圭司		

〔講義目的〕

課題研究A Bで学んだ知識経験を生かし、日本古来の伝承玩具について検索・研究を進めることで、各自が自発的に興味を持ったテーマに関してより深い研究を進めていく講座としたい。その研究においては文献を中心としたものばかりではなく、実践に基づいての工作も含めた内容とする。

〔科目内容の位置付け〕

基礎的な道具の使用方法和その応用。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

課題研究A Bを履修済みであること。

〔講義内容〕

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索
- 第3回 文献検索
- 第4回 文献の整理・まとめ・発表
- 第5回 グループ毎に伝承玩具を製作
- 第6回 グループ毎に伝承玩具を製作
- 第7回 製作した玩具をおもちゃライブラリーで実践・観察
- 第8回 観察結果をレポートにまとめ、オリジナル玩具を発案
- 第9回 オリジナル玩具製作
- 第10回 オリジナル玩具製成
- 第11回 オリジナル玩具製成
- 第12回 オリジナル玩具の製作と実践
- 第13回 卒業論文の作成
- 第14回 卒業論文の作成
- 第15回 卒業論文の作成

〔講義のすすめ方〕

学生を3グループに分け、各テーマに沿って検索・研究を進めることにする。

最終的には各自オリジナル玩具とともに論文をまとめる。

〔教 材〕

製作目的に沿って各自用意する。

〔成績評価の方法・基準〕

各班全員で討議し、研究成果は製作と論文としてまとめたものを総合的に判断し、評価の対象とする。

〔履修のポイント・注意点〕

研究には責任を持って取り組み、自分の考えを積極的に出すよう心掛けること。

科目名	卒業研究		
単位	8	開設	通年
教員名	川瀬 善美		

#### 〔講義目的〕

1951年の社会福祉事業法制定以来大きな改正が行われて来なかった、社会福祉事業、社会福祉法人、措置制度など社会福祉の共通基盤制度について、2000年抜本的な見直しを行うため社会福祉事業法が社会福祉法と改正され公布・施行された。

その胎芽は、1990年代初頭から始まっていた。それが決定的なものとなったのは、保育の措置制度から選択制へ、あるいは2000年からスタートした介護保険制度による所が大きい。

措置制度から契約による利用措置への転換を含め福祉サービス提供の仕組みが変更されたのに伴い、社会福祉法人は自主的経営の実践を迫られることとなった。

また、2000年より経営成果を測定するため新たに社会福祉法人会計基準が制定。施行され、同基準によって作成された財務諸表を開示することが義務付けられてもいる。

一方で社会福祉制度の変化によって国民の福祉に対する意識は変化し、さらには規制緩和による市場原理の導入など、福祉経営の環境は激変したといってもよいと考える。

特に、措置制度下で形式的概念にすぎなかった経営概念が実態概念化し、社会福祉サービス供給主体である社会福祉法人は、名実共に、法人の健全なる持続的発展を実現するため主体的適応努力と経営活動の革新を余儀なくされた。

このような変化のなかでサービス供給主体として社会福祉法人が固有の社会的使命を貫徹しながら経営品質の高度化を実現し、サービス品質の向上を図るために何が必要なのかについて学術的に模索してみる。

#### 〔講義内容〕

卒業研究は、各自が定めた（本年度は履修を予定している学生共同で定めた）研究テーマにそって、研究に必要な調査、文献研究等を行い、分析結果等をそれぞれ論文としてまとめる事を最終目標としたものである。

#### 〔講義のすすめ方〕

- 4－5月 テーマ設定と文献研究
- 6－8月 調査研究
- 9－10月 調査結果分析及び中間発表会準備

11－12月 論文作成

#### 〔教材〕

必要なものは適時指示する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

論文（400字詰）75枚程度の論文を作成し、その内容等について主査、副査がそれぞれ査読し、口答試問の結果により判定を行う。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

卒業研究は日々の積み重ねによって成しとげられると考えられるので、スケジュールを立て、それに添ってコツコツと研鑽すること。

#### 〔科目内容の位置付け〕

卒業研究は定められた日時に中間発表及び論文提出（規定通りの枚数をもって）が単位取得要件となっている。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

特にないが、可能なかぎり福祉関連講義は履修することが望ましい。

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	小久保 裕		

#### 〔講義目的〕

子どもにとって、美術に関する諸能力を育てることは、単に、教養や情操の陶冶のみならず、人間性や想像的創造力を育む上で欠くことのできない営みと言える。

ここでは、美術（主に絵画）と子どもの育ちとの関わりを探りつつ、教師に求められる造形表現力と指導力の獲得をめざす。

本年度は以下の項目の中から、各自の興味関心あるテーマを設定し、卒業制作及び研究を行う。

#### 〔講義のすすめ方〕

- 1、絵本や「ミニ・シアター」製作、実践に基づく研究
- 2、絵画制作
  - ・油彩による模写、作家研究
  - ・自由テーマ  
(50-100号キャンパス)
- 3、紙で作る（子どもの発達と紙工作）
- 4、自然からの造形
- 5、子どもの描画研究（指導実践を含む）
- 6、その他

#### 〔教 材〕

各自テーマに沿って、個別に製作、研究を行う。又、教室外学習、実践活動、美術館見学等も積極的に行いたい。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

日頃の製作、研究への取り組み状況等も含め、総合的に判断し評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

自主性を期待する。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

特にないが、課題研究を履修していることが望ましい。

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	齋藤 一人		

**〔講義目的〕**

研究および卒業論文の執筆作成を通じて、専門知識と問題解決に利用できる能力を修得し、さらに計画的に研究を遂行する能力を持つ創造性豊かな学生の育成を目的とする。

**〔講義内容〕**

学生各自がテーマを持ち研究を行う。テーマ分野の中心は担当教員の専門分野を含んだスポーツ健康全般（野外教育も含む）で、その理論から方法論・マネジメント等の実践論に関するものすべてである。卒業研究中間発表会を行い、学年末に卒業論文を提出して卒業研究発表会を実施する。

**〔講義のすすめ方〕**

（前期）

自分の選んだテーマについての説明、考察とその根拠となるデータをまとめた内容の経過報告を毎週のゼミで行う。報告の前に、各自必ず報告構想（研究ノート）をまとめ、教員と打ち合わせの時間を持つこと。その内容については以下のとおりである。

- (1) 自分の卒業研究に予定するテーマはどのような分野のどのようなものなのか。
- (2) 問題意識を持つ—自分がなぜそのテーマを選んだ理由、そのテーマの何が問題なのか、どのように論じてゆきたいのか、整理する。
- (3) 先行研究—そのテーマについてはこれまでどのような研究があり、自分の問題点についてどこまで明らかにされているのか。また、それが自分の考えにどのような関係を持つのか、その文献や理論をどう評価するのか等。
- (4) 問いと仮説—(1)から(3)を踏まえて、「問い」とそれに対する自分の「仮説」を提示。
- (5) データ—仮説を検証するために、どのようなデータを集め、どのように分析すればよいか、方針を立てる。
- (6) 参考文献、参考資料一覧

（後期）

卒業研究のまとめと卒業論文の執筆

**〔教 材〕**

「知的コーチングのすすめ—頂点を目指す競技者育成の鍵—」河野一郎監修 勝田隆著大修館書店他 その都度、必要に応じて授業内で提示します。また、必要に応じて資料を配布する。

**〔成績評価の方法・基準〕**

毎週のゼミの報告と卒業論文で評価を行う。

**〔履修のポイント・注意点〕**

卒業論文の執筆・提出・発表会等の形式や日程を厳守すること。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

課題研究A B

<b>科目名</b>	卒業研究		
<b>単 位</b>	8	<b>開 設</b>	通年
<b>教 員 名</b>	富田 英也		

**【講義目的】**

音楽は、心を慰め癒し、メッセージを伝え、表現し、喜びを共有して、人間の心に感動を与えることができる。人間特有の反応と行動の行動様式や感性の育成で、音楽の価値が人間の心身の成長に影響を与える。音楽を愛好する心情が培われることで、美的情操を育み望ましい人間形成に繋がることを目的とする。

**【講義内容】**

音楽と人間の歴史や文化、音楽と人間のかかわりを学び、音に対する興味を模索探究し、研究テーマを設定して、最終目的である卒業論文を作成する。

**【講義のすすめ方】**

4月から5月、文献や資料収集、アンケート等調査項目の作成と依頼

6月から8月、テーマの設定と研究

9月から10月、調査集計、項目構成と分析や考察、論文作成

11月から12月、論文作成の完了

1月論文発表

**【教 材】**

必要に応じ指示する。

**【成績評価の方法・基準】**

論文の内容、取り組む態度や積極性

**【履修のポイント・注意点】**

決められた授業時間だけで出来るものではない、日常生活で発案することや普段の努力によって達成されるものである。

**【科目内容の位置付け】**

課題研究や今まで培ってきた音楽関連科目の様々な経験を生かし、総まとめの場である。

**【前提・関連科目（科目間関連の内容）】**

課題研究A・B

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	平田 乃美		

〔講義目的〕

- 1) 問題解決志向を持ち、研究テーマを設定する
- 2) 関連領域の先行研究と研究遂行に必要な技術や倫理等を学ぶ
- 3) 1)、2)を経て、卒業研究（心理学）を作成する

〔講義内容〕

担当教員の指導のもとで、心理学関連領域の研究テーマを設定して論文を作成します。卒業研究への従事を通して、これまでに学んできた知識や技術への理解が深まり、それらが具体的に活用可能な学習者の生きた力になることを目指します。研究課題の設定や、実現可能な計画作成、計画的な研究遂行によって、卒業研究は学習者の自主的な学習態度や行動力を養う機会となることが期待されます。また、ときには指導教員や研究室の仲間との討論・批判に対応することで、卒業研究の経験は論理的な思考や説明技術を鍛える場にもなるでしょう。研究テーマの設定から論文作成まで、指導教員は個別指導を行います。すべての作業には学習者が主体的に取り組まねばなりません。

〔講義のすすめ方〕

担当教員との相談の上、学習者が研究テーマや方法を決定します。実験装置・材料や調査票・データ処理のプログラム等、研究遂行に必要なものは各自が製作します。特定の卒業研究のために研究室が機材やソフトウェア等を新規購入した場合も、操作は各自で主体的に勉強しなくてはなりません。学業成果の集大成となる卒業研究を、限られた日程の中で最良なものとするため、研究指導では進捗状況に応じた研究計画の修正・更新を随時相談しながら進めていきます。

〔教 材〕

研究計画の初期段階では、指導教員が参考文献を紹介し、それらの文献をもとに、各自が自主的に関連領域の先行研究を収集します。論文構成や表記方法等については、論文執筆の手引き（アメリカ心理学会、日本心理学会編）を参照します。

〔成績評価の方法・基準〕

研究成果 80%  
研究態度 20%

〔科目内容の位置付け〕

認定心理士資格では、「卒業研究」（心理学関連科目）として申請が可能な科目です。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

原則として、本教員の「課題研究 A・B」の少なくとも1科目を履修していることを前提とします。

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	高橋 美保		

#### 〔講義目的〕

4年間の学習成果を基に、自分の興味や関心を深めてひとつの研究を行い、論文として集約する。そのためには、先ず各自が研究のテーマを定め、文献検索、資料の蒐集といった初段階の作業から始め、研究方法を検討して、卒業研究の基本的な作業を各自が取り組んでいく。

中間発表において要旨を作成し、発表を通して研究の方向性を再検討し、迷いや混乱、さらには不安といった精神的負担にも直面しながら、研究の難しさや面白さを経験する。

常に問題意識を持ち、その解決のためにどのような方法があるのかを探り、学び、論文完成に至るまでのプロセスを通して、課題の具体化や解決力、論文作成にあたっての表現力や文章力などを身につけていく。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

論文の完成度60% 研究への取り組み姿勢(学習意欲) 40%で、評価する

#### 〔履修のポイント・注意点〕

自己の興味や関心を具体化し、文章化する作業であるため、進めていくうえで困難さをともなう場合が予測される。

計画通りにいかないことも自覚し、自身で切磋琢磨して、完成に向け自己実現しようとする姿勢が重要である。

#### 〔講義内容〕

##### 1. 前期

- ① 研究テーマの設定
- ② 全体の構成と年間スケジュール
- ③ 文献検索
- ④ 資料蒐集
- ⑤ 研究目的と具体的方法の検討
- ⑥ フィールドワーク
- ⑦ アンケート用紙作成(質問項目の確認と作成)
- ⑧ アンケート実施場所の選定とアプローチ
- ⑨ 依頼先の選定
- ⑩ 回収と集計作業
- ⑪ 中間発表にむけての用紙作成
- ⑫ ディスカッション

##### 2. 後期

- ① 研究テーマにおける先行(予備)研究
- ② 情報蒐集とその実践
- ③ 得られた結果をまとめ考察
- ④ 論文指導
- ⑤ 引用文献、参考文献の整理検討
- ⑥ 全体的な目的、方法、内容の点検
- ⑥ 全体の完成度を確認する

#### 〔教 材〕

必要に応じて随時示す

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	内山 須美子		

〔講義目的〕

課題研究において設定した研究テーマをもとに卒業論文を作成する。

〔講義内容〕

各自が論文作成計画を立て、研究活動を行う。

〔講義のすすめ方〕

各自が論文作成計画の下に進める。

〔教 材〕

特に指定しない。

〔成績評価の方法・基準〕

研究活動への姿勢、論文の内容、プレゼンテーションの内容を含めて総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

自ら進んで学ぶ姿勢を持つこと。

〔科目内容の位置付け〕

専門科目であり、課題研究を受講していることが卒業研究を受講するための条件である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

課題研究 A、B（内山須美子）

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	益田 勇一		

**〔講義目的〕**

卒業論文の作成。

**〔講義内容〕**

各自の問題意識に応じたテーマを設定し、卒業論文を作成する。必要に応じて研究資料の収集方法、論文作成の手順について指導する。

**〔講義のすすめ方〕**

各自のテーマに即して進める。

**〔教 材〕**

適宜指示する。

**〔成績評価の方法・基準〕**

卒業論文による評価。

**〔履修のポイント・注意点〕**

思考を根気よく積み上げてゆくこと。

**〔科目内容の位置付け〕**

課題研究の成果からの発展。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

課題研究 A / 課題研究 B

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	伊東 孝郎		

#### 〔講義目的〕

前年度までに、課題研究等で研究した内容をさらに発展させ、学生各自が興味関心に従って研究を進めるものである。本研究はゼミ形式で、内容や方法に関するアドバイスを教員から受け、また学生同士も活発に討議していくことで、各自が研究の質を高め、最終的には卒業論文を完成させることを目的とする。

#### 〔講義内容〕

これまで課題研究等で研究した、教育相談や学校カウンセリングに関する内容をさらに発展させたものを基本とする。

#### 〔講義のすすめ方〕

各自の研究に関する進捗状況の発表、および討議を基本とする。

前期は、学校カウンセリングや教育相談に関する文献講読も行う。

#### 〔教 材〕

講義の中で適宜紹介する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

研究への取り組み姿勢と、成果としての卒業論文の内容から、総合的に評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

強い意志を持って研究を完遂すること。

困難な状況が生じたら、後回しにせず、その都度的確に対処すること。

#### 〔科目内容の位置付け〕

研究の内容が心理学に関係しているならば、認定心理士資格の「3. その他の科目」に該当する。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

同一教員による課題研究 A または B を受講済みであることを原則とする。

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	吉田 茂		

〔講義目的〕

卒業研究として選択した題目に即して個別にテーマの決定や研究方法を検討しつつ卒論論文の書き方や資料収集の方法などの指導を行なう。特に、卒論のテーマは個人の興味や関心に応じて選択するが、それらの解決はどのような文献や実験をすることで解決できるかを個別にアドバイスすることとする。

〔講義内容〕

運動学の基礎知識をもとに、さらにそれらを深めるため、各種の運動学関係文献を紹介し、説明する。特にマイネルの『スポーツ運動学』の内容は参考となるので全員に講義することとする。

〔講義のすすめ方〕

テーマに即して個人指導を行なうとともに全員に、論文の書き方、研究の進め方を講義する。

〔教 材〕

マイネル『スポーツ運動学』  
金子明友『技の伝承』  
金子明友『身体知の形成』(上)(下)  
金子明友『身体知の構造』  
その他に必要な研究論文を参考文献とする。

〔成績評価の方法・基準〕

研究の過程での取り組み  
研究論文としてのまとめり  
論文のオリジナリティー  
研究発表における発表能力などを総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

特に上記のうち  
研究の過程での取り組み、論文としてのオリジナリティーを重視する。

〔科目内容の位置付け〕

教科専門科目、現在は自由選択単位

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

運動学Ⅰ、Ⅱおよび課題研究A,Bを履修していること。

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	生野 金三		

#### 【講義目的】

平成10年に改訂された学習指導要領では、国語科の指導内容が「A話すこと、聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の三領域で構成されている。ここでは、言語活動の面より領域を分けているが、それは学習活動があつて初めて能力が身に付くものであるという立場からのものである。言葉の実態としては「話すこと・書くこと」「書くこと」「読むこと」の四者の言語活動が自然であり、斯様なことを踏まえる時、領域に相応しい教材を調和的に取り上げ学習を組織し、展開していく関連的指導がより開けてこよう。

以上のことを鑑み、卒業研究では、関連指導の史の変遷、関連指導の諸型、「読む」と「書く」との関連指導について研究することを目的とする。

#### 【講義内容】

本科目では、以下の内容について研究する。

- 1 読み書き関連指導と史的展開
  - (1) 湯本武比古の「読書入門」
  - (2) 垣内松三の「センテンス・メソッド」
  - (3) 芦田恵之助の「読み七変化」
- 2 表現と理解との関連指導  
(昭和52年改訂と平成元年改訂の学習指導要領より)
- 3 関連指導の諸型
- 4 「読み」と「書く」との関連指導の実践

#### 【講義のすすめ方】

講義、演習等を中心に授業を進めていく。

#### 【教 材】

文部省「小学校学習指導要領国語編」東洋館出版社

豊澤弘伸・斉藤武利・斉藤一人「実習における指導の技術」教育出版

#### 【成績評価の方法・基準】

欠席・ミニ課題、論文等で評価する。

#### 【履修のポイント・注意点】

出席をとる。授業内容は、積み上げ方式になっているので、前回の授業内容を踏まえておくこ

とが重要である。

#### 【科目内容の位置付け】

実践的指導力の基礎を体得して欲しい。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

各教科の指導法に関する科目、教科に関する科目。

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	金田 健史		

#### 【講義目的】

卒業研究では、課題研究A・Bで積み上げてきた各自の興味あるテーマを、より一層洗練されたものとして、研究テーマへと作り上げていく。その際、丁寧且つ正しい手順でまとめることを学び、正確且つ客観的に研究データを捉えられる方法を用い、自分自身で研究テーマを調査していくという一連の流れを学習していく。

大学生活を通して学んできた論理的に考えるという演習授業の学部段階でのまとめというような意味合いがあるものと思われる。実社会、スポーツに関わる各種の仕事、または教員という仕事では、多くの疑問を解決し、自分自身だけでなく、他者に対してもその疑問に思った内容をしっかりと理解できるように説明できる能力が必要である。卒業研究において、自分の研究テーマを絞り、それを客観的視点から突き詰め、論理的思考をもって考察するということを経験することによって、これから社会へ羽ばたくために必要な最低限の能力を身につける。

#### 【講義内容】

卒業論文作成に繋がる過程で必要な事項をひとつひとつクリアしていく。開始当初には、これまで課題研究A・Bを通して進めてきた各自の研究テーマに即した実験計画を精査していく。実験の実施が可能と判断される実験計画ができあがったのち、被験者、実験スケジュールの調整をおこない、予備実験、本実験へと移行していく。

#### 【講義のすすめ方】

各自の研究テーマについて、全体での討論とともに、個人的な方向性の修正、改善へむけた個別相談を実施しながら、各自の研究テーマに関する実験計画を作成し、実験の実施およびデータ処理、論文執筆、発表準備までを各自でおこなう。

#### 【教 材】

- 関連する研究テーマを扱った学術論文（英文、和文）
- 図書館等にある図書、雑誌類
- 測定機器の製造、販売会社のインターネット・ホームページ

#### ○機器の取り扱い説明書

#### 【成績評価の方法・基準】

研究へ取り組む姿勢、関連するテーマに関する知識、卒業論文の完成度、発表資料の内容、発表の内容、受け答え等を含めて総合的に評価する。

#### 【履修のポイント・注意点】

課題研究において、絞ってきた研究テーマについて卒業論文を作成し、提出、審査までを評価に含むものとする。

#### 【科目内容の位置付け】

専門選択科目

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

生理学、運動生理学、スポーツ生理学、体育スポーツの測定と評価、課題研究A、課題研究B

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	齊藤 武利		

#### 〔講義目的〕

課題研究A Bで積み上げてきた各自の興味あるテーマを、より一層洗練されたものとして、卒業論文の研究テーマへと作り上げて行く。その際、自分自身で探究する研究テーマの目的に沿って、正しい手順でまとめることを学習する。

論理的に考えるという、演習授業形式での学部段階でのまとめを卒業研究において行う。自分の研究テーマを絞り、それを客観的視点から突き詰め、論理的思考をもって考察することを経験することによって実社会で必要な最低限の能力を身につける。

#### 〔講義内容〕

卒業論文作成に繋がる過程で必要な事項について、実現に向けて準備していく。これまでの課題研究A Bを通して進めてきた各自の研究テーマに即した実験や調査、分析計画を検討し、実験計画などのスケジュールの調整をおこない、順次に本調査、本実験へと移行していく。

#### 〔講義のすすめ方〕

各自の研究テーマについて、全体での討論とともに、個人的な方向性の修正、改善へむけた個別相談を実施しながら、各自の研究テーマに関する実験計画を作成し、実験の実施およびデータ処理、論文執筆、発表準備までを各自おこなう。

#### 〔教 材〕

- 関連する研究テーマを扱った学術論文（英文、和文）
- 図書館等にある図書、雑誌類
- 測定機器の製造、販売会社のインターネット・ホームページ
- 機器の取り扱い説明書
- 各種VTR

#### 〔成績評価の方法・基準〕

研究へ取り組む姿勢、関連するテーマに関する知識、卒業論文の完成度、発表資料の内容、発表の内容、受け答え等を含めて総合的に評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

課題研究において、絞ってきた研究テーマについて、さらに探究し、卒業論文として、体裁を整えて作成し、提出、発表、審査によって評価する。

#### 〔科目内容の位置付け〕

専門選択科目

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

スポーツリハビリテーション論、スポーツ医学、トレーニング論、ラグビー実技理論、課題研究A、課題研究B

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	藤井 和彦		

#### 〔講義目的〕

研究の領域は「スポーツ（レクリエーションを含む）のマネジメントとマーケティング」とする。

課題研究A Bで得た基礎的知識に基づき、各自の興味・関心に応じた研究テーマを設定し、卒業論文の作成に取り組む。

あわせて、「スポーツマネジメント・マーケティング」という領域の中で、自己の調査結果や見解を、論理的に構成し論文として表現していく方法を学ぶ。

#### 〔講義内容〕

- ①各自の興味・関心に基づく研究テーマの設定
- ②論文作成を進めていく上での各種方法やルールの理解
- ③卒業論文への取組

上記の内容で、原則としては各個人のペースで論文作成のための研究を進める。定期的に発表会を実施し、研究内容についての見直しを行う。

#### 〔講義のすすめ方〕

上記の通り

#### 〔教 材〕

その都度資料を配付、或いは持ち寄り、それを中心に進めていく。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席状況、研究活動やワーキングへの取組姿勢、研究内容・成果を含めて総合的に評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

指導方針：自発的な学習姿勢、独創的な問題意識・主張、組織的な取組を重視する。

注意事項：スポーツやレクリエーションのフィールドに自ら飛び出す行動力が必要となる。下記の視察研修や時間外の研究活動などを行う場合もある。最低限、これらに対応できる学生であってほしい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

専門科目であり、課題研究A Bを受講することが4年次の卒業研究を受講するための条件である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

課題研究A B（藤井）、体育経営管理学、体育社会学、スポーツ行政論、レクリエーション理論など

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	近藤 智靖		

〔講義目的〕

これまで体育科教育法や課題研究で学習したことの総まとめをすることが目的である。

〔講義内容〕

一人一人研究テーマを設定し、その課題を探求し、論文としてまとまる。テーマ設定、先行研究の収集と検討、研究方法の検討、実地調査、分析、論文の執筆等を行う。その過程で、中間発表会、論文発表などを行う予定である。

〔講義のすすめ方〕

基本的に週に一度、履修者が全員集まり進捗状況を報告する。さらに、個別の対応が必要な場合には、時間外に集合する。

〔教 材〕

適宜指定する

〔成績評価の方法・基準〕

論文の完成度を評価の基準とする。先行研究、目的、方法、結果、考察などの検討状況や論文としての一貫性を評価する。また、チームで一つの授業を分析する場合については、授業撮影の参加状況や態度なども評価の視点として加える。

〔履修のポイント・注意点〕

卒業研究はこれまでの講義や演習と異なり、書籍の通読や簡易なレポートではすまされません。設定した課題の根底にある理論を探求したり、根拠のある証明をしなくてはなりません。研究としての質の高さを求める。

〔科目内容の位置付け〕

課題研究をはじめとした研究の総まとめの活動として位置づけられる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

課題研究A B

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	馬場 将光		

〔講義目的〕

卒業研究は、基本的には学生がテーマを決める。そのテーマにそって資料を収集し、それを読み、まとめて、そこから新しい知見を導き出すものとする。

資料を読み、分析し、まとめる過程を通して、他の人とは違う自分の考え方を持つことができるようになることを目指したいと考えている。もちろん、日本語を書くことができるようになることも目的のひとつである。

〔講義内容〕

卒業研究の指導は、おおよそ次のような過程で進む。

- 1) テーマを決めるために、基本的な文献を読む。その過程で自分が関心を持ってそうなくつかのテーマを考える。それについて、学生と指導教員が話しあうなかから、学生が最終的なテーマを自分で決める。
- 2) テーマについての文献、資料を収集して、それらを読む。読む際には、必ずメモをとる。文献、資料については、教員が指導する。
- 3) 論文の構成を必ず教員に前もって提出する。そこで、全体的な構成についての指導を行う。
- 4) なんでもいいから、どこかにオリジナリティーのあるものに仕上げる。人まねは避けなければならない。
- 5) できるだけ単なる事実の紹介的な内容を記述することは避けて、理屈、理論を展開するような論文に仕上げるようにする。

〔講義のすすめ方〕

毎週、自分のテーマに関係した資料をどの程度読んだかを報告する。

〔教 材〕

とくに指示はしない。自分で文献、資料を収集するようにすること。概説書は避けて、学術書もしくは専門的な図書を読むようにした方がいいし、できるだけ研究論文を読むようにした方がいい。

〔成績評価の方法・基準〕

卒業研究を読んで、その内容について総合的な評価を行う。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

課題研究 A,B を履修しておくことが必要である。

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	海原 純子		

#### 〔講義目的〕

均等法以来女性の社会進出は進んだように見えるが、家事と子育て、仕事の両立に悩む女性も多い。子育て後のアイデンティティー喪失によるうつも起きやすい。また女性のストレス性疾患の背景に、まわりに過剰にあわせようとする過剰適応もみられる。

女性が自分の人生を生き生きと生きる為に必要なこと、サポートなどについて考察していくことを目的とする。

#### 〔講義内容〕

各自の興味を感じるテーマを決め、必要な調査・文献研究を行い論文とする。

#### 〔講義のすすめ方〕

4月－5月 テーマ設定・方針を決める

6月－8月 調査

9月－10月 中間発表会準備

11月－12月 論文作成

#### 〔教 材〕

必要に応じて指示

#### 〔成績評価の方法・基準〕

(400字)75枚の論文作成。

その内容について審査する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

興味あるテーマを研究することは自分の専門分野をつくる大切なこととなる。

自らのアイデンティティーを確立する基盤として学問に取り組んでほしい。自分の視点で物事を研究することが大学で学ぶ大切なことだと思う。

#### 〔科目内容の位置付け〕

卒業研究は中間発表、論文提出が単位必要条件となっている。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

特になし

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	小原 政敏		

【講義目的】  
課題研究A・Bを履修していることが前提である。

保育園・幼稚園・小学校の理科教育における自然観察方法や実験方法を具体的に研究する。新しい実験方法の開発や科学玩具、おもちゃの研究開発などを目的としている。

【講義内容】

- 1) 小学校関連
  - ・ 理科実験観察の内容調査
  - ・ 新しい実験の開発研究
  - ・ 小学生向けの科学玩具の開発
  - ・ 理科学習用パソコンソフトの開発
- 2) 幼稚園・保育園関連
  - ・ 園児が喜ぶおもちゃの開発
  - ・ 集中力を高めるおもちゃの研究
  - ・ おもちゃを用いた遊びの開発
  - ・ 自然の動植物や石・砂を利用する遊びの開発
  - ・ 風・水を利用する遊びの開発
  - ・ 光・音を用いた遊びの開発
- 3) その他理科教育に関するもの

【講義のすすめ方】

受講生一人一人が興味関心を持つ理科教育に関する実験方法や科学玩具などに関して学習・研究・開発を行う。時々、全員で一つの課題について討論し、新しいアイデアや問題解決法を考える機会を設けて学習や研究を推進する機会とする。卒業論文を作成する。

【教 材】

教科書 特に定めないが、多くの関連書物がある。

参考書 必要に応じて紹介する。

VTR・パソコンソフト

補助プリント

【成績評価の方法・基準】

筆記試験 実施しない。

レポート・作品・卒業論文

提出・内容について評価

判定基準

・ 試験点数 0%

・ 出席率 20%  
・ 卒業論文・作品 80%

【履修のポイント・注意点】

我が国では、子どもの理科離れが進んでいると言われている。保育園・幼稚園・小学校の子どもたちに、自然のおもしろさ・楽しさを訴えられるような研究・理科教育の創造を目指して欲しい。

【科目内容の位置付け】

この科目は、課題研究A（2単位）・B（2単位）に引き続き年間を通して実施するものである。

幼稚園や小学校の理科教育に興味関心を持ち、自分でも新しい理科の指導法の研究や開発を望んでいる人を対象としている。本を読んでその内容についての学習ではなく、具体的な自然現象や事物について物作りや実験を中心に進め、論文や作品を完成するものである。

【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

前提科目 理科概説、初等理科

理科教育法

課題研究A・B

保育内容研究・演習

関連科目

・ 教養科目として「環境科学」がある。

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	五十嵐 敦子		

〔講義目的〕

卒業論文作成の指導を行う。

〔講義内容〕

教育学・教育史（幼児教育を含む）に関する基本文献・史料を講読し、教育を研究する方法に習熟し、問題意識を深める。受講生は各自が選んだテーマに沿って研究を進める。

〔講義のすすめ方〕

1. オリエンテーション（4月）
2. 文献資料の収集（4、5月）
3. 研究テーマの明確化及び章立て（5月末）
4. 先行研究の整理（7月上旬）
5. 研究方法の検討（7月中旬）
6. 草稿に基づく個人指導、卒論中間発表会（10月下旬）
7. 論文についてのアドバイス・修正
8. 卒論発表会（2月上旬）

〔教 材〕

適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

論文の完成度を中心に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

個人面談（随時）が中心となると思うので、自己の課題意識を明確にし、積極的かつ意欲的にテーマを追究してほしい。

〔科目内容の位置付け〕

大学生生活四年間の集大成である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

課題研究A・B

科目名	卒業研究		
単位	8	開設	通年
教員名	後藤 達生		

#### 〔講義目的〕

卒業研究の本来のあり方は、大学の多くの講義、とくに教科概説、教科教育法や課題研究などで学んだことを通して、学生自らがテーマを見つけ研究を深め、その成果をまとめるというのが理想です。自らが主体的に学ぶという経験は貴重です。大学生活の締めくくりに、卒業後ももっとも深く印象に残るであろうこの貴重な経験をしてもらうのが、卒業研究の大きな目的です。

#### 〔講義内容〕

学生一人ひとりがどのような研究テーマを選ぶか、その舵取りが指導教官の最初の仕事です。また、研究の成果を卒業論文としてまとめるために、毎回の授業での積み重ねが大切になります。その際パソコンの活用は欠かせません。くわえて算数科の場合、図の挿入が大きな問題になります。適当な作図ツールを使いこなせるようになることも、卒業研究のひとつの課題になります。

#### 〔講義のすすめ方〕

通常の講義と違って主体は学生にあり、教官が一方向的に授業を進めることはありません。研究の進み具合を見ながら、指導教官は適当な資料や文献を与えたり、コメントを与えたりしますが、あくまでも一人ひとりの学生が主体となって研究が進みます。ゼミ生相互による議論も重要です。

#### 〔教材〕

教材は学生それぞれが選んだ研究テーマによって違うことはもちろんです。教官が選んだ文献であったり、学生自らが見つけた資料であったりします。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

卒業研究ではその成果を卒業論文として冊子にまとめます。その内容により成績評価をします。また、冊子の体裁、できれば評価の対象にします。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

与えられた課題だけをこなすというのでは、

よい研究にはなりません。

#### 〔科目内容の位置付け〕

専門科目のうちの関連科目にあたる。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

〔前提科目〕 課題研究 A, 課題研究 B

〔関連科目〕 算数科教育法, 算数概説, 初等算数

科目名	卒業研究		
単 位	8	開 設	通年
教 員 名	今田 政成		

**【講義目的】**

「アンサンブルの音楽」をテーマに、児童教育の音楽に関する分野の中から自分にあったテーマを研究する。論文作成及び演奏を行ない音楽的素養を向上させることを目的とする。

**【講義内容】**

卒業研究スケジュールに沿って進める。

前期：題目決定  
資料収集・実技指導

後期：論文作成  
完成

**【講義のすすめ方】**

学生が決めたテーマに基づき、実技・論文指導する

**【教 材】**

テーマにあった資料及び楽譜を配布する

**【成績評価の方法・基準】**

卒業研究の内容を参照

**【履修のポイント・注意点】**

研究内容の準備を毎回すること。

**【科目内容の位置付け】**

音楽関連科目の卒業研究である。

**【前提・関連科目（科目間関連の内容）】**

課題研究 A・B

科目名	教師論		
単位	2	開設	半期
教員名	石堂 常世		

### 【講義目的】

本講義は教員免許状の取得をめざす学生諸君を対象として、教師に関する必須の重要テーマを取り上げ、教職への確かな教養を深めると共に、教職への使命感と責任感と希望をもつようにし、専門職者として教職への自信と理解を深めるように指導する。

しかし同時に、学校教師以外に、幅広くスポーツインストラクター等の職種を考えている学生諸君にも有益な授業であるようにはからう。

### 【講義内容】

1. 教職の歴史、教師像の変遷を知ること。
2. 現実の課題、将来への要請を学び、教員としての適性を自覚させる。
3. 子どものかかえている問題に対応でき、子どもの成長をみつめて支援でき、子どもと喜び・悲しみを共有できる、そうした生徒指導能力（含特別支援教育の力量）のある教師の育成をめざす。
4. 教師の学習指導能力・指導技術の練磨について、校内・校外の教員研修システムを理解させる。
5. 文科省から出ている教員養成や教員の資質向上・改善に関する審議会・委員会の答申書または審議録を学ばせ、いかなる教師が求められているかを、教育行政的にも自覚させる。
6. 他国の教師の実態の一端を学ぶことによって、国際的視野から教職を理解できるようにする。
7. 教員の服務規定を学ばせ、教員倫理の自覚を促す。

### 【講義のすすめ方】

- 第1回 序：授業計画：プロとしての教師像、教職の意義
- 第2回 「私はなぜ教師をめざすのか」の考察・発表
- 第3回 教師像の研究1：聖職者像
- 第4回 教師像の研究2：師範学校と教師
- 第5回 教師像の研究3：日教組と教師
- 第6回 教師像の研究4：専門職者としての教師（ILO/ユネスコ勧告）

- 第7回 教育行政からみた教師の位置、教育法規からみた教師の業務
- 第8回 子ども理解・生徒指導・進路指導と教師の適性
- 第9回 教科・実技指導の専門的能力：授業研修
- 第10回 校務分掌：職場人としての教師
- 第11回 開放性教員養成：教職課程のシステムと構成
- 第12回 これからの時代に必要な教員の資質能力：答申書にみる教員養成政策の強化
- 第13回 教師の研究・研修制度・大学院留学制度：教職充実のライフスタイル
- 第14回 教員の身分と服務規定
- 第15回 定期試験

### 【教材】

10冊程度の参考文献を駆使して教えるために、教科書は定めない。  
毎回、授業内容レジュメとプリント資料を配布し、かつ授業中に、随時、参考文献を示唆する。

### 【成績評価の方法・基準】

総合点  
出席が半分以下の場合は、学期末試験の受験を認めることができない。

- ①授業中に出すレポート（A.B.C.Dの4段階評価）（10%）
- ②出席状況と授業態度の積極性・熱意（10%）
- ③学期末試験：論述形式3題（100点満点）（80%）

### 【履修のポイント・注意点】

レポートをしばしば出し、授業中に発表、資料読解をさせ、積極性を前提とした授業構成にする。

### 【科目内容の位置付け】

教職基礎科目の上位

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

教育原理を履修していること。

科目名	教師論		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	五十嵐 敦子		

#### 【講義目的】

現代社会における教師としての責任や役割について考えながら、学校教育をめぐる環境やさまざまな問題を認識し、教師に求められる適性、「教師をめざす」ことの意味を考える。

#### 【科目内容の位置付け】

教育に関する学問の基礎科目

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

「教育原理」「教育総論」「教育制度論」

#### 【講義内容】

1. 教育と教職①—他の職業との違い
2. 教育と教職②—聖職論から労働者論へ
3. 教員養成の歴史①
4. 教員養成の歴史②
5. 教師に求められる資質・能力①
6. 教師に求められる資質・能力②
7. 幼稚園・保育所における「保育者」①
8. 幼稚園・保育所における「保育者」②
9. ゲスト・スピーカー（小学校教諭）による講話
10. 現代の教育改革と子どもを取り巻く環境—世界の教育改革と学力の国際比較
11. 教師の役割と責任—校務分掌、様々な実践事例など
12. 教師としての自己形成—研修の種類
13. ビデオ視聴
14. まとめ
15. 試験

#### 【講義のすすめ方】

基本的には講義形式で行うが、リアクションペーパーや小レポートなどを取り入れるなどして、相互交流のできる授業を心掛けていきたい。

#### 【教 材】

森下恭光編著『教師論—教職とその背景』  
明星大学出版部

#### 【成績評価の方法・基準】

講義の回数の1/3以上欠席した場合は、単位は与えないので、充分注意すること。

①出席状況30%、②小レポートなど20%、③定期試験50%の割合で総合的に評価する。特に出席は重視するので、正当な理由があつて欠席する場合、欠席した場合は、必ず申し出ること。

科目名	教師論		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	五十嵐 敦子		

〔講義目的〕

現代社会における教師としての責任や役割について考えながら、学校教育をめぐる環境やさまざまな問題を認識し、教師に求められる適性、「教師をめざす」ことの意味を考える。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

「教育原理」「教育総論」「教育制度論」

〔講義内容〕

1. 教育と教職①
2. 教育と教職②
3. 教員養成の歴史①
4. 教員養成の歴史②
5. 教師に求められる資質・能力①
6. 教師に求められる資質・能力②
7. 教師の役割と責任―校務分掌、様々な実践事例など
8. 教師の仕事―ある先生の日
9. ゲスト・スピーカーによる講話
10. 世界の教育改革と学力低下問題
11. 研修とは何か―研修の種類
12. ジェンダーと教育
13. ビデオ視聴
14. まとめ
15. 試験

〔講義のすすめ方〕

基本的には講義形式で行うが、リアクションペーパーや小レポートなどを取り入れるなどして、相互交流のできる授業を心掛けていきたい。

〔教 材〕

秋田喜代美・佐藤学編著『新しい時代の教職入門』有斐閣アルマ

〔成績評価の方法・基準〕

講義の回数の1/3以上欠席した場合は、単位は与えないので、充分注意すること。

①出席状況30%、②小レポートなど20%、③定期試験50%の割合で総合的に評価する。特に出席は重視するので、正当な理由があって欠席する場合、欠席した場合は、必ず申し出ること。

〔科目内容の位置付け〕

教育に関する学問の基礎科目

科目名	幼児教育論		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	荒井 冽		

### 【講義目的】

いわゆる狭い意味での学力のレベルアップを追い求めるような安易な幼児教育論は、これから長い人生を生きていくスタートの時期にある幼い子どもたちに対して、貧困な園生活を押しつけてしまうこととなります。

このようなことは、人間論として真面目に考えてみると、とても残念なことです。

貴重な人格としての1人ひとりの子どもたちにとっての、幸せな文化的環境あるいは教育的雰囲気とはいかにあるべきなのか、可能な限りおおらかに、広い視野のもとに思索してみたいと思います。

われわれ幼児保育を学ぶ者にとっての優れた先輩である倉橋惣三の考え方をテキストにして、深く読み込み、本質論的な幼児教育論の授業でありたいと思っています。

### 【講義内容】

講義は、次のようなポイントを押さえて行います。

- 保育の環境について
  - ・キンダーガルテン
  - ・生活の場
  - ・生活を美しく
- 保育の実際について
  - ・自由な遊び
  - ・家庭生活のつづき
  - ・個人対話の教育的価値
- 保育のバックボーンについて
  - ・1人の尊厳
  - ・心の自由な飛躍
  - ・幼児保育の芸術性
- 保育に携わる人について
  - ・カリキュラムメイキング
  - ・独自性を発揮すること
  - ・教育における楽しさの重視
- 倉橋惣三の幼児教育論の現代的意味
  - ・文化論的な視点から
  - ・リベラリズムとしての視点から
  - ・幼児保育の歴史的な視点から

### 【講義のすすめ方】

日本の幼児教育界の重鎮であった倉橋惣三が、数多く書き残したもののエッセンスをまとめ

た『倉橋惣三 保育へのロマン』（荒井冽著）をテキストにして、彼が主張する根本的な理念を、丹念に読み取っていきたいと思います。

また、それらの思想を、現在の幼児保育の場にあつての受け止め方や応用といった観点から、現実の保育の状況と照らし合わせながら、じっくりと、かつ具体的に思索していきたいと思います。

### 【教 材】

テキスト：荒井冽著『倉橋惣三 保育へのロマン』 フレーベル館

### 【成績評価の方法・基準】

学期末に試験を行います。  
出席率を重視します。

### 【履修のポイント・注意点】

何ごとについても、深く哲学することが希薄な時代です。

幼児教育のありようについて、しっかりと哲学することを身につけていただきたいと思います。

表面的な幼児教育論は、互いに人格を尊重し合う姿勢とは相反します。

テキストの内容と文脈とをじっくりと読み取り、講義の趣旨にしっかりと耳を傾けてください。

### 【科目内容の位置付け】

「保育原理Ⅰ」で学習した基礎的な知識を大いに活用しながら、自らの幼児教育論を築いていくようにしてください。

科目名	教育心理学		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	神戸 文朗		

### 〔講義目的〕

教育とは個々の子供や大人が社会的に望ましい能力を獲得するように彼らの発達の過程に影響を与える行為であると考えられる。効果的にこの目的を達成するためには、適切な時期・タイミングで、適切な内容の情報を、適切な方法によって影響を与える必要がある。もし、この6つの条件のいずれか（或いはすべて）が満たされなければ、教育的行為は社会的に望ましい発達を個人にもたらさない可能性がある。それ故、教育に携わろうとするならば人の発達の過程に関する基礎知識は不可欠である。実際、現代日本社会には発達現象への無知に由来する教育観が根強く存在するだけでなく、誤った教育的行為の結果としての親による乳幼児への虐待や青少年における規範力の低下を示す例には事欠かない。但し、教育するものに発達に関する基本的知識があったとしても、それだけでは個々の教育的行為の適切さを保証するものではない。個々の教育的行為に関しては、行為の実行と結果の評価が客観的になされる必要がある。

上記のような問題意識の下、本講では認知的発達と人格的発達の過程をより詳細に検討したい。人の発達はこの2領域に限られるものではないが、これらはかなりの程度相互補完的であり、かつ教育的働きかけに応答性を持った領域であると考えられる。各発達段階の説明の中で、適切な教育的行為における時期、内容、方法の3条件とはどのようなものなのかがより明らかになるであろう。

更に現代の青少年のあり方を理解する一助として、社会化の問題に一項を設け、規範の内面化、道徳性の発達、能力感・自尊心・自発的探索の関連について考察したい。最後に、いじめ、非行、思春期痩せ症といった応用的側面にも触れたい。

実際、我々は様々な場面で解答のない問題に直面する。我々はそれを「常識的判断」や「自己の価値観」に頼って対処しがちである。

しかし、その常識や価値観も決して十分に根拠のあるものとは限らないとしたら、我々は安直なマニュアル的知識を求めようとするべきではなく、正しい理解とそれに基づく幅広い応用力を獲得するよう努力するべきであると考えられる。

### 〔講義内容〕

- 1) 教育心理学とは何か  
 応用の学問としての教育心理学  
 教育と発達の原理（環境と遺伝、学習、正規発達からの逸脱）  
 教育的行為とその評価
- 2) 認知的発達  
 ピアジェの理論  
 同化と調節（循環反応、遊び、模倣）
- 3) 人格発達  
 フロイトの理論  
 エリクソンのライフサイクル理論
- 4) 社会化  
 自我と超自我（母子共生からの離脱、欲求の意識化、社会的規範）  
 能力感と探索行動・対人能力  
 道徳性の発達
- 5) 思春期・青年期の危機  
 無気力と不登校  
 いじめ・いじめの構造（攻撃性、社会的順位、社会的学習）  
 家庭内の葛藤（暴力・思春期痩せ症）  
 非行
- 6) 障害児の発達とその教育

### 〔講義のすすめ方〕

主として黒板及び口頭での説明を行っていく予定である。

### 〔教 材〕

一部図表も用意する予定であるが、資料提示は基本的には黒板への書き込みによる。

### 〔成績評価の方法・基準〕

定期試験の結果に基づき成績評価を行う。出席率は受験資格を満たしているかどうかの判定にのみ使用し、出席率を成績に反映させることはない。得られた得点分布に基づき各人の得点はカテゴリー分類され、それを成績とする。

### 〔履修のポイント・注意点〕

口頭及び黒板を使つての説明が主となるので諸君は効率よくノートを取つて欲しい。

〔科目内容の位置付け〕

特になし。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提の科目はないが、私の「発達心理学」は関連した内容を含む。

科目名	教育心理学 / 教育心理学概論		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	平田 乃美		

#### 〔講義目的〕

- 1) 子どもの発達や行動、環境との関わりなどに関する心理学理論の基礎を学ぶ
- 2) 心理学の理論や知見を通して、教育効果を高める要因について理解を深める
- 3) 1)、2) の知見の教育実践での活用について考える

#### 〔講義内容〕

教育心理学には、教育の効果を高めるために役立つ心理学的知見や技術の教育場面への適用という側面と、教育的営みの中で培われる総合的な人間研究という側面があります。本講義では学校現場における保育・教育の実践において、問題行動や発達障害等も含めた子どもの個性や行動を理解するための手掛りとなるであろう教育心理学の基礎知識を紹介します。

#### 〔授業計画〕

1. 研究史：教育心理学
2. 教育心理学の研究手法
3. 教育における測定と評価  
- 統計データを読む -
4. 教育における測定と評価  
- 教育データの数値化 -
5. 待つ教育と促す教育：遺伝と環境
6. 発達理論と教育環境 - 生涯発達の観点 -
7. 発達理論と教育環境 - 親子関係と愛着 -
8. 個人差の理解 - 知的能力・認知の発達 -
9. 個人差の理解 - 不適応・障害児の理解 -
10. 学習の理論
11. 学習の理論
12. 教育場面における個人と集団
13. 学習における動機づけ  
- 内発的・外発的動機づけ -
14. 学習における動機づけ  
- 子どもの意欲を育む -
15. 定期試験 (90分)

#### 〔講義のすすめ方〕

講義の区切り毎に定期試験と一部同じ出題形式の「受講のまとめ (自学自習用ワークシート・解説付)」を実施します。成績評価の対象ではありませんが、学習方略の改善や試験対策等に各自活用してください。

#### 〔教 材〕

授業で紹介されたテーマについて、更に関心がある場合は毎回の配布資料に記載されている「参考文献」を参照してください。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

定期試験 100% (相対評価)  
受験資格は、「白鷗大学試験規則」に準ずる。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

##### 〔出席について〕

全回出席を原則とします。  
出席確認はカード型端末機のみで行い、学生証不携帯は欠席扱いとなります。

##### 〔課題について〕

指定期間に提出した場合のみ、成績評価対象とします。未提出への対応策はありません。

##### 〔成績について〕

評価基準の個別対応は一切ありません。  
個別の結果について、成績発表前の問い合せには返答できません。評価内容についても、成績調査期間外に調べることはできません。

##### 〔資料について〕

講義資料のスライド (動画、写真等) を複製してお譲りすることはお断りしています。再度確認したい資料があれば、授業終了後、機器の電源を切る前に声を掛けてください。

#### 〔科目内容の位置付け〕

保育士資格取得のための重要な科目です。教職に関する科目では「教育の基礎理論に関する科目」、保育士関係科目では「保育の対象の理解に関する科目」、認定心理士資格申請では「基礎科目」(心理学概論) または「選択科目」(教育心理学・発達心理学) に区分される科目です。

科目名	教育心理学 / 教育心理学概論		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	平田 乃美		

### 【講義目的】

- 1) 子どもの発達や行動、環境との関わりなどに関する心理学理論の基礎を学ぶ
- 2) 心理学の理論や知見を通して、教育効果を高める要因について理解を深める
- 3) 1)、2)の知見の教育実践での活用について考える

### 【講義内容】

教育心理学には、教育の効果を高めるために役立つ心理学的知見や技術の教育場面への適用という側面と、教育的営みの中で培われる総合的な人間研究という側面があります。本講義では学校現場における保育・教育の実践において、問題行動や発達障害等も含めた子どもの個性や行動を理解するための手掛りとなるであろう教育心理学の基礎知識を紹介します。

### 【授業計画】

1. 研究史：教育心理学
2. 教育心理学の研究手法
3. 教育における測定と評価  
- 統計データを読む -
4. 教育における測定と評価  
- 教育データの数値化 -
5. 待つ教育と促す教育：遺伝と環境
6. 発達理論と教育環境 - 生涯発達の観点 -
7. 発達理論と教育環境 - 親子関係と愛着 -
8. 個人差の理解 - 知的能力・認知の発達 -
9. 個人差の理解 - 不適応・障害児の理解 -
10. 学習の理論
11. 学習の理論
12. 教育場面における個人と集団
13. 学習における動機づけ  
- 内発的・外発的動機づけ -
14. 学習における動機づけ  
- 子どもの意欲を育む -
15. 定期試験 (90分)

### 【講義のすすめ方】

講義の区切り毎に定期試験と一部同じ出題形式の「受講のまとめ (自学自習用ワークシート・解説付)」を実施します。成績評価の対象ではありませんが、学習方略の改善や試験対策等に各自活用してください。

### 【教 材】

授業で紹介されたテーマについて、更に関心がある場合は毎回の配布資料に記載されている「参考文献」を参照してください。

### 【成績評価の方法・基準】

定期試験 100% (相対評価)  
受験資格は、『白鷗大学試験規則』に準ずる。

### 【履修のポイント・注意点】

#### 【出席について】

全回出席を原則とします。  
出席確認はカード型端末機のみで行い、学生証不携帯は欠席扱いとなります。

#### 【課題について】

指定期間に提出した場合のみ、成績評価対象とします。未提出への対応策はありません。

#### 【成績について】

評価基準の個別対応は一切ありません。  
個別の結果について、成績発表前の問い合わせには返答できません。評価内容についても、成績調査期間外に調べることはできません。

#### 【資料について】

講義資料のスライド (動画、写真等) を複製してお譲りすることはお断りしています。再度確認したい資料があれば、授業終了後、機器の電源を切る前に声を掛けてください。

### 【科目内容の位置付け】

保育士資格取得のための重要な科目です。  
教職に関する科目では「教育の基礎理論に関する科目」、保育士関係科目では「保育の対象の理解に関する科目」、認定心理士資格申請では「基礎科目」(心理学概論) または「選択科目」(教育心理学・発達心理学) に区分される科目です。

科目名	体育科教育法Ⅱ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	近藤 智靖		

**〔講義目的〕**

本科目の目的は、体育科教育法Ⅰにおいて学んだ指導方法や理論を応用することである。

特別活動、学校保健、保健科教育法、体育科教育法ⅠⅡなど全て関連している。

**〔講義内容〕**

内容は、次の通りである。

- ①教師役や生徒役として体育授業を作る。
- ②分析役として体育授業を評価する。

体育科教育法Ⅰ並びに教育実習の事前指導と連動しながら、本科目では、実際にグループ単位でいくつかの授業を作り、教師役、生徒役、観察分析役に分かれて模擬授業を行う。

模擬授業の終了後にデータを分析し、授業の評価並びに議論を行う。

**〔講義のすすめ方〕**

本科目は、体育館（場合によってはグラウンドも）を中心に行う。教育実習を想定して多くの学生には教師役をしてもらう予定である。

**〔教 材〕**

〈参考書〉

体育の授業を観察評価する・高橋健夫編著・明和出版・2200円

体育の授業を創る・高橋健夫編著・大修館書店・2200円

**〔成績評価の方法・基準〕**

出 席 30%

レポート 30%

普段の活動の様子（模擬授業の貢献度）  
40%

**〔履修のポイント・注意点〕**

特になし

**〔科目内容の位置付け〕**

本科目は、教育実習事前指導や体育科教育法Ⅰと大きく関連している。そのため、体育科教育法Ⅰを必ず履修していること。また、本科目は、体育教員養成の中核科目の一つとして位置づけられる。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

本科目は、これまで学んできたあらゆる実技、

科目名	保健科教育法		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	七木田 文彦		

#### 〔講義目的〕

小学校、中学校、高等学校における保健科教育の推移と現状を理解する。

保健学習の教材研究並びに授業づくりの方法を理解する。

保健学習における指導案作成の意義とその作り方を理解する。

学習者の学びについて理解を深める。

#### 〔講義内容〕

1. 保健科教育の構造と変遷
2. 小・中・高等学校の保健学習目標・内容論
3. 保健の教材・教具論
4. 学習者論（子どもの認識の発達）
5. 経験と教育（健康の考え方と教育方法）
6. 学習集団の構成（学校・授業改革論と学びの共同体）
7. 学習と評価
8. 指導案の作成方法
9. 指導案づくり
10. 模擬授業とその検討①
11. 模擬授業とその検討②
12. 模擬授業とその検討③
13. 多様な事後研修会の紹介（ストップモーション方式による保健授業の検討等）
14. 総括
15. 試験

#### 〔講義のすすめ方〕

基本的な内容については講義形式で解説する。

具体的或いは実践的な内容については、作業を多く取り入れ。最終的には授業の模擬実践やその集団検討を行う。

#### 〔教 材〕

・参考図書

中学校学習指導要領

高等学校学習指導要領

検定保健体育科教科書（小・中・高等学校）

#### 〔成績評価の方法・基準〕

授業への取組状況及び試験（課題又はレポートの提出を求めることがある）により総合的に評価する。

出席が2/3以上で、総合評価が60点以上を合格とする。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

授業への積極的学習参加を求める。現代の健康問題について興味をもって履修してもらいたい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

教育学関係科目。中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）取得に必要な科目である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

体育科教育法、生理学、公衆衛生学、学校保健学、精神保健学、発育発達学、スポーツ医学、解剖学

科目名	体づくり運動指導法		
単 位	2	開 設	集中
教 員 名	近藤 智靖		

【講義目的】  
 本科目の目的は、「体づくり運動」に関する指導方法を学ぶことである。

【前提・関連科目（科目間関連の内容）】  
 実技「体づくり運動」との関連がある。

【講義内容】  
 本科目では、学習指導要領に示されている「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の指導方法について学ぶことである。主となる運動（Gボール、チャレンジ運動、体気づきの活動、縄跳び等）のポイントを学ぶだけではなく、準備運動を学生が考え、教師役として指導の体験をする。

【講義のすすめ方】  
 授業前半では学生が考えた準備運動を行う。持ち時間は一人15分である。活動の内容、声の出し方、場の設定の仕方、安全管理等について適宜指導を行う。  
 授業の後半では、上記の主運動についての活動を通して指導上の解説を行う。

【教 材】  
 （参考図書）  
 体づくり運動 授業の考え方と進め方 学校体育実技資料第7集 東洋館出版

【成績評価の方法・基準】  
 出席 50%  
 レポート 30%  
 普段の活動の様子 20%

【履修のポイント・注意点】  
 体ほぐしの運動は、多くの学生が中高時代に体験していない可能性が高い。しかし、教育実習等で指導する可能性のある活動であり、指導に当たって困惑しないためにも、毎回出席し、指導のポイントを理解して欲しい。

【科目内容の位置付け】  
 高等学校の学習指導要領の中では、必修として位置づけられており、必要充足という考え方の下に位置付いている。体育教員の免許希望の学生であれば、誰でも指導できなくてはならない領域である。

科目名	教育方法論Ⅱ		
単位	2	開設	半期
教員名	五十嵐 敦子		

〔講義目的〕

「教育方法論Ⅰ」の概論的な解説を基礎に、「教育方法論Ⅱ」では、教育方法学の理論をさらに深く学び、教育実践についてはビデオなどを利用して、より詳しく解説する。

る場合、欠席した場合は、必ず申し出ること。

〔科目内容の位置付け〕

教育に関する学問の基礎科目

〔講義内容〕

1. 教育方法学の歴史
  - ①コメニウス—教授学の成立
  - ②ヘルバルトと「訓育的教授」理論
  - ③デューイと子ども中心主義
  - ④ブルーナーと新カリキュラム運動
  - ⑤ニールとサマーヒル学園
  - ⑥シュタイナー教育
  - ⑦モンテッソーリ、フレネ、イリッチなどの理論と実践
  - ⑧イタリアの幼児教育—レッジョ・エミリア市における実践例（ビデオ視聴）
4. 現代の教育における様々な問題①—『学校崩壊』を読む
5. 現代の教育における様々な問題②—『学校崩壊』を読む
6. 現代の教育における様々な問題③—『学校崩壊』を読む
7. 国際理解教育と平和教育①
8. 国際理解教育と平和教育②
9. まとめ
10. 試験

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

「教育課程論」

〔講義のすすめ方〕

講義形式を基本とするが、リアクション・ペーパー、小レポートなどを取り入れながら、相互交流のできる授業を心がけたい。

〔教材〕

特に指定しない。必要に応じて、プリントを配布する。

参考書：河上亮一『学校崩壊』草思社

〔成績評価の方法・基準〕

講義回数 $\frac{1}{3}$ 以上欠席した場合は、単位を与えないので、十分に注意すること。

出席状況30%、小レポートなど20%、定期試験50%の割合で総合的に評価する。特に出席は重視するので、正当な理由があつて欠席す

科目名	総合演習		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	総合演習担当教員（金田健史、近藤智靖、齊藤武利、藤井和彦）		

**【講義目的】**

本科目では、スポーツ・健康・教育・社会的な問題をテーマとして設定し、調査・発表・討論を行う。こうした一連の活動を通じて総合的な問題解決能力の育成、あるいは、その解決方法の学習を目的とする。

課題研究

卒業研究

**【講義内容】**

本科目は、教員免許取得にあたって必修科目となっている。

半期の内容は概ね次の通りである。

①自己分析

自己分析をしながら、自分が歩んできた足跡を振り返る。こうした活動は、調査研究を行う上でも、また将来のキャリアプランニングの視点からも有益である。

②調査研究

一人一人がテーマを設定し、そのテーマの調査と発表を行う。

**【講義のすすめ方】**

自己分析では、所定の用紙への記入を中心に行う。

調査研究では、テーマ設定、調査、まとめ、発表、討議の手順を進めていく。

**【教 材】**

特になし

**【成績評価の方法・基準】**

出席 30%

調査に取り組む姿勢 30%

調査内容 40%

**【履修のポイント・注意点】**

本科目では、学生が主体となって活動することを重視している。1時間の授業に対して、数時間の自宅学習や学外調査を行なう必要がある。

**【科目内容の位置付け】**

特になし

**【前提・関連科目（科目間関連の内容）】**

フレッシュマンセミナーでの調査研究

科目名	総合演習		
単位	2	開設	半期
教員名	荒井 冽		

### 〔講義目的〕

世界的に有名な『児童の世紀』が刊行されたのは、100年以上も前の1900年のことです。

“児童の世紀”というタイトルには、子どもの幸せな成長を願う私たちにとって、何か象徴的な響きがあります。グローバルな感じもし、人類の歩みの向上が期待されているようでもあります。

とにかく、微視的ではない広やかな視野を感じさせるこの本は、後に福祉政策で有名になった北欧のスウェーデンで誕生しました。

子どもの幸せを広い視野で思いみるならば、それは単なる心身の発育のことにとどまるのではなく、幼少年期の心や体を包み込む自然環境や社会環境など、総合的なものにまで考えを巡らせるべきでしょう。事実、『児童の世紀』での視野は、人間社会の全体に及んでいます。

これからは、公害を極力抑さえた自然空間や、子どもたちの伸びやかな日常生活を可能とする、保育や教育や家庭生活のありようなどが問われるはずで。

本演習では、ノルディック・デモクラシーのもとに形作られてきた、子どもたちのためのさまざまな施策や慣習などについて学んだり、それらをもとにして話し合ったりしてみようと思います。

### 〔講義内容〕

- 第1回 北欧の国々への注目
- 第2回 環境保護から見た北欧
- 第3回 デモクラシーから見た北欧
- 第4回 福祉政策から見た北欧
- 第5回 『児童の世紀』の誕生
- 第6回 エレン・ケイ (Ellen Key) について
- 第7回 『児童の世紀』に見るフィロソフィー
- 第8回 『児童の世紀』に見る教育論
- 第9回 『児童の世紀』に見る保育論
- 第10回 教育問題として受け止めた日本
- 第11回 女性問題として受け止めた日本
- 第12回 『ニルスのおしぎな旅』の味わい
- 第13回 『やかまし村の子どもたち』の味わい
- 第14回 これからの日本の保育や教育を思っ  
て…
- 第15回 学んだことがらを振り返って…

### 〔講義のすすめ方〕

テキスト『スウェーデン 水辺の館への旅—エレン・ケイ「児童の世紀」をたずさえて—』に提示した、ノルディック・デモクラシーがはぐくんださまざまなテーマをていねいに読み取り、話し合いながら、文化論的に、そして人間論的に理解を深めていきたいと思います。

### 〔教材〕

テキスト：荒井 冽著『スウェーデン 水辺の館への旅—エレン・ケイ「児童の世紀」をたずさえて—』 富山房インターナショナル

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席を重視します。必要に応じて提出してもらったレポートを評価します。

### 〔履修のポイント・注意点〕

生きた教材や素材を使い、自由な雰囲気での本演習を、貴重な機会として参加してください。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

課題研究Aおよび課題研究Bを想定しながら学習するのもよいでしょう。

科目名	総合演習		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	五十嵐 敦子		

#### 〔講義目的〕

本演習は、「人類に共通する課題」「我が国の社会全体に関わる課題」について分析、検討することによって理解を深め、その適切な指導ができることを意図して、新たに設けられた授業科目である。本演習では、特に子どもを取り巻く環境や現代における家族の意義、親子関係に関する今日のかつ具体的なテーマを学生が自由に選択し、それについて調べる方法や技術を実践的に習得することを目的とする。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

授業に取り組む姿勢として、自主性や積極性が期待される。自分の意見を持つこと、それを表現できるように努力してほしい。  
15回出席を原則とする。

#### 〔科目内容の位置付け〕

保育士資格取得のための重要な科目である。

#### 〔講義内容〕

1. オリエンテーション
2. 平和教育について学ぶ
3. 国際理解教育について学ぶ
4. 具体的なテーマ（少子化、幼児虐待、子育て支援、遊びの変遷、育児、児童文化の国際比較、子育て観の変化、家族観の変化など）を設定する。
5. 特定のテーマに基づくグループ活動
6. 特定のテーマに基づくグループ活動
7. 特定のテーマに基づくグループ活動
8. 個人研究活動
9. 個人研究活動
10. 個人研究活動
11. 個人研究活動
12. レジメや発表の資料の作成
13. プレゼンテーション方法の検討
14. プレゼンテーション（研究発表会）
15. まとめ（レポート作成指導など）

#### 〔講義のすすめ方〕

演習科目であるので、各自がそれぞれの問題意識に基づいてテーマを設定し、それについて研究をすすめていく。各自が調査・研究した成果を模擬授業形式で発表する。最終的には、研究した成果をレポートにまとめる。

#### 〔教 材〕

テキストは使用しない。  
プリントなどを配布する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

レポート、出席状況、発表に対する姿勢や積極性などで総合的に評価する。



科目名	総合演習		
単位	2	開設	半期
教員名	高橋 美保		

#### 〔講義目的〕

将来保育者として活動するために必要な、「広い視野に立ち、現在抱えている子どもをめぐる問題を捉え、子どもや家庭を援助するための資質や能力」の養成が、授業のねらいである。

子どもを取り巻く多様な問題に対して主体的に取り組み、理論的に理解して、問題や課題解決のために検討し、分析する力の向上を目指す。

さらに、保育者に求められる企画や運営のスキルおよび社会力についても、模擬保育や研究発表を通して備わるように進めていく。

#### 〔講義内容〕

- 第1回 総合演習の目的と進め方
- 第2回 テーマの検討と設定
- 第3回 関連文献の文献検索の説明と年(半年)間計画作成
- 第4回 文献や資料の読み合わせ  
シラバスの作成
- 第5回 テーマにそって発表する(1)
- 第6回 (2)
- 第7回 (3)
- 第8回 (4)
- 第9回 (5)
- 第10回 (6)
- 第11回 (7)
- 第12回 (8)
- 第13回 (9)
- 第14回 (10)
- 第15回 発表についての相互評価と総合的なまとめ

オムニバス方式で行うため、第16回から第30回は、上記と同様に進めていく。

#### 〔講義のすすめ方〕

演習形式で進めていく。

模擬保育や発表を主にすすめ、意見交換や相互評価を通して、他者のテーマへの理解を深める。

演習を通し、自らの保育者としての資質や保育力の向上に努める。

#### 〔教材〕

必要に応じて紹介する

#### 〔成績評価の方法・基準〕

取り組み(提出物を含む)で、80%評価する。

授業参加で、20%評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

全回出席を原則とする。

自分の発表だけでなく他者の発表にも理解を示す姿勢が、演習では重要である。

したがって、出席状況も重視する。

#### 〔科目内容の位置付け〕

保育士資格取得のための重要な科目である。

#### 〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

保育士としての人間教育、職業教育の基となるため、教養科目、専門科目、保育士関連科目など、全ての科目が前提関連科目となる。

科目名	総合演習		
	「地球的視野」を育む「遊び」の効用		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	中谷 陽子		

### 【講義目的】

‘遊び’に対して寄せられる大方の概念や理解は、「楽しむもの」という狭義的なものや年齢の低い子どもの活動、または教育的には二次的な意味を含む全般に曖昧な表現で語られることが多い。

しかし本来の‘遊び’はより広く充実した内容をもつ人間の営みであり、次のように表現できる：‘遊び’は創意工夫の実験の場であり、知恵の貯蔵庫である。また、‘遊び’を媒体にした人の交わりの世界に境界線はなく、そして勿論‘遊び’は精神の開放をもたらすものである。

以上の視点から、将来教育現場で活躍する学生にとって‘遊び’の効用を認識することは意義深いことである。

### 【講義内容】

本演習は次のような内容で行なう。

#### 1 授業内容と方法に関する説明

- ・「総合的な学習の時間」との関係
- ・取り扱う課題について
- ・授業の過程について

「課題発見」→「課題探求」→「まとめ」  
(発表・模擬授業)

#### 2 「遊び」は「地球的視野」を歴史性、文化性、伝承性、自然性の4分野にて育むものとし、各々次のように探求する。

- ①歴史性（人類の知の歴史との重なりを発見）  
人類5000年の‘遊びと遊び材’の歴史をひも解き、それがまさに人間の知の進歩の足跡であることを発見する。
- ②文化性（異文化交流と情報交換）  
国際化の進む社会から人材を得、また情報技術を駆使して異文化（当然遊びを含む）を相互に交流させるなどの経験をして、自分も地球市民の仲間入りを果たす。
- ③伝承性（遊びは伝承文化の重要な一分野）  
人は古来から‘遊び’という形で、大切な文化を伝承してきた。「伝承玩具」は勿論、おもちゃと混同されている「ミニチュア」は、実は、生活技術や礼節を伝えるものである。さらに現代の暮らしの中に感ずる伝承遊びの衰退には、大きな危機感を抱く。
- ④自然性（自然が育む豊かな遊びの再発見）

地球は自然が育む豊かな遊びとその材料の‘生みの親’である。‘遊び’を守ってきた「野の人・山の人・海の人」の精神と知恵に触れるような体験を工夫する。

### 【講義のすすめ方】

15回前後の講義を次のように進める：

- 1 ・導入授業。演習テーマの解釈と‘遊び’の概念の共通意識化を図るための討議。
- 2から4 ・人間の遊びの歴史を、勿論地球規模でひも解き、遊びに込められた人類の‘知’の進歩を発見する。
- 5 ・最も古い遊びのひとつ「凧揚げ」を、大學の敷地続き、思川の広い河川敷で堪能する。
- 6から7 ・学生の持つ情報技術を手段に、異文化との接触を楽しむ。そのなかで、国や文化の違いを超えて遊びが生き続けてきたことを知る。また、学内の留学生との交流研究も意義深い。「遊びは世界中の人を結ぶ強力な手段である」ことを実感し実証させたい。
- 8から9 ・古くから遊びには生活技術の伝承、礼法、人との付き合い方、社会規範などを学ぶ目的が秘められてきたという、世界共通の事実を見出す。
- 10から11 ・自然破壊を強く再認識するうえで、地球が生み出してきた‘遊び’という恩恵を知らせ、さらに自然の原理（数学や物理学、建築学）を軸にした優れた遊びへの招待も加えたい。
- 11から15 ・仮想授業のプランニング。[中学生用]と[高校生用]を、4分野の生きた授業内容をグループに分かれて立案・発表する。

### 【教 材】

- ・文部省「小学校学習指導要領」
- ・中谷陽子・豊澤伸編「総合演習の研究」  
学教図書出版会

### 【成績評価の方法・基準】

出席、ポートフォリオ、模擬授業などにより評価する。提出物は決められた日に研究室に持参する。

期末にポートフォリオを作成するので、授業内容を常にメモをしっかりとつける習慣をもつように。

ポートフォリオ：授業で学習した内容を振り返り、自分の学習成果が分かるように、「目次」「見出し」「全体の構成」「あとがき」などを考えて作成した学習記録の事。

- ・ 受験資格は、「白鷗大学試験規則」に準ずる。

**【履修のポイント・注意点】**

- ・ 前回出席を原則とする。

**【科目内容の位置付け】**

- ・ 教員資格取得のための重要な科目である。

**【前提・関連科目（科目間関連の内容）】**

特になし。

科目名	総合演習		
単位	2	開設	半期
教員名	馬場 将光		

### 〔講義目的〕

この演習は、基本的には学生諸君が主体的に学習に取り組むことをねらっている。教員が教えるというより、学生一人ひとりが自ら学習することも目指す。自ら課題を見出し、それについて調べ、そして発表するというかたちを採りたい。

こんにち、社会における国際化の進行はめざましいものがあり、それへの対応はとくに若者に求められている。これから若者はどのようにしてこの国際化という波へ応えていったらいいのだろうか。国際化への自分の姿勢を確かなものにすることが求められる。ここではそうした時代の要請に学生がいかに対応していったらいいかを学習する機会を提供したい。

### 〔講義内容〕

#### <前半>

まず、人は自分の子どもの保育・教育にどのような価値観をもって当たっているのだろうか。そのことを考えてみたい。それはあまりに日常的であるために自覚的に捉えることは難しいが、そこには社会、個人、宗教、自然、といった事項についての考え方が大きな影響を持っている。そのために、日本とは異なる社会の価値観を比較学習することによって、自国の社会の価値観や人生観をより鮮明に捉えることにする。人間形成の価値観やしぐみを外国と比較することから、日本人の人間形成、価値観の育成やそのしぐみの特質を捉えていく。

テキストは恒吉僚子「人間形成の日米比較」（中公新書）を使い、そこで乳児、幼児、児童を大人社会がどのような人生観、教育観、幼児観でもって育て上げようとしているかを学習する。そしてそこでどのような現実的あるいは潜在的な問題に直面しているかを検討する。

しかる後に、保育所、幼稚園の先生から、育児・保育の具体的な取り組み、そこにおける喜びやつらさや問題点について話をしてもらい、乳幼児の保育についての理解を深める。

#### <後半>

学生たちが直面する交際化への理解を深めるために、外国において日本人と同じ人間がいかなる歴史をもち、どのような価値観、宗教観、そ

して生活・育児観をもって毎日の生活をおくっているのであろうか。それを学習することを通じてさらに社会、歴史、宗教、文化の違う国における保育、育児、幼児教育、学校教育についての理解を深める。

そのために司馬遼太郎「街道をゆく」を使う。彼はアメリカ、ヨーロッパ、そしてアジアのいくつかの国を訪問し、そこの人々が何を考え、どのような生活と人生をおくっているのかを詳細なメモから克明に描いている。

学生はそれらの1冊をとりあげ、そこで述べられている人間の生活の営みを把握し、そこから彼の捉えた社会や人間のあり方あるいは生き様を追跡する。

彼は訪問した国で出会った人、そこで目にしたこと、耳にしたこと、さらに五感を通して感じたことを学生は読書を通じて追体験していく。そしてそれを要約し、発表する。

### 〔講義のすすめ方〕

- ・レポートの作成：1冊につきA4で2-3枚程度とする。1枚は35字×33行。
- ・発表：1人20分程度で発表をする。
- ・成果：一冊の冊子にまとめる。

### 〔教材〕

司馬遼太郎「街道をゆく」から1人1冊を選ぶ。

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席状況、レポートを総合的に評価する。

### 〔履修のポイント・注意点〕

- ①本を読む習慣をつける。
- ②日本語の文章を書く能力を高める。

科目名	総合演習		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	増田 仁		

#### 〔講義目的〕

本講義は教員を志望する学生に対して子どもへの理解を深める授業を提供することを目的とする。授業の前半では歴史学の知見を踏まえながら、これまで「子ども」がどのように捉えられてきたのか、学校制度とのかかわりの中で考察する。授業の中盤では、現在子どもの社会的状況はどうなっているのか、少子化、虐待、メディアといったトピックに焦点をあてながら具体的にみていく。後半では、子どもに関するビデオを視聴した上で、ディスカッションをする機会を設ける。最後に、調査方法について解説を行い、「子ども」を客観的に把握する眼を養う。

#### 〔講義内容〕

- 1、オリエンテーション
- 2、「子ども」とは何か？  
——歴史学からの問い——
- 3、「子ども」と学校制度1  
——日本について——
- 4、「子ども」と学校制度2  
——諸外国との比較——
- 5、「子ども」をめぐる現在の社会的状況1—  
—少子化をめぐる——
- 6、「子ども」をめぐる現在の社会的状況2—  
—虐待をめぐる——
- 7、「子ども」をめぐる現在の社会的状況3—  
—メディアをめぐる1——
- 8、「子ども」をめぐる現在の社会的状況4—  
—メディアをめぐる2——
- 9、「子ども」に関するビデオの視聴1
- 10、ディスカッション1
- 11、「子ども」に関するビデオ視聴2
- 12、ディスカッション2
- 13、調査方法について1
- 14、調査方法について2
- 15、まとめ

#### 〔講義のすすめ方〕

講義形式の授業だけではなく、ビデオの視聴やディスカッションも行います。意欲的に参加してください。

#### 〔教 材〕

アリエス(杉山光信・杉山恵美子訳)『<子ども>の誕生』みすず書房、1980年。  
細辻恵子「子どものイメージと教育」、稲垣恭子編『子ども・学校・社会』世界思想社、2006年。  
竹内洋編著『教育社会学』放送大学教育振興会。  
住田正樹・鈴木晶子編著『教育文化論』放送大学教育振興会、2005年。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

平常点とレポートの内容から総合的に評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

「子どもとは何か」を考えながら、積極的に本(絵本・小説・学術書等)を読んだりビデオをみたり、実際に子どもを観察していただきます。

#### 〔科目内容の位置付け〕

教職に関する科目として位置づけられている。

#### 〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

教養科目の「歴史学」「社会学」と関連がある。

科目名	総合演習		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	今田 政成		

#### 〔講義目的〕

本授業科目は、「人類に共通する課題又は我が国社会全体にかかわる課題」（教育職員免許法施行規則）について分析・検討し、その設定した課題について教育の現場で指導するための方法などを考えるための授業である。具体的には、環境、異文化理解、社会福祉、平和・人権等の分野から、一つの課題を自由に選択し、自ら調べて分析し、そして教材として作り上げ発表を行なう。

#### 〔講義内容〕

本演習は以下のような内容で行なう。

- 第1回 総合演習の目的、授業の進め方について
- 第2回 課題の設定、資料の収集の方法について
- 第3回 課題の設定後、資料収集
- 第4回 課題の設定後、資料収集
- 第5回 課題の設定後、資料収集
- 第6回 中間発表の準備と個別指導
- 第7回 中間発表とグループディスカッション
- 第8回 中間発表とグループディスカッション
- 第9回 レポート作成
- 第10回 レポート作成
- 第11回 資料まとめ及び発表準備
- 第12回 資料まとめ及び発表準備
- 第13回 プレゼンテーションを使った発表
- 第14回 プレゼンテーションを使った発表
- 第15回 まとめ

#### 〔講義のすすめ方〕

講義、演習、グループディスカッション、プレゼンテーション等を中心に授業を進めて行く。中間発表とその内容についてグループディスカッションを行ない、最終的にはレポート作成及びプレゼンテーション発表し提出する。

#### 〔教 材〕

必要なものは適時、授業時に紹介する

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席状況、レポートを総合的に評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

各自が資料を集め、まとめる作業が中心となるので、積極的に中間発表とレポート作成に向けて準備すること。独自の調査を行ったり図書やインターネット、新聞などから情報を収集してください。

#### 〔科目内容の位置付け〕

教職に関する科目として位置づけられている。

科目名	総合演習		
単位	2	開設	半期
教員名	滝沢 謙三		

#### 【講義目的】

この授業の目的は、人類に共通する課題や我が国社会全体に関わる課題について理解を深め、その視野を広げると共に、これらの内容に関して適切に指導できるようになることである。

人類に共通課題としては、「地球環境」「異文化理解」「人権と平和」などがあり、また、わが国の社会全体に関わる課題としては、「少子・高齢化」や「食と命」などいろいろな課題があるだろう。各自がこれらの課題からテーマを設定し、それについて調査・分析をして認識を深め、さらに、そのテーマを適切に指導する方法について研究し、その成果をプレゼンテーションとレポートで発表する。

問題解決に向けて子どもたちが自ら進んで考えることができるように、学び方や考え方、そして問題を解決する方法を育む教育活動ができるようになることをねらいとする。

#### 【講義内容】

1. 教職科目としての総合演習の目的、授業の進め方について
2. テーマの設定からプレゼンテーション、レポート作成までについて
3. 異文化理解をテーマにしたディスカッション
4. 食と命をテーマにしたディスカッション
5. プレゼンテーションとディスカッション
6. レポート作成

知識詰め込み型の教育とは違う、「生きる力」を育成する教育の観点でプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を行う。幾多の問題を抱えている異文化理解、人権、平和、食と命、少子・高齢化、などについて、一つテーマを設定して調査・研究を行い、さらに、子どもたち自身が、将来これらの問題に対して、自らが対応策を探っていけるようになるするにはどうしたらいいかという教育の方法も含めてプレゼンテーションをしてもらう。最後に、プレゼンテーションの内容をレポートの形でまとめる。

#### 【講義のすすめ方】

クラスメートの中間発表では、発表チェック

シートに自分の意見や感想を記入してもらう。

#### 【教材】

使用しない。

#### 【成績評価の方法・基準】

プレゼンテーション 50%  
レポート 50%

#### 【履修のポイント・注意点】

各自が選ぶテーマに関する調査・研究・洞察の深さがポイントである。計画的に研究を掘り下げることが求められる。

#### 【科目内容の位置付け】

教職に関する必修科目である。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

特にない。

科目名	総合演習		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	向井 千代子		

#### 〔講義目的〕

総合演習とは小中学校における「総合的な学習の時間」に対応する教職科目の一つである。これは子供たちに「生きる力」をはぐくむため、「考える力」「調べる力」そして「問題解決能力」「発表力」などをつけるための科目である。それを踏まえて、この授業では、まず教員が異文化理解と女性問題を中心として講義を行い、次に学生たちがさまざまなテーマに取り組み、調べ、発表し、人間尊重の精神を学び、教育者としての視野を広げることを目的とする。

#### 〔講義内容〕

異文化理解については、外国での生活体験に基づいた、文化的な差によるコミュニケーション上の問題を取り扱う。女性問題については、イギリスにおける女性運動および女性解放思想の歴史を紹介し、日本における女性解放運動の歴史にも触れた上で、現在の女性をめぐる諸問題について考えてみる。さらに女性だけでなく、弱者に対する虐めや差別の実態についても取り上げ、それらをなくすためにはどのようにすればよいのかを話し合う。その上で、各自が研究課題を設定し、研究し、最終的には発表を行う。発表は最低二回行う。最終発表は実際の授業を想定して、模擬授業の形式で行う。

#### 〔講義のすすめ方〕

①テーマの紹介、②テーマに対する自由討論、③グループもしくは個人単位での研究調査活動（インタビューを含む）と報告、④実際に指導する場合の教案づくりの順で行う。

学生たちはまず身近なところから問題を抽出し、新聞雑誌その他の図書を用いて調べるだけでなく、身近な人々へのインタビュー活動を行い、その結果をまとめて発表する。

テーマは異文化理解や女性問題に限定せず、履修する学生の問題意識に沿ったテーマを選んでよい。

#### 〔教 材〕

プリントを使用。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

基本的に平常点評価。平常点は、出席率、レポート、授業中の態度と参加度、プレゼンテーションをもととして総合的に判断する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

学生諸君を中心とした授業となるので、平日頃から新聞をよく読み、さまざまな問題（特に教育現場における）に関心を持ってほしい。話し合いのテーマになりそうな新聞雑誌の記事があれば切抜きを作っておくとよい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

教職に関する科目として位置づけられている。現実の社会状況を理解し、幅広い見識を持つことにより、将来的に教育者として「総合的な学習の時間」の指導を行えるような準備をする。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

特にない。

科目名	総合演習		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	神戸 文朗		

#### 〔講義目的〕

本演習の目的は教員志望者に、人類の直面する問題（例：環境問題、エネルギー消費、途上国の経済発展、宗教と民主主義）や日本という国家・社会に関わる問題（例：少子・高齢化、負担と給付、自立と福祉、自由と規範意識、達成動機と平等主義）について理解を深めさせ、視野を広げさせることにある。しかしこうした大きな問題は人々の利害や見解が交錯し、一刀両断の解決法も存在しない。むしろ我々は当該の問題に関する基本的なデータと多様な見解を理解した上で、実行可能な解決手段が存在するかを検討することが必要になる。本演習ではクラスを5名から7名程度のチームに分割して、特定の問題解決法に関し1チームにはそれに賛成（現状変更）の立場を、他チームにはそれに反対（現状維持）の立場を与え、両チーム間でディベートを行う。ディベート開催は演習最終日に設定するが、それに先立ち各チームは信頼できる関連データを集積して自らの立論を堅固にし、相手の論拠を打破すべく努力しなければならない。自らの議論を説得的にするためには一面的、イメージ的な理解ではなく自らの立論の根拠となる証拠と相手が立脚する証拠の評価が不可欠である。これらの作業によって諸君は特定の問題に関する多面的な理解と解決法に関する実現可能性の評価の技能を身につけることが期待されている。ディベートの判定は私（及び出来れば他教員）にとってより説得的な議論を展開したチームの勝ちとする。若干中立な審判の立場とは矛盾するが、私は演習の全段階において各チームのデータ、立論、反論の内容について評価と指導を行う。

#### 〔講義内容〕

- 1 ディベートの説明、スケジュールの説明、問題の提示、チームの編成、
- 2 データ収集法、データの信頼性、引用方法の説明、ディベートにおける注意点
- 3 データ収集
- 4 チーム別収集データの発表と評価
- 5 自己申告によるデータ収集に関する貢献度調査
- 6 チーム別立論の発表と評価
- 7 自己申告による立論に関する貢献度調査

- 8 模擬ディベート
- 9 立論・反論の評価と修正
- 10 ディベート開催と勝利チームの決定、自己申告によるディベートに関する貢献度調査

#### 〔講義のすすめ方〕

受講者は所属するチームの勝利のために自発的、積極的に各作業に参画しなければならない。また全ての講義日への出席が求められている。判定基準は審判者にいかにデータに基づき説得的に議論を展開できたかという点にある。データに基づかない一人よがりの議論を展開したり、反論に対して適切な再反論が出来なかったり、相手チームに感情的に反発したりすることは説得性を失わせる行為である。

#### 〔教 材〕

必要資料を配布する。データ収集は各人が最良の努力をもって行う。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席50%、ディベートにおけるチームの勝敗30%（勝ち30%；負け20%）\*、自己申告によるチームへの貢献度20%（大20%；中10%；小0%）。\*もし両チームの論拠が互角の場合は、あえて現状を変更するに十分な説得性を与えられなかったとして現状維持のチームの勝ちとする。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

前述のように全ての段階においてチームのために積極的に貢献すること。

#### 〔科目内容の位置付け〕

教職に関する科目、総合演習

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

なし

科目名	国語概説 / 国語概説Ⅰ（書写を含む）		
単位	2	開設	半期
教員名	生野 金三		

### 〔講義目的〕

国語概説では、国語に関する基礎的・基本的な知識を分析的視点より探究すると同時に、小学校の国語科の指導内容を「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」等の三領域にわたって探究する。このいずれも国語科の授業（学習指導）を展開するに当たって、その基盤となる内容である。

上記のことを踏まえ、特に国語科における授業（学習指導）実践を視野においた模擬授業の設計について研究していくことにする。

### 〔講義内容〕

本科目では、国語科における実践的指導力の基礎の育成を志向し、概ね以下のような内容になる。

- 1 言語生活の様相
- 2 表現と理解との関連
- 3 表現過程と理解過程
- 4 仮名遣い
- 5 教育漢字
- 6 国語科の内容の構成
  - ・「A話すこと・聞くこと」
  - ・「B書くこと」
  - ・「C読むこと」
  - ・「言語事項」
- 7 教材「ごんぎつね」の授業設計
  - ・教材の分析
  - ・指導目標の検討
  - ・指導事項の検討
  - ・指導の手順の検討
  - ・発問事項等の検討
  - ・教材・教具の検討

### 〔講義のすすめ方〕

講義、演習、グループ学習、プレゼンテーション等を中心に授業を進めていく。本科目では、国語科における授業設計を目指しているため、受講生は毎回の授業が次の時間へ継続発展していくことを認識しておくこと。

### 〔教材〕

テキスト 文部省「小学校学習指導要領解説国語編」 東洋館出版社  
生野金三「改稿 新美南吉研究」

学教図書出版会

豊澤弘伸・斉藤武利・齋藤一人

「実習における指導の技術」

教書出版

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、ポートフォリオ、ミニ課題、ミニテストの四者で評価する。ポートフォリオ、ミニ課題の提出は、予め決められた締め切り日までに生野の研究室に直接持参すること。

### 〔履修のポイント・注意点〕

出席をとる。授業の3分の2以上出席した受講生を評価対象者とする。

授業内容は、積み上げ方式になっているので、前回の授業内容を踏まえておくことが重要である。

期末にポートフォリオ（授業で学習した内容を振り返り、自分の学習の成果が分かるように「目次」「見出し」「全体の構成」「後書き」等を考えて作成した学習記録のこと。又は、これまでの学習を凝縮したオリジナルのテキストのこと。）を作成するので、授業内容は随時メモしておく。

### 〔科目内容の位置付け〕

教職に関する科目（「国語科教育法」「初等教材研究A（言語・文化系）」等の基礎科目として位置付けられている。国語科の授業（学習指導）を行う際の基盤となる科目であるという認識のもとに授業に臨むこと。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

初等国語、国語科教育法、初等教材研究A（言語・文化系）

科目名	社会科概説 / 社会科概説 I		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	奥澤 信行		

### 〔講義目的〕

小学校社会科の学習内容のうち主として地理的分野を扱う。社会科は第3学年から履修が始まるが、第3・4・5学年では地理、第6学年で歴史および公民の内容を扱っており、地理に関する分量が多くなっている。地理的な内容で扱う空間については、身近な地域から始まって、市町村・都道府県・国・世界の中の日本へと面的スケールを順次拡大させる構成になっているが、それぞれの空間に関して、単に地名や特産品を暗記させる無味乾燥な学習を排除し、地理的事象を観察、調査した上で具体的な資料を効果的に活用して、地域社会の特色や地域間相互の関係を考える「問題解決能力」の育成が重視されている。本講義ではこのような地理の本来あるべき姿に主眼を置いて、地理の面白さを受講生が感じ取れるようにした上で、さらにこれを児童に伝える方法にまで踏み込んだ説明を行う。

### 〔講義内容〕

- I 社会科の成立と変遷
  - ①社会科の成立
  - ②小学校社会科の変遷
- II 社会科教育の目標
  - ①教科目標
  - ②学年目標
- III 社会科教育の内容
  - ①第3学年および第4学年の内容
  - ②第5学年の内容
  - ③第6学年の内容
- IV 社会科の実践課題
  - ①地図や地図帳の活用
  - ②情報の収集と活用
  - ③「総合的な学習の時間」との関連

### 〔講義のすすめ方〕

小学校の社会科についてその概観を理解することが目的であるため、講義が中心となる授業である。なお小学校を現場とした諸問題が発生した場合にはこれを授業で即座に取り上げ、ディスカッションにより教育への関心をより深化させたい。

### 〔教 材〕

テキストは特に使用せず必要に応じてプリント

を配布する。

参考書 『社会科教育の研究』 佐々木昭著  
学文社  
『改訂小学校学習指導要領の展開社会科編』 北俊夫編著 明治図書

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席状況と試験の成績で評価する。出席については、毎時間出席カードを配布して厳格に記録にとどめ、これを点数化するので出席状況が評価を左右することがある。学生証によるタッチ式の出席も併用するが、カードとタッチ式の出席状況に差異が生じた場合には、カードによる記録を優先する。定期試験は論述式により解答する形式で、授業で取り上げたテーマから出題する。なおノート等の持ち込みは一切認めない。規定回数以上出席した受講生を評価対象者とし、試験の成績75%、出席点25%の割合で評価する。また授業中の積極的な発言はプラス点として加味したい。

### 〔履修のポイント・注意点〕

小学校教員免許取得希望者にとっては必修科目である点を踏まえ、教育現場の実態についても具体例を挙げて説明するので、受講生も常に教育問題に関心を持って授業に臨んでもらいたい。学校や教育に関わる社会問題については、これを生きた教材として利用したいので、自分なりの考えをまとめる習慣を身に付けておくことを希望する。また教員希望であるからには、基本的に真面目であることが前提となるであろう。真摯な態度で授業に取り組んでもらいたい。

### 〔科目内容の位置付け〕

小学校社会科で扱う内容について、基本となる事項について説明する。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

この科目を履修した上で、より実践的な社会科教育法へと継続するので、なるべく1年次に単位を修得してもらいたい。また地理学全般を概観する意味から教養科目の「地理学A・B」を履修することを薦める。

科目名	算数概説 / 算数概説 I		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	後藤 達生		

#### 〔講義目的〕

小学校算数の全体について概説します。算数科の大きな特徴ですが、根底にあって理解すべきことは、あまり多くはありません。この数少ない基本事項の理解を徹底するのが、この講義の大きな目的です。

算数の指導内容は4領域に分割され、さらに幾つかの小項目に分かれています。多くの項目は学年ごとに繰り返し扱われ、回り階段を昇るようにして進んでいきます。例えば、位取り記数法を用いて表される数は、第1学年では百までの自然数ですが、学年を追って桁数を増し、第4学年では億、兆までになります。さらに第5学年では小数の記数法が扱われといった具合です。これらはすべて十進位取り記数法というひとつの原理に基づいています。たったひとつのこの原理から、多くの興味深い事柄を導くことができます。

この講義で扱われる教材は小学校算数科の教材が中心ですが、中学校数学の教材にも触れます。数の概念、図形の概念など微妙に扱いが違ふところがあります。

算数や数学は決して暗記科目ではありません。根本にある数少ない原理を理解すれば、そこから多くのことを学ぶことができます。学生諸君の一人でも多くの者が算数好き、数学好きになってもらうことがこの講義の最大の目的です。

#### 〔講義内容〕

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 整数と記数法
- 第3回 約数と倍数
- 第4回 小数と記数法
- 第5回 乗法の意味
- 第6回 除法の意味
- 第7回 分数
- 第8回 無理数
- 第9回 円周率
- 第10回 作図
- 第11回 等積変形
- 第12回 角の3等分
- 第13回 正5角形
- 第14回 立体と展開図
- 第15回 テスト

#### 〔講義のすすめ方〕

講義中心に進める。また、出席を取る代わりに毎回小テストを行う。

#### 〔教 材〕

「教科書」 教科書はとくに使わない。  
「参考書」 「小学校学習指導要領解説・算数編（文部省）」 東洋館出版社

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席点、毎回の講義での小テストおよび期末試験などによる。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

毎回の講義ではノートをきちんと取ること。教科書がないこの講義ではノートがとくに大切になります。

#### 〔科目内容の位置付け〕

教科に関する科目

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目は算数概説、関連科目としては初等算数がある。

科目名	理科概説 / 理科概説 I		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	小原 政敏		

#### 【講義目的】

小学校の理科の内容について全体像を把握することと小学校理科指導の基本的な考え方や評価の観点について学習する。

#### 【講義内容】

- 1) 小学校学習指導要領と理科  
学習指導要領の目標  
理科の目標
- 2) 生活科と理科
- 3) 各学年の理科  
3年生の理科の内容  
4年生の理科の内容  
5年生の理科の内容  
6年生の理科の内容
- 4) 理科の評価の観点
- 5) 理科と総合的な学習
- 6) 人間形成と理科教育
- 7) 探究活動と理科教育
- 8) 仮説実験授業
- 9) 素朴概念と科学概念

#### 【講義のすすめ方】

学習指導要領理科の内容を全般的に理解できるように講義を中心に解説する。内容によっては簡単な演示実験を示しながら解説する。

#### 【教 材】

- 教科書 ①小学校学習指導要領理科編  
文部科学省  
②改訂小学校学習指導要領の展開理科編  
角屋重樹著 明治図書

①、②は必ず備えること。

参考書 必要に応じて紹介する。

VTR・補助プリント

パソコンソフト

#### 【成績評価の方法・基準】

小学校理科の理解、児童に理科を楽しく 興味関心を高められるような指導への意欲 や努力を評価する。

筆記試験 学期末の定期試験

レポート 提出・内容について評価

(必要に応じて指示する。)

判定基準 (講義内容で変更あり)

- ・試験点数 60%あるいは80% (レポートを課さない場合)
- ・出席率 20%
- ・レポート 20%あるいは0%

#### 【履修のポイント・注意点】

小学校の理科の内容は、単純なものであり、児童が興味を持ちやすい内容である。多くの児童は、理科には興味関心を示す。児童には理論的な説明を高度には求めることはないが、理科を指導するものとして科学的な認識や原理原則をしっかりと理解することが大切である。

#### 【科目内容の位置付け】

小学校の理科の内容の内容について最初に学ぶ講座である。この講座で小学校理科の内容と考え方を理解することが必要である。

この科目の内容の理解を元にして「初等理科」(「理科概説Ⅱ」)、「理科教育法」に進むことができる。

#### 【前提・関連科目 (科目間関連の内容)】

前提科目 なし。

関連科目

- ・教養科目として「環境科学」がある。

引き続く科目

「初等理科」(「理科概説Ⅱ」)

「理科教育法」

科目名	理科概説 / 理科概説 I		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	鈴木 宏昭		

### 〔講義目的〕

小学校の理科を教える教員としての基本的な力量を身につけることを目的とする。そのため、現代理科教育研究の動向を踏まえつつ、理科の目的論、内容論、教授学習論、教材論、評価論をはじめとした、初等理科教育の理論と実践について解説する。特に、理科の目標と内容構成について重点的に解説する。

### 〔講義内容〕

- 1) 現代の理科教育を取り巻く諸問題（国際学力調査の結果、実際の授業をビデオで視聴）
- 2) 初等理科教育の意義と目標（小学校学習指導要領における理科の目標を中心に）
- 3) 理科の歴史（日本や欧米の初等理科教育の変遷）
- 4) 初等理科教育内容の内容構成
  - ・ 生物と環境
  - ・ 物質とエネルギー
  - ・ 地球と宇宙
- 5) 現代理科教授学習論（構成主義学習論、問題解決学習）
- 6) 理科教育教材論（理科教材の変遷、現行の小学校理科の教科書について）
- 7) 理科教育評価論（観点別評価を中心に）
- 8) 理科教育実験における安全管理（観察や実験活動時における事故対策、薬品管理について）
- 9) 学習指導案の作成

### 〔講義のすすめ方〕

学習指導要領理科の内容を全般的に理解できるように講義を中心の形式をとる。内容によっては簡単な演示実験を示しながら解説する。また、必要に応じて作業を随時取り入れたい。

実験・観察は、関連科目である「理科教育法」で実施する。

### 〔教 材〕

教科書は、特になし。適宜、印刷資料を配付する。

参考文献は、そのつど紹介していく。

できれば、以下の文献を入手してほしい。

○文部科学省、小学校学習指導要領解説、理科編、

東洋館出版社、1998。

### 〔成績評価の方法・基準〕

試験、レポート、授業時の発表、出席（出席状況も十分に評価に加味する。授業日数の2/3以上の出席が定期試験の受験基礎資格とする。）を総合して行う。

- ・ 試験点数 60%
- ・ 出席率 20%
- ・ レポート 20%

### 〔履修のポイント・注意点〕

小学校の理科は、どのような目標と内容が設定された教科であるのかを理解してほしい。そのため、小学校学習指導要領で書かれている内容を正確に理解することが重要である。また、現代理科教育が抱える様々な問題点についても解説する。自分自身が受けてきた理科授業を思い出しながら、それらの問題点の改善に真摯に取り組む、有効な方策を考えてみてほしい。

### 〔科目内容の位置付け〕

小学校の理科の内容の内容について最初に学ぶ講座である。そこで、この講義では、小学校理科の目的と内容構成を理解することがもとめられる。この科目の内容の理解をもとにして「初等理科」（「理科概説Ⅱ」）、「理科教育法」が展開される。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目はない。関連科目には、「理科教育法」がある。また、教養科目に「生物学」、「物理学」、「環境科学」がある。

科目名	生活科概説 / 生活科概説Ⅰ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	石井 智子		

〔講義目的〕

- ① 生活科設置の背景、意義、目標、内容、指導や評価の方法等の概要を理解し、実践への意欲をもつ。
- ② 低学年教科である生活科の特質を理解し「子どもの学び」と教師の役割を考える。
- ③ 子どもの生活圏が学習の場である生活科の教材、人材等の開発と活用について考える。
- ④ 「生活科概説Ⅰ〔生活科概説〕」を通して教師としての資質の基礎を培う。

〔講義内容〕

第1回のイントロダクションで、各回の内容を提示する。

- 教科の理解を進める講義
    - ・小学校教育と教科等の構成
    - ・生活科新設の経緯と生活科の意義
    - ・改訂生活科の趣旨や改訂の要点
    - ・生活科の目標、内容の構成等
    - ・生活科の8つの内容
  - 指導計画・評価計画作成演習
    - ・単元配列・単元開発
    - ・環境構成・子どもの姿
    - ・他教科等との関連
    - ・学習指導と評価の一体化
    - ・子どもを見る目とやる気や可能性を高める
- 評価

- ポートフォリオの作成と自己評価

〔講義のすすめ方〕

- 講義ばかりでなく、具体的な理解を深める実践事例の検討
- 指導・評価計画作成等の演習
- 植物栽培等・具体的な活動や体験、作業等
- できれば専門家や実践家等の実践講話

〔教 材〕

- 小学校学習指導要領解説・生活編

(文部省) (平成11年5月)

- 自作プリント等(随時)
- その他は第1回時に提示する。

〔成績評価の方法・基準〕

- 毎回提出の小レポート・小テスト(出席状況)(50%)、演習等での作成物・作品等(30%)、ポートフォリオ・自己評価(20%)により総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

- できるだけ具体的な活動や演習を取り入れたい。そのための準備は事前に指示する。
- 毎回、講義後小レポートや小テストを実施し、出席の確認と成績の評価をする。

〔科目内容の位置付け〕

- 新設生活科の設置の趣旨・理念・目的・内容、指導法、評価法等の概要を理解することを主たるねらいとする。
- 生活科は、子どもが具体的な活動や体験を通して学ぶ低学年の教科である。子どもにとって価値ある活動や体験となるような実体験を重視したい。
- 子どもの発達筋道に即するため、幼稚園教育等との関連を意図して進めたい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

- 前提科目 特になし
- 関連科目 生活科教育法、初等生活科、教育実習(小学校)

科目名	家庭科概説 / 家庭科概説 I		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	増田 仁		

### 【講義目的】

本講義の前半では、家庭科の戦後史を振り返りながら、社会における家庭科への期待や家庭科が実際に果たしてきた役割を確認する。まず戦後教育改革期における日本の家庭科の成立過程について分析し、家庭科という教科がその当初からもつ特質を明らかにしていく。「高度経済成長期」にさしかかると産業構造の変化と共に、都市部を中心に主婦になる女性が増え、家庭科、特に高等学校家庭科は主婦養成科目という性質を色濃くしていく。1980年代以降になると、家庭科の男女共修をめぐる様々な議論がなされ、実際に男女共修が実現したが、その社会的背景やその後の家庭科教育の変化について解説を加えていく。

授業の半ばでは家庭科教育の親学問である家政学と関連付けながら、家庭科教育について考察を深めたい。後半では、少子高齢化が進む現在の日本社会において、家庭経営はいかにあるべきかビデオ等を視聴しながら皆さんとともに考えていきたい。

### 【講義内容】

- 1、オリエンテーション
- 2、家庭科の戦後史1——家庭科の誕生1——
- 3、家庭科の戦後史2——家庭科の誕生2——
- 4、家庭科の戦後史3——家庭科の位置づけをめぐる——
- 5、家庭科の戦後史4——「高度経済成長期」と家庭科教育——
- 6、家庭科の戦後史5——男女共修の家庭科の成立過程——
- 7、家庭科教育と家政学1——衣生活領域において——
- 8、家庭科教育と家政学2——食生活領域において——
- 9、家庭科教育と家政学3——住生活領域において——
- 10、家庭科教育と家政学4——家族・家庭生活領域において——
- 11、これからの家庭科教育1——仕事と家庭のバランスを目指して1——
- 12、これからの家庭科教育2——仕事と家庭のバランスを目指して2——
- 13、これからの家庭科教育3——少子化社会が

問いかけるもの——

- 14、これからの家庭科教育4——高齢化社会が問いかけるもの——
- 15、まとめ

### 【講義のすすめ方】

基本的には講義形式であるが、授業中にリアクションペーパー等で受講者の意見をきく機会を設ける。関連ビデオの視聴も行う予定である。

### 【教 材】

指定図書：

柳昌子・野村康代編著「家庭科の授業と家政学（小学校編）」北大路書房、1989年。

参考文献：

日本家政学会編、1998年、『日本人の生活』建ぱく社。

井上輝子・江原由美子編、1999年、『女性のデータブック』有斐閣。

### 【成績評価の方法・基準】

平常点とレポートの内容から総合的に評価する。

### 【履修のポイント・注意点】

「家庭科とは何か」という問いを発しながら、家庭科教育の射程範囲の広さを味わってほしい。

### 【科目内容の位置付け】

必修（この科目を履修しないと、3年次の「家庭科教育法」は受講できない。）

科目名	音楽概説Ⅰ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	富田 英也		

### 〔講義目的〕

音楽の基礎を理解し、音楽の意味や機能（はたらき）を捉え、豊かな感性と認知能力の向上をねらいとする。さらに音楽の歴史と教育者や思想家の教育観や理念を理解し、生涯にわたって音楽に親しみ、芸術文化のよさを味わい、生活や社会に生かし豊かにする態度を育成することを目的とする。

### 〔講義内容〕

我が国の音楽文化において歌い継がれてきた日本のうたや和楽器の伝統音楽を再認識し、表現や鑑賞の幅広い活動を味わい、音によるコミュニケーションを通して生活や社会と豊かにかわり、親しみ継承する態度を育む。精神面で人の心や感情を左右する音楽について探究し、現代社会の色々なジャンルの音楽が氾濫した中で、人と音文化の流れや、音楽の有効的活用や音楽環境等について見つめ直し考察する。

### 〔講義のすすめ方〕

- 第1回、音楽って何だろう（音楽の起源・語源・特質）
- 第2回、西洋音楽歴史と我が国の音楽の歩み
- 第3回、世界の音楽教育と音楽教育学者・思想家Ⅰ
- 第4回、世界の音楽教育と音楽教育学者・思想家Ⅱ
- 第5回、音楽の基礎Ⅰ（読譜力、音階と音程）
- 第6回、音楽の基礎Ⅱ（調とその関係、移調と転調）
- 第7回、音楽の基礎Ⅲ（和音と和声、記号と標語）
- 第8回、音楽の基礎Ⅳ（楽式論）
- 第9回、音楽の楽しみ（西洋音楽）
- 第10回、音楽の楽しみ（民族音楽）
- 第11回、音楽の楽しみ（日本音楽）
- 第12回、サウンドスケープ（音の風景）
- 第13回、環境音楽とアメニティ
- 第14回、アコースティック音楽とメディア音楽
- 第15回、まとめ、音楽の歴史や理論を学び生涯にわたり音楽を愛好する態度が育成されたか評価する

### 〔教 材〕

参考図書

- 1、小学校課程のための教科教育法 音楽編 教育芸術者 1470円
- 2、「音楽の歴史と音楽観」 笠原潔著 日本放送出版協会
- 3、「はじめての音楽史」 片桐功他共著 音楽之友社
- 4、「奏でることの力」 若尾裕 春秋社

### 〔成績評価の方法・基準〕

レポートや学期末試験出席等の総合評価、出席率30%、学期末試験70%

### 〔履修のポイント・注意点〕

音楽の役割や目標を考えると、人間の根源的で基本的な幸福の価値観にあると思われる。それは、現代社会の問題点を映し出しており、人とかかわりから心や愛情に問題のあることが計り知れる。そうした時代を超越して音楽について概観する。

### 〔科目内容の位置付け〕

小学校教諭資格取得関連科目、幼稚園教諭資格取得関連科目

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

音楽科教育法、音楽実技Ⅰ（ピアノ）、音楽実技Ⅱ（子どもの音楽）、ソルフェージュ、（音楽理論、ピアノ演奏技術、童謡や子どもの歌、等々）

科目名	図画工作概説Ⅰ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	益田 勇一		

**〔講義目的〕**

明治以降の美術教育の歴史を概観し、「図画工作科」が成立した経緯を学ぶ。それをもとに現在の初等教育における図画工作科の意義、果たすべき役割とそれを達成するために必要とされる学習内容について、学習指導要領とその変遷を踏まえて概説する。

**〔科目内容の位置付け〕**

小学校教員免許を取得する学生のための科目。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

なし。

**〔講義内容〕**

1. 美術教育の歴史(1)  
鉛筆画時代
2. 美術教育の歴史(2)  
毛筆画時代
3. 美術教育の歴史(3)  
教育的図画時代
4. 美術教育の歴史(4)  
自由画教育時代
5. 美術教育の歴史(5)  
戦時下と戦後
6. 学習指導要領の変遷
7. 学習指導要領の解説(1)  
材料や場所をもとにした造形活動
8. 学習指導要領の解説(2)  
絵や立体で表す
9. 学習指導要領の解説(3)  
材料と用具
10. 学習指導要領の解説(4)  
鑑賞
11. 評価について
12. 絵画指導の方法論(1)
13. 絵画指導の方法論(2)
14. 図画工作科の意義と役割

**〔講義のすすめ方〕**

要点を板書して解説を加える。

**〔教 材〕**

教科書は使用しない。

**〔成績評価の方法・基準〕**

定期試験による評価。  
定期試験 100%

**〔履修のポイント・注意点〕**

問題意識をもって受講して欲しい。

科目名	体育概説Ⅰ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	内山須美子・近藤智靖・齋藤一人・齊藤武利		

### 〔講義目的〕

本科目の目的は、小学校学習指導要領に明示されている体育の内容に関して学ぶことである。

### 〔講義内容〕

本科目の内容は、小学校学習指導要領の概要と、高学年で示されている7領域のうち「体づくり運動」「表現運動」「ボール運動」の技術や理論について体を動かしながら学ぶことである。

小学校学習指導要領の概要については、教科の目標、各領域の大きな内容と構造等について学んでいく。加えて、小学生の体力の現状や体育授業の現状についても事例をもとに学んでいく。さらには幼児体育についても触れていく。

「体づくり運動」については、「体力を高める運動」や「体ほぐしの運動」について理論と簡易な実技を通じて、その考え方を学んでいく。「表現運動」については、「フォークダンス」や「創作表現」をしていく上での基礎的な動きやリズムに合わせた動き等を学んでいく。「ボール運動」では、攻防入り乱れ型のゲーム形式のうち、シュート型の代表として、バスケットボール（場合によっては、ポートボール）を取り上げる。また、陣取り型のゲームとしてタグやフラッグを使ったゲーム（タグラグビーやフラッグフットボール等）を取り上げる。ここでは、基本的なルールの理解や練習方法、技術や作戦のポイントなどを学んでいく。さらには、幼児が楽しめるボール運動などについても触れていく。

概ね下記の通りに行う。

- 第一回 体育の目標・学習指導要領をはじめとした各省庁から発行される関連法令の解説
- 第二回 体力を高める運動の解説並びに実技
- 第三回 体力を高める運動の解説並びに実技
- 第四回 体ほぐしの運動の解説並びに実技
- 第五回 基礎的な動きやリズムに合わせた動きの解説並びに実技
- 第六回 フォークダンスの解説並びに実技
- 第七回 創作表現の解説並びに実技

- 第八回 シュート型のボール運動の解説並びに実技
- 第九回 シュート型のボール運動の解説並びに実技
- 第十回 陣取り型のボール運動の解説並びに実技
- 第十一回 陣取り型のボール運動の解説並びに実技
- 第十二回 簡易なボール運動の遊びの解説並びに実技
- 第十三回 簡易なボール運動の遊びの解説並びに実技
- 第十四回 すぐれた指導者の言葉かけ、良い体育授業についての解説
- 第十五回 定期試験（90分間）

なお、「器械運動」「陸上運動」「保健」の内容については、体育概説Ⅱで扱うこととする。また、各領域の指導方法の詳細については体育科教育法で扱う。

### 〔講義のすすめ方〕

授業は、4名の教員で担当をする。初回はガイダンス及び全体講義とする。それ以降は4領域にわたって授業が展開される。毎時間は理論と実技で構成される。

### 〔教 材〕

参考図書  
 小学校学習指導要領解説体育編・文部科学省・東山書房85円  
 小学校体育の授業 第1学年～6学年 杉山重利他編著 大修館書店 各2200円

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席 50%  
 テスト 30%  
 レポート 20%

### 〔履修のポイント・注意点〕

「講義のすすめ方」でも示した通り、本科目は、単に体を動かすだけの科目ではない。小学校や幼稚園・保育所等の体育において必要とされる技術的なポイントや動きの基礎などを理解することも含んでおり、「できる」と「わか

る」の統一を目指している。  
体育は、実習においても指導しなくてはならない可能性が高く、子どもの安全管理に直結する科目でもある。実習先で困惑しないためにも、しっかりと基礎的なルールや技術を理解してもらいたい。

**〔科目内容の位置付け〕**

体育概説Ⅰは、体育を指導するための入門となる科目である。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

本科目は、体育科教育法、子どもの運動、体育概説Ⅱと関連している。

科目名	子どもの運動		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	内山須美子・金田健史・齋藤一人		

### 〔講義目的〕

体育という強化から見るとき、保育者あるいは教員として、次の事柄が重要であると考えられるので、以下の項目を達成することを講義の目的とする。

- 1) 保育者、教員自信が健康であり、体力のあること
- 2) 子どもの身体の発達や運動能力の発達について理解していること
- 3) 体育指導の基礎的な理解と指導援助法を身につけていること

### 〔講義内容〕

- 1) について
  - ①保育氏や教員の仕事を学ばせることによって、健康の維持や体力の必要性に気付く
  - ②体力づくりを実施する
- 2) について
  - ①年齢による身体発達・運動能力の発達について理解する
  - ②一般的な人体発達・運動能力の発達について理解する
- 3) について
  - ①年齢に見合った運動遊びや体育の学習内容について調べる
  - ②運動遊びや体育の学習が、身体・運動発達だけでなく、社会性や協調性、更には思考力を育むものであることを理解する
  - ③具体的な運動遊びや体育の学習を通して、安全管理のポイント、指導・援助の方法について学ぶ

### 〔講義のすすめ方〕

保育園・幼稚園での運動遊びや小学校体育の内容を、4人の教員がそれぞれ担当する。

### 〔教 材〕

特に指定しない

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、授業への姿勢、レポート等を含めて総合的に評価する

### 〔履修のポイント・注意点〕

自ら進んで学ぶ姿勢を持つこと

科目名	教育基礎論		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	中谷 陽子		

### 〔講義目的〕

いま教育に危機感を抱く人が多い。教育基本法をはじめ学校教育法の改正など、日常的に「教育」が語られることが多い。

さらに次世代を担う子どもや青年たちの教育ばかりでなく、その日常生活の中でも危機感をつのらせているのが現状である。

本講義の目指すところは「学生諸君が教育的な視点から身近な問題をしっかりとらえる力を持ち、一市民として自分なりの意見が持てて、必要な場ではそれを自分のことばで語れること」である。

### 〔講義内容〕

- ① 子どもの歴史をひも解く。
- ② 過去5年間の教育資料を解く（教育の意義と目的）
- ③ 現代の教育を支える歴史上の人物描写
- ④ 教育課程の基準の指導のねらい（4本の柱）を学び、演習（以下に進める）の方針を確認する。
  - ・豊かな人間性や社会性を育成すること
  - ・自ら学び、自ら考える力を育成すること
  - ・基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること
  - ・特色ある教育、特色ある学校づくりをすすめること
- ⑤ ④を踏まえ、演習形式で学習を進める：テーマを得て、グループ活動の形式で、自主的に生徒達の学習計画を立案する面白さを発見する。
- ⑥ 学習指導要領の変遷を知り、現在の教育のよりどころを確認する。
- ⑦ いじめ、不登校の理解

### 〔講義のすすめ方〕

1. 上記講義内容①？④は教育の現状を根本から正しく認識するために、講義形式で学ぶ。
  2. 講義を踏まえて、続く具体的な教育活動への接近を試みる《演習形式で》。
  3. 教育の4本の柱を、学部の特徴を生かしながら仲間と練って、教育の本質を初歩段階ながら実感し、それを発表する。
- \*時間の余裕があったら<はなのたより>を読む。

む。

はなのたよりとは：

青木雅夫先生による「校長通信」であるが、便りの行間から、現代社会の課題を理解し、現場からの教育への提言を読み取る。

### 〔教 材〕

テキスト：「教育学概論」生野・中谷著

\* 開講後に指示有。

### 〔成績評価の方法・基準〕

- ① 出席状況
- ② 普段の努力（グループ形式で討議しながら進める自由研究）
- ③ 学期末の試験

### 〔科目内容の位置付け〕

教員採用試験（教採）を考えると、本講義には関連した内容が連なっていることを発見するであろう。

科目名	教育基礎論		
単位	2	開設	半期
教員名	馬場 将光		

### 【講義目的】

本講義は2つの目的をもつ。1つは学生諸君が日本における教育学全般の基礎的な知識、考え方を身につけることであり、2つは教員の資格をとり教職につこうとするものにとって、将来教員選考試験をパスするための基礎的な知識を学習することである。

### 【講義内容】

講義内容は、おおむね次のようになる。

1. 教育の意義
2. 学校教育の目的・目標
3. 教授の理論
4. 学習理論
5. 教育課程
6. 学習指導要領と教科書
7. 生徒指導・管理
8. 道徳教育、人権・同和教育
9. 学校と教職員の管理
10. 学校・学級の経営
11. 生涯教育、社会教育
12. 障害児教育
13. 教育行政
14. 学校の歴史
15. 現代の教育と教育改革

### 【講義のすすめ方】

講義はテキストにそって、毎時間テキストの1-2章ずつ進む。講義の内容は具体的な事例を紹介しながらわかりやすい解説をしていく。講義の内容は1回ごとにまとまっていて、次の時間と継続することはない。

講義の概要は、毎時間、印刷物で配布する。さらに宿題をしばしば出すので、翌週その提出を忘れないようにする。

### 【教材】

以下のテキストを使用する。

テキスト：時事通信社 内外教育研究会編  
「教職教養の重点研究」

(時事通信社) ¥1800円+税

参考書：真野宮雄・増田実共編

「現代教育概論」

(学術図書出版社) ¥2200円+税

### 【成績評価の方法・基準】

- ・テキストの概要をまとめたノートを定期試験を受けるときに提出する。ノート提出者には5点を加算する。ノートは後日返却する。
- ・学期末に定期試験を行う。合格の基準は原則として60%できていることとする。
- ・次の課題の中から10課題を選び、各課題について1000字前後の解説を提出したのものには試験の成績に10点を加算する。これはあくまで任意であって義務ではない。提出の締め切りは前期6月20日、後期12月20日とする。この解説はすべて手書きとする。ワープロ使用は認めない。提出先は馬場研究室とする。

課題：教職員の種類、教職員の職務と資格、教員の選考と採用、分限処分、懲戒処分、服務、職務命令、教職の専門性、研修、教員給与、勤務時間・休日・休暇、時間外勤務、労働基本権、人事委員会、不利益処分に関する不服申し立て、公務災害、学習指導要領、教科書、部活、生活指導、道徳教育、学校行事。

### 【履修のポイント・注意点】

- ・出席をとる。毎時間、出席データ収集端末機で出席を確認する。
- ・講義は時間的に正確に始まる。正当な理由のない遅刻は認めない。遅刻入室は禁止する。
- ・話はゆっくりなので、講義の話をよく聞き、そしてメモを的確にとるようにする。黒板はほとんど使わない。黒板に書かない代わり、板書する内容をプリントして、前もって配布する。

### 【科目内容の位置付け】

- ・講義の内容、レベルとも教育学の基礎的、基本的なものであるから、そんなにむずかしくはない。きちんと出席をしてきちんと復習をすれば、理解できる。
- ・話は結構楽しくて面白いよ！いや、ほんと。

### 【前提・関連科目(科目間関連の内容)】

前提・関連科目：教育課程論、比較教育論、教育制度論

科目名	教育基礎論 / 教育原理		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	石堂 常世		

〔講義目的〕

▼授業のねらい

本講義は教職課程科目のなかでももっとも基礎になる科目であり、この授業を通して学ぶことは、以下である。

- 1 教育の理念からみた人間形成
- 2 教育の歴史と思想
- 3 教育課程の意味、編纂、政策の推移
- 4 教育の法規と制度
- 5 変化する社会の中の学校の役目と教師の仕事

受講者は、これまで教育を無意識的に受けてきたがゆえの個人的・主観的な見方から、この授業を受けることによって、「教育」という事象を客観的に理解し、解明し、検討する立場に転じる。

【巨視的に教育を学ぶことによって、人間の成長や発達の問題、社会における教育の機能、人間性の育成という意味の大きさに目覚めることであろう。

まず、「教育は何のために」行われるのかという基本的問いを基（もと）にして、人間教育の意義と目的を理解させる。その際に、教育の思想史的考察を活用する。

次いで、教育の歴史について、学校の発達の歴史と変遷を制度史と思想史の両面から説明する。さらに、西洋社会の教育の歴史と、わが国の教育の歴史を立体的に比較教育的に理解できるようにして、とくにわが国における教育の特色・課題を知り、問題意識を深める。

その理解は、単なる傍観者としてではなく、幼き者、育ちゆくものの教育にたずさわる者、すなわち教師として、生徒の成長・発達に責任あるものとして、深まるようになってほしい。

〔講義内容〕

授業計画

1. 序 教育の意義 家庭・学校・社会 到来した生涯教育の時代
2. 実践研究 私が受けた教育 - その意義を考察する -
3. 理論篇 人間の教育を問う 飼育と訓練と教育の類似点と相違点
4. 理論篇 教育の目的を問う

プラトン、アリストテレス、コメニウスにみる古典的教育観がめざした目的

5. 理論篇 知識というもの：情報知と自己練磨の智  
→学力とは何か？ 現代社会における人間知の分断
6. 理論篇 感覚論から新教育論へ  
ロック、エルヴェシウス、デューイ
7. 理論篇 「新教育」と幼児教育原理  
子どもの立場に立った教育論の系譜と内容  
ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、モンテッソリ、エレン＝ケイ、ピアジェ
8. 理論篇 国家と教育 公教育論 コンドルセ、デュルケイム
9. 実践篇 教育課程の研究 学習指導要領と授業実践
10. 実践篇 系統知と経験知 戦後の「社会科」教育の展開、現在の「総合的な学習」
11. 実践篇 教育の歴史 学校史 古代—中世—近世—近代—現代
12. 実践篇 教育法規と教育政策 中央教育審議会の役割と最近の主要答申  
「学制」「教育勅語」「教育基本法」「改正教育基本法」他
13. 実践篇 学校教育の変革 教育状況の分析  
A. 機会均等・教育大衆化・学校選択制・小中一貫教育制、教員研修・学校評価  
B. 青少年非行 校内暴力、不登校、発達障害、LD、体力の低下、キレる
14. 実践篇 今日の社会変動と子どもたち  
教師はどう対応するか  
実践篇 自然の破壊、情報化時代、変動する労働市場 青少年の規範意識の問題
15. 定期試験日

〔講義のすすめ方〕

時にレポートを発表させ、相互に考察を広めていく主体的な授業構成とする。

〔教 材〕

教科書：安彦・石堂『現代教育の原理と方法』（勁草書房）2,200円  
参考書：授業中に随時、参考文献を示唆する。

○プリント資料：毎回、授業のレジюмеと関係資料をプリント配布する。

**〔成績評価の方法・基準〕**

評価（総合点）

- ①授業中に出すレポートの点数（4段階評価）（10%）
- ②出席状況と授業態度の積極性（10%）
- ③学期末試験（100点満点）（80%）

**〔履修のポイント・注意点〕**

具体的な時事問題の考察に留まらず、「教育の原理」の考察を行わせ、教員採用試験に合格できる教職教養を培う。

しかし、古今の叡智を学ばせ、最終的には、人間形成や教育問題を考えるにあたっての「判断力」を養うことを目指す。

配布プリントをなくしてはいけない。

**〔科目内容の位置付け〕**

教職課程の支柱的科目

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

本科目が最前提科目

科目名	教育基礎論 / 教育原理		
	保育士資格のための教育学入門		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	石堂 常世		

### 〔講義目的〕

本科目は、保育士養成教育課程で「保育の本質・目的の理解に関する科目」として位置づけられている。さらに、保育士資格のみならず、幼稚園、小学校一種の教員免許取得に対しても必修科目として配当されている基本科目である。

本授業では、教育についての基本的な原理を理解させることを目的としているが、上記の資格取得からして、生徒一般よりもとくに幼き「子ども」に焦点を置き、教育の意義、目的、幼児教育の歴史と思想、子どもの発達と成長、教育制度と法規約、実践原理と今日的動向について考察を深めさせる。

最終的に、小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示されている諸原則を、社会の変化を踏まえてより多角的に、さらには国際的見地からも考察を深められるよう、合わせて、子どもの健全育成を願う暖かい指導者として活躍できる人材育成をめざす。

### 〔講義内容〕

- 第 1 回 序論 教育とは何か 家庭教育・学校教育・社会教育の一体化  
(課題 1 : 私の受けた家庭教育)
- 第 2 回 家庭教育の意義、母親の役目と子育ての意味 (発表・討論)
- 第 3 回 家庭教育と保育所・幼稚園との連続性・連携
- 第 4 回 幼児教育の歴史と思想 (新教育思想) その 1
- 第 5 回 幼児教育の歴史と思想 (新教育思想) その 2
- 第 6 回 子どもの成長・発達の原理
- 第 7 回 子どもにおける道徳性・規範意識の育成
- 第 8 回 保育士の姿勢と役割  
(課題 2 : 私のめざす保育士)
- 第 9 回 幼児教育の健康・安全に関する諸問題、保育所のリスクマネジメント
- 第 10 回 学校とは何か、学校制度、教育法規
- 第 11 回 教育課程、学習指導要領 教育施策
- 第 12 回 幼稚園教育要領の原理、小 1 問題、幼保一元化などの動向
- 第 13 回 保育所保育指針にみる保育の原理

第 14 回 社会の変化と子どもの健全育成上の諸問題、地域子育て支援体制について

第 15 回 定期試験 (90 分) 実施

### 〔講義のすすめ方〕

講義式であるが、教科書の他に、毎回授業レジュメを配布し、理解の徹底を計る。また、関連資料の配布も行い、ものごとを実証的に理解させる。

レポート課題は 2 回出す予定で、教育の原理の理解を自分自身の主体性と連動させているように計らう。課題は発表させたりすることによって、他者の考え方を比較検討させ、子育て理解や教育の重要性を共通認識できるようにはからう。

毎回質問があるかどうかを確認しながらそれに応じ、興味を促しながらの相互交流方式で授業を進める。

### 〔教 材〕

前期配当科目の場合は、教科書として、田中亨胤・中嶋紀子編著「幼児期の尊さと教育」ミネルヴァ書房、を使用する予定である。後期配当科目の場合は、9 月中に、改めて掲示する。

合わせて、授業レジュメ (配布)、関連資料 (配布) を使用する。

### 〔成績評価の方法・基準〕

以下の 3 項目の総合評価 (100%) とする。

- 1 定期試験 (90 分間) 80%  
受験資格は、「白鷗大学試験規則」に準ずる。
- 2 レポート課題 (2 回) 10%
- 3 出席率、その他の授業における積極性 10%

### 〔履修のポイント・注意点〕

全回出席を原則とする。

### 〔科目内容の位置付け〕

保育士資格取得のための重要な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕  
教職課程科目中の最前提科目である。

科目名	道徳教育の研究 / 道徳教育の理論と方法P		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	杉田 知之		

### 【講義目的】

道徳教育とは何かについて、学生自身が今までに体験してきた道徳教育の諸場面を振り返りながら具体的に考えていく。また、教職を目指す立場から、学校における道徳教育がどのように行われているのか、その中心となる「道徳の時間」の指導はどのように行うとよいのかなどについて、具体例をもとに追求していく。

道徳教育が学校教育全体を通じて行われることの意義を問いながら講義を受け、具体例を通して共感的に理解して欲しい。とりわけ、学級担任が「道徳の時間」の指導を中心に、各教科、特別活動及び総合的な学習の時間との密接な関連を図りながら学級経営にあたっている仕組みを知ることにより、教職の魅力を再認識し、教職に対する夢やあこがれを一層高め、自分の生き方を考えることにも生かして欲しい。

### 【講義内容】

- 第1回 道徳教育の意義について考える
  - ・自身の小・中学校時代を振り返り、道徳教育の原風景をふまえて考える
- 第2回 学習指導要領における道徳教育の理念について学ぶ
- 第3回 学校の指導計画例を知り、学校教育全体を通じて指導する意義を理解する
  - ・全体計画例、年間指導計画例などを通して考える
- 第4回 学級経営の指導計画をシミュレーションする
  - ・学級担任になったつもりで、年間指導計画等を作成する
- 第5・6回 道徳授業の基本的な進め方を理解する
  - ・資料「おじさんの手紙」、他
- 第7回 道徳の内容項目と実際の資料との関係を考える
- 第8・9回 心のノートについて学ぶ
  - ・心のノートの内容を理解し、学級担任になったつもりで、その活用法を考える
- 第10・11回 資料に即して学習指導案を作り、授業展開を考える
- 第12・13回 道徳指導の多様な展開例を知り、発達段階に応じた指導につ

いて考える

第14回 学習指導要領における道徳性の構造について学ぶ

第15回 今までの講義を振り返り、道徳教育について学んだことをまとめる

### 【講義のすすめ方】

学校において使用されている道徳の資料、教員が自作した指導案、道徳主任が立案した年間指導計画などの実物資料を例示しながら講話をすすめる。

また、必要に応じて、ペア学習で話し合ったり、インタビューする場面を設けて、講話内容の理解を促す。

### 【教 材】

教材にする資料は、印刷して配付する。講義においても指示・紹介する。

#### 参考書

- 『小学校学習指導要領解説 道徳編』  
(文部科学省)
- 『心のノート 小学校1・2年生』  
(文部科学省)
- 『心のノート 小学校3・4年生』  
(文部科学省)
- 『心のノート 小学校5・6年生』  
(文部科学省)

### 【成績評価の方法・基準】

小レポートや小テストを講義の中で時間を確保して行い、その成績を累積することによって総合的に評価する。

### 【履修のポイント・注意点】

講師の説明に基づいて資料をよく読み、要点をマーカーでチェックしたり、メモをとったり、自分の感想を書き込んだりするよう心がけてほしい。ペア学習などにより、学生同士が話し合ったり、発言したりする場面では、積極的に取り組んでほしい。

### 【科目内容の位置付け】

教職に関する科目

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものである。したがって、本講義の内容は、教職に関する科目全般に関連するほか、各教科等の専門科目についても、児童生徒理解に基づく教科の指導法を学ぶという点で深く関連する。

科目名	特別活動の研究 / 特別活動の理論と方法P		
単位	2	開設	半期
教員名	生野 金三		

### 〔講義目的〕

特別活動は、各教科、道徳、総合的な学習の時間と共に小学校、中学校、高等学校の教育課程の一領域を占めているが、21世紀を主体的に生きる人間形成を志向する我が国の学校教育において重要視されている。平成10年7月の教育課程審議会答申の特別活動の「改善の基本方針」に「集団の一員としての自覚を深め、児童生徒の個性の伸長と調和のとれた豊かな人間性を育成」「好ましい人間関係の醸成」「協力してよりよい生活を築く」等の「生きる力」を育む重要な要素が掲げられている。

好ましい人間関係の醸成、協力してよりよい生活の構築等を特別活動において強調しているが、それは他者を思いやる心、そして互いに認め合い共に生きていく態度等の豊かな心を持った人間性を育成する中で育まれると言及されている。この豊かな人間性の育成は、「生きる力」の心の教育の側面として極めて重要視されている内容である。

上記のことを踏まえ、本科目では、特別活動の成立と発展、特別活動の内容、特別活動の指導法等について研究することを目的とする。

### 〔講義内容〕

本科目では、以下の内容について研究する。

- 1 特別活動の成立と発展
- 2 特別活動の内容
  - ・特別活動の目標の基本的な性格
  - ・特別活動の各内容の特色
    - A学級活動
    - B児童会活動
    - Cクラブ活動
    - D学校行事
  - ・特別活動の授業時数
- 3 特別活動の指導
  - ・特別活動の指導計画
  - ・学習指導案の形式
- 4 学級活動の指導
  - ・学習指導案を基に
- 5 児童会活動の指導
  - ・学習指導案を基に
- 6 クラブ活動の指導
  - ・学習指導案を基に
- 7 学校行事の指導

- ・学習指導案を基に
- 8 学校図書館との関わり

### 〔講義のすすめ方〕

講義、演習、グループ学習、プレゼンテーション等を中心に授業を進めていく。本科目では、毎回の授業が次の授業へ継続発展していくので、そのことを念頭においておくこと。

### 〔教 材〕

テキスト 文部省「小学校学習指導要領解説特別活動編」東洋館出版社  
 豊澤弘伸・生野金三「特別活動の研究」学教図書出版会  
 生野金三「読書指導の方法と実践」学教図書出版会

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、ポートフォリオ、ミニ課題、ミニテストの四者で評価する。ポートフォリオ、ミニ課題の提出は、予め決められた締め切り日までに生野の研究室に直接持参すること。

### 〔履修のポイント・注意点〕

出席をとる。授業の3分の2以上出席した受講生を評価対象者とする。

授業内容は、積み上げ方式になっているので、前回の授業内容を踏まえておくことが重要である。

期末にポートフォリオ（授業で学習した内容を振り返り、自分の学習の成果が分かるように「目次」「見出し」「全体の構成」「後書き」等を考えて、作成した学習記録のこと。又は、これまでの学習を凝縮したオリジナルのテキストのこと。）を作成するので、授業内容は随時メモしておく。

### 〔科目内容の位置付け〕

教職に関する科目として位置付けられている。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

各教科の指導法の科目、道徳教育の研究、教育方法論

科目名	教育方法論Ⅰ / 教育方法論P		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	五十嵐 敦子		

#### 〔講義目的〕

学習指導の意味・役割、技術を中心に、教育活動全体を通して、教師が学校で教えるということは子どもたちにとって何を意味するのか、子どもたちが価値ある学びをするために、教師は何ができるのか、ということを考えてい。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

15回出席を原則とする。

#### 〔科目内容の位置付け〕

教育に関する学問の基礎科目  
保育士資格取得のための重要な科目である。

#### 〔講義内容〕

1. 授業とは何か
2. 教育課程の構造と類型
3. 学習指導要領の変遷
4. 現代の教授理論①デューイらによる問題解決学習
5. 現代の教授理論②ブルナーの発見学習
6. 現代の教授理論③オープン学習—緒川小学校（愛知県）の実践例（ビデオ視聴）
7. 授業のプログラム—指導案、学習者の動機
8. ヘルバルトの四段階教授説
9. 陰山英男先生の教育実践例他
10. 教育における評価と改善
11. 情報化社会における教育の問題
12. 授業の技術
13. 教育における新聞活用法（NIE）について
14. まとめ
15. 試験（90分）

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

「教育課程論」

#### 〔講義のすすめ方〕

基本的には講義形式で行うが、リアクション・ペーパー、小レポートなどを取り入れるなどして、相互交流のできる授業を心掛けたい。

#### 〔教 材〕

多田敏文編「教育の方法と技術」学芸図書

#### 〔成績評価の方法・基準〕

14回の授業出席者に対し、定期試験の受験資格が与えられる。

①出席状況30%、②小レポートなど20%、③定期試験50%の割合で総合的に評価する。  
特に出席は重視するので、正当な理由があつて欠席する場合、欠席した場合は、必ず申し出ること。

科目名	生徒指導Ⅰ / 生徒指導論（進路指導を含む）		
	キャリア開発の視点から生徒指導を問い直す		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	榎本 和生		

#### 〔講義目的〕

生徒指導の意義は、個々の児童生徒が社会的な自立を図るために必要な能力や態度の育成にあります。すなわち、人間いかに生きるべきかという自己指導能力に裏打ちされた人間形成への教育的な営みと捉えることができます。本講義では、教育の機能的及び領域的な側面から、生徒指導の原理、歴史の変遷、学校現場における実践上の課題等を踏まえ、生徒指導（進路指導を含む）の理論と実践力を深め、今日的な教育課題に対応できる教師の育成を目指した授業を展開します。

#### 〔講義内容〕

- 第1回 生徒指導被体験からの想起
- 第2回 今日的な児童生徒の現状と課題
- 第3回 生徒指導の歴史と用語の多義性
- 第4回 生徒指導の意義と役割
- 第5回 ガイダンスの機能の充実とは
- 第6回 教育課程の編成と生徒指導
- 第7回 生徒指導主事の役割と校内体制
- 第8回 学級経営、特別活動等と生徒指導
- 第9回 問題行動対応と発達課題の関連
- 第10回 生徒指導と懲戒、出席停止、体罰
- 第11回 サポートチームの活用と生徒指導
- 第12回 進路指導の現状と課題
- 第13回 キャリア教育の現状と課題
- 第14回 まとめ

#### 〔講義のすすめ方〕

講義は、毎時間のつながりを重視して（今日の疑問が次時に解明される）展開しますので、休まず受講すること。各自、予めテキストを熟読し、各章の概要を作成します。その概要作成したものを発表し、討論する方法で授業を進めます。また、生徒指導の被体験談等を基に、学校における様々な教育場面における生徒指導を考察していきます。

#### 〔教 材〕

教科書：「生徒指導・教育相談・進路指導」  
 仙崎武ほか編 田研出版2400円＋税  
 （教育相談 S/ 生徒指導 II の参考書と併用）  
 参考書：「生徒指導の手びき」  
 文部省400円

#### 〔成績評価の方法・基準〕

平常点（受講態度と発言等）40%、期末試験60%を総合的に勘案して評価

#### 〔履修のポイント・注意点〕

テキストや配布した資料を前もって熟読しておくこと。配布する資料等を保存するための専用クリアホルダー（A4、30ポケットで可）の準備を願いたい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

今日、教員が直面する課題は、多忙感であると多くの教師が答えています。その背景として、生徒指導における種々の困難性に加え、保護者や地域からの非難の目（責任放棄、非協力）から、教師の自信もゆらぎ、忙しさが多忙感として心理的な圧迫要因に変質するものと考えます。また、生徒指導を「難しく大変」と受け止め、一人で悩み、その絶望感から教師を辞めたいと思う教師も少なくありません。本講義では、発達課題の達成を指導・援助する生徒指導の本質を理解し、だれもが協働できる、開かれた（児童生徒も参加できる）生徒指導を習得するなど、教師生命の根幹を身につける授業と理解されたい。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

機能としての生徒指導は特別活動の領域で実践されます。したがって特別活動の講義内容も確実に理解することを希望します。

科目名	生徒指導論 / 生徒指導論（進路指導を含む）		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	本間 研一		

### 〔講義目的〕

生徒指導の問題は児童の心についての理解が重要である。単にいじめや暴力行為、不登校など表面的に現れた問題行動への対応だけではない。児童の内面に目を向け、心身のよりよい成長を援助し、個別的な発達に応じた自己指導能力を育成するような方向性をもった指導が求められている。教師として生徒の生き方を総合的に援助できるような正しい生徒指導を学習する。

### 〔講義内容〕

1. 教育と生徒指導  
生徒指導・教育相談とは  
生徒指導の意義
2. 学習指導要領での生徒指導の機能と指導上の留意点について
3. 生徒指導の内容及方法  
生徒指導の目的と本質 内容の検討
4. 教育的集団とはなにか  
集団活動の意義 集団の構造と機能  
リーダーシップの心理 対人認知の心理
5. 教師と生徒指導  
教師の役割 指導と管理、説明と説得  
子どもを取り巻く状況と難しさ
6. 集団の指導の方法  
教育的グループ作り リーダーの指導  
生徒の生活と自己指導力の育成
7. 集会の指導  
子どもの自主的な管理組織作り  
「決めること」の指導 集団の風土作り
8. 道徳教育と生徒指導  
集団の規範意識の形成  
問題行動と生徒指導  
青年期の生き方と生徒指導
9. 進路指導の本質  
進路指導とは  
キャリア教育の基礎理論
10. 進路指導の発達の展開  
発達段階に応じた進路指導  
進路指導の実際  
学校における進路指導の役割
11. 教育相談と生徒指導  
学校における教育相談  
教育相談体制の確立

関係機関との連携

危機対応の対策

### 12. 教育相談活動と組織

「教育相談」と「カウンセリング」との違い

関係機関の機能とその役割

児童生徒の心の発達・問題行動・身体症状についての理解

その記録と保管、評価について

### 13. 現代の青少年と生徒指導

社会の病理と青少年

事例研究「学級崩壊」など

ロールプレイ

### 14. 性的な発達への指導

各教科、道徳、総合的な学習の時間との

関連 性に関する社会環境

性情報の氾濫

### 15. 諸外国における生徒指導の動向

生徒指導体制の国際比較 校則や制服などの国際比較

### 〔講義のすすめ方〕

講義・演習・グループ学習、ビデオ視聴

### 〔教 材〕

テキスト 小学校学習指導要領

「解説 特別活動編」

文部科学省

### 〔成績評価の方法・基準〕

生徒を指導する立場に立つものが、教師から指導されるようではいけない。出席・毎回の課題・指導案のレポート・期末試験を総合して判定する。欠席5回以上は評価の対象としない。

### 〔履修のポイント・注意点〕

毎回10分200字のミニ論文を書く。

### 〔科目内容の位置付け〕

教職に関する科目に位置付けられている。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

特別活動の研究

道徳教育の研究

教育相談

科目名	教育相談 / 教育相談P		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	伊崎 純子		

#### 〔講義目的〕

- 1) 体験を通して教育相談の基礎を学ぶ
- 2) 講義やいくつかの実習を通して、コミュニケーション能力を養う
- 3) 時事問題について自主学習できる力（スタディ・スキル）を養う

#### 〔講義内容〕

教育相談は、幼稚園および小学校という教育現場における幼児・児童とその保護者を対象とした相談である。いわゆるクリニックや児童相談所といった相談機関におけるカウンセリングとの違いは、①幼稚園や小学校に通園・通学している間のみ相談を受けるという期間限定的な関係であること、②幼児・児童という言葉のみによるカウンセリングに限界のある年齢の子どもの相談が中心であること、③多様な保護者と上手に関係を作り、相談終了後もその関係を維持する必要があること、④相談を受けつつも、その他の生活場面も共にすること、⑤受容しつつも、対象となる親子の将来を見据えた教育的側面も必要になること、⑥マスコミがとりあげる時事問題に則した相談内容が多くなりやすいこと、⑦学外専門機関との連携の重要性があげられる。上記の特徴を踏まえて、この講義では、幼児・児童の特徴を理解するための方法を先行研究から学び、時事問題に対するマクロ的な視野を得るべく情報を収集・分析する能力を養い、それを幼児や児童およびその保護者にどのように伝えるのかという表現を模索し、いかに適切かつ誠実に相談にのっていくのかというカウンセリングの基本的な技術を学ぶ内容とする。

#### 〔講義のすすめ方〕

1. オリエンテーション
2. 発達検査（講義）
3. 発達検査（実習）
4. 行動観察（講義）
5. 行動観察（実習）
6. カウンセリングの基本的な技術（講義）
7. カウンセリングの基本的な技術（実習）
8. 危機管理
9. 情報の収集（概説）
10. 情報の収集（練習）

11. 情報の収集（実習）
12. 保護者への対応
13. 情報の収集（実習）
14. まとめ
15. まとめ

#### 〔教 材〕

講義の中で適宜指示

#### 〔成績評価の方法・基準〕

実習後には体験レポートの提出が必須  
 出席20%  
 授業態度30%  
 期末レポート50%

#### 〔履修のポイント・注意点〕

積極的に授業に参加すること。

※幼稚園教諭一種免許あるいは小学校教諭一種免許取得希望者ならびに他専攻免許希望者のみが履修可能。

#### 〔科目内容の位置付け〕

幼稚園教諭一種免許および小学校教諭一種・二種免許の必修科目【教職に関する科目：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法／（幼稚園教諭のみ）幼児理解の理論及び方法】に該当する。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

特になし

科目名	音楽実技Ⅰ / 音楽実技Ⅰ (基礎)		
単 位	2	開 設	通年
教 員 名	音楽担当教員		

### 【講義目的】

教育現場での実践に不可欠なピアノ演奏技術修得のために、当授業では基礎力向上をはかります。

ML (Music Laboratory) システムを使用し、ピアノ基礎指導の授業を行う。

ピアノ技術は個々の音楽経験により、それぞれの進度がまちまちであるため、能力に応じた進度別グループに分け指導を行う。

- 1：入門グループ…バイエル「ピアノ教則本」初めから
- 2：初級グループ…バイエル「ピアノ教則本」61番以上
- 3：中級グループ…バイエル「ピアノ教則本」終了程度以上

目安として以上のグループが考えられる。

基本姿勢、打鍵法、運指法、レガート奏法等の内容を組み合わせながら授業を行う。

### 【講義内容】

- 第1回 グループ分け（経験者は演奏）
- 第2回 各グループ課題曲、基本姿勢
- 第3回 各グループ課題曲、楽典1音名
- 第4回 各グループ課題曲、打鍵法
- 第5回 各グループ課題曲、楽典2譜表
- 第6回 各グループ課題曲、運指法
- 第7回 各グループ課題曲、楽典3音符
- 第8回 各グループ課題曲、レガート奏法
- 第9回 各グループ課題曲、楽典4休符
- 第10回 各グループ課題曲、音階奏
- 第11回 各グループ課題曲、楽典5拍子
- 第12回 各グループ課題曲、楽典6譜表
- 第13回 各グループ課題曲、楽典7リズム
- 第14回 各グループ課題曲、楽典8記号
- 第15回 演奏（演奏会形式で発表）
- 第16回 各グループ課題曲、調性
- 第17回 各グループ課題曲、楽典9音程1
- 第18回 各グループ課題曲、拍子
- 第19回 各グループ課題曲、楽典10音程2
- 第20回 各グループ課題曲、テンポ
- 第21回 各グループ課題曲、楽典11音程3
- 第22回 各グループ課題曲、フレージング
- 第23回 各グループ課題曲、楽典11複縦線
- 第24回 各グループ課題曲、メロディー
- 第25回 各グループ課題曲、伴奏法1

- 第26回 各グループ課題曲、楽典12連符
- 第27回 各グループ課題曲、伴奏法2
- 第28回 各グループ課題曲、楽典まとめ
- 第29回 各グループ課題曲（試験曲）
- 第30回 試験（演奏会形式）

### 【講義のすすめ方】

ML (Music Laboratory) システムを使用し、担当教員が1人ずつ指導する授業を行う。中間に楽典やテーマの説明をいれる。

### 【教 材】

グループ分けの結果、各グループ教材（バイエル・ブルグミュラー・ソナチネ集・ソナタ集）

### 【成績評価の方法・基準】

受験資格は、『白鷗大学試験規則』に準ずる。

### 【履修のポイント・注意点】

全回出席を原則とする。  
日々の努力と探求心により、毎時間の課題曲をしっかりと消化し、次の音楽実技Ⅱへのステップとなるための予習、復習を必ず行うこと。

### 【科目内容の位置付け】

保育士資格取得のための重要な科目である。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

ソルフェージュ

科目名	音楽実技Ⅱ / 音楽実技Ⅱ (こどもの音楽)		
単 位	2	開 設	通年
教 員 名	今田 政成		

### 〔講義目的〕

ML (Music Laboratory) システムを使用して、童謡・唱歌など「こどもの歌」の弾き歌いを指導する。具体的には、こどもの生活や行事、季節を題材とした童謡やこどもの歌、行進曲など児童教育の現場においてすぐに役立つ弾き歌いや伴奏法を指導する。

前期…春・夏の季節に関する歌、行事やいろいろな歌等

後期…秋・冬の季節に関する歌、行事やいろいろな歌等

また、コードネームの説明（八長調、ト長調、ヘ長調の主要三和音、属七和音）を行い、楽譜に頼らない自由な伴奏を行える弾き歌いも指導する。

### 〔講義内容〕

- 第1回 春の季節に関する歌3曲 コードC
- 第2回 春の季節に関する歌3曲 コードC
- 第3回 春の季節に関する歌3曲 コードC
- 第4回 夏の季節に関する歌3曲 コードC
- 第5回 夏の季節に関する歌3曲 コードF
- 第6回 夏の季節に関する歌3曲 コードF
- 第7回 行事に関する歌3曲 コードF
- 第8回 行事に関する歌3曲 コードF
- 第9回 行事に関する歌3曲 コードG
- 第10回 行事に関する歌3曲 コードG
- 第11回 いろいろなジャンルの歌 コードG
- 第12回 いろいろなジャンルの歌 コードG
- 第13回 いろいろなジャンルの歌 コードB
- 第14回 いろいろなジャンルの歌 コードB
- 第15回 演奏（演奏会形式で発表）
- 第16回 秋の季節に関する歌3曲 コードB
- 第17回 秋の季節に関する歌3曲 コードB
- 第18回 秋の季節に関する歌3曲 コードD
- 第19回 冬の季節に関する歌3曲 コードD
- 第20回 冬の季節に関する歌3曲 コードD
- 第21回 冬の季節に関する歌3曲 コードD
- 第22回 行事に関する歌3曲 コード伴奏曲
- 第23回 行事に関する歌3曲 コード伴奏曲
- 第24回 行事に関する歌3曲 コード伴奏曲
- 第25回 行事に関する歌3曲 コード伴奏曲
- 第26回 いろいろなジャンルの歌 伴奏曲
- 第27回 いろいろなジャンルの歌 伴奏曲
- 第28回 いろいろなジャンルの歌 伴奏曲

第29回 いろいろなジャンルの歌 伴奏曲

第30回 試験（演奏会形式）

### 〔講義のすすめ方〕

講義内容にしたがって、弾き歌いの授業を中心に進める。

### 〔教 材〕

音楽リズム（幼児のうた楽譜集）

やさしいピアノ伴奏法

### 〔成績評価の方法・基準〕

前期・後期の実技試験、平常の態度や進捗努力、出席状況

### 〔履修のポイント・注意点〕

音楽実技Ⅰ（基礎）同様、弾き歌いの能力向上を目指し、日々の予習・復習を必ずすること

### 〔科目内容の位置付け〕

音楽実技Ⅰにおいて基礎を学び、当授業において現場に必要な技術を習得する

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

音楽実技Ⅰが履修済みが前提条件である。音楽実技Ⅰでピアノの基礎技術を身につけることにより、幼稚園・保育園・小学校の現場で求められる弾き歌いの技術を充分身につけることができる。さらに音楽実技Ⅲ A・Bと進むことができる

科目名	保育内容総論		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	金崎 芙美子		

#### 〔講義目的〕

本授業は、保育士資格取得のための必修科目として開講され、保育所保育内容を組み立てる力を養うこと目的としている。具体的には①保育所の役割や②これまでの保育観や保育内容の変遷について学び③日本の国の基準である「保育所保育指針」の保育内容や施設設備等について、また、④子どもの成長発達を促す保育内容について理解を深め、保育実践のための指導計画を作成できる能力を培う。

#### 〔講義内容〕

- 第1回 保育所について（制度）
- 第2回 保育所をめぐる状況（少子化 父母の就労の多様化 幼稚園との関係など）
- 第3回 保育所の一年（ビデオ視聴）
- 第4回 保育内容の変遷（保育「項目」の時代）
- 第5回 保育内容の変遷（保育要領から保育所保育指針へ）
- 第6回 保育所保育指針について①（保育所保育の基本と目標）
- 第7回 保育所保育指針について②（保育所保育の特徴と課題）
- 第8回 発達過程と保育内容（1歳3ヶ月未満児）
- 第9回 発達過程と保育内容（1・2歳児）
- 第10回 発達過程と保育内容（3・4歳児）
- 第11回 発達過程と保育内容（5・6歳児）
- 第12回 遊びの実践と指導計画（手遊び、折り紙など）
- 第13回 遊びの実践と指導計画（全身運動あそび）
- 第14回 生活と指導計画（給食と食育）
- 第15回 まとめ（試験）

#### 〔講義のすすめ方〕

学生による発表や討論を行うなど学生参加の授業をすすめる。

#### 〔教 材〕

保育内容総論（ミネルヴァ書房）の教科書を使用する

#### 〔成績評価の方法・基準〕

受験資格は、『白鷗大学試験規則』に準ずる。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

前回出席を原則とする。

#### 〔科目内容の位置付け〕

保育士資格取得のための必修科目である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

保育内容の5領域に関する授業を受けていることが望ましい。

科目名	保育内容演習（表現①）		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	富田 英也		

### 〔講義目的〕

この授業は、保育内容研究（音楽表現）の履修者、又は、ソルフェージュや音楽実技Ⅰ（基礎）音楽実技Ⅱ（こどもの音楽）で基本的な技能を修得したものがさらなる表現力と応用力を身につけることを目的とする。

具体的には、音楽の要素を捉え、幼児から児童までの発達段階における音楽とあそびにおいて、感性を育みイメージを豊かにし、色々な事象にあった音楽表現活動を行う。又、保育者自身のイメージトレーニングとパフォーマンス等を行うものである。

### 〔講義内容〕

ステップバイステップで次のようなあそびとパフォーマンスを体験する。

- 1、ゼスチャーとパントマイムの試み1
- 2、ゼスチャーとパントマイムの試み2
- 3、絵本や紙芝居と楽器あそび1
- 4、絵本や紙芝居と楽器あそび2
- 5、劇あそびと音楽1  
（指人形、手袋人形、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター、等々より選択と作製）
- 6、劇あそびと音楽2  
（つくってみよう、あそんでみよう）
- 7、劇あそびと音楽3（発表と評価）
- 8、音楽と身体表現、イメージを動きにする
- 9、ミュージカルやオペレッタの試み1  
（既製の作品から概要の理解と選択）
- 10、ミュージカルやオペレッタの試み2  
（音楽や内容の理解と配役の決定）
- 11、ミュージカルやオペレッタの試み3  
（歌や振り演技の理解）
- 12、ミュージカルやオペレッタの試み4  
（歌や振り演技の理解）
- 13、ミュージカルやオペレッタの試み5  
（全体のおし稽古）
- 14、ミュージカルやオペレッタの試み6  
（全体のおし稽古）
- 15、ミュージカルやオペレッタの試み7  
（発表と評価）

### 〔講義のすすめ方〕

生活を通した総合的な視点から、幼児の主体性

を十分発揮して展開できるような、環境にあった音楽表現活動を模索する。こどもの心身の発達と音楽的能力・リズムと身体表現・等々を認識しながら、楽器あそび、劇あそび、音楽と身体表現、音楽表現活動を行う。

### 〔教 材〕

特に指定しない、必要に応じプリントする。

### 〔成績評価の方法・基準〕

受験資格は、「白鷗大学試験規則」に準ずる。課題の提出・発表内容や取り組む態度等（平常点70%）。出席率30%、

### 〔履修のポイント・注意点〕

幼児の生活の実態をふまえた創意工夫が大切であり、興味をもって積極的に取り組む姿勢を重要視する。こどもの目線でこどもの立場になって物事を考え理解する視点が必要である。

### 〔科目内容の位置付け〕

保育士資格取得のための重要な科目である。幼稚園教諭取得関連科目

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

保育内容研究（音楽表現）、音楽実技Ⅰ、音楽実技Ⅱ、音楽実技Ⅲ、ソルフェージュ、等々。

科目名	保育内容演習（表現①）		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	浅賀 ひろみ		

### 〔講義目的〕

保育内容 領域「表現」の設定趣旨は、子どもの人間的な育ちに大切な感性を豊かに育てるとともに、感じたこと考えたことを表現し楽しむ意欲を養い、創造性を培うことである。そのため、次のことがらがねらいとしてあげられている。

- ①いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ
- ②感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ
- ③生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ

これらのねらいは、子どもの生活において、またその成長・発達の中で、様々な活動を通して無理なく達成されることが求められている。子どもの活動は、一つの領域だけにとどまるのではなく、各領域が相互に関連を持ちながら総合的に展開しているのである。そのため、保育者には子どもの活動や経験・思い・心の動き・つぶやき・まなざしなど、子どもなりの様々な表現を多角的に受け止め、返し、育てるといった適切な対応が望まれるのである。

そこで、本講義では、特に子どもの音楽的な表現について、演習を中心に授業を構成し、他の教科目で学習した知識や技能と関連させながら学びをすすめ、「表現とは何か」「子どもの活動が日々の生活や遊びにいかに密接にかかわっているか」「表現する力を育てるとはどのようなことなのか」を考えていく。

具体的には、幼児から児童までの発達段階における音楽とあそびから、感性を育みイメージを豊かにし、色々な事象にあった音楽表現活動を目的とする。又、保育者自身を含めたイメージトレーニングとパフォーマンス等を行うものである。

### 〔講義内容〕

生活を通した総合的な視点から、幼児の主体性を十分発揮して展開できるような、環境にあった音楽表現活動を模索する。こどもの心身の発達と音楽的能力・リズムと身体表現・等々を認識しながら、楽器あそび、劇あそび、音楽と身体表現、音楽表現活動を行う。

### 〔講義のすすめ方〕

ステップバイステップで次のようなあそびとパフォーマンスを体験する。

- \* 絵本や紙芝居と楽器あそび
- \* 劇あそび（指人形、手袋人形、ペーパーサート、パネルシアター、エプロンシアター、等々）
- \* ゼスチャーとパントマイム
- \* 音楽と身体表現
- \* ミュージカルやオペレッタ

### 〔教 材〕

浅賀ひろみ編『音楽表現演習』開成出版（2008）

他、適宜プリント配布

### 〔成績評価の方法・基準〕

課題の提出・発表内容、出席、取り組む態度等。

### 〔履修のポイント・注意点〕

幼児の生活の実態をふまえた創意工夫が大切であり、興味をもって積極的に取り組む姿勢を重要視する。こどもの目線でこどもの立場になって物事を考え理解する視点が必要である。

### 〔科目内容の位置付け〕

幼稚園教諭・保育士資格取得関連科目

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

保育内容研究（音楽表現）、音楽実技Ⅰ、音楽実技Ⅱ、音楽実技Ⅲ、等々

科目名	保育内容演習（表現②）		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	小久保 裕		

#### 〔講義目的〕

幼児の日常生活は、新鮮な発見と驚きの連続であり、美しいもの、優れたもの、心に残るような出来事に会おう、などして人間的な感性が培われていく。それを励まし、表現する意欲へと高め、実践を通して想像力豊かな人簡を育成することは、幼児指導者に課せられた責務である。

幼児の表現手段は多種であり、初期の身体的表現から、造形的、音楽的表現、さらに言語的表現に至る表現過程は、あたかも類人猿から人間への長い進化の道程を、集約して見るかのとき、驚きと感動を覚える。この講座の「表現」とは、幼児の造形的表現を指すが、加えて「美術指導」とあるように、授業では幼児の成長段階に応じた理解と指導力、さらに自らが高い造形的表現能力を持った幼児指導者としてのセンスと技能の習得をめざす。

#### 〔講義内容〕

- 第1回 ガイダンス 子供と美術表現
- 第2回 パスと水彩絵具による技法遊び
- 第3回 マーブルリングとスクラッチ
- 第4回 スパッタリングとスタンピング
- 第5回 フロッタージュとドリッピング
- 第6回 デカルコマニーからお面作りへ
- 第7回 パネルシアター・エプロンシアター
- 第8回 色紙による造形表現
- 第9回 壁面構成
- 第10回 創作文字
- 第11回 コラージュ
- 第12回 プレゼントカード
- 第13回 水彩又はアクリル絵具による絵画表現
- 第14回 ちり紙粘土作り、それを使った人形

#### 〔講義のすすめ方〕

相互批評やディスカッションを交えた課題制作を行う。

#### 〔教 材〕

テキスト 「楽しい造形表現」 圭文社  
 スケッチブック、クレパス、水彩絵具は各自持参すること。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

提出作品の質と完成度による。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

個性と創造性を重視する。固定概念にとらわれない自由な発想で、作品完成までのプロセスを楽しんでほしい。課題作品は期限までに必ず提出すること。

#### 〔科目内容の位置付け〕

子どもの造形表現を理解し、適切な指導を行う為の基礎的技能を実践、習得する場としたい。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

「造形」、「絵画表現法」、「造形教材研究」、「美学」

科目名	保育内容演習（身体表現） / 保育内容演習（表現③）		
単位	1	開設	半期
教員名	白井 麻子		

#### 〔講義目的〕

子どもたちは生活の中で感じたことや感動したことを全身で表現しようとしています。保育者には、子どもたちが何を表現しようとしているのかをすばやく読み取り、共にその表現を楽しみ、そして発展させていく能力が必要です。本授業は身体表現研究を踏まえて、さらに豊かな身体表現を体験するとともに、保育の実際に生きる指導力を身につけることを目指します。

#### 〔講義内容〕

本授業では、①感じたことや考えたことを自分なりに身体表現する、②人と関わって身体表現する、③他者の身体表現を感じる、④保育現場で活用できるいろいろなタイプの表現あそびやダンスを創作する、⑤発表・交流の場を演出するなど、より広がりのある身体表現の方法を学ぶとともに、さらに⑥模擬授業を通して保育の実際に応用できる指導力を高める授業内容を展開します。

#### 〔講義のすすめ方〕

1. オリエンテーション  
授業内容についての説明と簡単な表現あそび等
2. 表現あそび  
伝承的遊び、遊びの要素を盛り込んだ即興表現（イメージカードなどの活用）
3. リズムダンスとフォークダンス  
音楽リズムにのって、フォークダンス覚えて友達と関わって踊る
4. 日常的なもののかかわり  
いろいろなものへ変身してみる、日常品を利用したあそび
5. ダンスの構成要素と即興表現  
基本的なダンスの構成要素を利用して動きを工夫し、数人で踊る楽しさを味わう
6. コンタクト・インプロヴィゼーション  
コンタクト・インプロヴィゼーションを学び、二人で即興的に動きを工夫する
7. 音楽のイメージをとらえた表現の工夫
8. 衣装・小道具などを用いた表現の工夫  
衣装・小道具などを用いて、いろいろな工夫を試み、なりきって表現する

#### 9. 模擬授業①

（題材：表現あそび・リズムダンス・フォークダンスなど）  
互いに指導者役、子供役になって指導実践を試みる

#### 10. 模擬授業②

#### 11. 模擬授業③

#### 12. 模擬授業④

#### 13. グループ小品の創作①

これまでの授業課題を生かして、グループで小品を創作する。

#### 14. グループ小品の創作②

#### 15. 発表および鑑賞 これまでの記録の整理

#### 〔教 材〕

資料及びプリントを配布することがある。講義中に適宜指示する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席状況、学び方、授業内発表、授業内ノートなどによって総合的に評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

動きやすい服装で参加すること（Tシャツ・ジャージなど、ジーンズは不可）。  
出席して体験することが大事な授業であるので、欠席はしないこと。やむを得ない理由で動けない場合には見学すること。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

保育内容研究（身体表現）

科目名	福祉とボランティア		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	川瀬 善美		

#### 〔講義目的〕

ボランティア活動は、人間だけができる行為である。それは自由を前提として、はじめて存在できる行為です。

また、違う視点から考えるとボランティア活動は、「しょうがい」者や高齢者や病人などがかかえている福祉の課題を解決するために、これを他人事とせず、進んで仲間となり、問題にかかわり、協働し重荷を分かち合うことであると考えます。

福祉は、かつては与えられるものだと考えられてきましたが、今や「作る福祉」「消費する福祉」へと時代は変化してきました。

このような時代の中で、ボランティアとは何かを問い直す必要性が生まれてきており、この講義ではそれを行うことにします。

化に注目するために、日常的にマスメディアに登場する、社会福祉に関する話題に関心を払うことを求めます。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

社会福祉を理解するため、関連科目の取得が望ましい。

#### 〔講義内容〕

1. ボランティア活動をどうとらえるか
2. ボランティア活動は何を課題にするか
3. 在宅福祉活動の進め方
4. 施設ボランティアの活動と役割
5. ボランティア・グループの運営
6. ボランティア活動に求められる技術
7. NPOとボランティア活動
8. 実践事例研究 (1)
9. 実践事例研究 (2)
10. 実践事例研究 (3)

#### 〔講義のすすめ方〕

基本的には講義スタイルをとるが、実践活動研究の一環として、テーマを決め1回以上実際に活動をおこなう。

#### 〔教 材〕

必要に応じ、適時指示する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席状況と、ボランティア活動実践法高所により評価を行う。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

社会福祉は刻々とそれを求める人々やニーズを変え、社会が求めるものや制度も変え続けています。そこで常に、福祉をめぐる社会状況の変

科目名	レクリエーション理論/レクリエーション理論Ⅰ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	藤井 和彦		

#### 〔講義目的〕

今日、「レクリエーション」という用語は様々な場所や機会に使用されるようになったが、改めて考えてみるとその概念の多義性や曖昧性に気づく。

そもそも「レクリエーション」とは何か？

「レクリエーション」をめぐる理論的な定義、現代における社会的要請・意義、制度的側面、事業を遂行する各種組織や団体の役割や機能といった側面から、「レクリエーション」の意味に迫り、解説や議論を通して理解を深めることをねらいとする。

#### 〔講義内容〕

- ①現代社会とレクリエーション
- ②レクリエーション概念の基礎理論
- ③レクリエーション活動の実際
- ④レクリエーションに関わる組織の実際
- ⑤グループワークトレーニングの実際
- ⑥地域レクリエーション経営論
- ⑦レクリエーション事業論
- ⑧レクリエーション事業の企画
- ⑨レクリエーション事業の評価
- ⑩レクリエーションにおける「支援」の考え方
- ⑪地域活動とマーケティング
- ⑫レクリエーションの今日的意義
- ⑬まとめと試験対策

※上記の内容を中心に構成するが時間（時限）の配分は適宜調整しながら進める。

#### 〔講義のすすめ方〕

講義形式を中心として進める。下記の指定テキストの内容に対応した講義ノート（資料）を毎回配布する。講義では、解説を聞きながら各自がその講義ノートを作成していくことになる。講義の終わりには「講義の感想・質問票」を毎回提出する。主要な感想や質問については次回の講義の冒頭で再度取り上げ、解説する。この他、2-3度のレポート課題を課す。

#### 〔教 材〕

レクリエーション・インストラクター養成テキスト「やさしいレクリエーション実践 たのしいをつくる」日本レクリエーション協会編 2100円 を参考教材とする。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

テスト1回（期末）、レポート学期2-3回。

レポートの提出は必修とし単位取得のための条件とする。成績評価は試験得点（70%）＋出席点（30%）を規準とする。レポートは最終的な判定時にその内容を考慮する。

試験は、持込は不可とし、キーワードに関する穴埋め問題と、論述問題から構成される。

出席点は、毎回の「講義の感想・質問票」の内容から出席の有無、講義に望む態度を判断し各回3点満点で加算し評価の材料とする。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

レクリエーションの楽しさは誰にでも味わうことができるが、その楽しさを最大限に発揮させ他者に楽しんでもらう役割を担う場合には、ある程度の理論的な土台と技術が必要である。この講座は「理論編」でありその意味では「楽しさを提供できるようになるための土台づくり」でもある。このことを理解した上で、その自覚を持って授業に臨んでいただきたい。

履修年次は2年次を標準と考えている。

#### 〔科目内容の位置付け〕

レクリエーション・インストラクター資格取得希望者は必修

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

レクリエーション実技、体育・スポーツ経営学など

科目名	野外運動A / 野外運動A (キャンプ)		
単 位	2	開 設	集中
教 員 名	齋藤 一人		

### 【講義目的】

教育現代の教育課題である「生きる力」の育成を射程に入れて展開する。野外体験系宿泊集中授業を通して、学生が自らのこころと身体を使い、仲間と切磋琢磨する「体験」の機会を組織し、こうした対人関係の深まりの中で、自己理解、他者理解、自然（環境）等への気付きを助長することを目的とする。

### 【講義内容】

キャンプの幅広い教育効果を理解するように体験学習し、指導的な立場から企画立案し、実施する。キャンプの捉え方は各分野や方面によって多岐にわたるが、組織キャンプの多くの目的は、大自然の中で「原体験」や共同生活を通して、人間形成を図ろうとするものと考えられる。すなわち、自然と野外を最大限活用しなければ、その教育目的は達成されない。したがって、下記を狙いとし実践活動をこの実習で行う。

- ①自然の中で集団的、自立的生活をするこゝろによって自己を見つめ、真の協力・共同生活を体験し送ること。
- ②キャンプ生活の技術を学びつつ、生活全体の諸活動を通して自分の心身を鍛えること。
- ③将来キャンピングを指導する立場におかれたとき、企画立案でき、民主的運営ができること。

### 【講義のすすめ方】

野外体験系宿泊集中授業形式で行う。プログラムについては、「困難」「挑戦」「課題解決」「達成感」「感動」の一連の流れを核にするという視点で構成し、その中で様々な「体験」の場を保障することをねらいとし、次のとおりである。

- ①普段、気付くことのなかった自分の姿を発見する体験（自己理解）
- ②普段、気付くことのなかった友人の姿を発見する体験（他者理解）
- ③困難な活動や生活に挑戦し、それを成し遂げる体験（課題解決能力）
- ④仲間との協力によって、「何か」を成し遂げる体験（友情、連帯、役割、責任、感動）
- ⑤経験ない活動を行い、自分の世界を拡大する

体験（新しい技能の獲得）

上記のねらいを達成するための具体的方策としてのプログラムは以下の4点に留意して行う。

- ①通常の時間枠では行うことのできない活動。
- ②意味のある活動であるのにも関わらず活動の機会が得られにくい活動。
- ③集団の協力によって成立する要素の高い活動。
- ④地域文化と接点のある活動。

### 【教 材】

特に指定する教材はないが、必要な場合はその都度指示します。また、必要に応じて資料を配布する。

### 【成績評価の方法・基準】

出席、レポート、グループ貢献度によって総合的に評価します。

### 【履修のポイント・注意点】

場所・日程については4月上旬の事前説明会で詳しく説明いたします。

専攻別で夏期休業期間に集中で行います。

（児童教育専攻・スポーツ健康専攻それぞれ別々）

事前説明会や事前指導講義が数回予定されています。（欠席の場合は、履修・単位の修得ができませんので注意してください。）

また、宿泊集中授業なので実習費がかかります。

### 【科目内容の位置付け】

より充実した学業・学生生活や生涯スポーツ・レクリエーション基礎活動として位置づけられます。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

課題研究A・B、野外運動B

科目名	野外運動B / 野外運動B (雪上)		
単 位	2	開 設	集中
教 員 名	齋藤 一人		

#### 〔講義目的〕

教育現代の教育課題である「生きる力」の育成を射程に入れて展開する。野外体験系宿泊集中授業を通して、学生が自らのこころと身体を使い、仲間と切磋琢磨する「体験」の機会を組織し、こうした対人関係の深まりの中で、自己理解、他者理解、自然（環境）等への気付きを助長することを目的とする。

#### 〔講義内容〕

野外体験系宿泊集中授業形式で行う。アウトドアスポーツとして、学校体育のみならず生涯スポーツとしても今も幅広く社会全体に親しまれているスキー・スノーボードについて、その運動特性、技術、指導法及び生涯スポーツとしてのあり方、自然との親しみの心を持つことを習得し、団体行動・生活を通じてそのあり方をも研修する。また、基礎技術、応用技術、発展技術だけでなく救急処置についても講義を行う。

#### 〔講義のすすめ方〕

プログラムについては、「挑戦」「課題解決」「成功体験」「達成感」「感動」の一連の流れを核にするという視点で構成し、その中で様々な「体験」の場を保障することをねらいとし、次のとおりである。

- ① 普段、気付くことのなかった自分の姿を発見する体験（自己理解）
- ② 普段、気付くことのなかった友人の姿を発見する体験（他者理解）
- ③ 困難な活動や生活に挑戦し、それを成し遂げる体験（課題解決能力）
- ④ 「何か」を成し遂げる体験（友情、連帯、役割、責任、感動）
- ⑤ 経験ない活動を行い、自分の世界を拡大する体験（新しい技能の獲得）

#### 〔教 材〕

特に指定する教材はないが、必要な場合はその都度指示します。また、必要に応じて資料を配布する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

レポート、スキルテストによって総合的に評価します。バジテストも計画中です。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

場所・日程については4月上旬の事前説明会で詳しく説明いたします。

児童教育専攻・スポーツ健康専攻同時開講で冬期休業もしくは春期休業に行われます。

事前説明会や事前指導が数回予定されています。（欠席の場合は、履修・単位の修得ができませんので注意してください。）

また、宿泊集中授業なので実習費がかかります。

#### 〔科目内容の位置付け〕

より充実した学業・学生生活や生涯スポーツ・レクリエーション基礎活動として位置づけられます。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

課題研究AB、野外運動A

科目名	英語であそぼう / 早期英語教育		
	Teaching English to Young Learners		
単位	2	開設	半期
教員名	Lorraine Reinbold		

**〔講義目的〕**

The objective of this course is to help students become effective teachers of English to young learners. To reach these goals, some topics to be covered include: a brief introduction to theory, planning a child-centered lesson, integrating the four skills (reading/writing, listening/speaking) to create meaningful communicative language games and songs, and managing classroom behavior.

**〔講義内容〕**

Class work consists of discussions, group work, and presentations on related topics in English. For assignments, students will be required to read, summarize, and report to the class a given passage from a text. They will also practice teaching games or activities to the class in English.

**〔教材〕**

こども中心ではじめる英語レッスン  
David Paul  
桐原書店

Instructor will provide English handouts.

**〔成績評価の方法・基準〕**

Grades on this course will be determined by the following criteria:

● Regular attendance 30 % - If you miss more than 1/3 of class sessions, you will fail the course. Being late for class three times will count as one absence. Being late for more than 20 minutes is considered one absence. You are responsible for notifying me in advance when possible, of reasons for absences, late arrivals, and early departures.

● Active participation 10 % - The more you speak in English, the better your grades.

● Homework grades/quizzes 20 % - NO LATE HOMEWORK will be accepted. If you are absent, ask me or your friend about the assignment before it is due.

● Final Presentation/Assignment: Child Education and Child-Centered Games - 40%

**〔履修のポイント・注意点〕**

In this class you must be able to discuss topics on children, education, and English language in English. You will also need to paraphrase - say the same sentence again in your own words - English essays, and write summaries in English.

Be prepared to study hard. Come to class with an open mind and be creative when planning to teach educational games to children.

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

You should have completed two years of English and received high grades in order to take this course.

科目名	e-ラーニング		
単位	1	開設	半期
教員名	向井 千代子		

**【講義目的】**

TOEIC や TOEFL のスコアを上げるためには、各人のレベルに応じた教材で不得意分野を一つずつ解消していくことが効果的です。本科目ではオンラインの双方向的マルチメディア教材システムを利用して得点力向上をはかります。

[Course Objective and Outline]

To improve TOEIC and TOEFL scores the most effective method is to practice individually with materials specifically designed to teach the needed English skills, one by one. This class will use an online multimedia approach to help learners raise their test scores.

**【講義のすすめ方】**

受講者がまず各自のアカウントでログインし、学力診断を受けると、それぞれの学力に合った教材がサーバー上に組み込まれます。受講者はその教材を、学校での空き時間や自宅においてコンピュータ上でこなしていき、その中で生じた疑問を毎週の授業時間に質問します。授業はゼミ形式で、英文法や語彙、表現に関する質問とディスカッションの場です。

[Course Progress]

Learners will first log into their individual accounts and be tested to evaluate their respective English levels. After this evaluation, each student will automatically receive appropriate materials for his or her level from the server. Learners will work on these practice exercises by computer when not in classes or at home. They will however, attend weekly classes to answer questions they encounter. These classes will be conducted in seminar fashion to discuss English grammar and vocabulary expressions.

**【教材】**

ネットラーニング社「TOEIC Test 総合実力養成コース」

[Course Textbook]

Learners will use NetLearning' s 「TOEIC

Test 総合実力養成コース」

**【成績評価の方法・基準】**

教材の消化度 (30%)、オンライン学習の合計時間と授業の出席 (30%)、学期末試験 (40%)。

[Evaluation Criteria]

English development (30%), regular class attendance and online practice (30%), and a final examination (40%).

**【履修のポイント・注意点】**

授業時間は質疑応答が中心となるため、受講者は空き時間にオープン利用のコンピュータ室で自習して下さい。なお、自宅でもインターネットに接続されたコンピュータがあれば学習できます。学期が終わるまでにサーバー上で模擬試験を受けて下さい。

[Key Points・Possible Pitfalls]

Classes will be conducted predominately in a question-and-answer manner, therefore learners must study by themselves using the open computer facilities at school or over the Internet if they have a computer at home. By the end of the semester, learners are required to take a "mock test" over the server.

**【科目内容の位置付け】**

TOEIC/TOEFL 入門レベル。

[Course Contents and Level]

TOEIC/TOEFL from the beginning level.

**【前提・関連科目（科目間関連の内容）】**

前提科目はありません。なお、本科目を履修し、本年度内の TOEIC テストで 470 点以上を取った者は、上級科目である「TOEIC」を履修することができます。

[Prerequisites・Related Subjects (related course contents)]

There are no prerequisites, however those who score over 470 on TOEIC test within the academic year will be entitled to take the advanced TOEIC course.

科目名	e-ラーニング		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	Jeffrey Miller		

**〔講義目的〕**

[Course Objectives]

E-Learning is a computer-based TOEFL/TOEIC course that allows learners to practice as much as they want outside of class. Therefore, it is ideal for highly motivated students who want to progress at their own speed. It is very possible to practice two, three, or more times as much as there are class meetings during the semester. It is up to each student to see how much he or she is willing to practice and thereby to improve his or her English.

Furthermore, the online course has many different types of practice questions found on the TOEIC and TOEFL standardized tests. Therefore, each student can practice in those areas that he or she is weakest in, thereby significantly raising his or her overall score.

**〔講義内容〕**

[Course Content]

To improve TOEIC and TOEFL scores the most effective method is to practice individually with materials specifically designed to teach the needed English skills, one-by-one. This class will use an online multimedia approach to help learners raise their test scores.

During the class, the instructor will move around the room helping students with individual grammar, vocabulary, and syntax questions. These individual questions will form the basis for a brief Q & A-based lecture toward the end of class on specific problems that arose during that practice session.

**〔講義のすすめ方〕**

[Course Progress]

Learners will first log into their individual accounts and be tested to evaluate their respective English levels. After the evaluation, each student will automatically receive appropriate materials for his or her level from the server. Learners will work on these practice exercises by computer when outside of class or when at home. They will however, attend weekly classes to answer questions about their practice. These classes will be conducted in seminar fashion to discuss English grammar and vocabulary expressions.

**〔教 材〕**

[Course Materials]

The E-Learning course is entirely online and available to registered students 24 hours a day, every day.

**〔成績評価の方法・基準〕**

[Course Grading]

Regular class attendance will be 30 percent of the overall grade. How much outside-of-class practice a student does (both the total number of times he or she logged on as well as the level practiced) will make up 50 percent of the final grade. And, a TOEIC/TOEFL-based standardized examination will be 20 percent of the final grade.

**〔履修のポイント・注意点〕**

[Successful Study Points]

E-Learning is a unique course in that the students have almost complete control over how much TOEFL/TOEIC practice they do outside of class. Students may practice at a PC at home or in one of the Hakuoh computer labs. Obviously, the more one practices the better one becomes. Therefore, it is entirely up to the student to motivate him or herself to practice regularly and often. In this

respect, E-Learning is like sports training (or driving school) as the total amount of effort (i.e. online practice time) equals the results. Please do your best (for your future)!

Today in Japan's globalized society it is not enough to be able to effectively use English, one must also be able to prove that one is able to use English. The three most recognized and accepted tests here are TOEIC, TOEFL, and the upper levels of Eiken. Once a student, future Japanese English teacher, or member of society has a high TOEIC, TOEFL, or Eiken grade they can use that score as proof of their English ability.

**〔科目内容の位置付け〕**

[Related Subsequent Courses]

TOEIC

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

[Prerequisites]

None

科目名	教育情報処理		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	渋川 美紀		

**【講義目的】**

ユビキタス・ネットワーク社会が発展し続ける現代、小学校教育においてもパソコンが導入され授業で使用されています。また、それぞれの教育現場において目的に応じた教材を作成することは、児童の学習意欲の高揚に役立ち、学習に対する動機付けを与えることも可能となります。そこで、このような教材の自己開発技能を会得することを目指し、本講義では Word・Excel を使いこなすことに加えて、パソコンについてより広い学習を行います。

**【講義内容】**

- 第 1 回 Word の実習・論文形式の文書の作成
- 第 2 回 Word の実習・論文形式の文書の作成
- 第 3 回 Word の実習・HP 作成
- 第 4 回 HTML 実習・HP 作成
- 第 5 回 Excel の実習・関数
- 第 6 回 Excel の実習・関数
- 第 7 回 Excel の実習・グラフ
- 第 8 回 Excel の実習・VBA
- 第 9 回 Excel の実習・VBA
- 第10回 Excel の実習・VBA
- 第11回 Access の実習
- 第12回 Access の実習
- 第13回 PowerPoint による教材の作成
- 第14回 PowerPoint による教材の作成
- 第15回その他

**【講義のすすめ方】**

テキスト・プリント・その他を使用して実習を行います。例題を解いたのち、課題を作成するという形式ですすめていきます。

**【教 材】**

教科書「情報科学の基礎と応用」・同友館・2,800円

**【成績評価の方法・基準】**

出席状況・実習課題によって判断します。

**【履修のポイント・注意点】**

遅刻や欠席をしないように心がけましょう。特に、30分以上遅刻をしないようにしましょう（欠席扱いにします）。出欠は出席カードで調

べますが、必ず授業開始30分以内にカードを受け取ってください。また、遅刻3回で欠席1回とします。やむをえない理由で早退する場合は断って退出して下さい。早退は遅刻と同じ扱いとします。カードは授業内に提出して下さい。

**【科目内容の位置付け】**

全ての科目で必要とされるレポートの作成力・データの分析力を養う科目です。

**【前提・関連科目（科目間関連の内容）】**

情報処理の続きとなる科目ですので、情報処理が前提科目です。

科目名	陸上運動Ⅰ / 実技理論・実習 陸上運動Ⅰ		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	竹島 克己		

〔講義目的〕

陸上競技について正しい練習方法、指導方法を学ぶ。

〔講義内容〕

陸上運動Ⅰではウォーキングとジョギング、短距離走、障害走、投てきの4種目を行う。1回目、2回目 ウォーキング、ジョグ 3回目から4回目 投てき（砲丸投げ） 7回目から10回目 障害走（80mハードル） 11回から14回 短距離走（100m）

〔講義のすすめ方〕

まず、体調を整えるため正しい歩き方、ジョギングの基本を学ぶ。

投てきでは主に砲丸投げを行う。砲丸投げに必要な筋力のつけ方、跳躍力、動作、投てき技術を学び、計測を行う。

障害走（80mハードル）ではこの種目に必要な補強運動、振り上げ脚や抜き足の動作、タイムトライアルを行う。

短距離走ではウォーミングアップ、クーリングダウン、ストレッチ、スプリントドリル、スタートダッシュ、中間走、加速走、タイムトライアル等を行う。

〔教 材〕

資料は配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

- 参加度 出席を評価する  
授業への取り組む姿勢
- 貢献度 授業の準備・かたづけ・デモンストレーションへの貢献度
- 技能・運動能力水準  
技能・能力の到達度
- 授業目的達成度  
トレーニング科学に関するレポート・実技ノートの完成度

〔履修のポイント・注意点〕

実技ノートをつくりポイントとなる事項については書きとめておくようにする。

指導する側に立った観点を望む。

〔科目内容の位置付け〕

専門科目。教員免許取得に必要な単位。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

陸上運動Ⅱ

科目名	陸上運動Ⅱ / 実技理論・実習 陸上運動Ⅱ		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	竹島 克己		

〔講義目的〕

陸上競技について正しい練習方法、指導方法を学ぶ。

指導する側に立った観点を望む。

〔科目内容の位置付け〕

専門科目。教員免許取得に必要な単位。

〔講義内容〕

陸上運動Ⅱでは走り幅跳び、障害走、長距離走の3種目を行なう。1回目、2回目 ウォーキング、ジョギング（準備運動として）3回目から6回目 走り幅跳 7回目から10回目 障害走（80mハードル）11回目から14回目 長距離走（男子1500m 女子1000m）

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

陸上運動Ⅰ

〔講義のすすめ方〕

走り幅跳びでは関連する立幅跳び、立三段跳などを行う。また助走、踏み切り動作などの練習をしてより遠く跳躍できるよう練習する。

障害走（80mハードル）ではこの種目に必要な補強運動、振り上げ脚や抜き足の動作、タイムトライアルを行う。陸上運動Ⅰでも行うが教員採用試験の試験種目となることが多いので更に技術を向上させたい。

瞬発力を要する種目は気温の低い時期には向かない。冬期は長距離走を行う。長距離の練習の方法を知り、健康に良いエアロビクス運動に親しんでほしい。特に正しいウォーキング・ジョギングについては、身近な健康的運動方法である認識をもってほしい。

〔教 材〕

資料は配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

- 参加度 出席を評価する  
授業への取り組む姿勢
- 貢献度 授業の準備・かたづけ・デモンストレーションへの貢献度
- 技能：運動能力水準  
技能：能力の到達度
- 授業目的達成度  
トレーニング科学に関するレポート・実技ノートの完成度

〔履修のポイント・注意点〕

実技ノートをつくりポイントとなる事項については書きとめておくようにする。

科目名	器械運動Ⅰ / 実技理論・実習 器械運動Ⅰ		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	吉田 茂		

#### 【講義目的】

小学校から高等学校まで、学校体育の主要教材となっている器械運動の技能の習得や教材としての特性を理解し、教員としての資質の向上を図ることを主要な目的としている。また、体操教室やスポーツクラブ等での教員以外の指導場面にも対応できるよう、補助法の実習やトランポリンの初歩的実技も加える。

#### 【講義内容】

器械運動Ⅰでは、初歩的段階として小学校から中学校までの教材を取り扱い、主としてマット運動、跳び箱運動、鉄棒運動、平均台運動の内容を中心に技能の習得とともに運動のコツや技術、さらには技の構造的な理解を図る。また、指導の方法や指導力としての観察力の養成を主眼とする。さらにトランポリンの初歩的実技も加える。

#### 【講義のすすめ方】

まず、マット運動を取り扱い、倒立位や回転感覚などを養い、自己の身体支配能力を高める。次に、跳び箱運動、鉄棒運動を取り扱い、自分で技のコツが把握できるよう「自己観察能力」や「統覚能力」を養うことができるよう段階的に種目間の関連を計りながら進める。

#### 【教 材】

参考図書として、次のものを参考にして下さい。

##### 『器械運動指導ハンドブック』

中島、太田、吉田、三浦著（大修館）

『マット運動』『鉄棒運動』『跳び箱、平均台運動』金子明友著（大修館）

##### 『中学・高校器械運動の授業づくり』

三木四郎、加藤沢男他（大修館）

#### 【成績評価の方法・基準】

技能テストによる技能評価：各種目の代表的な技を課題として実技テストを行う。60点以上を合格ラインとする。

レポートによる評価：コツに関する言表をノートに記入して提出し、それらを評価する。

#### 【履修のポイント・注意点】

出席を重視する。

自分で会得したコツをノートに書きとめ学習ノートを提出する。

地道に根気良く練習する。

#### 【科目内容の位置付け】

専門科目。教員免許取得に必要な単位。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

特になし

科目名	器械運動Ⅱ / 実技理論・実習 器械運動Ⅱ		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	吉田 茂		

#### 〔講義目的〕

器械運動Ⅱでは、Ⅰで習得した技能を踏まえて、やや高い技能の習得を目指す。マット運動では個人や集団での楽しみ方としての発表会などを計画する。また、鉄棒運動、跳び箱運動、平均台運動でも連続して技ができるよう演技の発表や集団での発表を加えてスポーツ教材としての特性を理解する。

#### 〔講義内容〕

マット運動では、「前方倒立回転とび」、鉄棒運動では、「蹴上がり」、跳び箱運動では「前方倒立回転とび」を最終目標として、それ以前に習得する必要がある易しい運動で類似の運動感覚が養える運動を取り扱う。自分で、個々の技のコツが把握できるよう常に、自己の運動の変化を記録しコツの創発能力を高める努力をするよう促す。また、学習ノートを作成して提出する。

#### 〔講義のすすめ方〕

器械運動Ⅰの履修を前提に、2種目または3種目のローテーション方式で、マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動、平均台運動（女子）を練習する。初歩的な慣れの運動からやや高度な技まで段階的に取り扱い、最終目標である技へと到達するよう課題を組み立てて練習する。

#### 〔教 材〕

参考図書として、次のものを参考にして下さい。

##### 『器械運動指導ハンドブック』

中島、太田、吉田、三浦著（大修館）

『マット運動』『鉄棒運動』『跳び箱、平均台運動』金子明友著（大修館）

##### 『中学・高校器械運動の授業づくり』

三木四郎、加藤沢男他（大修館）

#### 〔成績評価の方法・基準〕

技能テストによる技能評価：各種目の最終目標となる技またはそれ以前に習得するべき技を課題として実技テストを行う。60点以上を合格ラインとする。

レポートによる評価：コツに関する言表をノートに記入して提出し、それらを評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

出席を重視する。

自分で会得したコツをノートに書きとめ学習ノートを提出する。

地道に根気良く練習する。

#### 〔科目内容の位置付け〕

専門科目。選択必修の実技科目

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

器械運動Ⅰの履修。

科目名	ダンスⅠ / 実技理論・実習 ダンスⅠ		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	内山 須美子		

【講義目的】

1. 学習指導要領を基に、中学・高校でのダンス指導について学ぶ。
2. 中学・高校で学ばれるダンスの内容（「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」「その他のダンス」）をそれぞれ学ぶ。
3. グループで作品を創る。

【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

引き続き、実技理論・実習ダンスⅡを履修することが望ましい。

【講義内容】

1. 実技  
エアロビックダンス・ストリートダンス・チアダンス・創作ダンス  
フォークダンス・社交ダンス
2. 理論  
学習指導要領におけるダンスの内容・指導法・評価について

【講義のすすめ方】

1. オリエンテーション、グループ分け
2. エアロビックダンス
3. 社交ダンス
4. 創作ダンス
5. フォークダンス
6. チアダンス
7. ストリートダンス
8. ストリートダンス
9. ストリートダンス
10. 作品創作
11. 作品創作
12. 作品創作
13. 作品発表、鑑賞、評価

【教 材】

必要に応じて配布

【成績評価の方法・基準】

1. 出席状況：50点
2. 創作作品：30点
3. レポート：20点

【履修のポイント・注意点】

1. 動きやすい服装
2. 室内履き
3. 予習と復習

科目名	ダンスⅡ / 実技理論・実習 ダンスⅡ		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	内山 須美子		

〔講義目的〕

ダンスの表現法、創作法、作品構成、音響効果、衣装、道具等について理解し、更に上演の実践を通して表現力、創作力、上演能力を養う。

〔講義内容〕

1. 実技  
ダンス作品の創作と発表
2. 理論  
ダンスの表現法・創作法

〔講義のすすめ方〕

1. オリエンテーション、グループ分け
- 2-4. レポートリワーク
  - 1) ダンステクニック
  - 2) 作品化への技法
  - 3) 表現形式の理解とその技法
- 5-6. 作品創作への準備と練習
- 7-12. グループワーク
  - 1) 作品創作と踊り込み
13. 作品発表・鑑賞・評価

〔教 材〕

必要に応じて配布

〔成績評価の方法・基準〕

1. 出席状況：50点
2. 創作作品：30点
3. レポート：20点

〔履修のポイント・注意点〕

1. 動きやすい服装
2. 室内履き
3. 予習と復習

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

実技理論・実習ダンスⅠからの履修が望ましい。

科目名	バスケットボール/実技理論・実習 バスケットボール		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	齋藤 一人		

### 【講義目的】

バスケットボールにおける様々な技術の構造、ルールを理解し、その特性を通して技術・戦術論の立場から集団的技能や個人的技能を分析、考察を加え、それらを構成する体力・技術・戦術の習得を中心として、基礎的なゲーム展開の方法を実習する。また、このスポーツを通して、体力の向上・スポーツの楽しみ方・モラルの育成・競技の歴史などを学習し、生涯スポーツを楽しめるスタンスを生むようなモデルを提案し実習する。

### 【講義内容】

- ①オリエンテーション
- ②FUN DRILLS
- ③基礎技術の理解と習得および応用した技術への発展（簡易ゲーム展開）  
ゴールへの攻撃－1ON1－基礎技術シュートの解説と練習方法と指導法に関する実技
- ④ゴールへの攻撃－2ON2－基礎技術ドリブルの解説と練習方法と指導法に関する実技
- ⑤ゴールへの攻撃－3ON3－基礎技術パスの解説と練習方法と指導法に関する実技
- ⑥モーションオフense－3ON3－スクリーンプレイ技術の理解と習得およびチームとしての集団技術への発展
- ⑦トランジション－5ON5－攻防の切り替えの解説と練習方法と指導法に関する実技
- ⑧アウトナンバープレイ－戦術としてのファーストブレイクの練習法と指導法の理解
- ⑨トランジション－戦術としてのフォーメーションに関する基本的考え方の理解と実践
- ⑩リーグ戦－5ON5－バスケットボール・ルールの理解と審判法およびゲームの進め方

### 【講義のすすめ方】

「ゲーム－発問・応答・考察－練習－ゲーム」という流れで授業を展開し、技術練習を毎時間の適切な場面で行うことやゲームにおける戦術的状况の中で技術を用いることで、戦術と技術に関連付けて指導する。そこで戦術的気づき（問題解決能力の選択能力）を助長する。

### 【教 材】

特になし（バスケットボール関係の書籍全

般）。必要に応じて資料を配布する。

### 【成績評価の方法・基準】

出席、レポート、スキルテスト等によって総合的に評価します。

### 【履修のポイント・注意点】

特に出席が重視されます。体育館シューズ・運動できる服装で出席する事。

### 【科目内容の位置付け】

教職の教科の科目

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

課題研究A・Bに発展していく

科目名	テニス / 実技理論・実習 テニス		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	野間 明紀		

**【講義目的】**

大学卒業後に就職した現場において活用できる様にテニスの基本的技術、理論、ルール等を実技を通して指導していく考えです。

**【講義のすすめ方】**

- ①班分け
- ②ラケットとボールになれる（初心者）
- ③ストロークの練習
- ④サーブの練習
- ⑤ボレー、スマッシュの練習
- ⑥ゲーム、ルールの説明  
（雨天の場合は教室でビデオ等の観賞）

**【教 材】**

- ・テニスシューズが必要です。
- ・ラケットは貸し出します。
- ・服装は運動しやすいもの（ジーパン等の普段着は不可）

**【成績評価の方法・基準】**

出席率、授業態度、技術で評価します。

**【履修のポイント・注意点】**

欠席は3回までとし、4回以上欠席した場合、単位は修得できません。遅刻は2回で欠席1回とします。

**【科目内容の位置付け】**

1から4年次の選択科目です。

科目名	サッカー / 実技理論・実習 サッカー		
単位	1	開設	半期
教員名	菊原 伸郎		

#### 〔講義目的〕

本講義は、「サッカー」を題材に実技実践（身体活動と考える力）を通じて競技の特性を理解し、過去にできなかった動きやプレーの獲得の中から生涯を通してスポーツとのかかわりを高めていくことを目的とする。

スポーツ実技の実践者は、自らの諸能力（技術力、戦術達成力、身体的能力、心理的能力等）を振り返ることと（認識）、集団スポーツで必要となる人とのコミュニケーション能力が不可欠になる。

これらの観点から、本講義では個人のスキルアップとともにコミュニケーションスキルの向上をサッカーをプレイする中から獲得していく。

#### 〔講義内容〕

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 M-T-M 法の実践  
技術・技能                      スモールゲーム
- 第3回 M-T-M 法の実践  
ボールコントロール①       スモールゲーム
- 第4回 M-T-M 法の実践  
ポジショニングの理解       スモールゲーム
- 第5回 M-T-M 法の実践  
ボールコントロール②       スモールゲーム
- 第6回 M-T-M 法の実践  
ポジショニングの獲得       スモールゲーム
- 第7回 M-T-M 法の実践  
個人戦術の理解と確認       スモールゲーム
- 第8回 M-T-M 法の実践  
グループ戦術の理解        ハーフコートゲーム
- 第9回 M-T-M 法の実践  
グループ戦術の獲得        ハーフコートゲーム
- 第10回 M-T-M 法の実践  
グループ戦術の理解        ハーフコートゲーム
- 第11回 M-T-M 法の実践  
グループ戦術の獲得        ハーフコートゲーム
- 第12回 試合の実践  
チーム戦術の理解           フルコートゲーム
- 第13回 試合の実践  
チーム戦術の獲得           フルコートゲーム
- 第14回 試合の実践  
チーム戦術の変更           フルコートゲーム
- 第15回 まとめ 技能テスト

#### 〔講義のすすめ方〕

グラウンドに集合し、各自ウォーミングアップを行い不慮の怪我を未然に防ぐことに注意する。

全体で集合した後にグループでのウォーミングアップを行う。

次に各テーマごとの運動獲得を目指したプラクティスを行う。

講義後半はゲームの中で課題ヘトライしていく。

最後に集合しクーリングダウンを行い終了する。

#### 〔教 材〕

必要に応じて資料配布を行う

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席点60%・技能向上点20%・授業態度20%（プレイ中の仲間とのコミュニケーション）等の総合評価で行う

#### 〔履修のポイント・注意点〕

履修の心構え

プレイの実践だけでなく、理論の理解を自らの学習により高めプレイに反映させていく意欲

#### 〔科目内容の位置付け〕

サッカーに関する理論に関する知識を可能な限り収集しておくこと。

科目名	水泳 / 実技理論・実習 水泳		
単 位	1	開 設	集中
教 員 名	椿本 昇三		

〔講義目的〕

学校体育における水泳についての指導方法論を理解し、さらに自らの水泳技能の向上を目指す。

〔科目内容の位置付け〕

教職の教科の科目

〔講義内容〕

主として、水泳指導（初心者指導・泳法指導）に関する方法論について学びながら、正確な近代泳法4種目を習得する。また、水中安全教育についても理解を深める。

〔講義のすすめ方〕

集中授業で学外の実習のために若干日程が不規則になるため、学生各自の予習復習を重要視する。

1. オリエンテーション（グループ分け）
2. 初心者指導（水慣れ、水中遊戯）
3. エレメンタリーストローク  
（初歩的な泳法指導）
4. 4泳法指導  
（クロール、平泳、背泳、バタフライ）
5. 水中ボールゲーム
6. 水中リズム泳
7. 水中運動（ウォーキング等）
8. 水中安全教育（セルフリスキュー）
9. 生涯スポーツとしての水泳
10. まとめ

〔教 材〕

必要に応じて配布

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況（50点）

泳法検査

（25mを正確に泳ぐ、4種目×5点=20点）

復習のレポート

（自己評価と課題について、20点）

グループ記録証（グループ活動の記録、10点）

〔履修のポイント・注意点〕

集中授業のため、出席が重要視される。競泳用  
水着、ゴーグル、スイムキャップ

タオル、Tシャツ、学生教育災害保険加入者のみ

学外施設を利用するため実費がかかります。

科目名	柔道 / 実技理論・実習 柔道		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	蓬田 正郎		

#### 〔講義目的〕

柔道の基本である、体さばきや受身の技術向上はもちろん、それらの練習を通して、日常生活における障害防止や護身にも役立つことを学習する。また、固め技や投げ技を習得することによって、技術も向上し柔軟性も高まることを知る。そして、武道としての特性から相手を尊重する態度や、協力する態度を養い、社会人として必要な礼儀作法を身につけるとともに健康・安全に留意することの大切さを学ぶ。

#### 〔講義のすすめ方〕

1. オリエンテーション  
(授業に関する諸注意・進め方・ねらい等について説明)
2. 礼法 (座礼・立礼・服装や態度の指導)
3. 投げ技の基本動作 (姿勢・組み手・崩し・体さばき・受身)
4. 固め技の基本動作 (固め技の体さばき・固め技への入り方)
5. 投げ技 (手技・腰技・足技)
6. 立ち技の連絡変化 (大内刈りー大外刈りなど)
7. 寝技の連絡変化 (けさ固めー上四方固めなど)
8. 試合の進め方 (試合場についての説明)
9. 審判・勝負規定 (国内ルール・国際ルールの説明)
10. 世界の柔道について

#### 〔教 材〕

参考書 【ベスト柔道】猪熊功・佐藤宣践共著  
講談社インターナショナル  
【寝技で勝つ柔道】柏崎克彦著  
ベースボールマガジン社  
【闘魂の柔道】山下泰裕著  
ベースボールマガジン社

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、授業に対し取り組む姿勢、実技テストによって総合的に評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

出席重視、用具 (柔道着)

科目名	剣道		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	荒井 一美		

### 〔講義目的〕

武道は格闘形式の運動であり、打ち合う動作に伴って生じやすい人間の本能的感情を抑制したり、克己心を養うことが大切である。

また、武道は礼儀作法や相手を尊重する態度・公正な態度、さらには健康や安全に配慮する態度が重視される。と考える。今後、生きていく上で必要なこれらの態度を、剣道の試合や練習の場で実践し、体験し学ばせたいと考える。

### 〔講義内容〕

- (1) 剣道の礼儀作法や基本動作を正しく身につけ、互いに相手を尊重しながら公正な態度で練習や試合ができる。(関心・意欲・態度)
- (2) 自己の技能の程度により課題を設定し、その解決のために練習の方法や内容を工夫することができる。(思考・判断)
- (3) 基本動作と対人的技能を身につけ、簡易ルールでの試合ができる。(技能)
- (4) 練習や簡易ルールによる試合を通じて、剣道の特性や有効打突について理解できる。(知識・理解)

### 〔講義のすすめ方〕

- 第1回：一斉学習(剣道の歴史・基本動作・素振り・打ち抜ける技)  
スキルテスト(ボール打ち・竹刀連打・竹刀縦打ち)
- 第2回：一斉学習(防具のつけ方・一本打ち・元立ちの方法)  
スキルテスト(竹刀連打・竹刀縦打ち・ライン間往復・跳躍面)
- 第3回：一斉学習(体当たり・引き技・追い打ち)  
スキルテスト(連続打ち)  
試合練習(互角練習・使えた技の発見)
- 第4回：一斉学習(二・三段の技・払い技)  
スキルテスト(連続打ち)  
試合練習(互角練習・使えた技の発見)
- 第5回：一斉学習(応じ技・引き技・出端技・互角練習の仕方について)

スキルテスト(ボール打ち・跳躍面)

試合練習(互角練習・使えた技の発見)

- 第6回：一斉学習(応じ技・すり上げ技・試合、審判法について)

スキルテスト(跳躍面・すり上げ面)

試合練習(試合、審判の練習・使えた技の確認)

- 第7回：一斉学習(応じ技・返し技・試合を6人組で行う)

スキルテスト(面返し胴)

試合練習(試合、審判の練習・得意技の確認と練習)

- 第8回：一斉学習(応じ技の研究・団体試合)

スキルテスト(各班で設定した課題をもとに)

試合練習(団体戦の方法・得意技の練習と課題の発見)

- 第9回：8回と同じ

- 第10回-第14回は、指導法の研究(教師役と生徒役に分かれ、模擬授業を行い互いを評価し合いながら、より良い指導法を身につける)

- 第15回：授業のまとめと簡易筆記テスト

### 〔教 材〕

剣道具一式・竹刀は学校で準備。

手ぬぐいと垂れネーム(ゼッケン)は各自で用意。

### 〔成績評価の方法・基準〕

ア. 運動への関心・意欲・態度

- ①自分に適した技を習得し、相手の動きや技に対応した攻防や勝敗を競い合う武道の楽しさや喜びを味わおうとする。
- ②礼儀作法を重んじて相手を尊重し、自分で自分を律する態度を取ろうとする。
- ③勝敗や結果を受け入れようとする。
- ④用具や服装、練習場などの安全を確かめたり、禁じ技を用いないなど、練習や試合をする上での安全に留意しようとする。

#### イ. 運動についての思考・判断

- ①基本動作と対人的な技能との関連を図っている。
- ②得意技を身につけることができるよう練習や試合の中で、隙や打突する方法を見つけている。
- ③試合では、個人・団体形式や体格別などを踏まえて、それぞれ判定の基準などを選んだりしている。

#### ウ. 運動の技能

- ①基本動作と自分の能力に適した対人的技能で練習することができる。
- ②自分の能力に適した対人的技能のうちから得意技とすることができる。
- ③得意技で相手の動きに対応した練習や試合をすることができる。

#### エ. 運動についての知識・理解

- ①剣道の特性や学習の進め方、基本動作や対人的な技術の構造、自分や相手の課題にあった練習や試合の仕方、練習計画の立て方を知っている。

#### 【履修のポイント・注意点】

「五気」やる気・元気・本気・根気・活気を持ち、武道の精神を学ぼうとする意欲的な態度で、一緒に授業に取り組みましょう。

#### 【科目内容の位置付け】

体育授業に、武道が必修とされます。それにともない、体育教師にも武道の資格（級や段位）が義務づけられてくると思われます。初心者は一級審査にチャレンジしてみましょう。

科目名	バレーボール / 実技理論・実習 バレーボール		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	大関 孝雄		

### 【講義目的】

初心者にとっては「難しい、痛い、楽しくない。」と思われることの多いバレーボールを、自らがゲームを楽しめる技術を習得するとともに、指導者として楽しませることができるような指導方法を学習する。

安全管理、技術、指導方法やルールの学習を基本として、主に部活動として行われている競技性の高い6人制と、競技性とレクリエーション性のバランスのとれた9人制両方について実習していく。

将来の指導者として、技術の習得のみならず、理論も大切にしていきたい。

い。

- 3, 出席や授業態度等、技術以外の部分も重視します。
- 4, 将来、指導する立場になることを意識して欲しい。

### 【講義内容】

- ①オリエンテーション
- ②施設や用具の点検確認及び設置方法等について
- ③パスの基本と応用
- ④サーブ及びサーブレシーブの練習
- ⑤スパイク、トス、ブロックの練習
- ⑥6人制のゲーム、ルール説明
- ⑦9人制のゲーム、ルール説明
- ⑧救急処置（足首のテーピング）

### 【講義のすすめ方】

上記の講義内容について、漠然と技術のみを練習するのではなく、プリントを利用してポイントやコツを学びながら技術を習得する。必要に応じてプリントに書き込み、指導者としての意識も高める。

### 【教 材】

資料は配付します。

### 【成績評価の方法・基準】

出席率、授業態度、授業への貢献度（準備・かたづけ・デモンストレーション・審判等）、技術等で総合的に評価します。

### 【履修のポイント・注意点】

- 1, 運動着・体育館用シューズ・筆記用具を用意すること。
- 2, 怪我防止の為、アクセサリ類（指輪・ネックレス・ピアス等）や爪は注意して欲しい。

科目名	野球（ソフトボール） / 実技理論・実習 野球（ソフトボール）		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	栗山 英樹		

#### 〔講義目的〕

健康維持はもちろん、社会で活躍するために体力を培うことは、大切な要素。さらに余暇の過ごし方や観戦の楽しみもまた、生活にゆとりを与えてくれるもの。そういったスポーツに対する距離感を作りたいと思います。種目としてはソフトボール・野球という団体スポーツでありながら、個人競技の要素を高く持つスポーツの選択です。

#### 〔講義内容〕

- ①オリエンテーション（班分けや授業内容の確認）
- ②道具の使い方、ルールの確認
- ③キャッチボールなど基本練習
- ④ペッパーなど攻撃の基本練習
- ⑤内野、外野の連携プレー、ダブルプレーなどの練習
- ⑥ゲーム形式の練習
- ⑦班ごとによるリーグ戦

#### 〔教 材〕

運動着、シューズが必要です。  
野球道具の基本的なものは学校で用意しますが、慣れたグラブなどぜひ持参されたし。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出欠席、遅刻を重要な要素とし、技術向上による加算制。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

屋外の授業になるため、着替え、シャワーなどの用意をきちんとすること。  
出来る、出来ないではなく、どれだけ楽しく取り組めるがポイント。

科目名	ラグビー / 実技理論・実習 ラグビー		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	齊藤武利・Paulo Nawalu		

### 〔講義目的〕

団体球技系スポーツ種目、特にラグビーを研究するにあたり、必要となるラグビー競技の特性を理解し、わが国における青少年のラグビー指導のあり方を検証する。また、ラグビーの指導法研究を推進するための専門的な知識と指導能力を得ることを目標とする。

### 〔講義内容〕

- I. ラグビーの特性と特徴について
  - ・ラグビーの基本原理
  - ・ラグビー憲章について
- II. ラグビーゲームの構造について
  - ・ランニング、コンタクト、パス、キックについて
  - ・スクラム、ラインアウト、キックオフ、PK、FKについて
- III. ラグビーのコーチング、および指導方法について
 

(男女別で実技は実施し、女子については、小、中学生を対象としたノンコンタクトの教材を用いて授業を行うこととする。)

  - ・各種リードアップゲームについて
  - ・タグラグビー、フラッグフットボールについて
  - ・タッチラグビーについて
  - ・7人制ラグビーについて
- IV. ラグビーの競技規則（ルール）について
  - ・レフリーについて
  - ・U19以下の競技規則について

### 〔講義のすすめ方〕

必要な資料は、毎回配布し、特に教科書は指定しない。

### 〔教 材〕

OHP、VTR など視聴覚教材を使用する。  
参考書として、競技規則（LAWS of the game）を購入予定。

### 〔成績評価の方法・基準〕

理論および実習なので、全てを出席し、経験す

ることを優先する。

毎回ごとにレポートなど、課題を提出する。成績の評価は、出欠状況、課題の遂行状況、およびレポートの内容などによる。やむを得ない事情により、欠席する場合は、補講を別途行う。

### 〔履修のポイント・注意点〕

今後、ラグビーの指導者を志すもの。あるいは、ラグビーに関係した専攻科目を希望するものが履修すること。  
3年次以降、課題研究を履修するものは、必ず履修すること。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

実習では、実際に実技を実施するため、運動できる服装で汚れても問題のないもの。

科目名	体づくり運動 / 実技理論・実習 体づくり運動		
単位	1	開設	半期
教員名	山田 美穂		

#### 【講義目的】

「体づくり運動」の主たる活動は、「体力を高める運動」と「体ほぐしの運動」である。本科目では、学習指導要領でも明示されているこの「体づくり運動」の考え方にに基づき、これらを正しく進めるための、準備運動、整理運動も含めた一連の運動の方法（実技）と理論的根拠を学んでいくことを目的とする。

#### 【講義内容】

本科目は概ね以下の三つの点から成り立っている。

1. 体づくり運動の基本となるストレッチングや柔軟体操の意味や具体的方法を学ぶ。これらに関する正しい理解に基づき、ウォーミングアップ、クーリングダウンの実践について、具体的な実技と理論的根拠を対応させながら考える。
2. 体力を高める運動では、Gボール、長縄、短縄などの道具や音楽を用いながら、簡易にしかも楽しく運動をしていく方法を学ぶ。
3. 体ほぐしの運動では、「気づき」「調整」「交流」という三つの柱を学習する。そこで、弛緩法などの体気づきのプログラムを行ったり、チャレンジ運動などの仲間づくりプログラムなどを組み合わせて行う。また、こうした体ほぐしの運動に関する研究成果も紹介していく。

#### 【講義のすすめ方】

実技を中心に行う。運動の課題によって個人、ペア、グループ、全員で取り組むものを適宜設定する。

#### 【教 材】

参考図書

「健康スポーツの心理学」竹中晃二編 大修館書店

#### 【成績評価の方法・基準】

出席 50%  
レポート 30%  
毎時間の様子 20%

#### 【履修のポイント・注意点】

本科目は、体力の有無、技能の高低、経験の有無などとはほとんど関係しないような運動を実施する予定である。競技と異なり、体を動かすことの楽しさや仲間と一緒に動く楽しさを味わって欲しい。また、心と体を一体とし捉える観点から「体づくり運動」に対する理解や必要性の認識を深めることを期待する。

なお、毎時間、必ず実技と理論的な説明を行うので、運動着のみならず筆記用具も持参すること。

#### 【科目内容の位置付け】

簡易な運動や活動を取り上げるために、前提となるような予備知識は問わない。しかし、生涯スポーツという考え方に立った場合、本科目による経験が、一つの基礎になるのではないかと考える。

「体づくり運動」は学習指導要領の中では、中学校・高等学校の保健体育科の必修領域である。どの教師も指導できなくてはならないため、必要充足という考え方の下でこの領域が位置づけられている。

科目名	体育・スポーツ経営学 / 体育経営管理学		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	藤井 和彦		

### 【講義目的】

本講座では、今日の多様な体育・スポーツに関わる現象を視野に入れながら、体育・スポーツ経営学の基礎的な理論を解説する。この学問は歴史の浅い学問ではあるが、その時々々の体育やスポーツの実践現場における「管理」や「経営」といった営みの必要性に応える形で発展してきた。「体育管理学」から「スポーツ経営学」への流れを理解し、「体育・スポーツ経営」とはどのような活動かを理解することを目的とする。学校体育や地域スポーツなどの領域について、体育・スポーツ経営学の立場から今日的な課題や今後の方向性等について自分なりの見解を持つことができるようになることを講義の最終的な到達目標とする。

### 【講義内容】

- ①体育・スポーツへの「接近行動」を考える
- ②スポーツ科学としての体育・スポーツ経営学
- ③「経営」の意味と体育・スポーツ経営学の概念・構造
- ④「運動者」と「運動生活」
- ⑤「運動者行動」の捉え方(1)
- ⑥「運動者行動」の捉え方(2)
- ⑦体育・スポーツ事業論(1) エリアサービス事業
- ⑧体育・スポーツ事業論(2) プログラムサービス事業
- ⑨体育・スポーツ事業論(3) クラブサービス事業
- ⑩スポーツ行政論(スポーツ振興基本計画の読み解き)
- ⑪学校体育経営論
- ⑫地域スポーツ経営論
- ⑬フィットネスクラブの経営論
- ⑭まとめと試験対策

※上記の内容を中心に構成するが時間(時限)の配分は適宜調整しながら進める。

### 【講義のすすめ方】

講義形式で進める。下記の参考テキストの内容に対応した講義ノート(資料)を毎回配布する。講義では、解説を聞きながら各自がその講義ノートを作成していくことになる。講義の終わりには「講義の感想・質問票」を毎回提出す

る。主要な感想や質問については次回の講義の冒頭で再度取り上げ、解説する。その他、2-3度のレポート課題を課す。

### 【教 材】

「体育・スポーツ経営学講義」  
八代勉・中村平編著  
大修館書店 2200円+税  
を参考テキストとする。体育・スポーツ経営学の入門書として購入することを強く進める。

### 【成績評価の方法・基準】

テスト1回(期末)、レポート学期2?3回。  
レポートの提出は必修とし単位取得のための条件とする。成績評価は試験得点(70%) + 出席点(30%)を規準とする。レポートは最終的な判定時にその内容を考慮する。

試験は、テキスト及び配布された講義ノート(自筆のもののみ)の持込を可とし、キーワードに関する穴埋め問題と、論述問題から構成される。

出席点は、毎回の「講義の感想・質問票」の内容から出席の有無、講義に望む態度を判断し各回3点満点で加算し評価の材料とする。

### 【履修のポイント・注意点】

教職のために必要な科目であるばかりでなく、体育・スポーツの専門家として体育・スポーツ経営の考え方を理解しておくことは不可欠であると考え、その自覚を持って授業に臨んでいただきたい。

履修年次は2年次を標準と考えている。

### 【科目内容の位置付け】

体育・スポーツ経営学の概論、入門編と位置付ける。関連科目の学習やゼミナールなどの演習を通して更に理解を深めて行くことを期待する。

### 【前提・関連科目(科目間関連の内容)】

体育社会学、スポーツ行政論、スポーツ・マーケティング論など

科目名	スポーツ社会学 / 体育社会学		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	中村 祐司		

### 【講義目的】

現代社会における体育・スポーツをめぐる今日的な諸問題について、学校体育や地域スポーツからプロスポーツ、メディアとの関連まで、いくつかの事例を通して、政治・経済・文化・教育との関連から、あるいは高度化・大衆化といった点から考察を加える。また、スポーツレジャー産業やスポーツ・文化産業といった余暇産業に関わる民間企業によって形成される市場の動きにも注目する。スポーツ社会を単にスポーツ選手やスポーツ愛好者のみで構成される固有な社会と認識させるのではなく、さまざまな諸アクターが参入する小世界（マイクロコスム＝microcosm）における相互作用のダイナミズムとして認識させる。このように現代スポーツ世界を多角的に検討することによって、体育・スポーツが人間社会に果たす役割と課題を明確にしていきたい。

### 【講義内容】

1. 体育・スポーツ社会学研究の意義
2. 学校体育施設と地域のスポーツ活動
3. 公共スポーツ施設と地域社会
4. 体育・スポーツの歴史と社会
5. 体育・スポーツの高度化と大衆化
6. 中央政府・地方自治体と体育・スポーツ
7. 産業市場における体育・スポーツ
8. 国家戦略と体育・スポーツ活動
9. レジャー・余暇活動と体育・スポーツ
10. 体育・スポーツ社会のこれからの課題

### 【講義のすすめ方】

体育・スポーツを研究の対象とする意義について認識させた上で、日本とイギリス・オーストラリアなどの事例を揚げて、現代社会における体育・スポーツ活動は変容しつつあることを指摘する。そして、体育・スポーツを取り巻く様々な課題、例えば、サッカーワールドカップ大会やオリンピック大会のような大規模スポーツイベントが国家戦略やスポンサー企業の経営戦略とどのように絡み合っているのかについて論じる。また、消費活動としての「見るスポーツ」など、現代社会において体育・スポーツ活動の置かれている特異性についても触れる中で、体系的・多角的に体育・スポーツ社会を

把握していきたい。なお、講義では受講生に対する質問を心掛ける。

### 【教 材】

テキストとして、『"とちぎ発" 地域社会を見るポイント100』（下野新聞新書2、1000円）を使用します。第2回目ないしは第3回目の授業時に教室において販売するので、事前に購入する必要はありません。また、必要に応じて資料を適宜配布する。

### 【成績評価の方法・基準】

出席状況および定期試験によって評価する。

### 【履修のポイント・注意点】

どのようなものであれ、体育・スポーツとこれに関連する課題に対する問題意識を持って授業に臨んでほしい。質問の時間もできるだけ確保したいので、事実確認以上に考え方や視点をめぐる質問を積極的に行ってほしい。

### 【科目内容の位置付け】

どちらかといえば、この授業では「広く浅く」を心掛け、体育・スポーツの抱える課題を満遍なく網羅的に把握していくので、取り上げた個々の課題のより深い追求は「スポーツ行政論」でやっていきたい。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

体育・スポーツ活動に従事しているかいないかにかかわらず、また、好き嫌いかかわらず、体育・スポーツに対する何らかの関心を有していることを受講の前提としたい。また、関連科目として「スポーツ行政論」がある。

科目名	運動生理学 / 運動生理学 I		
単位	2	開設	半期
教員名	金田 健史		

#### 〔講義目的〕

生理学で学習した内容を基礎として、神経系、骨格筋系、呼吸循環系などの諸機能が運動・スポーツをすることに對してどのように関わっているか、また体育・スポーツ場面において実際に関連している応用的知識について、基礎的知識の確認も行ないながらしっかりと理解する。

上記の目的は運動生理学、スポーツ生理学を通じて同一と考えている。

#### 〔講義内容〕

1. 運動生理学の概要。我々人間にとって、運動はどのような役割を果たしているか？運動の必要性について考える。
2. 筋収縮の様式，筋力に影響する要因
3. 運動・トレーニングと骨格筋
4. 運動と循環系（スポーツ心臓，血流量の配分）
5. 運動と呼吸系（最大酸素摂取量，乳酸性作業閾値（LT））
6. 運動単位の活動パターン，筋力増強のメカニズム
7. 神経系の機能（大脳皮質の機能局在，小脳，大脳基底核）
8. 神経系の機能（骨格筋の感覚器，反射）
9. 脳の可塑性，運動の調節
10. 血液の役割，体液の調節
11. 貧血，免疫機能
12. 内分泌系の機能
13. 睡眠覚醒の発現機構
14. 体温調節機能
15. 試験

#### 〔講義のすすめ方〕

授業では、パワーポイントなどを用い、視覚的にイメージをしやすいようにし、またプリントなどから復習できるように進めていく予定である。

#### 〔教材〕

- 運動生理学20講 第2版（朝倉書店）
- トレーニング生理学（杏林書院）
- 運動適応の科学（杏林書院）

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席および、学期末試験において評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

一年次に履修した生理学において学習した内容をさらに深めて授業を進めていくため、生理学を履修した後、本講義を受講することが望ましい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

専門科目，教員免許取得に必要となる単位  
健康運動指導士養成校制度での認定科目

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

生理学、スポーツ生理学

科目名	スポーツ科学入門		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	内山須美子・海原純子・金田健史・栗山英樹・近藤智靖・齋藤一人・齋藤武利・竹島克己・藤井和彦・吉田茂		

### 【講義目的】

スポーツ健康専攻の学生の導入科目として、スポーツ科学の全体像を解説する。「スポーツ」は万人に認知された一般的な用語であるが、学問の対象としてどの様に捉えられるのか。「スポーツ」という用語の定義、身体や運動に関わる知識、「スポーツ」という現象の理解、その歴史や現状、「スポーツと人との関わり」など、様々なスポーツをめぐる学問的「切り口」をオムニバス形式で解説する。

これから4年間の専門的学びのスタートに際し、スポーツ科学全体に対する興味関心を高めると同時に、カリキュラムに設定されている各科目の特性や位置づけに関する理解を深め、一人ひとりが自らの専門性を構築していく土台づくりとなる知識の獲得を目指す。

### 【講義内容】

- ①オリエンテーション
- ②今日のスポーツの現状－制度・環境・実施率・課題（ビジョン）－
- ③運動する人間（1）－舞踊・ダンスの哲学－
- ④運動する人間（2）  
－長距離選手はなぜ走る？－
- ⑤運動する人間（3）－運動とは何か？スポーツとは何か？－
- ⑥運動に応える身体（1）－身体のしくみと生理的反応－
- ⑦運動に応える身体（2）－トレーニングの概念と効果－
- ⑧運動に応える身体（3）－スポーツと医学のメカニズム－
- ⑨スポーツと現代社会（1）－プロスポーツの与える感動－
- ⑩スポーツと現代社会（2）－トップアスリートとコーチング－
- ⑪スポーツと現代社会（3）－コミュニティスポーツの役割－
- ⑫スポーツと教育－教育としての「体育」を問い直す－
- ⑬まとめとレポート

※上記を中心に構成するが、順番・内容を変更することもある。

### 【講義のすすめ方】

講義形式で行う。オムニバス形式のため各回完結の講義となる。担当教員の指示により授業の感想或いは小レポートの提出がある。

定期試験は実施せず、最終回にまとめのレポートを課す。

### 【教 材】

各回の担当教員より、必要に応じてその都度資料が配付される。

### 【成績評価の方法・基準】

出席点（50％）及び平常点（各回の感想・小レポート、まとめのレポート）（50％）で評価を行う。

### 【履修のポイント・注意点】

大学での学びは、講義科目といえども全て受け身の姿勢ではいけない。質問や感想などを積極的に述べ、主体的な姿勢で授業に参加すること。この科目に対する取組姿勢が4年間の大学生活への取組姿勢に反映するといっても過言ではない。重要な導入の科目として高い意識で取り組むことを期待する。

### 【科目内容の位置付け】

スポーツ健康専攻1年生の必修科目

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

なし。  
本科目が、スポーツ健康専攻の専門科目の前提となる。

科目名	解剖学 / 解剖学 (基礎)		
	ヒト身体の柔軟性と巧妙性を知る		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	早川 敏之		

### 〔講義目的〕

解剖学では人体の構造とその働きを知る上で必須の学問である。

医学部の解剖学とは異なり、将来スポーツ医学や児童教育に携わる諸君に実際に役立つ実践的な解剖学を学んでもらうことを目的にする。

このため単に、身体のしくみを学ぶだけでなく、人体の発生、骨や関節などの動きやその働きなどの機能的な面まで幅広く講義していきたい。

### 〔講義内容〕

1. 人体の発生
2. 骨と筋肉の構造と働き
3. 脳の発達とそのメカニズム
4. 頭頸部の構造とその働き
5. 上肢の構造とその働き
6. 脊柱, 胸郭の構造とその働き
7. 骨盤の構造とその働き
8. 下肢の構造とその働き
9. 骨, 関節の運動 (単関節筋と多関節筋の働き)
10. 心肺機能
11. 消化器の解剖とその働き
12. 肝臓の機能とアルコール代謝
13. 腎機能のしくみ
14. 生殖系の構造とその働き
15. 試験

### 〔講義のすすめ方〕

板書並びに配布資料による座講

### 〔教 材〕

特に指定なし

### 〔成績評価の方法・基準〕

定期試験 (70%)

出席及び授業参加の姿勢 (30%)

### 〔履修のポイント・注意点〕

自分でも問題意識を持って参加してほしい。

### 〔科目内容の位置付け〕

大学生としての基礎知識となる解剖学を学んでほしい。

科目名	トレーニング論 / トレーニング論 I		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	齊藤 武利		

#### 【講義目的】

スポーツ場面における様々なトレーニングについて、多角的（体力的、精神的、技術的、戦術的）に捉えて、トレーニング全般を概説し、スポーツ現場におけるトレーニングの方法論等についても言及する。特に、スポーツ指導者の視点に立って、発育発達、老化や性別など様々な体力トレーニングの意義や方法等についても概説する。

#### 【講義内容】

様々なトレーニング方法について

- ・体力的トレーニングの考え方とその方法
- ・技術的トレーニング
- ・心理的トレーニング
- ・戦術的トレーニング
  - トレーニングの原理、原則について
  - トレーニングの目標、手段、計画、評価について
- ・発育、発達（特に、青少年期）とトレーニング目標、計画の実際
- ・加齢、老化、性差におけるトレーニングの目標と計画の実際
  - トレーニングの条件およびトレーニング強度について
- ・トレーニングの強度や頻度、時間等の設定方法など
- ・トレーニングの環境
  - トレーニングによる効果について
- ・トレーニングによる生体の反応に及ぼす影響について
  - （筋肉、神経、有酸素能力、パワーなど）
- ・トレーニングや運動による行動変容
  - （運動行動の変容含む）に及ぼす影響について
- ・体力トレーニングの具体的な方法について
- ・筋力トレーニング（筋肥大、筋パワー増大）の方法とその効果
- ・有酸素能力向上（エアロビックス）のためのトレーニング方法と効果
- ・筋持久力向上のためのトレーニングの方法と効果
- ・各スポーツ競技、スポーツ種目別の専門的トレーニングの方法と効果

#### 【講義のすすめ方】

教科書は、特に指定しない。

参考となる図書等については、その都度、授業中に紹介する。

#### 【教 材】

OHP、VTRなど視聴覚教材を使用する。

また、必要に応じてプリントを配布する。

#### 【成績評価の方法・基準】

全体の2/3以上の出席が 試験を受けるため、もしくはレポート提出のための前提条件です。2/3以上、出席した学生のみ、最後に、試験もしくは、レポートの提出によって、成績評価を実施。

評価基準（出席30% テストおよびレポート60% 総合評価10%）

科目名	スポーツ指導者論Ⅰ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	齋藤 一人		

**〔講義目的〕**

本講義は、スポーツ指導現場・活動において、スポーツ指導者として社会に求められる背景と役割について理解し、その活動内容を的確に効果的に指導するための指導者の心構えと視点・競技者育成プログラム等について学ぶ。また、指導を実践する上で基本となる、スポーツ科学・コーチングスキル・一貫指導システム・競技者個人やチームを対象とした指導計画と評価等を修得する。

**〔講義内容〕**

1. オリエンテーション
2. スポーツ指導者とは（役割・現状）
3. 指導者の心構え・視点について
4. 一競技者育成プログラムの理念について①
5. 一競技者育成プログラムの理念について②（一貫指導システム等）
6. スポーツ活動と安全管理について
7. コーチング・スキルについて①
8. コーチング・スキルについて②
9. コーチング・スキルについて③
10. スポーツ科学ートレーニング理論とその方法について①
11. スポーツ科学ートレーニング理論とその方法について②
12. 指導計画およびトレーニング計画について①
13. 指導計画およびトレーニング計画について②
14. 指導計画およびトレーニング計画について③
15. まとめ

**〔講義のすすめ方〕**

基本的には講義形式で進めていくが、コーチングスキル・指導計画立案等などで、対象別や専門競技等でグループ別の作業・ディスカッション-発表を行っていく予定である。

**〔教 材〕**

特になし。必要に応じて、授業中に配布するプリント等。なお、参考図書として（財）日本体育協会 公認スポーツ指導者養成テキストがあ

る。

**〔成績評価の方法・基準〕**

出席、レポート等によって総合的に評価します。

**〔履修のポイント・注意点〕**

7割以上出席と課題提出。

**〔科目内容の位置付け〕**

スポーツ指導者を目指すものを対象とします。

科目名	スポーツ生理学 / 運動生理学Ⅱ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	金田 健史		

#### 〔講義目的〕

生理学で学習した内容を基礎として、神経系、骨格筋系、呼吸循環系などの諸機能が運動・スポーツをすることに対してどのように関わっているか、また体育・スポーツ場面において実際に関連している応用的知識について、基礎的知識の確認も行ないながらしっかりと理解する。

上記の目的は生理学、運動生理学を通じて同一と考えている。

#### 〔講義内容〕

1. 運動生理学の概要、運動といろいろな要素との関わり
2. 持久的運動とからだ（呼吸循環機能を中心に）
3. レジスタンス運動とからだ（骨格筋を中心に）
4. 運動・スポーツと疲労
5. 運動・スポーツと休養、睡眠
6. 運動・スポーツと栄養（1）
7. 運動・スポーツと栄養（2）、水分補給
8. 運動・スポーツと環境（1）（高所、暑熱、寒冷、水中等）
9. 運動・スポーツと環境（2）（高所、暑熱、寒冷、水中等）、体温調節
10. 運動・スポーツと発育発達
11. 運動・スポーツと老化・加齢
12. 運動・スポーツと内分泌系の関わり、（ホルモン、代謝）
13. 運動・スポーツと記憶、学習
14. 女性と運動・スポーツ
15. 試験

#### 〔講義のすすめ方〕

授業では、パワーポイントなどを用い、視覚的にイメージをしやすいようにし、またプリントなどから復習できるように進めていく予定である。

#### 〔教 材〕

- 運動生理学20講 第2版（朝倉書店）
- トレーニング生理学（杏林書院）
- 運動適応の科学（杏林書院）

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席および、学期末試験において評価する。

#### 〔科目内容の位置付け〕

専門科目、教員免許取得に必要な単位  
健康運動指導士養成校制度での認定科目

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

生理学、運動生理学

科目名	スポーツ医学Ⅰ / スポーツ医学概論		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	海原 純子		

〔講義目的〕

スポーツ関連の仕事に携わる諸君にとって医学的知識は不可欠である。医学的知識があつてはじめて効果的な成果をあげ、自己や故障の少ないスポーツ活動やトレーニングが可能となると思われる。スポーツ医学概論では、内科的、外科的な視点でスポーツと医療との関わりを捉えていく。

〔科目内容の位置付け〕

健康運動指導士養成校制度での認定科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

運動と健康（運動処方）と併せて履修するとより理解力が深まる。

〔講義内容〕

- ①生体のホメオスタシス
- ②③生活習慣病とは、生活習慣病の予防と運動の関わり
- ④⑤内科的障害と予防
- ⑥上肢の外科的傷害
- ⑦⑧下肢、脊椎の外科的傷害
- ⑨⑩健康診断の測定項目、結果、基準値と考え方
- ⑪スポーツの実施現場と診断（メディカルチェック）との関わりと考え方
- ⑫服薬時における運動の処方
- ⑬アスレティックリハビリテーション
- ⑭介護予防としてのスポーツの役割
- ⑮子どもや高齢者でのスポーツ障害、外傷

※上記の内容について、適宜1-2時間をかけて学習していく。

〔講義のすすめ方〕

実践的処置を学ぶための学外講師などの参加も予定している。

〔教 材〕

特になし。

〔成績評価の方法・基準〕

出席と定期試験

〔履修のポイント・注意点〕

スポーツに関する知識だけでなく、医学的な知識をも身につけることが健康、スポーツの現場では求められている。

ただ運動をおこなう実践者であるだけでなく、知識をも備えた社会人となってほしい。

科目名	スポーツリハビリテーション論		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	齊藤武利・廣瀬文彦		

#### 〔講義目的〕

スポーツにおけるリハビリテーションの意義、役割を学習し、その実践的な方法やあり方を考え、実際のスポーツ現場のリハビリテーション活動について検証する。

#### 〔講義内容〕

- 1 スポーツ現場におけるリハビリテーションとは、(アスレティックリハビリテーション)
- 2 わが国におけるトレーナー制度、活動について
- 3 スポーツリハビリテーションに従事する人たちについて
- 4 競技力向上におけるスポーツリハビリテーションの実際について
- 5 生涯スポーツにおけるスポーツリハビリテーションについて
- 6 具体的な方法論の検討 (実技を含む)
  - ・テーピングについて (集中形式での実技練習を行う。)
  - ・スポーツマッサージについて
  - ・アイシングについて
  - ・ストレッチングについて
  - ・応急処置について
  - ・理学療法について
  - ・鍼灸について
  - ・柔道整復および整体について
  - ・その他
- 7 メディカルチェックの重要性とコンディショニング
  - ・メディカルチェックとリハビリテーションの関連
    - ・運動療法と運動プログラムの作成と実践
    - ・コンディショニングと医学的リハビリテーション (手術、通院、投薬状況など) との関連について

#### 〔講義のすすめ方〕

必要な資料は、毎回配布する。または、副読本の内容から抜粋して講義を進める。  
今年度からは、2名体制での授業となり、実習形式での授業内容 (テーピング実技) を織り交ぜて実施する。

#### 〔教 材〕

- ・OHP、VTR など視聴覚教材を使用する。  
参考書、および参考資料については、講義で紹介する。
- ・副読本として、健康運動指導士養成講習会テキスト (上) (下) があるとより理解しやすい。
- ・テーピング実習では、各自テーピングテープ等の必要量と頻度が異なるため、一定量以上の実習教材については、各自実費の教材購入が必要である。(約1000円程度)

#### 〔成績評価の方法・基準〕

全体の2/3以上の出席が 試験を受けるため、もしくはレポート提出のための前提条件です。2/3以上、出席した学生のみ評価対象となる。

最後に、実技テスト、試験もしくは、レポートの提出によって、成績評価を実施。

評価基準 (出席30% テスト (実習含む) およびレポート60% 総合評価10%)

#### 〔履修のポイント・注意点〕

今年度より、「テーピング実技」が授業内容に含まれる。集中形式での実技練習の時間が後日、授業時間内で案内、指定される。この実技への参加は、最終的な成績評価のための必要条件となる。

#### 〔前提・関連科目 (科目間関連の内容)〕

スポーツ医学概論、スポーツ医学Ⅰとあわせて履修すると理解が深まる。

科目名	体育・スポーツ実践事例研究		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	藤井 和彦		

**〔講義目的〕**

現代社会に見られる体育・スポーツ現象は多種多様である。人々と体育・スポーツとの関わりは、スポーツ経営活動の結果として生み出されるスポーツサービスを介して成立する。今日では実に様々なスポーツサービスが存在している。それらは営利目的のスポーツビジネスとして成立している場合もあれば、NPOや地域住民組織により非営利で生産・提供されるものもある。その実践領域も民間施設・民間企業、地域社会、学校、競技スポーツ団体など様々である。

本科目では、この様に様々なスポーツ実践の事例に焦点をあて、ゲストスピーカーを招きながら、その理念や目的、実際のスポーツサービスの内容等を研究していく。これらを通じて体育・スポーツ経営の全体像及び各領域への理解を深めることを目的とする。

**〔講義のすすめ方〕**

各実践事例については、ゲストスピーカーの講演を挟む形で、事前の事例研究、事後の事例評価等を進めていく。詳細なスケジュールについては初回のオリエンテーション時に説明する。

**〔教 材〕**

その都度、資料を配付する。また、関連書籍や参考資料等は適宜紹介していく。

**〔成績評価の方法・基準〕**

まとめのレポート1回（期末）、中間レポート随時

中間レポートの提出は必修とし単位取得のための条件とする。成績評価はレポート得点（70%）+出席点（30%）を規準とする。

**〔履修のポイント・注意点〕**

ゲストスピーカー等、学外の講師をお招きする場合もあるので、礼儀と節度を持って授業に臨んでもらいたい。また、積極的に質問するなど、その機会を最大限に活用してもらいたい。

**〔科目内容の位置付け〕**

特にスポーツ関連企業への進路を考えている

学生には強く勧めたい。本科目を、インターンシップ等と関連づけながら、在学中から積極的にスポーツの実践現場に関わっていくことを勧める。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

スポーツ科学入門 スポーツ・インターンシップ 体育・スポーツ経営学 スポーツ産業論 スポーツマーケティング論 など

科目名	スポーツ科学実験演習		
単 位	1	開 設	集中
教 員 名	海原純子、金田健史、齋藤一人、齋藤武利		

**【講義目的】**

多くの講義によって得られる情報をただ受講しているだけでなく、実際に自分自身で測定したり、プログラムを作成したりすることによって、より深い知識や理解を目指すことを目的としている。演習においていろいろな機器を用いることによって、自分自身の興味や関心を深め、三年次以降に自分の専門性を絞っていく際や、卒業研究で実際に使用する際の良いきっかけになるものとも考えている。

海原純子 A, 金田健史 B, 齋藤一人 C, 齋藤武利 D

※いくつかの種類の演習内容に対して、担当教官が貼り付いて実施する。

**【講義内容】**

スポーツ、医療の現場において実施されている運動負荷テストや動作解析、呼気ガス分析、心電図、脳波といった項目に関する測定および分析方法を学ぶとともに、実践的な知識と技能を獲得する。

- A. 運動負荷テストの実施と理解
- B. 呼気ガス分析、心電図、筋電図、脳波等の電気生理学的実験分析
- C. 運動パフォーマンスの動作解析
- D. 等尺性、等速性最大筋力の測定と分析

**【講義のすすめ方】**

AからDそれぞれの実験内容について担当教員がつき、受講生は4グループに分かれ、そのグループ毎で各実験をローテーションしておこなう。それぞれの実験の中身については上記の通りである。これまで色々な講義科目で学んできた知識を基にして、実際に自分自身の手で積極的に関わることで得られるものが多いので、積極的に取り組んでほしい。

本演習は集中形式で3から4日程度で集中的におこなう。

**【教 材】**

特になし

**【成績評価の方法・基準】**

出席とレポート

**【履修のポイント・注意点】**

ただ受講することが狙いではないので、受身的な姿勢ではなく、積極的に機器の操作や測定に関わり、学習していくことが望まれる。

**【科目内容の位置付け】**

健康運動指導士養成校制度での認定科目

**【前提・関連科目（科目間関連の内容）】**

生理学、運動生理学、スポーツ生理学、体育・スポーツの測定と評価、運動と健康（運動処方）、スポーツ医学概論、トレーニング論Ⅰ、Ⅱ、トレーニング実習Ⅰ、Ⅱ

科目名	スポーツインターンシップ		
単 位	1	開 設	集中
教 員 名	近藤 智晴		

#### 〔講義目的〕

スポーツに関わる仕事の範囲は、今日では非常に多岐に渡るようになった。それぞれの業務には、特化した専門性が必要とされる一方で、マネジメントやプログラミング、マーケティングなどの広範な知識も求められる。これらの仕事に関わるスキルには、将来職務を遂行していく中で身につけていくものも多いが、学生時代の職場体験等でそのスキルに対する理解を深め、必要性を確認しておくことは非常に有効な学習である。

本講義では、実際にスポーツに関わる職場においてインターンシップを実施することにより、それぞれの職務において求められる専門的なスキルに対する理解を深めるとともに、学生時代に獲得可能な基本的実践スキルの獲得を目指すものである。

#### 〔講義内容〕

1. スポーツインターンシップ事前オリエンテーション
2. スポーツインターンシップの実施（1－2週間程度）
3. スポーツインターンシップ事後指導

大学の定めるインターンシップ受け入れ先企業・組織の中から希望する実習先を選びインターンシップを行う。受け入れ可能人数・希望者等の状況により調整を行い実習先を決定する。

なお、実習先としては民間フィットネスクラブ（健康産業施設）、社会体育行政組織、社会教育行政組織、公共スポーツ施設、プロスポーツ球団（チーム）、スポーツメーカー、野外活動団体等がある。

#### 〔講義のすすめ方〕

事前オリエンテーションから事後指導までを含め、「スポーツインターンシップ日誌」を用いて目標の設定、活動の記録、自己評価等を進めていく。

#### 〔教 材〕

特になし

#### 〔成績評価の方法・基準〕

現場での取り組み、現場からの評価票の内容、及び「インターンシップ日誌」の作成状況から総合的に評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

健康運動指導士養成校制度での認定科目である。なお、今年度は、実習先の確保のため、30名までに履修人数の制限を行う。

#### 〔科目内容の位置付け〕

要件を満たす実習先に関しては、健康運動指導士養成校制度での健康産業施設等現場実習に置き換える。

#### （主たる要件）

- ・ 民間フィットネスクラブ等の健康産業施設
- ・ 実習期間7日間
- ・ 有資格者による実習指導（健康運動指導士）
- ・ プログラム作成、運動指導等、一定の実習内容を含むこと

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

体育・スポーツ実践事例研究（前提科目）

科目名	体育科教育法Ⅰ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	近藤 智靖		

#### 〔講義目的〕

本科目の目的は、中高等学校の体育授業の指導方法や理論について学ぶことである。

#### 〔講義内容〕

内容は、次の通りである。

- ①質の高い体育授業の作り方
- ②体育授業の評価方法

体育授業といっても、その内容は、体づくり運動、器械運動、陸上運動、水泳、球技、武道、ダンス、体育に関する知識と多岐にわたっている。そのため、本科目において全ての領域にわたり理論とその指導方法を詳細に学習することは難しい。そこで本科目では、いくつかの典型的な領域を取り上げ、質の高い体育授業の作り方（すぐれた教師の指導行動・教材教具・マネジメント・説明や指示の方法など）や体育授業の評価方法を学んでいく。

#### 〔講義のすすめ方〕

本科目は、教室を中心に行う。授業のビデオを視聴しながら、指導のポイントや理論について学ぶ。

#### 〔教 材〕

〈購入図書〉

本科目のみならず教育実習事前指導、教育実習、教員採用試験等を想定し、以下の3つの著書を全員購入すること。購入方法は、本科目1回目に指示する。

- ①中学校学習指導要領
- ②高等学校学習指導要領
- ③ビジュアル 新しい体育実技・東京書籍・740円

〈参考書〉

体育の授業を観察評価する・高橋健夫編著・明和出版・2200円

体育の授業を創る・高橋健夫編著・大修館書店・2200円

#### 〔成績評価の方法・基準〕

- |          |     |
|----------|-----|
| 出 席      | 40% |
| レポート     | 40% |
| 普段の活動の様子 | 20% |

#### 〔履修のポイント・注意点〕

本科目は、体育科教育法Ⅱと併せてひとまとまりの科目である。なるべくⅠⅡ併せて履修をすること。

#### 〔科目内容の位置付け〕

本科目は、教員養成の導入として位置づけられ、教育実習に直結する科目である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

本科目は、これまで学んできたあらゆる種目の実技、特別活動、学校保健、保健科教育法など、全て関連している。学習指導要領に記載されている内容、指導案の形式、指導案の書き方を事前に学習しておくこと、講義の理解が深くなる。

科目名	保健体育科教育法Ⅰ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	近藤 智靖		

#### 〔講義目的〕

本科目の目的は、中等高等学校の体育授業の指導方法や理論について学ぶことである。

#### 〔講義内容〕

内容は、次の通りである。

- ①質の高い体育授業の作り方
- ②体育授業の評価方法

体育授業といっても、その内容は、体づくり運動、器械運動、陸上運動、水泳、球技、武道、ダンス、体育に関する知識と多岐にわたっている。そのため、本科目において全ての領域にわたり、理論とその指導方法を詳細に学習することは難しい。そこで本科目では、いくつかの典型的な領域を取り上げ、質の高い体育授業の作り方（すぐれた教師の指導行動・教材教具・マネジメント・説明や指示の方法など）や体育授業の評価方法を学んでいく。

#### 〔講義のすすめ方〕

本科目は、教室を中心に行う。なるべく授業のビデオを視聴しながら、指導のポイントや理論について学ぶ。

#### 〔教 材〕

〈購入図書〉

本科目のみならず教育実習事前指導、教育実習、教員採用試験等を想定し、以下の3つの著書を全員購入すること。購入方法は、本科目1回目に指示する。

- ①中学校学習指導要領
- ②高等学校学習指導要領
- ③ビジュアル 新しい体育実技・東京書籍・740円

〈参考書〉

体育の授業を観察評価する・高橋健夫編著・明和出版・2200円

体育の授業を創る・高橋健夫編著・大修館書店・2200円

#### 〔成績評価の方法・基準〕

- |          |     |
|----------|-----|
| 出席       | 40% |
| レポート     | 40% |
| 普段の活動の様子 | 20% |

#### 〔履修のポイント・注意点〕

本科目は、体育科教育法Ⅱと併せてひとまとまりの科目である。なるべくⅠⅡ併せて履修をすること。

#### 〔科目内容の位置付け〕

本科目は、教員養成の導入として位置づけられ、教育実習に直結する科目である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

本科目は、これまで学んできたあらゆる種目の実技、特別活動、学校保健、保健科教育法など、全て関連している。学習指導要領に記載されている内容、指導案の形式、指導案の書き方を事前に学習しておくこと講義の理解が深くなる。

科目名	道徳教育の研究 / 道徳教育の理論と方法S		
	児童生徒の心に響く道徳授業の指導法の研究		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	中山 和彦		

#### 〔講義目的〕

本科目の目的として、次の3点を設定する。

- 1 学校教育全体を通して行われる道徳教育の意義について、具体例を通して理解する。
- 2 小・中学校における道徳教育の中心となっている「道徳の時間」の役割とその意義について具体例を通して理解する。
- 3 小・中学校における道徳授業の具体例を示すことにより、指導法について追求するとともに、今後求められる道徳授業における多様な指導法について具体例をもとに学ぶ。
- 4 本科目の講義を通して、教職に対する夢やあこがれを一層高めるようにする。

#### 〔講義内容〕

- 1 道徳教育の基本的なあり方
- 2 学習指導要領における道徳の目標及び内容
- 3 道徳の指導計画  
※特に、学校で作成している具体例をもとに、「学級における道徳教育指導計画」（試案）を作成し、学級経営との関連について考える。
- 4 道徳授業の指導法  
(1) 小学校における道徳授業  
(2) 中学校における道徳授業
- 5 心のノートについて
- 6 学習指導案作成  
(1) 小学校における道徳授業  
(2) 中学校における道徳授業
- 7 道徳の模擬授業を体験する（小学校・中学校）
- 8 道徳授業の一部を行う。（導入・展開・終末）
- 9 道徳授業の多様な指導法について学ぶ

#### 〔講義のすすめ方〕

小・中学校で作成し、実践されている指導計画、指導案、資料等を示しながら、また、時には、私自身が学生に対して模擬授業を展開しながら、小・中学校における道徳教育及び道徳授業について講義をすすめる。また、指導案作成等の演習や意見発表等の場を通して、学生が主体的に学ぶ時間を設ける。

#### 〔教 材〕

毎時間の資料は、印刷して配付する。

参考資料として、できるだけ次の図書を購入してほしい。

- ・『小学校学習指導要領解説 道徳編』
- ・『心のノート 小学校5・6年生』
- ・『中学校学習指導要領解説 道徳編』
- ・『心のノート 中学校』

#### 〔成績評価の方法・基準〕

小レポートや小テストを講義の中でを行い、その成績を累積して評価する。講義中の態度や取組の意欲について観察により評価し、その結果を重視する。教師を目指す者として、児童・生徒の取組の意欲や過程を大切にすることを今から持ってほしいという強い思いがある。私は現職の校長として、所属教職員の勤務意欲や取組の過程を最重視している。校長が、教職員の勤務意欲を最重視できれば、児童・生徒の学ぶ意欲を最重視できる教職員を育成できる。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

次の3点をポイントとして設定する。

- 1 講義を聴く（傾聴する）態度を重視する。  
児童・生徒の学ぶ姿勢の基本は「聴くこと」である。教師は、まず「聴くこと」を児童・生徒に求めるはずである。
- 2 演習と意見発表を重視する。
- 3 小レポートには、必ず自分自身の意見と感想をまとめること。

#### 〔科目内容の位置付け〕

・教職に関する科目

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

教育活動全体を通して行う道徳教育は、教職に関する全科目に関連することは当然のことである。また、各教科等の専門科目についても、児童・生徒理解という観点から、道徳教育と深く関連する。

科目名	道徳教育の理論と方法S		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	杉田 知之		

### 〔講義目的〕

道徳教育とは何かについて、学生自身が今までに体験してきた道徳教育の諸場面を振り返りながら具体的に考えていく。また、教職を目指す立場から、学校における道徳教育がどのように行われているのか、その中心となる「道徳の時間」の指導はどのように行うとよいのかなどについて、具体例をもとに追求していく。

道徳教育が学校教育全体を通じて行われることの意義を問いながら講義を受け、具体例を通して共感的に理解して行ってほしい。とりわけ、学級担任が「道徳の時間」の指導を中心に、各教科、特別活動及び総合的な学習の時間との密接な関連を図りながら学級経営にあたっている仕組みを知ることにより、教職の魅力を再認識し、教職に対する夢やあこがれを一層高め、自分の生き方を考えることにも生かしてほしい。

### 〔講義内容〕

- 第1回 道徳教育の意義について考える  
 ・自身の小・中学校時代を振り返り、道徳教育の原風景をふまえて考える
- 第2回 学習指導要領における道徳教育の理念について学ぶ
- 第3回 学校の指導計画例を知り、学校教育全体を通じて指導する意義を理解する  
 ・全体計画例、年間指導計画例などを通して考える
- 第4回 学級経営の指導計画をシミュレーションする  
 ・学級担任になったつもりで、年間指導計画等を作成する
- 第5・6回 道徳授業の基本的な進め方を理解する  
 ・資料「かなわぬボランティア活動」、他
- 第7回 道徳の内容項目と実際の資料との関係を考える
- 第8・9回 心のノートについて学ぶ  
 ・心のノートの内容を理解し、学級担任になったつもりで、その活用法を考える
- 第10・11回 資料に即して学習指導案を作り、授業展開を考える
- 第12・13回 道徳指導の多様な展開例を知り、発達段階に応じた指導について考える

第14回 学習指導要領における道徳性の構造について学ぶ

第15回 今までの講義を振り返り、道徳教育について学んだことをまとめる

### 〔講義のすすめ方〕

学校において使用されている道徳の資料、教員が自作した指導案、道徳主任が立案した年間指導計画などの実物資料を例示しながら講話をすすめる。

また、必要に応じて、ペア学習で話し合ったり、インタビューする場面を設けて、講話内容の理解を促す。

### 〔教 材〕

教材にする資料は、印刷して配付する。講義においても指示・紹介する。

#### 参考書

『中学校学習指導要領解説 道徳編』（文部科学省）

『心のノート 中学校1・2・3年生』（文部科学省）

### 〔成績評価の方法・基準〕

小レポートや小テストを講義の中で時間を確保して行い、その成績を累積することによって総合的に評価する。

### 〔履修のポイント・注意点〕

講師の説明に基づいて資料をよく読み、要点をマーカーでチェックしたり、メモをとったり、自分の感想を書き込んだりするよう心がけてほしい。ペア学習などにより、学生同士が話し合ったり、発言したりする場面では、積極的に取り組んでほしい。

### 〔科目内容の位置付け〕

教職に関する科目

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものである。したがって、本講義の内容は、教職に関する科目全般に関連するほか、各教科等の専門科目についても、児童生徒理解に基づく教科の指導法を学ぶという点で深く関連する。

<b>科目名</b>	特別活動の研究 / 特別活動の理論と方法S		
<b>単 位</b>	2	<b>開 設</b>	半期
<b>教 員 名</b>	本間 研一		

### 〔講義目的〕

児童生徒の人間形成に特別活動の果たす役割は大きい。その基本には教師と生徒、生徒相互の暖かな人間関係や信頼関係が不可欠である。学級が生徒の心の居場所になるような経営が必要である。学級を単位に学習指導や生徒指導などの効果を上げるための諸条件を整備し、効果的に運営するのが学級経営である。特別活動の基本である望ましい集団はまず学級から始まる。望ましい集団活動を通して、自律し共生することの大切さを学び、人間としての生き方や在り方を自覚させるための特別活動の役割は大きい。学習指導要領の三つの領域、教科・科目、道徳、特別活動は、それぞれが相互に関連し、補完しあって「生きる力」の育成を目指すのである。本講義ではそれらをふまえ、教科書の無い特別活動を正しく指導できる教師の育成を目指す。

毎回10分200字のミニ論文を論・例・策で記述する。たとえ教職につかないとしても教師の職業を理解するためにも、学校の秩序維持のために「校則」があるように授業の秩序維持に協力してもらう。

### 〔履修のポイント・注意点〕

特別活動は教科書が無いので、実際教師になった時に困らないよう、毎回の出席を希望する。5回以上の欠席は、毎回の課題の提出も無いことになるので、評価の対象としない。

### 〔科目内容の位置付け〕

教職科目として必修である。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

生徒指導Ⅰ・Ⅱ、道徳教育の研究、各教科・科目の指導法など。

### 〔講義内容〕

- 1、特別活動の原理と目標
- 2、学級活動・ホームルーム活動
- 3、児童会・生徒会活動
- 4、学校行事
- 5、特別活動の指導方法・技術
- 6、特別活動の課題

### 〔講義のすすめ方〕

「なすことによって学ぶ」特別活動は、生徒も教師も一緒に活動するところに教科・科目や道徳とは異なる特徴がある。教育実習に行った時に使えるようなグループエンカウンターを紹介したり、ディベートやゲームを行い、指導法を身につける。ガイダンスの機能を充実させるための資料の提供やカウンセリング・教育相談の基礎も行う。講義・演習・グループ学習など実践に繋がるように指導する。

### 〔教 材〕

テキスト 中学校学習指導要領 解説「特別活動」編 文部科学省

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席・毎回の課題・指導案の作成・期末評価テスト を総合して行う。

科目名	教育方法論S		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	黒澤 和人		

### 〔講義目的〕

効果的な学習指導を実現するのに必要な、教育の方法および技術について考える。また、ICT(Information and Communications Technology)を活用した教育指導力の育成を目標とする。

- ・岩波講座「教育の方法」(全10巻、別巻1)
- ・佐藤学「教育方法学」岩波書店
- ・赤堀侃司(編)「教育実践と教育工学－教育改善への視座」ぎょうせい
- この他、必要に応じてその都度紹介する。

### 〔講義内容〕

取り上げる主なテーマは以下の通りである。

- 1) 教授理論の変遷
- 2) 授業と学習理論
- 3) 情報の科学的理解
- 4) ネットワークとデータベース
- 5) 情報社会への参画
- 6) 学校教育でのコンピュータの利用
- 7) カリキュラムとその設計
- 8) 学習評価の方法
- 9) 授業評価の方法
- 10) 教育データ処理
- 11) インストラクショナルデザイン
- 12) 教材の開発とその活用法

### 〔成績評価の方法・基準〕

講義回数の3分の1以上を欠席している場合、単位は認定しない。

授業内課題も、全回数の3分の1以上が未提出になっている場合は単位認定しない。レポートについては、未提出がないこと。

上記の条件をクリアしていることを前提に、授業内課題とレポートを6割、小テストを含めたテストを4割で点数化し評価する。遅刻、欠席はその分減点。

### 〔履修のポイント・注意点〕

30分以上の遅刻は欠席1回、遅刻2回で1回の欠席として扱う。

### 〔講義のすすめ方〕

講義とコンピュータ実習の2つを織り交ぜながら進めていく。

コンピュータ実習で提示される授業内課題に対しては、指定時間に遅れないよう結果を出して提出すること。宿題としてのレポートも締め切りに遅れないこと。

講義形式の授業では、必要に応じて小テストを行う。また、レポートを課すこともあるので、その時は宿題として処理し期限までに提出すること。

### 〔科目内容の位置付け〕

当科目は、教育課程および指導法に関する科目群に属し、教育の方法および技術に関する内容を取り扱っている。

コンピュータ実習では、例題を処理した後、授業内課題を提示するので実際に機器を操作して結果を出し、指定時間内に提出すること。授業内課題の他に、宿題としてのレポートを課すこともある。

### 〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

教職に関わる基礎的・基盤的科目であり、前提科目は特に指定しない。関連科目としては、教育課程論、各教科教育法の各科目。また、教育データ処理などで行うコンピュータ実習の部分については、数学や統計学、情報関連の各科目が関連科目となる。

### 〔教 材〕

授業ごとに印刷教材を配布する予定。

教科書：特に指定しない。

参考書：本授業に関連する内容を総合的に取り扱っている文献として、たとえば次がある。

科目名	教育方法論S		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	黒澤 和人		

### 〔講義目的〕

効果的な学習指導を実現するのに必要な、教育の方法および技術について考える。また、ICT(Information and Communications Technology)を活用した教育指導力の育成を目指す。

- ・岩波講座「教育の方法」(全10巻、別巻1)
  - ・佐藤学「教育方法学」岩波書店
  - ・赤堀侃司(編)「教育実践と教育工学－教育改善への視座」ぎょうせい
- この他、必要に応じてその都度紹介する。

### 〔講義内容〕

取り上げる主なテーマは以下の通りである。

- 1) 教授理論の変遷
- 2) 授業と学習理論
- 3) 情報の科学的理解
- 4) ネットワークとデータベース
- 5) 情報社会への参画
- 6) 学校教育でのコンピュータの利用
- 7) カリキュラムとその設計
- 8) 学習評価の方法
- 9) 授業評価の方法
- 10) 教育データ処理
- 11) インストラクショナルデザイン
- 12) 教材の開発とその活用法

### 〔成績評価の方法・基準〕

講義回数の3分の1以上を欠席している場合、単位は認定しない。

授業内課題も、全回数の3分の1以上が未提出になっている場合は単位認定しない。  
レポートについては、未提出がないこと。

上記の条件をクリアしていることを前提に、授業内課題とレポートを6割、小テストを含めたテストを4割で点数化し評価する。遅刻、欠席はその分減点。

### 〔履修のポイント・注意点〕

30分以上の遅刻は欠席1回、遅刻2回で1回の欠席として扱う。

### 〔講義のすすめ方〕

講義とコンピュータ実習の2つを織り交ぜながら進めていく。

講義形式の授業では、必要に応じて小テストを行う。また、レポートを課すこともあるので、その時は宿題として処理し期限までに提出すること。

コンピュータ実習では、例題を処理した後、授業内課題を提示するので実際に機器を操作して結果を出し、指定時間内に提出すること。授業内課題の他に、宿題としてのレポートを課すこともある。

### 〔教 材〕

授業ごとに印刷教材を配布する予定。

教科書：特に指定しない。

参考書：本授業に関連する内容を総合的に取り扱っている文献として、たとえば次がある。

コンピュータ実習で提示される授業内課題に対しては、指定時間に遅れないよう結果を出して提出すること。宿題としてのレポートも締め切りに遅れないこと。

### 〔科目内容の位置付け〕

当科目は、教育課程および指導法に関する科目群に属し、教育の方法および技術に関する内容を取り扱っている。

### 〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

教職に関わる基礎的・基盤的科目であり、前提科目は特に指定しない。  
関連科目としては、教育課程論、各教科教育法の各科目。  
また、教育データ処理などを行うコンピュータ実習の部分については、数学や統計学、情報関連の各科目が関連科目となる。

科目名	教育工学 / 教育方法論S		
単位	2	開設	半期
教員名	樋口 和彦		

### 〔講義目的〕

教育の各要素に対して、情報ネットワーク、情報機器をどのように役立てればよいのかを考え、その活用を前提とした「教育の方法ならびに技術」に関する基礎理論と実践技術を習得するのが本科目の主目的である。

教育の要素は大別すると2つある。ひとつは情報ネットワーク・情報機器を活用した教育の在り方・方法、マルチメディア教材活用、DTPR. 等に関する分野である。これらの分野における理論とその活用技術を学んでいく。

もうひとつは、教育パフォーマンスをどのようにして、定量把握するのか、その教育データをどのように分析するのか、そしてその分析結果をどのように評価してつぎの教育方法に反映・活用していくか、に関わる分野であり、教育データの統計的処理とその分析・活用について学んでいく。

### 〔講義内容〕

(高度情報化時代における教育の方法ならびに技術)

- ①ネットワーク・情報機器活用を前提とした教育方法のあり方、従来の教育方法との違い
- ②教育と情報機器との関わり
- ③今日の教育方法を実践していく上で要求される技術
- ④教育ツール、教材、教育情報の共有化技術とその活用
- ⑤ネットワーク上でのレポート等の活用技術(ネット上でのレポートの回覧、校閲など)
- ⑥マルチメディア教材開発技術・活用法とネットワーク上でのプレゼンテーション技術(DTPR. など)

(教育パフォーマンスの測定とその活用)

- ①教育データの把握と情報処理
- ②教育データの基本統計量の処理
- ③教育データ間の関連性
- ④教育データ間の因果性

### 〔講義のすすめ方〕

- (1) 情報化社会の特徴、教育への影響などの現実を先ず認識する。

(2) つぎにコンピュータを教育のいろいろな場面にいかに活用していくかについての基本的知識(理論)と技術を学ぶ。

(3) 実際にコンピュータを活用し、結果をだす。

(4) その結果の内容・考え方を確認しながらすすめていく。

### 〔教材〕

教科書、指定図書、参考書に関しては、後に指示する。

### 〔成績評価の方法・基準〕

毎回の授業への取り組み姿勢を第一に重要視する。

ほぼ毎回授業時間内レポートを提出すること。

レポートは、原則として各テーマ(各項目)に対して提出する。

レポートは、半年に10回程度を予定。

これらに定期試験の結果を加えて総合的に判断する。未提出のレポートがひとつでも有る場合には単位は認定しない。単位認定時のウエイトは以下の様である。

毎回の授業への取り組み姿勢+レポート：60%  
定期試験：40%

### 〔履修のポイント・注意点〕

具体的数値例を多く用いて、授業を進めていくので、各自計算用具を準備し、必ず計算をして、確認しながらまとめていくこと。

将来教職に就くことを希望している諸君に必要な科目であることは当然だが、教育データのコンピュータによる処理と分析を主要テーマとしているので、「情報処理」関連の科目内容に最も関連が深い。

### 〔科目内容の位置付け〕

教員資格の取得を目指している学生にとっての必修科目であり、また今日の教育現場において、教員に対してその理解と実際の能力が益々

大きく要求されている事に深い関連がある内容を取り上げる科目である。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

特に関連が深い理論分野として、経営数学、統計学、数理統計学等があげられる。

またコンピュータの活用（プログラムを開発して、教育データを具体的に処理してみる、あるいは電子教材の開発など）も取り上げるので、その関連科目とも密接な関連がある。アプリケーションとして、スプレッドシート、プレゼンテーションソフト、画像・動画処理ソフト、開発言語系ソフトなどを活用する。

科目名	教育相談S / 生徒指導Ⅱ		
	キャリア開発の視点から教育相談を問い直す		
単位	2	開設	半期
教員名	榎本 和生		

### 【講義目的】

生徒指導Ⅰにおける理論的な学習の上に、教師が教育相談を行うにあたって必要とされる基礎的な知識を身につけることを目的とするとともに、カウンセリングの模擬的演習を行い、学校教育相談を行う実践的な指導力を養う。

### 【講義内容】

- 第1回 学校教育相談とは何か
- 第2回 開発的・予防的な教育相談
- 第3回 学校教育相談の組織・運営
- 第4回 発達課題の理解
- 第5回 個別・グループ面接のすすめ方
- 第6回 親へのかかわり方
- 第7回 相談係、学級担任が行う教育相談
- 第8回 教科担任等を行う教育相談
- 第9回 「いじめ・暴力行為」の理解と対応
- 第10回 「不登校」の理解と対応
- 第11回 「LD, ADHD」の理解と対応
- 第12回 人間関係づくりの方法
- 第13回 学校教育相談の問題と課題
- 第14回 まとめ

### 【講義のすすめ方】

講義の都度に配布する資料等を基にして発表・討議で授業を進めます。したがって受講生からの質問等による対話を重視するとともに、学校教育の場で実際に行われる教育相談を想定した演習も多く実施する。積極的な発言や参加を期待したい。

### 【教 材】

教育相談 S/ 生徒指導Ⅱ用の教科書は使用しない

参考書：「生徒指導・教育相談・進路指導」  
 仙崎武ほか編  
 田研出版2400円＋税〔生徒指導論（進路指導）/ 生徒指導Ⅰの教科書と併用〕

### 【成績評価の方法・基準】

平常点（受講態度 発言演習への参加）40%  
 期末試験60%を総合的に勘案して評価

### 【履修のポイント・注意点】

テキストや配布した資料を前もって熟読してお

くこと。毎回配布する資料等を保存するための専用クリアホルダー（A4、30ポケットで可）の準備を願いたい。

### 【科目内容の位置付け】

本講義では、治癒的な心理療法に基づくカウンセリングの技法習得ではなく、学校教育の専門家としての教師に求められる教育相談についての基礎・基本の習得を目指すものである。したがって講義の性格上、教育心理学を既習、または履修中であることが望ましい。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

生徒指導論（進路指導）/ 生徒指導Ⅰの実践・発展としてのⅡであるため、連続して履修することが効果的である。

科目名	コミュニケーションⅠA		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	Jeffrey Miller ・ Howard Alexander		

**〔講義目的〕**

[Course Objectives]

Communication I A, and the following course Communication II A (which will use the latter half of the same textbook), are designed to help students develop and use effective communication strategies through mastering theme-specific sentence patterns and vocabulary. Through pair-work and individual guided practice, the students will activate the passive English in their brains and connect the patterns and phrases to authentic communication situations.

Emphasis will be on enjoyably mastering strategies, grammatical patterns, and vocabulary expressions that can be actively used (not merely understood), thereby developing student communicative confidence. This kind of confidence is needed to teach English (or go into the business world and use English as a tool).

**〔講義内容〕**

[Course Contents]

Each of the first seven or eight lessons will focus on a specific theme (e.g. "friends" or "free time") for which students will develop situation-based communication strategies, sentence patterns, and vocabulary. These strategies, patterns, and vocabulary expressions will be personalized by the students in pairs and individually to communicate their ideas about the theme from different points of view. Much practice will center on reinforcing active use of sentence patterns and vocabulary expressions through collocation sets and recycling.

In addition to the textbook, learners will

be expected to visit the English Lounge and Hakuoh library Self-Access Learning Center to practice what they have studied. Also, especially students most serious about mastering communicative English (e.g. those who plan to be teachers of English) are strongly encouraged to purchase and use the audio tapes or CDs that accompany Communication Strategies (see Course Materials below).

**〔講義のすすめ方〕**

[Course Progress]

Communication I A, and the following course Communication II A, are learner-centered courses with active student speaking expected. The class atmosphere will be "fun and active" with students communicating their ideas on a variety of topics in rapid, understandable English.

Textbook-based lessons will follow six steps: first theme sentence patterns and vocabulary will be introduced, explained, and practiced (using competitive pair-work games). Second, students will listen to and later read the different points of view presented. Third, students will personalize the theme by presenting and discussing their ideas. Fourth, in pairs students will engage in activities (e.g. role play) to reinforce the theme patterns and vocabulary. In the fifth part, learners will use collocation sets and speeches, and in the sixth part there will be a consolidation and recycling game with some writing practice.

**〔教 材〕**

[Course Materials]

The main textbook (for both Communication I A and Communication

II A) is "Communication Strategies" by David Paul, Thomson Learning (ISBN-13 978-981-243-016-8) and must be purchased by the students. It will be supplemented with additional teacher-selected material.

Students, especially those who plan to become English teachers, are also strongly encouraged to buy and listen to the audio tapes (981-243-018-2) or audio CDs (981-243-019-9) available from Thomson Learning <elt@tlj.co.jp>. It is most effective if the audio CDs or tapes are listened to three or four times a week for short periods of time (20 minutes).

**〔成績評価の方法・基準〕**

[Course Grading]

Weekly classwork, including presentations, pair-work, and homework will make up 50 percent of the final grade. Attendance will be 30 percent, and a final exam will be 20 percent of the final grade.

**〔履修のポイント・注意点〕**

[Successful Study Points]

As Communication I A (and Communication I B) are participatory courses, regular attendance and active involvement in the learning activities are essential. Students should realize that English communication is a skill, so that only through practice will the learner improve and develop the necessary confidence in his or her English.

Similarly, too much worry about making mistakes (usually in grammar construction) or finding the exact English translation of a Japanese term makes the user's English hesitant and unnatural. One effective measure of communicative fluency is the total number (or flow) of words used. Therefore, overall understandability is much more important than individual word or phrase accuracy.

To develop this type of fluency, regular

outside-of-class practice at the English Lounge and Hakuoh library Self-Access Learning Center is essential and will be part of the course.

**〔科目内容の位置付け〕**

[Related Subsequent Courses]

Communication II B as well as Reading and Vocabulary I, II and III.

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

[Prerequisites]

English Study Skills and Oral Presentation

科目名	コミュニケーションⅠB		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	Lorraine Reinbold ・ Howard Alexander		

**〔講義目的〕**

[Course Objectives]

Communication I B, and the following course Communication II B (which will use the latter half of the same textbook), are designed to help students develop and use effective communication strategies through mastering theme-specific sentence patterns and vocabulary. Through pair-work and individual guided practice, the students will activate the passive English in their brains and connect the patterns and phrases to authentic communication situations.

Emphasis will be on enjoyably mastering strategies, grammatical patterns, and vocabulary expressions that can be actively used (not merely understood), thereby developing student communicative confidence. This kind of confidence is needed to teach English (or go into the business world and use English as a tool).

**〔講義内容〕**

[Course Contents]

Each of the first seven or eight lessons will focus on a specific theme (e.g. "friends" or "free time") for which students will develop situation-based communication strategies, sentence patterns, and vocabulary. These strategies, patterns, and vocabulary expressions will be personalized by the students in pairs and individually to communicate their ideas about the theme from different points of view. Much practice will center on reinforcing active use of sentence patterns and vocabulary expressions through collocation sets and recycling.

In addition to the textbook, learners will

be expected to visit the English Lounge and Hakuoh library Self-Access Learning Center to practice what they have studied. Also, especially students most serious about mastering communicative English (e.g. those who plan to be teachers of English) are strongly encouraged to purchase and use the audio tapes or CDs that accompany Communication Strategies (see Course Materials below).

**〔講義のすすめ方〕**

[Course Progress]

Communication I B, and the following course Communication II B, are learner-centered courses with active student speaking expected. The class atmosphere will be "fun and active" with students communicating their ideas on a variety of topics in rapid, understandable English.

Textbook-based lessons will follow six steps: first theme sentence patterns and vocabulary will be introduced, explained, and practiced (using competitive pair-work games). Second, students will listen to and later read the different points of view presented. Third, students will personalize the theme by presenting and discussing their ideas. Fourth, in pairs students will engage in activities (e.g. role play) to reinforce the theme patterns and vocabulary. In the fifth part, learners will use collocation sets and speeches, and in the sixth part there will be a consolidation and recycling game with some writing practice.

**〔教 材〕**

[Course Materials]

The main textbook (for both Communication I B and Communication

II B) is "Communication Strategies" by David Paul, Thomson Learning (ISBN-13 978-981-243-016-8) and must be purchased by the students. It will be supplemented with additional teacher-selected material.

Students, especially those who plan to become English teachers, are also strongly encouraged to buy and listen to the audio tapes (981-243-018-2) or audio CDs (981-243-019-9) available from Thomson Learning <elt@tlj.co.jp>. It is most effective if the audio CDs or tapes are listened to three or four times a week for short periods of time (20 minutes).

**〔成績評価の方法・基準〕**

[Course Grading]

Weekly classwork, including presentations, pair-work, and homework will make up 50 percent of the final grade. Attendance will be 30 percent, and a final exam will be 20 percent of the final grade.

**〔履修のポイント・注意点〕**

[Successful Study Points]

As Communication I B (and Communication I A) are participatory courses, regular attendance and active involvement in the learning activities are essential. Students should realize that English communication is a skill, so that only through practice will the learner improve and develop the necessary confidence in his or her English.

Similarly, too much worry about making mistakes (usually in grammar construction) or finding the exact English translation of a Japanese term makes the user's English hesitant and unnatural. One effective measure of communicative fluency is the total number (or flow) of words used. Therefore, overall understandability is much more important than individual word or phrase accuracy.

To develop this type of fluency, regular

outside-of-class practice at the English Lounge and Hakuoh library Self-Access Learning Center is essential and will be part of the course.

**〔科目内容の位置付け〕**

[Related Subsequent Courses]

Communication II A as well as Reading and Vocabulary I, II and III.

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

[Prerequisites]

English Study Skills and Oral Presentation

科目名	リーディング&ボキャブラリー I		
	Reading and Vocabulary Building Level I		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	Lorraine Reinbold · Harry Harris		

**〔講義目的〕**

Reading is the most vital skill for independent learning. People read for general comprehension, and to search, learn, and evaluate information.

This course is the first in a series of English Reading courses designed to help students learn to become fluent readers by focusing on strategic learning. Students will work with various texts doing different activities before, during, and after their reading to develop basic reading comprehension skills. To support English language acquisition, they will increase their vocabulary, learn to recognize the complex nature of reading, and gain improved reading skills through extensive and intensive reading.

**〔講義内容〕**

In Reading and Vocabulary Building Level I, students will review or be introduced to and practice the following:

- Preview and predict what will come later in a text
- Scan for information
- Skim through a passage
- Make inferences
- Find topics and understand main ideas
- Paraphrase
- Summarize
- Answer comprehension and discussion questions
- Formulate questions based on a text
- Increase reading speed
- Build vocabulary

Students who successfully complete the requirements of this course will be able to approach independent learning by using a combination of extensive reading and self-study strategies.

They should be better able to read for knowledge, general comprehension, and pleasure.

**〔教 材〕**

More Reading Power: Second Edition  
Beatrice S. Mikulecky and Linda Jeffries  
Longman

**〔成績評価の方法・基準〕**

Grades will be determined based on the following criteria:

Attendance/Attitude/Class participation: 50%

According to university policy, students who miss more than 1/3 of class sessions will not pass the course. Being late three times will count as one absence.

Assignments/Quizzes/SALC: 25%

Final Exam: 25%

Please note:

If a student plagiarizes, copies papers or passages written by other people, s/he will fail this course.

No late homework will be accepted unless there is a valid reason. If you are absent, ask your friend or the instructor the assignment is due.

**〔履修のポイント・注意点〕**

Students will be required to read and listen to 3 to 5 Graded Readers with CDs in the Self-Access Learning Center in the library, and start a Vocabulary Notebook.

**〔科目内容の位置付け〕**

This is a required course for students who wish to take Reading and Vocabulary Building Level 2 and 3.

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕  
English Study Skills

科目名	リーディング&ボキャブラリーⅡ		
	Reading and Vocabulary Building Level 2		
単位	2	開設	半期
教員名	Lorraine Reinbold · Harry Harris		

**〔講義目的〕**

Reading & Vocabulary Building Level 2 is the second in a series of English Reading courses designed to help students learn to become fluent readers by focusing on strategic learning. Students will continue to read various texts by means of pre-reading, during-reading, and post-reading instruction to improve reading comprehension while studying different styles of written English such as formal and informal, and spoken and academic language. To support English language acquisition, they will continue to review and increase their vocabulary, increase reading fluency, learn to critique the contents of a reading and improve reading skills through extensive and intensive reading.

Students who successfully complete the requirements of this course will continue to approach independent learning by using a combination of extensive reading and self-study strategies. They should be better able to read rapidly for comprehension, draw from their vocabulary knowledge, think critically, evaluate information, and show that reading is a way to reinforce their language skills.

**〔講義内容〕**

In Reading and Vocabulary Building II, students will develop an awareness to the reading process, review strategies that were learned in Reading and Vocabulary Building I, and practice the following:

- Monitor comprehension
- Recognize and address misconception
- Read critically
- Evaluate information

Generate appropriate questions about the text

Link reading to other skills (writing, speaking, listening)

**〔教材〕**

2007: Classes 1 and 2  
Interactions 1, READING (Chapters 5 to 10)  
Elaine Kim and Pamela Hartmann  
McGraw-Hill

2008:  
More Reading Power: Second Edition  
Beatrice S. Mikulecky and Linda Jeffries  
Longman

**〔成績評価の方法・基準〕**

Grades will be determined based on the following criteria:

Attendance/Attitude/Class participation: 50%

According to university policy, students who miss more than 1/3 of class sessions will not pass the course. Being late three times will count as one absence.

Assignments/Quizzes/SALC: 25%

Final Exam: 25%

Please note:

If a student plagiarizes, copies papers or passages written by other people, s/ he will fail this course.

No late homework will be accepted unless there is a valid reason. If you are absent, ask your friend or the instructor the assignment is due.

**〔履修のポイント・注意点〕**

Students will be required to read and listen to 3 to 5 Graded Readers with

CDs in the Self-Access Learning Center in the library, and continue to add new words and word families to the Vocabulary Notebook that they started in Reading and Vocabulary Building I.

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

English Study Skills and Reading & Vocabulary Building Level 1, or its equivalent, are prerequisites for this course.

科目名	ライティング初級		
単位	2	開設	半期
教員名	Jeffrey Miller · Harry Harris		

**〔講義目的〕**

Basic Writing is the first in a series of four courses designed to help students develop English writing skills for use in academic and other environments. Students who successfully complete Basic Writing should be able to do the following:

ライティング初級は、学術及びその他の分野での英語のライティングスキルを伸ばすために、構成された4コースの最初のコースである。履修学生は以下の事を必要とされる。

Meet deadlines.  
作文提出の締切日厳守。

Use basic writing conventions with increasing accuracy and consistency.  
正確且つ妥当な英語表現を増やしつつ、基礎的なライティングを学ぶこと。

Use various writing strategies, alone and in cooperation with others, to help formulate ideas, organize writing, and improve it.  
考えを明確に表現し、ライティングで整理し、その力を伸ばすために、個人または他の学生と協力しあって様々なライティング技術を使うこと。

Produce coherent paragraphs and short essays with some details and examples appropriate to the assignment, with increasingly complex language.  
課題に合った、細かい情報や例などをあげ、複合語を増やしながら、理路整然とした文節や短いエッセイの作成。

Write on topics related to their daily lives.  
履修学生の日常生活に関連した課題のライティング。

**〔講義内容〕**

Students will be asked to write multiple drafts based on models of six rhetorical patterns that will be introduced during the semester. They will also be asked to keep journals, write e-mail, and do other assignments. In class, students will participate by doing individual and group work. The instructor will provide both written and conference-style feedback.

学期の間に学ぶ6つの修辞形のモデルに基づいて、履修学生は多数の原稿を提出しなければならない。日記をつけたり、Eメールを書いたり、その他の課題も求められる。個人作業とグループ作業の両方をしながら、クラス参加をする。講師は文書や会議のようなスタイルで指導意見を伝え、講義を進行する。

**〔講義のすすめ方〕**

CLASS 1: Introduce course; set up journal partners; title exercise  
HOMEWORK: JOURNALS

CLASS 2: Introduce précis; brainstorming  
HOMEWORK: DRAFT 1 PRÉCIS; JOURNALS

CLASS 3: Peer evaluation; connector handout; FANBOYS; punctuation handout 1  
HOMEWORK: DRAFT 2 PRÉCIS; JOURNALS

CLASS 4: Introduce spatial description; Introduction/Conclusion handout; brainstorming; conferencing  
HOMEWORK: DRAFT 1 SPATIAL DESCRIPTION; REWRITES; JOURNALS

CLASS 5: Peer evaluation; punctuation Group B connectors; Punctuation handout 2  
HOMEWORK: DRAFT 2 SPATIAL

DESCRIPTION; REWRITES; JOURNALS

CLASS 6: Introduce personal description; brainstorming; conferencing

HOMEWORK: DRAFT 1 PERSONAL DESCRIPTION; REWRITES; JOURNALS

CLASS 7: Peer evaluation; Group C connectors; punctuation handout 3

HOMEWORK: DRAFT 2 PERSONAL DESCRIPTION; REWRITES; JOURNALS

CLASS 8: Introduce chronological; brainstorming; conferencing

HOMEWORK: DRAFT 1 CHRONOLOGICAL; REWRITES; JOURNALS

CLASS 9: Peer evaluation; punctuation handout 4

HOMEWORK: DRAFT 2 CHRONOLOGICAL; REWRITES; JOURNALS

CLASS 10: Introduce process; brainstorming; conferencing

HOMEWORK: DRAFT 1 PROCESS; REWRITES; JOURNALS

CLASS 11: Peer evaluation; punctuation handout 5

HOMEWORK: DRAFT 2 PROCESS; REWRITES; JOURNALS

CLASS 12: Introduce prediction; brainstorming; conferencing

HOMEWORK: DRAFT 1 PREDICTION; REWRITES; JOURNALS

CLASS 13: Peer evaluation; punctuation handout 6; Catch-up work

HOMEWORK: DRAFT 2 PREDICTION; REWRITES; JOURNALS

CLASS 14: Conferencing; Catch-up work

HOMEWORK: CATCH UP ON WRITING ASSIGNMENTS

### 【教材】

Materials for the course will be teacher-generated.

教材は講師作成のもの

### 【成績評価の方法・基準】

Grades will be determined based on the following criteria:

A. Active Participation: 20%  
(peer review, etc.)

B. Punctual Assignments: 60%  
(42% for writing assignments; 18% for journal entries)

C. Regular Attendance: 20%

Students who miss more than one third of the class will fail the course. Being late three times will count as an absence. Late means arriving in class after your name has been called. If you are more than 20 minutes late or leave early, you are absent.

下記の基準に基づいて、成績評価を行う。

・出席率 20%

・クラス活動参加 20%

・宿題提出の期限厳守 及び最終試験 60%

本大学の方針により、1/3の講義に欠席した者はこの講義を落第することとなる。更に、履修学生の学習機会を増すために、常時出席を薦める。

ABSENCES	MAXIMUM GRADE
1	95
2	90
3	85
4	80
5 OR MORE	AUTOMATIC FAILURE

科目名	ライティング中級		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	Jeffrey Miller ・ Harry Harris		

**〔講義目的〕**

Intermediate Writing is the second in a series of four courses designed to help students develop English writing skills for use in academic and other environments. Students who successfully complete Intermediate Writing should be able to do the following:

ライティング中級は、学術及びその他の分野での英語のライティングスキルを伸ばすために、構成された4コースの第2のコースである。ライティング初級を履修していることが、この講座の必須条件である。講座履修の為に講師の特別許可が必要となる場合もある。本講座の目的は下記の通りである。

Meet objectives for Basic Writing.  
ライティング初級の目的を達成していること。

Demonstrate a growing awareness of reader needs, evaluate their own writing success, and identify and correct some writing problems.

読み手のニーズの深い認識を実際に説明し、自分自身のライティングの正確な評価、及びライティングの間違をある程度見つけ、訂正すること。

Use cohesive devices with increasing accuracy.  
より正確な結合法を使うこと。

Paraphrase and summarize with increasing accuracy.  
正確な要約や表現の言い換え。

Show some awareness of the appropriateness of formal and informal language to a written context.  
文章の内容について、フォーマル、インフォーマルな適切な英語を認識すること。

Write on topics not necessarily related

to their daily lives.  
日常生活に関連しない課題についての作文。

**〔講義内容〕**

Students will be asked to write multiple drafts based on models of six rhetorical patterns that will be introduced during the semester. They will also be asked to keep journals, write e-mail, and do other assignments. In class, students will participate by doing individual and group work. The instructor will provide both written and conference-style feedback.

学期の間に学ぶ6つの修辞形のモデルに基づいて、履修学生は多数の原稿を提出しなければならない。日記をつけたり、Eメールを書いたり、その他の課題も求められる。個人作業とグループ作業の両方をしながら、クラス参加をする。講師は文書や会議のようなスタイルで指導意見を伝え、講義を進行する。

**〔講義のすすめ方〕**

CLASS 1: Course introduction;  
journal partner set up  
HOMEWORK: JOURNALS

CLASS 2: Enumeration /  
Classification introduction  
HOMEWORK: DRAFT 1 ENUMERATION/  
CLASSIFICATION; JOURNALS

CLASS 3: Peer evaluation  
HOMEWORK: DRAFT 2 ENUMERATION/  
CLASSIFICATION; JOURNALS

CLASS 4: Cause and Effect  
introduction; brainstorming;  
conferencing  
HOMEWORK: DRAFT 1 CAUSE/  
EFFECT; REWRITES; JOURNALS

CLASS 5: Peer evaluation  
HOMEWORK: DRAFT 2 CAUSE/  
EFFECT; REWRITES; JOURNALS

CLASS 6: Comparison introduction; brainstorming; conferencing  
HOMEWORK: DRAFT 1 COMPARISON; REWRITES; JOURNALS

CLASS 7: Peer evaluation  
HOMEWORK: DRAFT 2 COMPARISON; REWRITES; JOURNALS

CLASS 8: Definition by Example introduction; brainstorming; conferencing  
HOMEWORK: DRAFT 1 DEFINITION BY EXAMPLE; REWRITES; JOURNALS

CLASS 9: Peer evaluation  
HOMEWORK: DRAFT 2 DEFINITION BY EXAMPLE; REWRITES; JOURNALS

CLASS 10: Reporting introduction; brainstorming; conferencing  
HOMEWORK: DRAFT 1 REPORTING; REWRITES; JOURNALS

CLASS 11: Peer evaluation  
HOMEWORK: DRAFT 2 REPORTING; REWRITES; JOURNALS

CLASS 12: Résumé and cover letter introduction; brainstorming; conferencing  
HOMEWORK: DRAFT 1 RÉSUMÉ AND COVER LETTER; REWRITES; JOURNALS

CLASS 13: Peer evaluation; Catch-up work  
HOMEWORK: DRAFT 2 RÉSUMÉ AND COVER LETTER; REWRITES; JOURNALS

CLASS 14: Conferencing; Catch-up work  
HOMEWORK: CATCH UP ON WRITING ASSIGNMENTS

#### 〔教 材〕

Materials for the course will be teacher-generated.

教材は講師作成のもの

#### 〔成績評価の方法・基準〕

Grades will be determined based on the following criteria:

- A. Active Participation: 20%  
(peer review, etc.)
- B. Punctual Assignments: 60%  
(42% for writing assignments; 18% for journal entries)
- C. Regular Attendance: 20%

Students who miss more than one third of the class will fail the course. Being late three times will count as an absence. Late means arriving in class after your name has been called. If you are more than 20 minutes late or leave early, you are absent.

下記の基準に基づいて、成績評価を行う。

- ・出席率 20%
- ・クラス活動参加 20%
- ・宿題提出の期限厳守 及び最終試験 60%

本大学の方針により、1/3の講義に欠席した者はこの講義を落第することとなる。更に、履修学生の学習機会を増すために、常時出席を薦める。

ABSENCES	MAXIMUM GRADE
1	95
2	90
3	85
4	80
5 OR MORE	AUTOMATIC FAILURE

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

Basic Writing is a prerequisite for this course. The course may also be taken upon special permission from the instructor.

ライティング初級を履修していることが、この講座の必須条件である。講座履修の為に講師の特別許可が必要となる場合もある。

科目名	ライティング上級		
単位	2	開設	半期
教員名	Lorraine Reinbold · Harry Harris		

**【講義目的】**

Advanced Writing is the third in a series of four courses designed to help students develop English writing skills for use in academic and other environments. Students who successfully complete Advanced Writing should be able to do the following:

ライティング上級は、学術及びその他の分野での英語のライティングスキルを伸ばすために、構成された4コースの第3のコースである。ライティング初級と中級を履修していることが、この講座の必須条件である。講座履修の為に講師の特別許可が必要となる場合もある。本講座の目的は下記の通りである。

meet the Intermediate Writing objectives.ライティング中級の目的を達成している。

use a greater variety of cohesive devices with increasing accuracy.より正確且つヴァリエティに富んだ結合法を使う。

write on a greater variety of topics not related to their daily lives.日常生活から離れた種々な課題について作文を書く。

gauge the need for simple or complex structures in a writing context.作文の分脈や内容により、簡単又は複雑な文章構成の必要性を判断する。

use similes, metaphors, and basic analogies.直喩、比喩、基本的類似を使う。

use more elaborate supporting details and examples appropriate to the needs of the assignment.宿題の課題の必要性に適した、より精巧な説明詳細や例を使う。

use formal or informal language and styles in their writing with some appropriateness and recognize it in that of others.

適確な作文でフォーマル、インフォーマルな英語の単語と文章表現を使い、他者の文書でその使い分けを認識する。

**【講義内容】**

Students will be asked to write multiple drafts based on models of six rhetorical patterns that will be introduced during the semester. They will also be asked to keep journals, write e-mail, and do other assignments. In class, students will participate by doing individual and group work. The instructor will provide both written and conference-style feedback.

学期の間に学ぶ6つの修辞形のモデルに基づいて、履修学生は多数の原稿を提出しなければならない。日記をつけたり、Eメールを書いたり、その他の課題も求められる。個人作業とグループ作業の両方をしながら、クラス参加をする。講師は文書や会議のようなスタイルで指導意見を伝え、講義を進行する。

**【講義のすすめ方】**

CLASS 1: Course introduction; journal partner set up  
HOMEWORK: JOURNALS

CLASS 2: Persuasion/Argumentation introduction  
HOMEWORK: DRAFT 1 PERSUASION/ ARGUMENTATION; JOURNALS

CLASS 3: Peer evaluation  
HOMEWORK: DRAFT 2 PERSUASION/ ARGUMENTATION; JOURNALS

CLASS 4: Speculation introduction; brainstorming; conferencing  
HOMEWORK: DRAFT 1 SPECULATION; REWRITES; JOURNALS

CLASS 5: Peer evaluation  
HOMEWORK: DRAFT 2 SPECULATION;  
REWRITES; JOURNALS

CLASS 6: Analogy introduction;  
brainstorming; conferencing  
HOMEWORK: DRAFT 1 ANALOGY;  
REWRITES; JOURNALS

CLASS 7: Peer evaluation  
HOMEWORK: DRAFT 2 ANALOGY;  
REWRITES; JOURNALS

CLASS 8: Analysis introduction;  
brainstorming; conferencing  
HOMEWORK: DRAFT 1 ANALYSIS;  
REWRITES; JOURNALS

CLASS 9: Peer evaluation  
HOMEWORK: DRAFT 2 ANALYSIS;  
REWRITES; JOURNALS

CLASS 10: Critical Review introduction;  
brainstorming; conferencing  
HOMEWORK: DRAFT 1 CRITICAL  
REVIEW; REWRITES; JOURNALS

CLASS 11: Peer evaluation  
HOMEWORK: DRAFT 2 CRITICAL  
REVIEW; REWRITES; JOURNALS

CLASS 12: Business letter introduction;  
brainstorming; conferencing  
HOMEWORK: DRAFT 1 BUSINESS  
LETTER; REWRITES; JOURNALS

CLASS 13: Peer evaluation; Catch-up  
work  
HOMEWORK: DRAFT 2 BUSINESS  
LETTER; REWRITES; JOURNALS

CLASS 14: Conferencing; Catch-up  
work  
HOMEWORK: CATCH UP ON WRITING  
ASSIGNMENTS

#### 【教 材】

Materials for the course will be teacher-generated.

教材は講師作成のもの

#### 【成績評価の方法・基準】

Grades will be determined based on the following criteria:

- A. Active Participation: 20%  
(peer review, etc.)
- B. Punctual Assignments: 60%  
(42% for writing assignments; 18% for journal entries)
- C. Regular Attendance: 20%

Students who miss more than one third of the class will fail the course. Being late three times will count as an absence. Late means arriving in class after your name has been called. If you are more than 20 minutes late or leave early, you are absent.

下記の基準に基づいて、成績評価を行う。

- ・出席率 20%
- ・クラス活動参加 20%
- ・宿題提出の期限厳守 及び最終試験 60%

本大学の方針により、1/3の講義に欠席した者はこの講義を落第することとなる。更に、履修学生の学習機会を増すために、常時出席を薦める。

ABSENCES	MAXIMUM GRADE
1	95
2	90
3	85
4	80
5 OR MORE	AUTOMATIC FAILURE

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

Basic and Intermediate Writing are prerequisites for this course. The course may also be taken upon special permission from the instructor.

ライティング初級と中級を履修していることが、この講座の必須条件である。講座履修の為に講師の特別許可が必要となる場合もある。

科目名	英文法Ⅰ		
単位	2	開設	半期
教員名	向井 千代子		

#### 〔講義目的〕

中学校から高等学校初期程度の基礎英文法の知識の再修得を目的とする。英検準二級程度の英語基礎力を身につけるためになるべく多くの練習問題に取り組む。

#### 〔講義内容〕

主に扱う文法事項は、品詞、文の構造と種類、時制、受動態、動名詞、不定詞、接続詞など。特に動詞の用法に中心を置く。文法項目についての教員による説明の後、練習問題を解くのみならず、作文の練習などを通じて、実際に役に立つ基礎文法力を身に付ける。

#### 〔講義のすすめ方〕

まず最初に各文法事項の説明に続いて練習問題を解いていくという形で行なう。教科書の練習問題が少ないので、適宜補足する。また小テストを数多く行なうことにより、文法の基礎力の向上を図りたい。

#### 〔教材〕

First Time Grammar（トムソンコーポレーション）

#### 〔成績評価の方法・基準〕

小テストを含むテストの点数 50%  
 平常点（授業中の態度や宿題の提出頻度）  
 30%  
 出席点 20%  
 以上を基準としての総合評価。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

英文法は英語を読み、聞き、話し、書く上での要となる科目である。授業内で学ぶことだけで満足せず、自主的に参考書を手に入れて勉強し、力をつけて欲しい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

英文法の基礎。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

英文法Ⅱ、英文法Ⅲ。

科目名	英文法Ⅱ		
単位	2	開設	半期
教員名	小林 正人		

〔講義目的〕

「英文法Ⅱ」では、「英文法Ⅰ」で確認した英文法の基礎の上に、より細かな文法事象に焦点を当て、その文法事象の背後にある文法のしくみを考える。

〔講義内容〕

本講義では、省略、分裂文、形容詞と副詞の叙述、従属節のモダリティ、冠詞、数、といった文法現象を毎回一つ取り上げ、それに関する問題を解くとともに、「なぜそのようなことが起こるのか」という言語学の立場と、「それを生徒にどう説明するか」という教育の視点から、共に考察する。

〔講義のすすめ方〕

毎回設定したトピックについての文法問題を課し、その発表とディスカッションの後、講義を行う。

〔教材〕

初回授業で指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

出席・宿題 50%、学期末試験 50%

〔科目内容の位置付け〕

英文法の中級科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

「英文法Ⅰ」を履修していることが前提である。「英語学概論」の内容と一部関連している。

科目名	英文法Ⅲ		
単位	2	開設	半期
教員名	新川 清治		

**〔講義目的〕**

基本的な文法事項から微妙な語法の違いまで自分で調べられるようにし、それを効果的に説明できるように訓練する。

**〔講義内容〕**

生徒の質問に答えるという設定で、指定された質問を各自調べ、解説する。

**〔講義のすすめ方〕**

事前に指定した質問を各自調べ、それを授業で解説し、他の学生からの質問を受ける。

**〔教材〕**

使用しない。参考図書に関しては授業時に紹介する。

**〔成績評価の方法・基準〕**

模擬授業 40%

定期試験 60%

**〔履修のポイント・注意点〕**

時間の制約があるので、授業内で身につけられる知識には限界がある。このクラスでは文法事項を教えることよりも文法の調べ方や考え方の指導に焦点を当てる。

**〔科目内容の位置付け〕**

受講者の準備次第で初級にも上級にもなり得る。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

英文法Ⅰ，Ⅱ

科目名	英語学概論		
単位	2	開設	半期
教員名	小林 正人		

〔講義目的〕

英語の綴りや語順など文法事項の背後にある原理を研究するのが英語学である。この授業では、英語学の基本的な考え方を身につけ、言語についての科学的な言説と非科学的な言説を区別できるようにする。英語を教える立場で、「浴びるほど英語を聞けば発音がよくなる」とか「日本語は論理的な言語ではない」といった言説に対して、言語学的な答えができるようにし、語学教育者としての基本的教養を作ることを目指す。

〔講義内容〕

言語学の知見に基づいて、語の内部構造、語順の原理、意味論と談話分析、英語の史の変遷を順に取り上げていく。

講義の予定：

第1,2回 形態論

第3,4,5回 統語論 生成文法

第6,7回 統語論 機能主義

第8,9回 意味論

第10,11回 談話分析

第12,13,14回 英語史

〔講義のすすめ方〕

毎回教科書の指定箇所を読み練習問題を解いたことを前提として受講者は授業に臨む。授業においては受講者による練習問題の解答の発表と、それに関連した解説を行う。

〔教材〕

西光義弘編『日英語対照による英語学概論』くろしお出版。本書は「音声学」においても参考書として使える。

〔成績評価の方法・基準〕

出席・発表 50%、学期末試験 50%。

〔履修のポイント・注意点〕

受講者は教科書の指定箇所を読み、練習問題を解いた上で授業に臨むことが求められる。初回授業では p.48-62 が指定箇所である。

〔科目内容の位置付け〕

英語学の入門科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

なし。英語学のうち音声、音韻と社会言語学に関しては、「音声学」で取り扱う。

科目名	音声学演習		
	English Pronunciation		
単位	2	開設	半期
教員名	Lorraine Reinbold		

**〔講義目的〕**

The purpose of this course is to provide students with a basic knowledge of the sound system of English. Students will learn how to listen to and pronounce the sounds of English more accurately, and practice words and short sentences with particular reference to pronunciation problems that Japanese people may have. They will also learn to speak more efficiently by using the right rhythm. Students who successfully complete English Pronunciation should be able to communicate more easily and clearly in English.

absence.

- Active Participation 20%
- Assignments, Quizzes, and Final Exam 50%

No late homework will be accepted. If you are sick, call your friend or ask the instructor before the assignment is due.

**〔講義内容〕**

Students will cover the following areas in class:

- Syllables
- Vowels and Vowel Rules
- Consonants
- Continuants and stops
- Word Stress
- Emphasizing content words
- De-emphasizing structure words
- Linking words
- Thought Groups
- Rhythm, Pitch, and Melody

**〔教材〕**

Clear Speech: Third Edition  
 Judy B. Gilbert  
 Cambridge University Press  
 2005

**〔成績評価の方法・基準〕**

Grades will be determined based on the following criteria:

- Regular Attendance 30%

According to university policy, students who miss more than 1/3 of class sessions will not pass the course. Being late three times will count as one

科目名	音声学		
単位	2	開設	半期
教員名	小林 正人		

〔講義目的〕

英語の音声の特徴や、日本語と英語の音声の違いを、理論と音声分析によって学びながら、実際に聴き取りと発音の練習をすることで、理解力と発音を向上させることを目指します。

〔講義内容〕

IPA（発音記号）をマスターしよう  
Speech Analyzer による音声の分析  
自分の発音を分析しよう  
アクセント、イントネーションとリズム  
単語がつながって起きる変化  
音の変化を法則化すること  
音組織から見た日本語と英語の違い  
注意すべき母音、子音の発音  
読み方を注意すべき単語  
接辞と発音の変化  
アメリカ英語の方言  
社会言語学

〔講義のすすめ方〕

授業は、英語の音声についての講義の部分と、聴き取り練習、発音練習、音声分析といった作業や実習の部分から成ります。聴き取りや音のスペクトル分析、宿題提出などではコンピュータを使用します。

〔教材〕

『LDC アメリカ英語読み上げ辞典 インターネット版』やラジオドラマ、ビデオなどを使用。なお参考書として、西光義弘編『日英語対照による英語学概論』（くろしお出版、「英語学概論」の教科書）を勧めます。

〔成績評価の方法・基準〕

出席点 50%  
試験 50%

〔履修のポイント・注意点〕

実習など参加しなければ学べない内容が多いので、出席が重要です。やむをえず欠席する場合は、事前または直後に連絡して指示を受けてください。

〔科目内容の位置付け〕

この授業は英語の発音のしくみを学ぶものであり、「音声学演習」とあわせて履習するというそう効果的です。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

英語とコンピュータのどちらに関しても、特別な知識は必要としません。

科目名	英文学概論		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	向井 千代子		

**【講義目的】**

イギリス文学の歴史についての概括的な基礎知識を獲得することを目的とする。シェイクスピアやミルトン、ディッケンズなどイギリス文学を代表する作家たちの作品に接して理解すると共に、イギリスの歴史や社会についての知識を修得する。

**【講義内容】**

イギリスの歴史、社会の紹介を含めて、イギリスの主な文学作品と作家についての紹介を講義形式で行う。シェイクスピアから始まって20世紀までの代表的な作家と作品を扱う。学生たちには作品の一部を実際に読むことを通じて、文学の魅力を味わっていただきたい。

**【講義のすすめ方】**

イギリスの歴史に沿ってその時代時代の主な作家と作品を紹介する形で進めていく。

大体の講義概要は以下ようになる。

1. 古英語時代からチョーサーまで。
2. シェイクスピアを中心に。
3. ミルトン、ドライデン。
4. リチャードソン、フィールディング。
5. ロマン主義の詩人たちと恐怖小説。
6. オースティン、ディッケンズなど。
7. テニスン、ブラウニング。
8. ハーディー、オスカー・ワイルド。
9. フォスター、ウルフ、ジョイスなど。
10. T.S. エリオット、イエイツ。
11. アイリス・マードックから現代の小説家たち。

毎回作家の紹介とともに作品の一部を実際に鑑賞することにより英文学の作品にじかに触れるようにする。

**【教 材】**

『イギリス文学概観』 相島倫嘉著 (南雲堂)

**【成績評価の方法・基準】**

平常点 (授業中の態度と感想文) 30%

出席点 20%

テストまたは感想文 50%

以上を基準点としての総合評価。

**【履修のポイント・注意点】**

これは英語教師として最低限の常識に属することを学ぶ科目である。楽しみつつ学んで欲しい。

**【科目内容の位置付け】**

英文学の基礎知識。

**【前提・関連科目 (科目間関連の内容)】**

米文学概論。

科目名	米文学概論		
単位	2	開設	半期
教員名	針生 進		

#### 〔講義目的〕

米文学にかかわる一般常識をもっていただく。親しみやすいこともあり、小説作品を主にとりあげる。

#### 〔講義内容〕

文学作品にだけ限った文学論に終始すれば飽きられてしまうだろうし、こちらも話にくい。アメリカ史という文脈を常に意識して講義をすすめていきたい。いいかえれば、そして理想をいえば、個々の文学作品を通じてアメリカという国の歴史の流れを少しでも理解していただければと思う。

#### 〔講義のすすめ方〕

いわゆる文学など見当たらない17世紀の植民地時代から、まず話しはじめる。各週ごとの講義内容の予定を表題という形でまとめて並べれば、以下になるだろうか。

- 第一回：マサチューセッツ植民地とピューリタニズム
- 第二回：W.アーヴィングと伝説の谷間
- 第三回：J. F. クーパーと開拓地
- 第四回：エマソン、ソーロー、自然
- 第五回：ホーソンと暗い森
- 第六回：メルヴィルと白い鯨
- 第七回：ポーとアメリカンゴシック
- 第八回：ハックルベリー・フィンを知っているか

これ以降につづく細かい講義区分は未定だけど、半期科目という制約もあり、20世紀半ばあたりまで見られればいいたろう。

作品名や作者名を並べるだけの講義にはしたくないので、原作からの引用も頻繁に行いたい。とはいっても、そのごく一部しか教室ではとりあげられないので、受講生には、翻訳でよいので（興味を感じたものだけでも）各作品に直接ふれることを期待する。そのためにも、翻訳があり、かつ本学図書館に蔵書がある、あるいは文庫本などで購入しやすい作品を主にとりあげていきたい。

#### 〔教材〕

特に教科書は使わない。こちらでまとめた教材を配付する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験を学期末の定期試験期間内に行う。これは、いかに多くの正確な知識を身につけたかを問うもので、個人の感想や見解を求めるものではない。この試験の結果が成績評価に大きく関わる。結果が思わしくない場合でも、レポートなどを提出させて試験の点数に加算、換算するような措置は講じない。出席状況が最終評価にしめる割合も少なくない。強い数値であらわせば、

試験の得点：75%

出席率：25%

ぐらいなるだろうか。ただし、あくまで単純計算のための数値をあげれば、である。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

受講に際して予備知識の有無は特に問わない。というより、くり返せば、そのような知識をあたえるのがこの講義の目的である。

#### 〔科目内容の位置付け〕

教職課程の受講生には、これは必修科目ということだが、こちらとしては、そのような意識は特にもたずに、一般学生に聞いてもらうという感覚で講義をすすめていく。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

「文学A」、「文学B」

科目名	英米文学A		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	向井 千代子		

**〔講義目的〕**

20世紀の英米の作家の紹介と、文学作品の読解力の養成。

**〔講義内容〕**

英米の短編小説を読む。扱う作家はSaki, H.E.Bates, William Somerset Maugham, Ernest Hemingway, Raymond Carver, Agatha Christie, William Saroyanなどよく知られた作家ばかりである。短いものは一回で、長いものは2、3回で読みきる予定。最初のうちは短い英文で要旨を書く練習を入れる。内容理解のためのディスカッションと読みの練習、慣れてきたらより分析的に読む練習をする。文学を読む場合は、語句の理解以外に背景となる時代や国、文化の理解というものが必要になってくるので、その面にも注意しつつ授業を進めていきたい。

**〔講義のすすめ方〕**

毎回決められた分量を各自で読んでたうえて、議論をするという形の授業。慣れてきたらレポートを決めてレポート中心の授業にしていく。

**〔教 材〕**

A Clean, Well-lighted Place and Other Stories—British and American Short Story Masterpieces II (Kinseido)

**〔成績評価の方法・基準〕**

授業内評価（100%）。授業内評価には、授業態度、授業中の学習意欲、授業内の小テスト、出席などが含まれる。

**〔履修のポイント・注意点〕**

文学への興味があり、読解力をつけたい人に向いている科目である。教科書以外にも同じ作家の作品に当たってみると楽しいと思う。

**〔科目内容の位置付け〕**

中級程度の英文読解。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

英文学概論、米文学概論、英米文学 B。

科目名	英米文学B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	向井 千代子		

〔講義目的〕

英米の詩およびエッセイを読み、文学作品への読解力を高める。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

英文学概論、米文学概論、英米文学A。

〔講義内容〕

英米の詩を読み、詩の独特の表現形式に親しむ。詩（韻文）だけでは物足りないと思うので、その他にエッセイをいくつか読む。取り上げる詩人は現在考慮中であるが、ロマン派の詩人あるいは20世紀の英米の詩人の詩を読む。エッセイについては20世紀の英米の作家の書いたものの中から適宜選んで読む予定。読んで内容を理解するだけでなく、詩の技法を理解したり、音声的な魅力を味わったりすることも大切である。また子供向けの詩である『マザーグース』の詩も紹介する予定である。

〔講義のすすめ方〕

授業の初めには教員が詩人や作家についての解説をするが、中心は参加する学生であるので、各自が毎回決められた詩とエッセイを読んできた上で、感想やディスカッションを中心とした授業をする。

慣れてきたらレポーターを決めて、レポーターの発表を中心とした進め方に変えていく。

〔教 材〕

未定だが、教材としては詩を中心としたものを使い、エッセイは教員が毎回プリントを用意する。

〔成績評価の方法・基準〕

授業内評価（100%）。授業内評価には、授業態度、授業中の学習意欲、授業内の小テスト、出席などが含まれる。

〔履修のポイント・注意点〕

学生を中心とした授業であるので、毎回予習を欠かさないようにしてください。授業への積極的な参加が求められる授業であるので、そのつもりで履修のこと。

〔科目内容の位置付け〕

英米の詩のさまざまな形態に触れ、エッセイを通して読解力の養成を図る。

科目名	異文化理解		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	宮里 恭子		

【講義目的】

日米比較文化をテーマに、リーディングやディスカッションを通して異文化及び自文化を認識し理解を深めることを目的とする。

In-class exam 20%  
プレゼン 20%

【講義内容】

授業は、前半はテキストとハンドアウトを使って英語による読解を行う。後半は主にグループでのディスカッションなどを通して自分の意見を発表しあう場とする。扱うトピックは次の通り。

1. Equality and seniority
2. Informality and formality
3. Class discussion with an exchange student 1
4. Directness and indirectness
5. Individualism and groupism
6. Class discussion with an exchange student 2
7. Independence and dependence
8. Competition and harmony
9. Class discussion with an exchange student 3
10. Privacy and community
11. Review session
12. In-class exam
13. Essay writing
14. Class presentation preparation
15. Class presentation

【講義のすすめ方】

前半は教師によるミニレクチャー、テキスト解説、後半はグループ・クラスでのディスカッションやアクティビティーなどの学生参加型授業。

【教 材】

Discover Your Own Culture – 自文化再発見  
Wayne Sumida, Kyoko Miyazato 著  
英宝社

【成績評価の方法・基準】

出席・授業貢献 20%  
スキット・発表 40%

【履修のポイント・注意点】

- \* ディスカッションやアクティビティーを毎回行うので、積極的に参加すること。クラスでの発言・参加について、授業貢献度のなかで考慮する。
- \* 毎回始業時に出席をとる。遅刻は30分まで認める。その日のうちに遅刻を自ら申し出ること。後の訂正は原則として認めない。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。やむを得ない状況を除き、4.5回以上欠席の場合は、Hとなる。また、原則3回以上欠席した場合は総合評価B以下となる。
- \* ディスカッションを毎回行うので、積極的に自分の意見を述べるだけでなく、他人の意見にも真剣に耳を傾ける姿勢をもってもらいたい。
- \* リーディング部分の予習が前提となるので欠かさずに自宅学習すること。

【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

できる限り、異文化コミュニケーション論を履修する前に履修しておくことが望ましい。

科目名	異文化間コミュニケーション論		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	宮里 恭子		

〔講義目的〕

21世紀に暮らす私たちはグローバル化の時代を生きている。つまり、私たちの実生活において、海外勤務や国内においても多様な外国人と働き暮らす可能性が高くなることを意味する。その際、異文化による摩擦を回避し適切に対応していく能力を培うことが重要であることは言うまでもない。このコースでは、異文化への認識、知識、感情、適応スキルをテーマに、教師によるレクチャー、及び、学生参加型の体験学習を通して、これらの問題を探求する。

〔講義内容〕

以下のテーマについて、前半は教師による知識伝授型のレクチャーを通して、異文化について多様な角度から考察する。後半はグループでの討論、ペアワーク、クラスディスカッションなどを通して、学生参加型の体験学習を行う。

1. 異文化、自文化の Awareness (認識)
2. 文化についての Knowledge (知識)
3. culture shock, identity crisis などの文化的価値観と Emotions (感情)
4. 異文化による誤解時の適応 skills, training (スキル)

〔講義のすすめ方〕

前半は教師のレクチャーによる知識伝授型、後半はグループやクラス全体によるディスカッションやアクティビティーなどの学生参加型授業。

〔教 材〕

最初の授業時に指定する。

〔成績評価の方法・基準〕

普段の授業での貢献度などの平常点、及び、出席なども加味して最終の判定を行う。目安としては次のようになるが、詳しくは初回時に詳しく説明する。

プレゼン・プロジェクト	40%
レポート・発表	20%
クラス内小テスト	20%

平常点・授業貢献度	10%
出席率	10%

〔履修のポイント・注意点〕

- \* 遅刻は30分まで認める。その日のうちに遅刻を自ら申し出ること。後の訂正は原則として認めない。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。やむを得ない状況を除き、4.5回以上欠席の場合は、Hとなる。また、原則3回以上欠席した場合は総合評価B以下となる。
- \* ディスカッションやアクティビティーを毎回行うので、積極的に参加すること。クラスでの発言・参加について、授業貢献度のなかで考慮する。

〔前提・関連科目 (科目間関連の内容)〕

異文化理解を履修していることが望ましい。

科目名	英語圏地域研究		
	English Speaking Area Studies		
単位	2	開設	半期
教員名	Jeffrey Miller		

**〔講義目的〕**

[Course Objectives]

English Speaking Area Studies (英語圏地域研究) traces the development of English and its spread around the world into eight main branches. To understand the English world of today and tomorrow, we must know how the language came into being, how it has changed, and how it is likely to change in our lifetimes.

Furthermore, English Speaking Area Studies provides students with an opportunity to discuss, research, and present about English language topics of personal interest.

**〔講義内容〕**

[Course Contents]

English Speaking Area Studies (英語圏地域研究) begins with an overview of the 1,500 years of English language evolution and spread from the UK, to the US, Canada, Ireland, Australia, New Zealand, South Africa, and the Caribbean for background. However, the focus of the course is not on the past but how today's English is continuing to change. Also, how these changes, such as "World Englishes" and EU English, affect our present and future world – especially here in Asia.

Print and broadcast media materials will be used to introduce problems and trends in international English for discussion. By the fourth week, students will select a research topic for their oral presentations and written research papers due at the end of the term. There will be no single textbook, however the instructor will select appropriate print and video material. Students will be required to

make a five-minute presentation (with PowerPoint or handmade visual aids) and write an original three-page (750, or more, word) research paper, in English, based on a topic of their choice.

A mixture of lecture (in intermediate level English), video, student discussion, individual research on a topic of interest, and student presentations will characterize the class.

**〔講義のすすめ方〕**

[Course Progress]

The class will meet once a week for a semester. For the first few classes, lectures, outside reading, and video excerpts will provide the necessary information on the historic development of English. However, the main focus of the class is English language in the postwar and especially post2000 period, and how the language will change in the future. For these important questions, seminar-style discussions and research presentations will be used. Therefore, students are expected to be interested in and reasonably well informed about major world events.

As explained above, English Speaking Area Studies requires students to do their own research for a presentation and three page English term paper on a subject they are interested in. There also will be a final exam.

**〔教材〕**

[Course Materials]

There is no one textbook, but the course will use instructor-written and selected printed as well as video materials (such as selections from the PBS video "The Story of English"). Students are expected to take notes

during lectures and when viewing video clips, as well as to keep all distributed material in a folder that they bring to class each time.

intermediate level English with outside English reading and research required, a reasonably strong command of spoken and written English is necessary.

#### **〔成績評価の方法・基準〕**

[Course Grading]

The five-minute presentation of individual research topics will make up 20 % of the overall grade. The three-page (750, or more, word) research papers on the same topic will also be 20 % of the overall grade. Attendance will be 30% of the grade; and, a short comprehensive final examination will also be 30% of the total grade.

#### **〔履修のポイント・注意点〕**

[Successful Study Points]

This course should be both "enjoyable" and "informative" as well as giving students the opportunity to do original research in English. A strong motivation to both learn much and "have a lot of fun" is key!

As there is much material to cover, regular attendance is vital. Also important is an interest in following world events. And lastly, when doing original research on (for example, the origins and background of McDonald's catchphrase "I'm lovin' it") students must not plagiarize, but cite and adapt other peoples' ideas in their own words.

#### **〔科目内容の位置付け〕**

[Related Subsequent Courses]

English & American Literature A, English & American Literature B, and especially English & American C (Postmodern Literature, which will deal with postwar writing in English) are related.

Obviously, this course contains essential background for future Japanese Teachers of English.

#### **〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

[Prerequisites]

None. However, as English Speaking Area Studies will be taught in

科目名	英語科教育法Ⅰ		
単位	2	開設	半期
教員名	宮里 恭子		

#### 〔講義目的〕

英語科指導法に関する基礎知識と理論を概観し、現在の英語教育のあり方について考察する。下にあげるテーマをもとに英語教育全般の基礎知識を講義形式で学び、ディスカッション等でどのように現場の授業に生かすかを各自考える。

現在、日本の英語教育は、「英語が使える日本人の育成戦略」（2002文部科学省）の枠組みに沿った改革が進行している。英語教育に関する基本的な知識を身につけ、現在日本の英語教育に求められていることが具体的に何なのかを知り、どのようにそれに応えられるのかを考える。

#### 〔講義内容〕

授業では以下のテーマを扱う予定である。

- (1) 英語教育の目的・学習指導要領
- (2) 英語の国際化と日本の英語教育
- (3) 第二言語習得と英語教育
- (4) 学習者
- (5) 英語教員
- (6) 英語教師の役割
- (7) 早期・小学校英語教育
- (8) 英語教授法
- (9) コミュニケーション能力の育成
- (10) 4技能（聞き/話し/読み/書く）指導
- (11) 文法・語彙指導
- (12) 英語教育の将来に向けて（言語政策、World Englishes など）

その他

#### 〔講義のすすめ方〕

授業は、講義、学生の発表、それとディスカッションから成る。毎回の授業のテーマを前もって指示するので、必ず、テキストを事前に予習しておくこと。オーラル・リポート（発表）や、グループ・クラス全体での討論の場を作るので、積極的な参加を期待する。

#### 〔教材〕

「新学習指導要領にもとづく英語科教育法」  
望月昭彦 編著 大修館書店 2300円

#### 〔成績評価の方法・基準〕

プレゼンテーション	2回	40%
定期試験	1回	40%
出席率		10%
授業貢献度		10%

#### 〔履修のポイント・注意点〕

- \* この授業は、英語教員になるための基礎知識を構築するための大切な授業である。この知識なしに、英語科教育法Ⅱ、Ⅲ、Ⅳに進むことはできない。よって、免許取得のために真剣に取り組むべき授業であることを心に留め、全出席を目指してもらいたい。
- \* 遅刻は30分まで認める。その日のうちに遅刻を自ら申し出ること。後の訂正は原則として認めない。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。やむを得ない場合を除き、4.5回以上欠席の場合は、Hとなる。また、原則3回以上欠席した場合は総合評価B以下となる。
- \* 授業内容を理解することが大切な科目である。まじめに授業に臨み、各章ごとにきちんと理解しておかないとこの授業をパスすることは難しい。特に前半は理論的枠組みについての講義なのでかなり難しい。後半は、具体的な項目についてのテクニックの紹介となる。定期試験はかなり難しいので、日頃から予習、復習を欠かさないこと。
- \* ディスカッションを毎回行うので、積極的に発言すること。クラスでの発言について、授業貢献度のなかで考慮する。

#### 〔科目内容の位置付け〕

教育実習に行くにあたり、最低限の基礎知識となる。英語科教育法Ⅱ及びⅢは、内容・目的ともに直接関連している。

科目名	英語科教育法Ⅱ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	滝沢 謙三		

#### 〔講義目的〕

日本の英語教育が目指す「英語が使える日本人」育成のための英語教育では、具体的にどのようなコミュニケーション活動を採用すればいいのか、英語を使うことを通してコミュニケーション能力を養うことができる各種コミュニケーションタイプな活動について理論を学び、ミニ模擬授業を行う。ミニ授業終了後、授業分析についての討論を行いながら、理論と実践の両面での理解を深める。また、求められる英語教員とは何なのか、授業に関わる現代的な課題についてディスカッションする中で授業に対する意識を高める。

#### 〔講義内容〕

各種コミュニケーション活動について講義で理論を学び、その中の一つを選んで、教材を作成し、20分ほどの模擬授業をする。

1. コミュニケーションに必要な能力とは
2. インプット、アウトプット、インターアクション
3. 教室英語
4. 発問スキルとコミュニケーションストラテジー
5. コミュニケーション能力育成に有効な各種活動について（各種ディクテーション、シャドーイング、TPR、インフォメーションギャップ、発音ゲームなど）
6. ミニ模擬授業

#### 〔講義のすすめ方〕

授業の指示、および、質疑応答の半分を英語で行い、コミュニケーション能力向上を図る。講義、ディスカッション、教材作り、ミニ模擬授業、全体でのミニ模擬授業の分析など、多面的な学習活動を展開することで、知識レベルから実践レベルへと転化させ、実際指導する際の英語授業力を養成する。

#### 〔教 材〕

- ・英語科教育法Ⅰの教材を引き続き使用する
- ・(推薦辞典) 白畑知彦他 「英語教育用語辞典」 大修館書店 2500円

#### 〔成績評価の方法・基準〕

レポート	1回	20%
ミニ模擬授業	1回	20%
定期試験	1回	40%
出席率 / 授業貢献度		20%

#### 〔履修のポイント・注意点〕

- \* 遅刻は30分まで認める。その日のうちに遅刻を自ら申し出ること。後の訂正は原則として認めない。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。やむを得ない状況を除き、4.5回以上欠席の場合は、Hとなる。また、原則3回以上欠席した場合は総合評価B以下となる。定期試験はかなり難しいので、日頃から予習、復習を欠かさないこと。
- \* ディスカッションを毎回行うので、積極的に発言すること。クラスでの発言について、授業貢献度のなかで考慮する。
- \* イングリッシュラウンジやセルフアクセスラウンジセンターを利用し、英語のスピーチコンテストに参加するなど英語を使う経験を増やすことを奨める。

#### 〔科目内容の位置付け〕

この科目の位置づけは、英語科教育法Ⅰの知識をさらに深めると同時に、英語科教育法Ⅲでの模擬授業に備える、知識から実践への橋渡しとなる科目である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

英語科教育法ⅠⅢⅣは、内容・目的ともに直接関連している。

科目名	英語科教育法Ⅲ		
単位	2	開設	半期
教員名	滝沢 謙三		

#### 〔講義目的〕

この科目の目的は、中学校または高等学校における外国語としての英語の授業で、学習指導要領に示されている目標を達成するに足る実践的な指導能力を養うことにある。英語指導法に関して英語科教育法Ⅰ、Ⅱなどで学んだ理論と実践を展開し、具体的な授業を想定し、中学校・高等学校の教科書を使用して指導案を作成し、模擬授業を行う。模擬授業の後では、批評会を持ち、指導上の諸問題を検討する。検討を重ねることを通して、より効果的な指導技術を身に付けると共に、今後取り組むべき課題を明確にする。

教育実習を想定して実際に自らが授業を行い、また、クラスメートの模擬授業を見て相互に学び合うことで実践的な授業力を養う。

#### 〔講義内容〕

1. 指導案の書き方を学習し、指導案を作成する。導入－展開－整理までの一連の授業の流れを計画する。具体的な板書計画、発問計画を立て、適切な補助教材プリントなどを作成する。
2. 模擬授業を行う。模擬授業の実践を通して、基礎知識の指導、英語によるコミュニケーション能力養成のための指導、教具・教育機器の扱い方、小テスト作成などを実践する。
3. 全体討論で授業の分析と評価を行う。
4. 授業に関連した諸問題（教室英語、チームティーチング、コミュニケーション指導、文法指導、楽しい英語授業、わかる英語授業、感動する英語授業、意欲を高める授業等）について問題点と解決策を議論する。

#### 〔講義のすすめ方〕

講義、ディスカッション、模擬授業、全体での模擬授業の分析と評価など多面的な活動をする。講義の運営・指示などの半分を英語で行い、コミュニケーション能力向上を図る。

#### 〔教材〕

必要に応じてプリント等を随時配布する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

模擬授業、出席率、授業への貢献度、課題への取り組みなど加味して総合的に評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

自らの課題を見つけて自主的にその向上に取り組む（自律学習）実践が大切である。また、イングリッシュラウンジやセルフアクセスラウンジセンターを利用し、英語のスピーチコンテストに参加するなど英語を使う経験を増やすことを奨める。

#### 〔科目内容の位置付け〕

模擬授業を経験することで教育実習にそなえる。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

英語科教育法Ⅰ及びⅡは、内容・目的ともに直接関連している。

科目名	教材研究		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	宮里 恭子		

〔講義目的〕

英語教育のさまざまな分野における多彩な教材を取り上げ、評価・分析し、その利点、改善点、使用法などについて検討する。最後に自分の言語観に見合うオリジナルテキストを作成し、模擬授業を通して発表する。

平常点・授業貢献度 20%  
出席率 10%

〔履修のポイント・注意点〕

- \* 遅刻は30分まで認める。その日のうちに遅刻を自ら申し出ること。後の訂正は原則として認めない。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。やむを得ない状況を除き、4.5回以上欠席の場合はHとなる。また、原則3回以上欠席した場合は総合評価B以下となる。
- \* ディスカッションやアクティビティを毎回行うので、積極的に参加すること。クラスでの発言・参加について、授業貢献度のなかで考慮する。

〔講義内容〕

1. 教材研究とは？  
教材の全体的 / 個別的な分析
2. 文科省教科書の教材分析1
3. 文科省教科書の教材分析2
4. 文法教材研究
5. Listening 教材研究
6. Speaking 教材研究
7. Reading 教材研究
8. Writing 教材研究
9. Vocabulary 教材研究
10. 会話 / ゲーム・アクティビティ教材研究
- 11-14 オリジナルテキスト作成と模擬授業

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

英語科教育法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

〔講義のすすめ方〕

前半は上に挙げたテーマについて、教材論を概観し、各教材の評価・分析などの諸問題について、講義を中心に学ぶ。後半はグループでそれぞれ教材について長所や改善すべき点などについて考察し、全体での発表・ディスカッションを通してそれぞれの教材に関する特質を探求する。最後に、自分の言語観に見合うオリジナルテキスト作成し、模擬授業を通して発表する。

〔教 材〕

教材は特に使用しないが、各授業時に配布するハンドアウトをまとめるファイルを用意すること。

〔成績評価の方法・基準〕

普段の授業での貢献度や小テストなどの平常点、及び、出席なども加味して最終の判定を行う。目安としては次のようになるが、詳しくは担当教員の判定基準に従うこと。

教材分析発表 20%  
模擬授業・オリジナルテキスト 50%

科目名	コミュニケーション英語指導法		
	Communicative English Teaching		
単位	2	開設	半期
教員名	Jeffrey Miller		

### 〔講義目的〕

[Course Objectives]

Communicative English Teaching (コミュニケーション英語指導法) is designed to provide future Japanese Teachers of English (JTEs) with the confidence and experience to successfully teach English classes in English. This classes will focus on using English as a communicative tool to maximize student classroom "output."

Photocopies of officially approved Ministry of Education and Science (MEXT) junior and senior high school English textbooks and teachers' manuals will be used. Additionally, through extensive interaction with mock Assistant Language Teachers (ALTs), future JTEs will master the actual give-and-take dynamics of team-teaching as used in Oral Communications classes.

### 〔講義内容〕

[Course Contents]

Communicative English Teaching (コミュニケーション英語指導法) is a "hands on" course allowing students to practice teaching using actual junior and senior high school textbooks and teachers' manuals. After a brief theoretical overview, future JTEs will learn how to make lesson plans, design interactive listening and speaking exercises, and effectively control a class.

For the Oral Communication team-teaching situations, the instructor (or Hakuoh foreign exchange students) will act as the ALT for future JTEs to team-teach with in micro-teaching sessions. Other students will be the "learners" and will evaluate the effectiveness of the micro-teaching session.

Official MEXT English curricula for elementary school English will be used as it becomes available. In the interim, current Oyama elementary school English curricula will be used.

### 〔講義のすすめ方〕

[Course Contents]

The course will meet once a week for a semester and will be taught entirely in intermediate level English. No set textbook will be used but the instructor will provide photocopies of all the needed material. Also, regular visits to the English Lounge and the Hakuoh library's Self-Access Learning Center to practice English will be expected.

The instructor will rarely lecture, but usually coordinate activities that are both learner-centered and output-oriented. As a result, students are expected to actively use the classroom English that they already know with greater accuracy and more natural speed and articulation. Although MEXT approved textbooks and additional print-based material will be used, the thrust of the course is having students master classroom speaking, writing, listening, and reading skills in authentic and natural English.

### 〔教材〕

[Course Materials]

There will not be one fixed textbook but the instructor will photocopy material from a number of sources. In addition to weekly "hands on" practice activities, there will be a final exam based on the distributed material. Therefore, the students are expected to keep all the material in a folder that they bring to class every time.

**〔成績評価の方法・基準〕**

[Course Grading]

Individual micro-teaching and subsequent evaluation, lesson-plan preparation, MEXT English textbook teacher manual-based homework and class presentations will be regularly graded and make up 50% of the overall grade. Attendance will be 30 % of the grade and, a final examination will also be 20% of the total grade.

**〔履修のポイント・注意点〕**

[Successful Study Points]

Regular attendance is the only way to master Communicative English Teaching. Furthermore, learners will be expected to use outside-of-class opportunities like the English Lounge and the Hakuoh library Self-Access Learning Center as much as possible. Also, as teaching is a social skill, aspiring teachers should be active, outgoing, and serious.

Communicative English Teaching (コミュニケーション英語指導法) should be "enjoyable and fun" as well as beneficial for future JTEs.

**〔科目内容の位置付け〕**

[Related Subsequent Courses]

教材研究、英語コミュニケーション教育特講、  
小学校英語教育

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

[Prerequisites]

None

科目名	小学校英語教育		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	宮里 恭子		

【講義目的】

小学校英語教育の理論と実践を通して、小学校で英語を教えるために必要な基礎事項を学び、実際の teaching に役立つ訓練を行う。

【講義内容】

1. 日本国内における小学校の英語教育に対する是非
2. アジア・ヨーロッパ諸国の小学校英語教育
3. 小学校英語教師に求められる教師像
4. 小学校英語教育の現状と展望
5. TTと国際理解・異文化理解教育
6. 早期英語教育・Bilingual Education
7. 早期英語教育教材研究 (1)
8. 早期英語教育教材研究 (1)
9. TT 教材研究
10. カリキュラム・オリジナルテキスト作成
11. カリキュラム・オリジナルテキスト作成
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業

【講義のすすめ方】

コース前半は、小学校の英語教育に対する様々な見解やその位置づけ、各国小学校英語教育の実態、小学校英語教師にもとめられる教師像、TTへの心構え、国際理解・異文化理解授業・World EnglishesなどのMulticulturalism, Multilingualismに関する知識や早期英語教育・bilingual educationにおける長所や問題点などを講義する。

後半は、講義を通して得た言語観を反映する小学校英語教育6年間のオリジナルカリキュラムを作成し、早期英語教育関係の教材やTT教材などをグループで教材分析・研究しながら、オリジナルの教材集を作成し、模擬授業を通して発表する。

【教 材】

各授業時に配布するハンドアウト。

【成績評価の方法・基準】

普段の授業での貢献度や小テストなどの平常点、及び、出席なども加味して最終の判定を行

う。目安としては次のようになるが、詳しくは初回授業時に詳しく説明する。

プレゼン	20%
模擬授業・オリジナルテキスト	50%
授業内小テスト	10%
平常点・授業貢献度	10%
出席率	10%

【履修のポイント・注意点】

- \* 遅刻は30分まで認める。その日のうちに遅刻を自ら申し出ること。後の訂正は原則として認めない。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。やむを得ない状況を除き、4.5回以上欠席の場合は、Hとなる。また、原則3回以上欠席した場合は総合評価B以下となる。
- \* ディスカッションやアクティビティーを毎回行うので、積極的に参加すること。クラスでの発言・参加について、授業貢献度のなかで考慮する。

【科目内容の位置付け】

英語科教育法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

科目名	英語で話す日本文化		
	Japanese Culture in English		
単位	2	開設	半期
教員名	Lorraine Reinbold		

**〔講義目的〕**

This course is designed to promote intercultural awareness and successful communication in English for Japanese students. They will practice using the four skills of English, reading and writing, listening and speaking, and think critically by examining cultural diversity.

Quite often people think of Japanese culture as Tea Ceremony or Kabuki, but culture also includes language, customs, values, and communication styles. Actions of people from different cultures can be misinterpreted and cause friction. With this in mind, the purpose of this course is to enable students to interact with a wide range of people by letting them reflect upon their own culture. By developing self-consciousness of their own culture, they can begin to appreciate people of other cultures.

**〔講義内容〕**

Topics to be covered will include cultural awareness, identity, stereotypes, gestures, translation misunderstandings, values, multiculturalism in Japan, culture shock, and traditional and modern Japanese culture.

**〔講義のすすめ方〕**

Class sessions will be held in a Cooperative Learning environment where students will work together to accomplish mutual goals. Each participant will be responsible in being active and contributing to their group members' support, encouragement, and assistance.

Students will have weekly discussions in groups of three on topics that will be introduced by the instructor. In

some sessions, students will take turns in taking the role as the Group Leader, Recorder, and Speaker. The leader must prepare for the discussion, make comprehension and discussion questions for the group, and is responsible for seeing that each person has a chance to speak and voice opinions in English. The recorder should summarize and write the main ideas that were brought up during the discussion, and the speaker should present them to the other groups in the class. For some sessions where there are reading assignments, students will have roles such as the Reader, Recorder, and Checker. The Reader will read, the Recorder will write the main or good ideas, and the Checker will make sure that everyone is participating actively and makes sure that everyone understands.

**〔教材〕**

Different Realities: Adventures in Intercultural Communication  
Joseph Shaules and Juri Abe  
Nan'un-Do  
1997

**〔成績評価の方法・基準〕**

Grades on this course will be determined by the following criteria:

- Regular attendance 30 % - If you miss more than 1/3 of class sessions, you will fail the course. Being late for class three times will count as one absence. Being late for more than 20 minutes is considered one absence. You are responsible for notifying me in advance when possible, of reasons for absences, late arrivals, and early departures.

- Active participation 30%
- Homework grades/quizzes 20 % - NO LATE HOMEWORK will be accepted. If you are absent, ask the instructor or a friend about the assignment before it is due.
- Final assignment - 20%

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

Prerequisites to this course are: English Study Skills, Reading and Vocabulary Building Level I, and Writing Level I.

科目名	基礎心理学A		
単位	2	開設	半期
教員名	田多 英興		

### 〔講義目的〕

心理学専攻の学生のための初めての心理学ということになるが、基本的には他の専攻学生のための「心理学A・B」と大きな差はない。つまり、これから勉強を始める心理学専攻の入門として、「人間の心と行動の科学的理解」の基本的な枠組みを知ることが目的とする。一般心理学といわれる「正常な個人の成人」の心と行動の理解を主題とする。

### 〔講義内容〕

- 1 心理学とは
  - 1.1 心理学とはどんな学問か
  - 1.2 心理学の歴史（科学的心理学以前と以後）
  - 1.3 心理学の研究手法、対象、研究領域
- 2 行動の生理的基礎
  - 2.1 脳と心
  - 2.2 脳神経系の働き
  - 2.3 生理学と心理学
- 3 行動の生物学的基礎
  - 3.1 行動の種類
  - 3.2 生得的行動と初期経験
  - 3.3 進化的適応
- 4 知覚
  - 4.1 物理的環境と主観的環境
  - 4.2 知覚の一般的特性
  - 4.3 知覚の諸現象
  - 4.4 動的知覚
- 5 学習
  - 5.1 学習とは
  - 5.2 条件づけ学習
  - 5.3 洞察学習
- 6 記憶
  - 6.1 3つの記憶
  - 6.2 長期記憶の諸問題
  - 6.3 忘却過程と記憶の変容

### 〔講義のすすめ方〕

基本的には教科書に基づいてのパワーポイントと板書（黒板）による講義になる。一方的に喋りますから、しっかりノートが取れるようにして下さい。自分なりのノートが取れるようになることが大学生の第1歩です。

### 〔教材〕

教科書：今田・宮田・賀集共編の「心理学の基礎 3訂版」 培風館

### 〔成績評価の方法・基準〕

成績は、毎時間課す小レポートと出席点、それに学期末の定期試験による。心理学実験の被験者を体験したときにはそれも出席点として採用します。

### 〔履修のポイント・注意点〕

心理学的思考の訓練の第1歩です。しっかり聞いて、ノートを取れるようにして下さい。

### 〔科目内容の位置付け〕

大学生としての第1歩の全く基礎的な教養科目の学習で、かつ心理学専攻の出発点です。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

この科目には前提になる科目履修はないが、基礎心理学Aと基礎心理学Bで入門の心理学の全体をカバーするつもりなので、基礎心理学Bも続けて履修することが望ましい。

科目名	基礎心理学B		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	田多 英興		

〔講義目的〕

基礎心理学 A の続編であるので、〔講義目的〕はそちらを参照されたい。これと合わせて履修することが望ましい。

〔講義内容〕

- 1 動機づけ
  - 1.1 行動の原動力としての動機
  - 1.2 動機の分類法
  - 1.3 動機間の関係
- 2 欲求と欲求不満
  - 2.1 欲求不満の原因・反応・状況
  - 2.2 ストレス
  - 2.3 自我防衛機制
- 3 感情
  - 3.1 感情の分類
  - 3.2 情動の理論
  - 3.3 情動と身体的表出
- 4 人格
  - 4.1 人格の理論
  - 4.2 人格の形成
  - 4.3 人格の測定
- 5 知能
  - 5.1 知能とは何か
  - 5.2 知能の構造的把握
  - 5.3 知能の測定
- 6 自我
  - 6.1 2つの自我
  - 6.2 自我の理論
  - 6.3 成熟した自己

〔講義のすすめ方〕

田多担当の基礎心理学 A と全く同じ進め方である。

〔教 材〕

教科書：今田・宮田・賀集共編の「心理学の基礎 3訂版」 陪風館

〔成績評価の方法・基準〕

成績は、毎時間課す小レポートと出席点、それに学期末の定期試験による。心理学実験の被験者を体験したときにはそれも出席点として採用します。

〔履修のポイント・注意点〕

田多担当の基礎心理学 A と全く同じ。

〔科目内容の位置付け〕

大学生としての第1歩の全く基礎的な教養科目の学習で、かつ心理学専攻の出発点です。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

この科目には前提になる科目履修はないが、基礎心理学 A と基礎心理学 B で入門の心理学の全体をカバーするつもりなので、基礎心理学 A を履修していることが望ましい。

科目名	心理統計法		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	飯田 成敏		

#### 〔講義目的〕

心理学では、実験や調査の計画、データ処理等において、統計学や実験計画法は、必須である。この科目では、卒業論文や実験実習等において心理学の研究を実践する際に必要な、推計学の基本的事項を学ぶ。前半で、実験計画法の基本を学び、後半では、統計的な処理技法の中でも特に基本的かつ頻繁に使用される、t検定、分散分析、相関係数について説明する。

#### 〔講義内容〕

- 第1回 導入
- 第2回 尺度について
- 第3回 実験計画法①
- 第4回 実験計画法②
- 第5回 有意差検定とは
- 第6回 t検定①
- 第7回 t検定②
- 第8回 t検定③
- 第9回 分散分析①
- 第10回 分散分析②
- 第11回 分散分析③
- 第12回 分散分析④
- 第13回 相関係数
- 第14回 Excelの使い方①
- 第15回 Excelの使い方②

#### 〔講義のすすめ方〕

各種統計ソフトの操作等をプロジェクターから提示しながら講義を行う。必要に応じて、学生自身でパソコンや電卓を使用して体験する場面も設ける予定である。

#### 〔教 材〕

教科書「心理学のためのデータ解析テクニカルブック」森敏昭・吉田寿夫（著）北大路書房  
1500円（税別）教科書は必ず購入すること。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

学期末にテストまたはレポートのいずれかを課す。評価は、この結果（約70％）に出席状況（約30％）を加味して行う。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

心理学を実践していく上で、心理統計学は必須である。そのため、心理学専攻の学生は、必ず履修することを望む。

#### 〔科目内容の位置付け〕

本講では、科目の特性上、数学、特に確率・統計が関係する。文系の学生向けに、出来る限り、数学的な専門知識はなくても理解できるよう講義を進めていく予定であるが、ある程度は、数学が関係してくることを心得ておいて欲しい。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

特になし。

科目名	心理学基礎実験演習		
単位	4	開設	半期
教員名	伊崎 純子		

#### 【講義目的】

- 1) 心理学実験の手続きや考え方を学習する
- 2) データ処理やルールに沿ったレポートの書き方を実際に体験する
- 3) レポートをルールにそって書き、メールで添付し提出できる技術を獲得する

#### 【講義内容】

- 第1回 オリエンテーション・レポートの書き方  
 第2回 [実験1] ミュラー・リヤーの錯視  
 第3回 [実験2] 大きさの恒常性  
 第4回 レポート返却 [実験1と実験2] ならびに解説①  
 第5回 [実験3] 質問紙法と尺度一向性検査を手がかりとして  
 第6回 [実験4] 一対比較法ー心理尺度の構成  
 第7回 レポート返却 [実験3と実験4] ならびに解説②  
 第8回 [実験5] 奥行知覚の手がかり  
 第9回 [実験6] 明るさの対比  
 第10回 レポート返却 [実験5と実験6] ならびに解説③  
 第11回 [実験7] 鏡像描写  
 第12回 実験デザインについて  
 第13回 レポート返却ならびに解説④  
 第14回 期末レポートの準備と提出  
 第15回 今後の課題とまとめ

#### 【講義のすすめ方】

オリエンテーションで詳細は説明するが、この講義は、2コマ連続の講義（90分×2コマ）である。2コマかけてひとつのテーマ/実験方法について概略的な講義をしたのち、決められたテーマと手続きに沿って基本的な実験を行い、心理学実験の手続きや考え方、データの処理の方法、レポートの書き方のルールなどを学ぶ。心理学の基礎的テーマについて習熟するとともに、研究の基本的手法を修得することを目指す。具体的には、知覚、認知、社会、学習、生理、臨床、人格などの領域で、基礎的な実習を行う。最後にまとめとして、各自興味のある問題を想定し、仮説と方法を計画する課題（実験デザインの作成課題）に取り組んでもらう。

#### 【教材】

教科書は講義内で使用するので必ず購入すること。  
教科書

『教材心理学』（第4版）・木下富雄編集・ナカニシヤ出版・2000円＋税

参考書（レポートを書く際に役立つと思われるもの）

『心理学実験を愉しむ』・宮原英種ほか監修・ナカニシヤ出版

『心理学実験ノート』・心理学実験ノート編纂委員会編・二瓶社

『実験とテスト＝心理学の基礎（実習編）』・心理学実験指導研究会編・培風館

『実験とテスト＝心理学の基礎（解説編）』・心理学実験指導研究会編・培風館

『心理学のための実験マニュアル』・利島保ほか編著・北大路書房

#### 【成績評価の方法・基準】

実験ごとにレポートの提出が必須。  
出席50% レポート50%で評価する。

#### 【履修のポイント・注意点】

実験という演習の性格上、遅刻するとクラスメイトに迷惑がかかり、欠席するとレポートも書けなくなるので、遅刻は認めない。またやむを得ず欠席する場合は、補講を行うようにするので、事前に教員に相談すること。無断欠席で、レポートのみを提出しても評価しない。  
※実験器具の関係上、定員は30名程度とする。認定心理士資格希望者で高年次の学生を優先するが、資格希望者は若い年次での受講が望ましい。履修者の決定は、初回授業で行う。

#### 【科目内容の位置付け】

心理学の基礎的な科目である。認定心理士科目（基礎科目：領域C 心理学実験・実習）である。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

「心理学研究法」「心理測定法」で実験計画に関わる統計の考え方などの概要を把握してから受講すると、より知識を深めることができ、実験ならびにレポート作成の体験が意義あるものとなる。

科目名	学習心理学		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	飯田 成敏		

#### 〔講義目的〕

学習とは、経験による行動変容を言う。この行動変容のメカニズムとして考えられる、2つの条件づけ（古典的条件づけとオペラント条件づけ）を、本講では主に取り上げる。半期の講義を通じて、条件づけに関する基本的な理解を目指すと共に、心理学が行動の科学と言われる所以や、行動の原因を生体内部ではなく環境におく考え方にふれてもらいたい。

#### 〔講義内容〕

- 第1回 学習心理の基礎と歴史
- 第2回 本能的行動と学習による行動
- 第3回 古典的条件づけ①
- 第4回 古典的条件づけ②
- 第5回 古典的条件づけ③
- 第6回 オペラント条件づけ①
- 第7回 オペラント条件づけ②
- 第8回 オペラント条件づけ③
- 第9回 嫌悪統制
- 第10回 選択行動
- 第11回 刺激性制御
- 第12回 行動分析学
- 第13回 単一被験体法
- 第14回 社会的学習
- 第15回 知覚運動学習

#### 〔講義のすすめ方〕

板書をしながらの講義形式で行う。必要に応じて、ビデオ等の供覧も行う。また、指定した教科書以外の参考図書を紹介や、資料の配布は適宜行う予定である。

#### 〔教 材〕

教科書「学習の心理 行動のメカニズムを探る」 実森正子・中島定彦（著）サイエンス社  
3772円（税込）教科書は必ず購入すること。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

評価は、学期末に1回行うテストの結果（約70％）に出席状況（約30％）を加味して行う。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

特になし。

#### 〔科目内容の位置付け〕

我々の日常の行動は、そのほとんどが生後の経験を通して獲得・変容したものであることから、学習心理学の理解は心と行動を考える上で非常に重要であると言える。また、行動療法は学習心理学の知識や理論に基づいた心理療法であるように、教育や臨床などの応用場面においても、学習心理学は大きな貢献をしている。そのため、心理学に関心のある学生には、学習心理学の考え方には是非ふれてもらいたい。履修にあたっては、心理学に関する予備知識は一切必要としない。むしろ、漠然と抱いている心理学に対するイメージに固執せずに学んでもらいたい。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

特になし。

科目名	発達心理学Ⅰ		
単位	2	開設	半期
教員名	田多 英興		

〔講義目的〕

発達心理学は、本来誕生から死までの生涯にわたる発達の変化を研究する領域であるが、教育学部の心理学ということで、主として青年期までの発達過程の基礎を講ずる。つまり、胎児から青年までの、さまざまな心的・行動的機能の変化過程の法則を考える。

〔講義内容〕

- 1 発達心理学とは何か
  - 1.1 発達心理学と一般心理学
  - 1.2 発達段階と発達課題
  - 1.3 発達心理学の研究手法
  - 1.4 子ども研究の意義
- 2 発達の生物学背景
  - 2.1 個体発生と系統発生
  - 2.2 霊長類の行動研究
  - 2.3 比較行動学と発達研究
  - 2.4 行動発達の種間比較
- 3 胎児期の特徴
  - 3.1 胎芽・胎児の身体発育
  - 3.2 成熟度
  - 3.3 運動機能と感覚機能の発達
  - 3.4 コンピテンス
- 4 乳児の認知と社会化
  - 4.1 乳児の視覚機能
  - 4.2 奥行き認知
  - 4.3 認知と思考の発達
  - 4.4 社会的能力の発達
- 5 乳幼児の家族関係
  - 5.1 家族関係へのアプローチの仕方
  - 5.2 母子関係と子どもの社会的・情緒的な発達
- 5.3 親のしつけ方と子どもの認知発達の関係
- 5.4 父親ときょうだいの影響
- 6 ことばの発達
  - 6.1 ことばへの開かれた存在
  - 6.2 ことば発生の基盤
  - 6.3 文法と意味の獲得
  - 6.4 リテラシーの世界
  - 6.5 ことばと自我の関係
- 7 遊びの発達
  - 7.1 遊びの発達傾向の特徴
  - 7.2 遊びの機能

- 7.3 遊びの概念
- 7.4 広い視野から見た遊び
- 8 友だち関係の発達
  - 8.1 友だち・仲間とは
  - 8.2 幼児期の中と遊び・けんか
  - 8.3 友だち関係の展開
  - 8.4 仲間集団と仲間文化
- 9 動機づけの発達
  - 9.1 動機づけとは何か
  - 9.2 内発的動機づけと外発的動機づけ
  - 9.3 動機づけ理論の色々
- 10 自我と自己の発達
  - 10.1 自我・自己の発達とは
  - 10.2 対象としての自己の知覚－乳児期
  - 10.3 自己主張と自己抑制－幼児期
  - 10.4 自己意識の分化と行動－児童期
  - 10.5 自己認識の深まりと統合－青年期
- 11 子どもの適応問題
  - 11.1 子どもの適応問題のいろいろ
  - 11.2 そのアプローチの方法のさまざま

〔講義のすすめ方〕

パワーポイントと板書による講義が主で、ほぼ一方的にしゃべりますが、時に学生諸君へ質問もします。

〔教材〕

無藤隆・高橋恵子・田島信元編 「発達心理学入門Ⅰ 乳児・幼児・児童」 東大出版会 1990

〔成績評価の方法・基準〕

成績は、毎回実施する小レポートの内容と出席点による。

〔履修のポイント・注意点〕

上級心理学コースの一つです。多少専門用語が多くなるし、やや特殊なテーマを扱います。教員志望の人は無論のこと、一般心理学あるいは生物科学の基礎教養の一つなので十分理解をしてもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕

基礎心理学AやBの上級心理学の一つです。多少専門用語が多くなるので、めげないように

して下さい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

基礎心理学 A や基礎心理学 B を受講していることが前提である。

科目名	生理心理学		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	田多 英興		

### 〔講義目的〕

心理学と生理学の間にある研究領域で、主に「脳と心」あるいは「身体と心」の問題を取り扱う。さらにやや詳しくいえば、主に動物を中心に研究をする狭義の生理心理学と人間を対象にして進める精神（心理）生理学とがあるが、本講は後者を講ずる。つまり、人間の心の変化が身体的変化とどんな対応があるかを研究する領域である。近代科学の出発点の一つであった「心身二元論」を何とかして「心身一元論」に返そうとする試みの一つとも考えられる。

### 〔講義内容〕

- 1 生理心理学とは何か
  - 1.1 生理心理学と精神生理学
  - 1.2 精神心理学の問題と方法
  - 1.3 生理心理学の関連領域
  - 1.4 生体反応の概観
  - 1.5 身体の調節に関する二つの働き
- 2 中枢神経系の活動
  - 2.1 脳波とは
  - 2.2 背景脳波と覚醒水準
  - 2.3 臨床脳波
  - 2.4 事象関連電位
- 3 自律神経活動
  - 3.1 心臓血管系の活動：心拍と血圧
  - 3.2 呼吸活動
  - 3.3 皮膚電気活動
  - 3.4 体温調節系
- 4 視覚運動系活動
  - 4.1 骨格筋活動
  - 4.2 眼球運動
  - 4.3 瞬目活動
  - 4.4 瞳孔運動
- 5 免疫・内分泌系活動
  - 5.1 神経内分泌系指標
  - 5.2 ストレス反応と免疫指標
  - 5.3 非侵襲性指標：唾液中コルチゾール・アマラーゼ

### 〔講義のすすめ方〕

教科書に沿ってのパワーポイントと板書による講義で、ほぼ一方的に喋りますが、時に学生諸君へ質問もします。

### 〔教 材〕

教科書：  
宮田洋監修 藤澤・柿木・山崎編集 「新生理心理学 1巻 生理心理学の基礎」 北大路書房 1998

参考書：  
宮田洋監修 藤澤・柿木・山崎編集 「新生理心理学 2巻 生理心理学の応用分野」 北大路書房 1997  
宮田洋監修 藤澤・柿木・山崎編集 「新生理心理学 3巻 生理心理学の新しい生理心理学の展望」 北大路書房 1998

### 〔成績評価の方法・基準〕

成績は、毎回実施する小レポートの内容と出席点による。

### 〔履修のポイント・注意点〕

上級心理学コースの一つです。多少専門用語が多くなる、特に電気などの理科の用語や解剖用語が多くなるが、あまり気にしないで、めげないようにして下さい。

### 〔科目内容の位置付け〕

基礎心理学 A や B の上級心理学の一つです。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

基礎心理学 A や基礎心理学 B を受講していることが前提である。

科目名	比較心理学		
単位	2	開設	半期
教員名	田多 英興		

### 〔講義目的〕

一般心理学（基礎心理学 A・B）では主に正常な個人の成人を対象にした心理学体系を講ずることになるが、それ以外の、異常、集団、子ども、などの研究から人間の本性を比較研究することも可能である。その中で、特に種間の比較、つまりヒトと動物の比較をして、両者が同じ基盤にあることと違う基盤にあることを明らかにして、人間の本性を考えようとするのが比較心理学の主な目的である。

- 8.1 道具使用による知性の関与
- 8.2 見て学ぶ
- 8.3 石器使用の発達過程
- 8.4 知性の進化
- 8.5 素朴な信念から科学的理解へ
- 9 内因性瞬目の系統発生的研究
- 9.1 動物の瞬目
- 9.2 霊長類の瞬目における系統差
- 9.3 夜行性と昼行性
- 9.4 樹上生活と地上生活

### 〔講義内容〕

- 1 比較心理学とは
  - 1.1 一般心理学と比較心理学
  - 1.2 動物心理学の歴史
  - 1.3 進化心理学
  - 1.4 比較認知科学
  - 1.5 霊長類学の誕生
- 2 チンパンジーの暮らしと文化
  - 2.1 Ape と Monkey
  - 2.2 道具を使うチンパンジー
  - 2.3 道具に文化差がある
  - 2.4 文化の伝承
- 3 親子のきずな
  - 3.1 アイの子育て訓練
  - 3.2 3者関係による参与観察法
  - 3.3 新生児性微小、模倣、発声
  - 3.4 真似て学ぶ
- 4 子育て支援
  - 4.1 母系社会での父親の役割
  - 4.2 長い子育て期間と支援体制
  - 4.3 仲間の拡大
- 5 コミュニケーション
  - 5.1 見詰め合う、微笑みあう
  - 5.2 チンパンジーの音声とヒトの音声
  - 5.3 指差し、視線の理解
- 6 ことばと数の理解
  - 6.1 アイプロジェクト
  - 6.2 数字の短期記憶
  - 6.3 カラーストループによる漢字の理解
  - 6.4 お絵かき
- 7 自己認識と他者理解
  - 7.1 鏡映像の理解は
  - 7.2 心の理論へ
- 8 知性と教育

### 〔講義のすすめ方〕

パワーポイントと板書による講義以外に、チンパンジー研究のビデオを使う。時に学生諸君へ質問もします。

### 〔教 材〕

参考書：

- 1) 藤田和生著 「比較認知科学への招待」 ナカニシヤ出版 1998
  - 2) 松沢哲郎著 「進化の隣人 ヒトとチンパンジー」 岩波新書 2002
  - 3) 長谷川寿一・長谷川真理子著 「進化と人間行動」 東大出版会 2004
- 他の関連参考書はその都度示す。

### 〔成績評価の方法・基準〕

成績は、毎回実施する小レポートの内容と出席点による。

### 〔履修のポイント・注意点〕

上級心理学コースの一つです。動物に興味のある人は特に歓迎する。

### 〔科目内容の位置付け〕

基礎心理学 A と基礎心理学 B の上級心理学の一つです。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

基礎心理学 A や基礎心理学 B を受講していることが前提になる。

科目名	人格心理学		
単位	2	開設	半期
教員名	伊東 孝郎		

#### 【講義目的】

人格（パーソナリティ）とは何か。持って生まれた気質をもとに、さまざまな経験が加わってできあがった、その人の特徴的な行動や考えなどを決定するものである。また外部の観察者の視点に立つならば、その人の行動や考えに共通するパターンであるといえる。「性格」という語も、ほぼ同じような意味で使われることが多い。

本講義では、人格について多面的に学習し、人格に関する基礎的知識を身につけると同時に、自身を含めた人間の理解を深めることを目的とする。

#### 【講義内容】

人格について多角的に学ぶ本講義では、過去から現在に至る人格理論と研究の成果、人格理解の方法、人格の形成過程、および人格に関する問題等、幅広く学ぶこととする。

#### 【講義のすすめ方】

1. 人格、性格、気質
2. 人格理論いろいろ
3. 人格理解の方法
4. 類型論
5. 特性論
6. 人格の形成過程
7. 人格と家族関係
8. 人格と人間関係
9. 適性とは
10. 人格と問題行動
11. 人格の異常と障がい
12. 人格の適応的变化
13. 人格と文化
14. まとめ
15. 定期試験

#### 【教材】

「性格心理学への招待・改訂版」詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊 サイエンス社 2003

その他、参考書については講義の中で適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法・基準】

成績は、学期末の試験（50％）と出席状況（50％）による。

#### 【履修のポイント・注意点】

人格について学ぶことは、ある意味、人間そのものを学ぶことと同義であるといえる。青年期の諸君にとってきわめて大切な体験になるであろうし、当然、自己理解も深まることが予想される。本講義の意義を十分に理解した上で、真摯な姿勢で受講してほしい。

#### 【科目内容の位置付け】

心理学専攻カリキュラムの中では、専攻専門科目として位置づけられる。

また認定心理士資格の選択科目 G「臨床心理学・人格心理学」の基本主題に該当する。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

「基礎心理学 A」「基礎心理学 B」をすでに受講済みのこと。したがって、実質的には2年次の以降の受講となる。

科目名	健康心理学		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	本多 麻子		

#### 【講義目的】

- 1) 健康心理学は、疾病の予防と、健康の維持・増進を目指す応用心理学のひとつである。心と身体に関連、ストレス、生活習慣病の予防、健康行動への行動変容などを中心として、健康心理学の基礎理論と実践方法について理解を深める。
- 2) 健康心理アセスメントを体験することによって、自らの心理・行動の特徴を明らかにする。この結果を活用し、心身の健康増進に関するセルフマネジメントの実践を最終目標とする。

本講義は、ストレス、生活習慣病、健康行動への行動変容などへの理解を深めることによって、心と身体の健康について学ぶ科目として位置づけられる。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

前提科目は特にないが、心理学関連科目の履修を勧める。

#### 【講義内容】

主な講義内容は以下の通りである。

- 1) 健康心理学の基礎理論
- 2) 心と身体に関連
- 3) ストレスと健康
- 4) パーソナリティと健康
- 5) 生活習慣と健康行動
- 6) 健康行動への行動変容
- 7) 健康教育
- 8) 健康心理アセスメント

#### 【講義のすすめ方】

上記の内容について講義を進める。適宜、健康心理アセスメントを行う。具体的には、関連する心理検査を実施し、その結果や解釈を小レポートとして提出する。

#### 【教 材】

資料を配布する。参考文献は授業中に紹介する。教科書は指定しない。

#### 【成績評価の方法・基準】

出席30%、レポート30%、定期試験40%として評価する。

#### 【履修のポイント・注意点】

毎回、授業時間内に小レポートを提出することによって、出席の確認とする。

#### 【科目内容の位置付け】

「認定心理士」資格申請を希望する場合は受講することが望ましい。

科目名	心身医学		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	海原 純子		

#### 〔講義目的〕

理解が深まると思われる。

心の病に悩む人が増加している。

人の健康は心と体に分けて論じられるが実際には、人の心に配慮しないでは病気は治らない。

心は体に影響し、体は心に影響する。ここでは基本的な心の病の概念を学び、自己チェックを含め日常生活や将来の仕事の現場で役立つ学問としたい。

#### 〔講義内容〕

- ・心身医学とは
- ・体の病と心の病
- ・心の病の分類
- ・脳の変調と精神障害
- ・症状の捉え方
- ・心因反応・神経症
- ・うつ病
- ・子どもの精神的問題
- ・働き盛りの精神的問題
- ・老年期の精神的問題
- ・女性の精神医学
- ・災害とストレス疾患
- ・カウンセリング

#### 〔講義のすすめ方〕

講義と共にビデオなどで実践的な心身医学を学ぶ。

#### 〔教 材〕

特に指定なし。  
そのつど印刷物配布。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

定期試験（70%）  
出席及び授業参加の姿勢（30%）

#### 〔履修のポイント・注意点〕

自分でも問題意識を持って参加して欲しい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

今後社会人として生きていく上の基礎知識としての医学を学んで欲しい。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

医学一般・課題研究とあわせて履修するとより

科目名	障がい児・者心理学		
単 位	2	開 設	集中
教 員 名	金丸 隆太		

### 【講義目的】

#### ①平易な科目内容

障がいを持つということはどういうことなのか。本人と家族の心理を理解するための知識を学ぶ。

#### ②講義の目的

自分自身や身近な人が障がいを持った時に役立つ知識を身につける。さらに将来、障がいを持つ人の援助に携わる仕事に就く際に必要なことを学ぶ。

#### ③最終到達目標

自分が障がいを持った時、他者が障がいを持っている時、その心理を適切に理解し、必要な援助を手に入れたい提供したりするための基礎知識を身につける。

### 【講義内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 様々な障がい
- 第3回 障がいと福祉サービス
- 第4回 身体障がい
- 第5回 知的障がい
- 第6回 精神障がい
- 第7回 軽度発達障がい①
- 第8回 軽度発達障がい②
- 第9回 中間テスト
- 第10回 障がいと家族
- 第11回 自分が障がいを持ったとき
- 第12回 障がい児・者の援助①
- 第13回 障がい児・者の援助②
- 第14回 障がい児・者の援助③
- 第15回 まとめとレポート課題の提示

### 【講義のすすめ方】

実際に障がいを持つ人や家族たちが登場するビデオやブログなどの視聴覚教材を用いながら、障がいを特別なことではなく、身近に感じられるように講義を進める。少人数での話し合いや質問の時間もおりませる。

### 【教 材】

教科書 指定図書は無し。授業中に適宜資料を配付する。

参考書 「発達障害白書2008年度版」日本発達障害福祉連盟・日本文化科学社・2940円

「怒りの川田さんー全盲だから見えた日本のリアル」川田隆一・オクムラ書店・1470円

参考書は必読ではないが、当事者と家族以外にはわかりにくい「発達障害」についての本を一冊、障がいを持つ人自身が書いた本を一冊示した。これらを例に、自身で色々な関連書籍を手にとってほしい。

### 【成績評価の方法・基準】

テスト 学期1回（中間）

レポート 学期1回

判定基準 テスト30%、レポート50%、出席20%

### 【履修のポイント・注意点】

授業中に小人数での話し合いの時間を取るので、自分の意見を積極的に他人と交換したいという学生に履修してほしい。集中講義なので予習よりも復習を重視する。障がいについて授業中に関心を持った話題をインターネットで検索し、様々なウェブサイトを見ることが復習の第一として勧められる。

### 【科目内容の位置付け】

心理学は非常に幅の広い学問であり、心理学全体から見ればこの科目は応用的な科目である。しかし障がいに関する心理学という点では入門編の授業なので、特に前提となる知識や科目はない。

### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

前提科目はないが、関連科目は心理学関連の科目全てである。心理学を特定の狭い学問と見なさないう、この科目も含めた様々な心理学の科目を履修し、心理学の全体を見渡してほしい。そうすれば将来、障がいを持つ人に関わる時にこの科目で学んだ内容をさらに効果的に活かすことが出来る。それは障がい者を援助する仕事の場合もあるし、そうではない職種の場合もあろう。

科目名	医療心理学		
単位	2	開設	半期
教員名	田多 英興		

#### 【講義目的】

医療場面に対する心理学的貢献には伝統的に多くの接近法があるが、ここでは主に行動科学的接近法を中心に講義する。

#### 【履修のポイント・注意点】

上級心理学コースの一つです。専門用語が多くなる、特に病気や医療関係の用語が多くなるので注意すること。

#### 【講義内容】

1. 医療の行動科学とは何か
2. こころのモデル
3. 痛みの生理学と心理学
4. ストレスのメカニズムとコーピング
5. 心理学的介入
6. 患者とのコミュニケーション
7. 病気と性格・行動パターン
8. Quality of Life
9. セルフケアの支援
10. ライフスタイルと健康
11. 障害の受容
12. チーム医療の展開
13. 21世紀における医療の行動科学

#### 【科目内容の位置付け】

基礎心理学 A や B の上級心理学の一つで、臨床心理学の基礎になる領域です。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

基礎心理学 A や基礎心理学 B を受講していることが前提になる。

#### 【講義のすすめ方】

教科書を中心に、パワーポイントと板書による概説を主体とするが、時に実習課題も課す。

#### 【教材】

教科書：

山田富美雄監修 津田彰編 「医療の行動科学 II 医療行動科学のためのカレント・トピックス」 北大路書房 2002

参考書：

- 1) 山田富美雄監修 山田富美雄編 「医療の行動科学 I 医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー」 北大路書房 1997
- 2) 岡堂哲雄編 「健康心理学」 誠信書房 1991
- 3) 島井哲志編 「健康心理学」 陪風館 1997
- 4) 木村登紀子著 「医療・看護の心理学 描写と家族の理解とケア」 川島書店 1999

#### 【成績評価の方法・基準】

成績は、毎回実施する小レポートの内容と出席点、および実習課題の内容による。

科目名	カウンセリング論		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	伊東 孝郎		

#### 〔講義目的〕

心理学の実践という、受講生諸君が真っ先に思い浮かべるのは「カウンセリング」ではないだろうか。もともとは「助言」を意味する語であるが、わざわざ片仮名で表示することからも明らかのように、それ以外の意味を併せ持った、独自の語となっている。

本講義では、カウンセリングとはどのような理論に基づき、どのように展開されるものであるかを学ぶことを目的とする。

#### 〔講義内容〕

わが国では「カウンセリング」というと、カール・ロジャースの理論に基づく実践を指すことが多い。そこで本講義では、前半でロジャースの思想、理論と実践について学び、その後、他のカウンセリング理論や、さまざまな実践について学ぶこととする。

#### 〔講義のすすめ方〕

1. カウンセリングとは
2. ロジャースの生涯と思想
3. ロジャースのパーソナリティ理論
4. パーソン・センタード・アプローチ1
5. パーソン・センタード・アプローチ2
6. カウンセリングの理論？—精神的分析的カウンセリング
7. カウンセリングの理論？—行動療法的カウンセリング
8. カウンセリングの理論？—交流分析(TA)
9. 家族カウンセリング
10. プリーフ・セラピー
11. エンカウンター・グループ
12. スクール・カウンセリングとは
13. 事例研究
14. まとめ
15. 定期試験

#### 〔教 材〕

「ロジャース クライアント中心療法」佐治守夫・飯長喜一郎編 有斐閣新書 1983  
 その他、参考書については講義の中で適宜紹介する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

成績は、学期末の試験（50％）と出席状況（50％）による。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

カウンセリングという専門的な援助方法の基礎に当たる講義であり、本講義を受講しただけで、カウンセリングが行えるようになるわけではない。専門的な援助技法は、適切なトレーニングと実践を通じて身につけるものである。ただ、基礎とはいえ、カウンセリングという「こころの深層」に触れる領域を学ぶこととなる。そこではさまざまな場面で、自己理解を求められることになる。自らを見つめる覚悟をした上で、受講していただきたい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

カウンセリングは、対人援助の心理学的実践の代表である。学問の分野としては、主として臨床心理学の領域に位置するが、精神医学や、発達心理学等さまざまな心理学領域とも密接なかわりを持つ。また3年次以降に設置されている、臨床心理学領域の各科目（臨床心理学検査実習Ⅰ・Ⅱ、臨床心理学相談実習Ⅰ・Ⅱ、精神分析学、交流分析、臨床心理実務倫理、芸術療法、心理療理論）の基礎ともいえる科目である。心理学専攻カリキュラムの中では、専攻専門科目として位置づけられる。認定心理士資格の選択科目G「臨床心理学・人格心理学」の基本主題に該当する。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

「基礎心理学A」「基礎心理学B」「臨床心理学」をすでに受講済みであること。

科目名	環境心理学 I		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	平田 乃美		

〔講義目的〕

- 1) 人間-環境の相互作用の視点から、人間の知覚・認知・行動の特性と背景を理解する
- 2) 心理学領域で発展してきた環境の測定・評価の手法について学ぶ
- 3) 1)、2)を生活空間の改善やデザインに応用するための環境心理学的視点について考える

〔講義内容〕

環境心理学は、心理学の諸理論及び心理学の領域で発展してきた測定手法を生かして、環境と人間行動との関わりを明らかにしようとする学際的な研究領域です。この領域では、人間の行動に効果をもつ「環境」について、個々の要因分析とともに、全体としての効果やその文脈が検討されます。本授業では、人間-環境の相互作用から生じる人間の知覚・認知・行動の特性と背景を学び、それらの知見を生活空間の改善や景観のデザインに応用するための環境心理学的視点・手法について考えます。

〔授業計画〕

研究史

- (1) 人間と環境
- (2) 環境心理学の諸相

環境の認知

- (1) 感覚・知覚・記憶の基礎知識
- (2) 視覚の特性を経験する

環境の測定・評価

- (1) 測定・評価のための基礎知識
- (2) SD法による景観評価

錯視体験

- (1) エイムズの部屋

環境の経験

- (1) 閉眼歩行
- (2) パーソナルスペース
- (3) 身体部位の文字認識

環境との対話

- (1) 場所との対話
- (2) サウンドスケープ

〔講義のすすめ方〕

環境の測定、評価、記述等の技法については、一部実習形式を取り入れて学びます。実習課題には数名程度のグループで取り組みますが、報

告書は各自作成・提出します。

〔教 材〕

授業で紹介されたテーマについて、更に関心がある場合は、毎回の配付資料に掲載される「参考文献」を参照してください。

〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験 70% (相対評価)  
課 題 30% (絶対評価)

〔履修のポイント・注意点〕

〔出席について〕

出席確認はカード型端末機のみで行い、学生証不携帯は欠席扱いとなります。

〔課題について〕

実施時間に提出した場合のみ、成績評価対象とします。未提出への対応策はありません。

〔成績について〕

評価基準の個別対応は一切ありません。個別の結果について、成績発表前の問い合せには返答できません。評価内容についても、成績調査期間外に調べることはできません。

〔資料について〕

講義資料のスライド(動画、写真等)を複製してお譲りすることはお断りしています。再度確認したい資料があれば、授業終了後、機器の電源を切る前に声を掛けてください。

〔科目内容の位置付け〕

「認定心理士」資格申請では、「選択科目」(社会心理学・産業心理学)に区分される科目です。

科目名	環境心理学Ⅱ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	平田 乃美		

#### 〔講義目的〕

- 1) 人間 - 環境の相互作用の視点から、人間の知覚・認知・行動の特性と背景を理解する
- 2) 心理学領域で発展してきた環境の測定・評価の手法について学ぶ
- 3) 1)、2) を生活空間の改善やデザインに応用するための環境心理学的視点について考える

#### 〔講義内容〕

環境心理学は、心理学の諸理論及び心理学の領域で発展してきた測定手法を生かして、環境と人間行動との関わりを明らかにしようとする学際的な研究領域です。この領域では、人間の行動に効果をもつ「環境」について、個々の要因分析とともに、全体としての効果やその文脈が検討されます。本授業では、人間 - 環境の相互作用から生じる人間の知覚・認知・行動の特性と背景を学び、それらの知見を生活空間の改善や景観のデザインに応用するための環境心理学的視点・手法について考えます。

#### 〔授業計画〕

##### 空間心理学

- (1) 空間認知
- (2) 認知地図

##### 色彩心理学

- (1) 色彩とはなにか
- (2) 色彩の知覚
- (3) 色彩のイメージと心理的効果

##### 実験美学

- (1) 美しさの評定
- (2) デザインの性質と情動的評価

##### 環境の評価

- (1) タイトスペース
- (2) 都市のイメージ

##### 環境の認知

- (1) 認知地図
- (2) 距離認知

#### 〔講義のすすめ方〕

環境の測定、評価、記述等の技法については、一部実習形式を取り入れて学びます。実習課題には数名程度のグループで取り組みますが、報告書は各自作成・提出します。

#### 〔教 材〕

授業で紹介されたテーマについて、更に関心がある場合は、毎回の配付資料に掲載される「参考文献」を参照してください。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験 70% (相対評価)  
課 題 30% (絶対評価)

#### 〔履修のポイント・注意点〕

##### 〔出席について〕

出席確認はカード型端末機のみで行い、学生証不携帯は欠席扱いとなります。

##### 〔課題について〕

実施時間に提出した場合のみ、成績評価対象とします。未提出への対応策はありません。

##### 〔成績について〕

評価基準の個別対応は一切ありません。個別の結果について、成績発表前の問い合せには返答できません。評価内容についても、成績調査期間外に調べることはできません。

##### 〔資料について〕

講義資料のスライド(動画、写真等)を複製してお譲りすることはお断りしています。再度確認したい資料があれば、授業終了後、機器の電源を切る前に声を掛けてください。

#### 〔科目内容の位置付け〕

「認定心理士」資格申請では、「選択科目」(社会心理学・産業心理学)に区分される科目です。

科目名	社会科・公民科教育法		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	熊田 禎介		

### 〔講義目的〕

この講義は、中学校「社会」および高等学校「公民」の教員免許状の取得希望者のために、開講する教職科目である（なお、高等学校「公民」の教員免許状を取得するためには、必ず履修しなくてはならない教職科目である）。本講義の目的は、中等社会科公民的分野の持つ基本理念や各領域・科目の目標・内容・方法について検討を加えること、そしてこれらの知識を基に具体的な教材研究の方法を学ぶことを通して、社会科・公民科教員として最低限必要な知識と技能を習得してもらうことである。

### 〔講義内容〕

社会科・公民科教育法の講義は、以下の予定に基づき進められる。

1. 社会科・公民科教育法で何を学ぶのか（オリエンテーション）
2. 中等社会科公民的分野の基本理念
3. 中学校社会科公民的分野の目標・内容・方法
4. 高等学校公民科の目標・内容・方法
5. 中学校社会科公民的分野・高等学校公民科における教材研究の方法
6. 総括

### 〔講義のすすめ方〕

基本的には、講義概要を示したレジュメを基に講義形式で進めるが、適宜資料を配付し、教科書や参考書を参照する。また、各項目については、実践例を参考としながら、各領域・科目の目標・内容・方法を検討する。必要に応じて、学習課題に基づく意見交換や活動なども取り入れ、中等社会科公民的分野において育成すべき社会観や価値観、並びに教職としての専門性を獲得するという本講義の目的に資するため、将来の教職を目指す受講者自らが抱く課題意識を積極的に表現する機会を多く設定したい。さらに、中学校社会科公民的分野および高等学校公民科の教育内容を基に、テーマ・題材を設定し、グループで教材研究の方法を具体的かつ実践的に学ぶ活動を取り入れる。

### 〔教 材〕

教科書 文部省編『中学校学習指導要領（平

成10年12月）解説－社会編－』

（大阪書籍、平成11年9月）

文部省編『高等学校学習指導要領解説 公民編』

（実教出版、平成11年12月）

参考書 講義時に適宜指示する。

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、平常点、模擬授業、試験による総合評価。

○出席について、3分の2以上の出席を満たした者を評価対象とする。

○遅刻・早退は、原則として欠席と見なす。

○平常点について、講義毎に課す小課題並びに講義中の学習課題への取り組み態度を評価対象とする。

○試験について、学年末に実施する。

### 〔履修のポイント・注意点〕

中学校社会科・高等学校公民科教員として教職に就くことを強く希望し、かつ近年の教員採用試験の難化を乗り越えて教職を目指す覚悟を有する学生の受講を前提として講義を進める。したがって、単に教員免許だけを取得するという安易な考えで履修しないこと。

### 〔科目内容の位置付け〕

教職科目の中では、具体的な教科の授業に関わるという意味で実践的な科目である。一方で、他の教職科目で培った、教育という営為のあり方や現代の教育問題など、教育の本質に関わる学習成果を前提として成り立つ科目でもある。抽象から具体、そして抽象へ。本講義で学ぶ具体的な授業のあり方から、教育一般に通ずる問題、人間形成に関わる問題を考えてもらいたい。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目 他の教職科目。

関連科目 社会科教育法Ⅰ、社会科教育法Ⅱ、社会科教育法Ⅲ、公民科教育法。

なお、本科目では、教育実習を行う際の基本的な内容を扱っているため、教育実習に行く前に履修すること。

科目名	公民科教育法		
単位	2	開設	半期
教員名	熊田 禎介		

### 〔講義目的〕

この講義は、高等学校「公民」の教員免許状を取得するためには、必ず履修しなくてはならない教職科目である。本講義の目的は、高等学校公民科の目標・内容・方法をふまえた上で、学習指導案作成並びに模擬授業を実施し、公民科教員として必要な技能を実践的に習得することである。

### 〔講義内容〕

公民科教育法の講義は、以下の予定に基づき進められる。

1. 公民科教育法で何を学ぶのか  
(オリエンテーション)
2. 模擬授業の計画
3. 過去の実践例の検討
4. 学習指導案作成の実際
5. 模擬授業の実施と評価・検討
6. 総括

### 〔講義のすすめ方〕

基本的には、講義概要を示したレジュメを基に講義形式で進めるが、適宜資料を配付し、教科書や参考書を参照する。また、各項目については、実践例を参考としながら、各科目の目標・内容・方法を検討する。必要に応じて、学習課題に基づく意見交換や活動なども取り入れ、公民科教育が育成すべき社会観や価値観、並びに教職としての専門性を獲得するという本講義の目的に資するため、将来の教職を目指す受講者自らが抱く課題意識を積極的に表現する機会を多く設定したい。さらに、公民科の教育内容を基に、各自が学習指導案作成を行い、それに基づき模擬授業を行う。この模擬授業またはプレゼンテーションの様子、そして学習指導案を、生徒役である受講学生から評価してもらう形式をとる。

### 〔教 材〕

教科書 文部省編「高等学校学習指導要領解説 公民編」(実教出版、平成11年12月)

参考書 講義時に適宜指示する。

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、平常点、模擬授業、試による総合評価。

○出席について、3分の2以上の出席を満たした者を評価対象とする。

○遅刻・早退は、原則として欠席と見なす。

○平常点について、講義毎に課す小課題並びに講義中の学習課題への取り組み態度を評価対象とする。

○模擬授業について、学習指導案・模擬授業の様子を評価対象とする。

○試験について、学年末に実施する。

### 〔履修のポイント・注意点〕

高等学校公民科教員として教職に就くことを強く希望し、かつ近年の教員採用試験の難化を乗り越えて教職を目指す覚悟を有する学生の受講を前提として講義を進める。したがって、単に教員免許だけを取得するという安易な考えで履修しないこと。

### 〔科目内容の位置付け〕

教職科目の中では、具体的な教科の授業に関わるという意味で実践的な科目である。一方で、他の教職科目で培った、教育という営為のあり方や現代の教育問題など、教育の本質に関わる学習成果を前提として成り立つ科目でもある。抽象から具体、そして抽象へ。本講義で学ぶ具体的な授業のあり方から、教育一般に通ずる問題、人間形成に関わる問題を考えてもらいたい。

### 〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目 他の教職科目。

関連科目 社会科教育法Ⅰ、社会科教育法Ⅱ、社会科教育法Ⅲ、社会科・公民科教育法。

なお、本科目では、教育実習を行う際の基本的な内容を扱っているため、教育実習に行く前に履修すること。

科目名	保育実習の事前事後指導(1)/ 保育実習の事前指導(施設)		
単 位	0	開 設	半期
教 員 名	川瀬 善美		

#### 【講義目的】

保育実習Ⅰには、保育所における実習と居住型児童福祉施設での実習の2つがある。

ここでは、居住型児童福祉施設の実習の事前事後指導について記載する。

居住型児童福祉施設等の生活に参加することにより、子ども(知的障害者)への理解を深めるとともに、居住型児童福祉施設等の機能と保育士の職務について事前に学ぶ。

また実習後に行う事後指導においては実習で得られた知識・技術を体系化し、保育士となるための自覚を深める。全体発表会(予定)では、それを踏まえ後輩にアドバイスすると共に、今後より望ましい保育者像に近づくよう努力する。

なお、保育所の実習の自薦事後指導については「保育実習の事前事後指導」のシラバスも合わせて参照のこと

#### 【講義内容】

○居住型児童福祉施設等における実習の事前指導

1. 実習予定施設について理解する
2. 養護の一日の流れを理解する
3. 利用児者の観察やかかわり方、ニーズを把握する事について理解する・援助計画を理解する
4. 生活援助の方法、養護技術を習得する・保護者・家庭とのコミュニケーションの方法を理解する
5. 地域社会とのかかわり方について理解する
6. 記録のとり方を理解する
7. 安全・及び疾病予防について理解する
8. 保育士としての倫理について理解する
9. 児童福祉施設の現状と課題 乳児院
10. 児童養護施設
11. 知的障害児施設
12. 知的障害者更生施設
13. 肢体不自由児施設
14. 重症心身障害児施設
15. 盲ろうわ児施設
16. まとめ

#### 【講義のすすめ方】

各時間毎に講義内容で揚げた項目について解説を行う。又必要に応じて実習先毎に少グループでの討論を行う。

#### 【教 材】

必要に応じて適時指示する

#### 【成績評価の方法・基準】

必要な書類・レポート等の提出状況及び受講態度を加味し評価を行う。

各講義については、担当教員がそれぞれ評価し、総合評価する。単位付与は3年次以降となる。

なお、一度でも事前指導を欠席した学生には、保育実習の参加を認めない。

また、保育実習に参加しなかった場合や事後指導を欠席した場合、単位は付与しない。

#### 【履修のポイント・注意点】

毎回出席を原則とし、欠席・遅刻等については事前に書面をもって連絡のこと。無断欠席があった場合は不可とする。

2から3年次の2年連続での履修となる。

#### 【科目内容の位置付け】

実習に参加するために必要な単位数・及び教科目を各自確認のこと。

#### 【前提・関連科目(科目間関連の内容)】

保育士関係科目全般。

科目名	保育実習の事前事後指導		
単 位	1	開 設	半期
教 員 名	(施設) 川瀬善美 (保育所) 高橋美保		

### 【講義目的】

保育実習Ⅰと連動しており、保育士資格を取得する者は必ず履修しなければならない。

内容に、「居住型児童福祉施設等における実習の事前事後指導」と「保育所における実習の事前事後指導」を含む。ここでは、「保育所における実習の事前事後指導について述べる。

事前指導では、保育実習の意義を学び、実習生としての心構えを促し、実習への意欲や意識を高める。児童福祉施設としての保育所の目的や機能、そこで生活する乳幼児の日常と保育士としての役割や職業倫理、さらには子どもの最善の利益の具体化などについて学ぶ。

これまでに学習してきた教科理論を基礎として、保育現場での実践に活かす応用力を養うため、指導計画の立案や教材研究なども行う。

事後指導では、実習で得られた知識や技術を体系化し、4年制大学卒業の保育士としての自覚を深め、ふさわしい質の高い保育者養成を目指す。また、実習報告会(予定)などを通し、事後指導での振り返りを踏まえ、国家資格として現在求められている保育者像に近づくよう、自己研鑽に努める。

### 【講義内容】

保育実習Ⅰにおける保育所における実習の事前事後指導

#### 事前指導

- 第1回 保育実習の意義、目的、内容を理解する
- 第2回 実習施設の概要を理解し、保育所での一日の流れと生活の日課を知る
- 第3回 実習生としての心構えを培う
- 第4回 実習の課題を明確化する
- 第5回 実習記録の意義、方法を理解し、書き方を身に付ける
- 第6回 子どもとの関わりや観察を通して、乳幼児の発達を理解する
- 第7回 保育計画・指導計画を理解する
- 第8回 指導計画を立案する①
- 第9回 指導計画を立案する②
- 第10回 教材を研究する 遊びの展開と指導方法
- 第11回 施設の実際(特別講義)
- 第12回 保育士としての職業倫理について学ぶ

### 事後指導

第13回 事後指導(実習の振り返り)

### 【講義のすすめ方】

講義の内容にそって進めるが、先輩(4年生)や卒業生の体験談を聞いたり、自分達で準備したり、調べたことを発表しあう機会も設ける。

### 【教 材】

白鷺大学発達科学部保育所実習ガイドブック  
保育所実習ノート  
保育所保育指針

### 【成績評価の方法・基準】

出席状況、受講態度、授業への取り組み(提出物等を含む)で評価する。

保育実習Ⅰにおける事前事後指導は、施設実習と保育所実習の担当教員がそれぞれ評価し、そのうえで総合評価する。単位の付与は、3年次以降となる。

### 【履修のポイント・注意点】

全回出席を原則とする。

欠席や遅刻等については、事前に書面で連絡すること。

2・3年次の2年連続での履修となる。

全体での講義、自己学習、グループ学習など、状況に応じて授業の形態が変わる。

主体的に取り組み、実習にむけての自己の意識や意欲を高めていくことが求められる。

履修にあたっての注意事項及び一定の条件については、「教育職員免許状および資格取得の手引き」で確認すること。

### 【科目内容の位置付け】

保育士資格取得のための重要な科目である。

### 【前提・関連科目(科目間関連の内容)】

既習の教科全ての知識や技能が基礎となる。

科目名	保育実習Ⅰ		
単 位	4	開 設	実習
教 員 名	(施設) 川瀬善美 (保育所) 高橋美保		

#### 〔講義目的〕

保育士資格取得を志望する学生は、必ず履修しなければならない。

保育実習Ⅰの目的は、大学において学んだ理論や知識、技術を、保育現場で体験することにある。

理論から実践という流れを通して、体験的に保育や養護について学び、将来の保育士としての自覚を深め、必要な資質の向上に努めたい。

#### 〔講義内容〕

1. 児童福祉施設の内容や機能を理解する
2. 教科全体の知識や技術を基礎にして、総合的な応用力を養う
3. 保育士としての職業倫理を構築する
4. 子どもへの理解を深める

本学では、保育所における実習11日間、及び居住型児童福祉施設等（以下施設という）での実習11日間、計22日間の実習である。実習期間中は、保育実習先で指導を受けることが前提となる。

授業の内容は、保育所における実習、施設における実習、合せて4単位である。

#### 〔講義のすすめ方〕

1. 事前指導は講義、演習形式ですすめる。
2. 実習は各施設および保育所で行う。
3. 事後指導は、他者の実習体験報告を聞いて学ぶ。

#### 〔教 材〕

教材については、実習先で指示されたものを使用するので、実習先でのオリエンテーション等で確認すること。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

保育実習先による「保育実習評価票」での評価と、「保育実習ノート」の内容を、総合的に評価する。

保育実習に参加しなかった場合や、実習後の「保育実習の事前事後指導」を欠席した場合は、単位付与はない。2から3年次の連続実習科目となるため、単位付与は3年次以降となる。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

「保育実習の事前指導」を受講した者が履修できる。

#### 〔科目内容の位置付け〕

保育士資格取得のための重要な科目である。

学生としての自覚を持ち、責任と情熱をもった実習態度で臨むことが求められる。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

全ての教科目

科目名	保育実習Ⅱ		
単 位	2	開 設	実習
教 員 名	高橋 美保		

### 〔講義目的〕

保育実習Ⅰをふまえ、保育所における責任実習を通して、乳幼児の生活と発達についてより一層の理解を深める。また、保育者の業務や役割を把握し、保育の展開方法や技術を実践しながら学ぶ。さらに、保育所の置かれている今日的な状況について、その社会的役割や機能に対する理解を深めると共に、保育実習Ⅱでは理論と実践の統合を体験的に学ぶ。

### 〔講義内容〕

1. 保育所の概要や現状を理解し、取り組んでいる課題について学ぶ
2. 子ども・家庭・保育者の関係や、連携の取り方についての理解を深める
3. 保育の指導計画を立案し、そのいかし方や評価についての工夫を学ぶ
4. 保育における実践記録のあり方を学ぶ

### 〔講義のすすめ方〕

1. 事前指導（3回）
  - ① 保育所の社会的役割や機能などについて（子育て支援）
  - ② 責任実習の指導案作成
  - ③ 教材研究
2. 実習園でのガイダンス
3. 実習での受動的な理解
  - ① 保育所の概要理解
  - ② 子ども・親・保育者関係の観察と理解
4. 実習での能動的な理解
  - ① 集団としての保育の生活内容と生活リズムの整備
  - ② 家庭や地域社会との関係の実践的理解
  - ③ 保育指導計画の理解と、計画・実践・評価の工夫
  - ④ 実習日誌の記録
5. 他者の実習体験報告を聞いて学ぶ

### 〔教 材〕

保育所実習ガイドブック（白鷗大学発達科学部編）

### 保育所保育指針

参考書、資料などは、ガイダンス時に紹介する

### 〔成績評価の方法・基準〕

実習園からの評価表、実習日誌、出席状況から総合的に評価する。

### 〔履修のポイント・注意点〕

繰り返しのきかない限られた時間を、最善の方法で有効に実習を行わなければならない。そのためには、計画を立て、実行し、可能な限り子ども理解のための観察を試みるなど、自己学習に努め、2度目の実習に臨む態勢づくりを心がける。

健康に留意し、担当保育士の指導を素直に受けながら、積極的に実習に望む姿勢が求められる。

履修にあたっての注意事項及び一定の条件については、「教育職員免許状および資格取得の手引き」で確認すること。

### 〔科目内容の位置付け〕

実習の参加要件に必要な単位数や教科目を、各自確認しておくこと。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

保育士関連科目全般  
遊びの具体例などの情報を入手し、習熟しておくこと。さらに、遊びと5領域の関連について理解を深めておくこと。

科目名	保育実習Ⅲ		
単 位	2	開 設	実習
教 員 名	川瀬 善美		

〔講義目的〕

1. 児童福祉施設、その他の社会福祉施設の養護を実践し、保育士として必要な資質・能力・技能を修得する。
2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子どもと家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育て支援を行うために必要とされている能力を養う。

〔科目内容の位置付け〕

保育士資格関連科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

保育実習Ⅰ

〔講義内容〕

1. 養護全般に参加し、養護技術を修得する。
2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を修得する。特に発達の遅れや生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その対応方法について学ぶ。
3. 援助計画を立案し、実践する。
4. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に学ぶ。
5. 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について学ぶ。
6. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。
7. 保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
8. 児童福祉施設等の保育士に求められる資格・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。

〔講義のすすめ方〕

実習の事前指導としては各時間ごとに講義内容に揚げた項目について解説を行う。また必要に応じてグループ討論や、施設見学等を行う。事後指導としては、実習についての報告会、指導を行う。

〔教 材〕

必要に応じて指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

保育実習Ⅲの実習施設からの実習評価、保育実習Ⅲの実習ノート、事前事後指導の出席状況等を総合的に勘案し評価を行う。

〔履修のポイント・注意点〕

保育士資格関連科目であるので、前回出席を求める。

科 目 名	社福祉援助技術現場実習指導(1)		
単 位	0	開 設	半期
教 員 名	川瀬 善美		

#### 〔講義目的〕

目を必ず取得しなければならない。

日常生活を送る上で様々な困難を抱える人々を誰が、何処で、どのように、援助すればよいか。社会福祉の知識・理論を実習体験を通じて検証するにあたり、まず実習の意義と目的について基本的な理解を深め、本学の現場実習に対する教育理念と取り組み方法について指導する。現場実習である各種の社会福祉機関や、社会福祉施設の現状と課題を学んだ上で、社会福祉援助技術現場実習につなげていきたい。

#### 〔講義内容〕

1. 機関・施設の機能と役割を理解する。
2. サービス利用者の生活とニーズについて理解する。
3. サービス利用者の人権擁護について理解する。
4. ソーシャルワーカーの仕事と倫理について理解する。
5. 社会福祉士の法的規定について理解する。
6. 自分自身の資質と課題について理解する。

#### 〔講義のすすめ方〕

実習オリエンテーション。

視聴覚学習に関する指導。

現場体験学習および見学実習に関する指導。

巡回指導。

実習記録に基づく実習総括レポートの作成に関する指導。

昭和62年、厚生省告示第203号に定める各施設についての解説。

社会福祉援助技術現場実習マニュアル・実習記録ノートに基づき指導を行う。

#### 〔教 材〕

社会福祉六法2006年度版 みらい

#### 〔成績評価の方法・基準〕

講義には毎回必ず出席のこと。

理由ない欠席は実習に参加させない。

評価についてはレポート提出等によって評価を行う。

#### 〔科目内容の位置付け〕

社会福祉援助技術現場実習を行うためには本科

科目名	社会福祉援助技術現場実習指導		
単 位	4	開 設	半期
教 員 名	川瀬 善美		

#### 【講義目的】

1. 社会福祉援助技術現場実習の意義について理解させる。
2. 社会福祉援助技術現場実習を通じて、本学で学んだ知識、技術等を具体的かつ実際に理解できるように指導する。
3. 実践的な技術等を会得できるように指導する。
4. 福祉に関する相談援助の専門職としての自覚を促し、専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題の把握等、総合的に対応できる能力を修得できるよう指導する。

#### 【講義内容】

1. 実習オリエンテーション
2. 視聴覚学習
3. 現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種福祉サービスの利用体験を含む）
4. 社会福祉援助技術現場実習巡回指導
5. 実習記録に基づく実習総括レポートの作成
6. 実習の評価全体総括会

#### 【講義のすすめ方】

1. 社会福祉援助技術現場実習への自己トレーニング計画の策定
2. 社会福祉実践現場における実践の仕組みの理解
3. 現場実習に入っても困らない直近の社会福祉政策の動向の理解
4. ボランティア体験の推奨
5. プレ実習
6. 社会福祉実践と資格制度の理解
7. 実習におけるルールと社会福祉実践の倫理原則

#### 【教 材】

必要に応じて指示し、また資料を配布する。

#### 【成績評価の方法・基準】

実習記録の提出状況・内容、授業の出席状況・態度等を勘案し総合的に評価を行う。

#### 【履修のポイント・注意点】

社会福祉援助技術現場実習を有効にかつ成果も多いものにするため主体的な授業参加を望む。

#### 【科目内容の位置付け】

社会福祉士受験資格取得必修

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

社会福祉援助技術現場実習

科目名	社会福祉援助技術現場実習		
単 位	4	開 設	実習
教 員 名	川瀬 善美		

〔講義目的〕

- 1) 現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「専門知識」「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
- 2) 上記の「知識」「技術」を実際に活用し、相談援助業務に必要な資格・能力・技術を習得する。
- 3) 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた行動ができるようにする。
- 4) 具体的体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し、理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5) 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。

〔講義内容〕

1. 実習生みずから健康管理を行う。
2. 実習ノートの記載などを通し、記録の記載について学ぶ。
3. 利用者を理解し、そのニーズを把握する能力を高める。
4. 利用者及び関係者、施設・機関・団体等の職員やボランティアとの基本的なコミュニケーションや人との付き合いなど円滑な人間関係を形成する能力を高める。
5. 利用者やその関係者と援助関係を作る能力を強める。
6. 利用者やその関係者の問題解決能力を高めるように援助する能力を高める。
7. 福祉専門職として職業倫理や職員としての規定を学び、組織の一員として仕事を計画し責任をはたす能力を強める。
8. 地域（コミュニティ）への働きかけについて学び、援助能力を強める。
9. 実習生自らを客観視し、解決するべき自己の課題を明確化し、理解を深める。

〔講義のすすめ方〕

配属された施設・機関・団体に於いて、本学の定める規定に基づいて23日間の実習を行う。

〔教 材〕

本学が作成した「社会福祉援助技術現場実習の

手引き〕

〔成績評価の方法・基準〕

学内での実習への取り組む態度、実習先での評価及び実習後の実習事後指導に於ける実習生自らの評価等を勘案して行う。

〔履修のポイント・注意点〕

実習生としての自覚を持ち、社会福祉援助技術現場実習事前指導において、指導された諸注意事項を遵守すること。

〔科目内容の位置付け〕

本実習は、社会福祉士受験資格取得のための必須科目と位置づけられる。

科目名	教育本質論		
単位	2	開設	半期
教員名	中谷 陽子		

### 〔講義目的〕

いま教育に危機感を抱く人が多い。教育基本法をはじめ学校教育法の改正など、日常的に「教育」が語られることが多い。

さらに次世代を担う子どもや青年たちの教育ばかりでなく、その日常の生活の中でも危機感をつのらせているのが現状である。

本講義の目指すところは「学生諸君が教育的な視点から身近な問題をしっかりとらえる力を持ち、一市民として自分なりの意見が持て、必要な場ではそれを自分のことばで語れること」である。

### 〔講義内容〕

- ① 子どもの歴史をひも解く。
- ② 過去5年間の教育資料を解く（教育の意義と目的）
- ③ 現代の教育を支える歴史上の人物描写
- ④ 教育課程の基準の指導のねらい（4本の柱）を学び、演習（以下に進める）の方針を確認する。
  - ・豊かな人間性や社会性を育成すること
  - ・自ら学び、自ら考える力を育成すること
  - ・基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること
  - ・特色ある教育、特色ある学校づくりをすすめること
- ⑤ ④を踏まえ、演習形式で学習を進める：テーマを得て、グループ活動の形式で、自主的に生徒達の学習計画を立案する面白さを発見する。
- ⑥ 学習指導要領の変遷を知り、現在の教育のよりどころを確認する。
- ⑦ いじめ・不登校の理解

### 〔講義のすすめ方〕

1. 上記講義内容①－④は教育の現状を根本から正しく認識するために、講義形式で学ぶ。
2. 講義を踏まえて、続く具体的な教育活動への接近を試みる《演習形式で》。
3. 教育の4本の柱を、学部の特徴を生かしながら仲間と練って、教育の本質を初歩段階ながら実感し、それを発表する。

\* 時間の余裕があったら〈はなのたより〉を読む。

はなのたよりとは：

青木雅夫先生による「校長通信」であるが、便りの行間から、現代社会の課題を理解し、現場からの教育への提言を読み取る。

### 〔教 材〕

テキスト：「教育学概論」生野・中谷著

\* 開講後指示有。

### 〔成績評価の方法・基準〕

- ① 出席状況
- ② 普段の努力（グループ形式で討議しながら進める自由研究）
- ③ 学期末の試験

### 〔科目内容の位置付け〕

教員採用試験（教採）を考えると、本講義には関連した内容が連なっていることを発見するであろう。

科目名	初等国語		
単位	2	開設	半期
教員名	生野 金三		

#### 〔講義目的〕

初等国語では、小学校の国語科の指導内容（「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」）を概説し、そしてそれを踏まえて、とりわけ「C 読むこと」の領域における指導のあり様を研究することを目的とする。具現すれば、読むこと、つまり読解と読書と関わりに触れ、斯様なことを踏まえて指導の方法を実践的に研究する。

#### 〔講義内容〕

本科目では、以下の内容について研究する。

- 1 国語科の内容の構成
  - ・「A 話すこと・聞くこと」
  - ・「B 書くこと」
  - ・「C 読むこと」
  - ・言語事項
- 2 読みの本質
- 3 読解と読書
- 4 読解指導と読書指導
- 5 読書の指導過程
- 6 読書指導の方法
  - ブックトークの方法
    - ・対象となる児童の把握
    - ・テーマの設定
    - ・紹介する図書の選択
    - ・ブックトークの流れを具体的に検討し、作成
    - ・練習
    - ・実践（ブックトークの流れを再検討）

#### 〔講義のすすめ方〕

講義、演習、グループ学習、プレゼンテーション等を中心に授業を進めていく。本科目では、毎回の授業が次の時間へ継続発展していくので、そのことを念頭においておくこと。

#### 〔教材〕

生野金三「読書指導の方法と実践」学教図書出版会  
生野金三「改稿新美南吉研究」学教図書出版会

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、ポートフォリオ、ミニ課題、ミニテストの四者で評価する。ポートフォリオ、ミニ課題

の提出は、予め決められた締め切り日までに生野の研究室に直接持参すること。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

出席をとる。授業の3分の2以上出席した受講生を評価対象とする。

授業内容は、積み上げ方式になっているので、前回の授業内容を踏まえておくことが重要である。

期末にポートフォリオ（授業で学習した内容を振り返り、自分の学習の成果が分かるように「目次」「見出し」「全体の構成」「後書き」等を考えて作成した学習記録のこと。又は、これまでの学習を凝縮したオリジナルのテキストのこと。）を作成するので、授業内容は随時メモしておく。

#### 〔科目内容の位置付け〕

教職に関する科目（「国語科教育法」「初等教材研究」（言語・文化系）等の基礎科目として位置付けられている。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

国語概説、国語科教育法、初等教材研究A（言語・文化系）

科目名	初等社会科		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	高田 雄康		

### 〔講義目的〕

模擬授業の演習を通して、小学校社会科の授業設計や授業実践の方法や技術の基礎を培う。その際、常に児童の立場に立って、分かりやすく楽しい授業とは何か問い続けながら、小学校社会科のねらいが達成できる教科指導の在り方を求めていく。

### 〔講義内容〕

- 1 小学校社会科年間指導計画と教科書、指導書（小学校学習指導要領解説・社会編）との関係を調べることを通して、小学校社会科の目標、内容を再確認し理解を深める。
- 2 小学校中学年の模擬授業演習
  - 学習指導案作成
  - 教材作成（副読本、地図等の活用法を含む）
  - 発問・板書計画
  - 評価計画
- 3 小学校高学年の模擬授業演習
  - 学習指導案作成
  - 教材作成（資料集、年表等の活用法を含む）
  - 発問・板書計画
  - 評価計画

### 〔講義のすすめ方〕

まず、学習指導案や教材などの共同作成を通して、授業設計の基礎の理解を図り、最終的に一人で学習指導案作成ができるようにする。更に、模擬授業を通して、指導技術の基礎を養う。

### 〔教 材〕

- 小学校学習指導要領解説・社会編（文部科学省）
- 小学校社会科教科書、副読本
- プリント等

### 参考書

『新学力観に立つ社会科』 北 俊夫著 明治図書

### 〔成績評価の方法・基準〕

- 出席状況、演習中の発表や態度、レポートに

より総合的に評価する。

### 〔履修のポイント・注意点〕

- 社会科概説、社会科教育法を履修していることを前提に講義を進める。したがって、これらの科目を履修してから受講してほしい。
- 学習指導案作成や模擬授業の演習を効果的にするためには、課題を持って臨むことと事前の準備が必要である。
- 自己向上のためには他から学び取ろうとする真摯な態度と広い心が大切である。
- 初等社会科を履修してから小学校の教育実習に臨むことが望ましい。教育実習後又は並行して受講する場合は、そこで経験したことを演習等に積極的に生かすこと。

### 〔科目内容の位置付け〕

- 小学校の社会科指導の実践力を養う。
- 小学校教員免許取得希望者は、小学校での教育実習が必須であり、小学校の教員は、全教科の指導ができることを原則としているので、小学校社会科指導の実践力の基礎を身に付けていく必要がある。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

- 前提科目 社会科概説、社会科教育法
- 関連科目 小学校教育実習

科目名	初等算数		
単位	2	開設	半期
教員名	後藤 達生		

### 〔講義目的〕

算数概説と講義目的の本質は変わりません。小学校算数で取り上げられる教材の根底にあるものをさらに詳しく解説します。算数概説では中学校数学との関連にも触れましたが、この講義では小学校の教材に極力絞っています（平方根などごくわずかの例外はありますが）。算数概説や算数科教育法で取り上げられなかった教材や、教材の別の捉え方などを講義します。

また実際の授業を展開するとき、犯しがちな過ちの具体的な例を通して授業作りの工夫の仕方についても触れます。

算数概説、算数科教育法と初等算数で小学校算数科の全体像が見えてくる筈です。

・「小学校学習指導要領解説・算数編（文部省）」東洋館出版社

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席点、毎回の小テストおよび学期末試験などによる。

### 〔履修のポイント・注意点〕

毎回の講義ではノートをきちんと取ること。教科書がないこの講義ではノートはとくに大切になります。

### 〔科目内容の位置付け〕

教科に関する科目

### 〔講義内容〕

- 第1回 計算のきまり
- 第2回 数学的な考え方
- 第3回 立式について
- 第4回 平行四辺形の面積
- 第5回 面積公式再考
- 第6回 角の意味
- 第7回 三角定規
- 第8回 敷き詰めとタングラム
- 第9回 角柱と円柱
- 第10回 体積
- 第11回 単位量あたりの大きさ
- 第12回 関数の考え
- 第13回 比と比例
- 第14回 平均
- 第15回 テスト

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提とする科目は算数概説。関連科目は算数科教育法。

### 〔講義のすすめ方〕

講義形式で授業を進めるが、毎時間出席をとるかわりに問題演習の小テストをおこないます。出題は授業で取り上げた教材に関連する、過去の教員採用試験問題が中心です。

### 〔教材〕

〔参考書〕

- ・文部科学省 小学校算数指導資料「新しい学力観に立つ算数科の授業の工夫」東洋館出版社
- ・「間違いだらけの算数指導」片桐重男、明治図書

科目名	初等理科		
単位	2	開設	半期
教員名	小原 政敏		

### 【講義目的】

小学校の理科という教科について全体的・一般的な理解を深めるとともに理科概説の基礎の上にさらに専門的に学ぶことが目的である。可能な限り、実験を中心にして実験を通して理科の内容について理解を図ることを目指している。

### 【講義内容】

- 1) 理科が目指すもの
  - ・理科の目標
  - ・各学年の目標
  - ・各学年の内容
- 2) 物質とエネルギー
  - ・光についての実験
  - ・空気の温度・圧力の実験
  - ・物質と温度による体積の変化の実験
  - ・水溶液の実験
  - ・酸性アルカリ性の実験
- 3) 地球と宇宙
  - ・日陰と日なたの比較実験
  - ・月の位置と時間の関係
  - ・水と水蒸気の実験
  - ・岩石の観察
  - ・化石の観察
- 4) 理科と総合的な時間との関連
  - ・基本的な考え方
  - ・理科と総合的な時間の関連性

### 【講義のすすめ方】

小学校を中心にして理科全般の理解を目的としているので、この講座では実験を中心に理科について幅広く知識を広め、理解を深められるようにする。実験には中学校・高等学校の内容も加えることがある。必要に応じてVTRやパソコンを利用する。原則として毎回実験レポートを提出する。

### 【教 材】

教科書 「新しい教育課程と学習活動の実際理科」角屋重樹 東洋館出版社  
 参考書 必要に応じて紹介する。  
 VTR・パソコンソフト  
 補助プリント

### 【成績評価の方法・基準】

科学的思考力、自然科学に対する興味関心、理科を楽しくしようとする意欲等を評価する。  
 筆記試験 学期末の定期試験  
 レポート 提出・内容について評価  
 (必要に応じて指示する。)

### 判定基準

- ・試験点数 60%
- ・出席率 20%
- ・レポート 20%

### 【履修のポイント・注意点】

小学校理科の概要について知識を広め、体系的に原理原則から理解を深める努力が必要である。知識と同時に実験技術の習得や科学的に考えることが大切である。幼稚園・小学校の子どもは日々の活動を通して自然や物についても純粋な疑問を発するものである。子どものそのような質問に興味深く答えられるようになりたいものである。

### 【科目内容の位置付け】

科学技術に囲まれて生きる子ども達に科学について興味関心を高める最初の機会となる小学校の理科の役割は極めて大きい。

教師自身が科学に興味関心を示すことによって子ども達にも理科に関心を高めるための刺激を与えられる知識・技能・指導力を身に付けたい。

### 【前提・関連科目(科目間関連の内容)】

前提科目はない。

### 関連科目

- ・「理科概説」・「理科教育法」がある。
- ・教養科目として「生物学」「物理学」「環境科学」がある。

科目名	初等生活科		
単位	2	開設	半期
教員名	石井 智子		

【講義目的】

- ① 「生活科概説Ⅰ／生活科概説」及び「生活科教育法」の講義内容を踏まえ、授業参観や事例研究、活動案作成等を通して、生活科学習指導の在り方について理解する。
- ② 「初等生活科」を通して、教師としての資質の基礎を培う。

【講義内容】

第1回のイントロダクションにて各回の内容を提示する。

- 指導の具体化を図る立案演習
  - ・活動や体験に関する実態把握
  - ・生活科学習過程と単元構成
  - ・学習指導改善を図る指導計画の作成
  - ・生活科で育成する学力と指導・評価
  - ・子どもに即した指導と評価の一体化
  - ・教材・人材の開発や活用と環境構成の工夫
- 小山第一小学校における生活科の授業参観（1、2回）

【講義のすすめ方】

- 実践事例の検討や活動・評価案作成を中心に、実際の指導を想定しての立案や関係機関、人材等との連絡調整を体験する。
- 生活科の授業参観をし、指導の実際を理解するとともに自案の作成に反映させたい。

【教材】

- 小学校学習指導要領解説・生活編（平成11年5月）（文部省）
- 自作プリントや実践事例、年間指導計画等（随時）
- その他は講義開始時に提示する。

【成績評価の方法・基準】

- 毎回提出の小レポート・小テスト（出席状況）（50%）、演習等での作成物・作品

等、ポートフォリオ・自己評価（50%）により総合的に評価する。

【履修のポイント・注意点】

- 各自のテーマによる計画案作成には時間を要し、課題となることがある。
- 作業を実施する場合には、活動的な服装や基本的な用具が必要である。（講義開始時に指示する）
- 授業参観時には、観点を設定し実証的な態度で臨むとともに、子ども理解・具体的支援等を学ぶ。

【科目内容の位置付け】

- 「生活科概説Ⅰ／生活科概説」及び「生活科教育法」の履修者を対象とする。
- 本講座は、生活科学習指導の在り方の理解を一層深めることをねらいとする。

【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

- 前提科目：生活科概説Ⅰ／生活科概説生活科教育法
- 関連科目：教育実習（小学校）

科目名	初等家庭科		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	増田 仁		

#### 〔講義目的〕

本講義では、まず子どもが家事労働を行うことの社会的意味について理論的・歴史的に考えていきたい。そのうえで子どもに対して行う家事労働教育はいかにあるべきか、子どもが自らの生活の中から課題を発見させる家庭科教育の授業はいかにしたら可能か考えていきたい。次に戦後教育改革期に小学校家庭科がどのような経緯で成立したのか、その紆余曲折について解説しながら、家庭科教育全体における小学校家庭科の位置を明らかにしていく。3番目に現在、衣・食・住それぞれの領域において小学校家庭科がどのような授業を展開する事が望ましいとされているか、学習指導要領等を参考にしながら考察する。後半では、現在小学校家庭科で取り組まれている授業実践を紹介したうえで、受講生に家庭科の学習指導案を作成してもらい、発表、講評を行う。

#### 〔講義内容〕

- 1、オリエンテーション
- 2、子どもと家事労働
- 3、子どものための家事労働教育
- 4、戦後教育改革期の家庭科教育における初等家庭科の位置づけ
- 5、1950年代における初等家庭科をめぐる議論
- 6、初等家庭科と学習指導要領1——衣生活をめぐって——
- 7、初等家庭科と学習指導要領2——食生活をめぐって——
- 8、初等家庭科と学習指導要領3——住生活をめぐって——
- 9、現在における初等家庭科の取り組み1——衣生活をめぐって——
- 10、現在における初等家庭科の取り組み2——食生活をめぐって——
- 11、現在における初等家庭科の取り組み3——住生活をめぐって——
- 12、学習指導案の作成
- 13、学習指導案の発表
- 14、学習指導案の講評
- 15、まとめ

#### 〔講義のすすめ方〕

基本的には講義形式（授業の後半では実習形式）であるが、授業中にリアクションペーパー等で受講者の意見をきく機会を設ける。

#### 〔教 材〕

指定図書：  
小学校学習指導要領家庭科

参考文献：  
小学校家庭科教科書  
村田泰彦・田結庄順子・福原美江共編『共学家庭科の実践』光生館、1986年。  
福原美江著『家庭科の理論と授業研究』光生館、1990年。  
柳昌子・野村康代編著「家庭科の授業と家政学（小学校編）」北大路書房、1989年。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

平常点と作成した学習指導案、レポートの内容から総合的に評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

生徒に教えるに値する家庭科とは何か、考えながら聴講してほしい。

#### 〔科目内容の位置付け〕

選択科目（「家庭科概説」、「家庭科教育法」の履修者対象）

科目名	初等教材研究A（言語・文化系）		
単位	2	開設	半期
教員名	生野 金三		

### 〔講義目的〕

初等教材研究Aでは、小学校の国語科の指導内容（「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」）を踏まえ、国語教材研究の意義・方法について概説し、次いで表現教材（作文教材）、理解教材（文学的文章や説明的文章）のそれぞれの研究を具体的な作品を通して行う。

以上が初等教材研究Aで講義する主たる内容であるが、これを受講することによって国語科の学習指導を行う際、領域の特性を踏まえた教材研究の視点や学習指導上の要点を体得して欲しい。

### 〔講義内容〕

本科目では、以下の内容について研究する。

- 1 単元の研究、教材の研究、指導の研究
- 2 学習指導案作成の手順
  - ・教材の内容を分析する。
  - ・指導目標を考える。
  - ・指導事項を考える。
  - ・児童の実態を捉える。
  - ・指導の手順を考え、指導過程を構成する。
  - ・学習指導案を作成する。
  - ・教材、教具、発問等の準備をする。
- 3 学習指導案の要素
  - ・学習指導案の種類（「細案」と「略案」）
 〈細案の様式〉
  - ① 単元名
  - ② 単元について
  - ③ 目標（単元目標・指導目標）
  - ④ 指導計画（単元の指導計画）
  - ⑤ 本時（本時の展開）
- 4 学習指導案の記述内容（項目毎に）
- 5 読みの学習過程
  - ・三読法
- 6 作文の学習過程
  - ・取材構成記述推敲

### 〔講義のすすめ方〕

講義、演習、グループ学習、プレゼンテーション等を中心に授業を進めていく。本科目では、模擬授業の実施を目指しているため、受講生は毎回の授業が次の時間への継続発展していくことを認識しておくこと。

### 〔教材〕

文部省「小学校学習指導要領解説国語編」東洋館出版社  
 生野金三「改稿新美南吉研究」学教図書出版会  
 豊澤弘伸・斉藤武利・斉藤一人「実習における指導の技術」教育出版

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、ポートフォリオ、ミニ課題、模擬授業の四者で評価する。ポートフォリオ、ミニ課題の提出は、予め決められた締め切り日までに生野の研究室に直接持参すること。

### 〔履修のポイント・注意点〕

出席をとる。授業の3分の2以上出席した受講生を評価対象とする。

授業内容は、積み上げ方式になっているので、前回の授業内容を踏まえておくことが重要である。

期末にポートフォリオ（授業で学習した内容を振り返り、自分の学習の成果が分かるように「目次」「見出し」「全体の構成」「後書き」等を考えて作成した学習記録のこと。又は、これまでの学習を凝縮したオリジナルのテキストのこと。）を作成するので、授業内容は随時メモしておく。

### 〔科目内容の位置付け〕

教職に関する科目として位置付けられている。実践的指導力の基礎を体得して欲しい。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

国語概説、初等国語、国語科教育法

科目名	初等教材研究B（生活・人間系）		
単位	2	開設	半期
教員名	増田 仁		

#### 〔講義目的〕

授業の導入部では、現代の家庭生活について概観する。授業の半ばでは、現代の食生活や衣生活について検討しながら、実際に数回にわたって調理実習や被服製作を行い、教育現場での実践力を養う。授業の終盤では『家庭科ワークブック』（牧野カツコ編著）を参考にしながら、教材としての有効性について再検討を行う。具体的なトピックとして、消費者教育やメディアと生活等を取り上げる。どのようにテキストを用いれば生徒に説得力のある授業が展開できるのか、また生活者としての力を身につけさせることができるのか共に考えていきたい。

#### 〔講義内容〕

- 1、オリエンテーション
- 2、家族について考える——現代の課題——
- 3、子どもの発達と権利——「子どもの権利条約」を読み直す——
- 4、食生活を見直す——食の安全と健康を考える——
- 5、調理実習1
- 6、調理実習2
- 7、調理実習3
- 8、快適な衣生活には何が必要か——着る「喜び」のために——
- 9、被服製作1
- 10、被服製作2
- 11、被服製作3
- 12、自分の住まいを再考する——どう「住まう」か——
- 13、自律的な消費者になるために——消費社会を生き抜く——
- 14、生活とメディア——メディアとどう付き合うか——
- 15、まとめ

#### 〔講義のすすめ方〕

基本的には講義形式と実習であるが、講義ではリアクションペーパー等で受講者の意見をきく機会を設ける。

#### 〔教材〕

参考文献：  
小学校学習指導要領家庭科

#### 小学校家庭科教科書

牧野カツコ編著『人間と家族を学ぶ家庭科ワークブック』国土社、2007年。  
牧野カツコ編著『自分らしい生活をつくる家庭科ワークブック②』国土社、2000年。  
牧野カツコ編著『家庭科ワークブック 人間の発達と保育』東京書籍、2002年。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

平常点とレポートの内容、提出作品の完成度から総合的に評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

自分の生活を振り返り、「よりよく生きる」、「よりよく生活する」ことの意味を考えながら講義を聴いて欲しい。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

「家庭科概説」、「家庭科教育法」と関連している。

科目名	初等教材研究C（表現・実技系）		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	益田 勇一		

#### 〔講義目的〕

図画工作科の学習指導案の作成、模擬授業とそれらの検討を通して実践的指導力の獲得を目指す。

#### 〔講義内容〕

1. 学習指導案の作成と検討(1)
2. 学習指導案の作成と検討(2)
3. 模擬授業（造形遊び1）
4. 模擬授業（造形遊び2）
5. 模擬授業（絵で表す1）
6. 模擬授業（絵で表す2）
7. 模擬授業（絵で表す3）
8. 模擬授業（立体で表す1）
9. 模擬授業（立体で表す2）
10. 模擬授業（版で表す）
11. 模擬授業（デザイン／工作1）
12. 模擬授業（デザイン／工作2）
13. 模擬授業（鑑賞1）
14. 模擬授業（鑑賞2）

#### 〔講義のすすめ方〕

グループ単位で学習指導案の作成および模擬授業を行ない、問題点を検討する。

#### 〔教 材〕

教科書は使用しない。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

学習指導案と模擬授業による評価。

学習指導案 50%

模擬授業 50%

#### 〔履修のポイント・注意点〕

模擬授業に必要な材料や用具、教材等の準備は各グループで行なうことになるので、計画を立て、効率的に進めること。

#### 〔科目内容の位置付け〕

図画工作科教育法の発展的内容となる。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

図画工作概説Ⅰ

図画工作科教育法

科目名	社会科教育法Ⅰ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	熊田 禎介		

### 〔講義目的〕

この講義は、社会科教育法ⅡおよびⅢとともに、中学校「社会」の教員免許状を取得するためには、必ず履修しなければならない教職科目である。本講義の目的は、わが国の社会科の成立と展開について、戦前期にさかのぼる思想的系譜、戦後の教育改革における初期社会科の理念、学習指導要領に見る社会科教育の変遷、そして社会科教育が抱えている諸課題を取り上げ、社会科教育に関する基本的な理解を深めることである。

### 〔講義内容〕

社会科教育法Ⅰの講義は、以下の予定に基づき進められる。

1. 社会科教育法で何を学ぶのか  
(オリエンテーション)
2. 社会科はどのような教科なのか  
(基本理念、思想的系譜、初期社会科)
3. 社会科はどのように変わってきたのか  
(学習指導要領、教科書)
4. 社会科はどのように実践されてきたのか  
(カリキュラム構造、授業論)
5. 社会科はどのような課題を抱えているのか  
(教科書問題、総合的な学習の時間、等)

### 〔講義のすすめ方〕

基本的には、講義概要を示したレジュメを基に講義形式で進めるが、適宜資料を配付し、教科書や参考書を参照する。また必要に応じて、学習課題に基づく意見交換や活動なども取り入れ、社会科教育が育成すべき社会観や価値観、並びに教職としての専門性を獲得するという本講義の目的に資するため、将来の教職を目指す受講者自らが抱く社会科教育に関する課題意識を積極的に表現する機会を多く設定したい。

### 〔教 材〕

教科書 文部省編『中学校学習指導要領（平成10年12月）解説－社会編－』  
(大阪書籍、平成11年9月)

参考書 講義時に適宜指示する。

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、平常点、試験による総合評価。

- 出席について、3分の2以上の出席を満たした者を評価対象とする。
- 遅刻・早退は、原則として欠席と見なす。
- 平常点について、講義毎に課す小課題並びに講義中の学習課題への取り組み態度を評価対象とする。
- 試験について、学年末に実施する。

### 〔履修のポイント・注意点〕

中学校社会科教員として教職に就くことを強く希望し、かつ近年の教員採用試験の難化を乗り越えて教職を目指す覚悟を有する学生の受講を前提としている。したがって、単に教員免許だけを取得するという安易な考えで履修しないこと。

### 〔科目内容の位置付け〕

教職科目の中では、具体的な教科の授業に関わるという意味で実践的な科目である。一方で、他の教職科目で培った、教育という営為のあり方や現代の教育問題など、教育の本質に関わる学習成果を前提として成り立つ科目でもある。抽象から具体、そして抽象へ。本講義で学ぶ具体的な授業のあり方から、教育一般に通ずる問題、人間形成に関わる問題を考えてもらいたい。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目 他の教職科目。

関連科目 社会科教育法Ⅱ、Ⅲ、社会科・公民科教育法。特に、社会科教育法Ⅱ、Ⅲの前提となっており、目的・内容ともに関連をはかっている。

科目名	社会科教育法Ⅱ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	熊田 禎介		

### 〔講義目的〕

この講義は、社会科教育法ⅠおよびⅢとともに、中学校「社会」の教員免許状を取得するためには、必ず履修しなければならない教職科目である。本講義の目的は、中学校社会科を構成する各分野の目標・内容・方法について検討し、社会科教育を担う教員に必要な基本的な知識と技能を習得することである。

### 〔講義内容〕

社会科教育法Ⅱの講義は、以下の予定に基づき進められる。

1. 社会科教育法Ⅰの既習事項確認  
(オリエンテーション)
2. 中学校社会科地理的分野の内容構成  
(目標・内容・方法)
3. 中学校社会科歴史的分野の内容構成  
(目標・内容・方法)
4. 中学校社会科公民的分野の内容構成  
(目標・内容・方法)
5. 中学校選択教科「社会」のあり方
6. 中学校社会科と「総合的な学習の時間」との関連
7. 中学校社会科が抱える課題  
(評価のあり方、等)

### 〔講義のすすめ方〕

基本的には、講義概要を示したレジュメを基に講義形式で進めるが、適宜資料を配付し、教科書や参考書も参照する。また、各項目については、実践例を参考としながら、各分野の目標・内容・方法を検討する。さらに、必要に応じて、実践例に対する意見や感想を求めたり、一部分を実際に行うことで改善策を考えてもらったりする。

### 〔教 材〕

教科書 文部省編『中学校学習指導要領（平成10年12月）解説－社会編－』  
(大阪書籍、平成11年9月)  
参考書 講義時に適宜指示する。

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、平常点、試験による総合評価。  
○出席について、3分の2以上の出席を満たし

た者を評価対象とする。

- 遅刻・早退は、原則として欠席と見なす。
- 平常点について、講義毎に課す小課題並びに講義中の学習課題への取り組み態度を評価対象とする。
- 試験について、学年末に実施する。

### 〔履修のポイント・注意点〕

中学校社会科教員として教職に就くことを強く希望し、かつ近年の教員採用試験の難化を乗り越えて教職を目指す覚悟を有する学生の受講を前提としている。したがって、単に教員免許だけを取得するという安易な考えで履修しないこと。

### 〔科目内容の位置付け〕

教職科目の中では、具体的な教科の授業に関わるという意味で実践的な科目である。一方で、他の教職科目で培った、教育という営為のあり方や現代の教育問題など、教育の本質に関わる学習成果を前提として成り立つ科目でもある。抽象から具体、そして抽象へ。本講義で学ぶ具体的な授業のあり方から、教育一般に通ずる問題、人間形成に関わる問題を考えてもらいたい。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目 他の教職科目、社会科教育法Ⅰ。  
関連科目 社会科教育Ⅲ、社会科・公民科教育法。特に、社会科教育法Ⅲの前提となっており、目的・内容ともに関連をはかっている。

なお、本科目では、教育実習を行う際の基本的な内容を扱っているため、教育実習に行く前に履修すること。

科目名	社会科教育法Ⅲ		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	熊田 禎介		

#### 〔講義目的〕

この講義は、社会科教育法ⅠおよびⅡとともに、中学校「社会」の教員免許状を取得するためには、必ず履修しなければならない教職科目である。本講義の目的は、社会科教育法Ⅱで検討した社会科を構成する各分野の目標・内容・方法を基に、学習指導案作成並びに模擬授業を実施し、社会科教員として必要な技能を実践的に習得することである。

#### 〔講義内容〕

社会科教育法Ⅲの講義は、以下の予定に基づき進められる。

1. 模擬授業の計画
2. 過去の実践例の検討
3. 学習指導案作成の実際
4. 模擬授業の実施と評価・検討
5. 総括

#### 〔講義のすすめ方〕

中学校社会科の教育内容を基に、各自が学習指導案作成を行い、それに基づき模擬授業を行う。受講人数が多い場合には、各自が作成した模擬授業案に関するプレゼンテーションを実施することも視野に入れる。基本的には、学習指導案と、これを用いた模擬授業またはプレゼンテーションの様子を、生徒役である受講学生から評価してもらう形式をとる。

#### 〔教 材〕

教科書 文部省編『中学校学習指導要領（平成10年12月）解説－社会編－』（大阪書籍、平成11年9月）

参考書 講義時に適宜指示する。

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、平常点、模擬授業、試験による総合評価。

- 出席について、3分の2以上の出席を満たした者を評価対象とする。
- 遅刻・早退は、原則として欠席と見なす。
- 平常点について、講義毎に課す小課題並びに講義中の学習課題への取り組み態度を評価対象とする。
- 模擬授業について、学習指導案・模擬授業の

様子を評価対象とする。

○試験について、学年末に実施する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

中学校社会科教員として教職に就くことを強く希望し、かつ近年の教員採用試験の難化を乗り越えて教職を目指す覚悟を有する学生の受講を前提としている。したがって、単に教員免許だけを取得するという安易な考えで履修しないこと。

#### 〔科目内容の位置付け〕

教職科目の中では、具体的な教科の授業に関わるという意味で実践的な科目である。一方で、他の教職科目で培った、教育という営為のあり方や現代の教育問題など、教育の本質に関わる学習成果を前提として成り立つ科目でもある。抽象から具体、そして抽象へ。本講義で学ぶ具体的な授業のあり方から、教育一般に通ずる問題、人間形成に関わる問題を考えてもらいたい。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目 他の教職科目、社会科教育法Ⅰ、社会科教育法Ⅱ。

関連科目 社会科・公民科教育法。

なお、本科目では、教育実習を行う際の基本的な内容を扱っているため、教育実習に行く前に履修すること。

科目名	教育相談S		
	学校カウンセリングの実際		
単 位	2	開 設	半期
教 員 名	中谷 陽子		

### 〔講義目的〕

- ① 社会の急激な価値観の変化に起因して、学校教育上の諸問題や課題が、児童生徒の周辺に急激に発生してきていることを知ること。
- ② 最も発達の著しい児童生徒期の子ども達が背負い込む「ストレス・心身の不調・不適応状態」を正確に、そして具体的に理解すること。
- ③ 学校と教師は「子ども達の苦しみを受け取り、相談に乗り、こころの傷を癒す」機能を引き受けなければならない。それは時には家庭や地域以上に重く、教師の持つ資質と学校教育相談が行える教師の臨床的能力を育てること。

以上の3点を授業のねらいとする。

### 〔講義内容〕

制度化された《学校カウンセリングの場（専門のスクールカウンセラーが受持つ）》では、生徒達がやや追い詰められないと、なかなかやって来ない。しかし一方では、日常的に教師が丁寧に手助けする機会があれば、生徒達の悩みが深刻化するのを防ぐことができる。

講義はこの点を重視する。

### 〔講義のすすめ方〕

- A 生徒達が抱えてくる多様な問題について対応できることが求められる。
- ・ 学業や健康上の相談
  - ・ 家族、友達、いじめなど人間関係上の問題
  - ・ 不登校など非社会的な問題
  - ・ 心身症的、神経症的な問題
- B 問題行動に対する理解とその内容に見合った助言・相談・指導が出来ることが求められる。特に反社会的な行動には、慎重に関わることが求められる。

\* 授業では次のようなトレーニングを実施する：

- a カウンセリングマインドの理解
- b ソーシャルスキルのトレーニング
- c 教師と生徒の日常生活を再現させ、カウンセリング的かかわりや助言の実習をロールプ

レイの形式で練習する。

### 〔教 材〕

- \* 生徒指導Ⅱ用のテキストは指定せずに、多くの資料を利用する。
- \* 指定参考書としては、
  - ① 「子どもの成長 教師の成長—学校臨床の展開—」  
近藤・岡村・保坂（編）  
東京大学出版会発行  
●教育臨床では人気の高い書籍である。
  - ② 新訂「生徒指導」新井・住田・岡崎（編）  
放送大学教育振興会発行
- \* 教育相談には多様な生徒の状況と事例が存在するので、その一つ一つに対応させて資料をの形で用意するので、学生は各自《相談の手引き》と称して編集し、自分で使いやすい資料集を作成して実際の相談に役立てる準備をすることは、大変充実感のある勉強法となる。

### 〔成績評価の方法・基準〕

- ① 《相談力・理解力》の評価は授業内実習で行う。必ず数回は役を実演すること。
- ② 期末にはレポートの提出を求める。
- ③ 出席状況

### 〔履修のポイント・注意点〕

- ・ 「技術を学ぶのだ」と思う人が多いが、相談はその精神を十分に理解した上でそのための技術やこつなどを修得することが大切である。
- ・ 受講生の人数にもよるが、実習（トレーニング）を恥ずかしがったり、嫌がったりして体験しない学生は、単位が取得できないこともあるので、注意して欲しい。

科目名	教育実習の事前事後指導（幼）（1）		
単 位	0	開 設	半期
教 員 名	五十嵐 敦子		

【講義目的】

幼稚園における実習の目的、内容、方法、必要な手続き、留意事項などを具体的に理解し、実習日誌などの記録方法、指導計画の作成、基礎的な保育技能を身につけるとともに、実習後の学習の課題と進め方を各自が明確にする。

出席を重視し、課題への取り組み、提出物などで総合的に評価する。

【履修のポイント・注意点】

履修には一定の条件があるので、「資格・免許等の履修に関する手引き」で確認すること。

【講義内容】

1. 教育実習の目的と方法
2. 幼稚園教育の理解①保育所との比較
3. 幼稚園教育の理解②多様な幼児教育
4. 幼稚園教育の理解③五領域について
5. 幼稚園教育の理解④幼稚園での一日の生活の流れ
6. ゲスト・スピーカーによる講話—実践技術を学ぶ
7. 幼児期の発達特性について
8. 保育記録の方法について
9. 幼稚園教育実習の理解—勤務をする際の留意事項、実習園でのオリエンテーションなど
10. 指導計画（指導案）の立て方①
11. 指導計画（指導案）の立て方②
12. 保育者としてのマナー—保護者への対応など
13. 直前指導
14. 実習の反省と自己評価
15. 新しい自己課題の発見

【科目内容の位置付け】

教職に関する科目

【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

保育内容研究科目及び保育内容演習科目

【講義のすすめ方】

基本的には、講義形式であるが、課題を与えることが多い。

【教 材】

テキスト：『教育実習（幼稚園）のためのガイドブック』

『幼稚園教育要領』

参考書：豊澤弘伸他編『実習における指導の技術—指導案の書き方—』教育出版

【成績評価の方法・基準】

真剣に誠実に取り組む決心をして受講して欲しい。したがって、重大な理由がない限り欠席しないこと。理由がある場合は必ず証明書を提出すること。遅刻ももちろん認めない。

科目名	教育実習の事前事後指導（小学1）		
単 位	0	開 設	半期
教 員 名	生野金三、益田勇一		

### 〔講義目的〕

この科目は、小学校において教育実習を行う者が受講する。その内容は、教育実習を行うに当たっての事前指導と教育実習終了時に行う事後指導とに分けられる。前者の事前指導では、教育実習に関する諸手続き、教育実習の意義や目的、学習指導を行う際に必要不可欠な学習指導案の作成、模擬授業等の内容について触れる。一方後者の事後指導では、作成した学習指導案、授業記録等を基に学習指導案、授業記録等を基に学習指導のあり様について考察を加える。

上記のことを踏まえ、本科目では、教師としての実践的指導力の基礎を育成することを目的とする。

### 〔講義内容〕

本科目では、以下の内容について取扱う。

- 1 教育実習の意義や目的
- 2 学習指導案の意義や形成の説明
- 3 学習指導案の作成
  - ・学習指導案の書き方の説明
  - ・学習指導案の作成（細案と略案）
- 4 学習指導案の検討
- 5 模擬授業の準備
  - ・教材・教具の作成
  - ・板書計画の作成
  - ・発問計画の作成
- 6 模擬授業の実施
- 7 模擬授業の検討
- 8 教育実習の直前指導
  - ・事前打ち合わせ
  - ・教育実習計画の提出
  - ・学習指導案の確認
- 9 教育実習の報告と反省
  - ・実習レポート提出（授業記録とその整理〈導入、展開、終末毎に〉、そして授業分析）

### 〔講義のすすめ方〕

講義、演習、グループ学習、プレゼンテーション等を中心に授業を進めていく。本科目では、毎回の授業が次の授業へ継続発展していくので、そのことを念頭においておくこと。

### 〔教 材〕

文部省「小学校学習指導要領解説国語編」東洋館出版社

生野金三「改稿新美南吉研究」学教図書出版会

生野金三「読書指導の方法と実践」学教図書出版会

豊澤弘伸・斉藤武利・斉藤一人「実習における指導の技術」教育出版

### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、ポートフォリオ、ミニ課題の三者で評価する。ポートフォリオ、ミニ課題は、予め決められた締め切り日までに生野の研究室に直接持参すること。

### 〔履修のポイント・注意点〕

出席をとる。授業内容は、積み上げ方式になっているので、前回の授業内容を踏まえておくことが重要である。

ポートフォリオ（授業で学習した内容を振り返り、自分の学習の成果が分かるように「目次」「見出し」「全体の構成」「後書き」等を考えて、作成した学習記録のこと。又は、これまでの学習を凝縮したオリジナルのテキストのこと。）を作成するので、授業内容は随時メモしておく。

### 〔科目内容の位置付け〕

教職に関する科目に位置付けられている。

### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

各教科の指導法に関する科目、教科に関する科目。

科目名	教育実習の事前事後指導（小学1）		
単 位	0	開 設	半期
教 員 名	生野金三、益田勇一		

#### 〔講義目的〕

この科目は、小学校において教育実習を行う者が受講する。その内容は、教育実習を行うに当たっての事前指導と教育実習終了時に行う事後指導とに分けられる。前者の事前指導では、教育実習に関する諸手続き、教育実習の意義や目的、学習指導を行う際に必要不可欠な学習指導案の作成、模擬授業等の内容について触れる。一方後者の事後指導では、作成した学習指導案、授業記録等を基に学習指導案、授業記録等を基に学習指導のあり様について考察を加える。

上記のことを踏まえ、本科目では、教師としての実践的指導力の基礎を育成することを目的とする。

#### 〔講義内容〕

本科目では、以下の内容について取扱う。

- 1 教育実習の意義や目的
- 2 学習指導案の意義や形成の説明
- 3 学習指導案の作成
  - ・学習指導案の書き方の説明
  - ・学習指導案の作成（細案と略案）
- 4 学習指導案の検討
- 5 模擬授業の準備
  - ・教材・教具の作成
  - ・板書計画の作成
  - ・発問計画の作成
- 6 模擬授業の実施
- 7 模擬授業の検討
- 8 教育実習の直前指導
  - ・事前打ち合わせ
  - ・教育実習計画の提出
  - ・学習指導案の確認
- 9 教育実習の報告と反省
  - ・実習レポート提出（授業記録とその整理〈導入、展開、終末毎に〉、そして授業分析）

#### 〔講義のすすめ方〕

講義、演習、グループ学習、プレゼンテーション等を中心に授業を進めていく。本科目では、毎回の授業が次の授業へ継続発展していくので、そのことを念頭においておくこと。

#### 〔教 材〕

文部省「小学校学習指導要領解説国語編」  
東洋館出版社

生野金三「改稿新美南吉研究」学教図書出版会

生野金三「読書指導の方法と実践」学教図書出版会

豊澤弘伸・斉藤武利・斉藤一人「実習における指導の技術」教育出版

#### 〔成績評価の方法・基準〕

出席、ポートフォリオ、ミニ課題の三者で評価する。ポートフォリオ、ミニ課題は、予め決められた締め切り日までに生野の研究室に直接持参すること。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

出席をとる。授業内容は、積み上げ方式になっているので、前回の授業内容を踏まえておくことが重要である。

ポートフォリオ（授業で学習した内容を振り返り、自分の学習の成果が分かるように「目次」「見出し」「全体の構成」「後書き」等を考えて、作成した学習記録のこと。又は、これまでの学習を凝縮したオリジナルのテキストのこと。）を作成するので、授業内容は随時メモしておく。

#### 〔科目内容の位置付け〕

教職に関する科目に位置付けられている。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

各教科の指導法に関する科目、教科に関する科目。

<b>科目名</b>	教育実習の事前事後指導（保体）		
<b>単 位</b>	1	<b>開 設</b>	半期
<b>教 員 名</b>	近藤 智靖		

#### 【講義目的】

本科目の目的は、次の通りである。

- ①教育実習に臨む上で事前に必要とされる諸々の知識、技能、態度を身につけること（事前指導）。
- ②教育実習の経験を省察すること（事後指導）。

#### 【講義内容】

本科目では、教育実習を想定して、次のような学習をする。

- ①実習生としての心構えや実習期間中の仕事内容について学ぶこと。
- ②体育科教育法と連動しながら、学習指導案の作成や模擬授業を行うこと。なお、体育科教育法では扱えなかった領域や内容について触れる。
- ③教育実習生の体験談を聞くこと。また、実習受け入れ校の先生方から体験談を聞くこと。

#### 【講義のすすめ方】

本科目は、スポーツ健康専攻の教官を中心に行うが、外部から講師を招聘して行う場合もある。

#### 【教 材】

大学で配布する手引き、並びに学習指導要領や教科書を使用する。

#### 【成績評価の方法・基準】

評価は、出席・提出物・模擬授業への参加態度など総合的に行う。

#### 【履修のポイント・注意点】

欠席は原則として認めない。

#### 【科目内容の位置付け】

本科目は、教員養成の中核科目として位置づけられ、教育実習に直結している。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

本科目は、これまで学んできたあらゆる実技、特別活動、学校保健、保健科教育法、体育科教育法Ⅰ、教育実習事前指導など、全て関連している。

科目名	教育実習（幼稚園）		
単位	4	開設	実習
教員名	五十嵐 敦子		

**〔講義目的〕**

大学での理論学習を基礎に、教員としての実践力を養うために、実習園での担当教員の指導を受けつつ「部分実習」「責任実習」等の活動を体験する。園組織の実際、教員の職務、園児の実態についての理解を深めるとともに、教員としての自覚と使命感を高める。

**〔成績評価の方法・基準〕**

実習園の評価、「実習ノート」の内容、出席状況、授業への取り組み姿勢などを加味し、総合的に評価する。

**〔履修のポイント・注意点〕**

教育実習では、大学での授業とは異なり、社会、学校、子ども（園児）を相手とする仕事であるので、教育実習ガイダンスへの出席、提出物などの諸手続きの期日、時間厳守は当然のことであり、受講者には強い自覚と責任感が求められる。

**〔科目内容の位置付け〕**

教職に関する科目

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

保育内容研究科目及び保育内容演習科目

科目名	教育実習（小学校）		
単 位	4	開 設	実習
教 員 名	生野金三・益田勇一		

#### 〔講義目的〕

教育実習の第一の目的は、現在教員に求められている実践的指導力や倫理性の基礎訓練を、学校現場という現実の環境で実地研究するところにある。換言すれば、教育実習は、体験を通して実感を捉えるのではなく、教職に関する知識、理論、技術等大学において学んだ内容を教育実習の実施体験を通して、学校現場の営みの内容を捉え、実践的指導力の基礎を形成することを目的としている。

#### 〔講義内容〕

教育実習においては、以下の内容の研究を深める。

- 1 授業観察の着眼点
  - ・ 授業過程における教師と児童の活動
  - ・ 目標（課題）の設定（導入）
  - ・ 課題探究（展開）
  - ・ 整理・評価（終末）
- 2 授業づくりの原則
  - ・ 教材の内容分析（教材観）
  - ・ 指導目標（目標）
  - ・ 指導事項
  - ・ 児童の実態把握（児童観）
  - ・ 指導の手順と指導過程の構成
  - ・ 学習指導案の作成
  - ・ 教材、教具等の準備
  - ・ 発問計画、板書計画

#### 〔教 材〕

白鷗大学発達科学部編『教育実地研究（教育実習）の手引き』（小学校）

豊澤弘伸・齋藤武利・齋藤一人『実習における指導の技術』教育出版

#### 〔履修のポイント・注意点〕

教育実習においては、謙虚に現実の教育を学ぶように努力して欲しい。

教育実習事前事後研究（指導）と学校教育実習との両者が完了した段階で単位は付与される。

#### 〔科目内容の位置付け〕

教職に関する科目として位置付けられている。実践的な指導力の基礎を体得して欲しい。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

3年次に教育実習を希望する場合、その原則、又は必要要件は別途指示する。4年次に教育実習を希望する場合、「教育職員免許状および資格取得の手引き」を参照し、その条件を充たしておく。

科目名	教育実習（中学校）		
単 位	4	開 設	実習
教 員 名	近藤 智靖		

**〔講義目的〕**

教職に就くことを前提として、教育現場において実地体験を積むことが本科目の目的である。

**〔講義内容〕**

教育実習では、主に下記の内容の指導を観察したり、実際に自ら教師として指導する。

- 1, 生徒指導
- 2, 学習指導
- 3, 部活動指導

指導の時間数・内容等については実習校によって異なるため、実習校の指導に従う。

**〔講義のすすめ方〕**

実習校の指導に従うこと。

**〔教 材〕**

実習校から指定されたものを各自準備する。

**〔成績評価の方法・基準〕**

教育実習校による「教育実習評価表」「教育実習ノート」の内容を教職等課程委員会で検討し、総合的に評価する。教育実習期間を満了することで単位が付与されるわけではない。

**〔履修のポイント・注意点〕**

中学校免許のみ希望者および中高両免許希望者は「教育実習（中）」（4単位）を履修し、中学校での実習に参加すること。

**〔科目内容の位置付け〕**

教職課程の集大成ともいべき実習である。

**〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕**

教職に関する科目、各教科に関する科目全般。

科目名	教育実習（高等学校）		
単 位	2	開 設	実習
教 員 名	近藤 智靖		

**【講義目的】**

教職に就くことを前提として、教育現場において実地体験を積むことが本科目の目的である。

**【講義内容】**

教育実習では、主に下記の内容の指導を観察したり、実際に自ら教師として指導する。

- 1, 生徒指導
- 2, 学習指導
- 3, 部活動指導

指導の時間数・内容等については実習校によって異なるため、実習校の指導に従う。

**【講義のすすめ方】**

教育実習校の指導に従うこと。

**【教 材】**

教育実習校から指定されたものを各自準備する。

**【成績評価の方法・基準】**

教育実習校による「教育実習評価表」「教育実習ノート」の内容を教職等課程委員会で検討し、総合的に評価する。教育実習期間を満了することで単位が付与されるわけではない。

**【履修のポイント・注意点】**

高等学校免許のみ希望者は「教育実習（高）」（2単位）を履修し、高校での実習に参加すること。

**【科目内容の位置付け】**

教職課程の集大成ともいべき実習である。

**【前提・関連科目（科目間関連の内容）】**

教職に関する科目、各教科に関する科目全般。

科目名	学校経営と学校図書館		
単 位	2	開 設	集中
教 員 名	紺野 順子		

### 〔講義目的〕

本講は司書教諭課程の総論にあたる科目である。まず、学校図書館の学校教育における意義と役割を明らかにし、学校図書館の理念、発展過程、経営のあり方、今後の課題など、学校図書館全般についての基本的理解を目指す。

とりわけ、学校図書館の教育的意義、司書教諭の任務と職務について体得することを到達目標とする。

### 〔講義内容〕

- 1 学校図書館の理念と教育的意義
- 2 学校図書館の発達過程と課題
- 3 教育行政と学校図書館
- 4 学校経営組織と学校図書館
- 5 学校図書館経営の原理
- 6 学校図書館環境のあり方と整備
- 7 図書館ネットワークと学校図書館
- 8 司書教諭の任務と職務
- 9 学校内の協力体制と司書教諭
- 10 学校図書館メディアの教育的意義
- 11 学校図書館メディアの内容と構築
- 12 学校図書館メディアの管理と提供
- 13 学校図書館活動の意義
- 14 学校図書館活動の内容と方法
- 15 学校図書館の課題と展望

### 〔講義のすすめ方〕

司書教諭は、子どもたちに各種メディアを活用させ、自主的に学習する方法・態度を学ばせる任務をもつ教員である。したがって司書教諭資格取得を目指す学習者は、当然、自主的・自発的に学ばなければならない。このことをふまえて本講座は、一方的講義を排し、学生自身による調査・研究、発表、討議等可能なかぎり自主的・自発的で参加型の学習を進める。

### 〔教 材〕

教科書：全国学校図書館協議会編『学校図書館・司書教諭講習資料』第6版全国学校図書館協議会 2008年 2000円

(法規・基準・ガイドライン・学校図書館の施設・設備・メディア・活動など、司書教諭の活動に必要な基本的資料を網羅した資料集である。司書教諭課程5科目共通に利用できる)

指定図書：笠原良郎監修『シリーズいま、学校図書館のやるべきこと』(全6巻 ポプラ社 2005年)

(学校図書館の役割・資料・情報の整備・メディア活用能力育成・読書指導・情報活用・総合的学習を支援する学校図書館など、現在の学校図書館の課題を実践的にわかりやすく解説したシリーズ)

### 〔成績評価の方法・基準〕

授業の進行に応じて提出を求める小レポート40%、課題「私の考える理想の学校図書館」作成40%、出席20%

### 〔履修のポイント・注意点〕

本講は資格科目であり、安易な学習姿勢・態度はゆるされない。また集中講義という限られた時間内での学習なので効率的に取り組む必要がある。

### 〔科目内容の位置付け〕

学校図書館学は教育学と図書館情報科学との二つの領域にまたがる内容を含む。単なる知識・技能の習得にとどまらず教育的実践をふまえた科目内容である。とくに本科目は司書教諭課程5科目の総論的な位置づけの科目である。

### 〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

司書教諭資格取得は教職課程履修が前提である。この科目を履修することによって、図書館情報学の専門家としてのあり方および教師としての教育課題がより明確になる。ほかの4科目修得の基礎科目である。

科目名	学校図書館メディアの構成		
単 位	2	開 設	集中
教 員 名	早野 喜久江		

#### 〔講義目的〕

各種メディアは、学校図書館の生命である。そのメディアを児童・生徒が活用するために、どう構成するかは司書教諭の重要な任務である。本講では、メディアの構成に関する理論的理解と、その実務能力の育成を図ることを目的とする。

#### 〔講義内容〕

- 1 学校図書館メディアの意義とその教育的な役割
- 2 学校図書館の各種メディアとその特性
- 3 学校図書館メディア構築の基本
- 4 学校図書館メディアの取書方針と選択
- 5 学校図書館メディアの組織化の意義とプロセス
- 6 学校図書館メディアの分類の意義と機能
- 7 日本十進分類法の理解と利用
- 8 分類作業の実際（1）
- 9 分類作業の実際（2）
- 10 主題検索の意義と機能
- 11 件名目録作成の実際
- 12 目録の意義と機能、目録の種類と構成
- 13 目録規則と目録作業の実際（1）
- 14 目録作業の実際（2）
- 15 図書の配架と図書以外のメディアの組織化

#### 〔講義のすすめ方〕

学校図書館の各種メディアの組織化について理論的に理解することも重要であるが、具体的・実務的な実務能力の体得が一層重要である。したがって本講では、可能な限り実践的な方法で学習をすすめる。

#### 〔教 材〕

教科書：笠原良郎・紺野順子著『シリーズいま、学校図書館のやるべきこと 2. 資料・情報を整備しよう 学校図書館メディアの選択と組織化』ポプラ社 2005年 1575円  
 指定図書：全国学校図書館協議会編『学校図書館・司書教諭講習資料』第5版 全国学校図書館協議会 2006年 2000円

#### 〔成績評価の方法・基準〕

講義の進行に応じて行う小レポート（40%）、分類・目録演習（30%）、理解度確認の最終試験（30%）で総合的に評価する。

#### 〔履修のポイント・注意点〕

本講は資格科目であり、学校図書館のメディア組織化の実務能力は司書教諭に欠くことのできない課題である。理論と実務の習得をめざすものであり、特に実務の演習を中心にすすめる。集中講義という限られた時間内での学習であるが積極的に取り組む必要がある。

#### 〔科目内容の位置付け〕

司書教諭科目5科目のうち「学校図書館メディアの構成」は、最も具体的であり、かつ実務的な科目である。図書館情報学におけるメディア組織論を踏まえ、学校図書館独自の観点と方法を追求する。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

学校経営と学校図書館で学んだ意義、機能を踏まえ学校図書館メディアに関し、その理念の具現化を図る科目である。

科目名	学習指導と学校図書館		
単 位	2	開 設	集中
教 員 名	紺野 順子		

#### 〔講義目的〕

児童生徒が自主的・主体的に学習を進めるためには、図書館及び、各種メディアを活用する能力が必須であり、その育成は教員としての司書教諭の重要な使命である。本講では、まず「メディア活用能力」育成の意義・理念を明確にし、指導内容、指導計画については課題演習・発表を通して究明していく。ついで、具体的な指導方法についての理解を図ったうえで「指導案」の作成を課す。できるだけ実践的に学習を進める。

#### 〔講義内容〕

- 1 教育課程の展開と学校図書館の役割
- 2 主体的学習とメディア活用能力
- 3 メディア活用能力育成指導の内容と指導計画
- 4 指導内容の具体的検討（課題調査および発表）
- 5 指導内容の具体的検討（課題調査および発表）
- 6 指導内容の調査結果の発表・討議
- 7 指導計画作成のための原理
- 8 指導内容の体系化（グループ討議）
- 9 指導内容の体系化（グループ討議）
- 10 メディア活用能力育成指導の年間計画作成
- 11 メディア活用能力育成指導の方法
- 12 特定学年の単位時間内での指導案作成
- 13 集団指導・個別指導の意義とその展開
- 14 メディア活用能力育成と情報サービス
- 15 教員に対する支援と働きかけ

#### 〔講義のすすめ方〕

子どもたちに各種メディアを有効に活用する方法を学ばせるためには、その指導者である司書教諭が自ら有効適切なメディア活用方法を体得していることが前提である。このことを踏まえ、本講座では学生自身による調査研究発表・討議等、可能なかぎり自主的かつ実践的方法で学習をすすめる。

#### 〔教 材〕

教科書：全国学校図書館協議会「学校図書館・司書教諭講習資料」第6版 全国学校図書館協議会 2008年2000円

〔学校経営と学校図書館〕と共用

指定図書：笠原良郎監修『シリーズいま、学校図書館のやるべきこと』（全6巻 ポプラ社 2005年）

〔学校経営と学校図書館〕と共用

#### 〔成績評価の方法・基準〕

課題についての調査および発表30%、メディア活用能力育成のための「指導案」作成30%、理解度確認のための論述レポート40%

#### 〔履修のポイント・注意点〕

本講は、教師による一方的な「教え込む教育」を排し、子ども自らが自主的・自発的に学ぶ「学び方」指導の方法を学ぶ科目である。したがって、その方法を学ぶ学生自身が「自ら考える」自主的・自発的学習姿勢が必要である。また、集中講義という限られた時間内での学習なので効率的に取り組むことが求められる。

#### 〔科目内容の位置付け〕

学校図書館は日々の学習指導の中で活用されることが基本的な機能である。その具体的な方法を学ぶ本科目は、こうした学校図書館の目的・課題からみて司書教諭課程5科目のうち、最も切実かつ重要な科目である。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

教職課程の社会科教育法、理科教育法など、各教科教育法と密接な関係を持つ。

科目名	読書と豊かな人間性		
単 位	2	開 設	集中
教 員 名	後路 好章		

#### 【講義目的】

読書が好きですか？あなたは、読書でどんな喜びを得てきましたか？

本講座では、読書の楽しさを改めて考え直し、まずあなた自身が、「読書大好き人間」になることが大前提です。

次に、児童・生徒が利用する多様な読書資料の分析です。資料には、その資料独自の役割があることを理解していきます。

3番目には、その資料をどうやって児童・生徒に手渡し、読書の喜びを感得させていったらいいのか、読書指導の具体策を学習します。

最終的には、教員としての司書教諭の役割を理解することです。家庭・地域までも含めた全校の読書計画を立案・実行していくのが司書教諭の大事な役割です。学校司書との違いをしっかりと認識し、司書教諭の役割を具体的にイメージできるよう学習していきます。

#### 【講義内容】

- ①「わたし」の読書体験
- ②児童・生徒の読書状況
- ③読書の意義と学校教育における読書の位置づけ
- ④読書資料の種類と特性
- ⑤発達段階に応じた読書指導
  - \* 読みのレディネスの促進
  - \* 読書資料の選択と評価
  - \* 調べ学習と読書資料の分析
  - \* ヤングアダルトの読書活動の支援
- ⑥読書指導の実践
  - \* 読み語り（読み聞かせ）
  - \* ブックトーク
  - \* ブックリストの作成
  - \* 読書相談
  - \* 読書感想文
  - \* 読書感想画
  - \* 読書ゆうびん
  - \* 読書会
  - \* その他の実践
- ⑦読書推進活動と司書教諭の役割
  - \* 家庭・地域を含めた全校の読書推進活動
  - \* 関連施設との連携
  - \* 読書資料の整備充実
  - \* 国の読書推進策

#### 【講義のすすめ方】

講義と実習・発表を織り交ぜながら進めていきます。

毎日、数人の履修者に「わたしのおすすめ本」を紹介してもらいます。

毎日、講義終了時、履修者全員に「きょうの感想」を200字以内で書いてもらいます。

わたしの講義は「むつかしいことをやさしく、やさしいことをおもしろく」がモットーです。遠慮せずに、どんどん注文をつけてください。

#### 【教 材】

『読書の楽しさを伝えよう』知と心を育てる読書の教育笠原良郎編著 ポプラ社

#### 【成績評価の方法・基準】

出席率 40%  
 授業態度 30%  
 レポート 30%

#### 【履修のポイント・注意点】

- ・積極的に発言する。
  - ・発言する際、履修者全員に伝わるように明瞭に話す
- 履修者の疑問や問題解決を、みんなで分かち合いたいと思っています。そのために、楽しく学び合う空間を履修者全員に工夫してもらいます。

#### 【科目内容の位置付け】

読書はすべての教科の基礎になる、きわめて大事な行為です。豊かな人間性を作る基本となります。「読書しない国に未来はない」ということばがあります。「好きこそものの上手なれ」です。5日間の履修で、自己変革できるよう努力してください。

#### 【前提・関連科目（科目間関連の内容）】

教育課程の履修が前提であり、司書教諭資格のための以下の4科目と関連します。

「学校経営と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「学習指導と学校図書館」「情報メディアの活用」

科目名	情報メディアの活用		
単 位	2	開 設	集中
教 員 名	石川 賀一		

#### 〔講義目的〕

この科目の目的は、学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。

#### 〔講義内容〕

講義と演習の組み合わせ。

主な内容

1. 高度情報社会と人間
2. 情報メディアの特性と選択
3. 視聴覚メディアの活用
4. コンピュータの活用
  - ・教育用ソフトウェアの活用
  - ・データベースと情報検索
  - ・インターネットによる情報検索と発信
5. 学校図書館メディアと著作権

#### 〔講義のすすめ方〕

- 第1回：科目ガイダンス、高度情報社会と人間  
①（情報メディアの発達と社会、情報リテラシー）
- 第2回：高度情報社会と人間②（高度情報社会における学校、図書館について）
- 第3回：情報メディアの特性と選択①（各情報メディアの特性と選択について）
- 第4回：情報メディアの特性と選択②（情報メディアの収集、複合的な活用について）
- 第5回：視聴覚メディアの活用
- 第6回：コンピュータの導入の意義、学校図書館とコンピュータについて
- 第7回：教育用ソフトウェアの意義、教育用ソフトウェアの選択と活用について
- 第8回：データベースと情報検索（データベースの基礎知識、検索プロセス、技法、評価）
- 第9回：インターネットのしくみ、インターネットの光と影
- 第10回：インターネットを活用した情報検索  
①（サーチエンジンによる情報検索演習）
- 第11回：インターネットを活用した情報検索  
②（オンラインデータベースからの情報検索演習）
- 第12回：学校図書館とホームページ、学習に役立つリンク集作成演習①

第13回：学習に役立つリンク集作成演習②

第14回：学校図書起案メディアと著作権

第15回：テスト

#### 〔教 材〕

教科書：「情報メディアの活用（古賀節子監修 司書教諭テキストシリーズ05）」井口磯夫編 樹村房

参考図書は、講義の中で適宜紹介します。

講義内で関連資料を配付します。

その他用意するもの：記録媒体

（フロッピーディスクやUSBフラッシュメモリなど）

#### 〔成績評価の方法・基準〕

演習課題：学期2－3回

テスト：学期1回

判定基準：演習課題とテストを総合的に評価する。演習課題（50%）、テスト（50%）

#### 〔履修のポイント・注意点〕

各自が目指している教員の校種や科目の知識だけでなく、日常生活の出来事や時事問題にも関心をもって取り組んでください。

※履修の注意点

集中講義のため、欠席は通常期の講義以上に学習の欠落を伴います。呉々も気をけること。

#### 〔科目内容の位置付け〕

「情報メディアの活用」は、学校図書館司書教諭5科目のひとつです。位置づけはデジタルメディア、ネットワークメディアを中心とした情報メディアの運用管理とアクセス提供論について学ぶ科目です。

#### 〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

これまで学習した科目について一定の理解があるという前提で講義をおこなう。

児童生徒の学習段階・発達段階に着目した「学習指導と学校図書館」や「読書と豊かな人間性」との関連にも注目する。また、「学校図書館メディアの構成」で学んだ図書館にコレクションできる物理的実態があるメディアとの関連と差違についても考える。

---

2008年度 シラバス (講義概要)

白鷗大学 教育学部・発達科学部

---

平成20年4月1日 発行

編集・発行 白鷗大学事務局

〒323-8585

栃木県小山市大行寺1117番地

電話 0285-22-1111(代表)

ホームページ <http://hakuoh.jp/>

---

